ROADRACER

TZ250

YAMAHA

オーナーズサービスマニュアル

（取扱説明書）

5KE-28199-J3

JC010022

はじめに
ヤマハロードレーサーをご購入戴きありがとうございます。

このマニュアルは、高性能を誇るヤマハロードレーサーが、十分にその性能を発揮できるように、また安全にご使用いただけるように、取扱いについて、必要な事柄を記載したものです。
必ず、ご一読の上、ご使用くださいますようお願い申しあげます。
お子様がご使用になる場合は、保護者の方にも一緒に本書をお読みいただき、万全のご指導をお願いします。
なお、仕様変更などにより、図や内容がお求め戴いた製品と一致しない場合があります。ご了承ください。

ご使用について

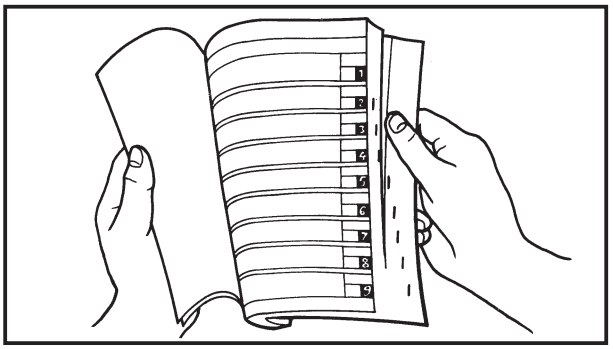
ヤマハロードレーサーは、MFJロードレース競技ライセンス取得者を対象にして作られたマシンです。ライセンスを持っていない人がロードレーサーを使用すると、トラブルを生じる恐れがありますので使用しないでください。
また、ヤマハロードレーサーは競技専用車両です。従いまして、運輸省の認定は受けておりませんので、一般公道では走行できません。
必ずサーキット等の専用コースでご使用ください。

保証について

ヤマハロードレーサーは、競技専用車両として作成されたスペシャルマシンです。お買い上げ後の保証については、対象となりませんのでご了承ください。
また、定期点検制度、アフターサービスの対象外となりますので、各自が日頃の点検整備を行って、常に最良の調子を保つように心掛けてください。

整備上の一般知識および技能の無い人は、このマニュアルだけで点検、調整、分解、組立等を行わないでください。知識不足、技能不足のため、整備上のトラブルおよび機械破損等の原因となる場合があります。特にエンジン、車体の分解、調整、組立てに於いては、ご購入販売店もしくはRSS（ヤマハ･レーシング･サービスショップ）で行うようにしてください。

※カラーリングはお求め戴いた製品とは異なります。



JC020000

本書の使い方

JC021001

記載場所の探し方

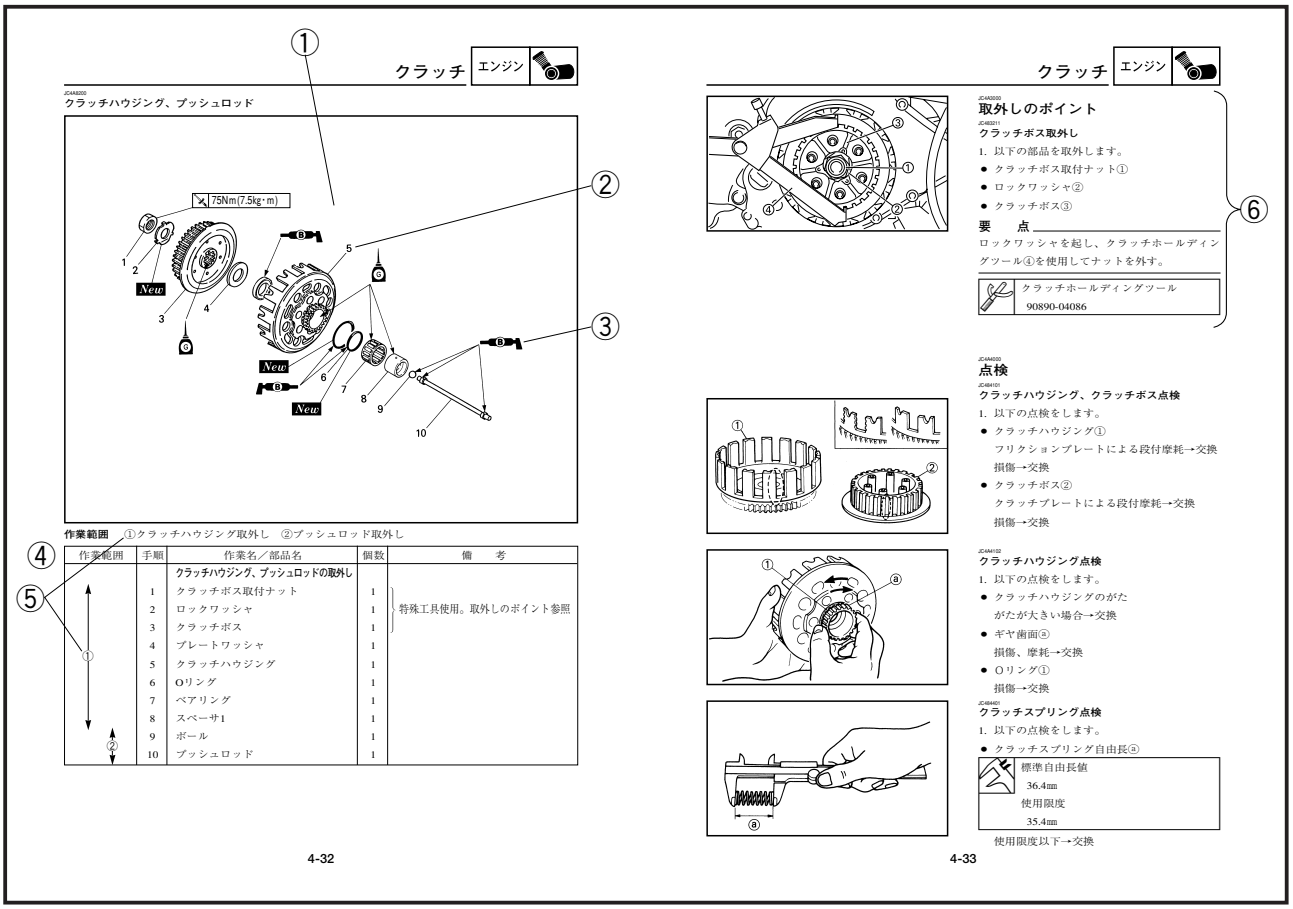
1. 本書の構成は、総説、サービスデータ、点検･調整、エンジン、車体、電装、セッティングの7章に分類して編集しています。
2. 目次を巻頭にまとめました。全体の構成がどのようになっているか確かめ、必要とする章、項目を探します。

- 本の小口を斜めに曲げて、目的の章のシンボルマークに合わせて開いてページ数で見たい項目、見たい所を探します。

JC022004

記載内容の見方

- 分解作業は、見て理解できるように分解図①を主体とした構成になっています。
- 分解図の中の番号②は、作業順序を示しています。
- 説明の中にシンボルマーク③を使用して、作業や注意事項が見てわかりやすい構成になっています。シンボルマークの意味については次頁を参照してください。
- 分解図に整備情報表④を添えています。この表は作業の順序や部品名、作業の留意点などを説明しています。
- 整備情報表には作業範囲内⑤を記載し、不必要な部品の取外しをしなくても良いようにしています。
- 分解図、整備情報表では説明が困難な場合や詳細な説明が必要な整備ポイントなどは、分解図以外に取外しのポイント⑥で詳細な説明を加えてあります。

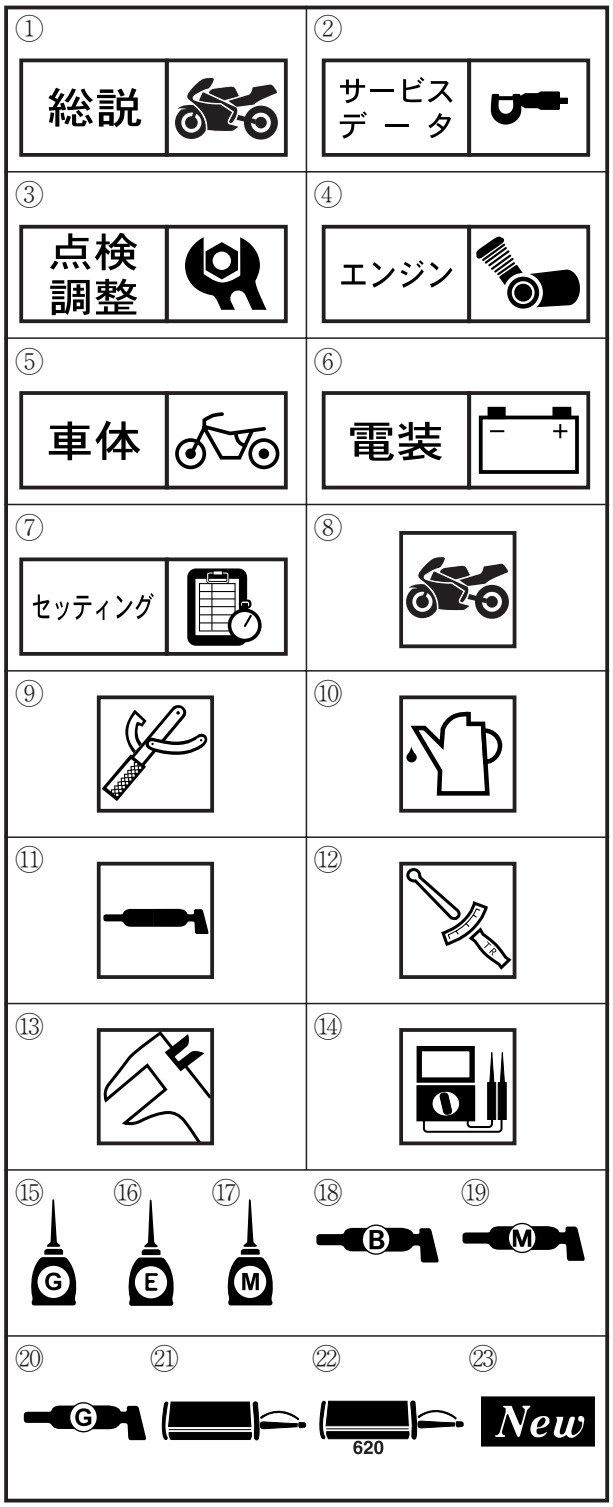


● 本書では正しい取扱いおよび点検整備に関する必要な事項を下記シンボルマークで表示しています。

⚠警　告　取扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

⚠注　意　取扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　　点　正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。



JC023013

シンボルマーク

シンボルマークは下記の意味、事項を示します。

①総説編
②サービスデータ編
③点検、調整編
④エンジン編
⑤車体編
⑥電装編
⑦セッティング編

⑧エンジン車載整備ができる
⑨特殊工具
⑩オイル量
⑪グリースの種類
⑫締付トルク
⑬標準値および使用限度
⑭抵抗（Ω）、電圧（V）、電流（A）の規定値

⑮ミッションオイル
⑯混合用オイル
⑰二硫化モリブデンオイル
⑱ヤマハグリースB
⑲ヤマハ二硫化モリブデングリース
⑳シリコングリースG30M
㉑ネジロックNo.1324
㉒ロックタイトLT620
㉓組付時新品と交換する部品

JC030000

索　　引

§ 1 総説編　総説 1

§ 2 サービスデータ編　サービスデータ 2

§ 3 点検・調整編　点検・調整 3

§ 4 エンジン編　エンジン 4

§ 5 車体編　車体 5

§ 6 電装編　電装 6

§ 7 セッティング編　セッティング 7

JC040000

目次

第1章　総説編

安全運転のために 1-1
各部の名称.....1-4
付属部品の説明.....1-5
エンジン始動基本知識.....1-8
ならし走行.....1-15
トルクチェックポイント 1-18
ならし走行後の点検整備 1-19
整備上の注意事項（1）.....1-20
整備上の注意事項（2）.....1-22
整備上の注意事項（3）.....1-23
国際単位系〔SI〕について 1-24
特殊工具・機器.....1-25

第2章　サービスデータ編

主要諸元 2-1
整備諸元 2-3
締付トルク一覧表 2-8
オイル、グリース、シール剤塗布箇所.....2-13
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図.....2-15

第3章　点検・調整編

点検・交換一覧表 3-1
走行前の点検整備 3-5
練習走行およびレース出場の整備 3-6
からげ線 3-7
エンジン 3-8
車体.....3-18
電装.....3-43

第4章　エンジン編

カウリング、インダクションガイド、シート、
フュエルタンク.....4-1
マフラ、サイレンサ 4-3
ラジエタ 4-4
キャブレタ、リードバルブ.....4-6
シリンダヘッド、シリンダ、ピストン.....4-18
クラッチ 4-33
プライマリドリブンギヤ、プライマリ
ドライブギヤ、バランサシャフト 4-40
シフトシャフト.....4-46
ウォータポンプ.....4-53
トランスミッション、シフトカム、
シフトフォーク.....4-57
オイルポンプ 4-66
C.D.Iマグネト 4-70
エンジン取外し.....4-73
クランクケース、クランク.....4-78

第5章　車体編

フロントホイール、リヤホイール.....5-1
フロントブレーキ、リヤブレーキ.....5-11
フロントフォーク 5-27
ハンドル 5-41
ステアリング 5-46
リヤアーム.....5-54
リヤクッション.....5-61

第6章　電装編

電装配置図、結線図 6-1
点火系統点検 6-2
充電系統点検 6-7
Y.P.V.S.点検 6-9
ソレノイドバルブ点検.....6-11
サーモユニット点検 6-13
フュエルポンプ点検 6-15

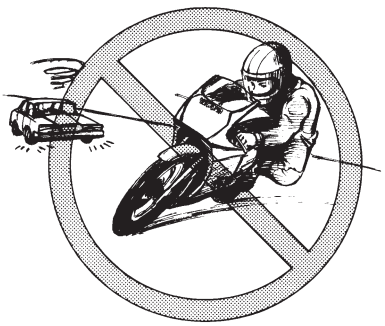
第7章　セッティング編

エンジン 7-1
車体.....7-13

JC100000
総説編

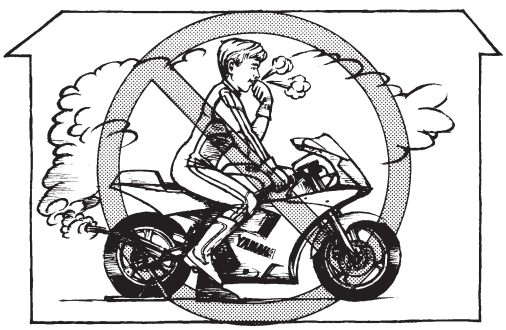
JC110022
安全運転のために

ヤマハロードレーサーを操作するにあたって、安全で正しい使用ができるように、このオーナーズサービスマニュアルの記載事項をよくお読みいただき、適切に整備され、安全に使用されるよう努めてください。

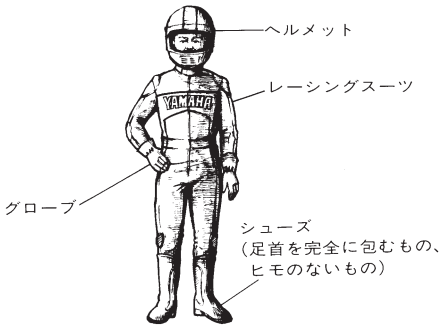


JC120025
安全のために必ず次の事項を守ってください。

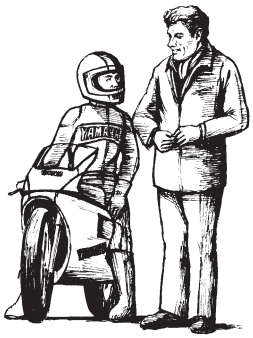
- この車は、運輸省の認定を受けておりませんので、一般の道路では絶対に走行しないでください。
  必ずサーキット等の専用コースでご使用ください。この車で道路を走行しますと、道路交通法および道路運送車両法の違反となります。
  また、私道、神社の境内、公園、農道、堤防上など、いわゆる道路としての形態を整えていない所でも、人や車が自由に出入り出来る所は、一般の道路とみなされます。
- この車は、オンロード専用コースを走行するために製作されています。
  特に、オフロードを走行するとフレーム、エンジン等に不具合を生じますので、走行しないでください。



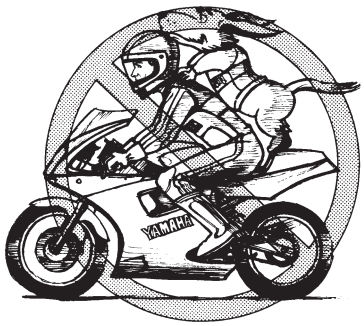
- 密閉された場所では、決してエンジンをかけないでください。
  排気ガスは有害です。



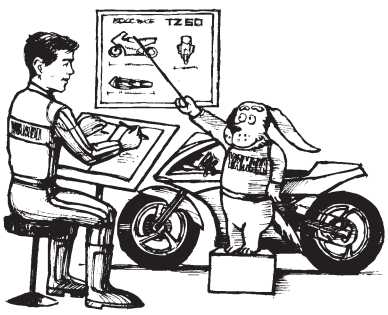
● この車に乗る時は、必ずヘルメットをかぶり、安全な服装で乗車してください。



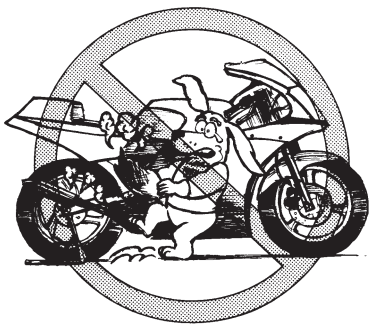
● ヤマハロードレーサーはMFJロードレース競技ライセンスまたはMFJピットクルーライセンスを所有している人が操作してください。
● お子様がこの車を操作する場合は、必ずMFJロードレース競技ライセンスを持ち、ロードレーサーの知識のある大人の監督者が付き添ってください。



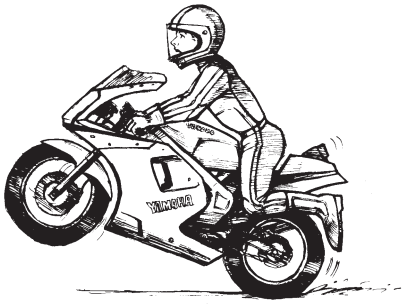
● ヤマハロードレーサーは1人乗り用です。
他の人を乗せて走行するとトラブルを生じる恐れがあります。



● お子様がこの車を操作する場合は、お乗りになる前にこの車の操作方法などをよく理解しているか確認してください。
また、慣れるまでは安全な場所で練習してください。



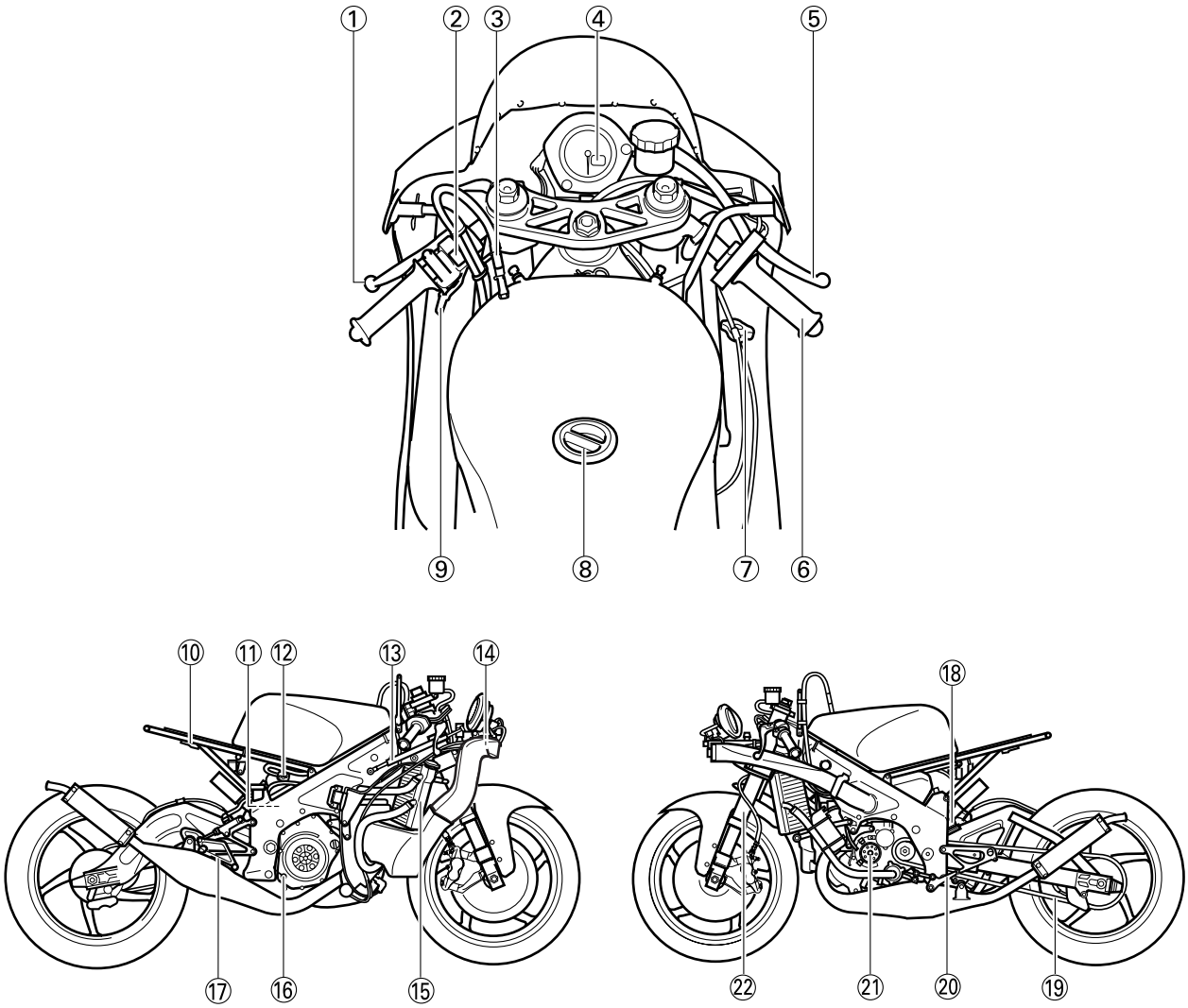
● 高熱部分（エンジン、マフラ、ブレーキ）や回転部分（スプロケット、タイヤ、チェン）に触れないようにしてください。



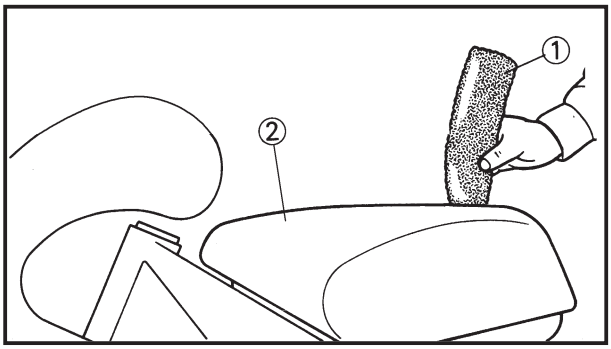
- このバイクは押しがけによりエンジンをかける方式です。エンジンがかかった後に、スロットルグリップを間違って開くと、そのまま動きだして大変危険です。
  押しがけに慣れるまでは、安全な場所で練習してください。

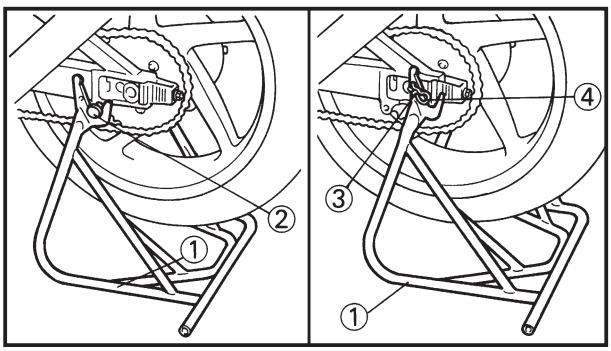
- この車を操作する前に、必ずこのオーナーズサービスマニュアルと車体に貼ってあるラベルをよく読んでください。
- お子様が無断でこの車に乗らないように、保管は十分注意してください。また、錆等による不具合を防止するために屋内に保管してください。
- 新車時、腐食防止の為、冷却水にはクーラントを使用していますので、走行前には必ず水道の水と交換してください。
- 長期間、使用しない時はエンジン、ラジエタの腐食防止の為、クーラントと水道水を1対1の割合で混合した冷却水と交換してください。
- 改造は競技団体および出場クラスで定められているレギュレーション範囲でおこなってください。
- 本書の「走行前の点検整備」を参照して、走行前の点検を必ず実施してください。
- この車を運搬する際は、安全のためフュエルタンク、キャブレタからガソリンを抜いてください。

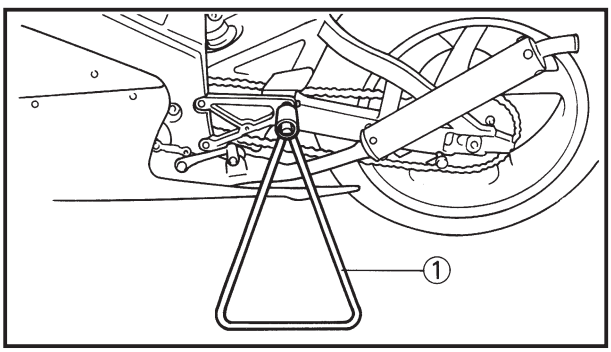
JC130000
各部の名称

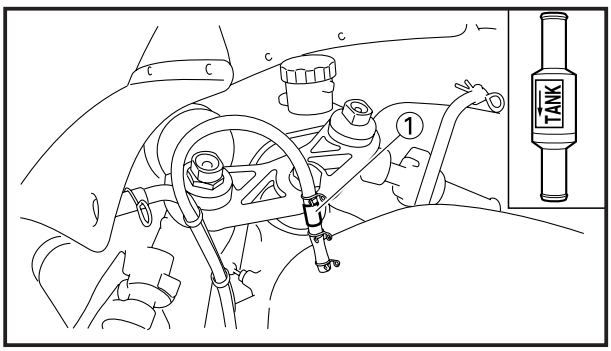


①クラッチレバー
②メインスイッチ
③ワンウェイバルブ
④水温計
⑤ブレーキレバー
⑥スロットルグリップ
⑦ラジエタキャップ
⑧フュエルタンクキャップ
⑨チョークレバー
⑩バッテリ
⑪フュエルポンプ
⑫フュエルコック
⑬ハンドルシミーダンパ
⑭サーボモータ
⑮ラジエタ
⑯ミッションオイルチェックボルト
⑰ブレーキペダル
⑱リヤクッションユニット
⑲ドライブチェン
⑳シフトペダル
㉑C.D.I.マグネト
㉒フロントフォーク









JC140000
付属部品の説明

JC141000
スポンジ（防爆材）

レース出場時には、必ず付属のスポンジ①をフュエルタンク②に完全に充填してください。

JC142001
メインスタンド

メインスタンド①は用途によって、リヤアームのフック②を使って車体を固定する方法と、付属のシャフト③を使って車体を固定する方法があります。

▲注　意

シャフトを使ってメインスタンドを使用する場合は、シャフト抜け止めの為クリップ④を取付けること。

JC143011
サイドスタンド

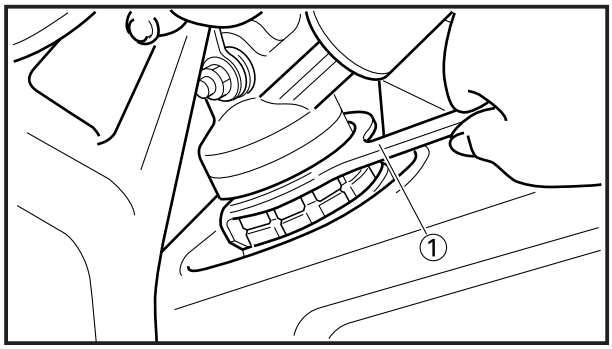
スタンド①は車をささえるだけのものです。サイドスタンドを使用しての乗車は行わないでください。
また、作業を行う場合は作業台などを使用してください。

JC144014
ワンウェイバルブ

フュエルタンクブリーザパイプのワンウェイバルブ①は、矢印をフュエルタンク側に向けてブリーザパイプに組付け、矢印を下向きにしてカウリングにクランプしてください。

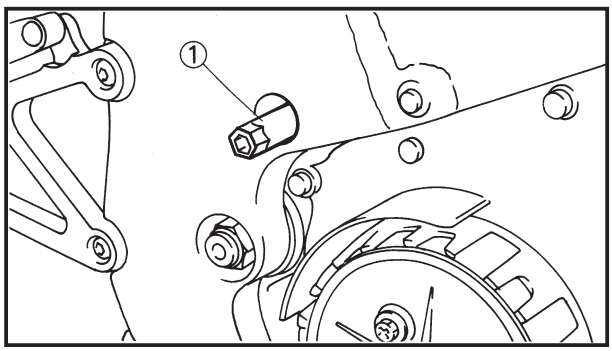
▲警　告

ワンウェイバルブをまちがえて逆に取付けたり、かたむいた状態にすると、ブリーザとしての機能をはたさないばかりか転倒時、フュエルタンクからのガソリン漏れを防げません。バルブは正しく取付けること。



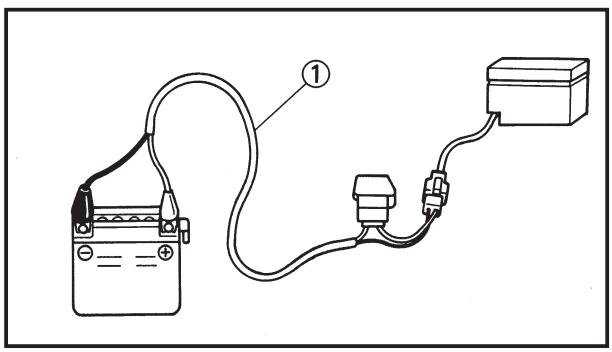
JC14C000
スペシャルスパナ

スペシャルスパナ①はリヤサスペンションのイニシャル荷重（初期荷重）を調整する時に使用するものです。



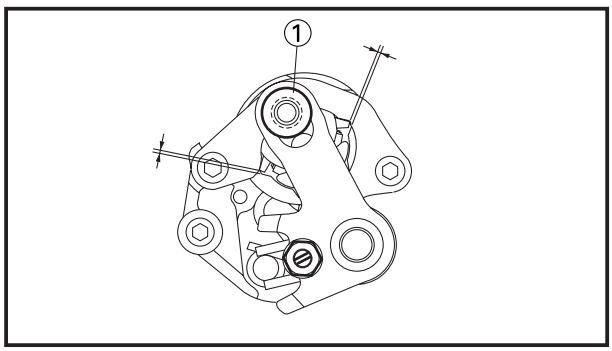
JC14E000
アジャストボルトレンチ

アジャストボルトレンチ①はエンジンを着脱する時に使用するものです。



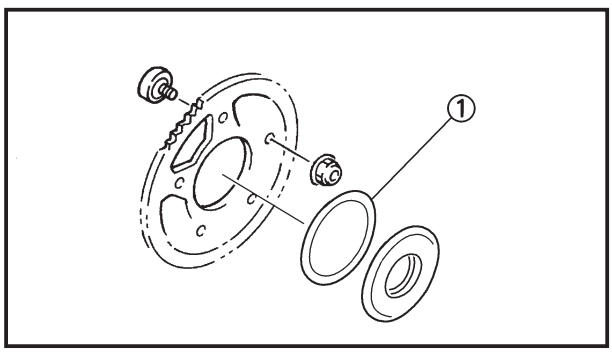
JC14G000
リード線

リード線①はバッテリを充電する時に使用するものです。



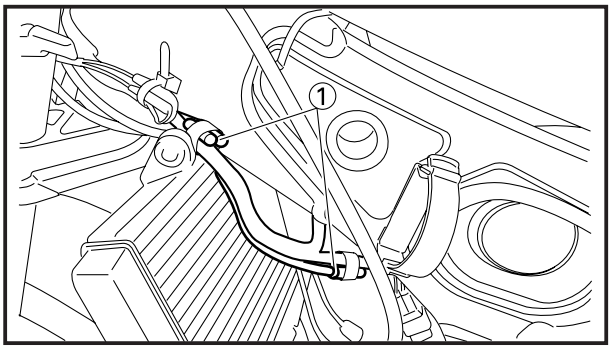
JC14H000
カラー

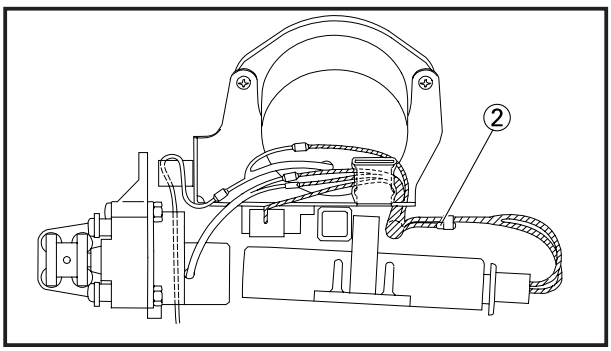
カラー①はエンジンのシフトレバー位置調整時に使用するものです。



JC14J000
シム

シム①はクラッチハブのすき間を調整する時に使用するものです。





JC14F010

スピードシフト用端子

スピードシフト用端子は市販のスピードシフトを装着する場合に使用するものです。

要　　点

端子には2種類あり、装着するスピードシフトにより、使用する端子が異なる。

① 端子1（TZ250専用スピードシフト）

② 端子2（一般用スピードシフト）

⚠注　意

- **スピードシフトを装着しない場合は、端子をビニールテープ等で防水し、ワイヤハーネスに固定しておくこと。**
- **一般のスピードシフト装着用の端子2②は、フレーム等に接触すると点火がカットされ、エンジンが停止するため注意すること。**

ガソリンとオイルの混合表

ガソリン (L)	オイル (cm³) 30対1の場合
1.0	33
2.0	67
3.0	100
4.0	133
5.0	167
6.0	200
7.0	233
8.0	267
9.0	300
10.0	333
11.0	367
12.0	400
13.0	433
14.0	467
15.0	500
16.0	533
17.0	567
18.0	600
19.0	633
20.0	667
21.0	700
22.0	733
23.0	767

JC160000
エンジン始動基本知識

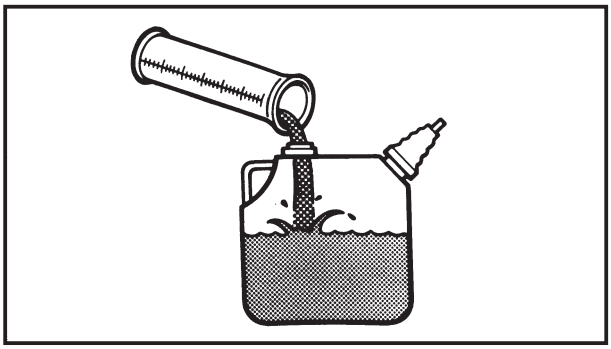
JC161024
燃料の給油

使用燃料は無鉛プレミアムガソリンと混合用オイルを混合した混合ガソリンを使用してください。

タンク容量	23.0L
使用ガソリン	無鉛プレミアムガソリン
指定混合用オイル	カストロールA747またはペトロナススプリンタGP
混合比	30対1

⚠注 意

- **ガソリンはオクタン価98以上の無鉛プレミアムガソリンを使用すること。**
- **混合用オイルの量が多すぎると、白煙やスパークプラグのかぶりなどの原因となり、少なすぎるとエンジン焼付きなどの原因となるので、ガソリンとオイルの混合比は必ず守ること。**



JC162020

オイルと混合ガソリンの取扱い

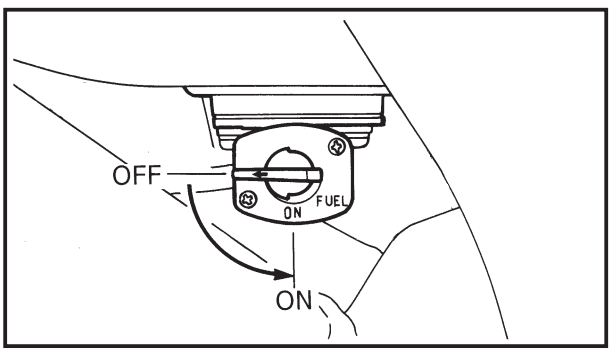
混合用オイルとガソリンは良くかくはんして混合してください。特に冬場での使用は念入りに十分に混合してから使用してください。

混合したガソリンは長時間放置しておくと潤滑性が悪くなるので、24時間以内に使用するように心掛けてください。

走行後、余った燃料はタンクより抜き取ってください。2日以上使用しない場合は部品洗浄用などに使用してください。

⚠警　告

燃料を補給する時は、必ずエンジンを止めて、こぼさないように慎重に行うこと。また、火気を近づけないこと。



JC163003

フュエルコック

OFF

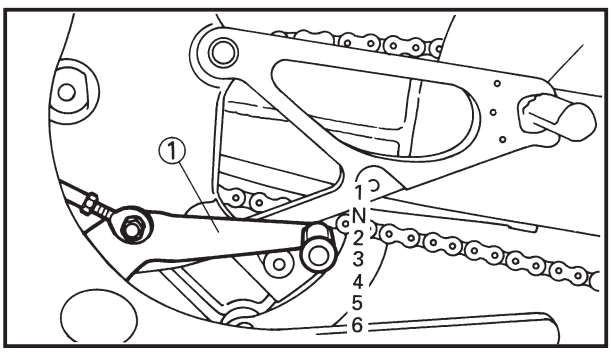
燃料は流れません。乗車以外レバーはこの位置です。

ON

始動および通常走行時のレバーの位置です。

要　　点

エンジン停止時に、フュエルコックを“ON”にしておくと、キャブレタがオーバーフローした時など、クランクケース内に燃料がたまり始動不良の原因となるので必ず“OFF”にする。

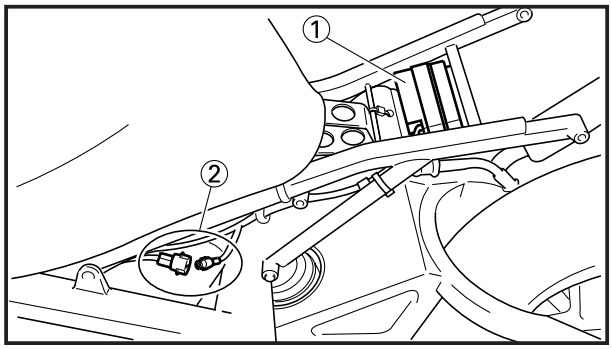


JC164022

シフトペダル操作方式

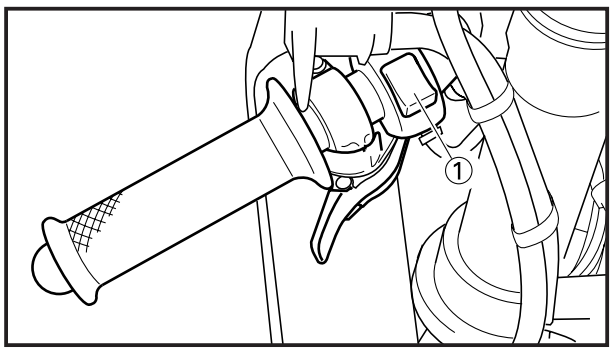
シフトペダル①操作方式は一般スポーツ車とは逆の1アップ5ダウン（蹴上げ踏込み）方式となっています。

N（ニュートラル）から1速へはアップ（蹴上げ）2速～6速へはダウン（踏込み）となりますので、初めての方はシフトミスを起こさないように十分に注意してください。



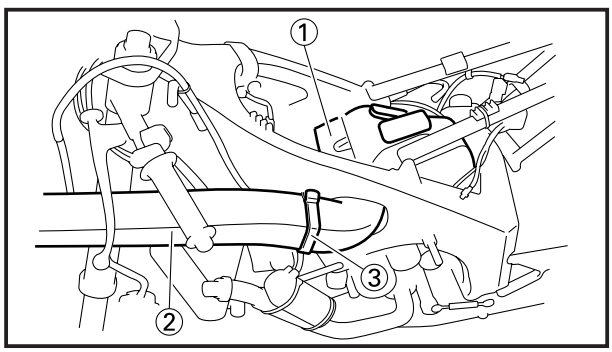
JC16E000
バッテリ

電装パーツの電源用としてバッテリ①を搭載しています。走行時以外はバッテリ上がり防止のため、ワイヤハーネスの電源カプラ②を切離しておいてください。



JC16J001
メインスイッチ

バッテリ接続時、メインスイッチ①を“RUN”にするとタコメータ、サーボモータ、フュエルポンプ、ソレノイドバルブが初期作動します。バッテリ上がり防止のため、エンジン始動または電装パーツ点検等以外でむやみにメインスイッチを“RUN”にしないでください。

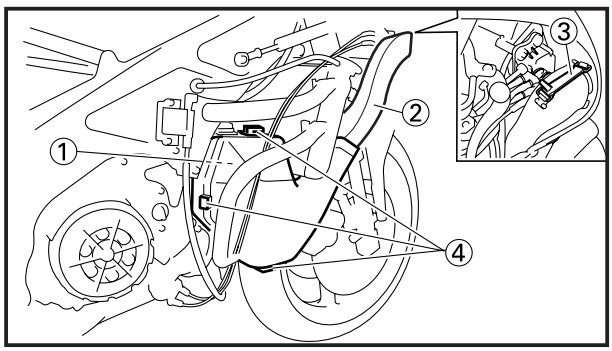


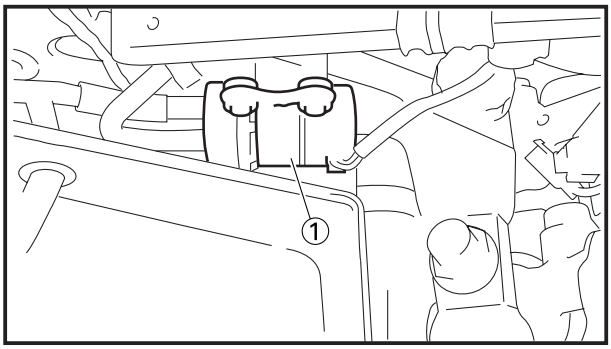
JC16F000
インダクションボックス吸気方式

走行時、キャブレタフロートチャンバボディ内に圧力を掛け、吸気性能を向上させるためにインダクションボックス①とインダクションガイド②を装着しています。取外して走行すると性能低下の原因となりますので取外さないでください。

要　点

走行中の風圧によりインダクションガイドが外れないようにバンド③およびフック④で確実に固定する。





JC16G000

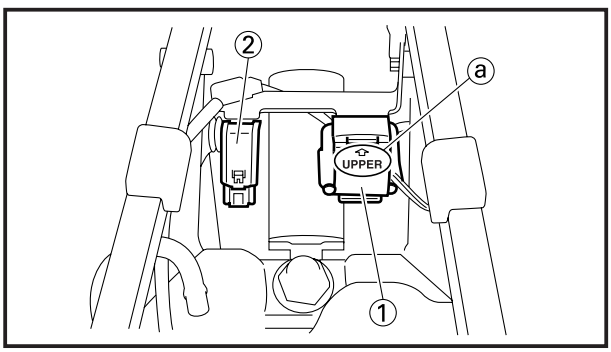
フュエルポンプ

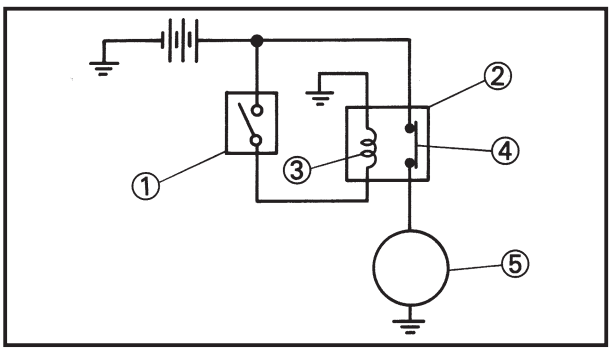
インダクションボックス吸気方式によりフュエルタンク内よりキャブレタフロートチャンバボディ内の圧力が高くなった時も安定した燃料供給をするためフュエルポンプ①を搭載しています。

フロートチャンバボディ内の規定油面が満たされていない時作動し（作動音がします。）、油面が満たされると止まります。

⚠注　意

フュエルポンプ破損の原因になるので、フュエルタンクが空の時や、フュエルコックが“OFF”になっている時などフュエルポンプに燃料が流れない状態でフュエルポンプを空回ししないこと。





JC16H000

フュエルポンプストップスイッチ、フュエルポンプリレー

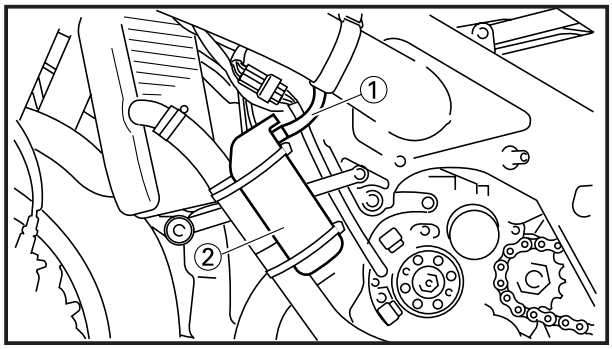
転倒時、キャブレタのオーバーフロー防止のためフュエルポンプを制御するフュエルポンプストップスイッチ①とフュエルポンプリレー②を搭載しています。

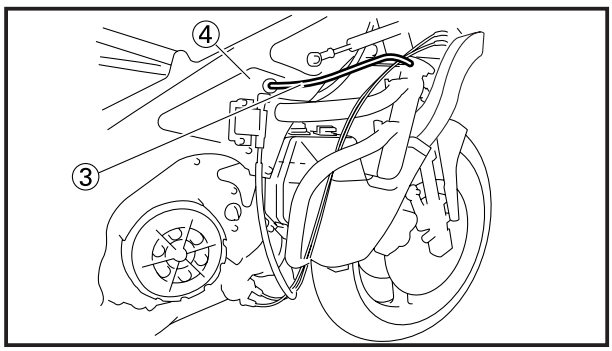
転倒するとフュエルポンプストップスイッチが“ON”になり、リレー内のコイル③に電流が流れリレースイッチ④が“OFF”になります。そして、フュエルポンプ⑤への電流がカットされフュエルポンプは停止します。

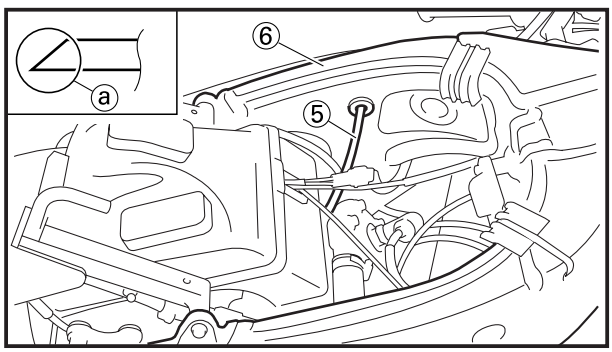
	フュエルポンプストップスイッチ①	フュエルポンプリレースイッチ④	フュエルポンプ⑤
走行時	OFF	ON	ON
転倒時	ON	OFF	OFF

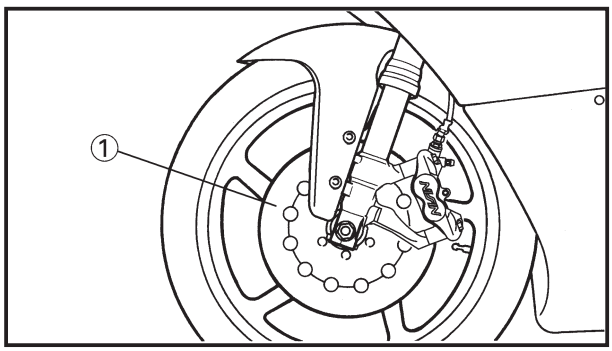
要　点

- 再スタート時は、車両を起こすとフュエルポンプが作動可能状態に戻る。
- フュエルポンプストップスイッチは“UPPER”マークⓐを上側にして組付ける。









JC167021

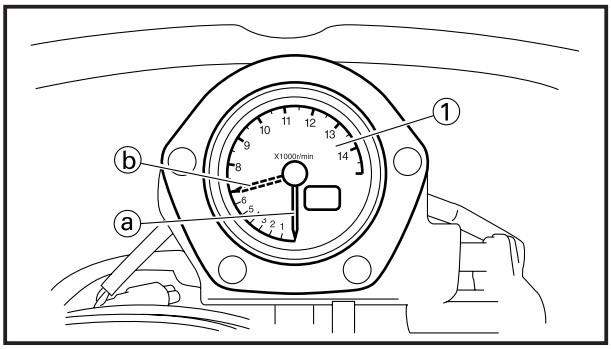
ブリーザパイプ

- フュエルタンクブリーザパイプ①
  カウリング左内側のタンク②に30㎜差込みます。
- ラジエタブリーザパイプ③
  タンクレール右④の孔に差込みます。
- ミッションオイルブリーザパイプ⑤
  パイプ先端のカット側ⓐをタンクレール左⑥の孔に差込みます。

JC168002

ブレーキ

新車時、ブレーキディスク①には防錆油を塗布しています。走行前に必ずシンナー等で拭き取ってください。



JC16K011
タコメータ

タコメータ①は精度が高く応答性の早いステッピングモータ式タコメータを搭載しています。本タコメータには以下の特徴があります。

● スイープ動作

メインスイッチを“RUN”にすると、タコメータの指針が初期動作として、一度大きく振れ、0の位置に戻ります。これをスイープ動作といいます。スイープ動作中のエンジン始動では、スイープ動作の終了後、本来の回転数を示します。

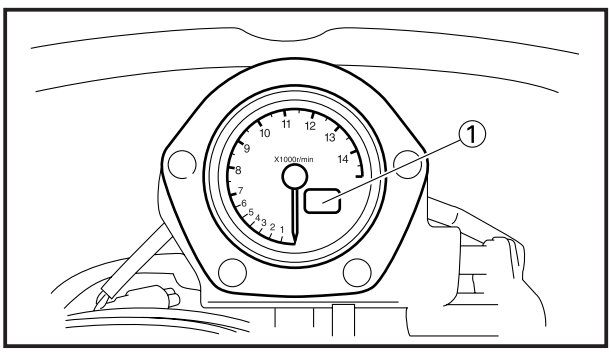
● 脱調

本タコメータは機能上、衝撃を受けた場合、指針が本来の回転数を示す位置ⓐから、ずれた位置ⓑを示す“脱調”という現象が発生することがあります。また、スイープ動作中のメインスイッチ“OFF”や高回転時でのエンジン停止(プラグチョップ)、車輌運搬時の振動などでも同様の現象が発生することがあります。

ただし、通常の走行中に脱調が発生することはありません。

要　　点

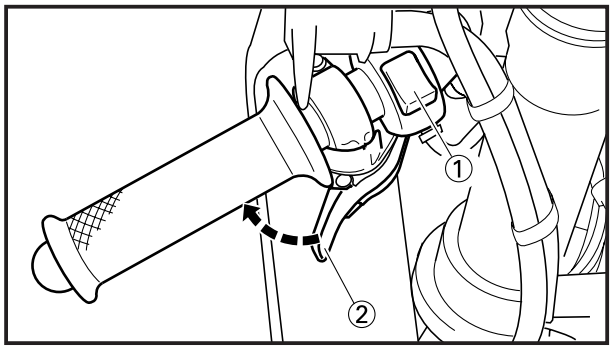
- 脱調が発生した場合は、メインスイッチを一度“OFF”にし、再度“RUN”にすることでタコメータが修正動作を行い正常な表示に復帰する。
- 脱調の発生は、タコメータの修正動作により正常な表示に復帰するため、機能上の問題はない。

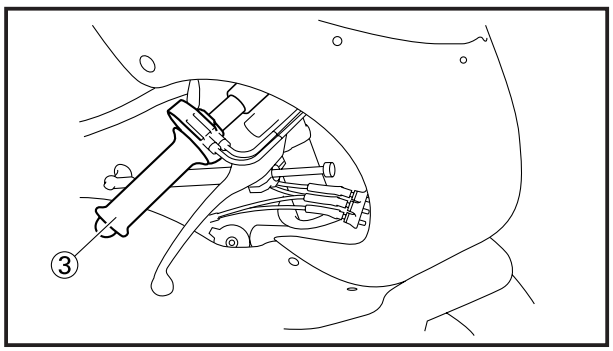


JC16L000
水温計

水温計①は冷却水の水温変化により、表示形式が変わります。

水温（℃）	表示	表示形式
～19	L0	“L0”点灯
20～119	70	各温度の数字が点灯
120～140	130	各温度の数字が点滅
141～	HI	“HI”点滅





JC16A042

エンジン始動方法

- エンジンが冷えている時

1. 冷却水量の点検をします。
2. 電源カプラを接続します。
3. フュエルコックを“ON”にします。
4. メインスイッチ①を“RUN”にします。
5. チョークレバー②を一杯に押します。
6. チェンジを1速に入れ、クラッチレバーを握り、車を押します。
7. 惰性がついた所でクラッチレバーを放します。
8. エンジンがパラパラと始動し始めたら、素早くクラッチレバーを握ると同時にスロットルグリップ③を若干開いてアイドリング回転を保ち、チェンジをニュートラルにします。
9. 数回レーシングした後、チョークレバーを元に戻し、ウォーミングアップ（暖機運転）します。

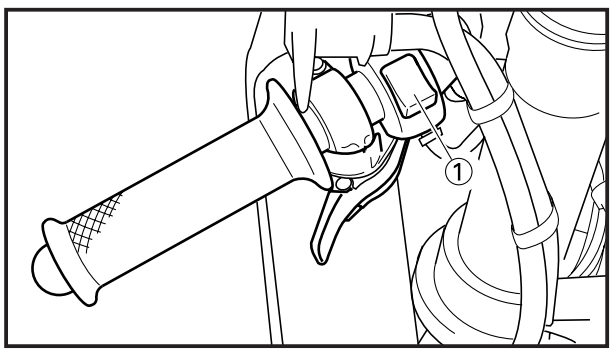
- エンジンが暖まっている時

上記要領で、チョークレバーを操作せず、そのまま始動してください。

※ 実際のレース走行を想定して、スタート練習を十分に行い、始動のコツをマスターしてください。

⚠警 告

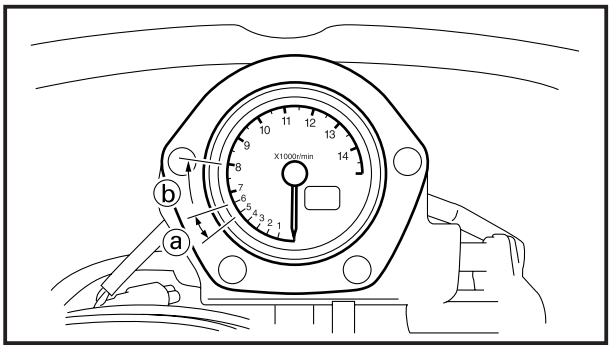
排気ガスには有害な成分が含まれているので、風通しの悪い場所、しめきったせまい場所での始動、暖機運転はしないこと。

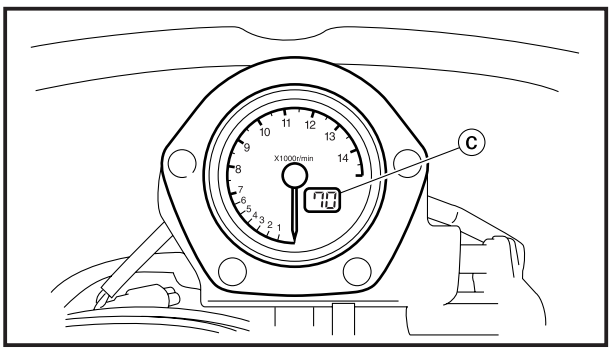


JC16B010

エンジンの止め方

1. エンジン回転の下がったところでメインスイッチ①を“OFF”にします。
   （または、ブレーキをかけギヤを入れ、クラッチレバーをはなしエンジンを止めます。この後、メインスイッチを“OFF”にします。）
2. フュエルコックを“OFF”にします。





JC16C003

ウォーミングアップ（暖機運転）

実走行前の運転としてウォーミングアップ（暖機運転）を次の要領で行ってください。

1. エンジン回転数5000～6000rpm以内ⓐで1～2分間位エンジン回転を上下させます。（水温計の上昇具合を確認）
2. エンジン回転数8000rpmを越えない範囲ⓑで2～3回、エンジン回転を上下させます。
3. 異状がなければウォーミングアップを行います。
   1および2のウォーミングアップ運転を行い、水温計が70℃ⓒ前後まで上昇するのを待ちます。

⚠注　意

- **高回転の空吹かしは長く行わないこと。**
- **ウォーミングアップ中に異音や異状がないか、圧漏れはないか良く注意して行うこと。**
- **水温計が90℃以上にあがる場合は、水不足、水漏れ等が考えられるのでただちに点検を行うこと。**

4. 次にウォーミングアップ場で走行（50～100m位の所を往復）を行い、チェンジ、クラッチ、ブレーキ等の作動を確認します。

JC170015

ならし走行

ウォーミングアップ終了後、本コースでならし走行に入ります。

ならし走行は各部品の回転部分や摺動部分および取付け部をなじませるためと、ライダー自身がマシンおよびコースになれるための重要な走行です。

⚠注　意

- **特に第1回目の燃料には、新しい混合用オイルを使用すること。**
- **ならし走行時には水温が下がるので水温計が55℃～65℃になるようにラジエタにガムテープ等を貼ること。水温が低すぎるとエンジン焼付きの原因となる。**

1. エンジン回転数を8000rpm以内におさえてコースを約10km走行してみます。ストレート走行時には、回転のリミットを越えない範囲で時々スロットルを大きく開けるようにします。
2. 一度ピットインをして各取付け部にゆるみ、またオイル漏れ、その他異状がないか点検確認します。
3. 次にエンジン回転数を9000rpm以内におさえて約10km位走行します。
   （この走行で、ライディングポジションや、およそのセッティングの目安をつけます。）
4. 再びピットインをして各取付け部にゆるみ、またオイル漏れ、その他異状がないか十分に点検確認をします。
   特にケーブル類の伸び、ブレーキの遊び、チェンの伸び等について十分に点検調整を行います。
   また、好みのライディングポジションに調整をします。

⚠注　意

ならし走行後および1レース走行後には“トルクチェックポイント”に示されている箇所の締付トルクチェック、増締めを必ず行うこと。
（トルクチェックポイントの項目参照）

5. エンジン回転数を10000rpmまで上げて約10km位走行します。
6. エンジン回転数を11000rpmまで上げて約10km位走行します。
7. エンジン回転数を12000rpmまで上げて約10km走行し、最後にプラグチョップをします。ピストンヘッドの焼けを見て異状の有無を確認します。
   第7章―セッティング編参照
8. 通常のライディングで約10km走行し、最後にプラグチョップをします。ピストンヘッドの焼けを見て異状の有無を確認します。

JC171012

部品交換時のならし

部品を交換した場合も、新車時と同様のならし運転、ならし走行が必要です。

特に下記エンジン関係部品を交換した場合は必ずならし走行を行ってください。

◯シリンダ◯ピストン◯ピストンリング

◯クランク◯クラッチ◯ミッションギヤ

◯シフトフォーク

※ ウォーミングアップおよびならし走行中の点検箇所は、“ならし走行後の点検整備”の項目を参考にして、異状があればただちにエンジンを停止して点検してください。

JC180051
トルクチェックポイント

- フレームの構成
  - フレームとリヤフレーム
- エンジンの懸架
  - フレームとエンジン
  - エンジンブラケットとエンジン
  - エンジンブラケットとフレーム
  - カラー締付け
- ステアリング
  - ステアリングシャフトとハンドル
    - ダンパステーとフロントフォーク
    - ステアリングシャフトとハンドルクラウン
    - フロントフォークとハンドル
- サスペンション
  - ステアリングシャフトとフロントフォーク
    - フロントフォークとハンドルクラウン
    - フロントフォークとアンダブラケット
  - リンク取付け
    - リンク組立
    - リンクとフレーム
    - リンクとクッション
    - リンクとリヤアーム
  - リヤクッション取付け
    - クッションとアッパブラケット
    - アジャスタとアッパブラケット
    - アジャスタとロックナット
  - リヤアーム取付け
    - ピボットシャフト締付け
- ホイール
  - ホイール取付け
    - 前
      - ホイールアクスル締付け
    - 後
      - ホイールアクスル締付け
      - ダンパとスプロケット
- ブレーキ
  - 前
    - キャリパとフロントフォーク
    - ディスクとホイール
    - ユニオンボルト締付け
    - キャリパとアダプタ
    - ブレーキホースとアダプタ
    - マスタシリンダとハンドル
    - ブリードスクリュ締付け
    - キャリパとパッドピン
  - 後
    - キャリパとキャリパブラケット
    - ディスクとホイール
    - ユニオンボルト締付け
    - キャリパとアダプタ
    - ブレーキホースとアダプタ
    - マスタシリンダとフートレストブラケット
    - フートレストブラケットとフレーム
    - フートレストブラケットとフートレスト
    - ブレーキペダルとマスタシリンダ
    - ブリードスクリュ締付け
    - キャリパとパッドピン
- 燃料系
  - フュエルタンクとコック

JC190001
ならし走行後の点検整備

ならし走行終了後は、念入りな点検整備を行い、次の練習走行やレース走行に備えるようにしてください。

第３章―“エンジン”“車体”“電装”の点検調整の項目参照

JC191041
主な点検整備の内容

● エンジン関係

1. エンジン廻りの漏れ
   シリンダヘッド、シリンダからの圧漏れ、クランクケース、ケースカバーからのオイル漏れ、冷却水系統の水漏れ等がないか。
2. シリンダ、ピストン、ピストンリングのなじみ、シリンダとピストンの当りは良いか。ポート面とリングの引っ掛かりはないか。
3. ミッションオイル交換
   オイルを抜いて、汚れ具合を調べ金属片等の異物が混じっていないか点検する。
   指定のオイルを規定量注入する。
   オイルストレーナを掃除する。
4. キャブレタ
   分解し、各小さな孔をエアで吹きながら清掃する。
5. Y.P.V.S.
   パワーバルブのプーリおよびバルブケーブルにゆるみがないか。正しく作動するか。
6. C.D.Iマグネト
   ロータおよびステータの取付けにゆるみがないか。コネクタが抜けかかっていないか。また点火時期も確認しておく。
7. マフラ
   本体や取付ステーに亀裂がないか。漏れがないか。
8. 各取付ボルト、ナット類
   エンジンマウントボルトおよびエンジンステー他、各部品の取付け部にゆるみがないか。

● 車体関係

1. フレーム、リヤアーム、リンク廻り、エンジンステー等各溶接部分や取付け部分にゆるみや亀裂等の異状がないか。
2. ホイール
   ホイールバランスは良いか。振れはないか。
3. ブレーキ
   ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び調整。
   ディスク取付ボルトにゆるみはないか。
   リザーバタンクにブレーキフルードが規定量入っているか。漏れがないか。
4. ケーブル
   ケーブル類への給油と調整。
5. ドライブチェン
   ドライブチェンへの給油と張り調整。
6. フュエルタンク
   フュエルタンクとコック内清掃。漏れがないか。
7. クッション
   フロントフォーク、リヤクッションにオイル漏れがないか。取付け状態は良いか。
8. スプロケット
   リヤホイールのスプロケット取付けにゆるみはないか。
9. 各取付ボルト、ナット類
   各取付け部にゆるみがないか。

▲注　意

ならし走行後および1レース走行前には、“トルクチェックポイント”に示されている箇所の締付トルクチェック、増締めを必ず行うこと。（トルクチェックポイントの項目参照）

10. からげ線とグリース、オイル給油
    からげ線の必要箇所には必ずからげ線をしておくこと。
    第３章―からげ線の項目参照
    またグリース、オイル給油箇所には必ず給油すること。
    第２章―オイル、グリース、シール剤塗布箇所の項目参照

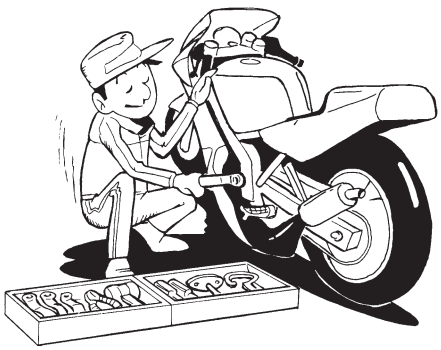
● 電装関係

1. バッテリ
   バッテリ電圧の点検。

JC1A0015
整備上の注意事項（1）

1. 洗車
   車体、エンジンの泥、ほこり等をよく落とし、作業中内部に混入しないようにすること。

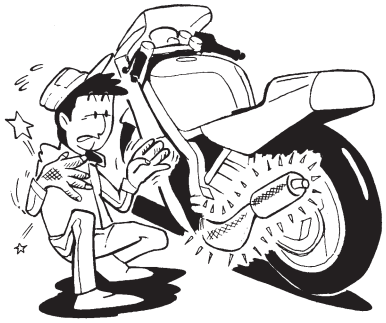
2. 火気厳禁
   火気を絶対に近づけないこと。



3. 正しい工具
   部品に損傷を与えないように、特殊工具の必要な箇所の作業には必ず特殊工具を使用すること。また適切な工具と計器による適正な作業を実施すること。（スパナ等は出来るだけ避け、メガネ、ボックスレンチ等を使用すること。）

4. 消耗部品
   ガスケット（パッキン）、Oリング、コッタピン、サークリップ、ロックワッシャ等は取外した時、新品と交換すること。

5. 純正部品
   使用する部品や油脂類は必ずヤマハ純正部品および推奨品を使用し、他のものは使用しないこと。



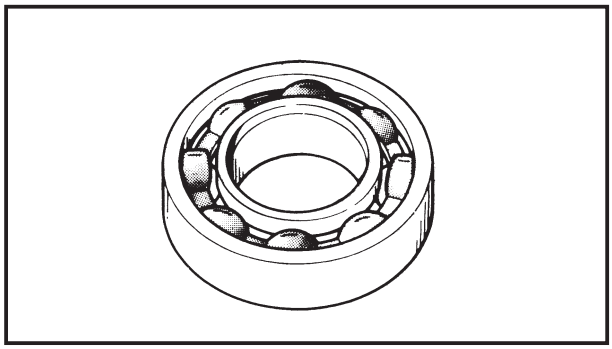
6. ケガ、火傷
   整備中、ケガをしないよう、またエンジン、エキパイ、マフラ等で火傷する事のないように、十分注意して作業すること。
7. 分解、組立上の注意
① 分解を行う場合、必要な部品については分解中に点検、測定をしてその記録を残し組付け時の参考とする。
② 各部品を混同、紛失しないように、各セクション毎に整理する。
③ エンジン、トランスミッション部品は、分解後洗油で洗浄し、エアで吹く。
④ 組立は、各部品の修正結果および分解前のデータを確認しながら作業を進める。
⑤ 組付け中の各部品にほこりや異物が付着しないようにする。
⑥ 各セクション毎に、作動を確認し、組付けていく。
⑦ 摺動部分には、オイルを塗布する。
⑧ 規定の締付トルクを守る。
⑨ 作業を2人でする場合は、相互の連絡を密にする。
8. 冷却水
   冷却水を車に付着したまま放置すると塗装、メッキが損傷するので早目に水洗いすること。

⚠警　告

クーラントは毒性がありますので取扱いには十分注意すること。

- **目に入った場合**
  水で十分に洗い流してから医師の治療を受けること。
- **皮膚や衣類についた場合**
  すみやかに水洗いしたのち石鹸水で洗うこと。
- **飲んだ場合**
  ただちに、おう吐させ医師の治療を受けること。

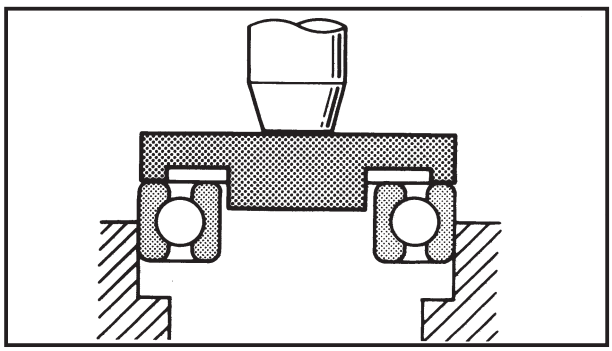
9. からげ線
   からげ線が必要な所は必ずからげ線を行うこと。



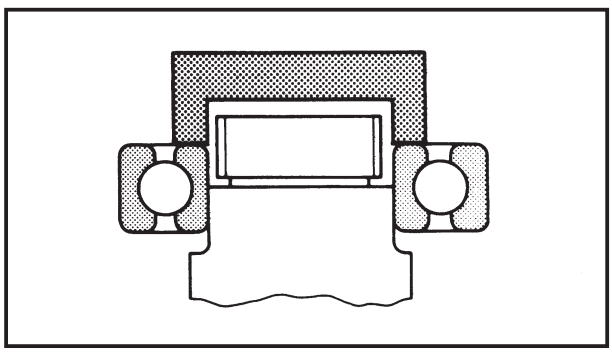
JC1B0000
整備上の注意事項（2）

JC1B1001
ベアリングの組付け方

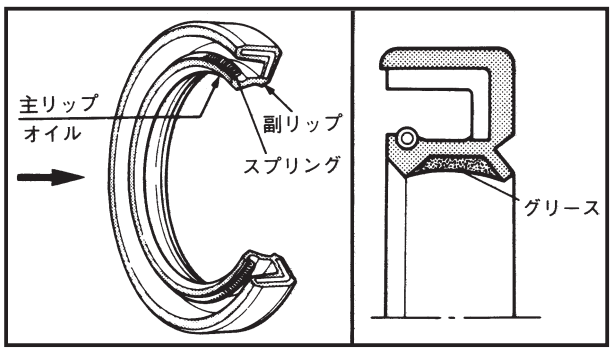
- ベアリングの組付け方向はメーカー印、サイズ記号の記入されている面を外側に向けて組付けます。



- ベアリングをケースに打込む時はアウタレースに力を加えて平行に打込みます。

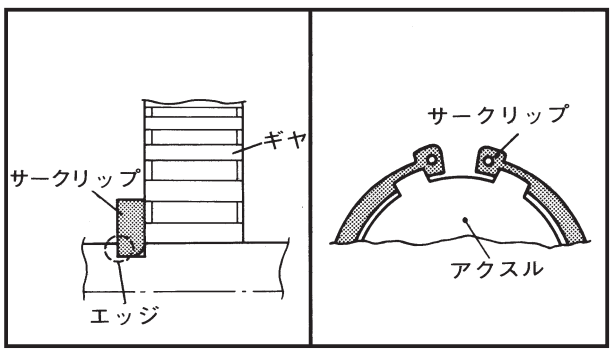


- ベアリングをアクスル（軸）に打込む時はインナレースに力を加えて平行に打込みます。



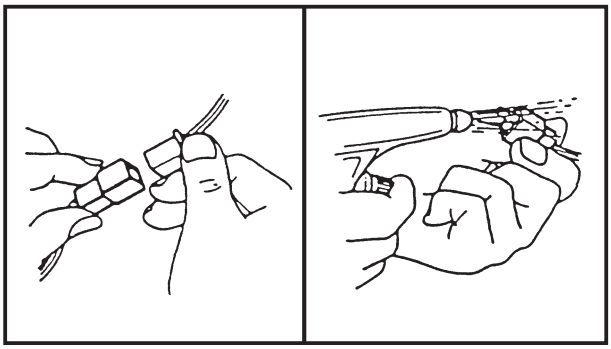
JC1B2000
オイルシールの組付け方

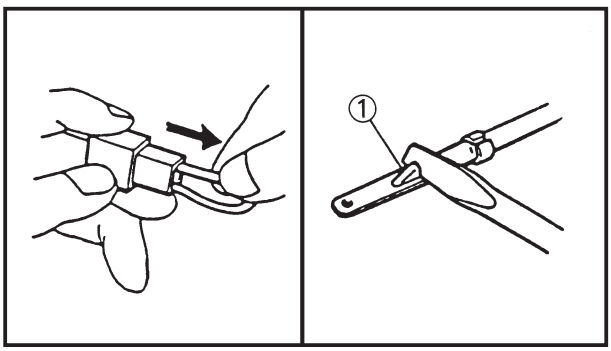
- オイルシールの組付け方向は主リップを油室側（シールする対象側）に向けて組付けます。
- オイルシールリップ部に必ずグリースをうすく均一に塗布して組付けます。

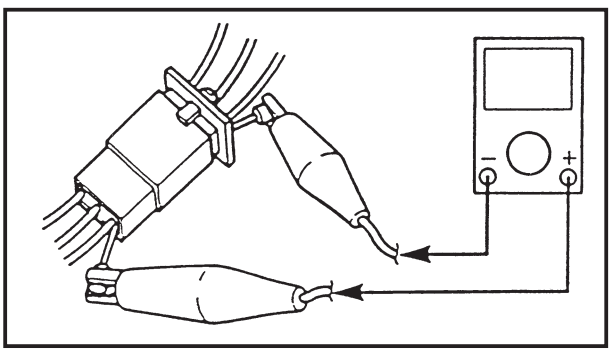


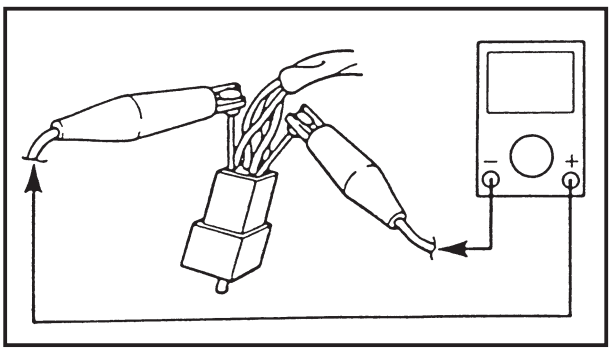
JC1B3003
サークリップの組付け方

- サークリップの組付け方向はサークリップのエッジ側を外側に向けて組付けます。
- サークリップの合口をスプラインの谷の中心に合せて組付けます。
- サークリップを必要以上に広げないでください。









JC1D0000
整備上の注意事項（3）

JC1D1001
配線接続部の点検のやり方

コネクタ、カプラの汚れ、錆、湿気等を点検する。

1. 以下の部品を取外します。
- コネクタ、カプラ
2. エア等を使用して各端子を乾燥させます。
3. コネクタ、カプラを2～3回抜き、差しをします。
4. リード線を引っ張って抜けないか確認します。
5. 端子が抜ける場合は、ピン①を曲げて、端子をコネクタに組付けます。
6. 以下の部品を接続します。
- コネクタ、カプラ
7. テスタを使用して導通状態を点検します。

要　　点

- 導通状態が不良の場合は、端子を清掃後再度点検する。
- ワイヤハーネスの点検は上記1～7の手順で行う。
- C.D.Iユニットを交換する場合は、必ず、C.D.Iユニットのコネクタ、カプラを点検する。
- カプラの点検は図示のようにテスタを使用する。

JC1E0000

国際単位系〔SI〕について

1. 国際単位系〔SI〕とは

現在、私達が一般に使用している単位は重力単位系と呼ばれるものです。重力単位系もSIもメートル法の中の単位系ですので基本的には長さを「メートル」、時間を「秒」、質量を「キログラム」という単位で表現しています。

重力単位系とSIの根本的な相違点は「質量」の単位と「力」の単位を明確に区別しているところにあります。

さらに「力」の単位が変ることで、関連した「量」（エネルギー等）の単位も変っています。

SIとはフランス語の国際単位系（Le Systém International d'Unités）という意味の略称です。

2. オーナーズサービスマニュアルへのSI記載例

このオーナーズサービスマニュアルではSIと従来単位を併記して記載しています。

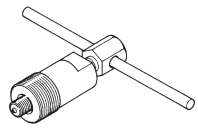
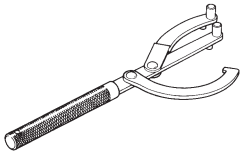
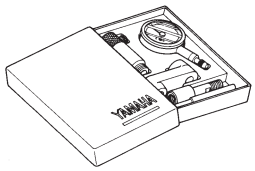
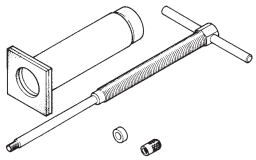
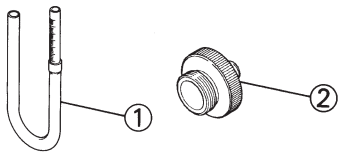
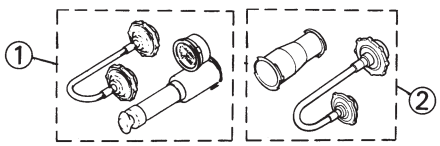
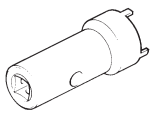
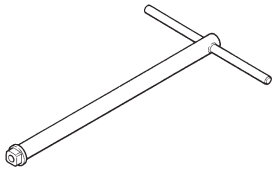
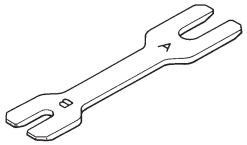
〔例〕締付トルク　　10Nm（1.0kg･m）

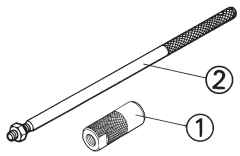
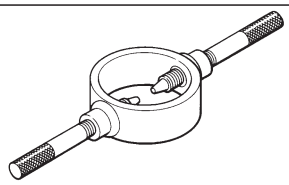
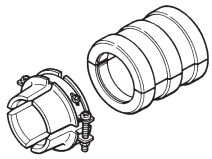
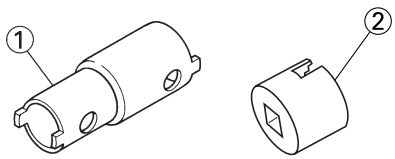
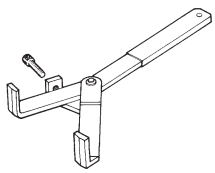
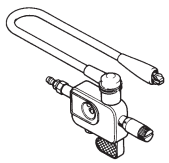
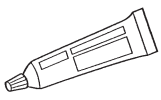
主な記載例

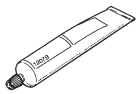
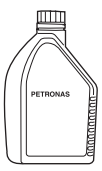
項　　目	SI（従来単位）
容量または排気量	1L(1000㎤)
圧力	1kPa(0.01kg/㎠)
出力	1kW(1.360PS)
トルク	1Nm(0.1kg･m)

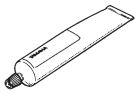
JC1C0001
特殊工具・機器

正しい工具で点検、調整と分解、組立を行うようにしてください。
また、正しい特殊工具を使用することで整備上のトラブルおよび機械破損を防ぐことができます。

工　具　No.	工具名称／使用方法	イ　ラ　ス　ト
90890-01189	ロータプーラ ロータを取外すツール	
90890-01235	ロータホールディングツール ロータの廻り止めをするツール	
90890-01252	ダイヤルゲージ&スタンドセット 点火時期調整、各部品の振れ、曲りを測定するツール	
90890-01304	ピストンピンプーラ ピストンピンを取外すツール	
90890-01312 90890-01470	フュエルレベルゲージ① フュエルレベルアダプタ② キャブレタの油面を測定するツール	
90890-01325 90890-01352	ラジエタキャップテスタ① アダプタ② ラジエタ、ラジエタキャップを点検するツール	
90890-01385	ステアリングナットホルダ リングナットの取外し、締付けをするツール	
90890-01425	ダンパロッドホルダ フロントフォークのダンパロッドを廻り止めするツール	
90890-01434	ロッドホルダ フロントフォークスプリングを圧縮した状態で固定するツール	

工　具　No.	工具名称／使用方法	イ　ラ　ス　ト
90890-01435 90890-01437	ロッドプーラアタッチメント（M12）① ロッドプーラ② ダンパロッドを引き上げるツール	
90890-01441	フォークスプリングコンプレッサ フォークスプリングを圧縮するツール	
90890-01442	フロントフォークオイルシールドライバ フロントフォークのオイルシールを組付けするツール	
90890-01455 90890-01476	ピボットシャフトレンチ① ピボットシャフトレンチアダプタ② ピボットアジャストボルトの取外し、締付けをするツール	
90890-03112	ポケットテスタ 電装品の電圧、電流、抵抗値を測定するツール	
90890-04086	クラッチホールディングツール クラッチボスの廻り止めをするツール	
90890-06754	イグニッションチェッカ イグニッションコイルの火花性能を点検するツール	
90793-38001 90793-38010	ヤマハブレーキフルードBF-4/DOT4（0.1L入） ヤマハブレーキフルードBF-4/DOT4（0.5L入） 油圧ブレーキ用ブレーキフルード	
90793-38005	ヤマハサスペンションオイル01 フロントフォーク用サスペンションオイル	
90793-40008	シリコングリースG30M 油圧式ブレーキ摺動部へ給油	

工　具　No.	工具名称／使用方法	イ　ラ　ス　ト
90793-40021	ヤマハMEスーパー防錆潤滑浸透剤 車体摺動部へ給油	
90793-40023 90793-40025	ヤマハMEスーパーチェンオイル（ドライタイプ） ヤマハMEスーパーチェンオイル（ウェットタイプ） ドライブチェン潤滑用オイル	
90793-40027	ヤマハMEスーパーチェンクリーナ ドライブチェン洗浄用クリーナ	
90793-40042	ヤマハME-180ワイヤグリース ケーブル摺動部へ給油	
90793-43003	ネジロックNo.1324 ネジ固着剤	
*Q5W-NLT-001-001	ロックタイトLT620 ネジ固着剤（シリンダヘッド締付スタッドボルトおよびY.P.V.S.バルブ連結ボルト用）	
*Q4M-TBD-074-000	スリーボンド1207B クランクケースシール剤	
90890-6900A	カストロールR30 ミッション潤滑オイル	
90890-6901A	カストロールA747 燃料混合用オイル	
*Q1L-YSR-001-001	ペトロナススプリンタGP 燃料混合用オイル	

工　具　No.	工具名称／使用方法	イ　ラ　ス　ト
90890-69916	ヤマハグリース（B） 耐水、耐熱性に優れた万能タイプグリース	
90890-69919	ヤマハ二硫化モリブデンオイル エンジン組立初期の潤滑用オイル	
90890-69924	ヤマハ二硫化モリブデングリース 高荷重用グリース	

*工具No.が「Q」で始まる製品についても、ヤマハ製品取扱販売店でご購入ください。

JC200000
サービスデータ編

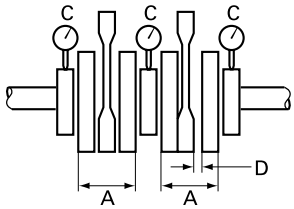
JC260000
主要諸元

営業呼称	TZ250
機種コード	5KE4
寸法：	
全長	1955㎜
全幅	650㎜
全高	1163㎜
シート高	788㎜
軸間距離	1342㎜
最低地上高	112㎜
重量：	
乾燥重量	100kg（カウリング付）
車両重量	119.5kg
乗車定員：	1名
原動機：	
原動機種類	2サイクル、水冷、クランク室リードバルブ
気筒数配列	V型2気筒
総排気量	0.249L（249㎤）
内径×行程	54㎜×54.5㎜
圧縮比	7.1：1（出荷時）
最高出力	68.4kW（93PS）以上/12500rpm
最大トルク	53.9Nm（5.5kg･m）/11750rpm
始動方式	押しがけ
クラッチ形式	乾式多板
ミッションオイル：	
定期交換時	0.5L（500㎤）
オーバホール時	0.5L（500㎤）
指定オイル	カストロールR30
トランスミッション：	
1次減速比	53/21（2.524）
2次減速比	36/14（2.571）
ミッション・チェンジ方式	常時かみ合式6速

減速比　1速	31/16（1.938）
2速	31/21（1.476）
3速	26/21（1.238）
4速	24/22（1.091）
5速	21/21（1.000）
6速	25/27（0.926）
車体：	
フレーム型式	アルミデルタボックスフレーム
キャスタ	22°
トレール	82㎜
燃料：	
フュエルタンク容量	23.0L
タイヤ：	
種類	チューブレス
タイヤサイズ（前）	120/60 R17
（後）	165/55 R17
タイヤメーカ（前）	ダンロップ
（後）	ダンロップ
タイヤ銘柄（前）	KR106
（後）	KR108
タイヤ空気圧：	
（前）	200kPa（2.0kgf/㎠）
（後）	200kPa（2.0kgf/㎠）
ブレーキ：	
前輪ブレーキ形式	油圧式ダブルディスクブレーキ
後輪ブレーキ形式	油圧式シングルディスクブレーキ
懸架方式：	
フロントサスペンション	テレスコピック
リヤサスペンション	スイングアーム（リンク式モノクロスサスペンション）
緩衝方式：	
フロントショックアブソーバ	コイルスプリング/オイルダンパ
リヤショックアブソーバ	コイルスプリング/ガス、オイルダンパ
ホイールトラベル：	
フロントホイールトラベル	113㎜
リヤホイールトラベル	118㎜
エレクトリカル：	
点火方式	C.D.I
スパークプラグ：	
型式	R6179A-105P
メーカ	NGK
プラグギャップ	0.5～0.6㎜

JC270000
整備諸元

JC271000
エンジン

項目	標準値	使用限度
シリンダヘッド：		
燃焼室容積	9.2㎤	…
ピストン：		
ピストンクリアランス	0.080～0.090㎜	…
ピストンリング：		
トップリング		
形状	キーストン	…
サイドクリアランス（組付け時）	0～0.054㎜	…
クランクシャフト：		
		
クランク組立幅“A”	49.975～50.025㎜	…
クランクシャフト振れ“C”	0.03㎜	0.05㎜
サイドクリアランス“D”	0.45～0.95㎜	…
クラッチ：		
フリクションプレート厚さ	2.9～3.1㎜	2.7㎜
枚数	6枚	…
クラッチプレート厚さ	2.2～2.4㎜	…
枚数	5枚	…
歪限度	…	0.1㎜
クラッチスプリング自由長	30.6㎜	29.6㎜
本数	6本	…
プッシュロッドの曲り限度	…	0.2㎜
リードバルブ：		
リードバルブとシートのすき間	…	0.2㎜
ストッパの高さ	6.5～6.9㎜	…

項目	標準値	使用限度
キャブレタ：		
型式/数量	TMX χ 38/2	…
刻印（左気筒）	5KE4 30L	…
（右気筒）	5KE4 30R	…
メインジェット	＃500	…
メインエアジェット	φ2	…
ジェットニードル	6DGI18-65	…
クリップ段数	1段	…
スロットルバルブ（C.A）	6.0	…
パイロットジェット	＃35	…
エアスクリュ戻し回転数	1-1/2	…
メインノズル	S-5	…
スタータジェット	＃80	…
パワージェット	＃65	…
油面（スペシャルツール使用）	6.0～7.0㎜	…
ラジエタ：		
型式	コルゲートフィン型	…
幅/高さ/厚さ	380/198/24㎜	…
ラジエタキャップ開弁圧	95～125kPa（0.95～1.25kg/㎠）	…
耐圧	180kPa（1.8kg/㎠）	…
冷却水総容量	1.4L（1400㎤）	…
ラジエタ容量	0.5L（500㎤）	…

項目	サイズ
ベアリング：	
クランクシャフト（左）	BALL　6305HYR1NLT2SH2-9T2-ACS23
（中）	BALL　83C072DSH2-9T2-ACS25
（右）	BALL　6305HYR1NLT2SH2-9T2-ACS23
バランサシャフト（左）	NEEDLE　TR223016E03
（右）	BALL　6303R
メインアクスル（左）	BALL　6004RUDSH2C3
（右）	BALL　6205-9T1C3
ドライブアクスル（左）	BALL　83A915SH2-9TCS23
（右）	BALL　6204RUDSH2CS15
ウォータポンプ	BALL　6901C3
オイルシール：	
クランクシャフト（左）	FPJ5-25-37-8-ZS
（中）	FAJ7-44-72-5-TS
（右）	FPJ7-35-62-4-R-ZS
ドライブアクスル	MHSA-32-42-6U
ウォータポンプ（外）	HTCY-11.7-25-7
（内）	S-12-20-4-NS
クラッチ（プッシュアクスル）	SD-12-18-5-HS
シフトシャフト	SD0-12-19-5

JC272000
車体

項目	標準値	使用限度
ステアリングシステム：		
ステアリングベアリング型式	テーパーローラベアリング	…
ハンドルシミーダンパ	オイルダンパ	…
ハンドル切れ角（左）	17°	…
（右）	17°	…
フロントフォーク：		
フロントフォークトラベル	113mm	…
フォークスプリング自由長	212.5mm	210.5mm
オイル量	0.386L（386cm³）	…
オイルレベル	135mm	…
指定オイル	ヤマハサスペンションオイル01	…
インナチューブ外径	41mm	…
インナチューブ曲り限度	…	0.2mm
リヤクッション：		
クッションストローク	53mm	…
スプリングセット長	137mm	…
フロントホイール：		
リムサイズ	MT3.75×17	…
リム縦振れ限度	…	1.0mm
リム横振れ限度	…	0.5mm
ホイールアクスルの曲り限度	…	0.25mm
リヤホイール：		
リムサイズ	MT5.50×17	…
リム縦振れ限度	…	1.0mm
リム横振れ限度	…	0.5mm
ホイールアクスルの曲り限度	…	0.25mm
ドライブチェン：		
型式/メーカ	RKGB520TRU/アールケー・エキセル	…
駒数	110	…
たわみ量	55～65mm	…
10リンク伸び限度	…	150.1mm
フロントディスクブレーキ：		
ディスク外径×厚さ	298×5mm	…
ディスク厚さ使用限度	…	4.5mm
パッド厚さ	5.3mm	1.0mm
指定ブレーキフルード	ヤマハブレーキフルードBF-4/DOT4	…

項目	標準値	使用限度
リヤディスクブレーキ：		
ディスク外径×厚さ	185×4mm	…
ディスク厚さ使用限度	…	3.5mm
ディスクの振れ使用限度	…	0.15mm
パッド厚さ	4.0mm	1.0mm
指定ブレーキフルード	ヤマハブレーキフルードBF-4/DOT4	…
ブレーキレバーとブレーキペダル：		
ブレーキペダル位置	148～152mm	…
クラッチレバー遊び（先端部）	10～15mm	…
スロットルグリップツバ部外周遊び	2～4mm	…

項目	サイズ
ベアリング：	
フロントホイール（左）	BALL　60052RD
（右）	BALL　60052RD
リヤホイール（左）	BALL　60052RD
（右）	BALL　60052RD
クラッチハブ	BALL　6906LLU/2A
ステアリングシャフト（上）	32005JR-P0-1-R
（下）	4T-CR-0643L
リヤアーム（ピボット部）	TA253325ZE02
（リンク部）	HMK1521LL
リレーアーム	HMK1521LL
オイルシール：	
フロントフォーク	SD-41-53.1-8

JC273000
電装

項目	標準値	使用限度
C.D.Iユニット：		
型式/メーカ	5KE-30/DENSO	…
点火タイミング：		
点火時期（B.T.D.C）	2.4㎜	…
イグニッションコイル：		
型式/メーカ（左気筒）	TJ0285/DENSO	…
（右気筒）	TJ0277/DENSO	…
火花性能	5㎜以上	…
1次コイル抵抗値	0.14～0.18Ω（20℃）	…
2次コイル抵抗値	5.0～7.4kΩ（20℃）	…
C.D.Iマグネット：		
型式/メーカ	5KE-00(TLGZ06)/DENSO	…
ピックアップコイル抵抗値/線色（左気筒）	94～140Ω（20℃）/白/黒ー白/青	…
（右気筒）	94～140Ω（20℃）/白/黒ー白/緑	…
出力コイル抵抗値/線色	2.3～3.5Ω（20℃）/白ー白	…
バッテリ：		
型式/メーカ	PE12V0.8/日本電池	…
容量	12V0.8Ah	…
充電時間	5時間	…
充電完了電圧値	12.8V以上	…
フュエルポンプ：		
型式/メーカ	UC-Z6V/MITSUBISHI	…
コイル抵抗値	1～3Ω（20℃）	…
フュエルポンプリレー：		
型式/メーカ	1UY-92/松下電工	…
コイル抵抗値	72～88Ω（20℃）	…
サーキットブレーカー：		
タイプ	ヒューズ	…
メイン	10A×1	…

JC220000
締付トルク一覧表

JC221001
エンジン

〔単位：Nm（ ）内はkg･m〕

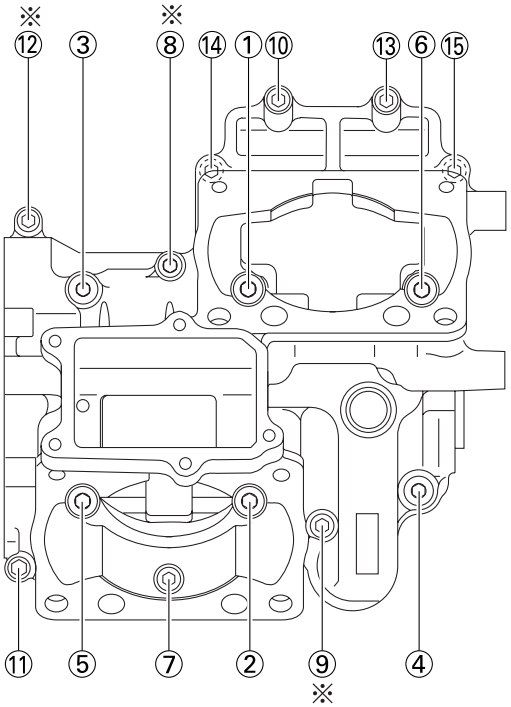
締 付 箇 所	個数	ネジ径×ピッチ	締付トルク	備 考
スパークプラグ	2	M14S×1.25	19（1.9）	
シリンダヘッド締付スタッドボルト	12	M 6 ×1.0	7（0.7）	**要 点** 参照(P2-9)
シリンダヘッド締付ナット	12	M 6 ×1.0	11（1.1）	
シリンダ締付スタッドボルト	8	M 8 ×1.25	15（1.5）	
シリンダ締付ナット	8	M 8 ×1.25	20（2.0）	
カバー取付け	8	M 5 ×0.8	4（0.4）	
バルブ連結ボルト	2	M 5 ×0.8	6（0.6）	Y.P.V.S.、ネジロック塗布(LT620)
プーリシャフト取付け	4	M 5 ×0.8	8（0.8）	Y.P.V.S.、トルクススクリュ
バルブホルダ取付け	8	M 5 ×0.8	5（0.5）	Y.P.V.S.
プーリ締付け	2	M 6 ×1.0	10（1.0）	Y.P.V.S.
ケーブルステー取付け	4	M 5 ×0.8	7（0.7）	Y.P.V.S.
シリンダエア抜きボルト	2	M 6 ×1.0	12（1.2）	銅ワッシャ
バランサウェイトギア締付け	1	M14×1.0	50（5.0）	ロックワッシャ
ウォータポンプハウジングカバー取付け	4	M 6 ×1.0	11（1.1）	
ウォータポンプエア抜きボルト	1	M 6 ×1.0	11（1.1）	銅ワッシャ
ラジエタ取付け	3	M 6 ×1.0	7（0.7）	
ラジエタとサーモユニット	1	M16×1.5	11（1.1）	
ラジエタホース2～4取付け	6	—	2（0.2）	
オイルポンプカバー締付け	3	M 5 ×0.8	8（0.8）	
オイルストレーナ取付け	4	M 6 ×1.0	7（0.7）	
キャブレタジョイント	9	M 6 ×1.0	11（1.1）	
キャブレタジョイントクランプ	2	M 4 ×0.7	2（0.2）	
リードバルブ取付け	12	M 3 ×0.5	1（0.1）	ネジロック塗布
ミキシングチャンバトップ取付け	2	M 4 ×0.7	2（0.2）	
マフラ取付け	2	M 8 ×1.25	21（2.1）	
サイレンサ取付け	4	M 6 ×1.0	11（1.1）	
クランクケース上、下締付け	6	M 8 ×1.25	26（2.6）	**要 点** 参照(P2-9)
クランクケース上、下締付け	9	M 6 ×1.0	11（1.1）	
クランクケース3締付け	6	M 6 ×1.0	16（1.6）	
ミッションオイルチェックボルト	1	M 6 ×1.0	9（0.9）	銅ワッシャ、からげ線
ミッションオイルドレンボルト	1	M12×1.25	23（2.3）	銅ワッシャ、からげ線
クランクケースカバー右締付け	10	M 6 ×1.0	11（1.1）	
クランクケースカバー左締付け	3	M 6 ×1.0	11（1.1）	
プラグ締付け	1	M18×1.5	50（5.0）	アルミワッシャ
プライマリドライブギヤ締付け	1	M10×1.25	55（5.5）	
クラッチボス締付け	1	M20×1.0	75（7.5）	ロックワッシャ
クラッチスプリング取付け	6	M 6 ×1.0	9（0.9）	
アジャストスクリュ(プッシュロッド1)とロックナット	1	M 6 ×1.0	6（0.6）	
シートプレート（プッシュレバー押え）取付け	1	M 5 ×0.8	7（0.7）	
クラッチケーブルホルダ取付け	2	M 6 ×1.0	8（0.8）	
ベアリングプレートカバー取付け	3	M 6 ×1.0	10（1.0）	ネジロック塗布
オイルシールプレートカバー取付け	2	M 5 ×0.8	7（0.7）	
ドライブスプロケット取付け	1	M20×1.0	75（7.5）	ロックワッシャ
ベアリングプレートカバー（シフトカム）取付け	1	M 5 ×0.8	4（0.4）	ネジロック塗布
セグメント取付け	1	M 8 ×1.25	23（2.3）	ネジロック塗布
シフトガイド取付け	2	M 6 ×1.0	11（1.1）	
アジャストスクリュ（シフトレバーAss'y）とロックナット	1	M 6 ×1.0	9（0.9）	
ストッパボルト（トーションスプリング引掛け）取付け	1	M 8 ×1.25	8（0.8）	ネジロック塗布

〔単位：Nm（　）内はkg・m〕

締　付　箇　所	個数	ネジ径×ピッチ	締付トルク	備　考
シフトアーム取付け	1	M 6 ×1.0	14（1.4）	
ジョイントロッド1とシフトロッド	1	M 6 ×1.0	9（0.9）	
ジョイントロッド2とシフトロッド	1	M 6 ×1.0	9（0.9）	左ネジ
ジョイントロッド1、2取付け	2	M 6 ×1.0	11（1.1）	
シフトペダルピボットボルト	1	M 8 ×1.25	22（2.2）	
フロントペダル（シフトペダル）取付け	1	M 6 ×1.0	10（1.0）	ネジロック塗布

JC222001

クランクケース締付順序



▲注　意

M6のボルトは長さが 2 種類あるので間違えないように組付ける。

ℓ =30㎜（緑色） ⑦ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮

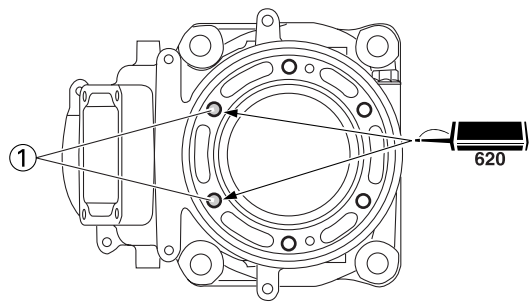
※印：ℓ =35㎜（銀色） ⑧ ⑨ ⑫

要　　点

全てのボルトを軽く仮締めした後、番号順に従い2回に分けて規定のトルクで締付ける。

- 1回目　①～⑥（M8）11Nm(1.1kg･m)
  ⑦～⑮（M6）6Nm(0.6kg･m)
- 2回目　①～⑥（M8）26Nm(2.6kg･m)
  ⑦～⑮（M6）11Nm(1.1kg･m)

シリンダヘッド締付スタッドボルトについて



要　　点

- スタッドボルトをシリンダに組付ける際、排気ポート側2本のスタッドボルト①のみネジロックを塗布して締付ける。
- ネジロック剤が、Y.P.V.S.バルブ孔およびシリンダヘッド合面にはみ出さないようにする。

JC223001

電装

〔単位：Nm（　）内はkg･m〕

締　付　箇　所	個数	ネジ径×ピッチ	締付トルク	備　考
C.D.Iステータ取付け	2	M 6 ×1.0	7（0.7）	
C.D.Iロータ取付け	1	M12×1.25	53（5.3）	
C.D.Iユニット取付け	2	M 6 ×1.0	8（0.8）	
サーボモータプーリ締付け	1	M 5 ×0.8	8（0.8）	ネジロック塗布､トルクススクリュ
サーボモータ取付け	2	M 6 ×1.0	7（0.7）	
レクチファイヤレギュレタ取付け	2	M 6 ×1.0	7（0.7）	
フュエルポンプとブラケット	1	M 5 ×0.8	5（0.5）	

締付トルク一覧表

JC224022

車体

〔単位：Nm（　）内はkg･m〕

	締　付　箇　所	個数	ネジ径×ピッチ	締付トルク	備　考
△	ハンドルクラウンとアウタチューブ	2	M 8 ×1.25	20（2.0）	
△	アンダブラケットとアウタチューブ	4	M 8 ×1.25	23（2.3）	
△	ハンドルクラウンとステアリングシャフト	1	M22×1.0	80（8.0）	
△	ハンドルとアウタチューブ	4	M 6 ×1.0	7（0.7）	
	ステアリングシャフトとリングナット	1	M25×1.0	1（0.1）	**要　点**　参照
	ハンドルシミーダンパとフレーム	1	M 8 ×1.25	23（2.3）	
	ハンドルシミーダンパとダンパブラケット	1	M 6 ×1.0	5（0.5）	
△	ハンドルシミーダンパステーとアウタチューブ	1	M 6 ×1.0	10（1.0）	
	ハンドルシミーダンパ前側取付ボルト	1	M 8 ×1.25	23（2.3）	
	ハンドルシミーダンパ前側取付ナット	1	M 8 ×1.25	23（2.3）	
	ステアリングストッパボルトとロックナット	2	M 6 ×1.0	11（1.1）	
	フュエルタンクフィッティングボルトとロックナット	1	M 8 ×1.25	20（2.0）	
	クラッチレバーホルダ	2	M 5 ×0.8	5（0.5）	
△	フロントマスタシリンダとマスタシリンダブラケット	2	M 6 ×1.0	8（0.8）	
	フロントブレーキリザーバタンクとステー	1	M 6 ×1.0	5（0.5）	
	ブレーキレバー取付ボルト	1	M 6 ×1.0	1（0.1）	
	ブレーキレバー取付ナット	1	M 6 ×1.0	6（0.6）	
	メインスイッチとハンドル	2	M 4 ×0.7	2（0.2）	
	フロントフォークとキャップボルト	2	M44×1.0	23（2.3）	
	フロントフォークとダンパロッド	2	M12×1.25	40（4.0）	ネジロック塗布
	キャップボルトとダンパロッド（フロントフォーク）	2	M12×1.25	29（2.9）	
	フロントフォークとフロントフェンダ	4	M 6 ×1.0	8（0.8）	
	ブレーキホースホルダとリヤアーム	2	M 6 ×1.0	8（0.8）	
△	ブレーキホース（前後）とユニオンボルト（マスタシリンダ）	各1	M10×1.25	30（3.0）	
△	ブレーキホース（前後）とアダプタ（ロック部）	前2 後1	M10×1.25	14（1.4）	
△	ブレーキキャリパ（前後）とアダプタ（ロック部）	前2 後1	M10×1.25	34（3.4）	
△	フロントブレーキキャリパとフロントフォーク	4	M10×1.25	35（3.5）	
△	フロントマスタシリンダとブリードスクリュ	1	M 8 ×1.25	6（0.6）	
△	ブレーキキャリパ（前後）とパッドピン	前2 後1	M10×1.25	18（1.8）	
△	ブレーキキャリパ（前後）とブリードスクリュ	各2	M 8 ×1.25	6（0.6）	
△	フロントホイールアクスルとアクスルナット	1	M18×1.5	80（8.0）	
	フロントフォークアクスルホルダ締付け	4	M 6 ×1.0	11（1.1）	
△	フロントブレーキディスクとホイール	12	M 8 ×1.25	20（2.0）	ネジロック塗布
△	フートレストブラケットとフレーム	4	M 8 ×1.25	20（2.0）	
	フートレストブラケットとプレート（左右）	4	M 5 ×0.8	8（0.8）	ネジロック塗布
△	フートレストとフートレストブラケット	2	M 6 ×1.0	10（1.0）	
△	ブレーキペダルとリヤマスタシリンダ	1	M 6 ×1.0	12（1.2）	
△	リヤマスタシリンダとフートレストブラケット	2	M 8 ×1.25	20（2.0）	
	リヤマスタシリンダとリザーバコネクタ	1	M 4 ×0.7	2（0.2）	
	リヤブレーキリザーバタンクとリヤフレーム取付ボルト	1	M 6 ×1.0	7（0.7）	
△	リヤブレーキキャリパとキャリパブラケット	2	M8×1.25	23（2.3）	
△	リヤホイールアクスルとアクスルナット	1	M18×1.5	80（8.0）	
△	ドリブンスプロケットとダンパ	5	M8×1.25	32（3.2）	

要　点

1. ステアリングナットホルダを使用して46Nm（4.6kg･m）のトルクで締付けた後、リングナットをゆるめる。
2. 再びステアリングナットホルダを使用して1Nm（0.1kg･m）のトルクで締付ける。

締付トルク一覧表

サービス
データ

〔単位：Nm（　）内はkg·m〕

	締　付　箇　所	個数	ネジ径×ピッチ	締付トルク	備　考
△	リヤブレーキディスクとホイール	3	M 8 ×1.25	28（2.8）	ネジロック塗布
	チェンプラーアジャストボルトとロックナット	2	M8×1.25	16（1.6）	
	チェンプラーアジャストボルト	2	M8×1.25	2（0.2）	
△	エンジン上側取付ボルト	1	M10×1.25	30（3.0）	
△	エンジン下側取付ボルト	1	M10×1.25	30（3.0）	
△	エンジンブラケットとフレーム	2	M10×1.25	30（3.0）	
△	エンジンブラケットとエンジン	4	M8×1.25	23（2.3）	
△	エンジン取付カラー締付ボルト	2	M 6 ×1.0	11（1.1）	
	エンジン取付アジャストボルト	2	M16×1.0	8（0.8）	
	タンクレールドレンボルト	2	M 6 ×1.0	9（0.9）	
	ピボットアジャストボルト	1	M25×1.0	5（0.5）	
△	ピボットシャフトとナット	1	M18×1.5	115（11.5）	
△	リレーアームとフレーム	1	M10×1.25	34（3.4）	
△	リレーアームとコネクティングロッド	1	M10×1.25	34（3.4）	
△	コネクティングロッドとリヤアーム	1	M10×1.25	34（3.4）	
△	リヤクッションとアッパブラケット	1	M10×1.25	34（3.4）	
△	リヤクッションとリレーアーム	1	M10×1.25	34（3.4）	
	シールガードとリヤアーム	4	M 6 ×1.0	8（0.8）	ネジロック塗布
	リヤアームとフック	2	M 6 ×1.0	10（1.0）	
	リヤアームとチェンガード	2	M 6 ×1.0	8（0.8）	ネジロック塗布
	リヤクッションアジャスタ（初期荷重用）とロックナット	1	M52×1.5	20（2.0）	
△	リヤクッションアジャスタ（車高用）とロックナット	1	M22×1.0	38（3.8）	
△	リヤクッションアジャスタとアッパブラケット	1	M10×1.25	40（4.0）	
	ラジエタステーとフレーム	1	M 6 ×1.0	8（0.8）	
	カウリングステーブラケットとフレーム	2	M 6 ×1.0	8（0.8）	
	カウリングステーとカウリングステーブラケット	2	M 6 ×1.0	8（0.8）	
	カウリングステーとタコメータ	4	－	0.3（0.03）	
	カウリングステー（左右）とフレーム	2	M 6 ×1.0	8（0.8）	
	アッパカウリングとウインドシールド	8	M 4 ×0.7	4（0.4）	
△	フュエルタンクとフュエルコック	2	M 6 ×1.0	7（0.7）	
	シートとリヤフレーム	4	M 6 ×1.0	8（0.8）	
△	リヤフレームとフレーム	4	M 6 ×1.0	11（1.1）	

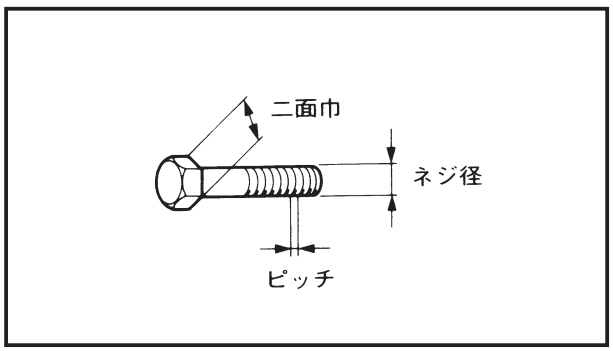
要　　点

△印はならし走行後および1レース毎に締付トルクチェック、増締めを行う。

JC225002

標準締付トルク

締付トルク指定箇所以外のボルト、ナットの締付トルクはナット2面巾、ボルトの太さにより締付トルクを決め締付けます。



ネジ径(二面巾)×ピッチ	締 付 ト ル ク
M 5 (8 ㎜) × 0.8	3 ～ 4 N·m(0.3 ～ 0.4 kg·m)
M 6 (10 ㎜) × 1.0	5 ～ 8 N·m(0.5 ～ 0.8 kg·m)
M 8 (12 ㎜) × 1.25	12 ～ 19 N·m(1.2 ～ 1.9 kg·m)
M 10 (14 ㎜) × 1.25	24 ～ 39 N·m(2.4 ～ 3.9 kg·m)
M 12 (17 ㎜) × 1.5	45 ～ 72 N·m(4.5 ～ 7.2 kg·m)

JC230001
オイル、グリース、シール剤塗布箇所

JC231000
エンジン

オイル、グリース、シール剤塗布箇所	オイル、グリース、シール剤の種類
すべてのオイルシールリップ部	ヤマハグリースB
すべてのO－リング	ヤマハグリースB
Y.P.V.S.バルブ軸受ベアリング	カストロールR30
Y.P.V.S.バルブホルダ外周部	ヤマハグリースB
プッシュロッド両端面およびアジャストスクリュ先端（ボール側）	ヤマハグリースB
プッシュアクスルベアリングおよびプッシュアクスル先端軸受部	ヤマハグリースB
クランクシャフトベアリング	混合用オイル
コネクティングロッド大端、小端ベアリングおよびコネクティングロッド大端ワッシャ	混合用オイル
ピストン、ピストンリングおよびピストンピン外周面	混合用オイル
シリンダ内周面	混合用オイル
クランクシャフトオイルシール外周面	カストロールR30
メインアクスルおよびドライブアクスルベアリング	カストロールR30
バランサシャフトベアリング	カストロールR30
インペラシャフト軸受部	カストロールR30
オイルポンプアウタロータ内周および外周面	カストロールR30
クランクケース上、下合面	スリーボンド1207B
クランクケース3取付ボルト座面およびネジ部	カストロールR30
シフトフォークガイドバーおよびシフトフォーク軸受部	カストロールR30
シフトカム軸受部	カストロールR30
シフトシャフト軸受部	カストロールR30
シフトレバー軸受部およびローラ内、外周面	カストロールR30
ポールピン摺動部	カストロールR30
シフトカムベアリング	カストロールR30
トランスミッション摺動ギヤ内周および両端面	ヤマハ二硫化モリブデンオイル
トランスミッション遊動ギヤ内周面	ヤマハ二硫化モリブデンオイル

オイル、グリース、シール剤塗布箇所

JC232000

車体

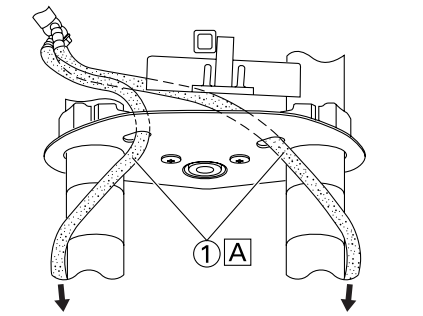
オイル、グリース、シール剤塗布箇所	オイル、グリース、シール剤の種類
ヘッドパイプ上下ベアリングテーパローラ部	ヤマハグリースB
ブレーキペダルボス内周面	ヤマハグリースB
シフトペダルボス内周面	ヤマハグリースB
スロットルケーブルエンド挿入孔、チューブガイドケーブル巻取り部およびスロットルグリップ摺動面	ヤマハグリースB
ブレーキキャリパピストン	シリコングリースG30M
ブレーキレバーとマスタシリンダの接触面	シリコングリースG30M
ブレーキレバー取付ボルト外周面およびレバー摺動面	シリコングリースG30M
クラッチレバー取付ボルト外周面およびレバー摺動面	ヤマハグリースB
クラッチレバーケーブルエンド挿入孔およびレバー摺動面	ヤマハグリースB
スタータケーブルエンド挿入孔およびレバー摺動面	ヤマハグリースB
フロントホイールアクスル外周面およびネジ部	ヤマハグリースB
リヤホイールアクスル外周面およびネジ部	ヤマハグリースB
ステアリングナットのネジ部	ヤマハグリースB
リヤアームピボットシャフト外周面	ヤマハ二硫化モリブデングリース
リレーアームベアリング内周面およびオイルシール部	ヤマハ二硫化モリブデングリース
リレーアーム、コネクティングロッドおよびリヤクッション取付ボルト外周面	ヤマハ二硫化モリブデングリース
リヤアームピボット部スラストベアリング	ヤマハ二硫化モリブデングリース
リヤアームピボット部ニードルベアリング	ヤマハ二硫化モリブデングリース
リヤマスタシリンダプッシュロッド先端	シリコングリースG30M
ドリブンスプロケットのダンパ外周面	ヤマハグリースB
ドリブンスプロケット、シムおよびクラッチハブ接触面	ヤマハグリースB

JC240000

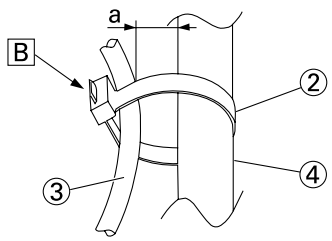
ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

①ブレーキホース
②クランプ
③ケーブル類
④フレーム類
⑤ラジエタブリーザパイプ
⑥Y.P.V.S.ケーブル1、2（右気筒）
⑦イグニッションコイルリード線
⑧スタータケーブル
⑨ソレノイドバルブリード線
⑩フュエルパイプ
⑪クラッチケーブル
⑫フュエルポンプリード線
⑬スロットルケーブル
⑭ミッションオイルブリーザパイプ

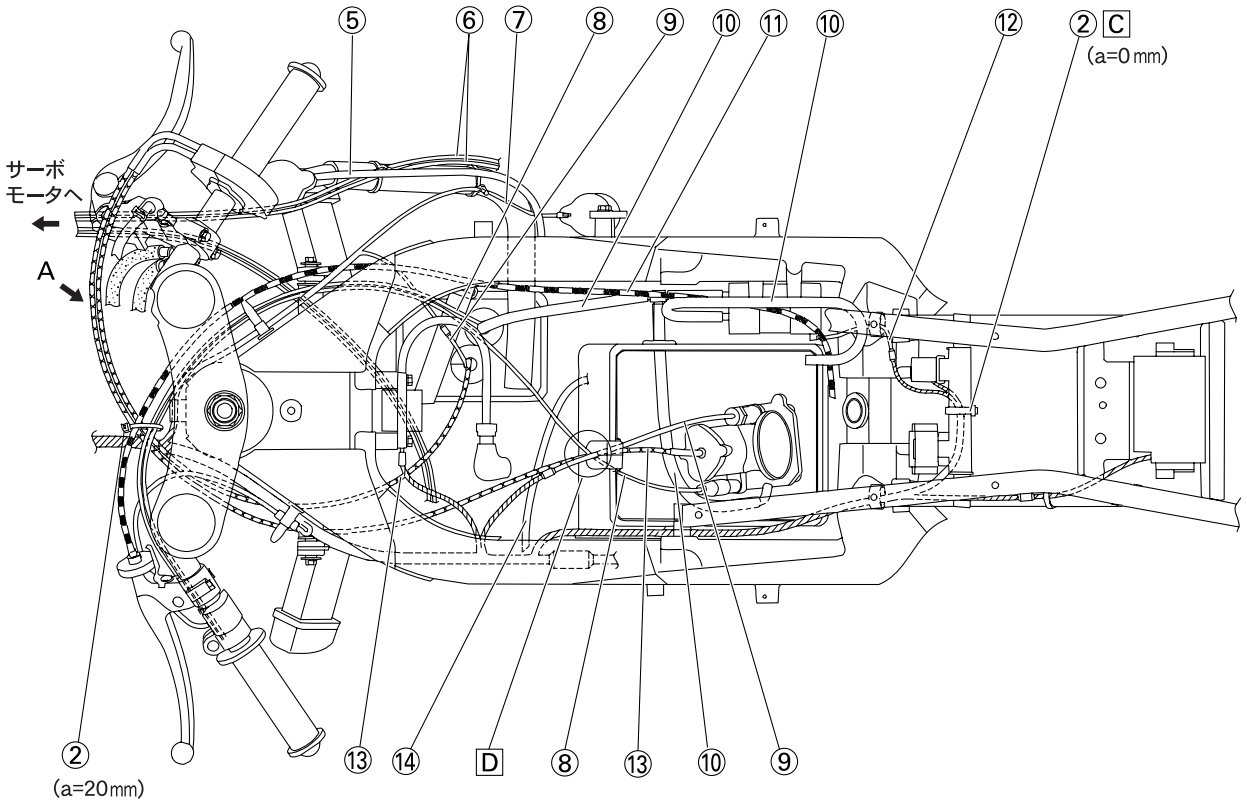
A ブレーキホースをインナフェンダの孔へ通す。
B クランプ先端は5㎜以下にカットする。
C クランプの開口部を後向きにして組付ける。
D ケーブルの通しは下側よりスタータケーブル、スロットルケーブル、ソレノイドバルブリード線の順に通す。



A



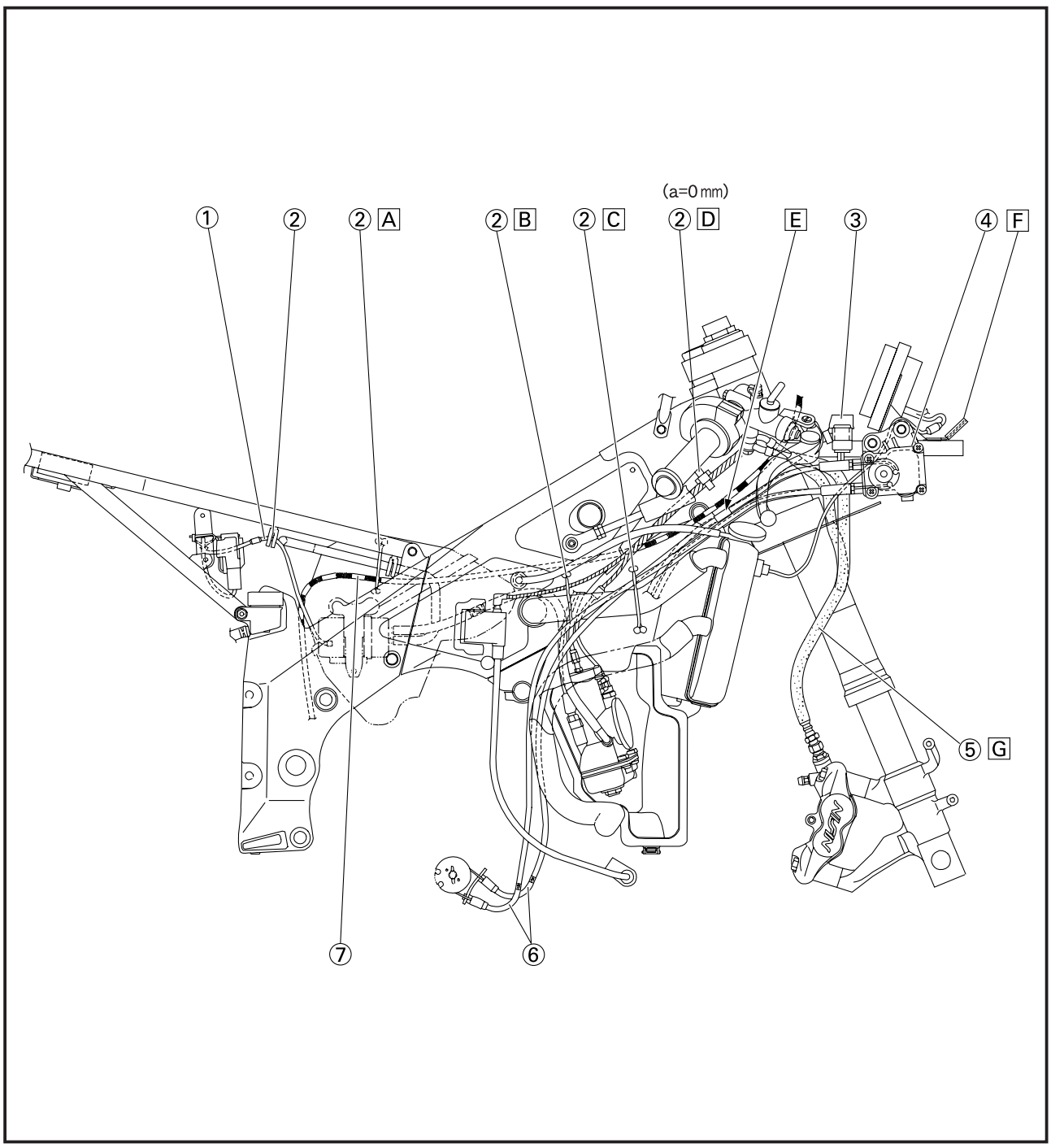
a寸法詳細



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

①フュエルポンプリード線
②クランプ
③ヒューズホルダ
④サーボモータ
⑤フロントブレーキホース右
⑥Y.P.V.S.ケーブル1、2（右気筒）
⑦クラッチケーブル

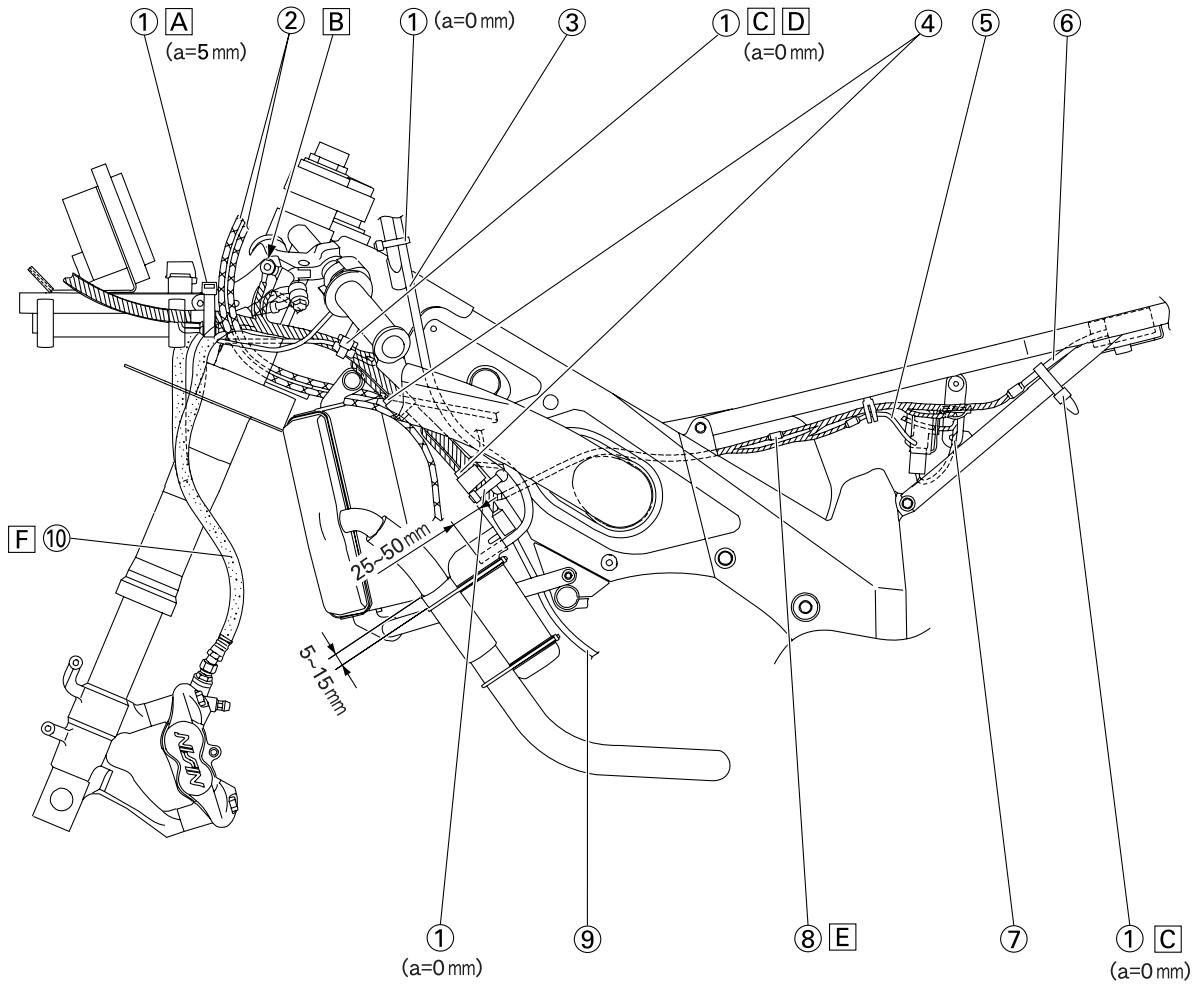
A フュエルパイプとクラッチケーブルをクランプする。クランプの上側の開口部をシートレールの内側にする。
B ラジエタホース3とイグニッションコイルリード線をクランプする。
C ラジエタホース3と右気筒Y.P.V.S.バルブケーブルをクランプする。
D クランプの先端は切らない。
E Y.P.V.S.バルブケーブルはパイプマークが付いたケーブルをサーボモータ上側（開側）にセットし、パイプマークが無いケーブルを下側（閉側）にセットする。また、左気筒用（銀色ケーブル）をサーボモータ内側にセットし右気筒用（黒色ケーブル）を外側にセットする。
F カバーの端面をメータステーの端面に合せる。
G ブレーキホースのねじれが無いように通すこと。



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

①クランプ
②スロットルケーブル
③フュエルタンクブリーザパイプ
④スピードシフト用端子
⑤フュエルポンプストップスイッチリード線
⑥バッテリリード線
⑦フュエルポンプリレーリード線
⑧電源カプラ
⑨C.D.Iマグネトリード線
⑩フロントブレーキホース左

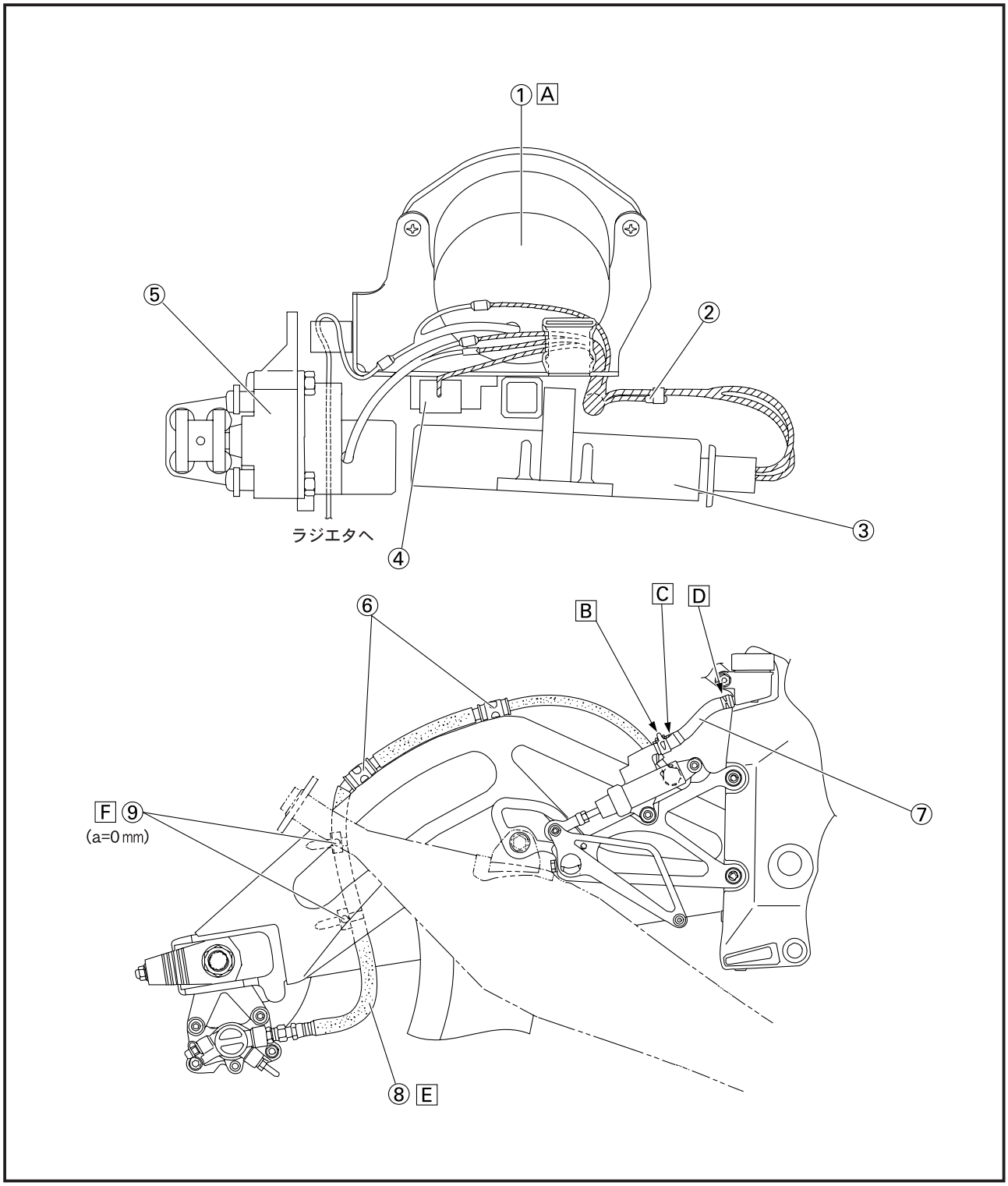
Ⓐワイヤハーネスの位置決めテープをカウリングステー取付ボルトに合せボルトの下側でワイヤハーネスをヒューズリード線カプラと共にクランプする。
Ⓑ1次線アースはカウリングステーブラケット上側取付ボルトに共締めする。
Ⓒクランプの先端は切らない。
Ⓓメインスイッチリード線は、コネクタ部をワイヤハーネスと共にクランプする。
Ⓔ走行、点検などで電装パーツを作動させる時以外は、カプラを切り離しておく。
Ⓕブレーキホースのねじれが無いように通すこと。



ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図

①タコメータA'ssy
②スピードシフト用端子
③C.D.Iユニット
④レクチファイヤレギュレタ
⑤サーボモータ
⑥ブレーキホースホルダ
⑦リザーバホース
⑧リヤブレーキホース
⑨クランプ

A メータパネルの文字が垂直になるように組付ける。
B クランプのつかみ部は車体外側に向けないこと。
C リザーバホースはペイントを上側にして組付ける。
D クランプのつかみ部を車体内側にして組付ける。
E ブレーキホースのねじれが無いように通すこと。
F クランプ先端は切らない。



JC300000
点検・調整編

JC310073
点検・交換一覧表

▲注　意

ならし走行後および1レース走行前には、“トルクチェックポイント”に示されている箇所の締付トルクチェック、増締めを必ず行うこと。
（第1章―トルクチェックポイントの項目参照）

要　　点

交換時期は、走行条件により早くなる場合がある。

	項　　目	ならし走行後	走行毎	500km走行毎	1000km走行毎	必　要に応じ	備　　考
エンジン	ピストン						
	点検	○	○				亀裂の点検
	洗浄	○	○				
	交換			○		○	交換時はピストンピン、小端ベアリングとピストンリングをセットで交換
	ピストンピン、小端ベアリング						摩耗の点検
	点検	○	○				変色の点検
	交換			○		○	交換時はピストンとピストンリングをセットで交換
	ピストンリング						
	点検	○	○				
	交換			○		○	交換時はピストン、ピストンピンと小端ベアリングをセットで交換
	シリンダヘッド						ウォータジャケットの腐食の点検
	点検	○	○				歪みの点検
	洗浄	○	○				カーボンの清掃
	増締め	○	○				締付トルクチェック
	シリンダ						
	点検	○	○				傷の点検、摩耗の点検
	洗浄	○	○				レゾネータの洗浄
	交換				○(3000km)	○	
	増締め	○	○				締付トルクチェック
	Y.P.V.S.						
	ｶﾊﾞｰ、ﾌﾟｰﾘ、ﾊﾞﾙﾌﾞﾎﾙﾀﾞ、ｹｰﾌﾞﾙｽﾃｰ増締め	○	○				締付トルクチェック
	バルブ連結ボルト分解、締付け				○(1500km)		
	バルブ作動点検	○	○				
	バルブ交換					○	傷の点検、摩擦の点検
	クラッチ						ハウジングの点検
	調整	○	○				クラッチスプリングの点検
	点検	○	○				フリクションプレートの点検
	交換					○	クラッチプレートの点検

	項　　目	ならし走行後	走行毎	500km走行毎	1000km走行毎	必　要に応じ	備　　考
エンジン	トランスミッション						
	オイル交換	○		○			オイル量
	点検					○	定期交換時　0.5L（500cm³）
	ベアリング交換					○	オーバーホール時　0.5L（500cm³）
	シフトカム、フォーク、ガイドバー						
	点検					○	摩耗の点検
	ロータナット						
	増締め				○		締付トルクチェック
	マフラ						
	点検	○	○				排気漏れの点検
	清掃					○	亀裂の点検
	交換					○	
	クランク						
	点検／清掃					○	
	交換				○（1500km）	○	
	キャブレタ						
	点検／調整	○	○				
	洗浄	○	○				
	スパークプラグ						
	点検／清掃	○	○				
	交換					○	標準プラグ　R6179A-105P
	プラグキャップ						
	交換				○（1500km）	○	
	冷却装置						
	水量、水漏れの点検	○	○				
	ラジエタキャップの機能					○	ラジエタキャップテスタで点検
	ラジエタキャップの装着状態	○	○				
	冷却水の交換					○	水道の水（飲料水）
	冷却水ホースの点検					○	
	外観のナット、ボルト						
	増締め	○	○				締付トルクチェック
	オイルポンプ						
	オイルストレーナの清掃	○		○			
	リードバルブ						
	点検	○	○				
	交換					○	
車体	フレーム						
	清掃／点検	○	○				
	フュエルタンク、フュエルコック						
	清掃／点検	○	○				フィルタのゴミづまり

	項　　目	ならし走行後	走行毎	500km走行毎	1000km走行毎	必　要に応じ	備　　考
車体	フロントフォーク						
	点検	○	○				
	オイル交換				○		
	シール交換					○	
	リヤクッション						
	給脂					○	(雨天走行後) ピロボール部、ベアリング部
	点検／調整	○	○				
	増締め	○	○				締付トルクチェック
	ステアリング						
	がた、増締め点検	○	○				締付トルクチェック
	洗浄／給脂				○		
	ベアリング交換					○	
	リヤアーム、リレーアーム、コネクティングロッド						
	点検／増締め	○	○				締付トルクチェック
	シールガード						
	交換					○	
	ブレーキ						
	レバー握り幅、ペダル取付け高さの調整	○	○				ブレーキ液漏れ、エア混入
	ディスク取付ボルト増締め	○				○	締付トルクチェック
	ブレーキディスク表面状態	○	○				
	ディスクパッド摩耗点検	○	○				
	キャリパ取付ボルト増締め	○				○	締付トルクチェック
	ブレーキフルードの量	○	○				
	ブレーキフルード交換				○(2000km)	○	雨天走行後
	マスタシリンダ取付ボルト増締め	○				○	締付トルクチェック
	タイヤ、ホイール						
	空気圧／ホイールの振れ／摩耗	○	○				標準空気圧　200kPa（2.0kgf/㎠）
	オイルシール給油			○			振れ　縦　1.0㎜以内
	ベアリング点検	○	○				横　0.5㎜以内
	ベアリング交換					○	
	ドライブチェン						
	洗浄／給油	○	○				
	たわみ量の点検／調整	○	○				ドライブチェンたわみ量　55～65㎜
	交換				○		
	ドライブ、ドリブンスプロケット						
	交換					○	摩耗、歯の倒れ
	ドリブンスプロケットダンパ						
	点検／増締め	○	○				締付トルクチェック
	交換					○	切損、ヘタリ
	スロットルガイド						
	給油		○				

項　　目		ならし走行後	走行毎	500km走行毎	1000km走行毎	必　要に応じ	備　　考
車体	各ケーブル類						
	取回し（接続）	○	○				
	点検／給油	○	○				
	クラッチレバー						
	遊びの調整					○	
	外観のナット、ボルト						
	増締め	○	○				締付トルクチェック
電装	バッテリ						
	バッテリ電圧の点検	○	○				12.5V以上
	交換					○	

JC320001
走行前の点検整備

新車ならし走行および練習走行やレース走行の直前には、必ず整備状態の確認を行い万全を期してください。

JC321022
一般点検整備

項　目	点　　検	ページ
冷却水	ラジエタのキャップ口元まで入っているか。冷却系統に漏れはないか。	P3-8～11
燃料	新しい混合ガソリンが十分に入っているか。燃料系統に漏れはないか。	P1-8
ミッションオイル	規定量入っているか。クランクケースから漏れはないか。	P3-16
Y.P.V.S.	作動は正しいか。	P3-14～15
シフトおよびクラッチ作動	1段1段確実に入るか。クラッチの断続は良いか。	P3-11～12
スロットルグリップ	作動はスムーズか。	P3-12～13
ブレーキ	前後ブレーキの遊びと効き具合は良いか。ブレーキフルードの量は適性か。	P3-18～23
チェン	たわみ量は良いか。給油は十分か。	P3-24～26
タイヤ、ホイール	タイヤ空気圧は適性か。摩耗具合はどうか。振れはないか。	P3-36～37
ステアリング	作動はスムーズか。がたはないか。	P3-37～40
フロントフォーク、リヤクッション	作動は良いか。オイル漏れはないか。	P3-28～36
ケーブル類	クラッチ、スロットル等の作動はスムーズか。ハンドル操作時やフロントフォークの上下動時に引っ掛かりがないか。	P3-40
マフラ	取付け状態は良いか。亀裂はないか。	P3-17
スプロケット	ダンパのゆるみはないか。	P3-23
給油	車体各部の作動はスムーズか。	P3-42
各取付ボルト、ナット類	車体各部、エンジンマウント部等の各取付け部にゆるみはないか。からげ線必要箇所にからげ線をしてあるか。	P1-18
各配線コネクタ	C.D.Iマグネト、ユニット、イグニッションコイル、バッテリの接続は確実か。	P1-23
バッテリ	バッテリ電圧は十分か。	P3-45～47
カウリング	取付けは確実か。割れている所はないか。クッションした時に当る所はないか。ウィンドシールドは汚れていないか	P3-41
セッティング	走行当日のコース状況（コース路面、天候）および練習走行結果によってのセッティング調整や不具合点の点検整備は完全に済ませたか。	P7-1～23

※ 普段の点検整備を十分に実施し、レース場ではその確認と簡単なセッティング調整ぐらいにして、ゆとりを十分に持って、時間を有効に使うようにしてください。

JC330002
練習走行およびレース出場の整備

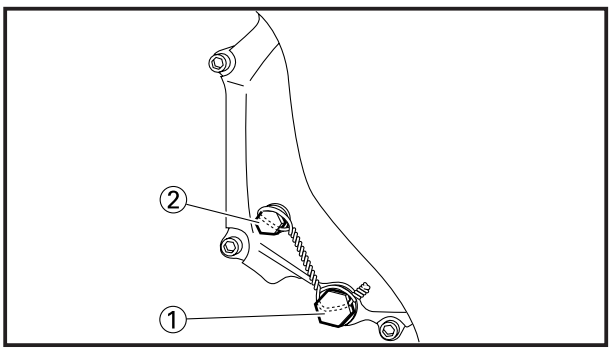
通常の練習走行の場合、走行回数または走行距離に応じて定期的にまたは必要に応じて十分な点検整備が必要です。さらにレース出場の場合は念入りな完全点検整備が必要となります。
“走行前の点検整備”および“ならし走行後の点検整備”の項目と共に、さらに下記項目についても十分に点検を行ない、調整、修正、交換の必要なものについて完全整備をしてください。

JC331013
主な点検整備項目

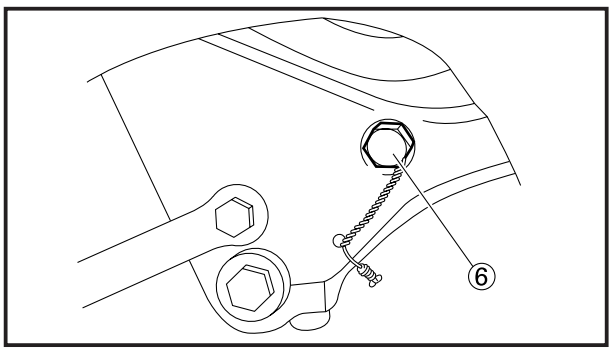
1. シリンダ、ピストン、ピストンリングの点検
   各部品の摩耗度を点検。ピストンクリアランスやリングの合口すき間測定。
2. コネクティングロッド、ピストンピン、小端ベアリングの点検
   コネクティングロッド縦方向のがた、大端ベアリングの変色や亀裂、ピストンピンの摩耗、変色、小端ベアリングの変色や亀裂等の点検。
3. クラッチの点検
   フリクションプレート、クラッチプレートの摩耗、焼け、歪みの点検。スプリングのへたり、ハウジングの段付摩耗度点検。
4. スプロケット、チェンの点検
   ドライブスプロケット、ドリブンスプロケットの摩耗点検。ダンパのゆるみ点検。ドライブチェンの摩耗、伸びの点検。
5. ブレーキの点検
   ブレーキディスク、ディスクパッドの摩耗点検。
6. タイヤの点検
   タイヤの摩耗点検。
7. バッテリの点検
   バッテリの電圧点検。
8. その他エンジンオーバーホールをした場合
   クランク廻り点検。ベアリング、オイルシールの摩耗点検。ミッション、シフター関係の摩耗点検。その他ウォーターポンプ、オイルポンプ、ケースのオイル通路等の点検。

JC340002
からげ線

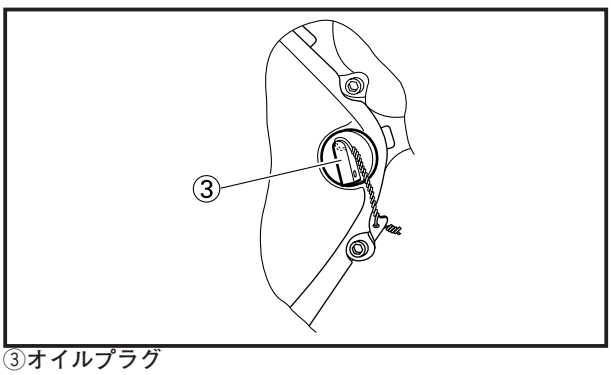
より安全に高速走行ができるように、重要箇所その他必要と思われるボルト・ナット等には、ゆるみ防止のためのからげ線を必ず行ってください。



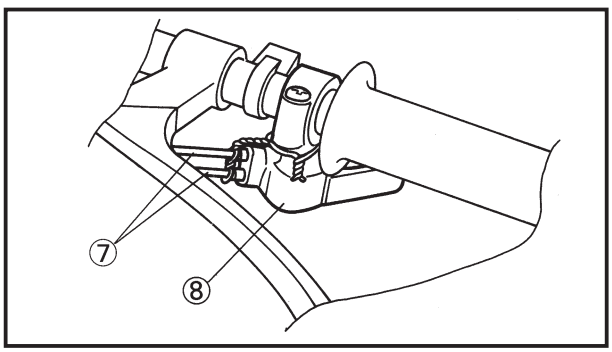
①オイルドレンボルト
②オイルチェックボルト



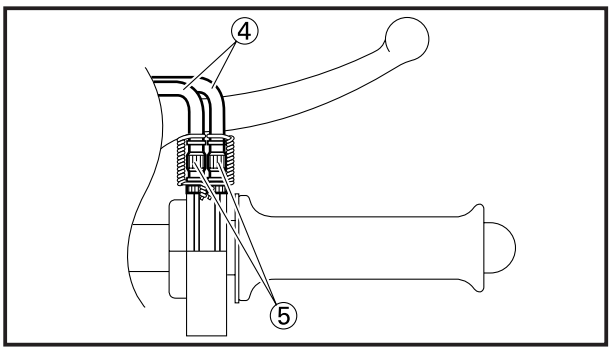
⑥タンクレールドレンボルト（左、右）



③オイルプラグ



⑦スタータケーブル
⑧チョークレバーホルダ

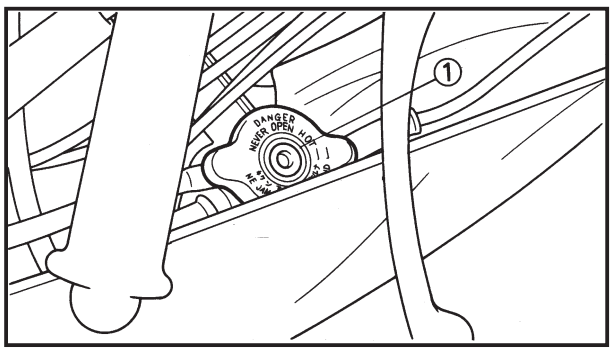


④スロットルケーブル
⑤スロットルケーブルアジャストボルト

JC350011
エンジン

⚠注　意

- **工場出荷時は防錆上、クーラントを使用しています。走行時には必ず水道の水と交換すること。**
- **クーラントが車に付着したならば、すぐに水洗いをすること。**



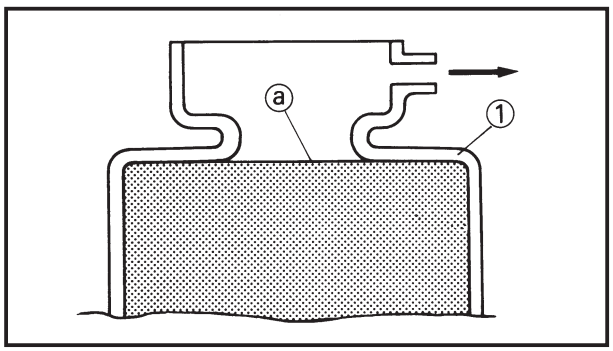
JC351031
冷却水量点検

⚠警　告

冷却水が高温と思われるときはラジエタキャップ①を取外さないこと。やむをえず取外す場合はラジエタキャップにウエス等をかぶせてゆっくり取外すこと。

⚠注　意

- **補充する水は水道の水を使用すること。**
- **硬水や塩分の含まれた天然水は使用しないこと。**



1. 車を平坦な場所に垂直に立てます。
2. 以下の部品を取外します。
- ラジエタキャップ
3. 以下の点検をします。
- 冷却水量

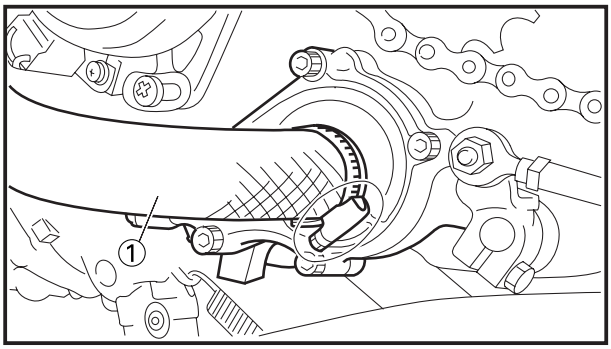
  アッパレベルⓐ以下　→　アッパレベルまで水道水を補給

  ①ラジエタ

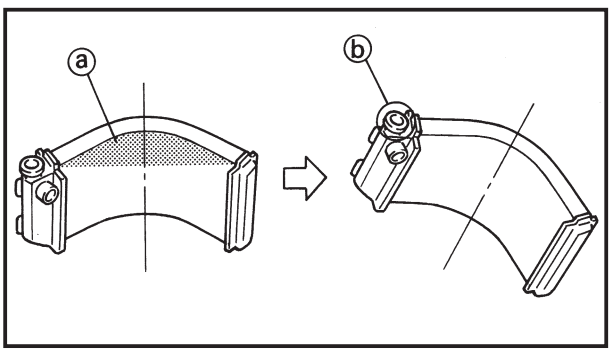
JC353053
冷却水の交換

⚠警　告

冷却水の交換はエンジンが冷えてから行うこと。



1. カウリングを取外します。
2. エンジン下部に受皿を置きます。
3. 以下の部品を取外します。
- ラジエタホース2①
  ラジエタホース2をウォータポンプ側で取外します。
4. 以下の部品を取外します。
- ラジエタキャップ
  ラジエタキャップをゆっくりとゆるめ、冷却水を抜き出します。
5. 冷却水が完全に抜けたら水道の水を入れラジエタ内を洗浄します。
6. 以下の部品を組付けます。
- ラジエタホース2　2Nm(0.2kg･m)
7. 冷却水を注入します。
  ラジエタのアッパレベルまで冷却水を注入します。



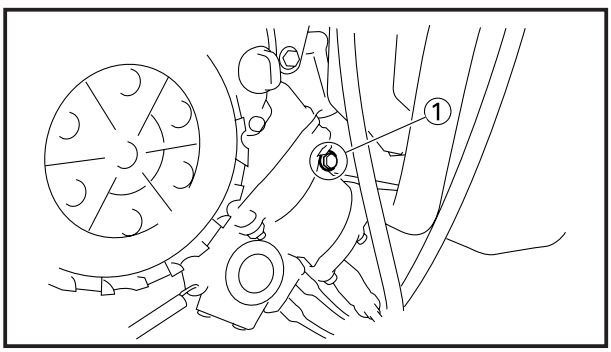
	冷却水注入量 1.4L (1400㎤)

要　点

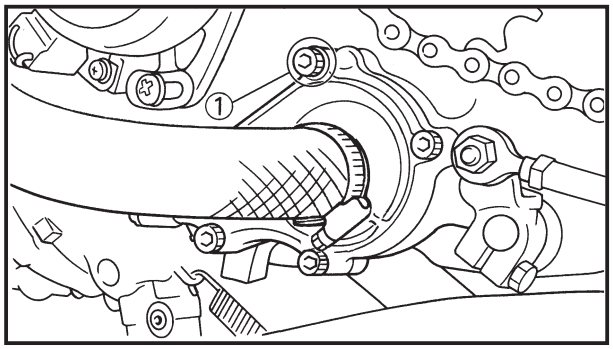
冷却水注入時、ラジエタ中央上部ⓐのエアが抜けにくいので注入口ⓑが一番高くなるように車体を傾けて注入する。

⚠注　意

冷却水は水道の水（飲料水）を使用すること。カルシウムやマグネシウムを多く含んだ天然水や塩分を含んだ海水は絶対に使用しないこと。



8. 以下の部品を取外します。
- 右気筒エア抜きボルト①
  エア抜きボルトを取外し、右気筒シリンダ冷却水通路内のエアを抜きます。
9. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ ***New***
- 右気筒エア抜きボルト　12Nm(1.2kg･m)



10. 以下の部品を取外します。
- ウォータポンプエア抜きボルト①
  エア抜きボルトを取外し、ウォータポンプ内のエアを抜きます。

11. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ **New**
- ウォータポンプエア抜きボルト

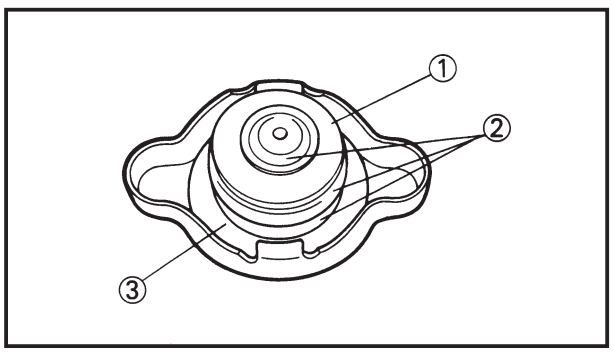
11Nm(1.1kg･m)

12. 冷却水を注入します。
  再度アッパレベルまで冷却水を注入します。

13. 以下の部品を組付けます。
- ラジエタキャップ
  ラジエタキャップを組付け、エンジン暖機運転後エンジンを止め、一旦冷やしてから再度アッパレベルまで冷却水を補充します。

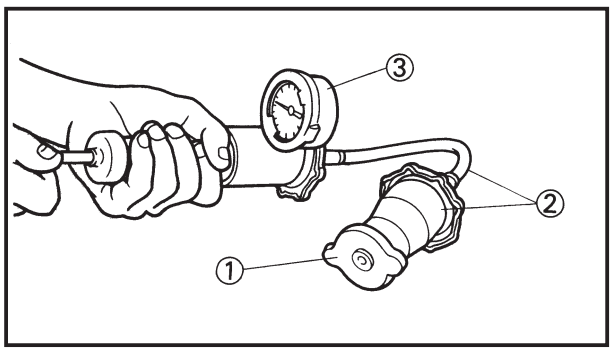
14. カウリングを組付けます。

JC355002
ラジエタキャップ点検



1. 以下の点検をします。
- パッキン①
- 弁および弁座②
  亀裂、変形、打痕→交換
- 弁と弁座間の水あか③
  水あか→清掃または交換

JC356000
ラジエタキャップ開弁圧点検



1. 以下の点検をします。
- ラジエタキャップ開弁圧
  ラジエタキャップ①にアダプタ②とラジエタキャップテスタ③を組付け、テスタを作動させ、標準圧力値内で5～10秒間保持できるか点検します。

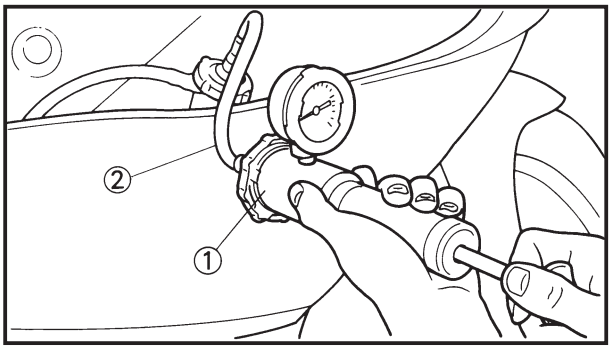
要　　点

テスタにキャップを取付けるときシール面に水を塗る。

	標準圧力値 95～125kPa（0.95～1.25kg/㎠）

保持しない→交換

	ラジエタキャップテスタ 90890-01325 アダプタ 90890-01352



JC357004
冷却水循環系統水漏れ点検

1. 以下の点検をします。
- 冷却水量

2. 以下の部品を組付けます。
- ラジエタキャップテスタ①
- アダプタ②

	ラジエタキャップテスタ 90890-01325 アダプタ 90890-01352

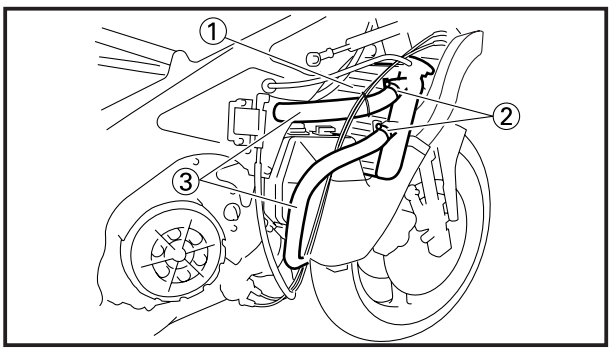
3. テスタを作動させテスト圧力をかけます。

	テスト圧力値 180kPa（1.8kg/㎠）

⚠注　意

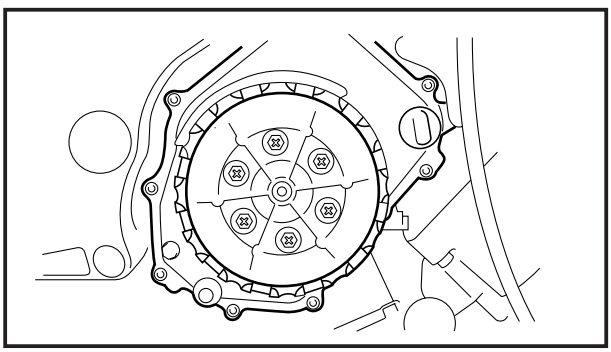
- **テスト圧力値を超える高圧力をかけないこと。**
- **シリンダヘッドガスケット交換後の点検は5～10分間暖機運転後に行うこと。**
- **冷却水は必ずアッパレベルまで入れて行うこと。**

4. 以下の点検をします。
- 圧力値
  テスト圧力値を5～10秒間保持しない→修正
- ラジエタ①
- 各ラジエタホース接続部②
  冷却水漏れ→修正または交換
- 各ラジエタホース③
  ふくらみ→交換



⚠警　告

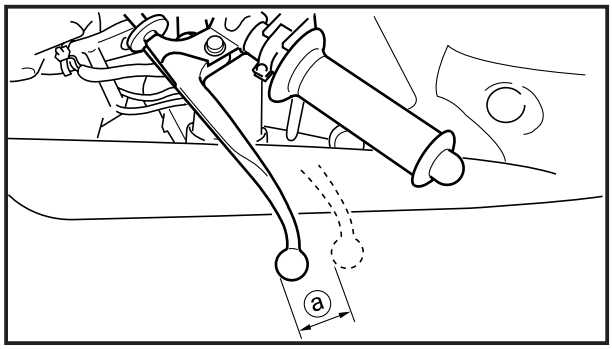
ラジエタキャップテスタを取外すとき冷却水が吹き出すので、ウエス等をかぶせて取外すこと。



JC358000
クラッチ取扱い

この車のクラッチは乾式クラッチを採用しています。

クラッチプレートおよびフリクションプレートの表面には絶対に油気を付着させないでください。油気が付着した場合には、交換またはシンナー等で十分に拭き取ってください。

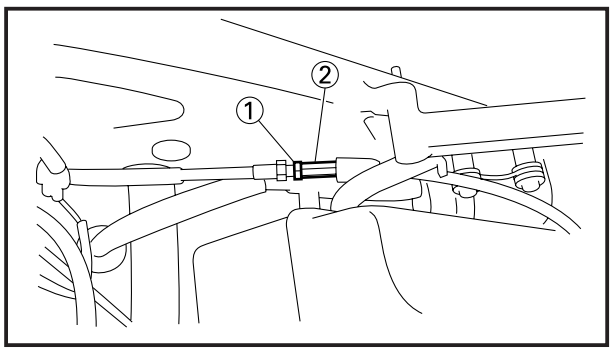


JC359001
クラッチ点検、調整

1. 以下の点検をします。
- クラッチレバー遊びⓐ

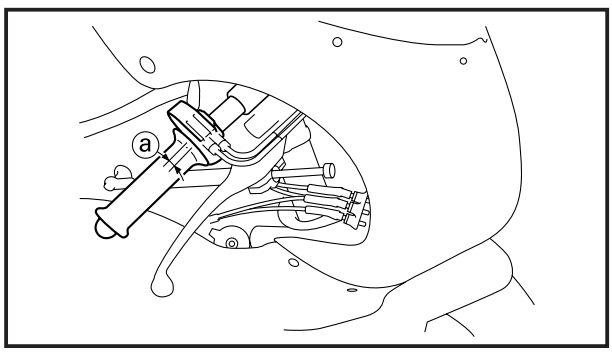
クラッチレバー遊び（先端部）	10～15㎜

規定値以外→調整



2. 以下の調整をします。
- クラッチレバー遊び
  ロックナット①をゆるめアジャスタ②で調整します。

要　　点
- 微調整はレバー側で行う。
- 調整後、クラッチの作用を確認する。



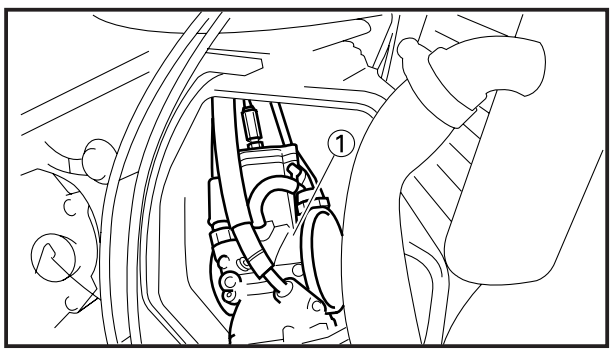
JC35A040
スロットルケーブル点検、調整

1. 以下の点検をします。
- スロットルグリップ遊びⓐ

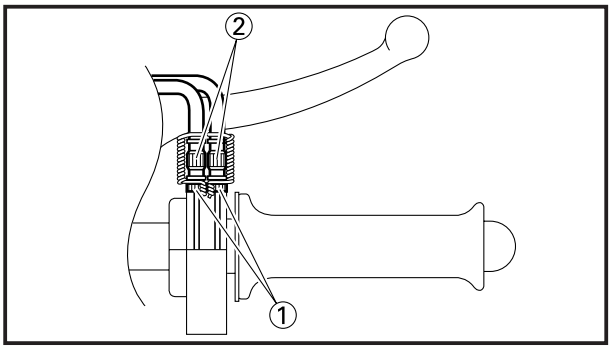
スロットルグリップツバ部外周遊び	2～4㎜

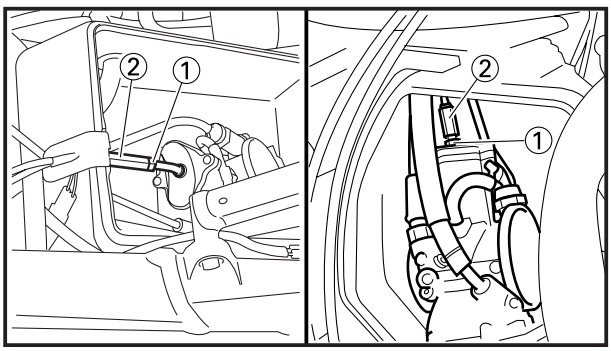
規定値以外→調整

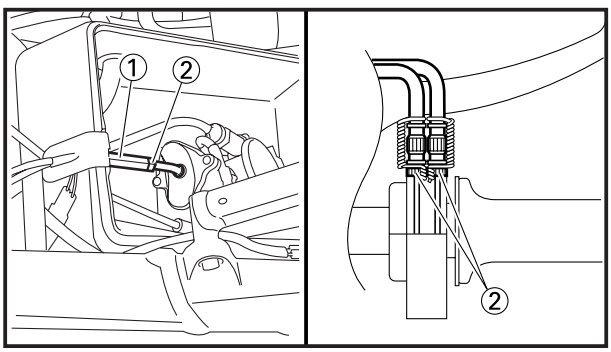
2. 以下の部品を取外します。
- アンダカウル
- フュエルタンク
- 右気筒インダクションガイド
- 左気筒インダクションキャップ

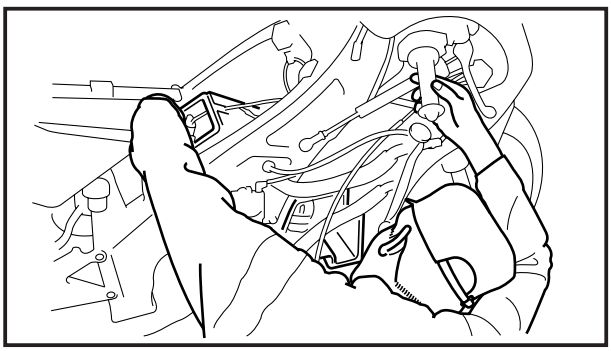


3. 右気筒キャブレタジョイントクランプをゆるめ、キャブレタ①を引き出します。









4. 以下の調整をします。
- スロットルグリップ遊び
  ロックナット①をゆるめアジャスタ②で調整します。

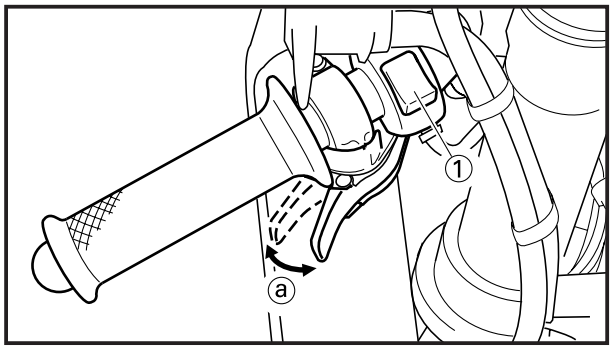
要　　点
- スロットルケーブルの取り回しが正しいか確認する。
- スロットルグリップを2～3回全開、全閉にして異状がないことを確認する。
- 左右キャブレタ側およびスロットルグリップ側のロックナットをゆるめ、アジャスタを一杯までネジ込み遊びを作る。
- 最初に右気筒キャブレタのアジャスタを調整して、スロットルグリップツバ部外周遊びを2～4㎜に調整し、ロックナットを確実に締付ける。

5. 以下の調整をします。
- スロットルバルブ同調
  スロットルグリップを開き始めた時、左右のキャブレタのスロットルバルブが同時に作動するように、左気筒キャブレタのスロットルケーブルのアジャスタ①で調整します。

要　　点
- 右気筒キャブレタを組付けた後、右気筒キャブレタを目視し、左気筒キャブレタのスロットルバルブを指で確認しながらスロットルグリップを動かして調整する。
- 調整後、スロットルグリップを全開、全閉にした時、左右キャブレタのスロットルバルブが全開、全閉の位置にあることを確認する。
- ロックナット②を確実に締付ける。
- スロットルグリップを2～3回全開、全閉にして異状がないことを確認する。
- 遊び量が規定値以内にあるか確認する。

⚠警　告

調整後、ハンドルを左右に切ってエンジンが吹き上がらないことを確認すること。



JC35B000

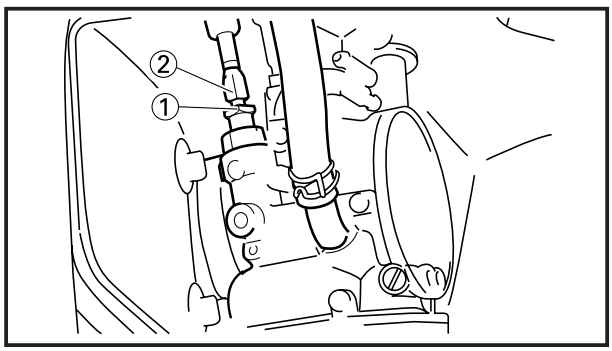
スタータケーブル点検、調整

1. 以下の点検をします。

● チョークレバー遊びⓐ

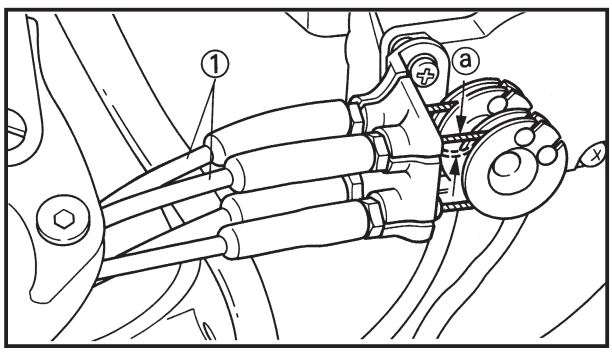
	チョークレバー遊び 5～10㎜

規定値以外→調整



2. 以下の調整をします。

● チョークレバー遊び
ロックナット①をゆるめアジャスタ②で調整します。



JC35D020

Y.P.V.S.開側バルブケーブル点検、調整

1. フュエルポンプが作動しないようにフュエルポンプのカプラを切離しておきます。
2. 以下の点検をします。

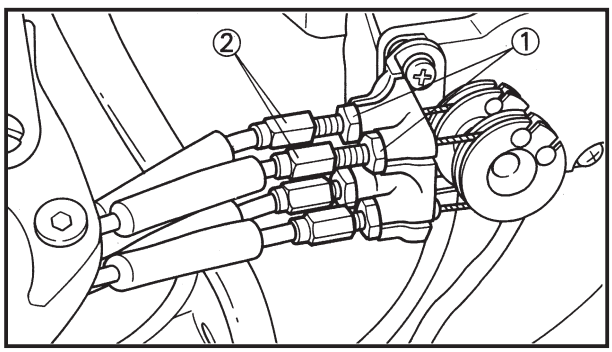
● Y.P.V.S.開側バルブケーブル遊びⓐ
メインスイッチを“RUN”にし、Y.P.V.S.バルブを全開の位置にして、開側バルブケーブル①の遊びを点検します。

	Y.P.V.S.開側バルブケーブル遊び 2～3㎜

規定値以外→調整

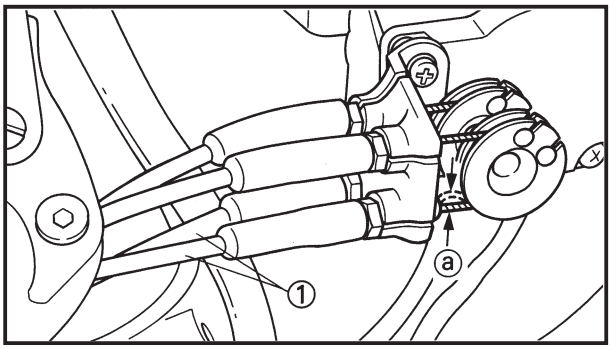
要　　点

バルブはメインスイッチを“RUN”にすると、約1秒間全閉位置となり、その後全開位置で保持される。



3. 以下の調整をします。

● Y.P.V.S.開側バルブケーブル遊び
バルブは全開位置で、開側バルブケーブルのロックナット①をゆるめ、アジャスタ②で調整します。



JC35E020

Y.P.V.S.閉側バルブケーブル点検、調整

1. フュエルポンプが作動しないようにフュエルポンプのカプラを切離しておきます。
2. 以下の点検をします。

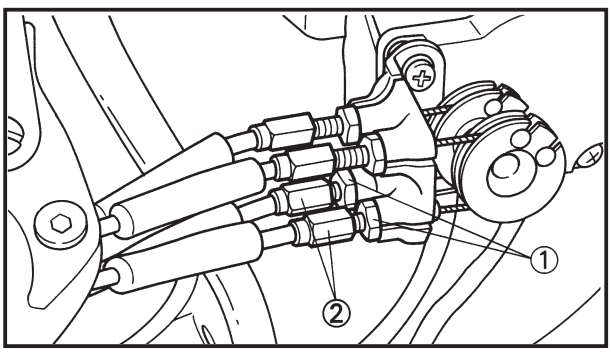
● Y.P.V.S.閉側バルブケーブル遊びⓐ
メインスイッチを“RUN”にし、Y.P.V.S.バルブを全閉の位置にして、閉側バルブケーブル①の遊びを点検します。

	Y.P.V.S.閉側バルブケーブル遊び 2～3㎜

規定値以外→調整

要　　点

メインスイッチを“RUN”にした後、バルブが全閉の位置で“OFF”にすれば、バルブは全閉位置となる。



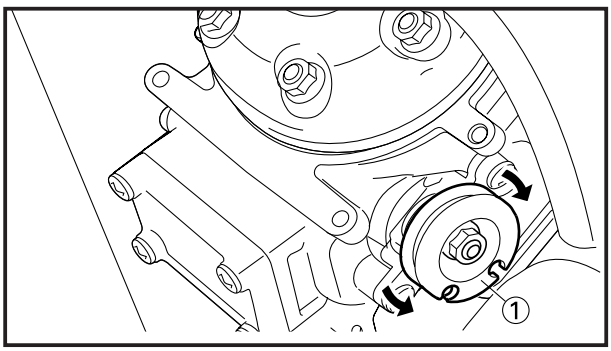
3. 以下の調整をします。

● Y.P.V.S.閉側バルブケーブル遊び
バルブは全閉位置で、閉側バルブケーブルのロックナット①をゆるめ、アジャスタ②で調整します。

Y.P.V.S.バルブ作動点検

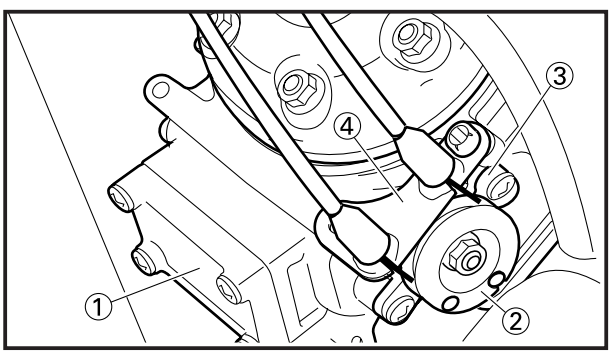
1. 以下の点検をします。

● バルブ作動
バルブケーブルを外し、バルブプーリ①を手で左右に回転させスムーズに作動するか点検します。
スムーズに動かない→分解して点検（第4章―シリンダヘッド、シリンダ、ピストン参照）



要　　点

バルブケーブルはケーブルステーを取外してから外す。



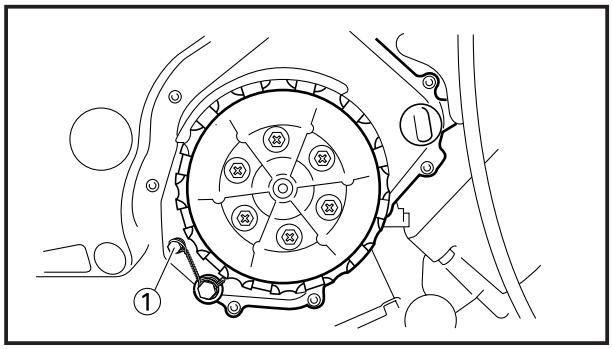
JC35F001

Y.P.V.S.増締め

1. 以下の部品を増締めします。

● カバー①	4Nm(0.4kg･m)
● バルブプーリ②	10Nm(1.0kg･m)
● バルブホルダ③	5Nm(0.5kg･m)
● ケーブルステー④	7Nm(0.7kg･m)

走行前に規定のトルクで締付けます。



JC35H001

ミッションオイル点検

1. エンジンを2～3分間アイドリング運転後、エンジンを止め、約5分間放置します。
2. 車を平坦な場所に垂直に立てます。
3. 以下の点検をします。

● ミッションオイル量

ミッションオイルチェックボルト①を外して点検します。

オイルが流れ出ない→流れ出るまでオイルを補充

	カストロールR30

4. 以下の部品を組付けます。

● ミッションオイルチェックボルト

9Nm(0.9kg・m)

JC35K023

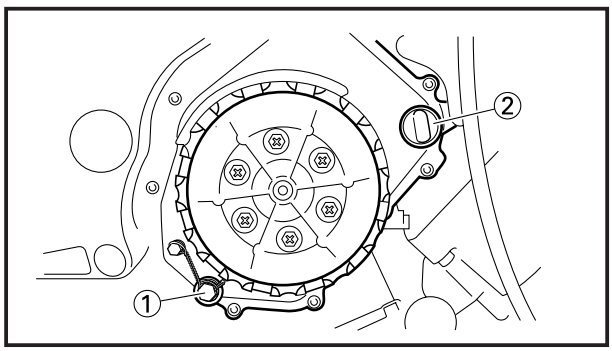
ミッションオイル交換

1. エンジンを2～3分間アイドリング運転後、エンジンを止め、約5分間放置します。
2. 車を平坦な場所に垂直に立てます。
3. エンジン下部に受皿を置きます。
4. 以下の部品を取外します。

● ドレンボルト①

● オイルプラグ②

ミッションオイルを抜きます。



5. 以下の部品を組付けます。

● プレートワッシャ ***New***

● ドレンボルト 23Nm(2.3kg・m)

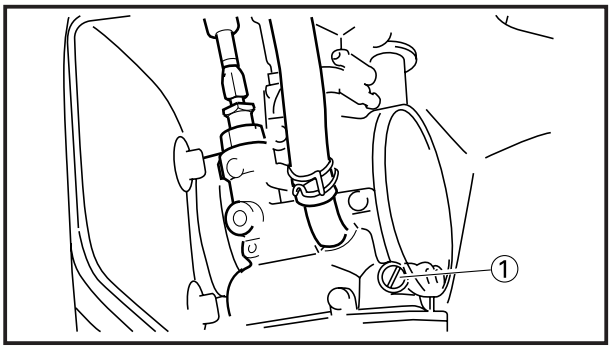
汚れを落して規定のトルクで締付け後、からげ線を確実に行います。

6. オイルプラグ孔よりオイルを規定量注入します。

	規定注入量（定期交換時） 0.5L（500cm³） 使用オイル カストロールR30

7. 規定量注入後、エンジンを始動してオイル漏れがないか点検します。

エンジンを止めて車を垂直に立て、オイル量を点検します。



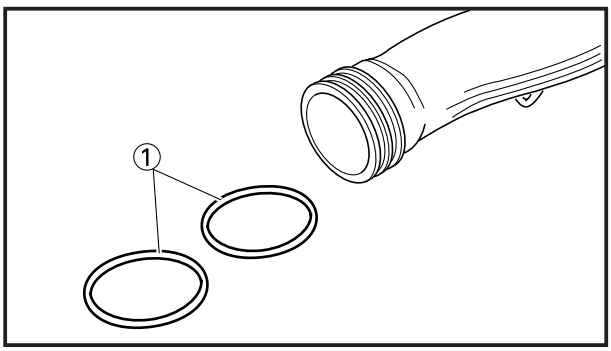
JC35L000
エアスクリュ調整

1. 以下の調整をします。

● エアスクリュ①

エアスクリュを軽く一杯に締込み標準戻し回転数だけ戻します。

エアスクリュ標準戻し回転数
1-1/2

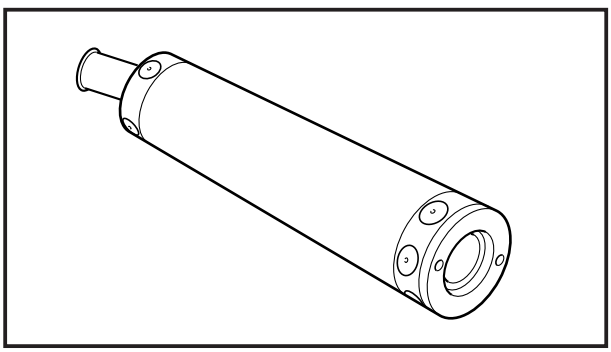


JC35P010
マフラ点検

1. 以下の点検をします。

● Oリング①

損傷、切れ→交換



JC35Q000
サイレンサ点検

1. 以下の点検をします。

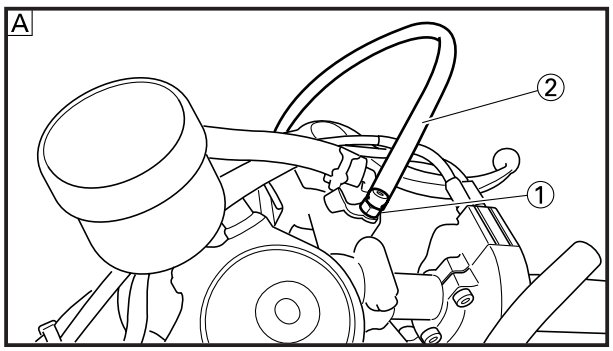
● サイレンサ

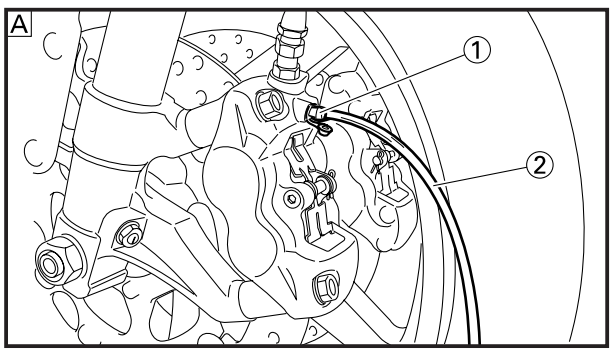
がたのあるもの→修正

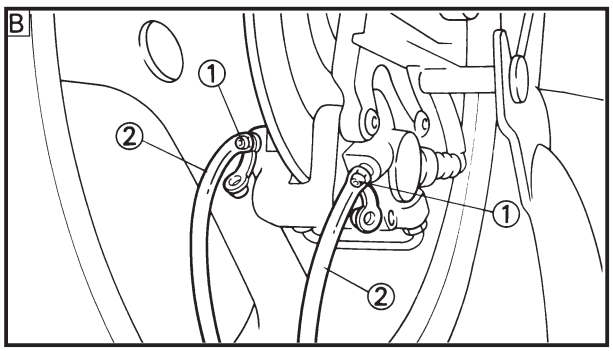
サイレンサに4.8㎜のリベット孔を開け、リベットで打ち直します。

要　　点

リベットは、必ず前リベットとは別の所に打ち直す。







JC360000
車体

JC361004
ブレーキフルードエア抜き

⚠警　告

- **ブレーキフルードに関連する部品を取外した場合は、各部の締付けを確認した後に必ずエア抜きを行うこと。**
- **ブレーキのきき具合がやわらかく感じるときは、ブレーキフルードの液漏れやエアの混入によるブレーキ不良の恐れがあるので、ブレーキフルード液量点検、接続部の増締め後エア抜きを行うこと。**

1. 以下の部品を取外します。
- リザーバキャップ
- リザーバダイヤフラム

2. ブリードスクリュ①に透明のビニールパイプ②を組付け、パイプ先端に受皿を置きます。

A フロント

B リヤ

3. ブレーキレバー（ブレーキペダル）をゆっくり数回作動させた後、ブレーキレバー（ブレーキペダル）を一杯に握った（一杯に踏んだ）状態でブリードスクリュを約1/2回転ゆるめ再び締付けます。　6Nm(0.6kg･m)

要　点

ブリードスクリュを締付けるまでブレーキレバー（ブレーキペダル）を放さない。

4. ブレーキレバー（ブレーキペダル）をゆっくり放し、数秒後にゆっくり数回ブレーキを作動させます。
   ブリードスクリュからエア（気泡）が出なくなるまで繰返します。

要　点

リザーバタンクにブレーキフルードを補充しながら行う。

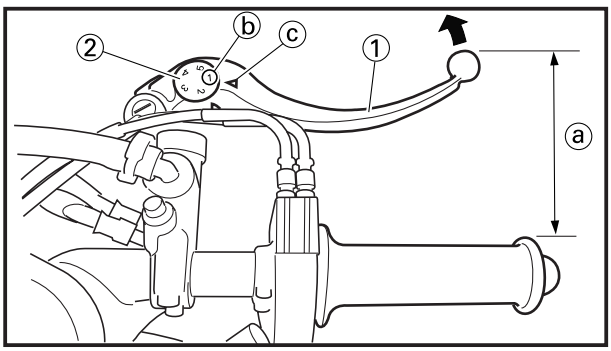
⚠警　告

ブレーキレバーを握って（ブレーキペダルを踏んで）ブレーキフルードの漏れがないか点検すること。

⚠注　意

ブレーキディスク、タイヤ、ホイール等に付着したブレーキフルードをきれいに拭き取ること。

5. 以下の部品を組付けます。
- リザーバダイヤフラム
- リザーバキャップ



JC363020

フロントブレーキ調整

1. 以下の調整をします。
- ブレーキレバー握り幅ⓐ

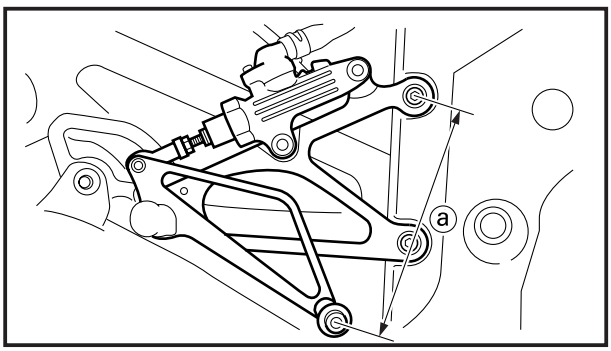
  ブレーキレバー①を前側に押し、アジャスタ②を回して調整します。

  近くする→アジャスタの番号ⓑを大きくします。

  遠くする→アジャスタの番号ⓑを小さくします。

要　点

アジャスタの番号とブレーキレバーのマークⓒを合せる。



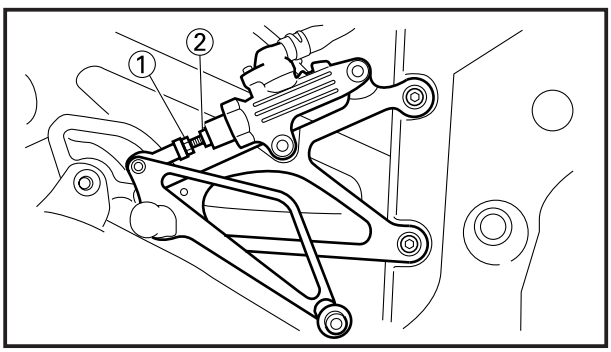
JC364011

リヤブレーキ点検、調整

1. 以下の点検をします。
- ブレーキペダル取付け高さⓐ

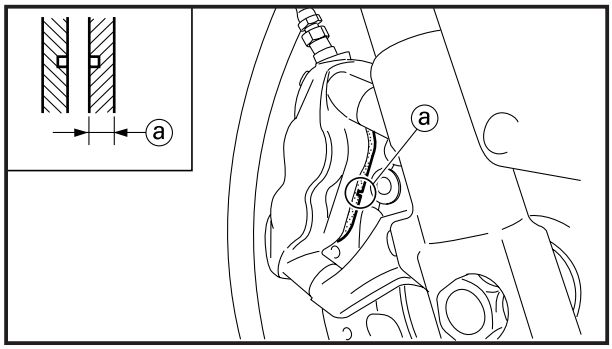
	標準ブレーキペダル取付け高さ 148～152㎜

標準値以外→調整



2. 以下の調整をします。
- ブレーキペダル取付け高さ

  ロックナット①をゆるめアジャスタ②で調整します。



JC365090

フロントブレーキパッド点検、交換

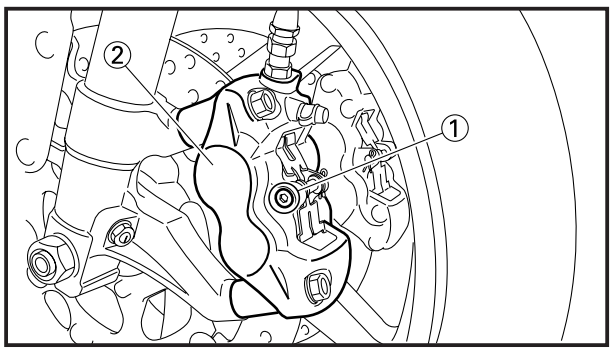
1. 以下の点検をします。
- ブレーキパッド厚さⓐ

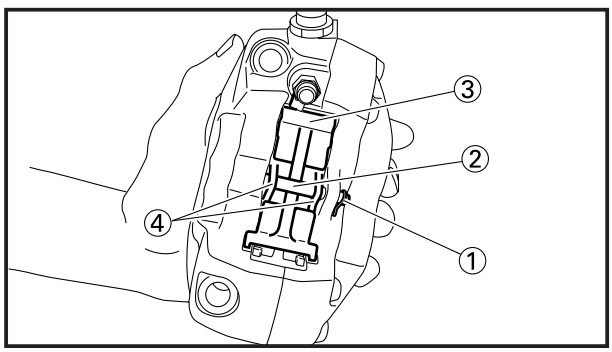
標準厚さ値
5.3㎜
使用限度
1.0㎜

使用限度以下→交換

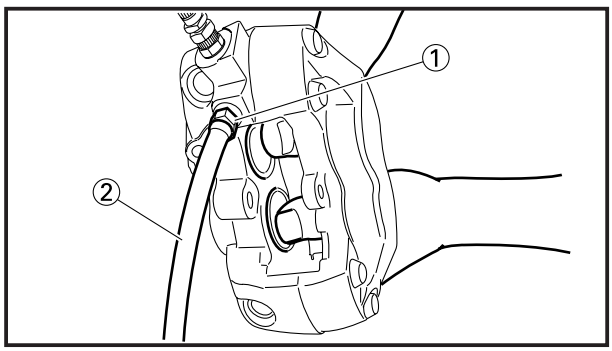
2. 以下の部品をゆるめます。
- パッドピン①

3. 以下の部品を取外します。
- キャリパ②





4. 以下の部品を取外します。
- クリップ①
- パッドピン②
- パッドサポート③
- ブレーキパッド④

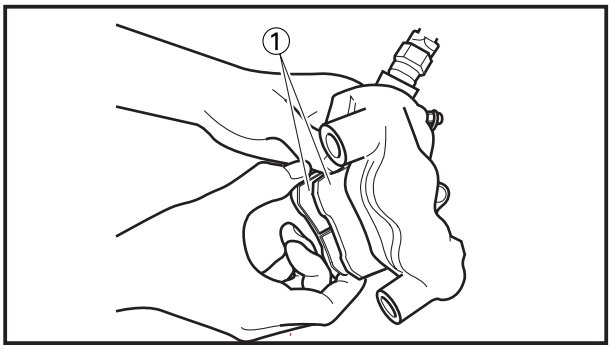


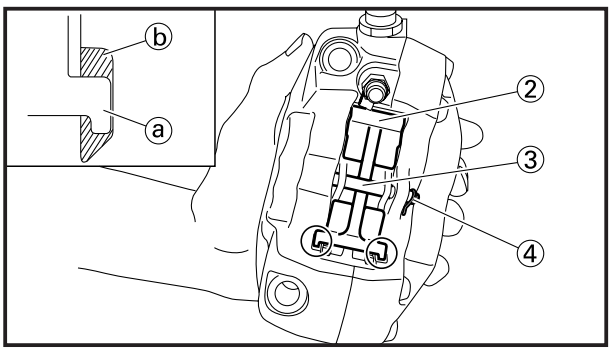
5. ブリードスクリュ①に透明のビニールパイプ②を組付け、パイプ先端に受皿を置きます。
6. ブリードスクリュをゆるめてキャリパピストンを押し戻します。

⚠注 意

排出したブレーキフルードは再使用しないこと。

7. 以下の部品を締付けます。
- ブリードスクリュ　6Nm(0.6kg・m)



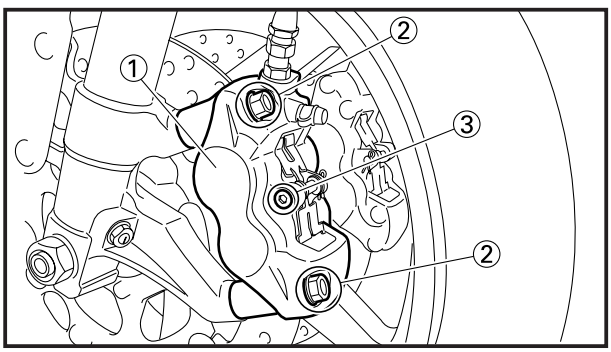


8. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキパッド①
- パッドサポート②
- パッドピン③
- クリップ④

要　点
- パッドサポートの突起部ⓐをキャリパの凹部ⓑに合せて組付ける。
- パッドピンはこの段階では仮締付け状態とする。

⚠注　意

クリップに曲り、開き等がある場合は新品と交換すること。

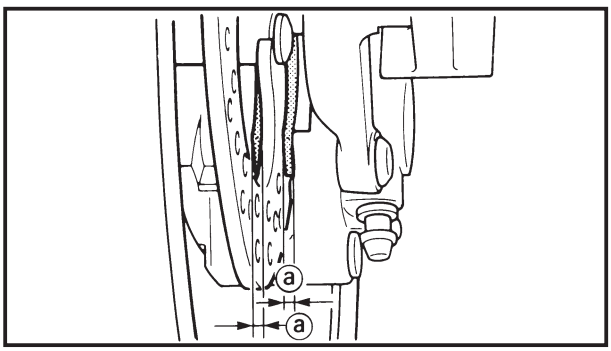


9. 以下の部品を組付けます。
- キャリパ①
- キャリパ取付ボルト②　35Nm(3.5kg･m)

10. 以下の部品を締付けます。
- パッドピン③　18Nm(1.8kg･m)

⚠警　告

組付け後、ブレーキレバーを握って、ブレーキが作動するか点検すること。



JC366034

リヤブレーキパッド点検、交換

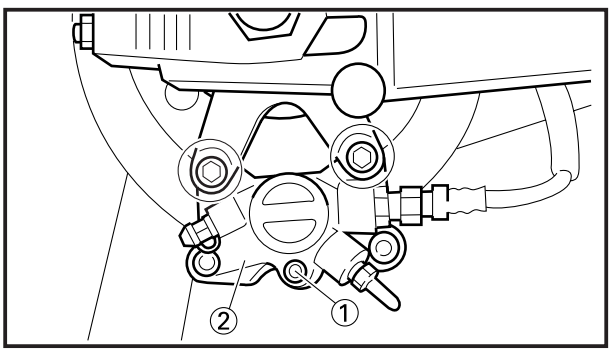
1. 以下の点検をします。
- ブレーキパッド厚さⓐ

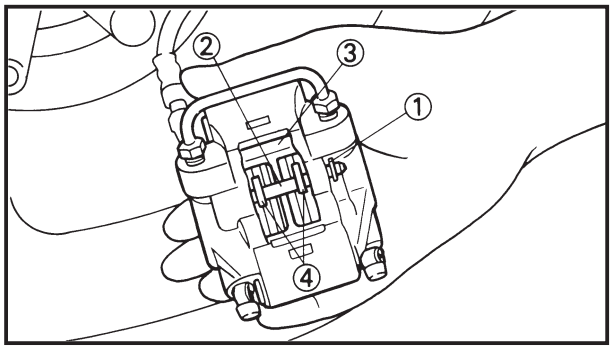
標準厚さ値
4.0㎜
使用限度
1.0㎜

使用限度以下→交換

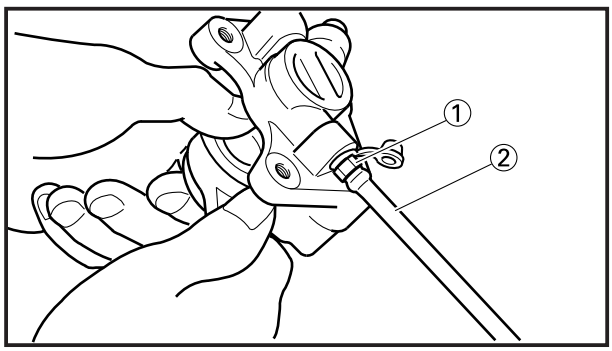
2. 以下の部品をゆるめます。
- パッドピン①

3. 以下の部品を取外します。
- キャリパ②





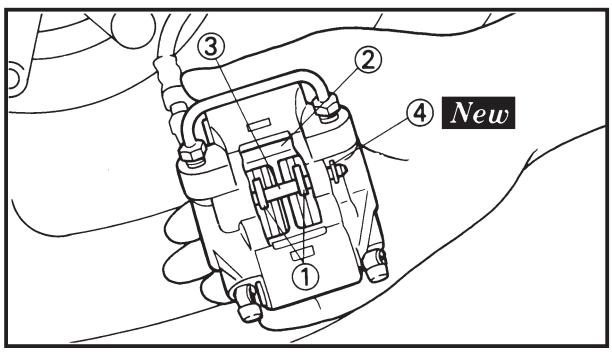
4. 以下の部品を取外します。
- コッタピン①
- パッドピン②
- パッドサポート③
- ブレーキパッド④



5. ブリードスクリュ①に透明のビニールパイプ②を組付け、パイプ先端に受皿を置きます。
6. ブリードスクリュをゆるめてキャリパピストンを押し戻します。

▲注　意

排出したブレーキフルードは再使用しないこと。

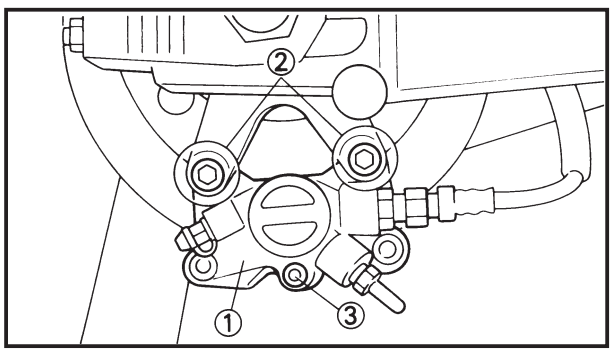


7. 以下の部品を締付けます。
- ブリードスクリュ　6Nm(0.6kg･m)

8. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキパッド①
- パッドサポート②
- パッドピン③
- コッタピン④ ***New***

要　　点

パッドピンはこの段階では仮締付け状態とする。

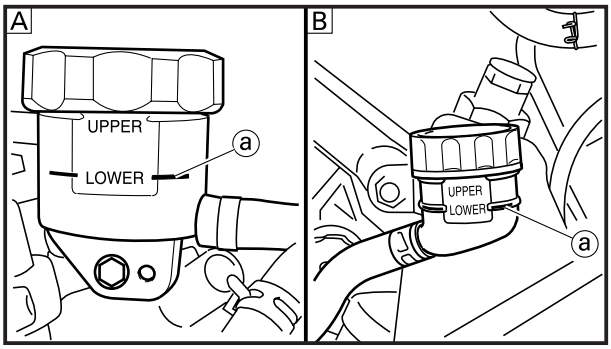


9. 以下の部品を組付けます。
- キャリパ①
- キャリパ取付ボルト②　23Nm(2.3kg･m)

10. 以下の部品を締付けます。
- パッドピン③　18Nm(1.8kg･m)

▲警　告

組付け後、ブレーキペダルを踏んで、ブレーキが作動するか点検すること。



JC367004

ブレーキフルード液量点検

1. マスタシリンダ（リザーバタンク）を水平な状態にします。
2. 以下の点検をします。

● ブレーキフルード液面レベル
ロアレベルⓐ以下→補充

Ⓐ フロント

Ⓑ リヤ

	ヤマハブレーキフルード BF-4/DOT 4

⚠警　告

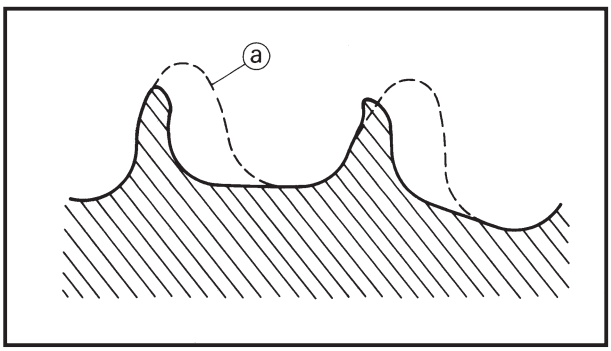
ブレーキ不良の原因となるので、銘柄の異なるブレーキフルードを混入、使用しないこと。

⚠注　意

ブレーキフルードを塗装面、プラスチック、ゴム類に付着させると部品が破損するのですぐ拭き取ること。

要　　点

● ブレーキフルードは機能上、吸湿性が高いので必ず1年毎に交換する。
● ブレーキフルードが噴出するので、リザーバキャップを外した状態でブレーキレバー（ブレーキペダル）を作動させない。



JC368012

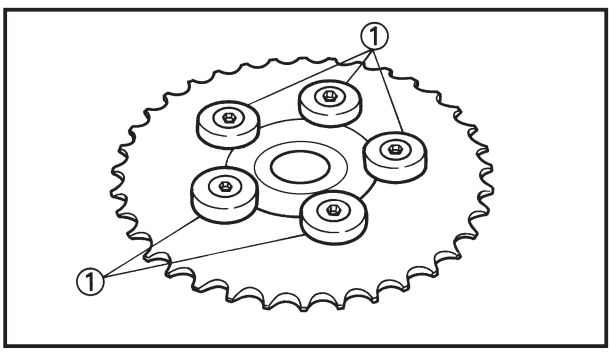
スプロケット点検

1. 以下の点検をします。

● ギヤ歯面ⓐ
摩耗、損傷→交換

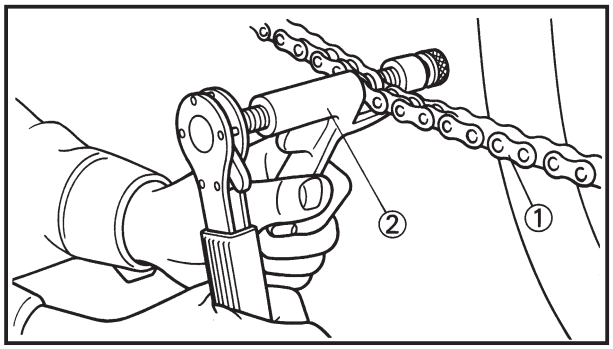
要　　点

摩耗の著しいものは、ドライブスプロケット、ドリブンスプロケット、ドライブチェンの3点セットで交換する。



2. 以下の点検をします。

● ダンパ①
摩耗、損傷→交換



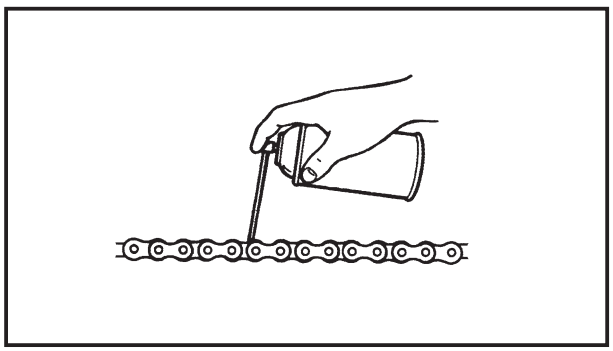
JC369042

ドライブチェン点検

1. 以下の部品を取外します。
- ドライブチェン①

要　点

チェンジョイントをドライブチェンツール②を使用して押し出し、ドライブチェンを切離し取外す。



2. 以下の部品を洗浄します。
- ドライブチェン
  ヤマハME（スーパーチェンクリーナ）を使用して洗浄します。

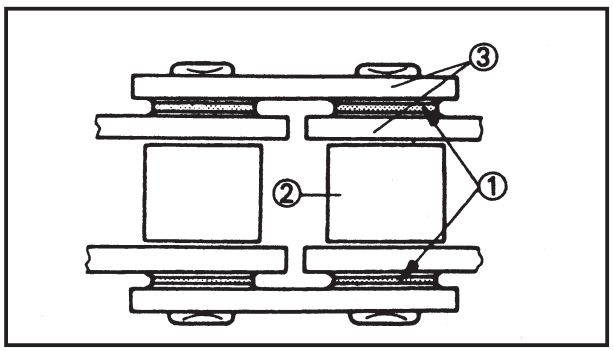
	ヤマハME（スーパーチェンクリーナ）

⚠注　意

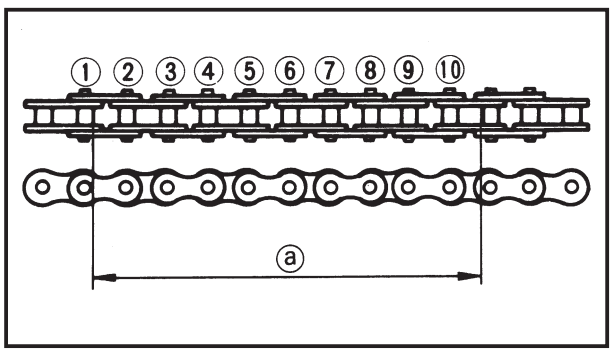
この車は、シールチェンを使用しているので、取扱いにあたっては、下記項目を守ること。

1. スチーム洗浄は行わないこと。

2. シンナー、ガソリン等の揮発性溶剤、灯油およびワイヤブラシを使用して洗浄しないこと。



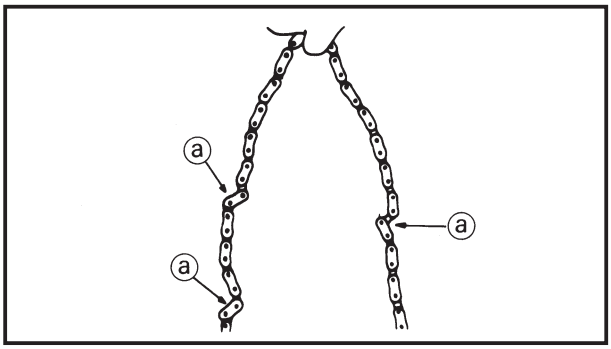
3. 以下の点検をします。
- Oリング①（ドライブチェン）
  損傷→ドライブチェン交換
- ローラ②
- サイドプレート③
  損傷、摩耗→ドライブチェン交換



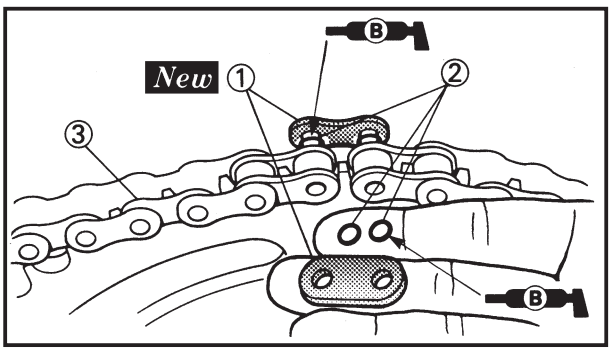
4. 以下の点検をします。
- ドライブチェン10リンクの長さⓐ

	10リンク長さ使用限度 150.1㎜

使用限度以上→交換



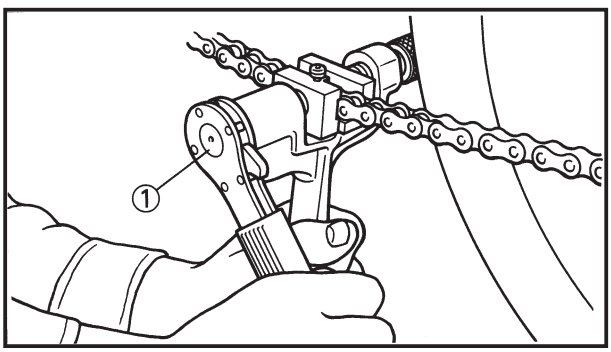
5. 以下の点検をします。
- ドライブチェン固着ⓐ
  チェン中心部をもち上げ点検します。
  固着→交換



6. 以下の部品を組付けます。
- チェンジョイント① ***New***
- Oリング②
- ドライブチェン③

要　　点

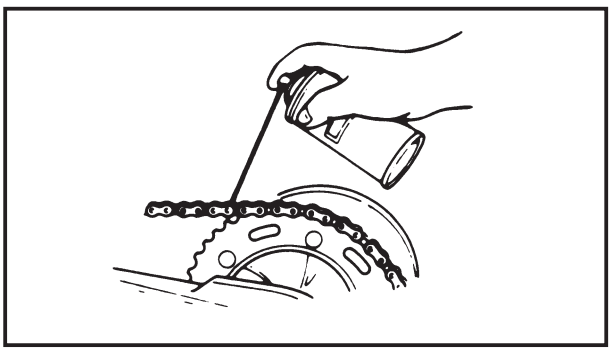
ドライブチェンを前後スプロケットに組付け、チェンジョイント、OリングにヤマハグリースBを塗布してドライブチェンに組付ける。



7. ドライブチェンツールのカシメ①を使用してチェンジョイントを圧入しカシメます。

要　　点

カシメ後、チェンのリンクがスムーズに作動するか確認する。



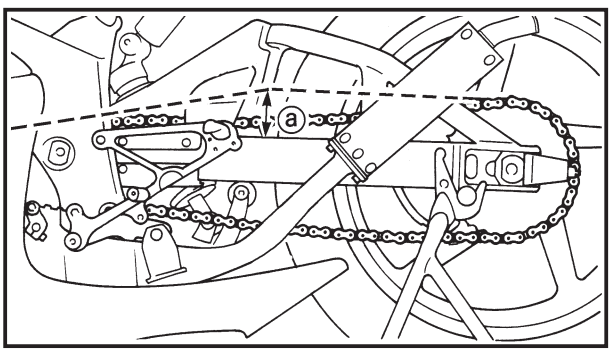
8. ドライブチェンに給油します。

	ヤマハME スーパーチェンオイル（ドライタイプ） スーパーチェンオイル（ウェットタイプ）

JC36A042

ドライブチェンたわみ量点検、調整

1. 車をスタンドに乗せ、リヤホイールを地面から浮かした状態にします。
2. 以下の点検をします。
- ドライブチェンたわみ量ⓐ

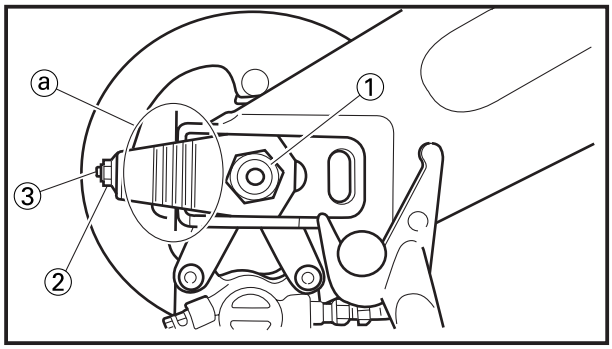


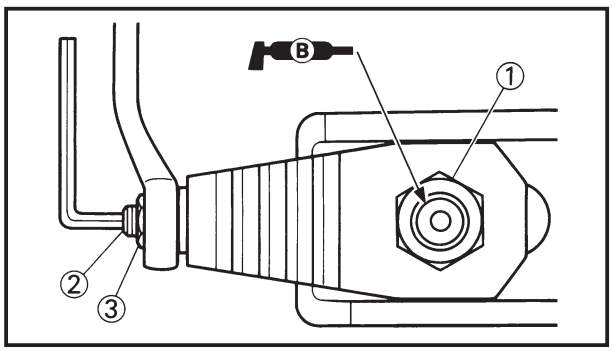
	ドライブチェンたわみ量 55～65㎜

規定値以外→調整

要　　点

リヤホイールを数回回転させた後、スプロケット間の中央部でたわみ量を点検する。



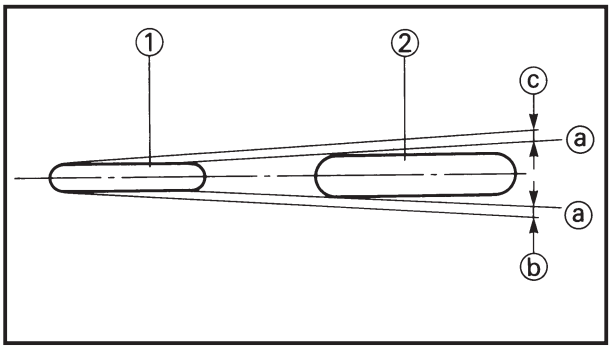


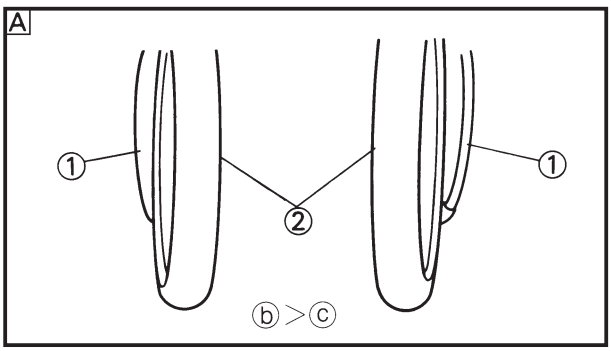
3. 以下の調整をします。
- ドライブチェンたわみ量
  アクスルナット①、ロックナット②をゆるめ左右の刻み目盛ⓐが左右同じになるようにアジャスタ③で調整します。
  たわみ量を減らす→アジャスタを反時計回転方向に回します。
  たわみ量を増やす→アジャスタを時計回転方向に回します。

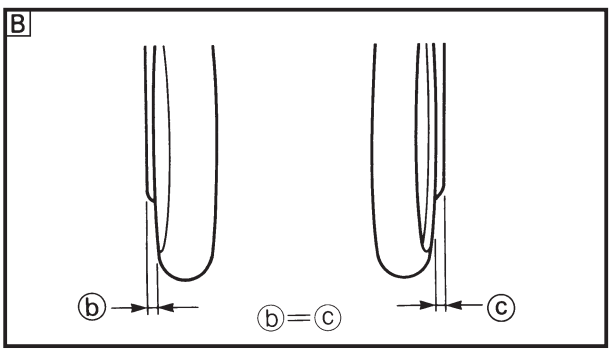
4. 以下の部品を締付けます。

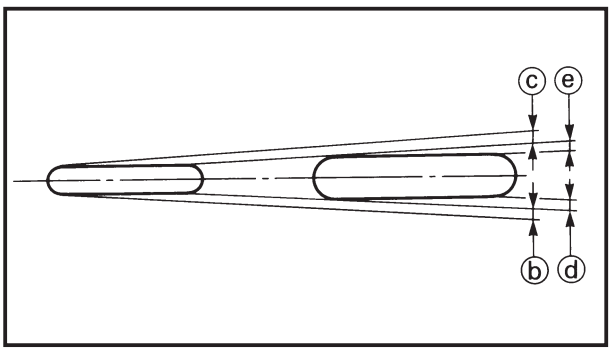
● アクスルナット①	80Nm(8.0kg･m)
● アジャスタ②	2Nm(0.2kg･m)
● ロックナット③	16Nm(1.6kg･m)

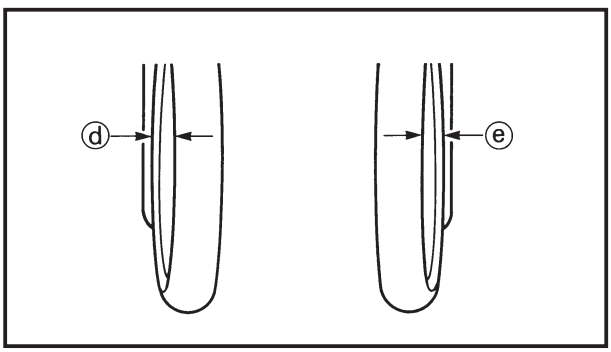
要　　点
- ホイールアクスルのネジ部にヤマハグリースＢを薄く塗布して組付ける。
- ドライブチェンを手で押さえつけ、リヤホイールが動かないようにしながらアクスルナットを締付ける。
- アクスルナット締付け後、アジャスタを反時計回転方向に締付けた状態でロックナットを締付ける。











JC36B002

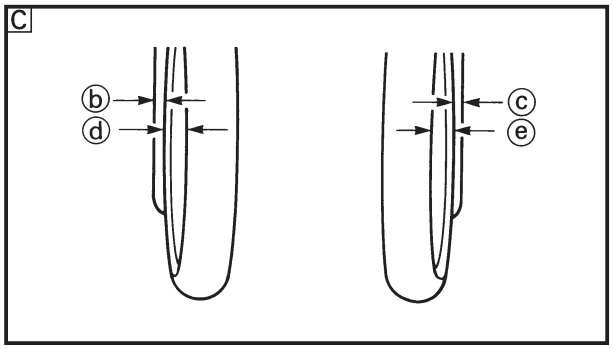
ホイールアライメント点検、調整

1. 以下の部品を取外します。
- アンダカウリング
2. 車を平坦な場所に垂直に立てます。
3. 車の後方1～2mの位置に座り、ホイールアクスルより下のタイヤ両サイドを見ます。
4. ハンドルを左右に動かして、フロントホイールをまっすぐにします。

要　　点

- フロントタイヤ①の後端とリヤタイヤ②の前端の見える線上ⓐで、フロントタイヤの前端の出代ⓑ、ⓒを左右合せてフロントホイールをまっすぐにする。
- A図は、フロントホイールが右に切れている状態（ⓑ＞ⓒ）を示す。
- B図は、フロントホイールがまっすぐな状態（ⓑ＝ⓒ）を示す。

5. 以下の点検をします。
- ホイールアライメント
  フロントホイールがまっすぐな状態（ⓑ＝ⓒ）で、リヤタイヤ両サイドの寸法ⓓ、ⓔが等しいか点検します。
  等しくない場合→調整

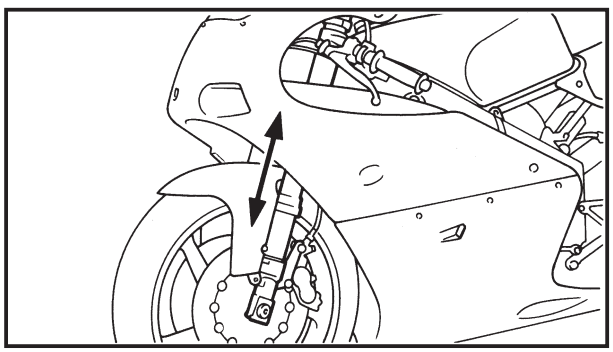


6. 以下の調整をします。
- ホイールアライメント
  ドライブチェンの張り具合を注意しながらチェンプラーアジャストボルトを回転させ、リヤホイールを動かして調整します。

要　　点

- Ⓒ図は、ホイールアライメントが正確に合った状態（ⓑ＝ⓒ、ⓓ＝ⓔ）を示す。
- 調整後、左右のチェンプラーの刻み目盛差を記録しておくと以後のチェン調整時に便利です。

7. 以下の部品を組付けます。
- アンダカウリング

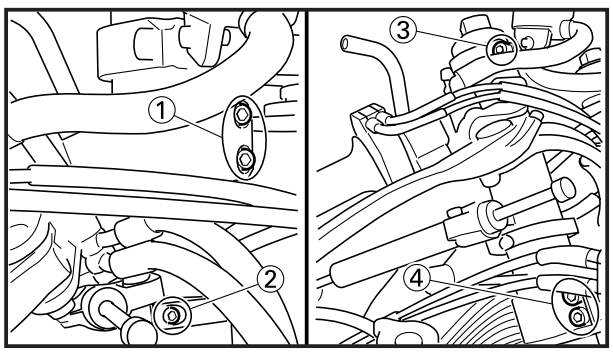


JC36C001
フロントフォーク点検

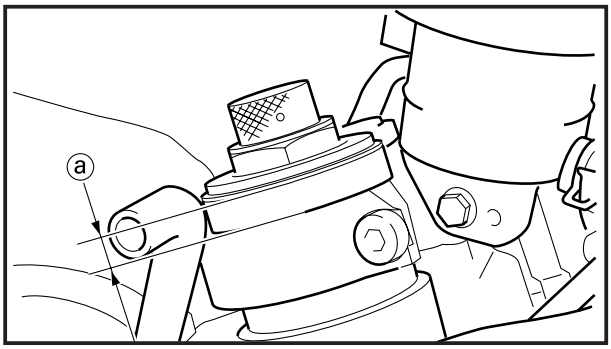
1. 以下の点検をします。
- フロントフォークの作動
  フロントブレーキレバーを握り、フロントフォークを作動させ点検します。
  オイル漏れ、損傷、異状→修正または交換

JC36E025
フロントフォーク突出し量調整

1. スタンドを使用して車を支えます。
2. 以下の部品を取外します。
- カウリング
- 左気筒インダクションダクト
- 右気筒インダクションダクト
- フロントホイール
- フロントフェンダ



3. 以下の部品をゆるめます。
- ハンドル締付ボルト①
- ハンドルシミーダンパステー締付ボルト②(右側のみ)
- ハンドルクラウン締付ボルト③
- アンダブラケット締付ボルト④



4. 以下の調整をします。
- フロントフォーク突出し量ⓐ

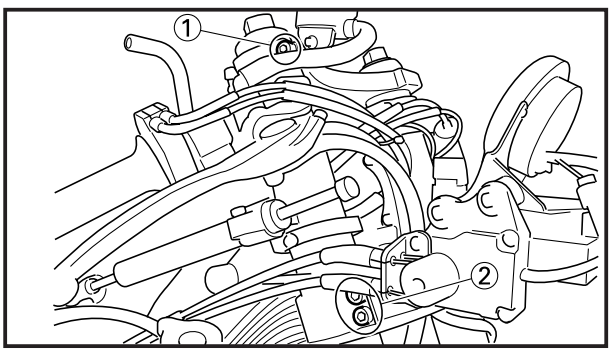
標準寸法
13㎜
調整範囲
0～13㎜

▲注 意

突出し量の調整は、調整範囲内で行うこと。

▲警 告

突出し量は左右同じ寸法に調整すること。左右で異なる場合は、操縦安定性に悪影響をおよぼす恐れがある。



5. 以下の部品を締付けます。
- ハンドルクラウン締付ボルト①

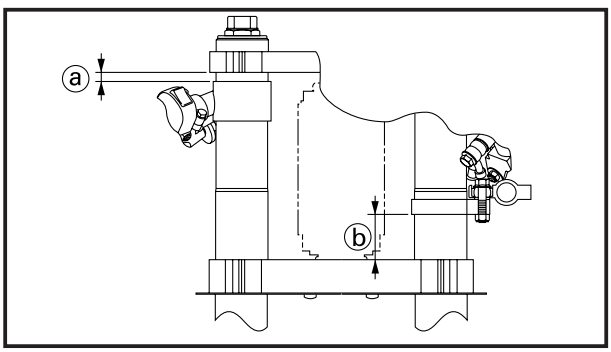
20Nm(2.0kg･m)

- アンダブラケット締付ボルト②

23Nm(2.3kg･m)

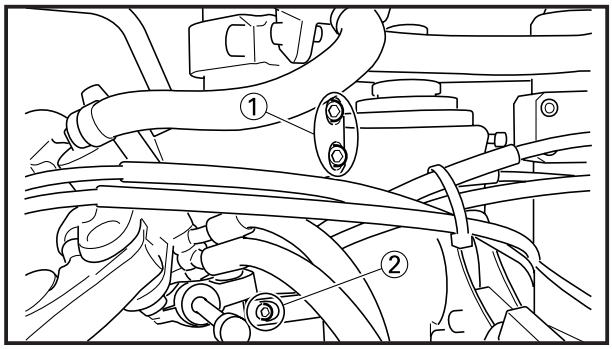
▲注 意

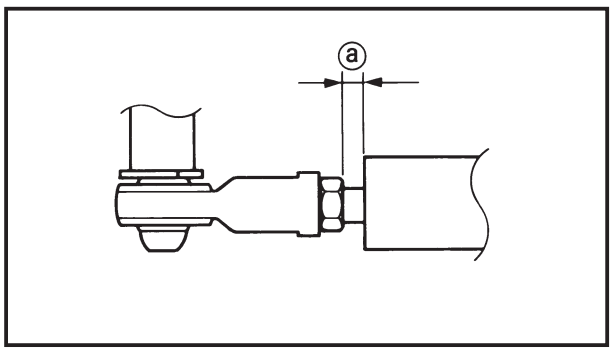
- **アウタチューブ外周面および各部品の接触面の油脂類をシンナー等で拭き取ってから組付けること。**
- **アンダブラケットの締付けは特に注意して規定のトルクで締付けること。規定トルクを超えて締付けるとフロントフォークの作動不良の原因となる。**

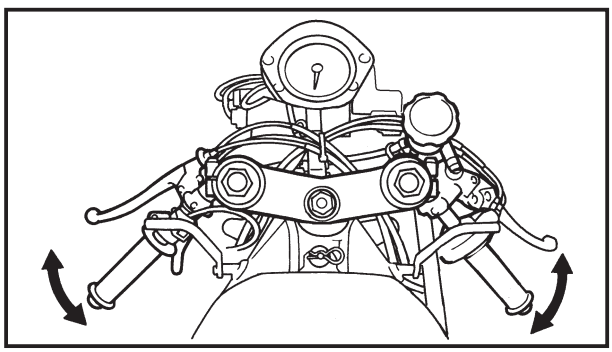


6. 以下の調整をします。
- ハンドル高さⓐ
- ハンドルシミーダンパステー高さⓑ（右側のみ）

ハンドル高さ
9㎜
ハンドルシミーダンパステー高さ
45㎜







7. 以下の部品を締付けます。
- ハンドル締付ボルト①　7Nm(0.7kg･m)
- ハンドルシミーダンパステー締付ボルト②（右側のみ）　10Nm(1.0kg･m)

⚠注　意

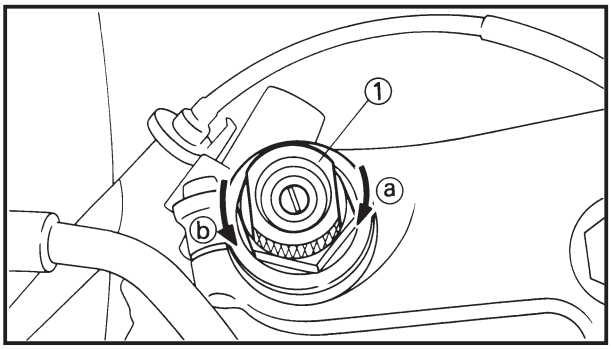
- **アウタチューブ外周面および各部品の接触面の油脂類をシンナー等で拭き取ってから組付けること。**
- **必ず締付トルクを守ること。規定トルクを超えて締付けるとフロントフォークの作動不良の原因となる。**

要　　点

ハンドルシミーダンパステーの締付けは、ハンドルを右に一杯に切った状態で、ⓐ寸法が3～5㎜になるようにハンドルシミーダンパステーの取付け角度を調整して締付ける。

8. 締付け後、ハンドルを左右に切ってワイヤの引っ掛かりがないか、ハンドルおよびハンドルシミーダンパが他部品と当らないか点検します。

9. 以下の部品を組付けます。
- フロントフェンダ
- フロントホイール
- 右気筒インダクションダクト
- 左気筒インダクションダクト
- カウリング



JC36F013

フロントフォークイニシャル荷重調整

1. 以下の調整をします。

- イニシャル荷重

  アジャスタ①で調整します。

  硬くするⓐ→ アジャスタを時計回転方向に回します。(強くする。)

  柔らかくするⓑ→アジャスタを反時計回転方向に回します。(弱くする。)

	調整範囲	
	最　硬	軽く一杯に締込んだ位置
	最　柔	軽く一杯に戻した位置

2. アジャスタ標準位置

   アジャスタを軽く一杯に戻した位置から規定段数締込んだ位置です。

	標準位置 10段締込み

要　　点

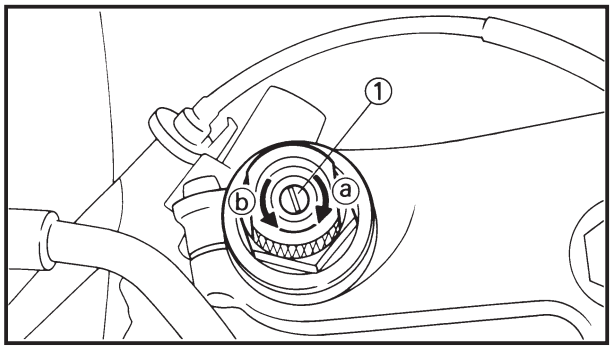
- アジャスタを軽く一杯に戻した位置から締込んで、最初にノッチ音のする位置を０段目とする。アジャスタを軽く一杯に戻した位置でノッチ音がした場合は、その位置も０段目とする。
- イニシャル荷重はアジャスタ1ノッチにつき0.5㎜変更になる。

⚠注　意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。

⚠警　告

アジャスタは左右同じ位置に調整すること。左右で異なる場合は、操縦安定性に悪影響をおよぼす恐れがある。



JC36H010

フロントフォーク伸び側減衰力調整

1. 以下の調整をします。

● 伸び側減衰力

アジャスタ①で調整します。

硬くするⓐ→アジャスタを時計回転方向に回します。（減衰力を強くする。）

柔らかくするⓑ→アジャスタを反時計回転方向に回します。（減衰力を弱くする。）

	調整範囲	
	最　硬	軽く一杯に締込んだ位置
	最　柔	軽く一杯に戻した位置

2. アジャスタ標準位置

アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置から規定段数戻した位置です。

	標準位置 11段戻し

要　点

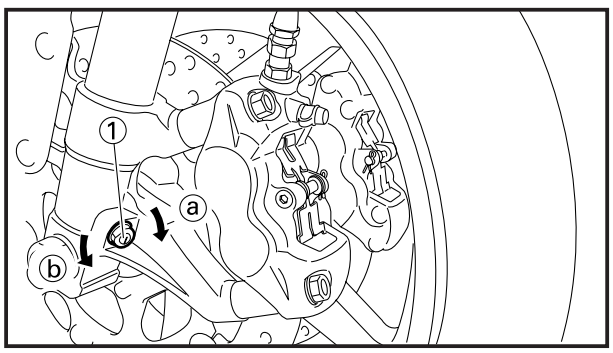
アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置から戻して、最初にノッチ音のする位置を０段目とする。アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置でノッチ音がした場合は、その位置も０段目とする。

⚠注　意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。

⚠警　告

アジャスタは左右同じ位置に調整すること。左右で異なる場合は、操縦安定性に悪影響をおよぼす恐れがある。



JC36J030

フロントフォーク圧側減衰力調整

1. 以下の調整をします。

● 圧側減衰力

アジャスタ①で調整します。

硬くするⓐ→アジャスタを時計回転方向に回します。（減衰力を強くする。）

柔らかくするⓑ→アジャスタを反時計回転方向に回します。（減衰力を弱くする。）

	調整範囲	
	最　硬	軽く一杯に締込んだ位置
	最　柔	軽く一杯に戻した位置

2. アジャスタ標準位置

アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置から規定段数戻した位置です。

	標準位置 10段戻し

要　　点

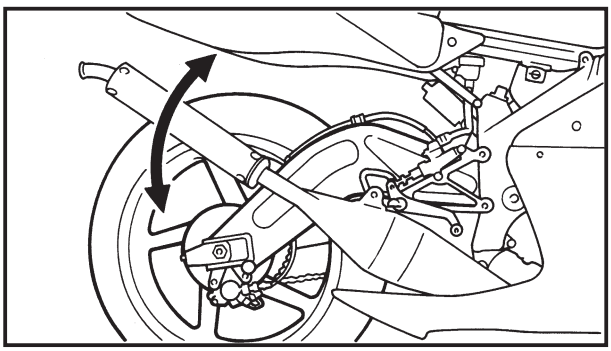
アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置から戻して、最初にノッチ音のする位置を０段目とする。アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置でノッチ音がした場合は、その位置も０段目とする。

⚠注　意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。

⚠警　告

アジャスタは左右同じ位置に調整すること。左右で異なる場合は、操縦安定性に悪影響をおよぼす恐れがある。



JC36K001

リヤクッション点検

1. 以下の点検をします。

● リヤクッションの作動

車体を上下に動かし、リヤクッションを作動させ点検します。

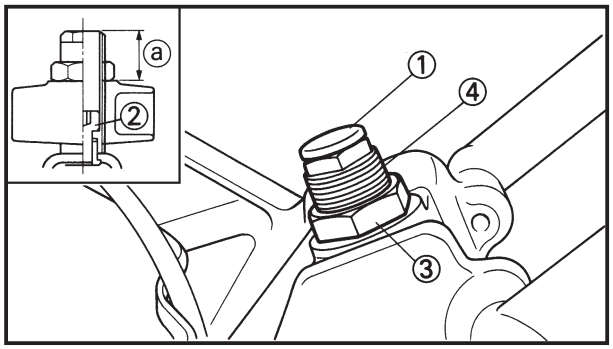
オイル漏れ、損傷、異状→修正または交換

JC36L002

リヤクッション車高調整

1. 以下の部品を取外します。

● フュエルタンク



2. 以下の部品を取外します。
- キャップ①

3. 以下の調整をします。
- 車高

アッパブラケット取付ボルト②、ロックナット③をゆるめ、アジャスタ④を回すことにより車高を調整します。

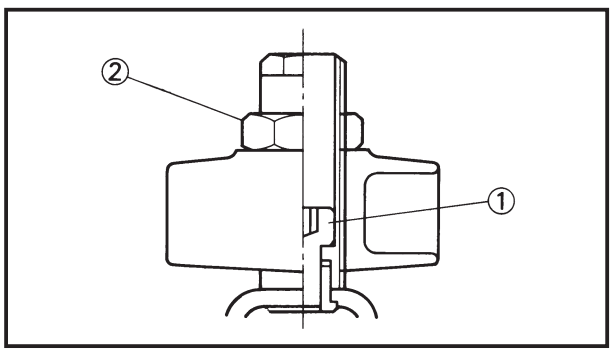
標準寸法ⓐ
27㎜
調整範囲
21～33㎜

要　点

アジャスタの変化量の約2倍がシート高の変化量となる。

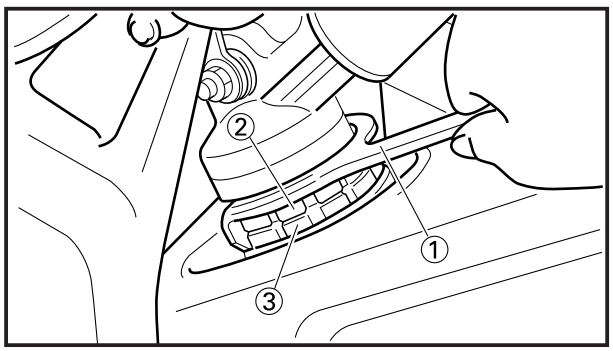
⚠注　意

車高調整は、調整範囲内で行うこと。



4. 以下の部品を締付けます。
- アッパブラケット取付ボルト①　40Nm(4.0kg･m)
- ロックナット②　38Nm(3.8kg･m)

5. 以下の部品を組付けます。
- フュエルタンク



C36M050

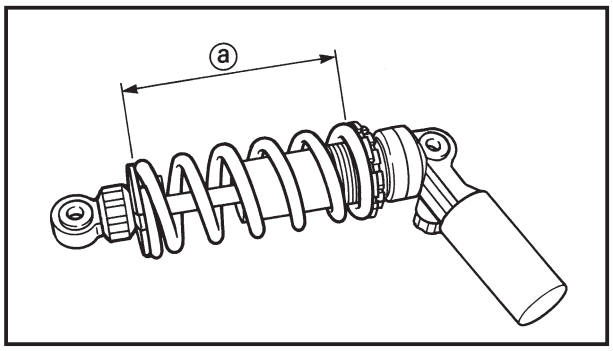
スプリングイニシャル荷重（初期荷重）調整

1. 車を平坦な場所に垂直に立てます。
2. 以下の調整をします。
- イニシャル荷重

付属のツール①を使用してロックナット②をゆるめ、アジャスタ③で調整します。

硬くする→アジャスタを時計回転方向に回します。

柔らかくする→アジャスタを反時計回転方向に回します。



標準寸法ⓐ
137㎜
調整範囲
133～142㎜

要　　点

スプリングセット長はアジャスタ１回転につき1.5㎜変更になる。

⚠注　意

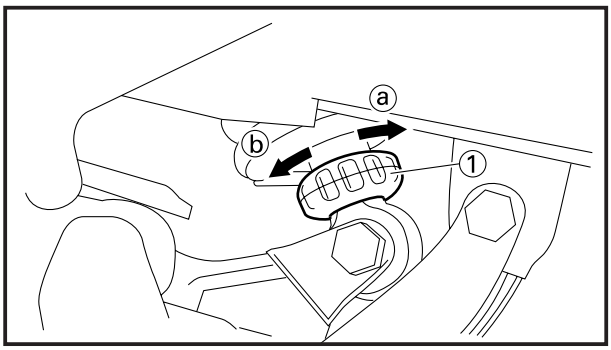
調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。

3. 以下の部品を締付けます。

● ロックナット　20Nm(2.0kg･m)

JC36N040

リヤクッション伸び側減衰力調整



1. 以下の調整をします。

● 伸び側減衰力

アジャスタ①で調整します。

硬くするⓐ→ アジャスタを時計回転方向に回します。（減衰力を強くする。）

柔らかくするⓑ→アジャスタを反時計回転方向に回します。（減衰力を弱くする。）

	調整範囲	
	最　硬	軽く一杯に締込んだ位置
	最　柔	軽く一杯に戻した位置

2. アジャスタ標準位置

アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置から規定段数戻した位置です。

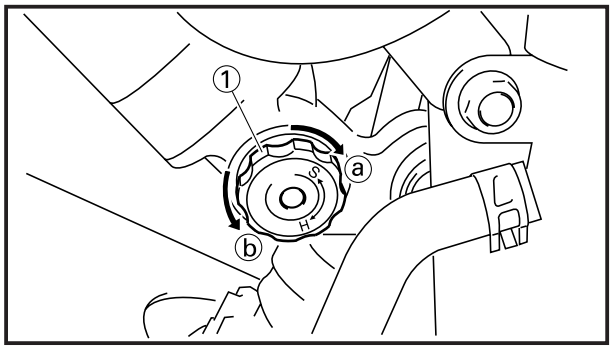
	標準位置 24段戻し

要　　点

アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置から戻して、最初にノッチ音のする位置を０段目とする。アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置でノッチ音がした場合は、その位置も０段目とする。

⚠注　意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。



JC36P040

リヤクッション圧側減衰力調整

1. 以下の調整をします。

● 圧側減衰力

アジャスタ①で調整します。

硬くするⓐ→アジャスタを時計回転方向に回します。（減衰力を強くする。）

柔らかくするⓑ→アジャスタを反時計回転方向に回します。（減衰力を弱くする。）

	調整範囲	
最　硬	軽く一杯に締込んだ位置
最　柔	軽く一杯に戻した位置

2. アジャスタ標準位置

アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置から規定段数戻した位置です。

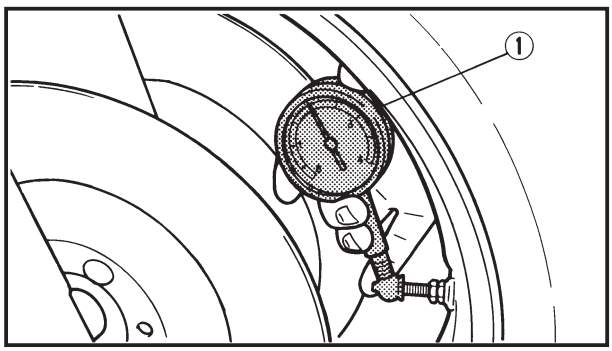
標準位置 14段戻し

要　　点

アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置から戻して、最初にノッチ音のする位置を０段目とする。アジャスタを軽く一杯に締込んだ位置でノッチ音がした場合は、その位置も０段目とする。

⚠注　意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。



JC36Q011

タイヤ空気圧点検

1. 以下の点検をします。

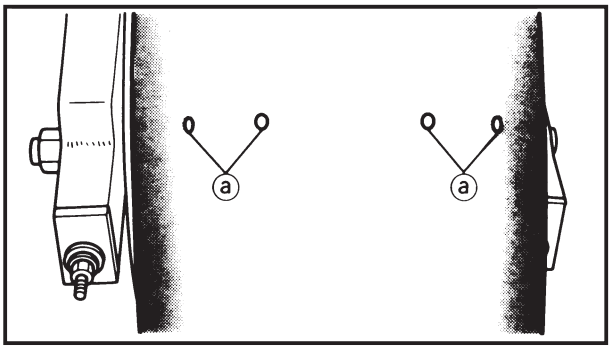
● タイヤ空気圧

	前輪	後輪
標準空気圧	200kPa（2.0kgf/㎠）	200kPa（2.0kgf/㎠）
タイヤサイズ	120/60 R17	165/55 R17
メーカー型式	ダンロップKR106（スリック）	ダンロップKR108（スリック）

要　　点

● タイヤが冷えているとき、タイヤゲージ①を使用して点検する。

● 標準仕様と異なるタイヤ（メーカー、型式等）を装着した場合は、その仕様に基づいた空気圧にする。



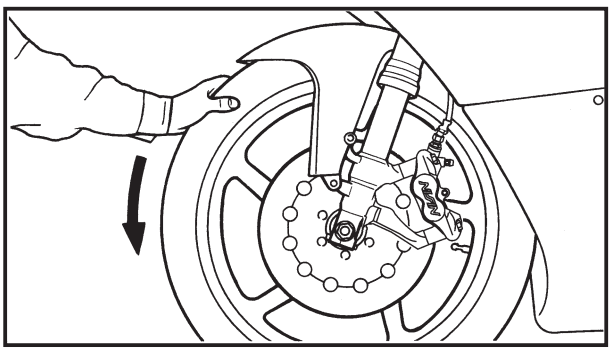
JC36R001
タイヤ摩耗点検

1. 以下の点検をします。

● タイヤの摩耗

タイヤの摩耗度は、タイヤ接地面の円周上にあるウェアインジケータⓐの深さによって判断します。

	タイヤ摩耗限度 2㎜



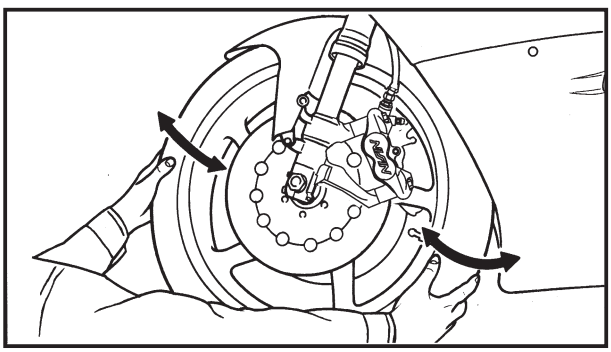
JC36T002
ホイール点検

1. 以下の点検をします。

● ホイール振れ

フロントホイールを浮かして、ゆっくり回して異状な振れがないか点検します。

異状な振れ→交換

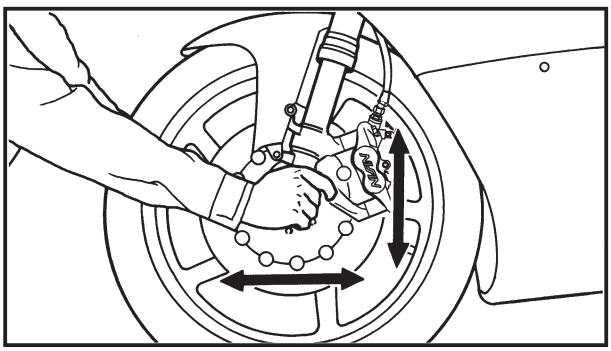


2. 以下の点検をします。

● ベアリング

タイヤの両端に手をかけて動かし、ホイールベアリングを点検します。

がた、異音、回転不良→交換



JC36U061
ハンドル、ステアリング点検、調整

1. ハンドルシミーダンパのフロントフォーク取付け部を外し、フロントホイールを浮かした状態にします。
2. 以下の点検をします。

● ステアリングのがた

フロントフォークを持ち、上下、前後に動かしてがたがないか点検します。

がたがある→調整

3. 以下の点検をします。

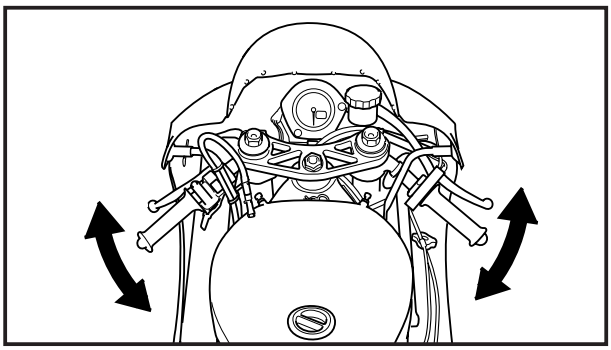
● ステアリングの動き

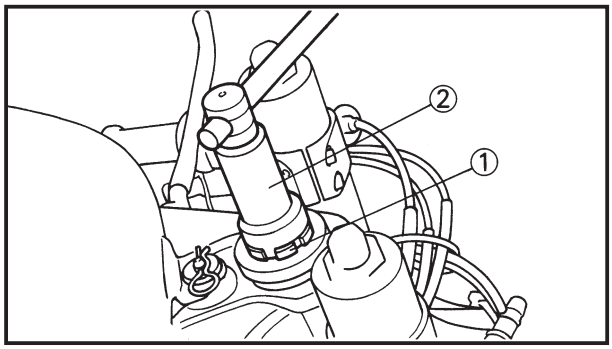
左右にハンドルを切って、スムーズに動くか、引っ掛かりがないか点検します。

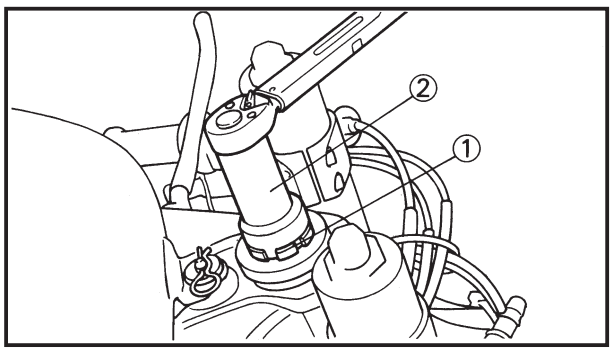
引っ掛かり→調整

4. 以下の部品を取外します。

● カウリング
● リザーバタンク
● ハンドルクラウン







5. 以下の部品をゆるめます。
- リングナット①

要　　点

ステアリングナットホルダ②を使用してゆるめる。

	ステアリングナットホルダ 90890-01385

6. 以下の部品を締付けます。
- リングナット①　　1Nm(0.1kg･m)

要　　点

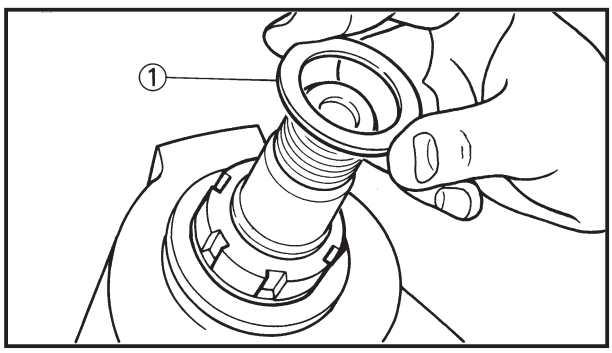
- ステアリングナットホルダ②を使用して締付ける。
- リングナットを46Nm（4.6kg･m）で締付けた後、一度ゆるめ、それから1Nm（0.1kg･m）で締付ける。
- ギャップ走行時、ブレーキング時にハンドル回りから異音が発生する場合は、リングナットの調整を行う。

⚠警　告

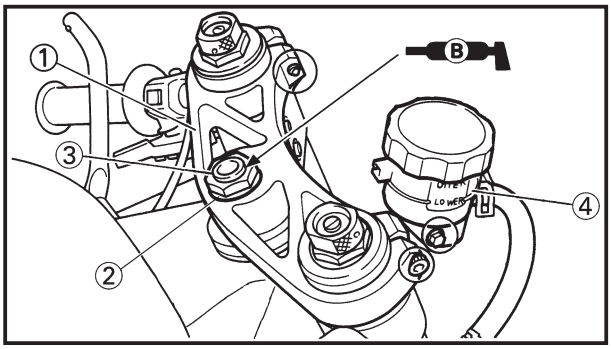
規定トルクを超えて締付けないこと。ステアリング作動不良の原因となる。

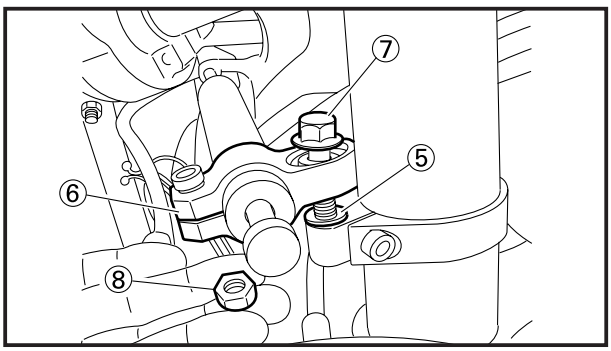
	ステアリングナットホルダ 90890-01385

7. 調整後、ステアリングの点検を行います。



8. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①





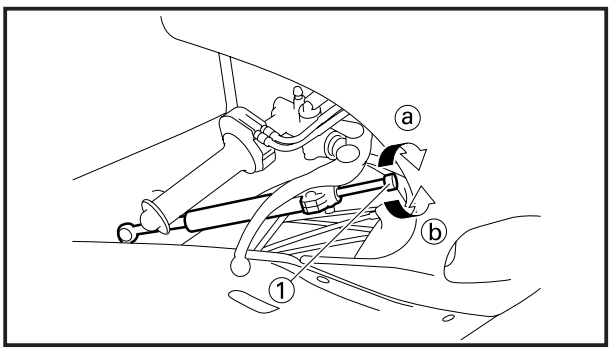
9. 以下の部品を組付けます。
- ハンドルクラウン① 20Nm(2.0kg･m)
- プレートワッシャ②
- ステアリングナット③ 80Nm(8.0kg･m)
- リザーバタンク④ 5Nm(0.5kg･m)
- カウリング
- プレートワッシャ⑤
- ハンドルシミーダンパ⑥
- ハンドルシミーダンパ前側取付ナット⑦ 23Nm(2.3kg･m)
- ハンドルシミーダンパ前側取付ボルト⑧ 23Nm(2.3kg･m)

要　点

ステアリングナットのネジ部にヤマハグリースBを塗布して組付ける。

⚠注　意

アウタチューブ外周面およびハンドルクラウンの接触面の油脂類をシンナー等で拭き取ってから組付けること。



JC36V003

ハンドルシミーダンパ減衰力調整

1. 以下の調整をします。
- 減衰力

  アジャスタ①で調整します。(前方からみて)

  硬くするⓐ→ アジャスタを時計回転方向に回します。(減衰力を強くする。)

  柔らかくするⓑ→ アジャスタを反時計回転方向に回します。(減衰力を弱くする。)

	調整範囲	
	最　硬	軽く一杯に締込んだ位置
	最　柔	軽く一杯に戻した位置

2. アジャスタ標準位置
アジャスタを軽く一杯に戻した位置から規定段数締込んだ位置です。

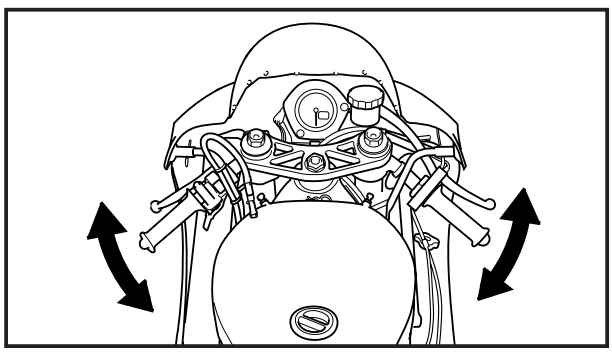
	標準位置 0段締込み

要　　点

アジャスタを軽く一杯に戻した位置から締込んで、最初にノッチ音のする位置を0段目とする。アジャスタを軽く一杯に戻した位置でノッチ音がした場合は、その位置も0段目とする。

⚠注　意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。

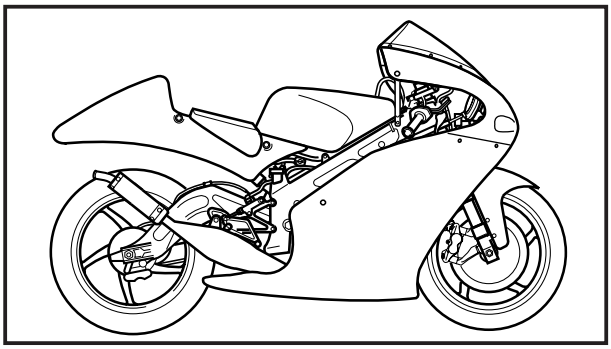


JC36X002
ケーブル類の引っ掛かり

1. 以下の点検をします。
- ステアリングの動き
ハンドルを左右に切った時、各ケーブル、ワイヤ類に引っ掛かりがないか、無理にこすっていないか点検します。
引っ掛かり、こすれ→修正または交換

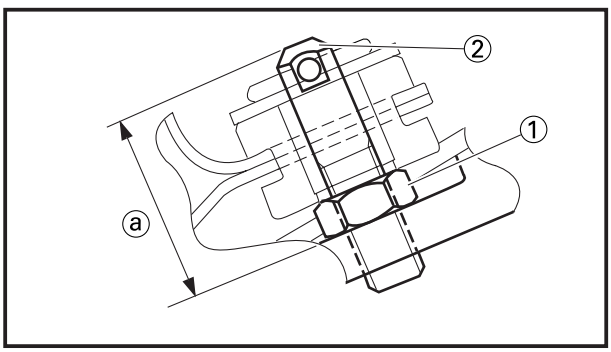
JC36Y002
各部の増締めおよびからげ線の確認

1. 各部規定の締付トルクで点検、増締めを行います。
第2章―締付トルク一覧表参照
2. からげ線の必要箇所を点検します。
からげ線の項目参照



JC36Z002
カウリング取付け状態確認

1. 以下の点検をします。
- カウリング
  カウリングの取付けにがたがないか、フロントフォークをストロークさせた時に他部品との当りがないか点検します。
  がた、当り→修正または交換
- ウインドシールド
  ウインドシールドに傷、くもりはないか点検します。
  傷、くもり→修正または交換



JC36e000
フュエルタンク取付け状態確認

1. 以下の点検をします。
- フュエルタンク取付け部のがた
  がたがある→調整
2. ナット①をゆるめ、ボルト②を半回転締込んだ後、ナットで固定します。がたがなくなるまで繰り返します。

⚠注　意

ボルトの突出し寸法ⓐが29㎜以上にならないように注意すること。

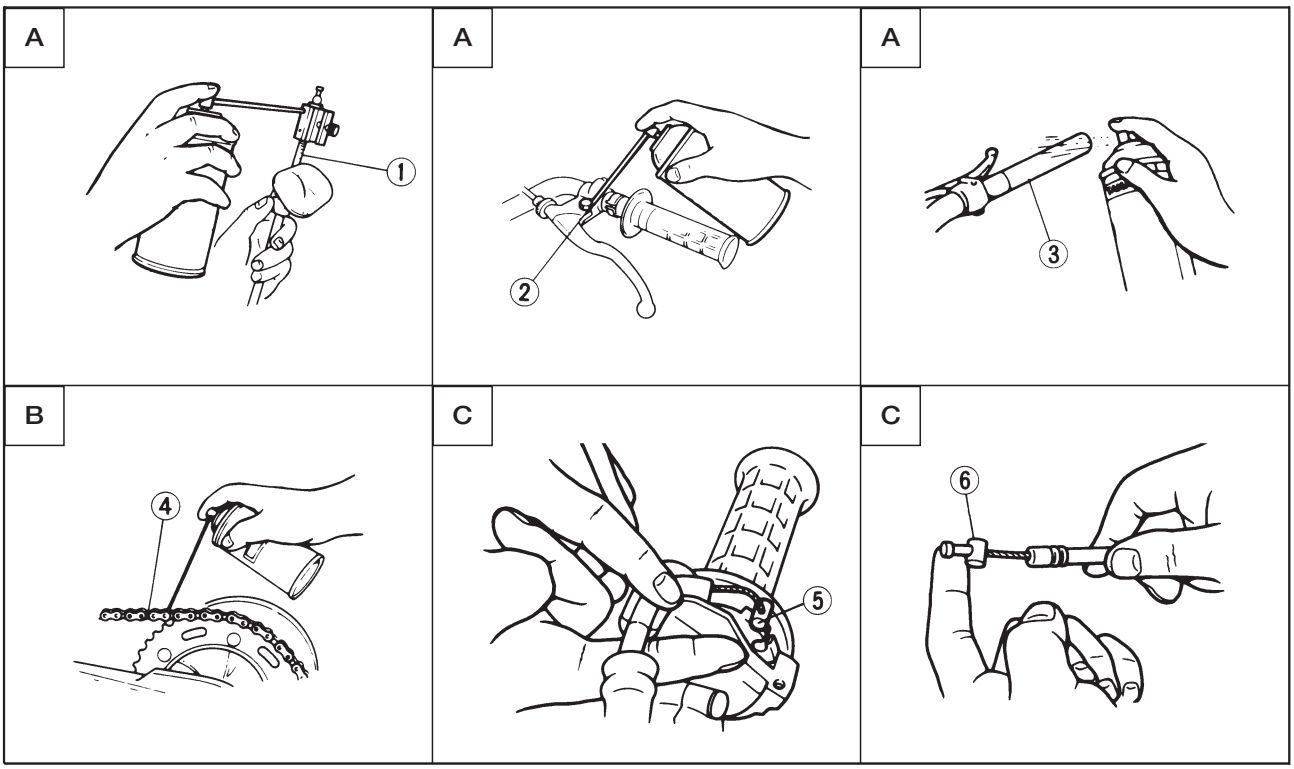
3. 以下の部品を締付けます。
- ナット　20Nm(2.0kg･m)

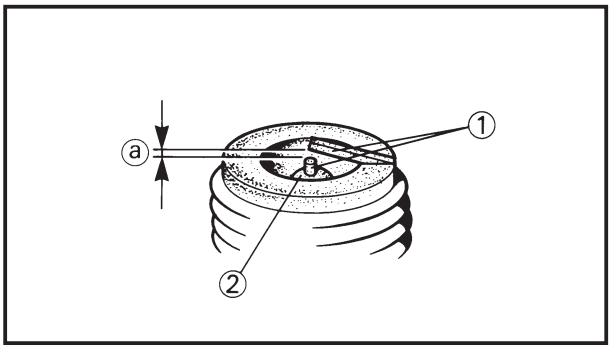
JC36a025

車体各部の給油

①すべてのケーブル類（ケーブルインジェクタ使用）
②ブレーキ、クラッチレバーピボット部
③スロットルグリップ摺動部
④ドライブチェン
⑤スロットルケーブルエンド部
⑥クラッチケーブルエンド部

ⒶヤマハME（スーパー防錆潤滑浸透剤）
ⒷヤマハME（スーパーチェンオイル　ドライタイプ）
　ヤマハME（スーパーチェンオイル　ウェットタイプ）
ⒸヤマハME-180（ワイヤグリース）





JC370000
電装

JC371005
スパークプラグ点検

1. 以下の部品を取外します。
- スパークプラグ

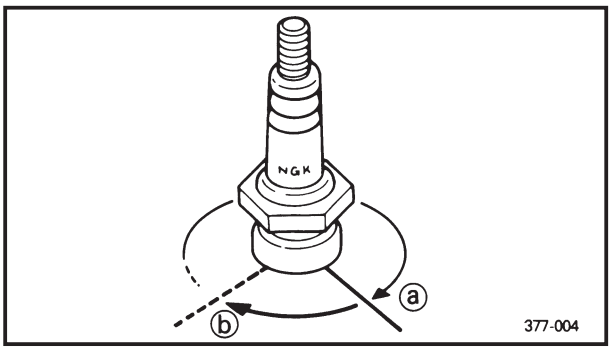
2. 以下の点検をします。
- スパークプラグ電極回り①
  焼損のあるもの→交換
  汚れ、堆積物のあるもの→プラグクリーナ、ワイヤブラシ等で清掃
- 絶縁碍子②の色
  淡いきつね色が正常です。
  第７章―セッティング編参照
- プラグギャップⓐ

	プラグギャップ 0.5～0.6㎜

規定値外→側方電極を側げて調整

要　　点

低回転で長時間走行すると、絶縁碍子の色はエンジン、キャブレタが正常でも黒くなる。



3. 以下の部品を組付けます。
- スパークプラグ　19Nm(1.9kg･m)
  指先で一杯に締付けてⓐから規定のトルクでⓑまで締付けます。

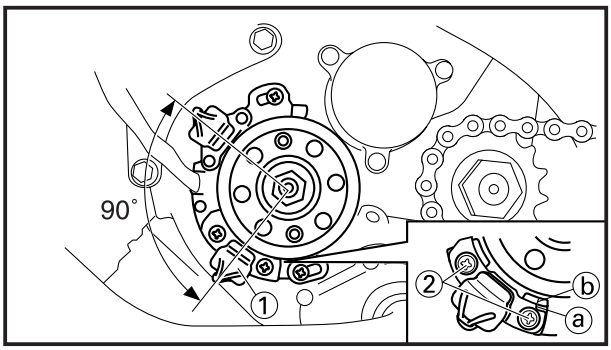
要　　点

規定の締付トルクを超えて締付けない。

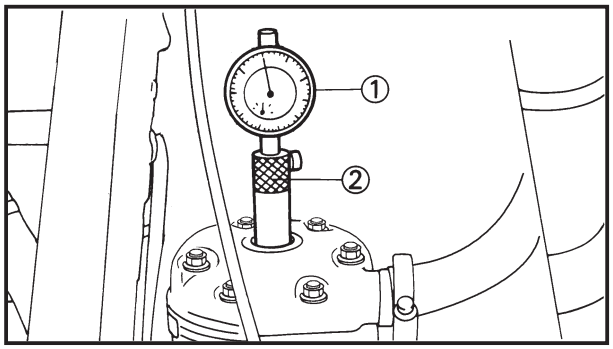
JC372070
点火時期調整

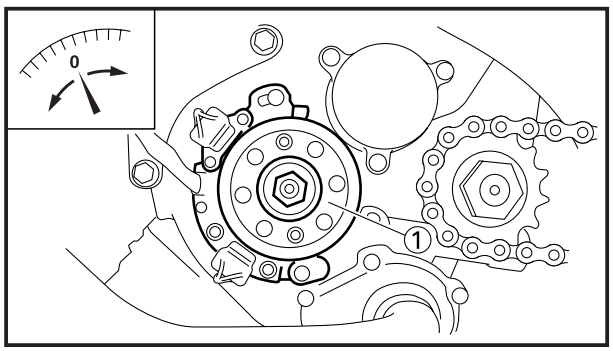
要　　点

- 点火時期の調整は、左気筒側のみ調整を行うことで右気筒側の点火時期も合うように右気筒ピックアップコイル①がセットされているので、右気筒ピックアップコイル取付スクリュ②はゆるめない。
- 右気筒ピックアップコイル切欠き部ⓐとステータ合マークⓑが合っている時、右気筒ピックアップコイルが左気筒ピックアップコイルに対し90°の角度となり両気筒の点火時期が一致している状態を示す。



点火時期調整





1. 以下の部品を取外します。
- カウリング
- フュエルタンク
- スパークプラグ

2. 以下のツールを取付けます。
- ダイヤルゲージ①
- ダイヤルゲージスタンド②

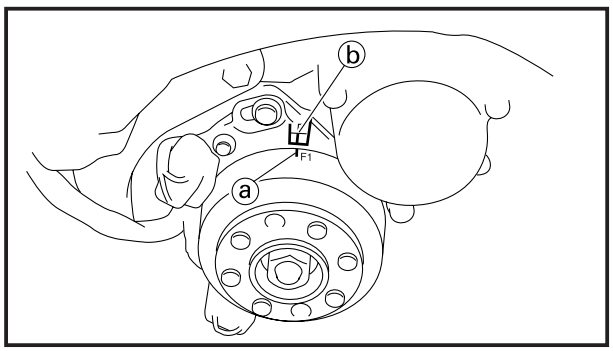
左気筒シリンダヘッドに取付けます。

	ダイヤルゲージ&スタンドセット 90890-01252

3. ロータ①を反時計回転方向に回し、ピストンを上死点（ダイヤルゲージの針の回転方向が変る点）に合せます。
4. ダイヤルゲージの目盛を“0”にセットします。

5. 上死点より、ロータを時計回転方向に点火時期分回します。
（ダイヤルゲージで読み取ります。）

	点火時期 B.T.D.C 2.4㎜

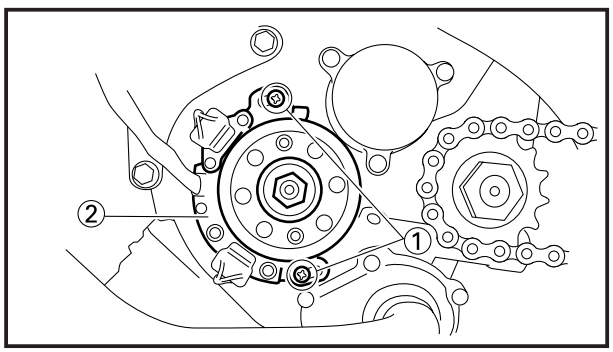


6. 以下の点検をします。
- 点火時期

ロータ合マークⓐとステータ合マークⓑが一致しているか点検します。
一致していない→調整

要　　点

ロータ合マークは“F1”の合マークを合せる。



7. 以下の調整をします。
- 点火時期

ステータ取付スクリュ①をゆるめステータ②を動かしステータ合マークをロータ合マークに合せます。

8. 以下の部品を締付けます。
- ステータ取付スクリュ　7Nm(0.7kg･m)

9. 以下の確認をします。
- 点火時期

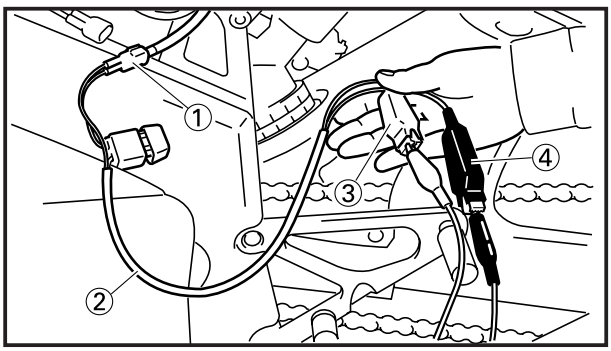
  点火時期の再確認をします。

JC375000

バッテリ点検

⚠警　告

バッテリ取扱い上、危険防止の為、バッテリラベルの記載事項を守ること。



1. 電源カプラ①に付属のリード線②を接続します。
2. 以下の点検をします。
- バッテリ電圧

  テスタ⊕赤リード線→リード線赤端子③

  テスタ⊖黒リード線→リード線黒端子④

	バッテリ電圧	テスタレンジ位置
	12.5V以上	DCV-20

規定値以外→補充電

JC376002

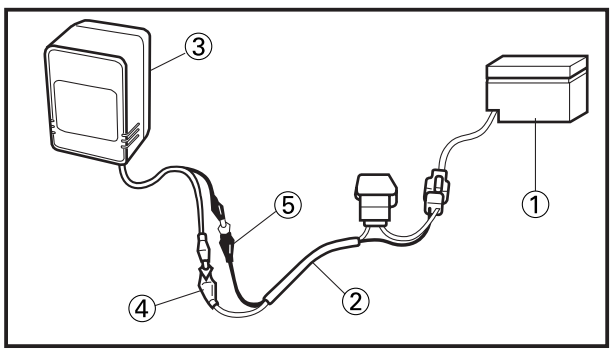
バッテリ補充電

⚠警　告

- **火気厳禁。**
- **充電はバッテリ単体に、付属のリード線を使用して行うこと。**
- **充電は必ず規定の電流および電圧で行うこと。**
- **急速充電は行わないこと。**
- **バッテリ交換は必ずTZ250指定の密閉タイプバッテリを使用すること。**

要　　点

バッテリの補充電はMF専用バッテリチャージャーを使用する方法と自動車バッテリを使用する方法がある。



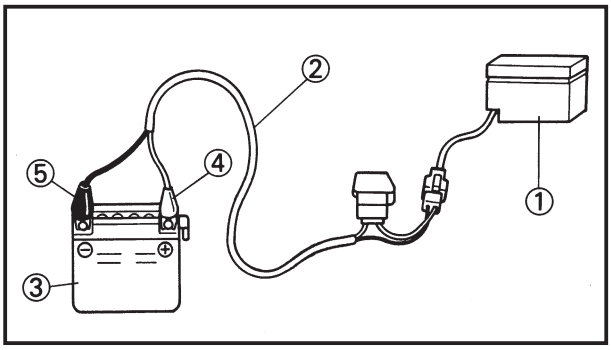
〔MF専用バッテリチャージャーを使用する方法〕

1. 以下の部品を取外します。
   - シート
   - バッテリ
2. バッテリ①に付属のリード線②を使用して、MF専用バッテリチャージャー③を接続し補充電をします。
   バッテリチャージャー⊕赤リード→リード線赤端子④
   バッテリチャージャー⊖黒リード→リード線黒端子⑤

	MF専用バッテリチャージャー GS TYPE BC-601-12V
	充電時間 5時間
	充電完了値 12.8V以上

⚠注　意

充電中、リード線の赤端子と黒端子が接触しないように注意すること。



〔自動車バッテリを使用する方法〕

▲注　意

- **電源用自動車バッテリは12V20Ah以上のバッテリを使用し、電圧が12.8～13.2Vあるバッテリを使用すること。**
- **充電中、自動車のエンジンをかけるなどして電源用バッテリに充電をしないこと。**
- **電源用バッテリには、バッテリを1つしか接続しないこと。**

1. 以下の部品を取外します。
- シート
- バッテリ

2. バッテリ①に付属のリード線②を使用して、自動車バッテリ③を接続し補充電をします。
自動車バッテリ⊕端子→リード線赤端子④
自動車バッテリ⊖端子→リード線黒端子⑤

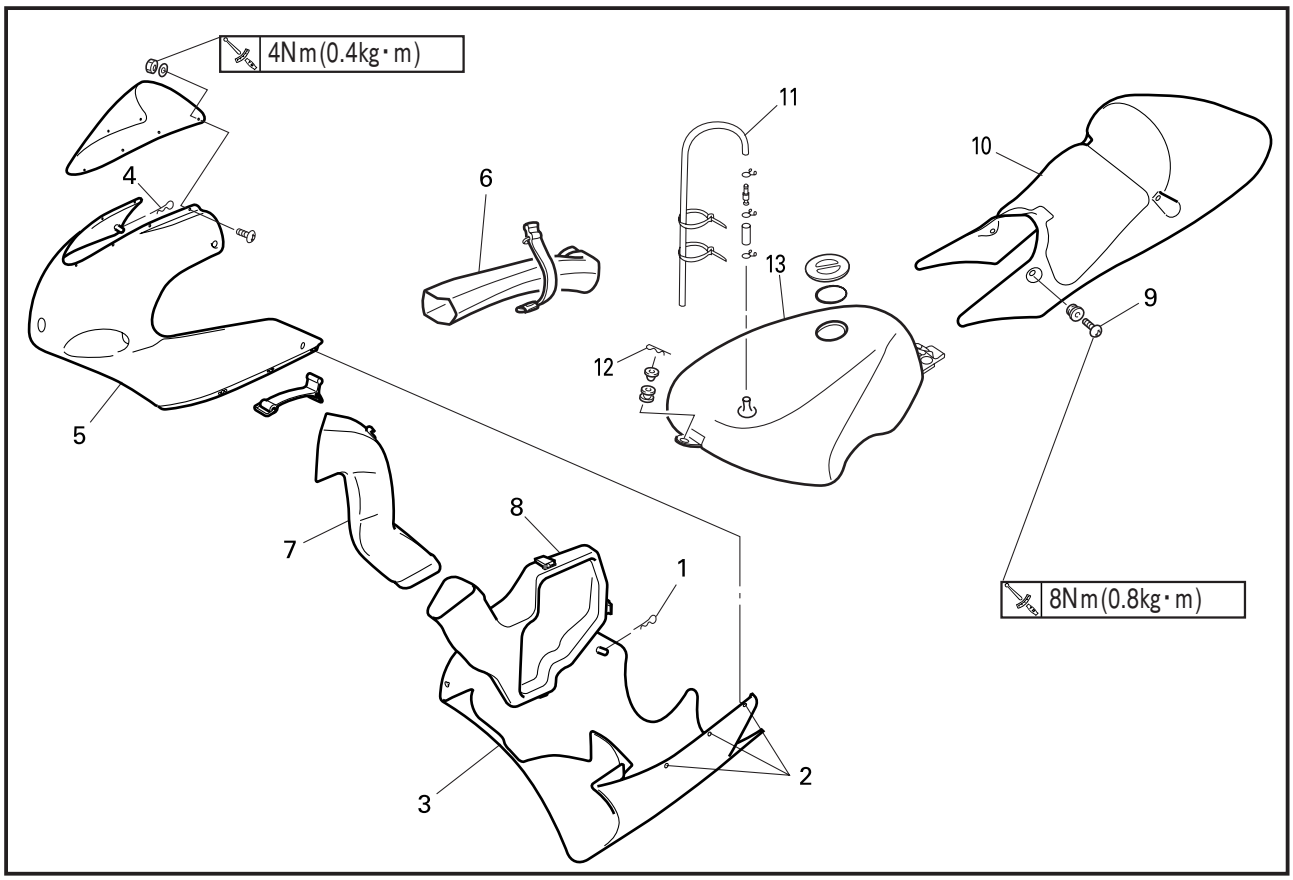
	充電時間 3時間
	充電完了値 12.8V以上（または12.5V以上） 電源用自動車バッテリ電圧 12.8～13.2V（最大14.9V）

要　　点

自動車バッテリを使用して充電する場合、電源用バッテリの状態により充電完了値が12.8V以上にならない場合がある。この場合12.5V以上を充電完了値とする。

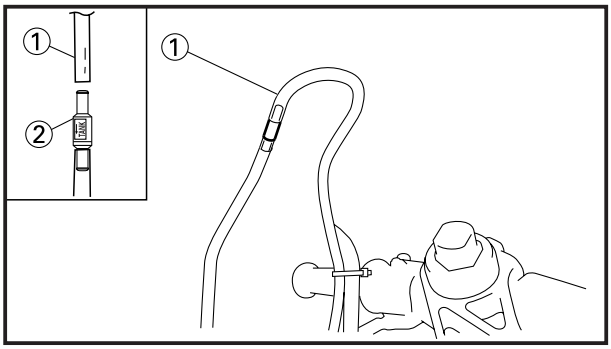
JC400000
エンジン編

JC4V0000
カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク



作業範囲　①カウリング取外し　②インダクションガイド取外し　③シート取外し
④フュエルタンク取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク取外し		
関連作業		フュエルコックをOFFにする		
		フュエルパイプを取外す		
① ②	1	アンダカウリング取付クリップ	1	
	2	ワンタッチスクリュ	5	
	3	アンダカウリング	1	
	4	アッパカウリング取付クリップ	3	
	5	アッパカウリング	1	
	6	左気筒インダクションダクト	1	
	7	右気筒インダクションダクト	1	
	8	右気筒インダクションガイド	1	
③	9	シート取付スクリュ	4	
	10	シート	1	
④	11	フュエルタンクブリーザパイプ	1	取外しのポイント参照
	12	フュエルタンク取付クリップ	1	
	13	フュエルタンク	1	



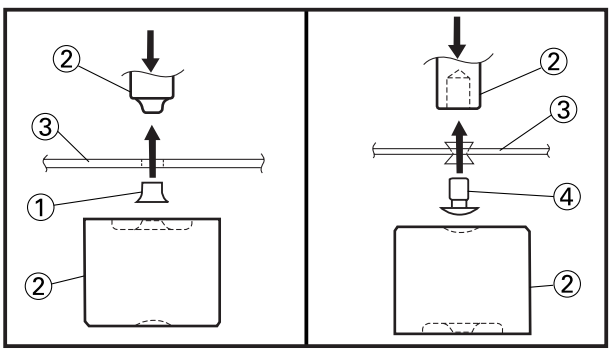
JC4V3000
取外しのポイント

JC4U3100
フュエルタンクブリーザパイプ取外し

1. 以下の部品を取外します。
- フュエルタンクブリーザパイプ①

要　　点

フュエルタンク内圧による燃料吹き出し防止のため、フュエルタンクブリーザパイプはワンウェイバルブ②をフュエルタンク側に残した状態で取外す。



組付け

ワンタッチスクリュ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- リベット①
  ワンタッチスクリュ組付け工具（ヤマハ推奨品②）を使用してアンダカウリング③に組付けます。

要　　点

リベットがアンダカウリングから抜け落ちない程度に仮組付けする。

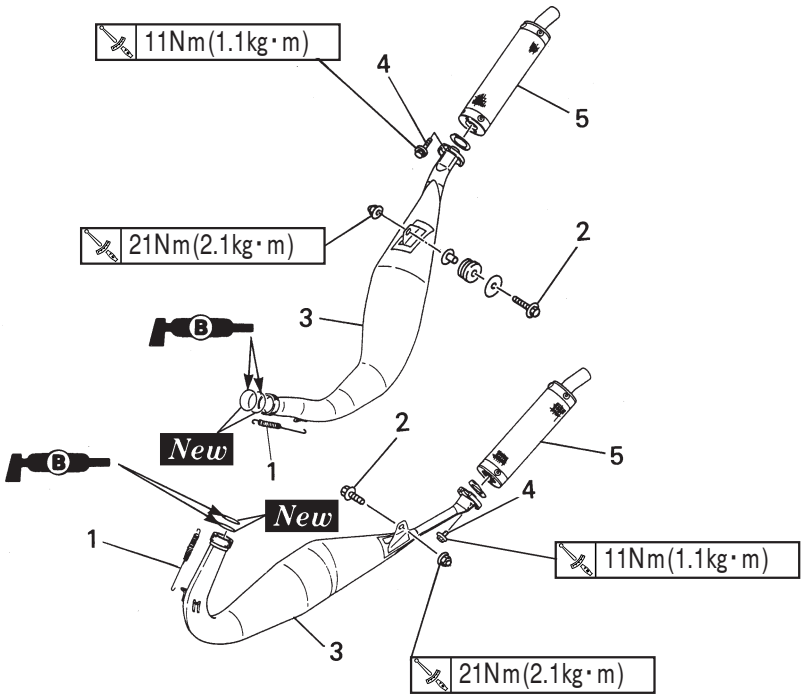
2. ワンタッチスクリュ組付け工具（ヤマハ推奨品②）を使用してワンタッチスクリュ④をカシメます。

要　　点

カシメ後、スクリュがスムーズに作動するか確認する。

4

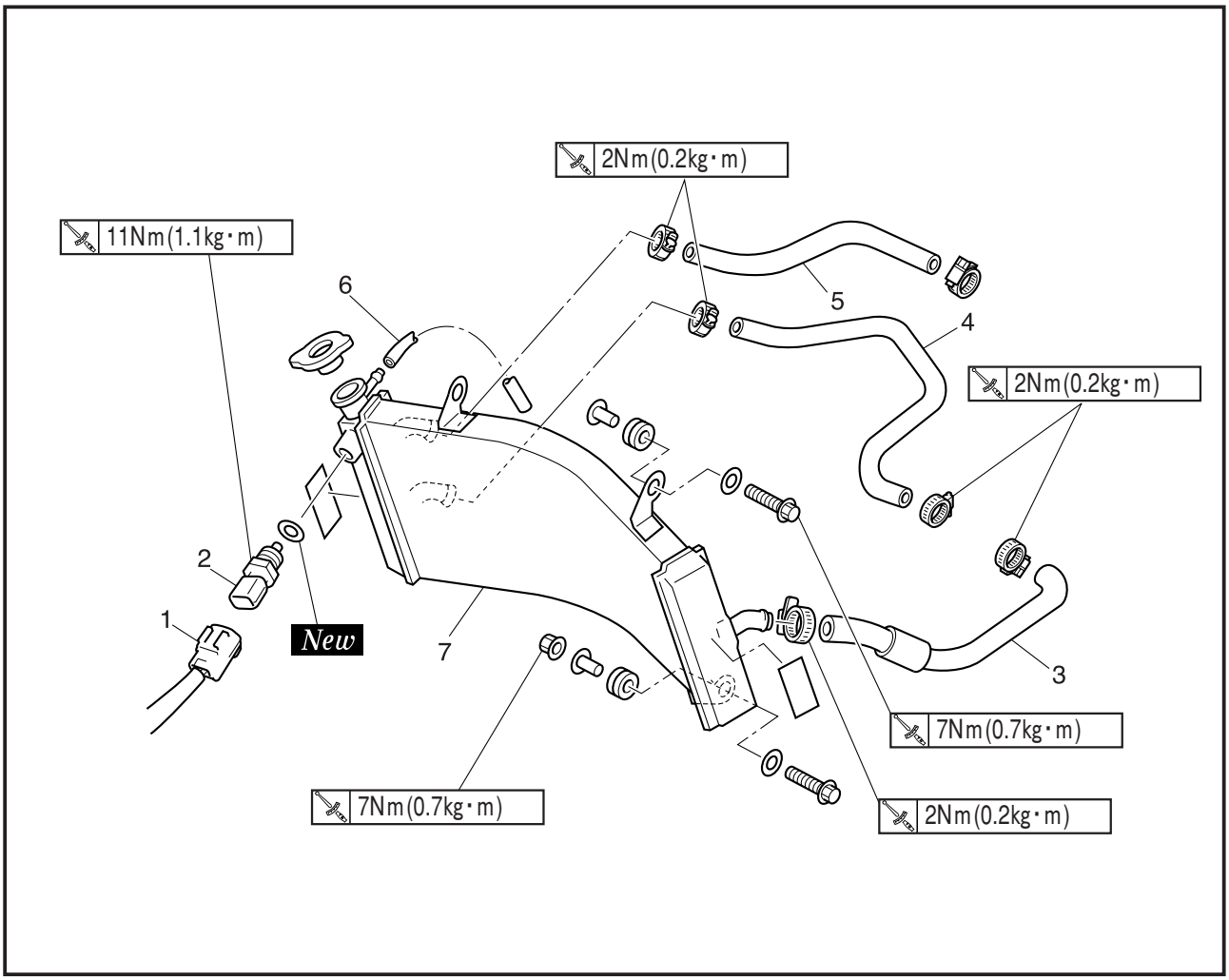
JC4S0000
マフラ、サイレンサ



作業範囲　①マフラ取外し　②サイレンサ取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**マフラ、サイレンサの取外し** アンダカウリング		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
①	1	テンションスプリング	各2	
①	2	マフラ取付ボルト	各1	
①	3	マフラ	各1	
②	4	サイレンサ取付ボルト	各2	
②	5	サイレンサ	各1	

JC450000
ラジエタ



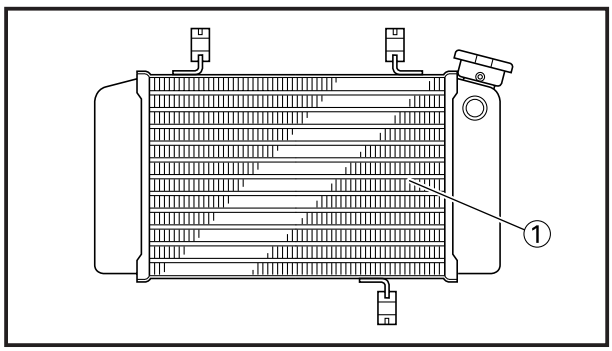
作業範囲　①ラジエタ取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**ラジエタの取外し** カウリング、インダクションガイド、フュエルタンク 冷却水を抜く		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照 第3章―冷却水の交換参照
①	1	水温計リード線	1	カプラを切離す
	2	サーモユニット	1	
	3	ラジエタホース2	1	
	4	ラジエタホース4	1	
	5	ラジエタホース3	1	
	6	ブリーザパイプ	1	
	7	ラジエタ	1	

JC456000
取扱い上の注意

⚠警　告

- **エンジン停止直後は冷却水が高温のためラジエタの取外し、点検はエンジンが冷えてから行うこと。**
- **冷却水温度が100℃以上あると思われるときはラジエタキャップを取外さないこと。**



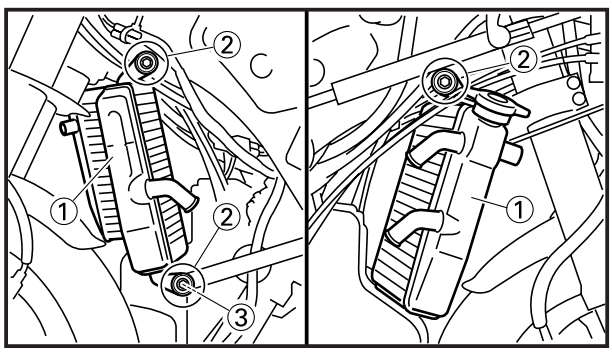
JC454000
点検

JC444101
ラジエタ点検

1. 以下の点検をします。
- ラジエタ①

  ラジエタコアの詰り→後方よりエアを吹いて清掃

  ラジエタフィンの曲り→修正

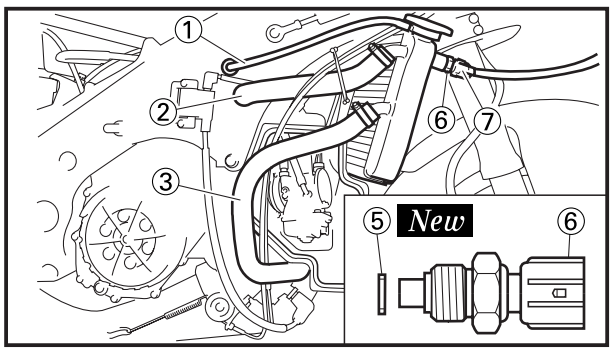


JC455000
組付け

JC455141
ラジエタ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- ラジエタ①
- ラジエタ取付③　7Nm(0.7kg･m)
- ラジエタ取付ナット③　7Nm(0.7kg･m)

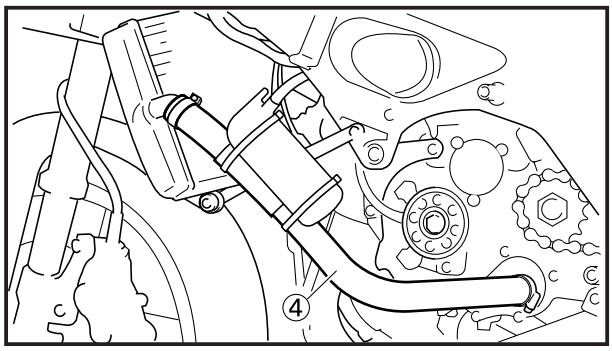
2. 以下の部品を組付けます。
- ブリーザパイプ①
- ラジエタホース3②　2Nm(0.2kg･m)
- ラジエタホース4③　2Nm(0.2kg･m)
- ラジエタホース2④　2Nm(0.2kg･m)
- ガスケット⑤ ***New***
- サーモユニット⑥　11Nm(1.1kg･m)
- 水温計リード線⑦



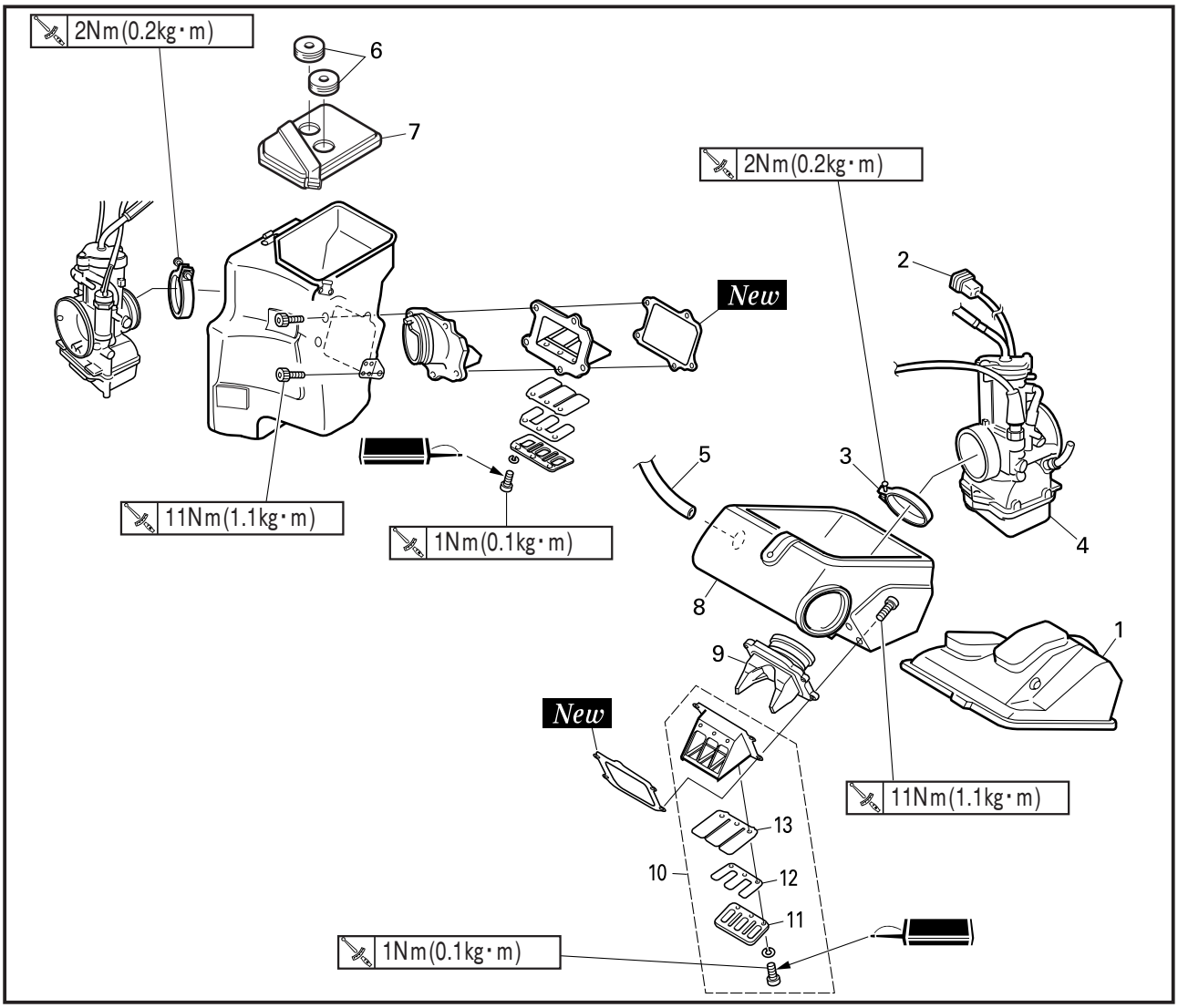
要　　点

ブリーザパイプ先端をタンクレール右の孔へ差込む。

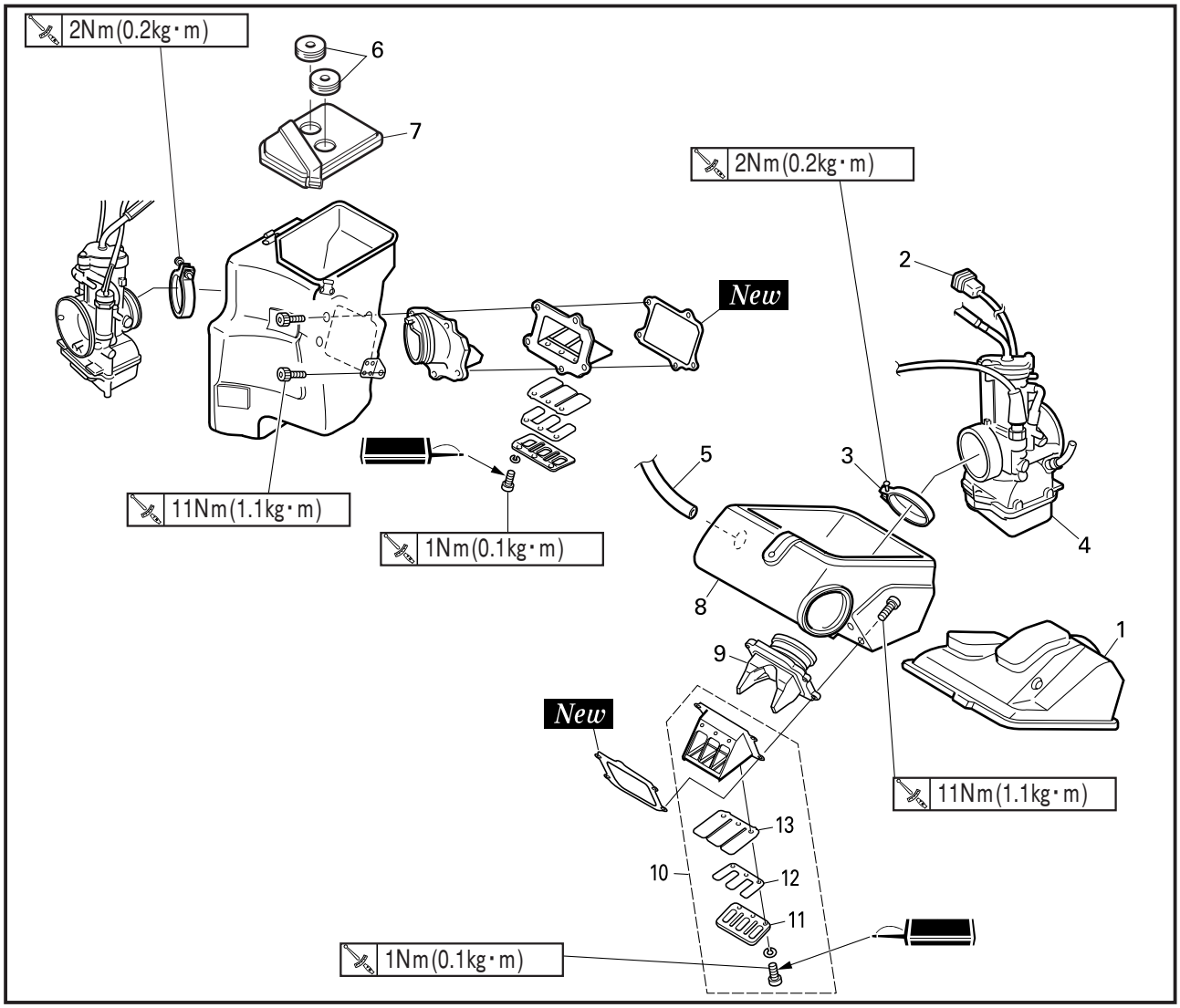
（第１章― エンジン始動基本知識の項目参照）



JC460000
キャブレタ、リードバルブ



作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**キャブレタ、リードバルブの取外し**		
		カウリング、インダクションガイド		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
		フュエルタンク		
		左気筒プラグキャップ		右気筒作業時
		ラジエタホース3		ラジエタ参照
		ラジエタステー取付ボルト		ラジエタを前にずらす
		左気筒マフラテンションスプリング		

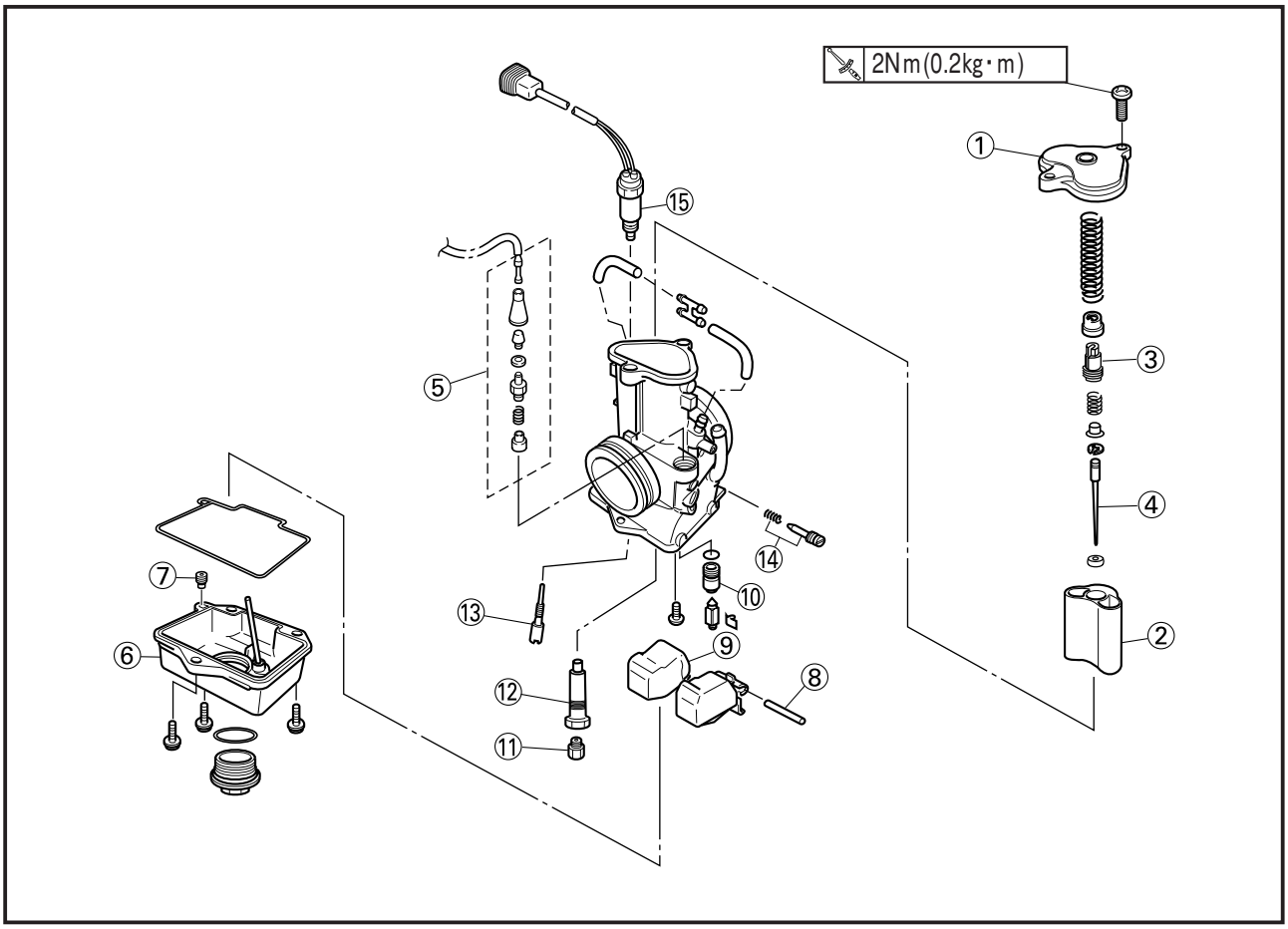


作業範囲　①キャブレタ取外し　②リードバルブ取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　考
① ②	1	左気筒インダクションキャップ	1	左気筒作業時
	2	ソレノイドバルブリード線	各1	カプラを切離す
	3	クランプ（キャブレタジョイント）	各1	クランプをゆるめる
	4	キャブレタAss'y	各1	
	5	フュエルパイプ	各1	
②	6	グロメット	2	スリットをつまみ上げ取外す } 右気筒
	7	右気筒インダクションキャップ	1	} 作業時
	8	インダクションボックス	各1	
	9	キャブレタジョイント	各1	
	10	リードバルブAss'y	各1	
	11	リードバルブストッパ	各2	
	12	リードバルブ2	各2	
	13	リードバルブ1	各2	

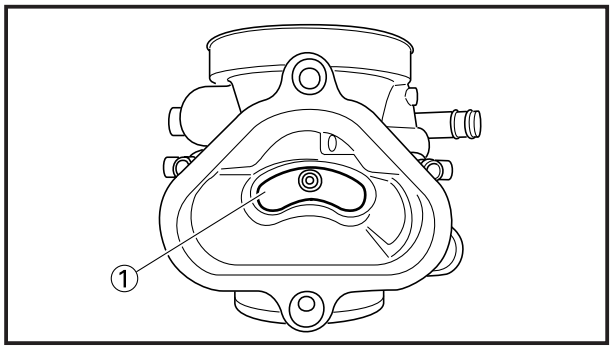
JC468000

キャブレタの分解



作業範囲　①キャブレタ分解

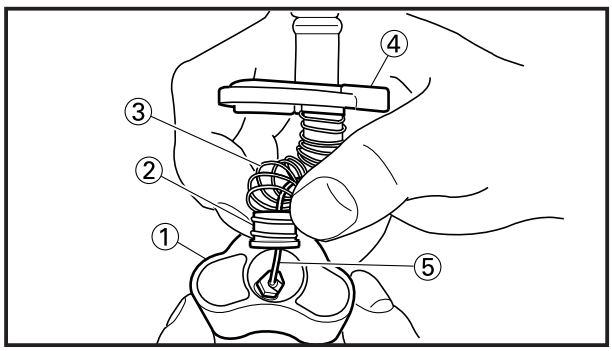
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		キャブレタの分解		
①	①	ミキシングチャンバトップ	各1	
	②	スロットルバルブ	各1	取外しのポイント参照
	③	ニードルホルダ	各1	
	④	ジェットニードル	各1	
	⑤	スタータプランジャ	各1	
	⑥	フロートチャンバボディ	各1	
	⑦	パワージェット	各1	
	⑧	フロートピン	各1	
	⑨	フロート	各1	
	⑩	バルブシート	各1	
	⑪	メインジェット	各1	
	⑫	メインノズル	各1	
	⑬	パイロットジェット	各1	
	⑭	エアスクリュ	各1	
	⑮	ソレノイドバルブ	各1	



JC466010
取扱い上の注意

⚠注　意

キャブレタ性能低下の原因となりますのでベンチュリブロック①は分解しないこと。



JC463000
取外しのポイント

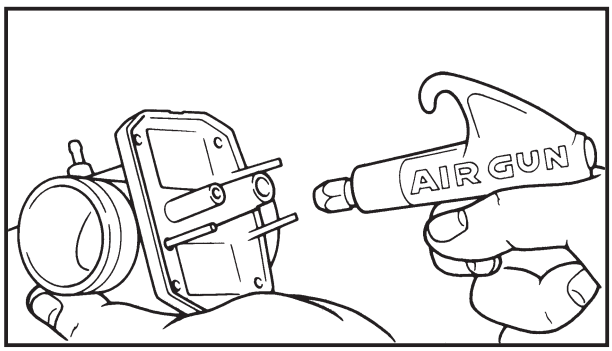
JC463110
スロットルバルブ取外し

1.以下の部品を取外します。

- スロットルバルブ①
- リング②
- スロットルバルブスプリング③
- ミキシングチャンバトップ④
- スロットルケーブル⑤

要　　点

スロットルバルブスプリングを圧縮し、スロットルバルブよりスロットルケーブルを取外す。



JC464000
点検

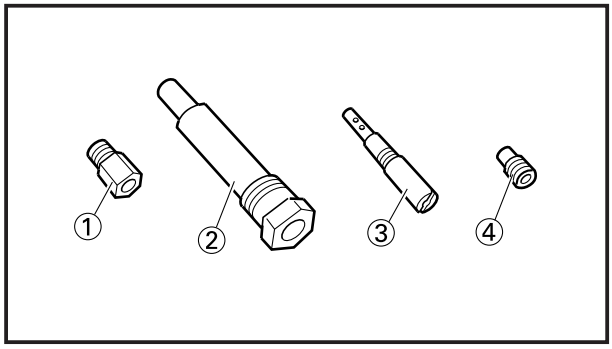
JC464121
キャブレタ清掃

1. 以下の部分にエアを通します。

- エア通路
- 燃料通路

要　　点

針金等を使用して清掃しない。

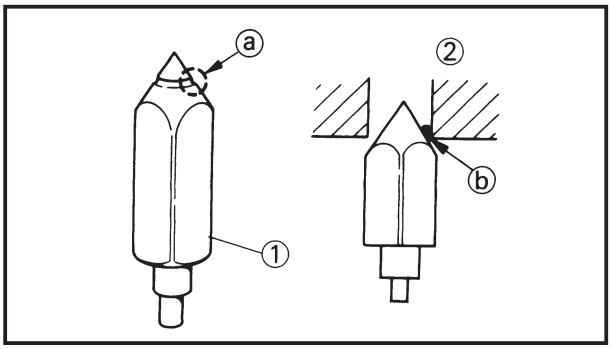


2. 以下の部分にエアを通します。

- メインジェット①
- メインノズル②
- パイロットジェット③
- パワージェット④

要　　点

針金等を使用して清掃しない。



JC464200

ニードルバルブ点検

1. 以下の点検をします。

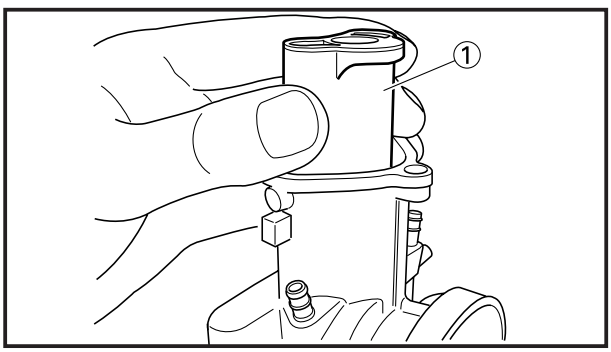
- ニードルバルブ①
- バルブシート②

  バルブに傷、段付摩耗ⓐのあるもの→交換

  バルブとバルブシート間にゴミⓑのあるもの→清掃

要　　点

交換時、ニードルバルブ、バルブシートをセットで交換する。



JC464300

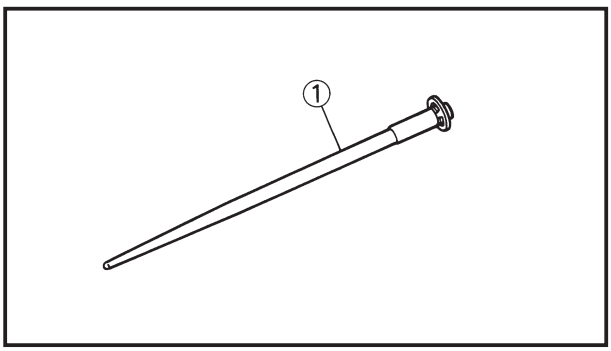
スロットルバルブ点検

1. 以下の点検をします。

- スロットルバルブの動き

  スロットルバルブ①をキャブレタに組付け、動きを点検します。

  引っ掛かり→修正または交換



JC464420

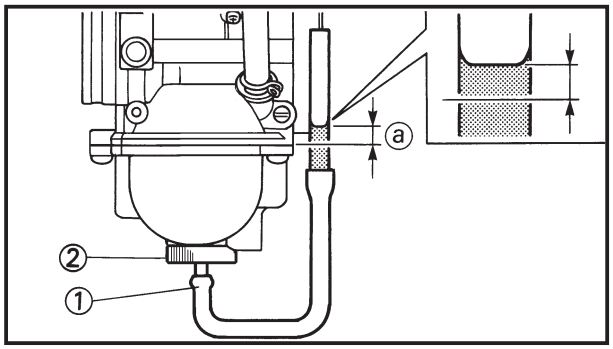
ジェットニードル点検

1. 以下の点検をします。

- ジェットニードル①

  曲り、損傷、摩耗→交換

  クリップ溝の摩耗、がた→交換



JC464800
実油面点検

1. 以下の部品を取外します。
- ドレンプラグ

2. 以下のツールを取付けます。
- フュエルレベルゲージ①
- フュエルレベルアダプタ②

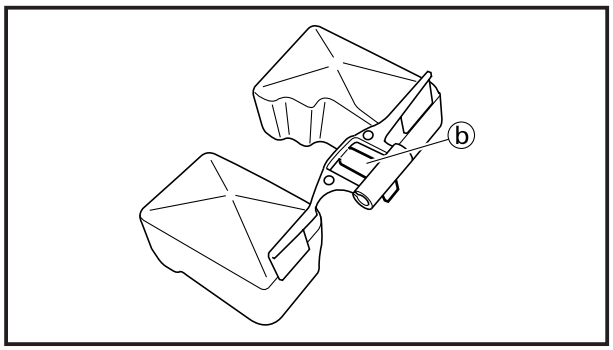
	フュエルレベルゲージ① 90890-01312 フュエルレベルアダプタ② 90890-01470

3. 以下の点検をします。
- フュエルレベルⓐ

  フュエルレベルゲージをミキシングボディとフロートチャンバボディとの合面に合せ、フュエルレベルを読取ります。

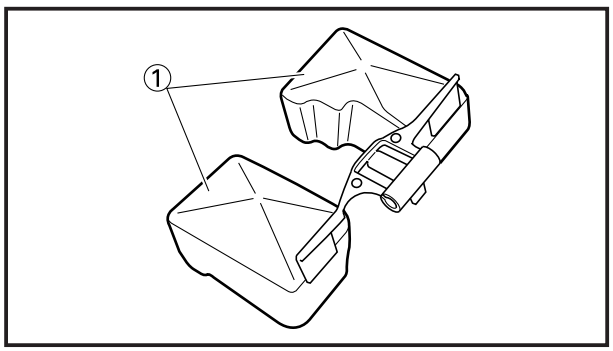
要　　点

キャブレタ、フュエルレベルゲージを垂直に保ち点検する。



	フュエルレベル 6.0～7.0㎜

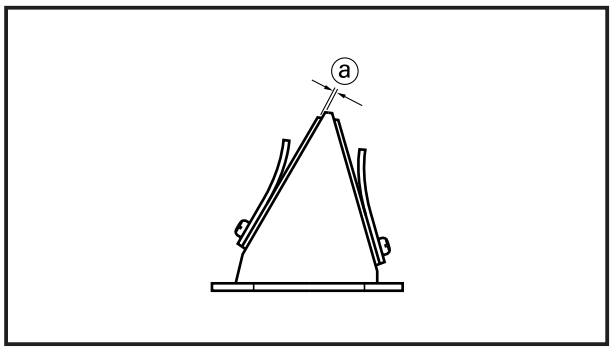
規定値以外→フロートアームのベロ部ⓑを曲げて調整



JC464600
フロート点検

1. 以下の点検をします。
- フロート①

  損傷→交換



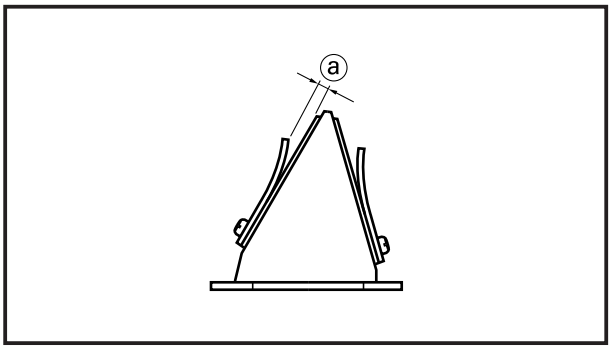
JC464700
リードバルブ点検

1. 以下の点検をします。
- リードバルブAss'y

  亀裂、損傷→交換
- リードバルブとシートのすき間ⓐ

	すき間限度 0.2㎜以下

限度以上→交換

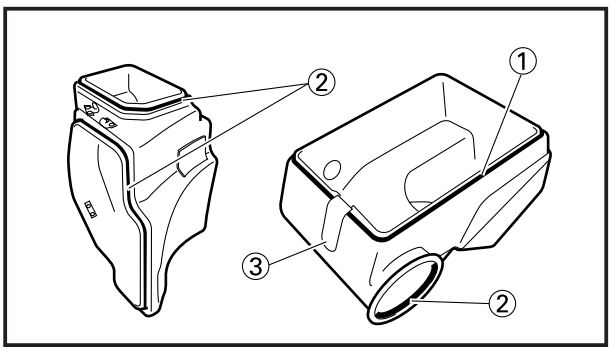


2. 以下の点検をします。

● リードバルブストッパ高さⓐ

標準ストッパ高さ値
6.5～6.9㎜

標準値以外→交換



JC464902

インダクションボックス点検

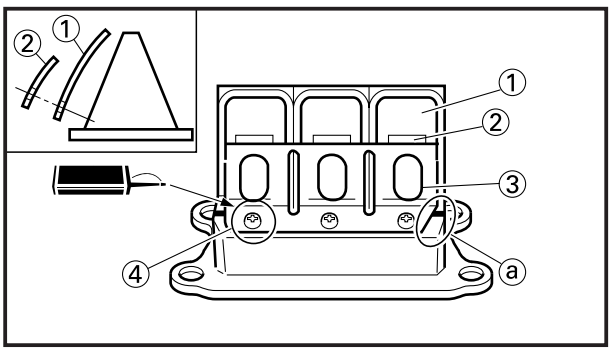
1. 以下の点検をします。

● シール1（d=φ4㎜）①
はがれ→瞬間接着剤で貼付ける
亀裂、劣化、損傷→同梱パーツのシールと交換

● シール2（d=φ3㎜）②
はがれ→瞬間接着剤で貼付ける
亀裂、劣化、損傷→インダクションボックスAss'yで交換

要　　点

同梱パーツのシールに交換する時は、グロメット③に接する長さにカットしてねじれないように瞬間接着剤で貼付ける。



JC465000

組付け

JC465181

リードバルブ組付け

1. 以下の部品を組付けます。

● リードバルブ１①

● リードバルブ２②

● リードバルブストッパ③

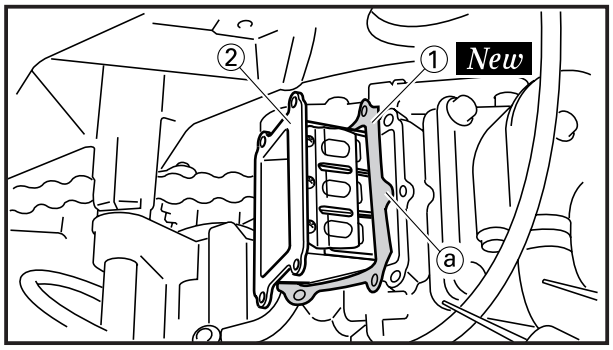
● リードバルブ取付スクリュ④

1Nm(0.1kg･m)

要　　点

● リードバルブのソリのある方をリードバルブAss'y側にし、リードバルブ、リードバルブストッパの切欠きⓐを合せて組付ける。

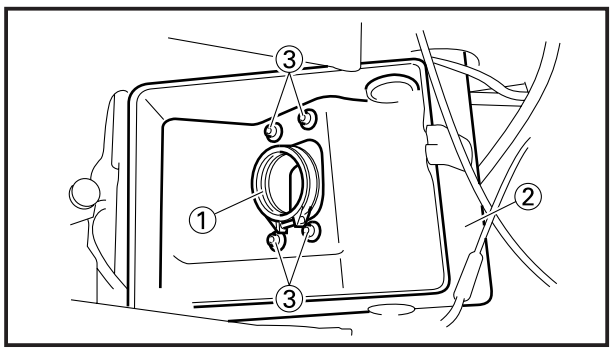
● リードバルブ組付け時、リードバルブが反らないように各々のスクリュを徐々に締付ける。



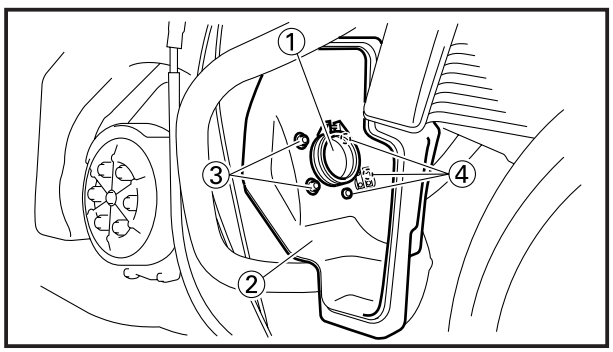
2. 以下の部品を組付けます。
- バルブシートガスケット① **New**
- リードバルブAss'y②

要　　点

左気筒バルブシートガスケットは突起部ⓐを上側にし、シール剤塗布側をケース側に向けて組付ける。



3. 以下の部品を組付けます。
- キャブレタジョイント①
- インダクションボックス②
- キャブレタジョイント取付ボルト（ℓ=25㎜）③　11Nm(1.1kg･m)
- キャブレタジョイント取付ボルト（ℓ=20㎜）④　11Nm(1.1kg･m)

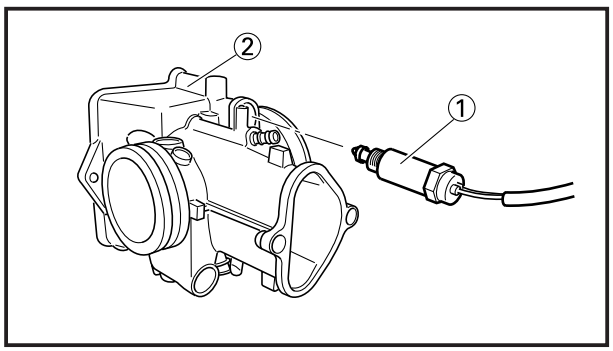


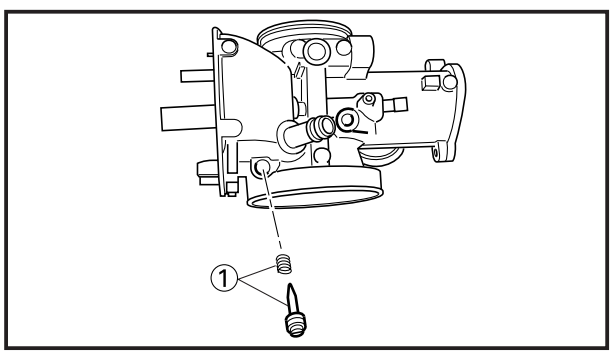
JC4652E1

キャブレタ組立

1. 以下の部品を組付けます。
- ソレノイドバルブ①

  キャブレタ②に組付けます。



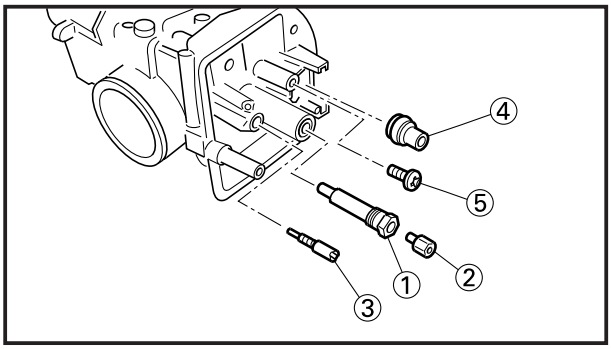


2. 以下の部品を組付けます。
- エアスクリュ①

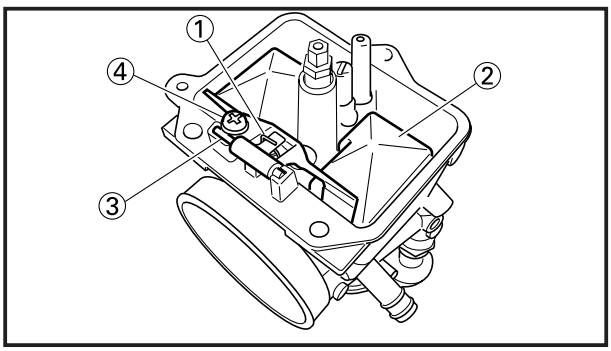
要　　点

エアスクリュを軽く一杯に締込み、標準戻し回転数だけ戻す。

	エアスクリュ標準戻し回転数 1-1/2



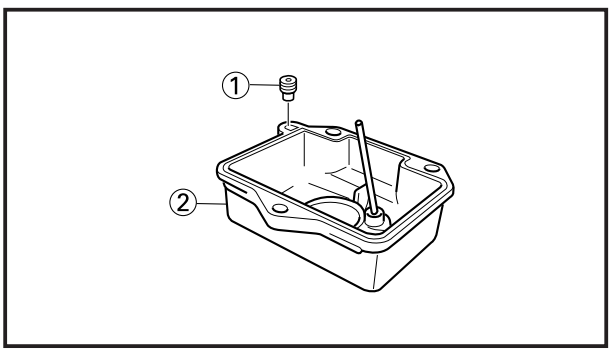
3. 以下の部品を組付けます。
- メインノズル①
- メインジェット②
- パイロットジェット③
- バルブシート④
- バルブシート取付スクリュ⑤



4. 以下の部品を組付けます。
- ニードルバルブ①
- フロート②
- フロートピン③
- フロートピン取付スクリュ④

要　点

組付け後、フロートアームの作動を確認する。

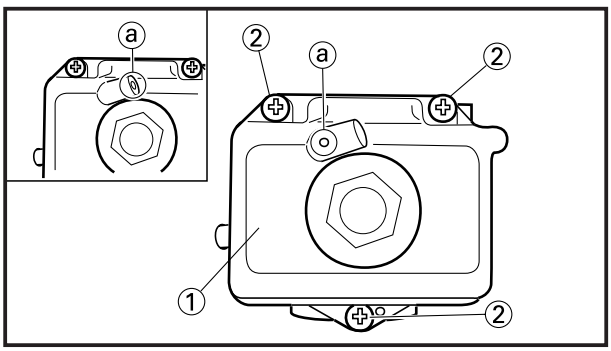


5. 以下の部品を組付けます。
- パワージェット①

  フロートチャンバボディ②に組付けます。

⚠注　意

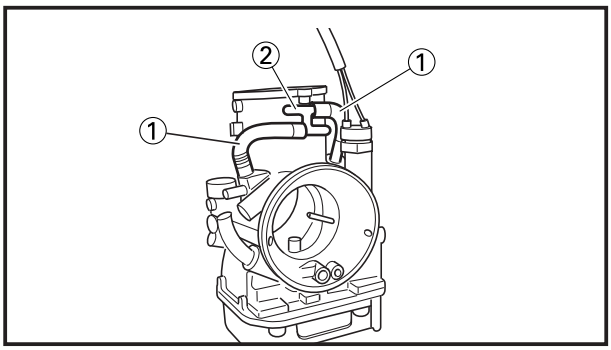
パワージェットを強く締付けすぎないこと。点検、交換等の際取外しにくくなる恐れがある。



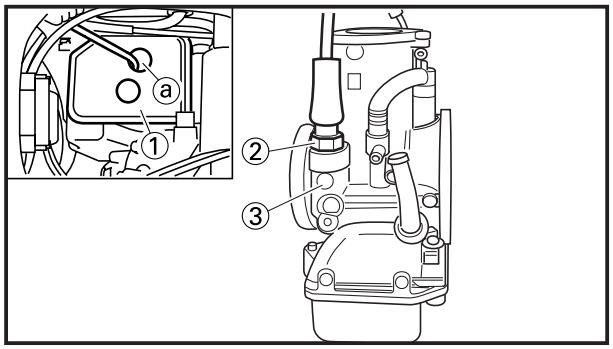
6. 以下の部品を組付けます。
- フロートチャンバボディ①
- フロートチャンバボディ取付スクリュ②

⚠注　意

フロートチャンバボディは、左右異なるので組付け間違えの無いように注意すること。左気筒フロートチャンバボディは、オーバーフロー孔ⓐが下向きに、右気筒は横向きになっている。



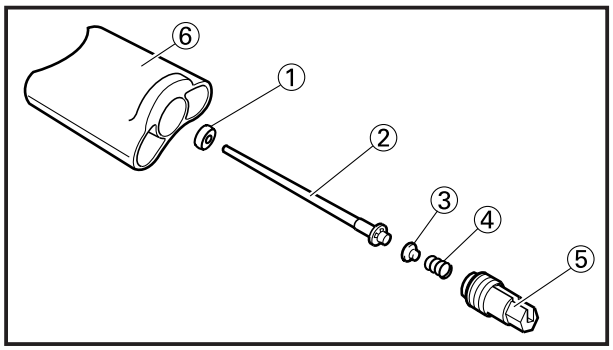
7. 以下の部品を組付けます。
- エアベントパイプ①
- ジョイント②



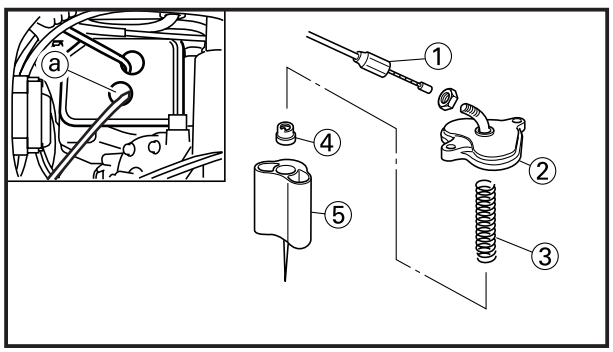
8. 以下の部品を組付けます。
- インダクションキャップ①（右気筒のみ）
- スタータプランジャ②
  キャブレタ③に組付けます。

要　　点

右気筒スタータプランジャはインダクションキャップの孔ⓐに通してから組付ける。
（第2章―ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図参照）



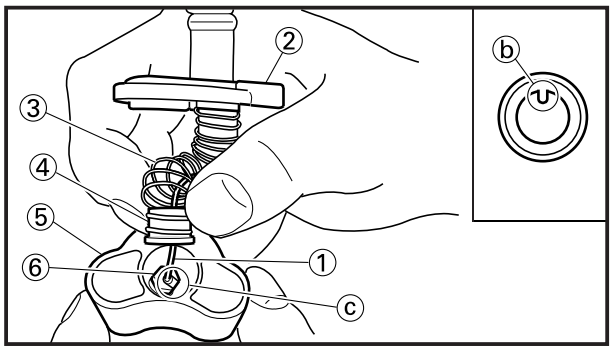
9. 以下の部品を組付けます。
- カラー①
- ジェットニードル②
- スプリングガイド③
- スプリング④
- ニードルホルダ⑤
  スロットルバルブ⑥に組付けます。

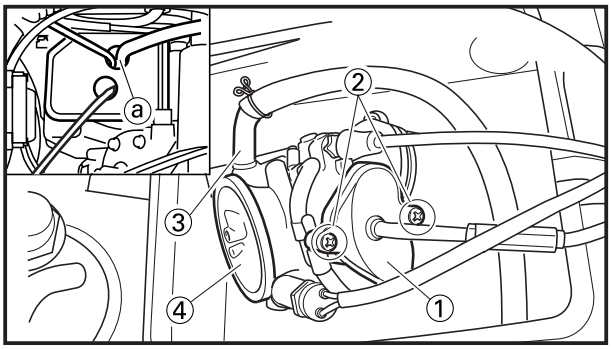


10. 以下の部品を組付けます。
- スロットルケーブル①
- ミキシングチャンバトップ②
- スロットルバルブスプリング③
- リング④
- スロットルバルブ⑤

要　　点

- 右気筒スロットルケーブルはインダクションキャップの孔ⓐに通してから組付ける。
  （第2章―ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図参照）
- スロットルバルブスプリングを圧縮して、スロットルバルブにスロットルケーブルを組付ける。
- リングの凸部ⓑをニードルホルダ⑥の溝ⓒに合せて組付ける。





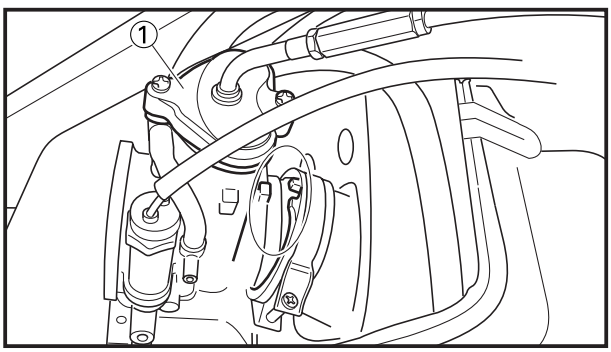
11. 以下の部品を組付けます。
- ミキシングチャンバトップ①
- ミキシングチャンバトップ取付スクリュ②

2Nm(0.2kg･m)

- フュエルパイプ③
  キャブレタ④に組付けます。

要　　点

- 右気筒フュエルパイプはインダクションキャップの孔ⓐに通してから組付ける。
  （第2章―ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図参照）
- 組付け後、スロットルバルブがスムーズに作動するか確認する。



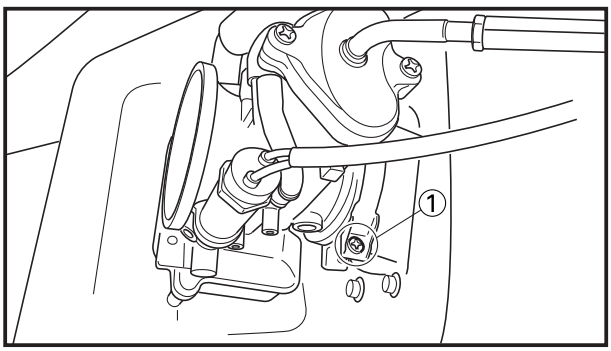
JC465371

キャブレタ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- キャブレタ①

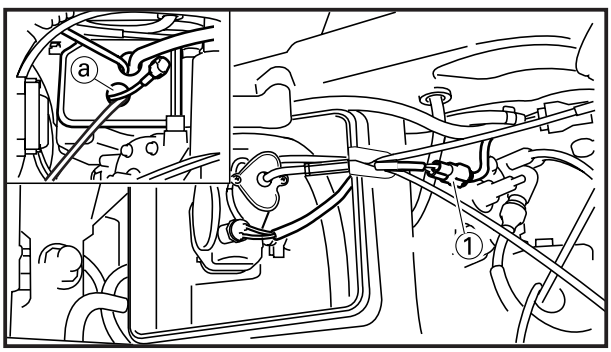
要　　点

キャブレタ凸部とキャブレタジョイントの凹部を合せてキャブレタを組付ける。



2. 以下の部品を締付けます。
- キャブレタジョイントクランプ①

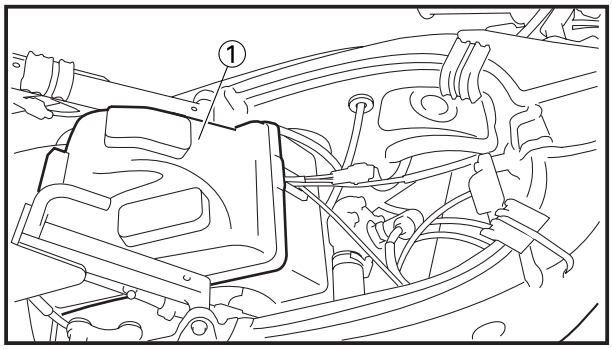
2Nm(0.2kg･m)



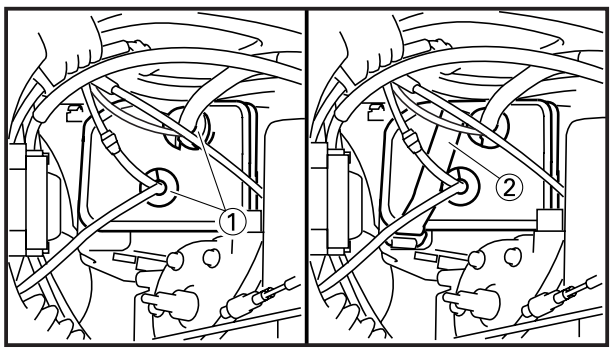
3. 以下の部品を接続します。
- ソレノイドバルブリード線①

要　　点

右気筒ソレノイドバルブリード線はインダクションキャップの孔ⓐに通してから組付ける。
（第2章―ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図参照）



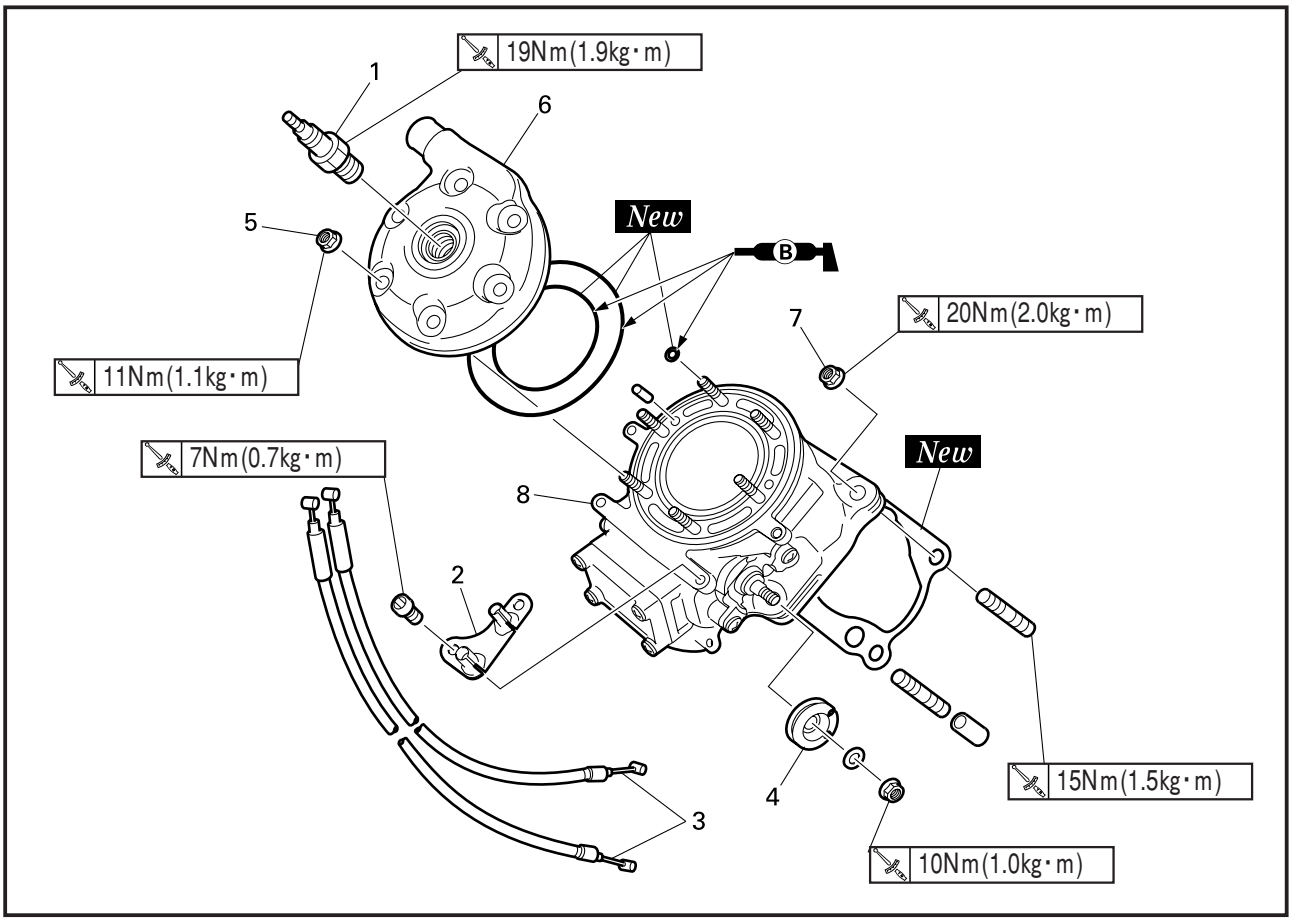
4. 以下の部品を組付けます。
- インダクションキャップ①（左気筒のみ）



5. 以下の部品を組付けます。
- グロメット①（右気筒のみ）
- バンド②（右気筒のみ）

JC470000
シリンダヘッド、シリンダ、ピストン

JC478000
シリンダヘッド、シリンダ

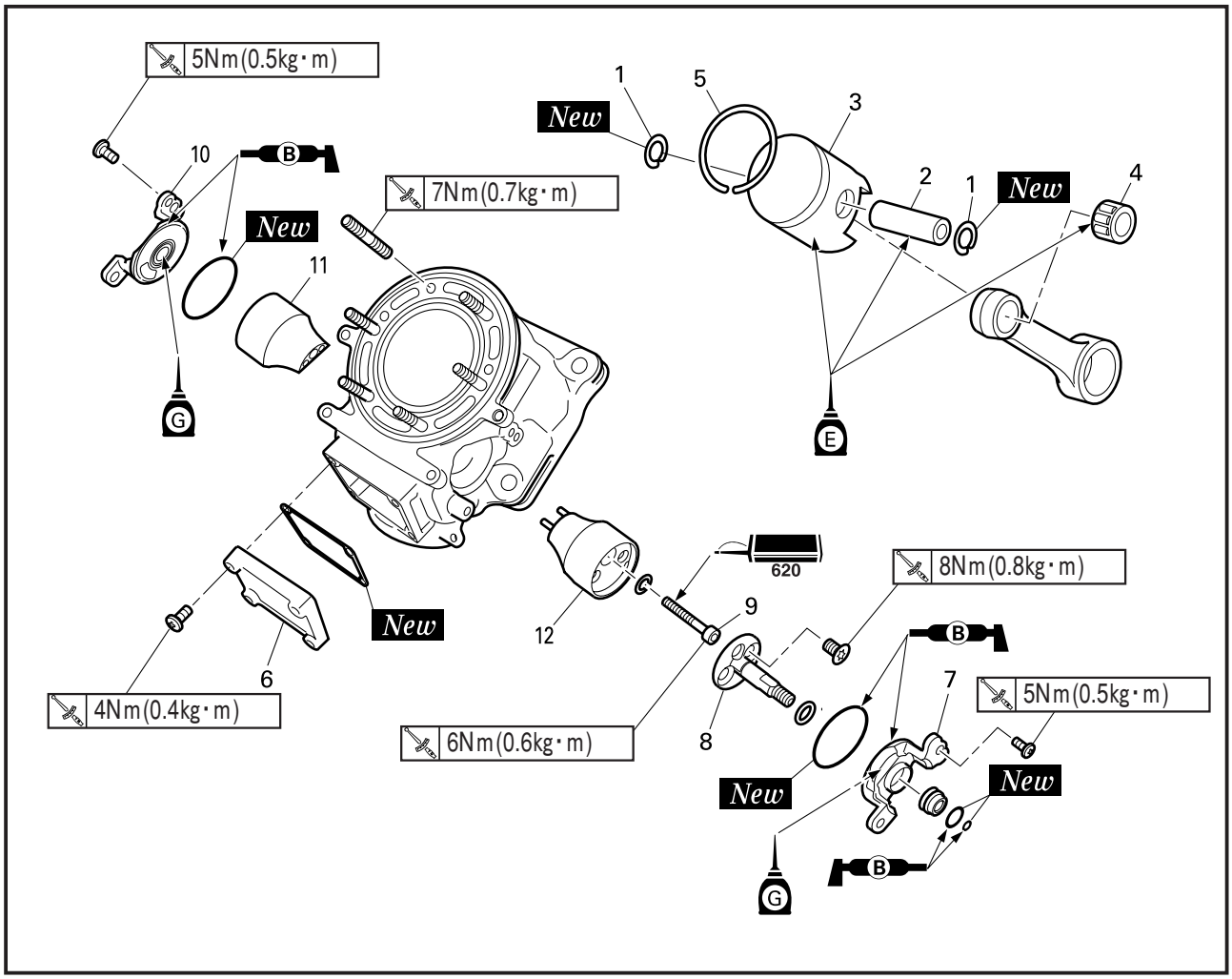


作業範囲　①シリンダヘッド取外し　②シリンダ取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		シリンダヘッド、シリンダの取外し		
関連作業		カウリング、フュエルタンク		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
		マフラ		マフラ、サイレンサ参照
		ラジエタホース3		
		ラジエタホース4		シリンダヘッド側で取外す
		キャブレタ		
		インダクションボックス		
①	1	スパークプラグ	各1	
	2	ケーブルステー	各1	取外しのポイント参照
	3	バルブケーブル	各2	取外しのポイント参照
	4	バルブプーリ	各2	
②	5	シリンダヘッド締付ナット	各6	2～3回に分けてゆるめる
	6	シリンダヘッド	各1	
	7	シリンダ締付ナット	各4	
	8	シリンダ	各1	

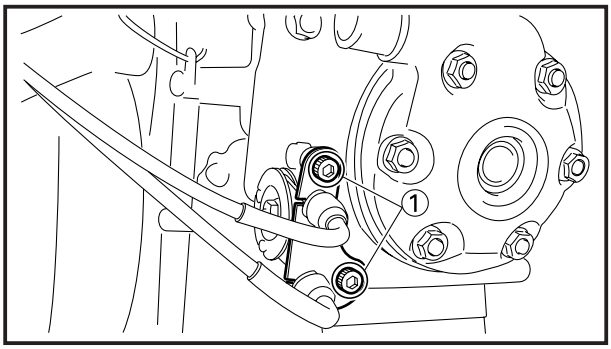
JC478100

ピストン、Y.P.V.S.



作業範囲　①ピストン、ピストンリング取外し　②Y.P.V.S.バルブ取外し

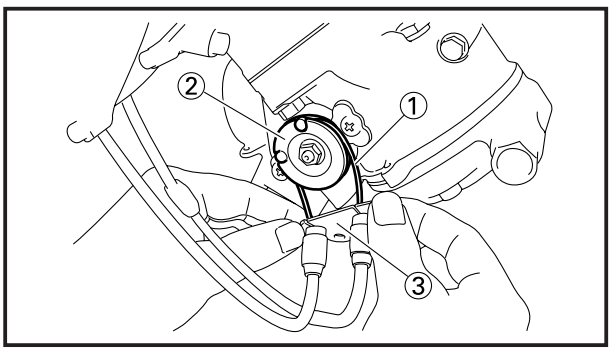
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		ピストン、Y.P.V.S.バルブの取外し		
①	1	ピストンピンクリップ	各2	
	2	ピストンピン	各1	
	3	ピストン	各1	取外しのポイント参照
	4	ベアリング	各1	
	5	ピストンリング	各1	
②	6	カバー	各1	
	7	バルブホルダ左	各1	
	8	プーリシャフト	各1	取外しのポイント参照
	9	バルブ連結ボルト	各1	
	10	バルブホルダ右	各1	
	11	バルブ右	各1	
	12	バルブ左	各1	



JC473000
取外しのポイント

JC473310
バルブケーブル取外し

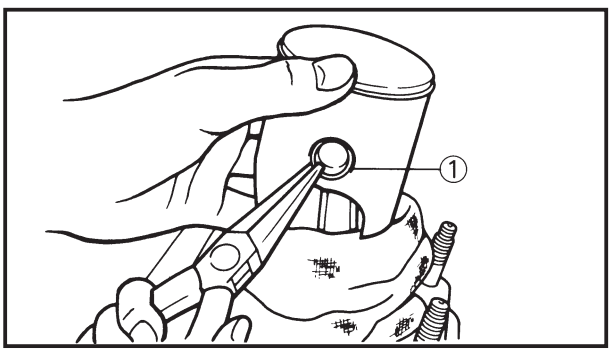
1. 以下の部品を取外します。
- ケーブルステー取付ボルト①



2. 以下の部品を取外します。
- バルブケーブル①
  バルブ側プーリ②よりバルブケーブルを取外します。

要　　点

ケーブルステー③が組付いた状態でバルブケーブルを取外す。

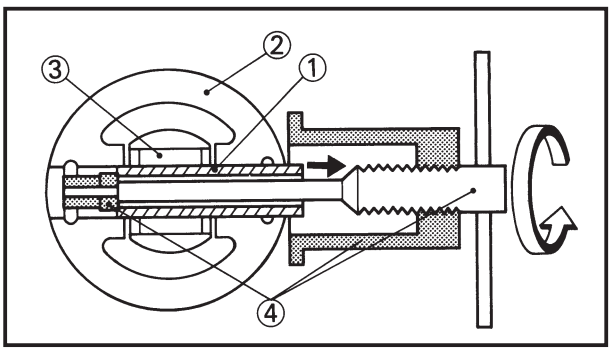


JC473403
ピストン、ピストンリング取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ピストンピンクリップ①

要　　点

- ピストンピンクリップをエンジン内に落さないようにウエス等でカバーする。
- ピストンに傷をつけない。



2. 以下の部品を取外します。
- ピストンピン①
- ピストン②
- ベアリング③

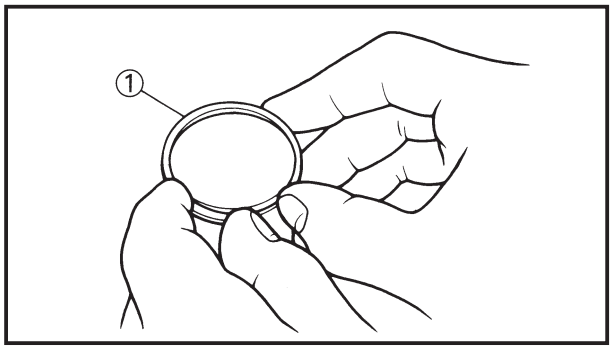
⚠注　意

ピストンピンを抜く時、ハンマ等でたたいてコネクティングロッドに無理な横方向の力を加えないこと。

要　　点

ピストンピンがかたく引き抜きにくい場合は、ピストンピンプーラ④を使う。

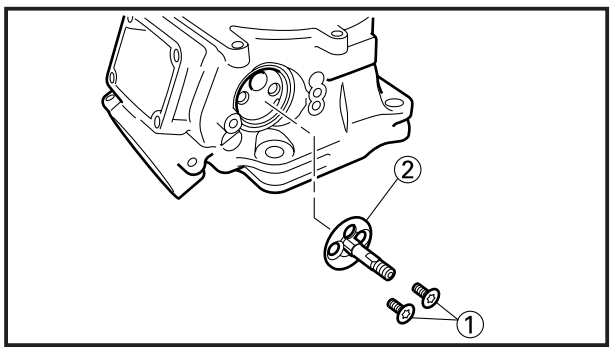
	ピストンピンプーラ 90890-01304



3. 以下の部品を取外します。
- ピストンリング①
  ピストンリングの合口を開き、合口の反対方向より取外します。

要　　点

ピストンに傷をつけたり、ピストンリングを必要以上に広げて破損させないように注意する。

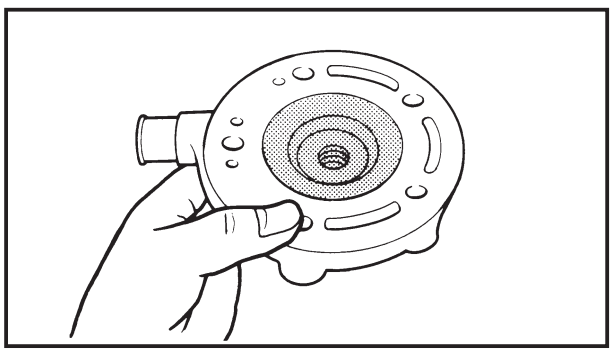


プーリシャフト取外し

1. 以下の部品を取外します。
- プーリシャフト取付スクリュ①
- プーリシャフト②

要　　点

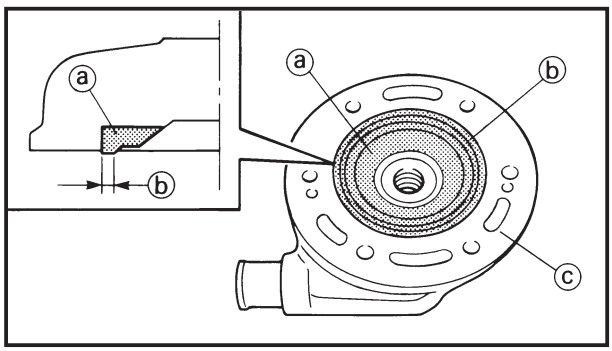
トルクススクリュはT25トルクスビットを使用して取外す。



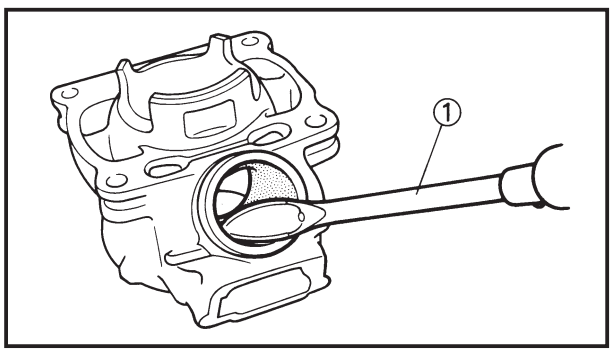
JC474000
点検

JC474110
シリンダヘッド点検

1. 以下の清掃をします。
- シリンダヘッド燃焼室のカーボンを耐水サンドペーパ（＃400～600）で除去します。



2. 以下の点検をします。
- シリンダヘッド合面の摩耗、損傷
  摩耗、損傷→交換
- インサート部ⓐの凹み
  インサート部合面ⓑがアルミ部ⓒより凹んでいるもの→交換

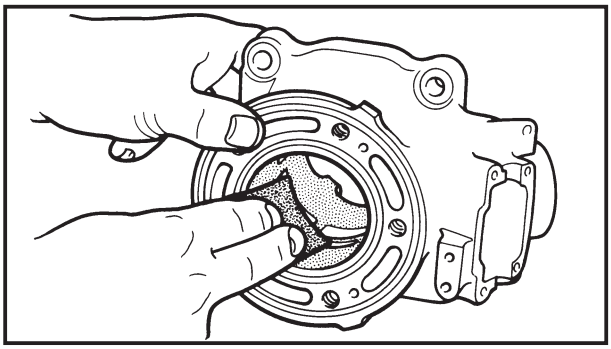


JC474212
シリンダ点検

1. 以下の清掃をします。
- エキゾーストポート（排気孔）のカーボンをスクレーパ①で除去します。

要　　点

シリンダ内面およびバルブ孔（またはバルブ）に傷をつけない。

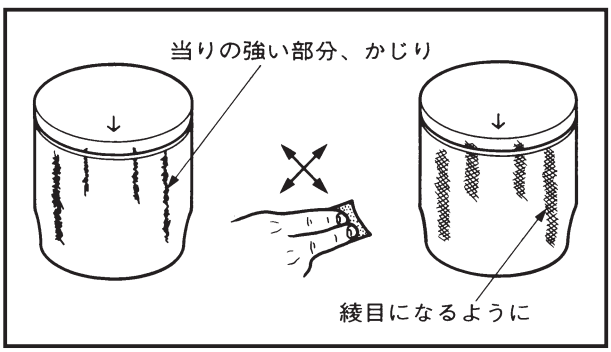


2. 以下の点検をします。
- シリンダ内面の傷
  内面の傷、焼付き跡のかるいもの→耐水サンドペーパ（＃240）でホーニング目と同方向の綾目になるように修正します。
  傷のひどいもの→交換

⚠注　意

- **シリンダ内面はセラミックコンポジットメッキ加工されているので、ボーリングはしないこと。**
- **耐水サンドペーパによる修正は最小限とし、こすりすぎないこと。**

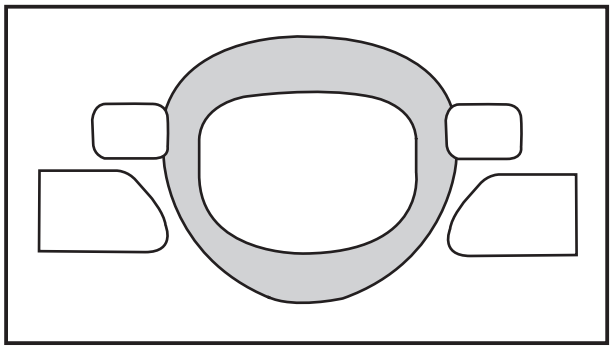
3. 以下の点検をします。
- シリンダ使用走行距離
  3000km走行毎→交換



JC474B01
ピストン点検

1. 以下の点検をします。
- ピストン頭部
  デトネーション発生による損傷、亀裂→交換
- ピストンピン孔
  亀裂→交換
- シリンダとの当り
  当りの強い部分、かじり→耐水サンドペーパ（＃240～＃320）で綾目になるように落す。
  焼付跡→交換

2. 以下の点検をします。
- ピストン使用走行距離
  500km走行毎→交換



JC474A00

ピストン交換時の当たり付け

要　　点

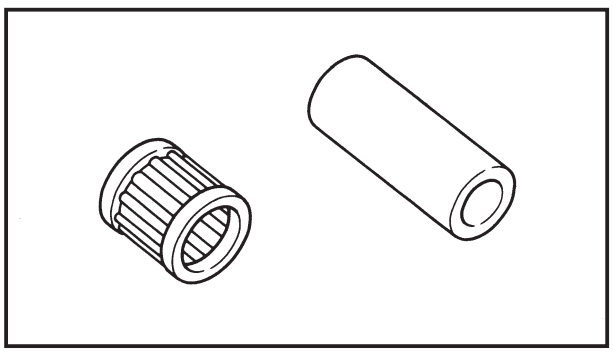
- ピストン交換時、当たり付けを行うとピストンの当たりが良くなり、トラブル防止になる。
- ホーニング目のなくなったシリンダに新しいピストンを組付けると、摺動面のなじみがなくなり偏磨耗を起こす。

1. 以下の点検をします。

- シリンダ内面のホーニング目
  ホーニング目が消えている部分（とくに排気ポート周辺部）に、耐水サンドペーパ（＃240）でホーニング目と同方向の綾目になるようにこすります。

⚠注　意

耐水サンドペーパによる修正は最小限とし、こすりすぎないこと。

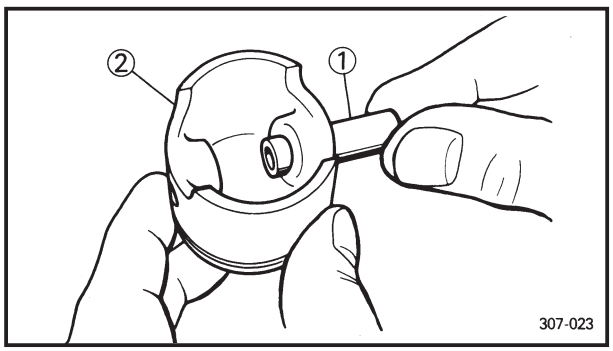


JC474410

ピストンピン、ベアリング点検

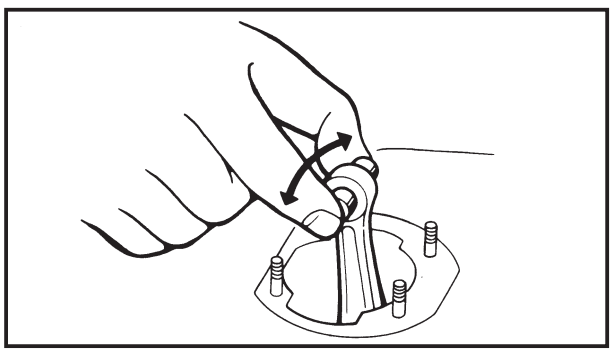
1. 以下の点検をします。

- ピストンピン
- ベアリング
  摩耗、段付き、焼け→交換



2. 以下の点検をします。

- ピストンピン①とピストン②の遊び（がた）
  ピストンピンがピストンにスムーズに入るか点検します。
  嵌合がかたい→突起物を取り除く
  がた→ピストンまたはピストンピン交換



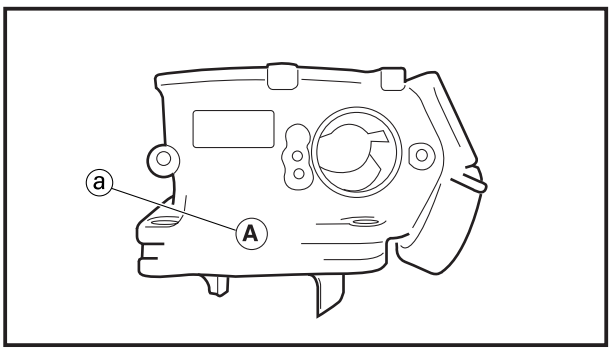
3. 以下の点検をします。

- ピストンピンとベアリングの遊び（がた）
  ピストンピン、ベアリングをコネクティングロッドに組付けて点検します。
  がた、回転不良→ピストンピン、ベアリング交換

4. 以下の点検をします。
- ピストンピン使用走行距離
  500km走行毎→交換

要　　点

ピストンピン交換時は、ベアリング、ピストンとピストンリングをセットで交換する。

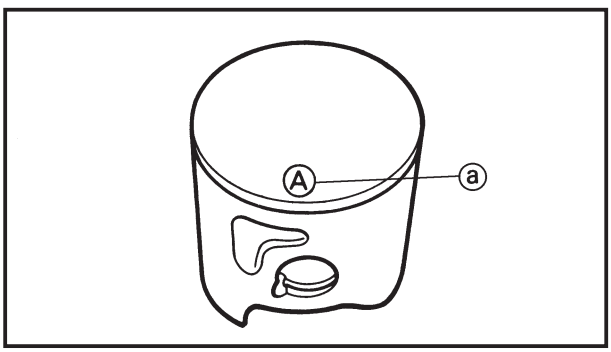


JC474720

シリンダ、ピストンの組合せ

1. 以下の確認をします。
- シリンダ識別表示ⓐ

シリンダ識別表示ⓐ
A
B
C



2. 以下の確認をします。
- ピストン識別表示ⓐ

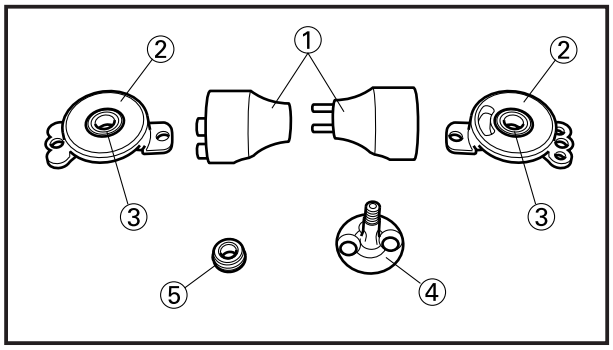
ピストン識別表示ⓐ
A（赤）
B（橙）
C（緑）

3. シリンダの識別表示に合せてピストンを組合せます。

組合せ方	
シリンダ	ピストン
A	A（赤）
B	B（橙）
C	C（緑）

要　　点

シリンダを部品で購入する場合は、識別表示の指定はできません。シリンダ識別表示に合った、ピストンを組合せる。

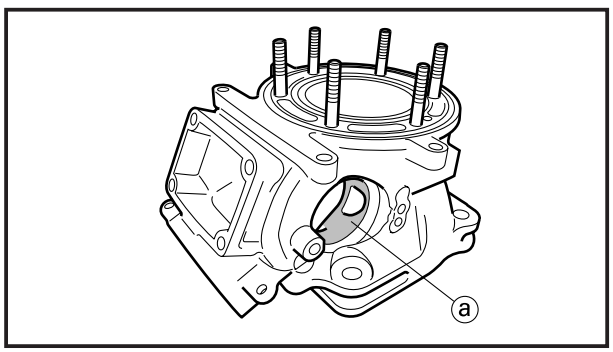


JC474820

バルブ点検

1. 以下の点検をします。

- バルブ①
  摩耗、損傷→交換
  カーボン→除去
- バルブホルダ②
  摩耗、損傷→交換
  ベアリング③がスムーズに回転しない、がた、異音→交換
- プーリシャフト④
- スペーサ⑤
  摩耗、損傷→交換



JC474900

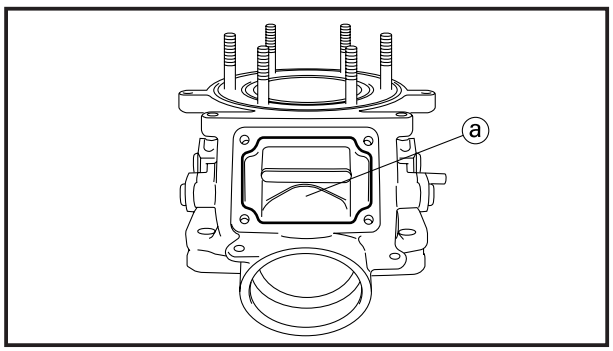
バルブ孔カーボン清掃

1. 以下の清掃をします。

- シリンダのバルブ孔ⓐのカーボンを除去します。

要　　点

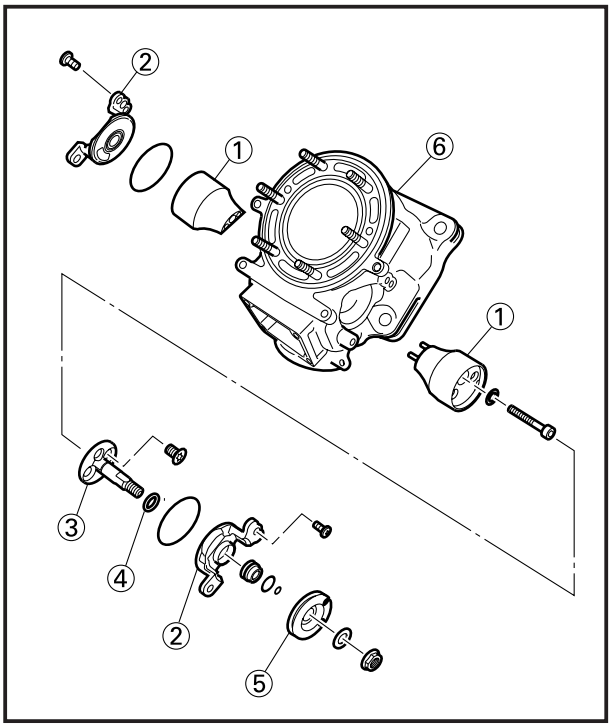
バルブ摺動面に傷をつけない。

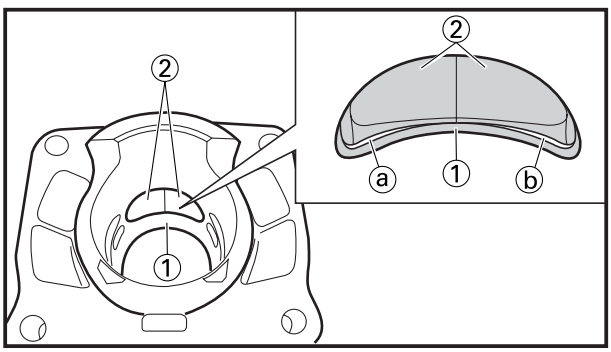


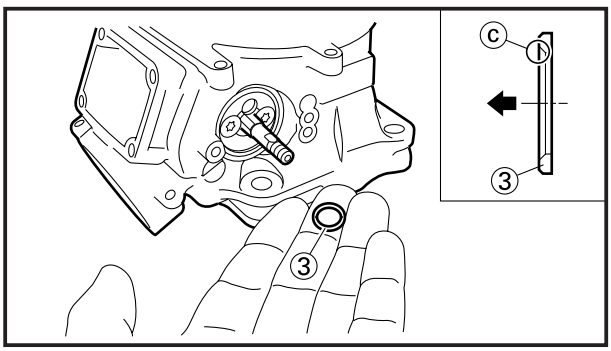
排気レゾネータ内タール清掃

1. 以下の清掃をします。

- シリンダの排気レゾネータⓐ内のタールを除去します。







バルブ位置点検

要　　点

シリンダのY.P.V.S.構成部品を分解または交換した場合、バルブ位置点検を行う。

1. 以下の部品を組付けます。
   - バルブ①
   - バルブホルダ②
   - プーリシャフト③
   - バルブ位置調整シム④
   - プーリ⑤

   シリンダ⑥に組付けます。

要　　点

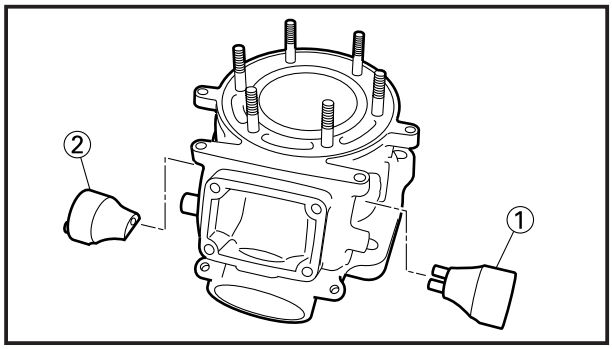
各部品は規定トルクで組付ける。
（バルブ組付けおよびシリンダ、シリンダヘッド組付けの項目参照）

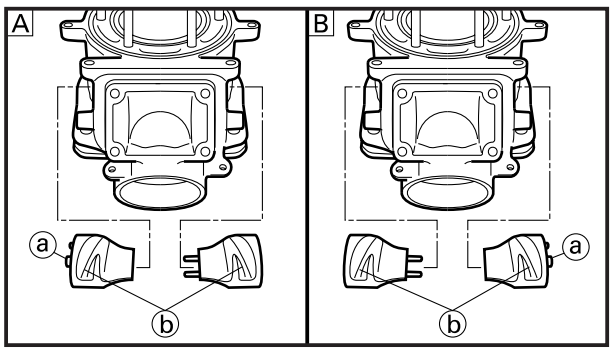
2. シリンダ下側からシリンダ①と左右バルブ②とのすき間ⓐ、ⓑが等しいか点検します。
   等しくない場合→バルブ位置調整シム③を交換し調整

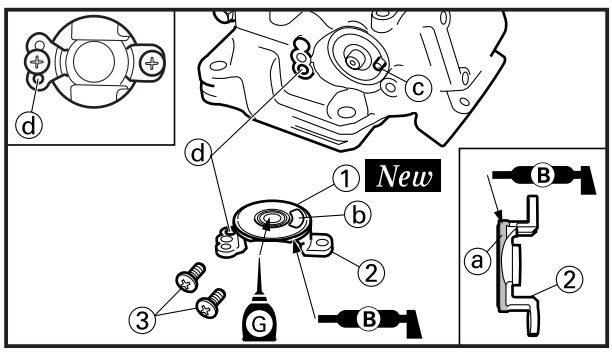
パーツ名	仕様（厚さ）	パーツNo.
バルブ位置	0.8	90201−08027
調整シム	0.9	90201−08028
（同梱）	1.0	90201−08029
	1.1	90201-08030
	1.2	90201-08032
	1.3	90201-08033

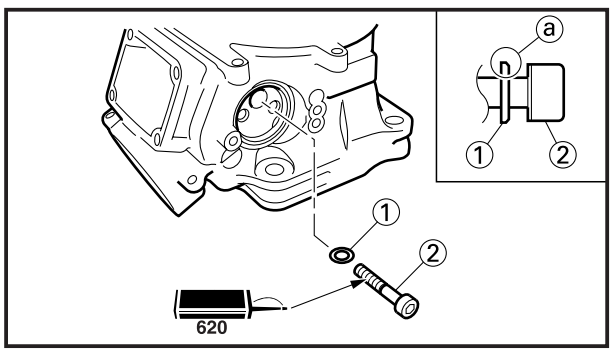
要　　点

- バルブが全開位置から約30°閉じた位置の間で点検する。
- バルブ位置調整シムは、面取り部ⓒをシリンダ側に向けて組付ける。









JC475000

組付け

バルブ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- バルブ左①
- バルブ右②

要　　点

左、右気筒で図のようにバルブの軸受け部ⓐおよび排気通路ⓑの向きに注意して組付ける。

Ⓐ左気筒
Ⓑ右気筒

2. 以下の部品を組付けます。
- Oリング① ***New***
- バルブホルダ右②
- バルブホルダ右取付スクリュ③

5Nm(0.5kg・m)

要　　点

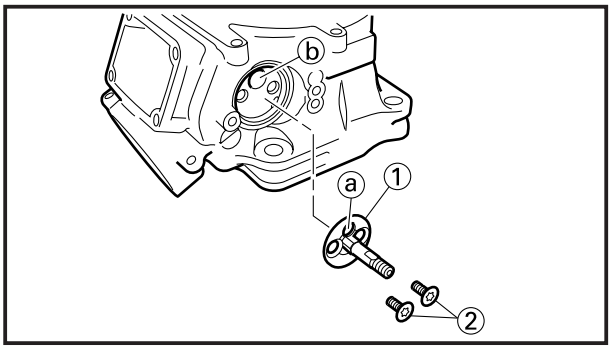
- ベアリングにミッションオイルを塗布して組付ける。
- バルブホルダ右ⓐ部全周およびOリングにヤマハグリースBを塗布して組付ける。
- バルブホルダの溝ⓑをバルブの突起部ⓒに合せて組付ける。
- シリンダとバルブホルダ右のϕ4mmの孔ⓓを完全に一致させる。

3. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- バルブ連結ボルト②

620 6Nm(0.6kg・m)

要　　点

- バルブ連結ボルトは、油脂類をシンナー等で拭き取ってから組付ける。
- プレートワッシャは面取り部ⓐを外側に向けて組付ける。
- バルブ連結ボルトは6Nm（0.6kg・m）で締付けた後、1/4回転ゆるめ再度6Nm（0.6kg・m）で締付ける。

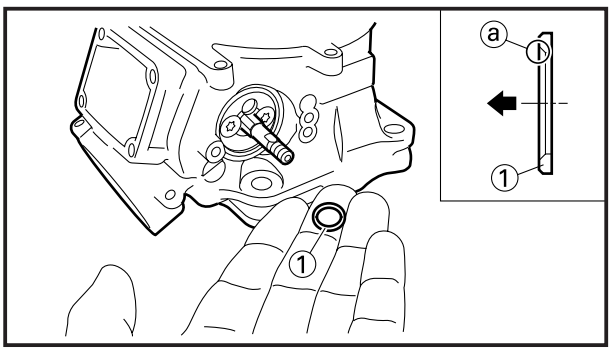


4. 以下の部品を組付けます。
- プーリシャフト①
- プーリシャフト取付スクリュ②

8Nm(0.8kg･m)

要　　点

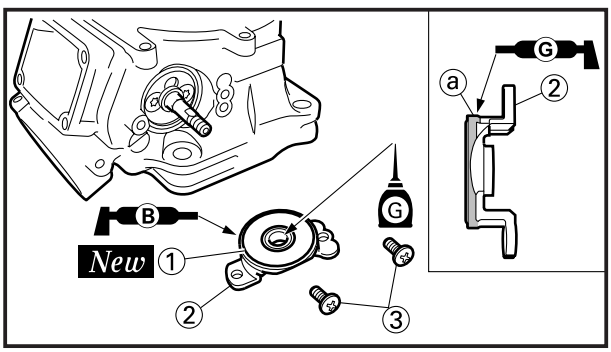
- プーリシャフトの孔ⓐをバルブの孔ⓑに合せて組付ける。
- トルクススクリュはT25トルクスビットを使用して締付ける。



5. 以下の部品を組付けます。
- バルブ位置調整シム①

要　　点

面取り部ⓐをシリンダ側に向けて組付ける。

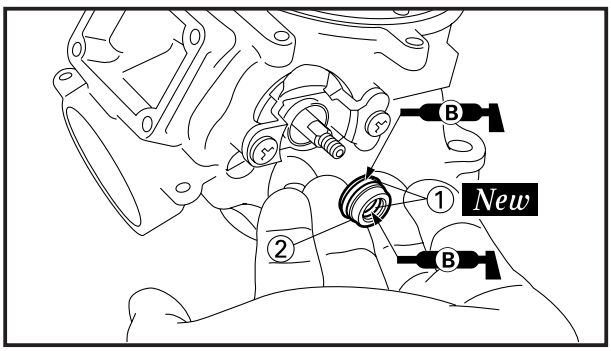


6. 以下の部品を組付けます。
- Oリング① ***New***
- バルブホルダ左②
- バルブホルダ左取付スクリュ③

5Nm(0.5kg･m)

要　　点

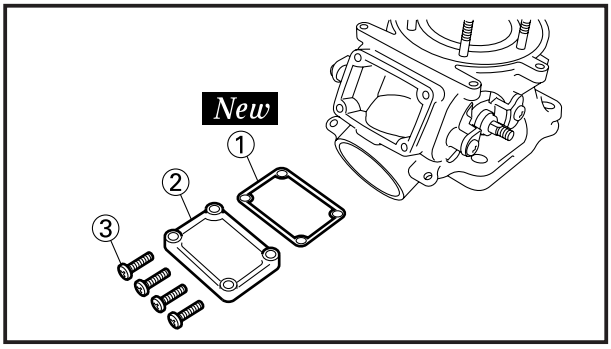
- ベアリングにミッションオイルを塗布して組付ける。
- バルブホルダ左ⓐ部全周およびOリングにヤマハグリースBを塗布して組付ける。



7. 以下の部品を組付けます。
- Oリング① ***New***
- スペーサ②

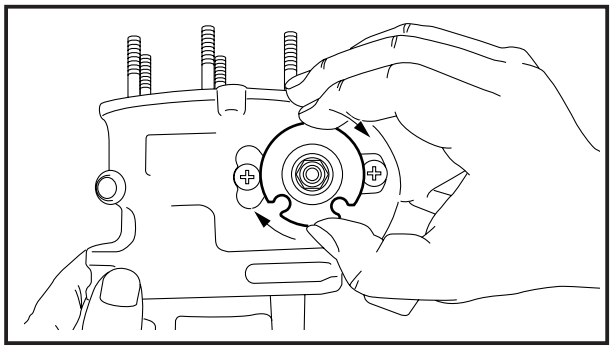
要　　点

Oリングにヤマハグリースを塗布して組付ける。



8. 以下の部品を組付けます。
- カバーガスケット① ***New***
- カバー②
- カバー取付スクリュ③ 4Nm(0.4kg･m)

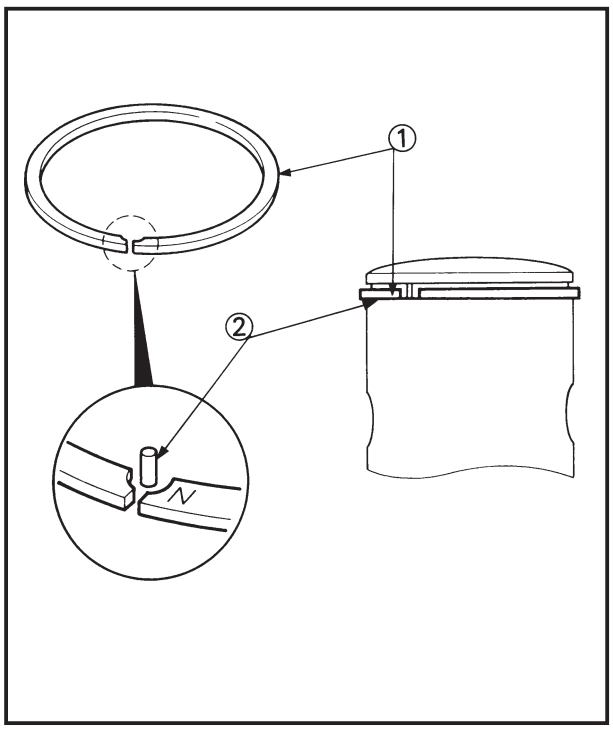
9. 以下の点検をします。
- バルブ位置
  バルブ位置点検の項目参照



10.以下の点検をします。
- バルブ作動
  プーリを仮組みし、回転させバルブがスムーズに作動するか点検します。
  作動不良→再度分解点検後、修正または交換

要　　点

点検後、プーリを取外す。



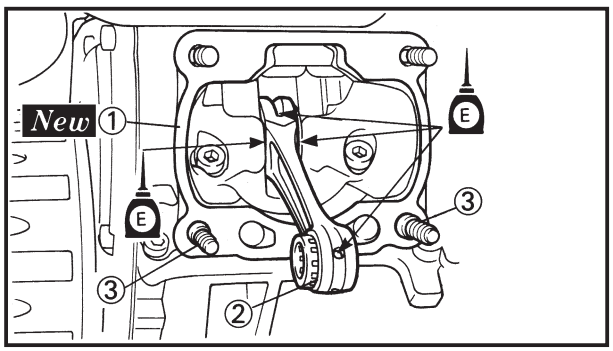
JC475272

ピストンリング、ピストン組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- ピストンリング①

要　　点

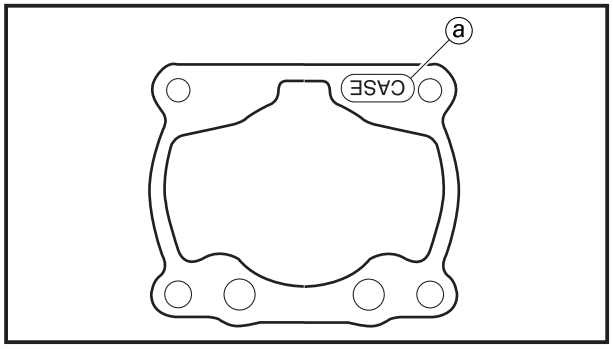
- ピストンに傷をつけたり、ピストンリングを必要以上に広げて破損しないように注意する。
- ピストンリングは“N”マークが付いている側を上側に向けて組付ける。
- ピストンリングの合口を回り止めノックピン②の位置に合せる。
- 組付け後、ピストンリングがスムーズに動くか確認する。



2. 以下の部品を組付けます。
- シリンダガスケット① ***New***
- ベアリング②
- ダウエルピン③

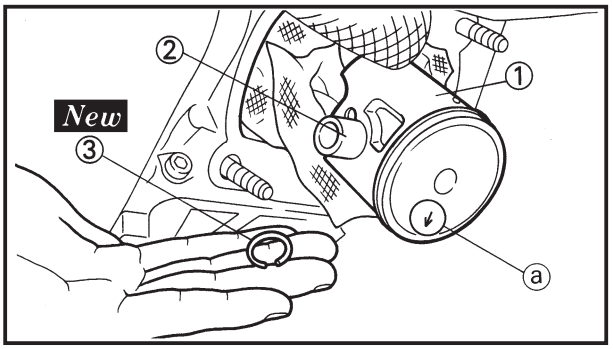
要　　点

クランクシャフトベアリング、コネクティングロッド大端・小端ベアリングおよびコネクティングロッド大端ワッシャに混合用オイルを塗布する。



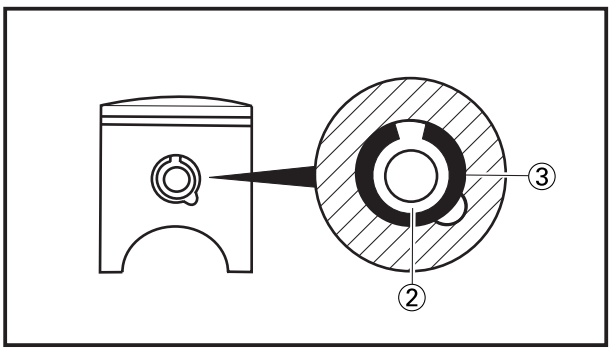
⚠注　意

シリンダガスケットの“CASE”文字側ⓐをケース側に向けて組付ける。



3. 以下の部品を組付けます。
- ピストン①
- ピストンピン②
- ピストンピンクリップ③ **New**

要　点
- ピストンの矢印マークⓐを排気側に向けて組付ける。
- ピストンピンクリップをクランクケース内に落さないようにウエス等でカバーし組付ける。
- ピストンピンクリップの合口を上に向けて組付ける。



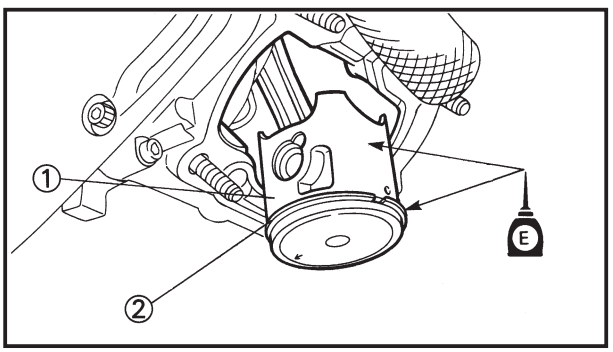
⚠注　意

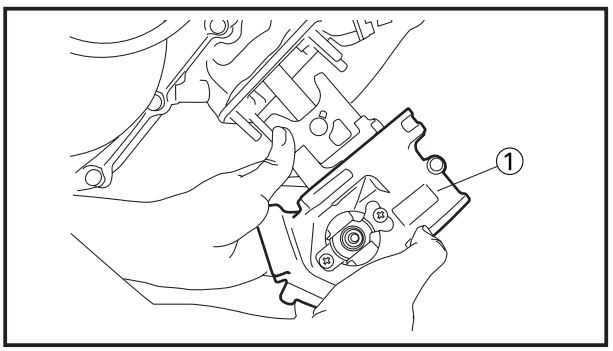
ピストンピンクリップは、変形させないように手で組付けること。

JC475354

シリンダ、シリンダヘッド組付け

1. 以下の部品に混合用オイルを塗布します。
- ピストン①
- ピストンリング②
- シリンダ内面





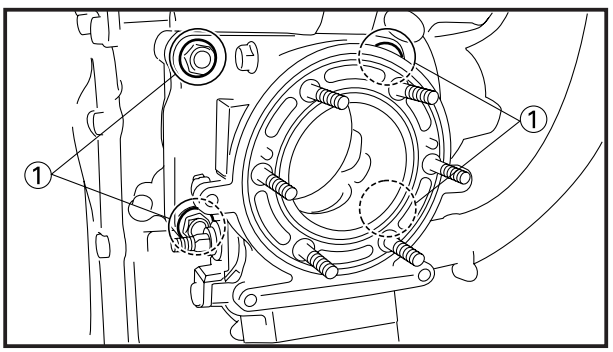
2. 以下の部品を組付けます。
- シリンダ①

⚠注　意

ピストンリングの合口を回り止めノックピンに合せて押えて、シリンダに引っ掛からないように組付けること。

要　点

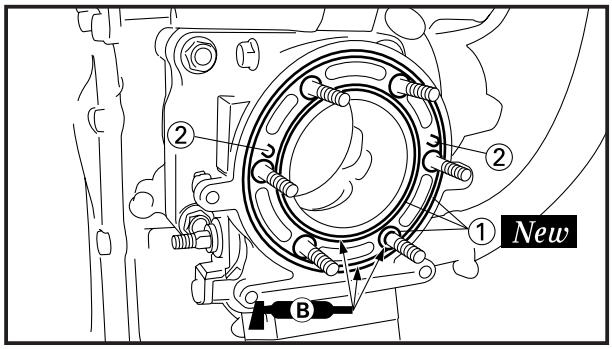
組付け後、ピストンがスムーズに動くか確認する。



3. 以下の部品を組付けます。
- シリンダ締付ナット①　20Nm(2.0kg･m)

要　点

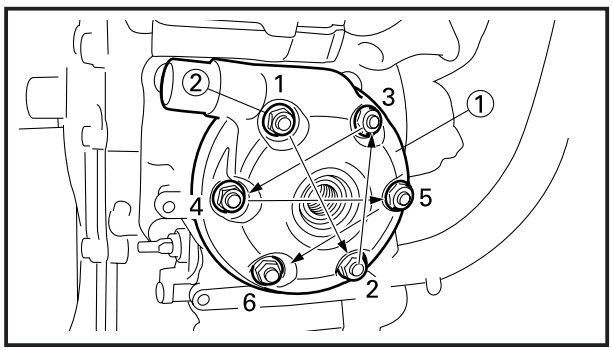
対角線上に２～３回に分けて規定のトルクで締付ける。



4. 以下の部品を組付けます。
- Oリング① **New**
- ダウエルピン②

要　　点

Oリングにヤマハグリースを塗布して組付ける。

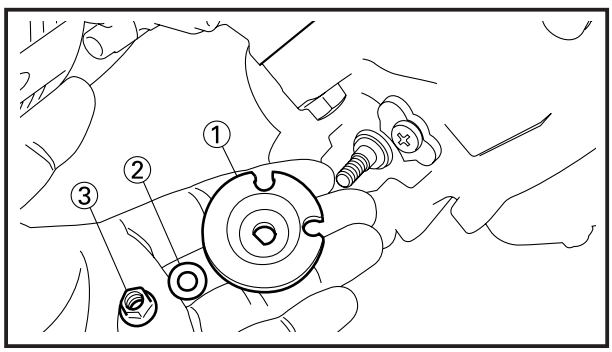


5. 以下の部品を組付けます。
- シリンダヘッド①
- シリンダヘッド締付ナット②

11Nm(1.1kg･m)

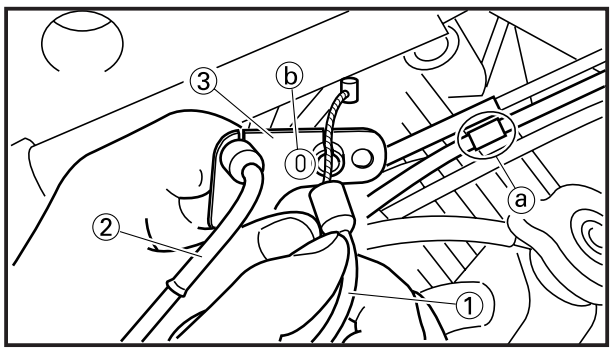
要　　点

締付け順序に従って2～3回に分けて規定のトルクで締付ける。



6. 以下の部品を組付けます。
- バルブプーリ①
- プレートワッシャ②
- バルブプーリ取付ボルト③

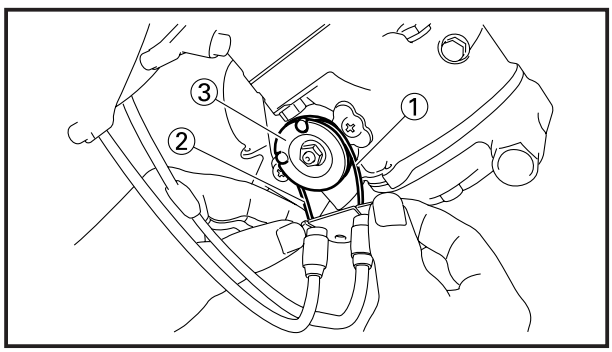
10Nm(1.0kg･m)



7. 以下の部品を組付けます。
- バルブケーブル2、4（開側）①
- バルブケーブル1、3（閉側）②
  ケーブルステー③に組付けます。

要　　点

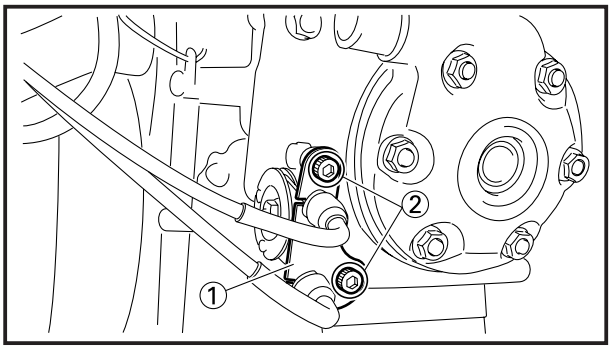
パイプマークⓐ（開側）の付いたバルブケーブルを“0”印ⓑ側に組付ける。

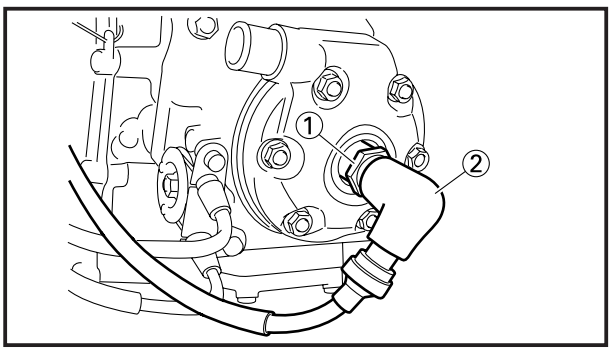


8. 以下の部品を接続します。
- バルブケーブル2、4（開側）①
- バルブケーブル1、3（閉側）②
  バルブプーリ③に接続します。

要　　点

銀色のバルブケーブル3、4を左気筒へ、黒色のバルブケーブル1、2を右気筒に接続する。
（第2章―ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図参照）





9. 以下の部品を組付けます。
- ケーブルステー①
- ケーブルステー取付ボルト②

7Nm(0.7kg･m)

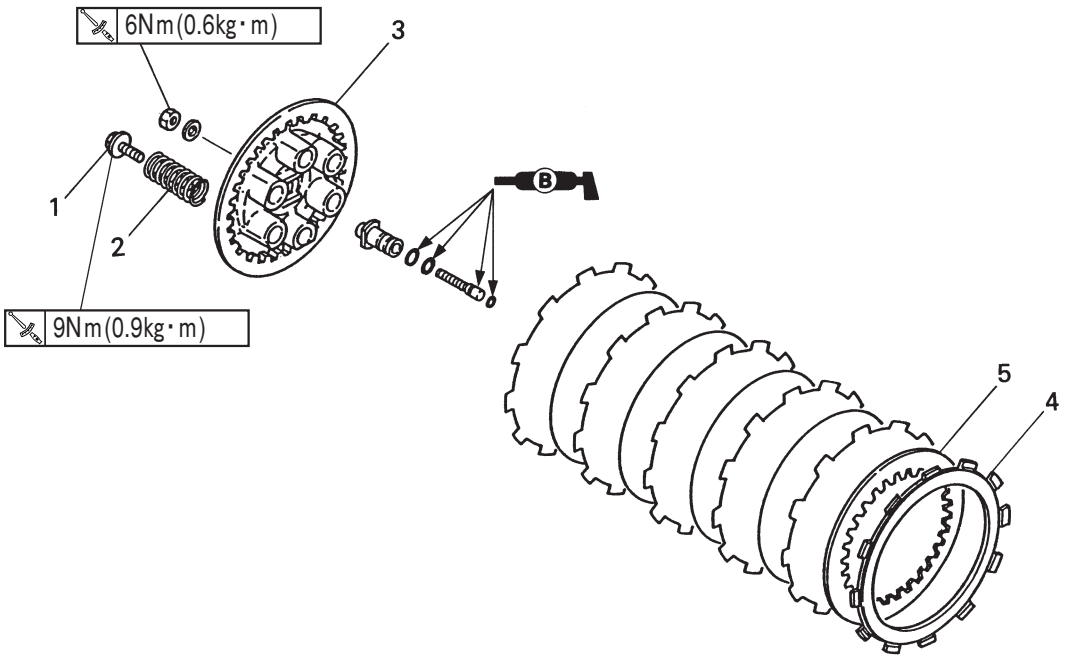
要　　点

組付け後、バルブケーブルの遊びを確認する。（第 3 章―Y.P.V.S.バルブケーブル点検、調整の項目参照）

10. 以下の部品を組付けます。
- スパークプラグ①　19Nm(1.9kg･m)
- プラグキャップ②

JC4A0000
クラッチ

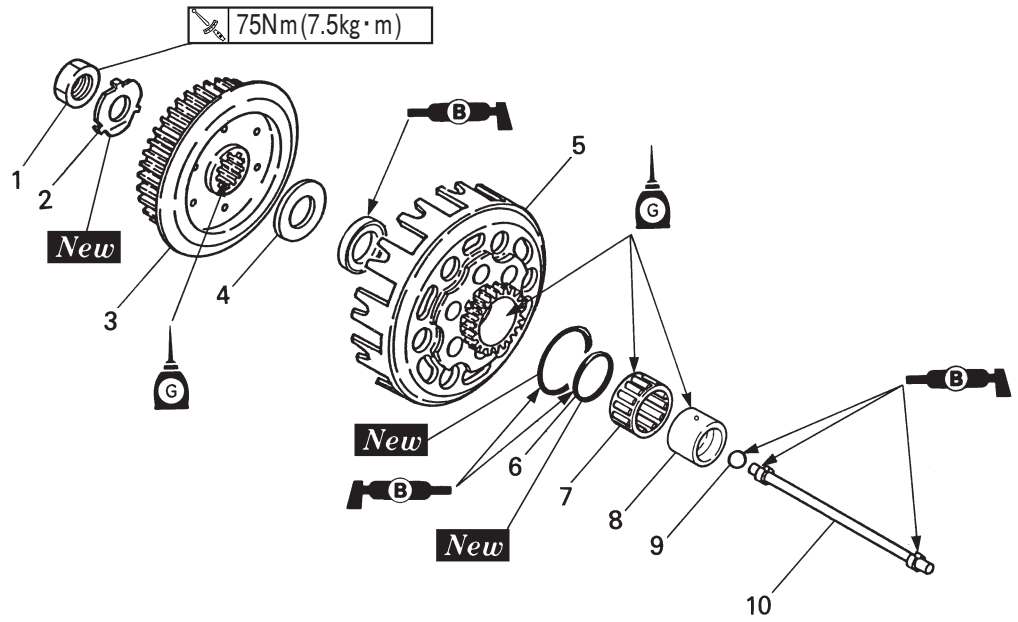
JC4A8000
クラッチプレート、フリクションプレート



作業範囲　①クラッチプレート、フリクションプレート取外し

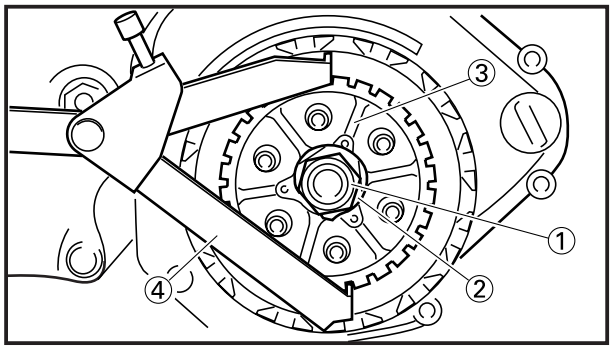
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		クラッチプレート、フリクションプレートの取外し		
関連作業		アンダカウリング		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
①	1	クラッチスプリングスクリュ	6	
	2	クラッチスプリング	6	
	3	プレッシャプレート	1	
	4	フリクションプレート	6	
	5	クラッチプレート	5	

JC4A8200
クラッチハウジング、プッシュロッド



作業範囲　①クラッチハウジング取外し　②プッシュロッド取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		クラッチハウジング、プッシュロッドの取外し		
①	1	クラッチボス取付ナット	1	特殊工具使用。取外しのポイント参照
	2	ロックワッシャ	1	
	3	クラッチボス	1	
	4	プレートワッシャ	1	
	5	クラッチハウジング	1	
	6	Oリング	1	
	7	ベアリング	1	
	8	スペーサ1	1	
②	9	ボール	1	
	10	プッシュロッド	1	



JC4A3000
取外しのポイント

JC483211
クラッチボス取外し

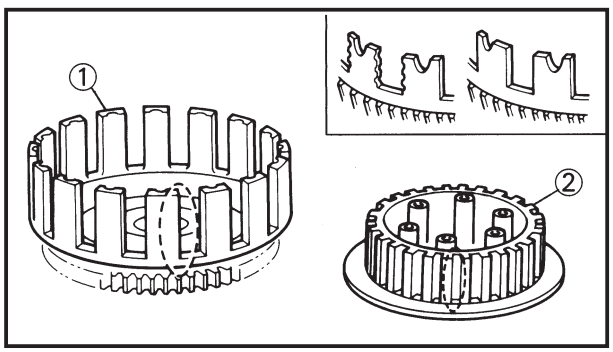
1. 以下の部品を取外します。
- クラッチボス取付ナット①
- ロックワッシャ②
- クラッチボス③

要　　点

ロックワッシャを起し、クラッチホールディングツール④を使用してナットを外す。

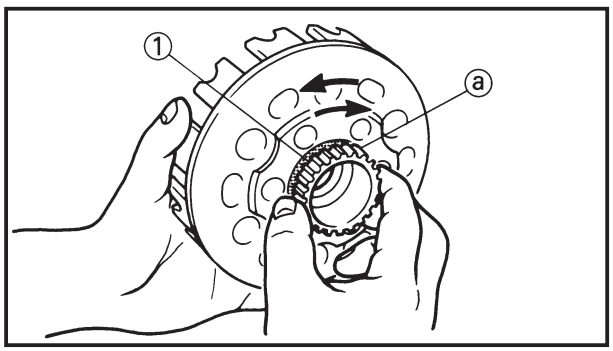
	クラッチホールディングツール 90890-04086

JC4A4000
点検



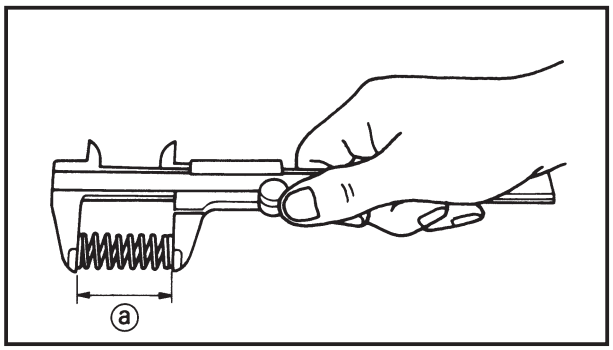
JC484101
クラッチハウジング、クラッチボス点検

1. 以下の点検をします。
- クラッチハウジング①
  フリクションプレートによる段付摩耗→交換
  損傷→交換
- クラッチボス②
  クラッチプレートによる段付摩耗→交換
  損傷→交換



JC4A4102
クラッチハウジング点検

1. 以下の点検をします。
- クラッチハウジングのがた
  がたが大きい場合→交換
- ギヤ歯面ⓐ
  損傷、摩耗→交換
- Oリング①
  損傷→交換

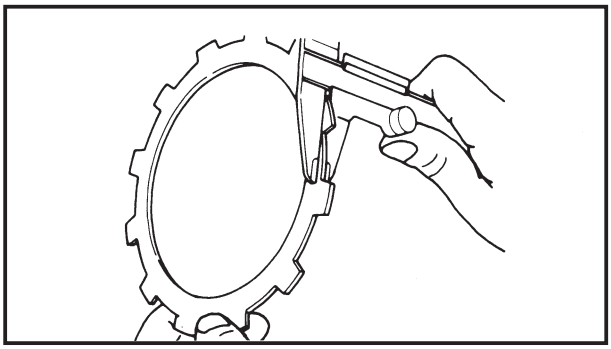


JC484401
クラッチスプリング点検

1. 以下の点検をします。
- クラッチスプリング自由長ⓐ

	標準自由長値 30.6㎜ 使用限度 29.6㎜

使用限度以下→交換



JC484500
フリクションプレート点検

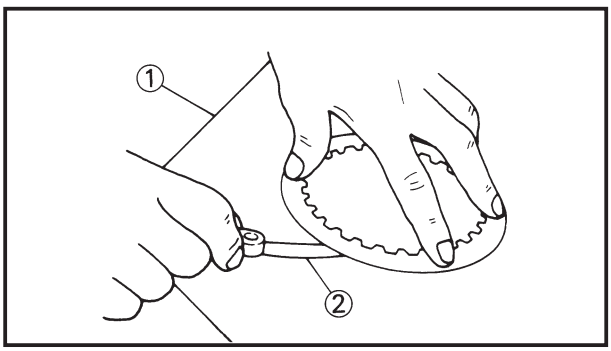
1. 以下の点検をします。

● フリクションプレート厚さ

標準厚さ値
2.9～3.1㎜
使用限度
2.7㎜

使用限度以下→交換

片当り、傷、変色→交換



JC484600
クラッチプレート点検

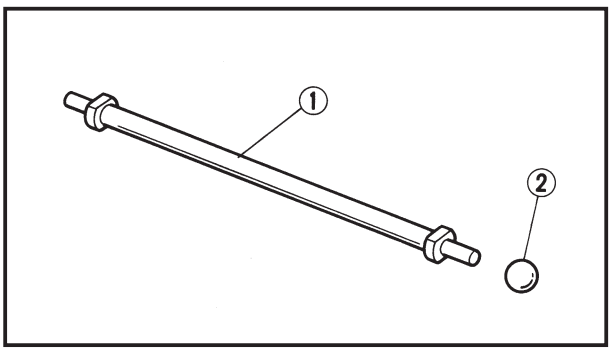
1. 以下の点検をします。

● クラッチプレート歪み

クラッチプレートを定盤①の上でシクネスゲージ②で点検します。

歪み使用限度
0.1㎜

使用限度以上の歪み→交換



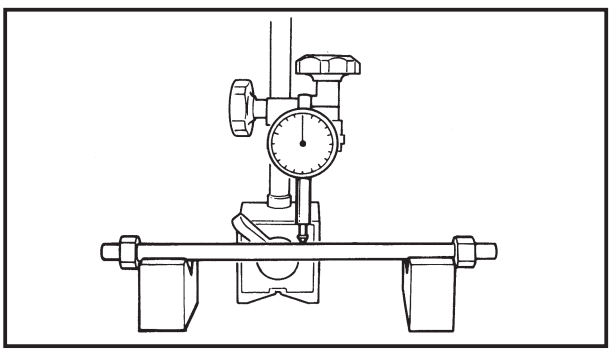
JC4A4303
プッシュロッド点検

1. 以下の点検をします。

● プッシュロッド①

● ボール②

摩耗、損傷、曲り→交換



2. 以下の点検をします。

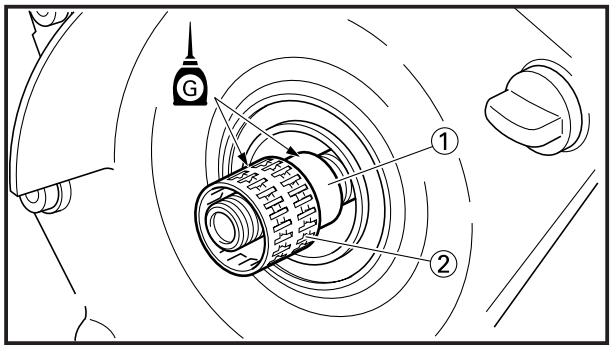
● プッシュロッド曲り

曲り使用限度
0.2㎜

使用限度以上→交換

要　　点

曲りの値はダイヤルゲージ測定値の1/2である。



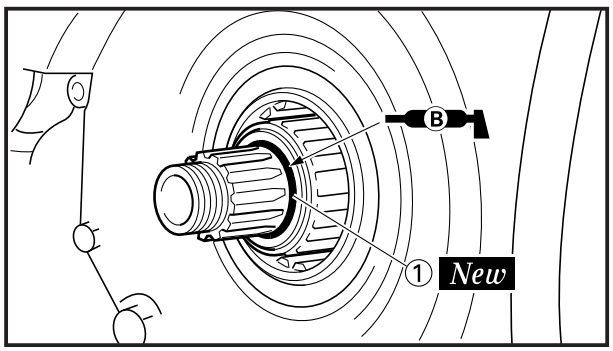
JC4A5000
組付け

JC4A5211
クラッチ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- スペーサ１①
- ベアリング②

要　　点

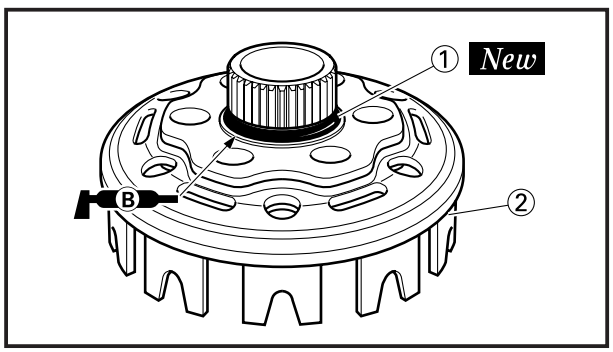
スペーサ１、ベアリングにミッションオイルを塗布して組付ける。



2. 以下の部品を組付けます。
- Ｏリング① **New**

要　　点

Ｏリングにヤマハグリース Ｂを塗布して組付ける。

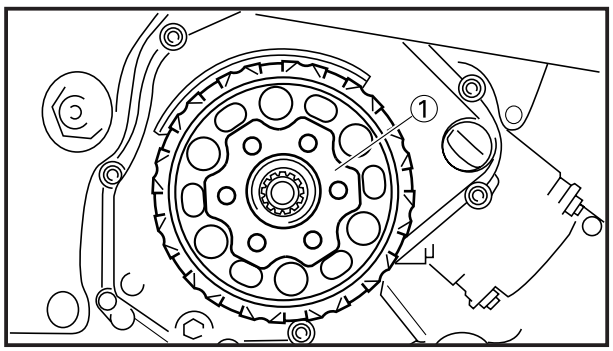


3. 以下の部品を組付けます。
- Ｏリング① **New**

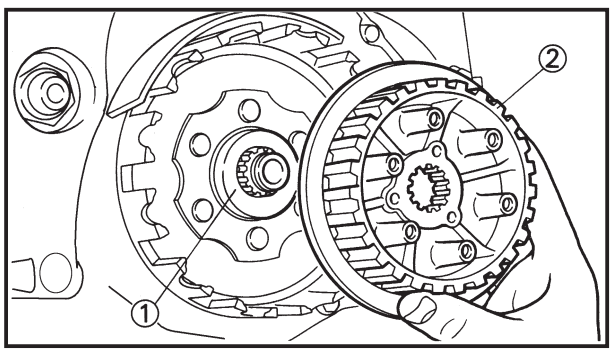
  クラッチハウジング②に組付けます。

要　　点

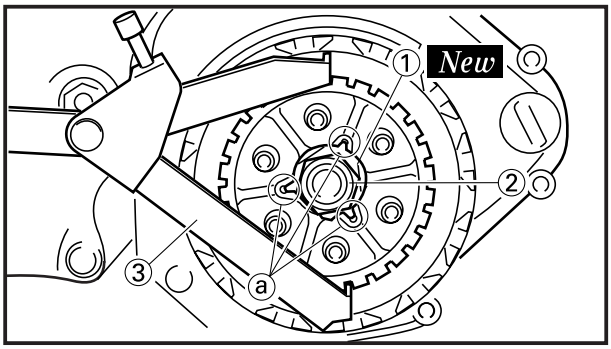
Ｏリングにヤマハグリース Ｂを塗布して組付ける。



4. 以下の部品を組付けます。
- クラッチハウジング①



5. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- クラッチボス②



6. 以下の部品を組付けます。
- ロックワッシャ① **New**
- クラッチボス取付ナット②

75Nm(7.5kg･m)

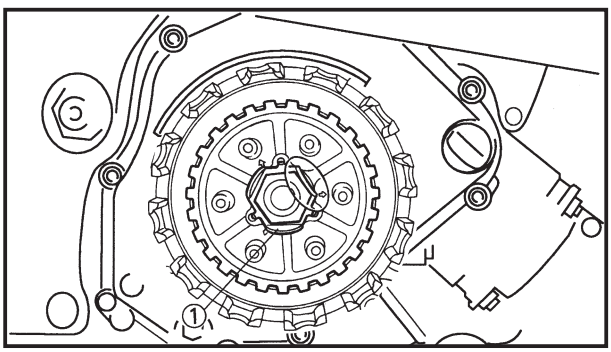
要　点

クラッチホールディングツール③を使用して規定のトルクで締付ける。

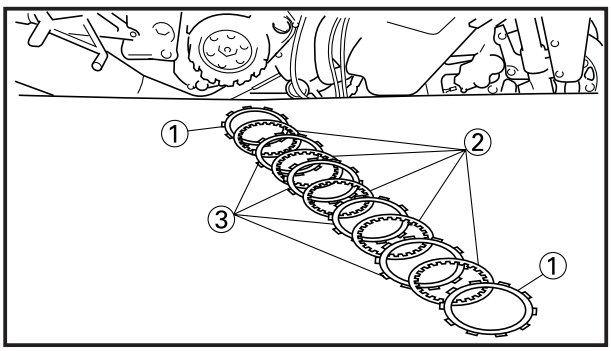
⚠注　意

ロックワッシャの突起部をクラッチボスの孔部ⓐに合せて組付ける。

	クラッチホールディングツール 90890-04086



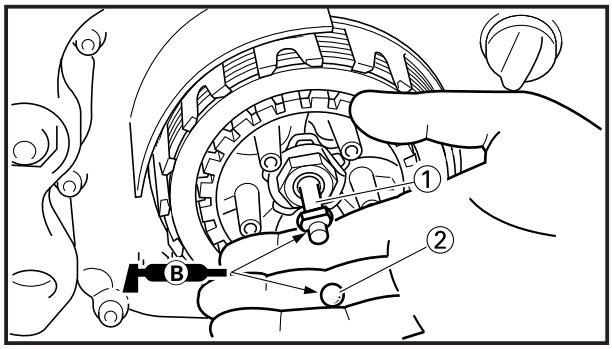
7. ロックワッシャ①を確実に折り曲げます。



8. 以下の部品を組付けます。
- フリクションプレート（黄土色）①
- クラッチプレート②
- フリクションプレート（茶色）③

要　点

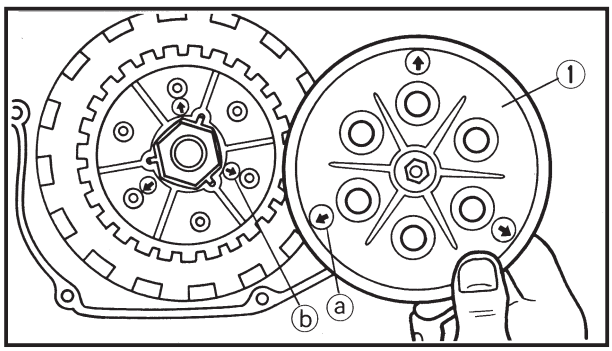
- クラッチプレートおよびフリクションプレートの表面には絶対に油気を付着させない。油気が付着した場合には、交換またはシンナー等で十分に拭き取る。
- フリクションプレートとクラッチプレートを交互に組付け、黄土色のフリクションプレートは一番内側と一番外側に組付ける。



9. 以下の部品を組付けます。
- プッシュロッド①
- ボール②

要　　点

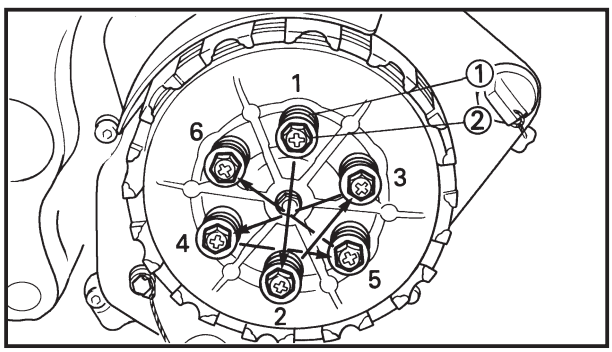
プッシュロッド両端およびボールにヤマハグリースＢを塗布して組付ける。



10. 以下の部品を組付けます。
- プレッシャプレート①

要　　点

プレッシャプレートの矢印マークⓐとクラッチボスの矢印マークⓑを合せて組付ける。

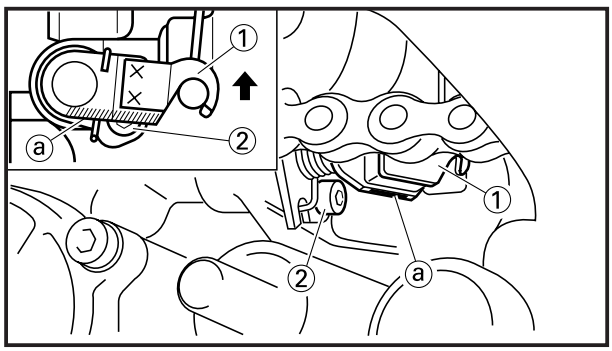


11. 以下の部品を組付けます。
- クラッチスプリング①
- クラッチスプリングスクリュ②

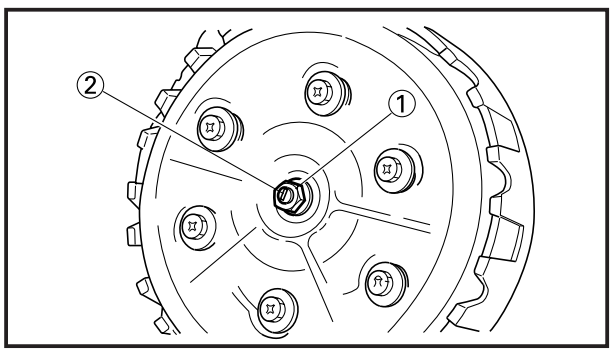
9Nm(0.9kg・m)

要　　点

締付け順序に従って２～３回に分けて規定のトルクで締付ける。



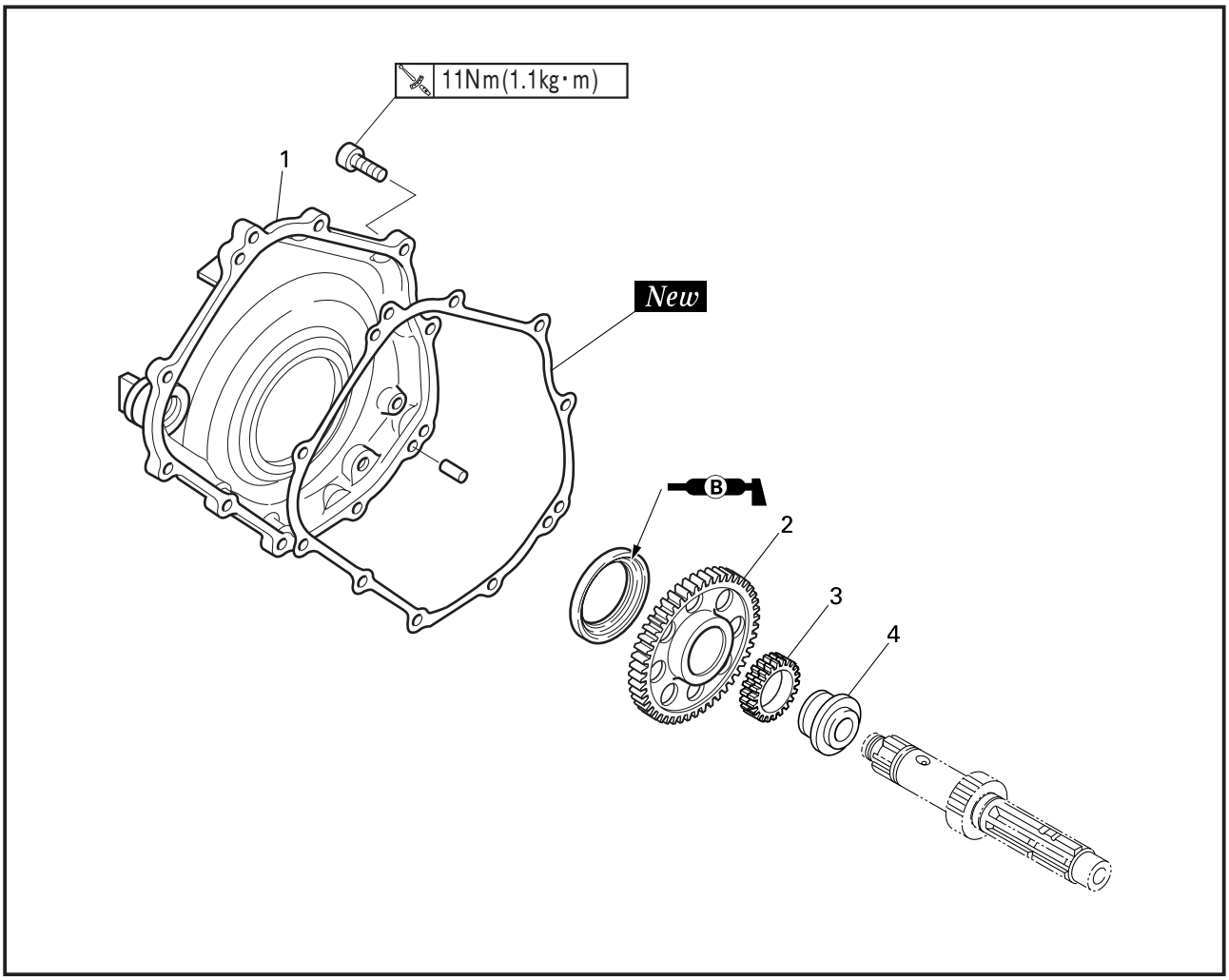
12. 以下の点検をします。
- プッシュレバーセット位置
  プッシュレバー①を指で矢印方向に押して止まった位置がプッシュレバーの端面ⓐとプッシュレバー取付ボルト②の中心が一致しているか点検します。
  一致していない→調整



13. 以下の調整をします。
- プッシュレバーセット位置
  ロックナット①をゆるめアジャスタ②で調整します。
  調整後ロックナットを規定のトルクで締付けます。 6Nm(0.6kg・m)

JC4D0002
プライマリドリブンギヤ、プライマリドライブギヤ、バランサシャフト

JC4D8000
プライマリドリブンギヤ

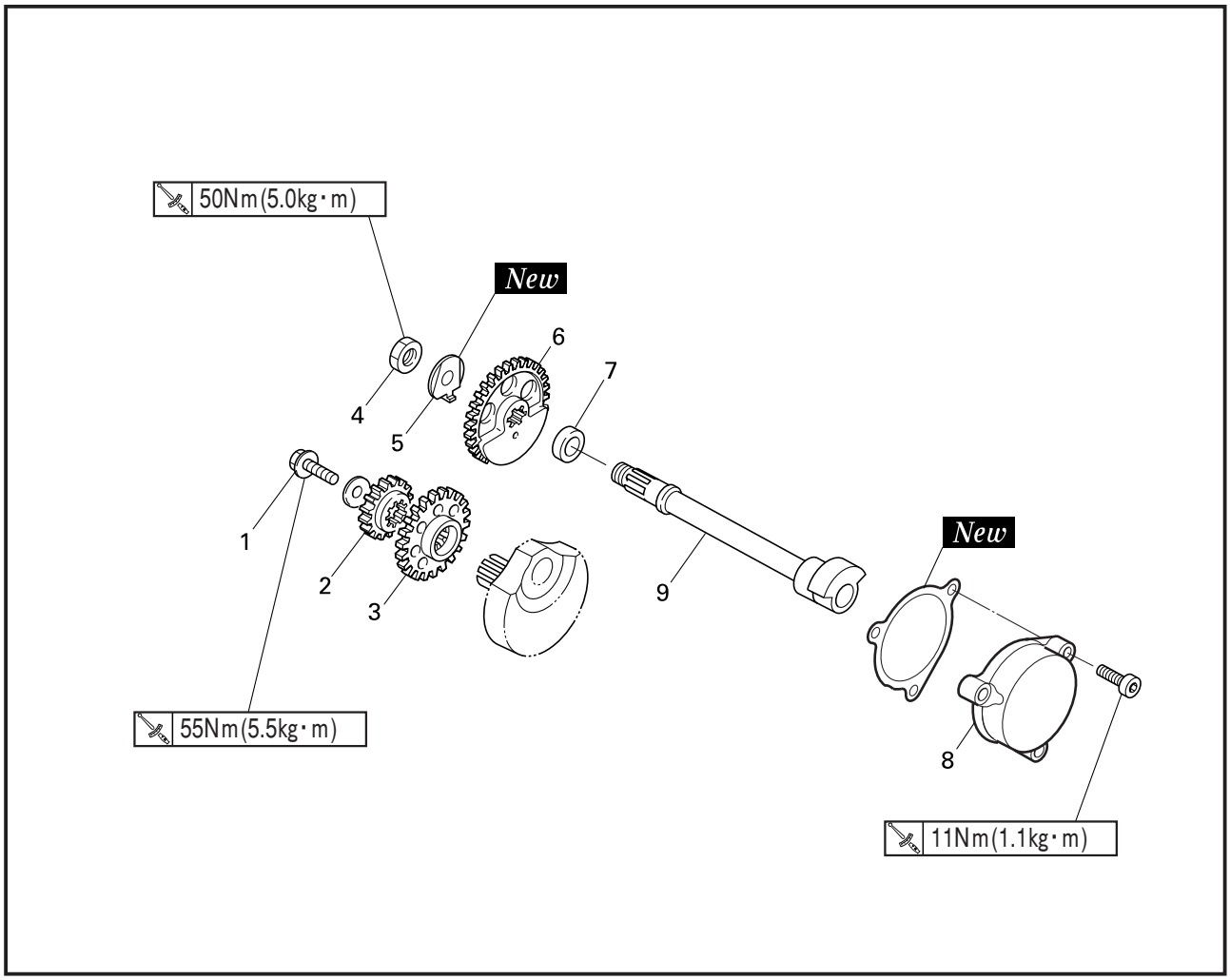


作業範囲　①プライマリドリブンギヤ取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**プライマリドリブンギヤの取外し** カウリング クラッチ ミッションオイルを抜く		 カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照 クラッチ参照 第3章―ミッションオイル交換参照
①	1 2 3 4	クランクケースカバー右 プライマリドリブンギヤ オイルポンプドライブギヤ スラストプレート	1 1 1 1	

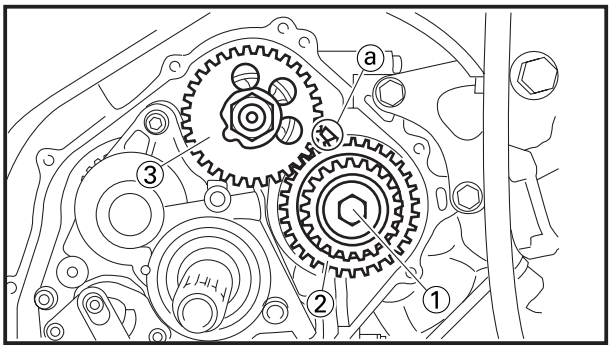
JC4D8100

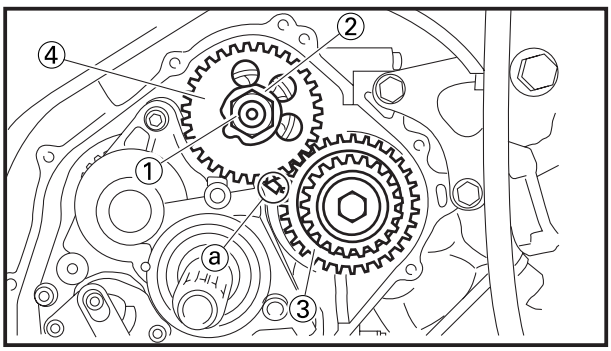
プライマリドライブギヤ、バランサシャフト

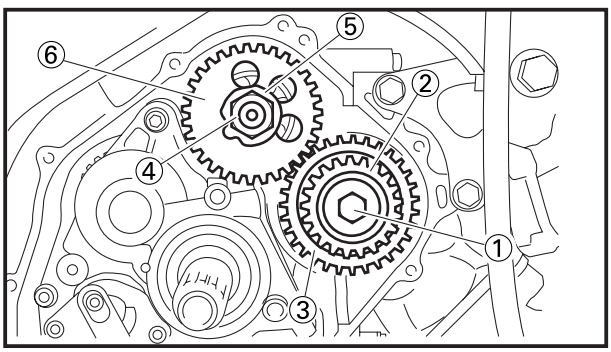


作業範囲　①プライマリドライブギヤ取外し　②バランサシャフト取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		プライマリドライブギヤ、バランサシャフトの取外し		
①	1	プライマリドライブギヤ取付ボルト	1	取外しのポイント参照
①	2	プライマリドライブギヤ	1	
①	3	バランサドライブギヤ	1	
①	4	バランサウエイトギヤ取付ナット	1	
②	5	ロックワッシャ	1	
②	6	バランサウエイトギヤ	1	
②	7	カラー	1	
②	8	クランクケースカバー左	1	
②	9	バランサシャフト	1	







JC4D3000
取外しのポイント

JC4D3103
プライマリドライブギヤ、バランサウエイトギヤ取外し

1. 以下の部品をゆるめます。
- プライマリドライブギヤ取付ボルト①

要　　点

バランサドライブギヤ②とバランサウエイトギヤ③との間にアルミ板ⓐをかみ込ませてゆるめる。

2. 以下の部品をゆるめます。
- バランサウエイトギヤ取付ナット①

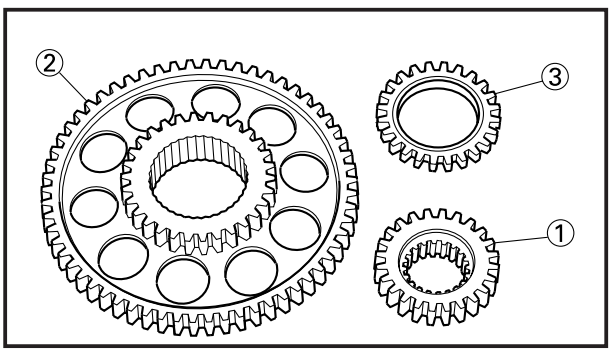
要　　点

ロックワッシャ②を起こし、バランサドライブギヤ③とバランサウエイトギヤ④の間にアルミ板ⓐをかみ込ませてゆるめる。

3. 以下の部品を取外します。
- プライマリドライブギヤ取付ボルト①
- プライマリドライブギヤ②
- バランサドライブギヤ③
- バランサウエイトギヤ取付ナット④
- ロックワッシャ⑤
- バランサウエイトギヤ⑥

要　　点

プライマリドライブギヤおよびバランサドライブギヤが圧入状態となっている場合は、市販のギヤプーラ等を使用してクランクシャフトに無理な力を加えないように取外す。

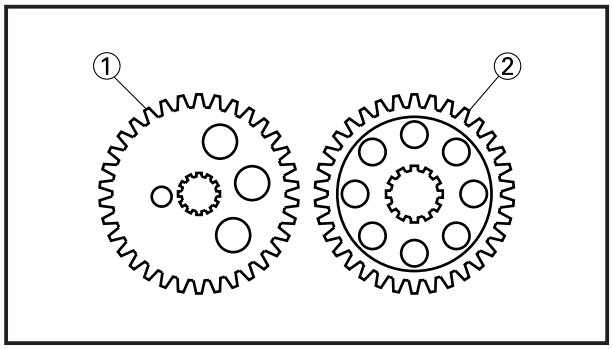


JC4D4000
点検

JC4D4100
プライマリドライブギヤ、プライマリドリブンギヤ、オイルポンプドライブギヤ点検

1. 以下の点検をします。
- プライマリドライブギヤ①
- プライマリドリブンギヤ②
- オイルポンプドライブギヤ③

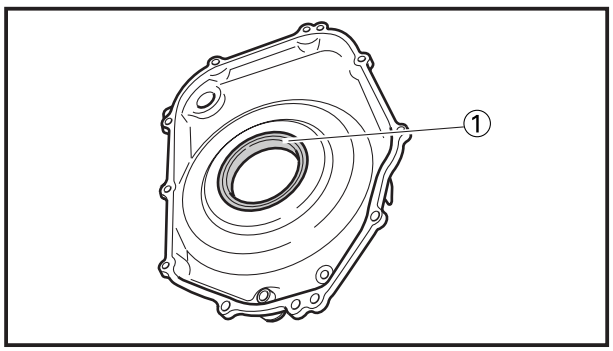
  損傷、摩耗→交換



JC4D4201
バランサウエイトギヤ、バランサドライブギヤ点検

1. 以下の点検をします。
- バランサウエイトギヤ①
- バランサドライブギヤ②

  損傷、摩耗→交換



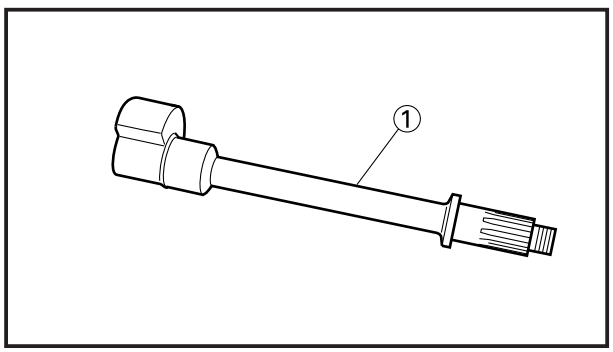
JC4D4300
クランクケースカバー右点検

1. 以下の点検をします。
- クランクケース合面

  傷→交換
- クランクケースカバー右全体

  亀裂、損傷→交換
- オイルシール①

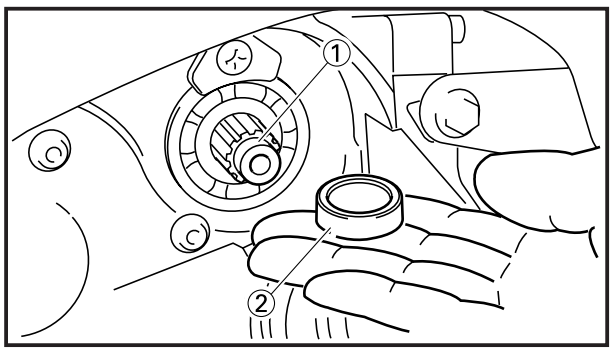
  損傷→交換



JC4D4501
バランサシャフト点検

1. 以下の点検をします。
- バランサシャフト①

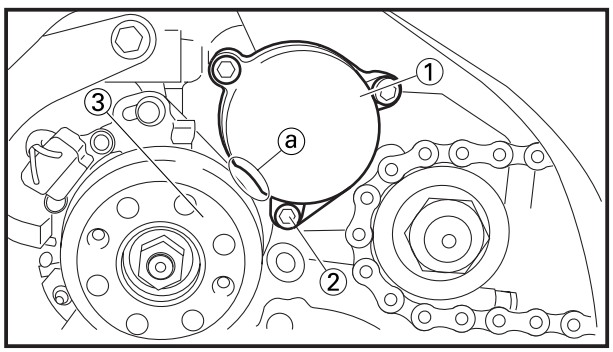
  曲り、損傷→交換



JC4D5000
組付け

JC4D5130
バランサシャフト、プライマリドライブギヤ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- バランサシャフト①
- カラー②

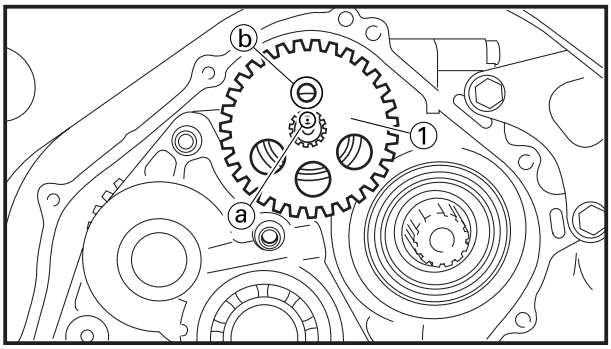


2. 以下の部品を組付けます。
- ケランクケースカバー左ガスケット ***New***
- クランクケースカバー左①
- クランクケースカバー左取付ボルト②

11Nm(1.1kg･m)

要　　点

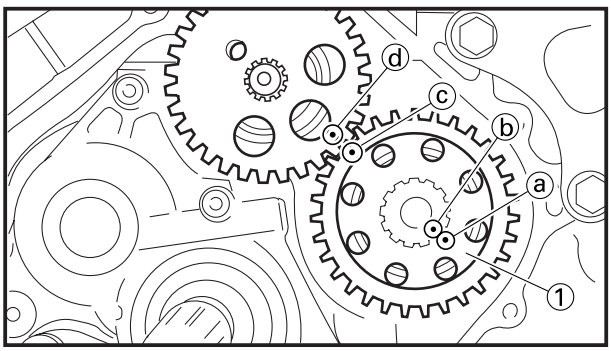
クランクケースカバー左ガスケットとクランクケースカバー左は凹部ⓐをロータ側③に向けて組付ける。



3. 以下の部品を組付けます。
- バランサウエイトギヤ①

要　　点

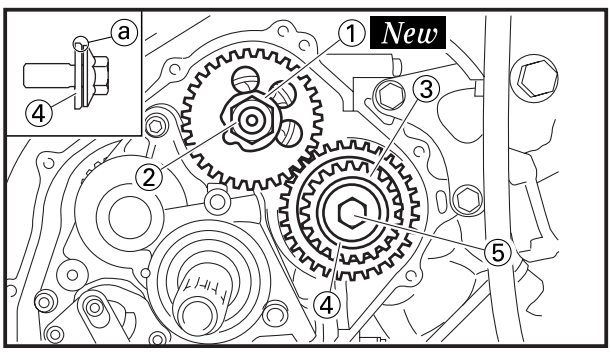
バランサシャフトのポンチマークⓐとバランサウエイトギヤの孔ⓑを合せて組付ける。



4. 以下の部品を組付けます。
- バランサドライブギヤ①

要　　点

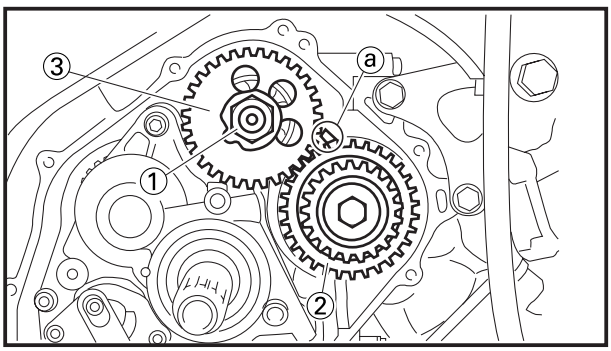
バランサドライブギヤのポンチマークⓐとクランクシャフトのポンチマークⓑを、バランサドライブギヤのポンチマークⓒとバランサウエイトギヤのポンチマークⓓをそれぞれ合せて組付ける。



5. 以下の部品を組付けます。
- ロックワッシャ① **New**
- バランサウエイトギヤ取付ナット②
- プライマリドライブギヤ③
- プレートワッシャ④
- プライマリドライブギヤ取付ボルト⑤

要　　点

プレートワッシャは面取り部ⓐを手前にして組付ける。

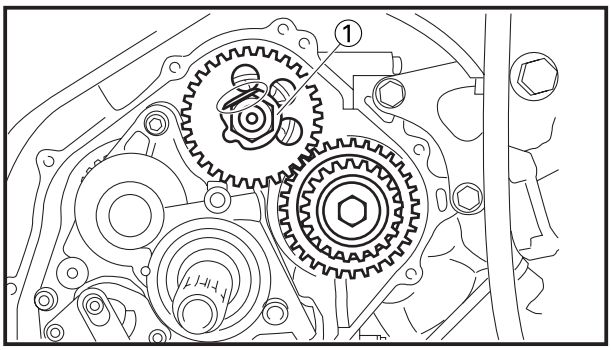


6. 以下の部品を締付けます。
- バランサウエイトギヤ取付ナット①

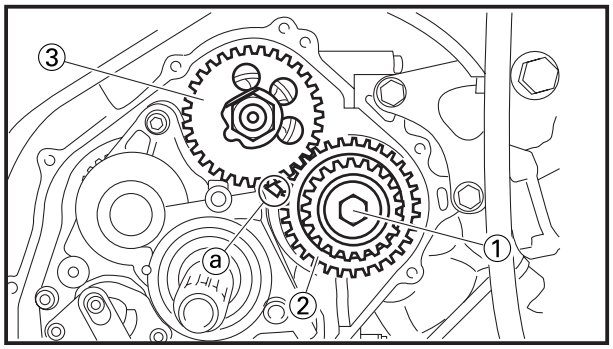
50Nm(5.0kg･m)

要　　点

バランサドライブギヤ②とバランサウエイトギヤ③との間にアルミ板ⓐをかみ込ませて、規定のトルクで締付ける。



7. ロックワッシャ①を確実に折り曲げます。

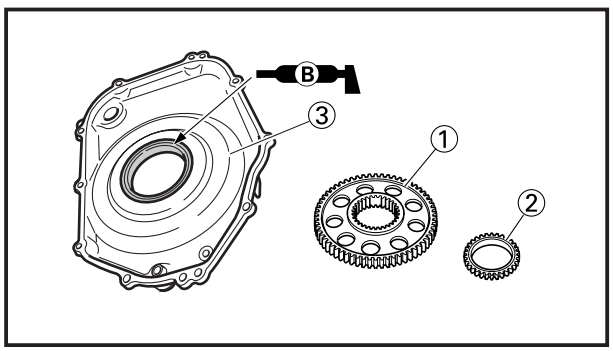


8. 以下の部品を締付けます。
- プライマリドライブギヤ取付ボルト①

55Nm(5.5kg･m)

要　　点

バランサドライブギヤ②とバランサウエイトギヤ③との間にアルミ板ⓐをかみ込ませて、規定のトルクで締付ける。



JC4D5212

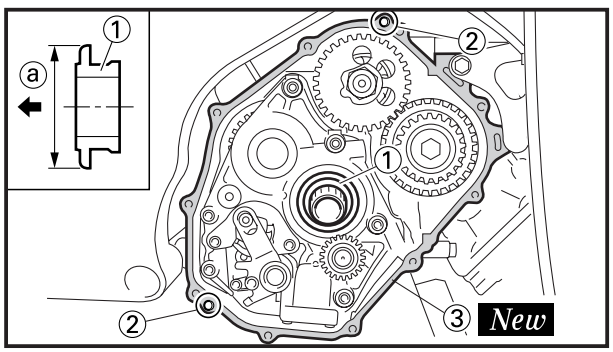
プライマリドリブンギヤ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- プライマリドリブンギヤ①
- オイルポンプドライブギヤ②

クランクケースカバー右③に組付けます。

要　　点

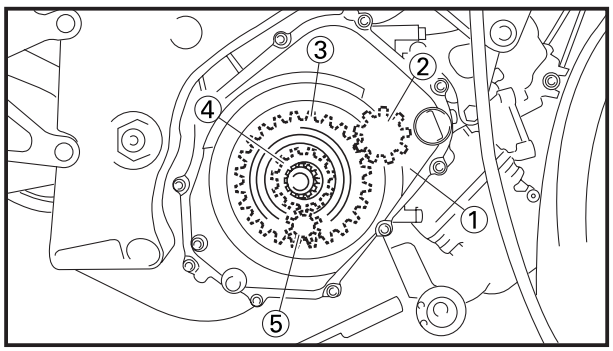
クランクケースカバー右のオイルシールリップ部にヤマハグリースＢを塗布して組付ける。



2. 以下の部品を組付けます。
- スラストプレート①
- ダウエルピン②
- クランクケースカバー右ガスケット③ **New**

要　　点

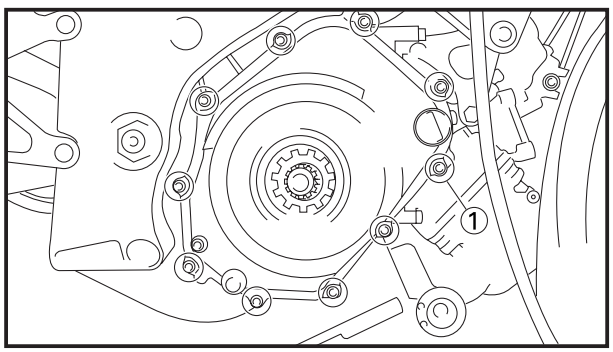
スラストプレートは径の大きい側ⓐをトランスミッション側に向けて組付ける。



3. 以下の部品を組付けます。
- クランクケースカバー右①

要　　点

ロータを回転させながら、プライマリドライブギヤ②とプライマリドリブンギヤ③を、オイルポンプドライブギヤ④とオイルポンプドリブンギヤ⑤をかみ合せて組付ける。



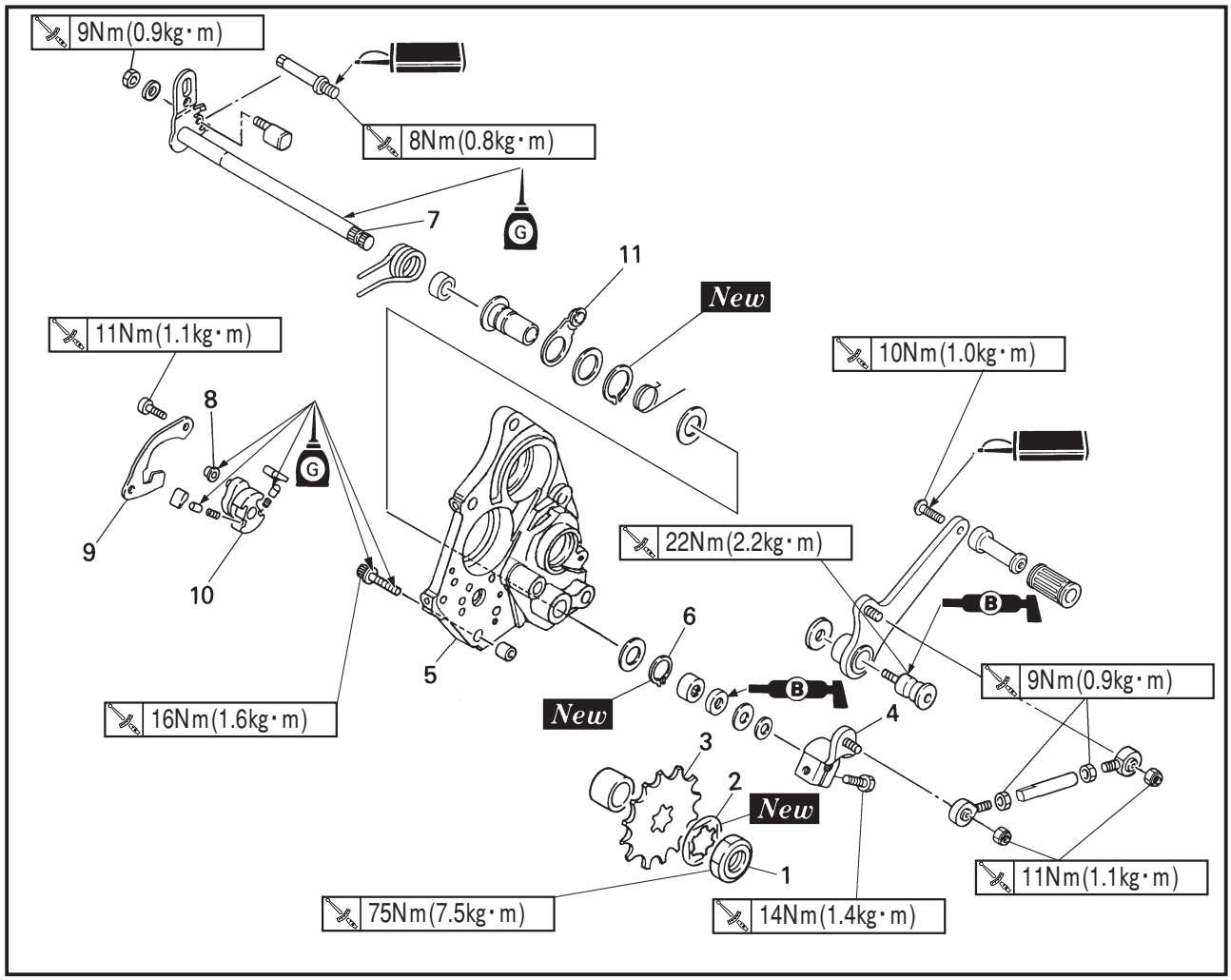
4. 以下の部品を組付けます。
- クランクケースカバー右取付ボルト①

11Nm(1.1kg･m)

要　　点

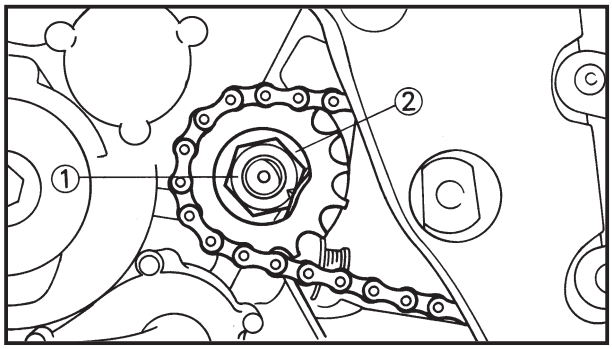
対角線上に２～３回に分けて規定のトルクで締付ける。

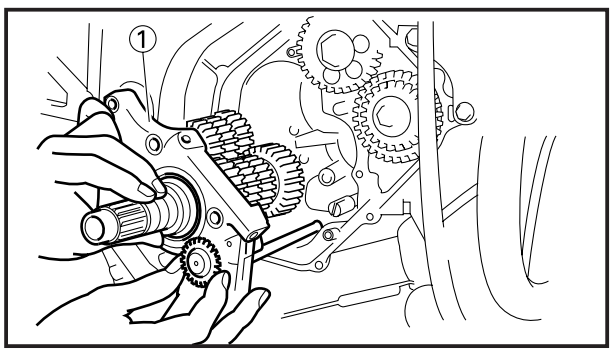
JC4F0000
シフトシャフト

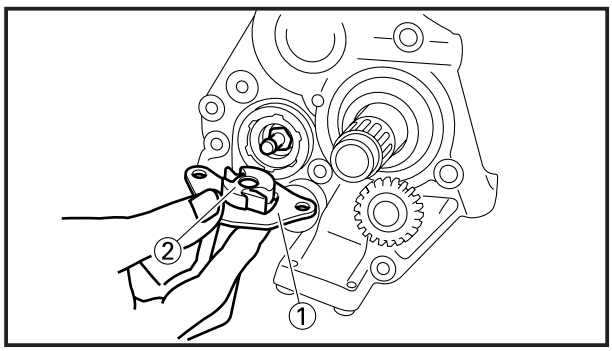


作業範囲　①シフトシャフト取外し　②ストッパレバー取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**シフトシャフトの取外し** クランクケースカバー右		プライマリドリブンギヤ、プライマリドライブギヤ、バランサシャフト参照
① ②	1	ドライブスプロケット取付ナット	1	取外しのポイント参照
	2	ロックワッシャ	1	
	3	ドライブスプロケット	1	
	4	シフトアーム	1	
	5	クランクケース3	1	取外しのポイント参照
	6	サークリップ	1	
	7	シフトシャフト	1	
	8	ローラ	1	
	9	シフトガイド	1	取外しのポイント参照
	10	シフトレバーAss'y	1	
	11	ストッパレバー	1	







JC4F3000
取外しのポイント

JC4F3102
ドライブスプロケット取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ドライブスプロケット取付ナット①
- ロックワッシャ②

要　　点

ロックワッシャを起し、リヤブレーキをかけた状態でナットをゆるめる。

2. 以下の部品を取外します。
- ドライブスプロケット①
- ドライブチェン②

要　　点

ドライブチェンと一緒にドライブスプロケットを取外す。

JC4F3201
クランクケース 3 取外し

1. 以下の部品を取外します。
- クランクケース 3 取付ボルト
- クランクケース 3 ①

要　　点

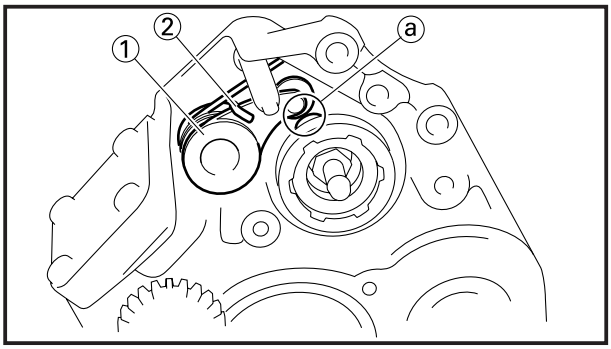
クランクケース 3 にトランスミッション、シフトカム、シフトフォークおよびシフトシャフトが組付いた状態で取外す。

JC4C3100
シフトガイド、シフトレバーAss'y取外し

1. 以下の部品を取外します。
- シフトガイド取付ボルト
- シフトガイド①
- シフトレバーAss'y ②

要　　点

シフトレバーAss'yはシフトガイドに組付いた状態で取外す。

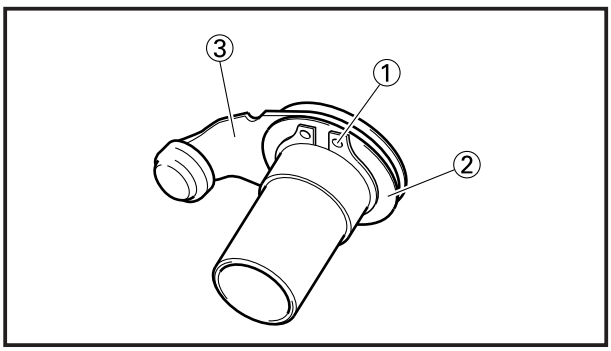


JC4F3401
ストッパレバー取外し

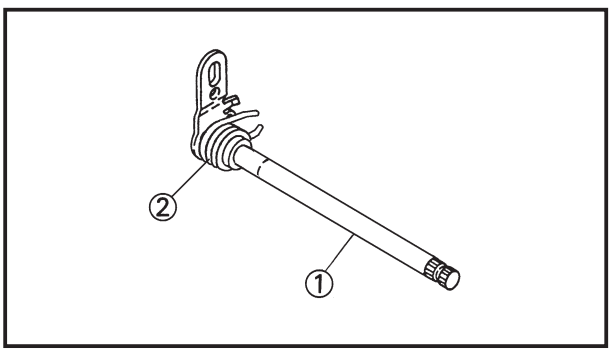
1. 以下の部品を取外します。
- ストッパレバーAss'y①
- トーションスプリング②
- プレートワッシャ

要　　点

ストッパレバーローラをセグメントの山の頂上ⓐに合せて取外す。



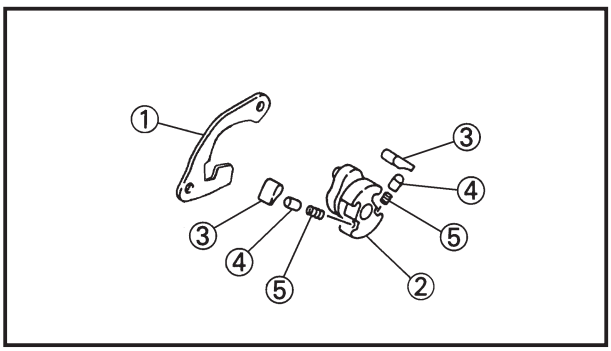
2. 以下の部品を取外します。
- サークリップ①
- プレートワッシャ②
- ストッパレバー③



JC4F4000
点検

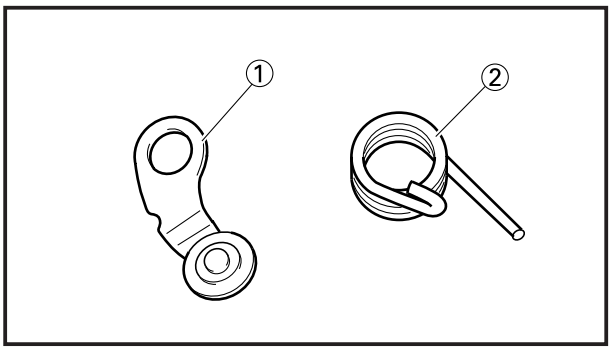
JC4B4400
シフトシャフト点検

1. 以下の点検をします。
- シフトシャフト①
  曲り、損傷→交換
- トーションスプリング②
  へたり、折損→交換



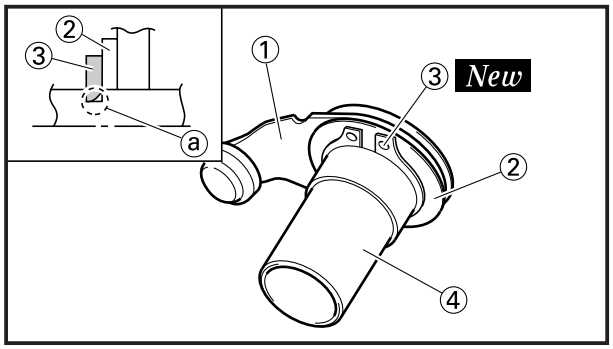
JC4C4100
シフトガイド、シフトレバーAss'y点検

1. 以下の点検をします。
- シフトガイド①
- シフトレバー②
- ポール③
- ポールピン④
- スプリング⑤
  摩耗、損傷→交換



JC4B4500
ストッパレバー点検

1. 以下の点検をします。
- ストッパレバー①
  摩耗、損傷→交換
- トーションスプリング②
  へたり、折損→交換

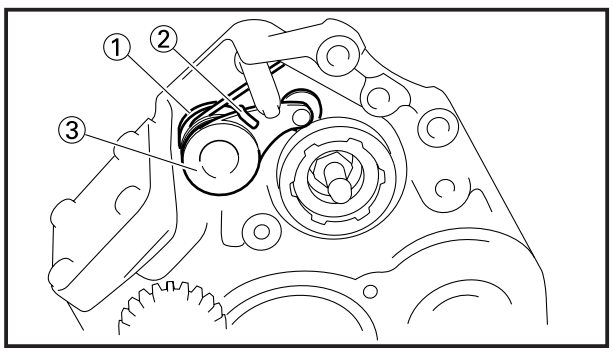


JC4F5000
組付け

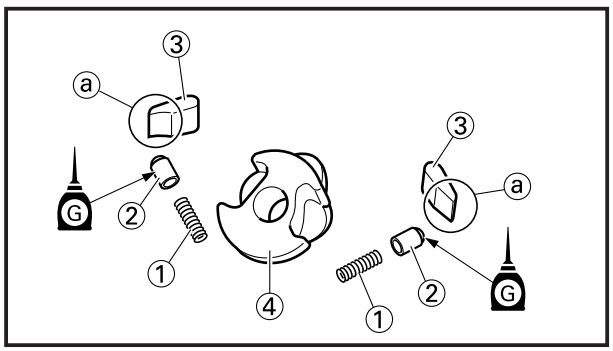
JC4F5100
ストッパレバー組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- ストッパレバー①
- プレートワッシャ②
- サークリップ③ **New**
  カラー④に組付けます。

要　　点
- サークリップの面取り側ⓐをプレートワッシャ側に向けて組付ける。
- サークリップを必要以上に広げない。



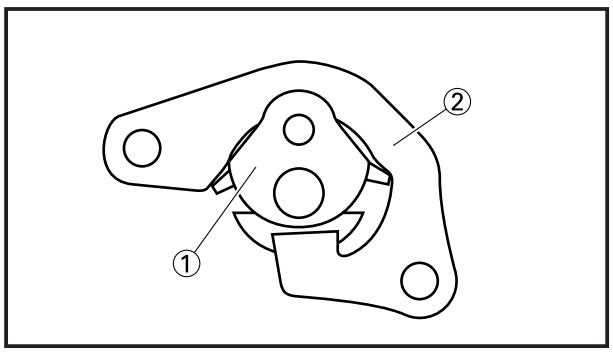
2. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- トーションスプリング②
- ストッパレバーAss'y③



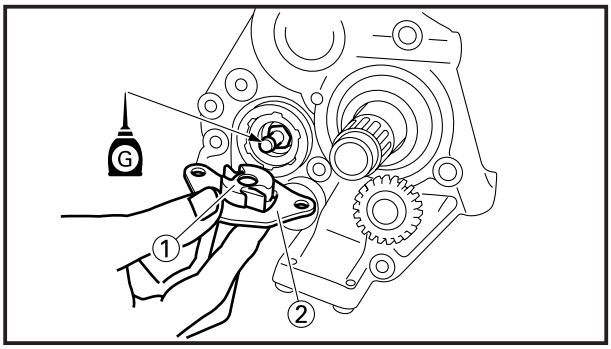
JC4F5200
シフトガイド、シフトレバーAss'y組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- スプリング①
- ポールピン②
- ポール③
  シフトレバー④に組付けます。

要　　点
- ポールの面ダレ側ⓐをポールピン側に向けて組付ける。
- ポールピン摺動部にミッションオイルを塗布して組付ける。

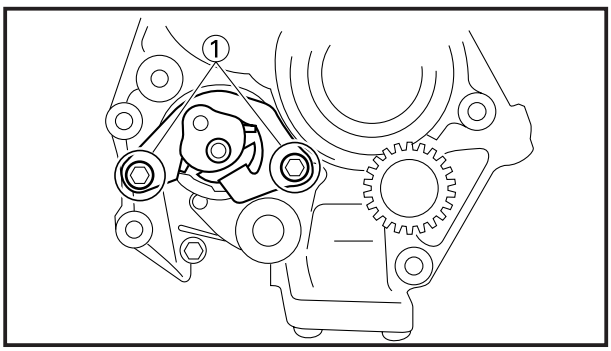


2. 以下の部品を組付けます。
- シフトレバーAss'y①
  シフトガイド②に組付けます。



3. 以下の部品を組付けます。
- シフトレバーAss'y①
- シフトガイド②

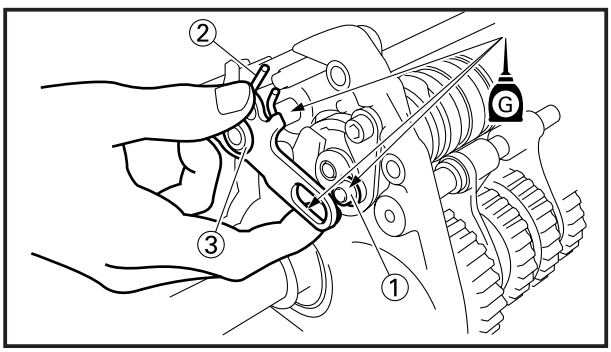
要　　点
- シフトレバーAss'yはシフトガイドに組付いた状態で組付ける。
- シフトレバー軸受部にミッションオイルを塗布して組付ける。



4. 以下の部品を組付けます。
- シフトガイド取付ボルト①

11Nm(1.1kg･m)

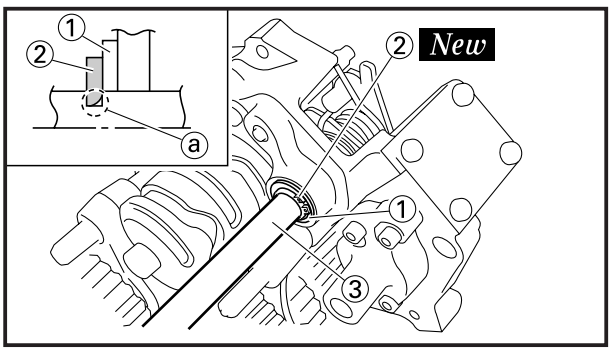
JC4F5300
シフトシャフト組付け



1. 以下の部品を組付けます。
- ローラ①
- トーションスプリング②
- シフトシャフト③

要　　点

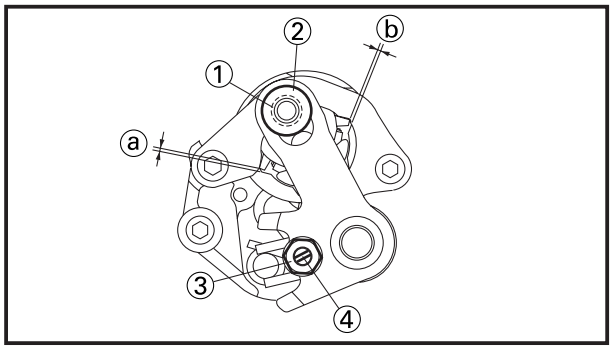
ローラ、シフトシャフトにミッションオイルを塗布して組付ける。



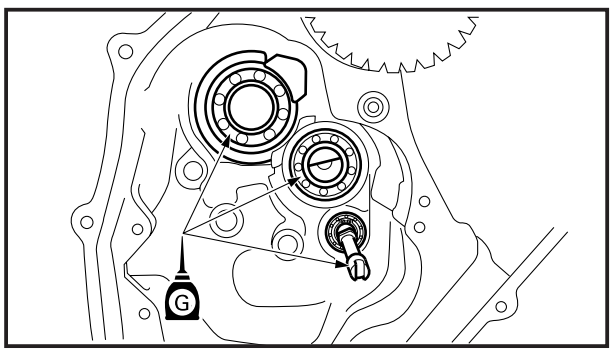
2. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- サークリップ② ***New***

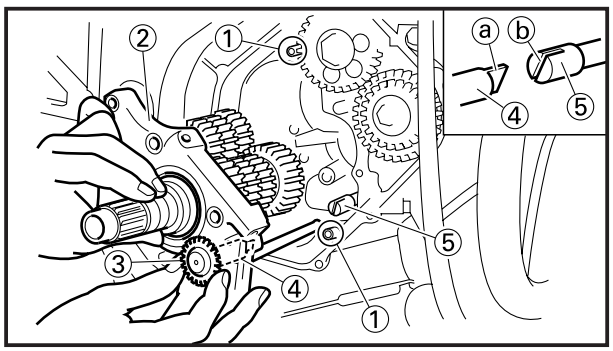
  シフトシャフト③に組付けます。

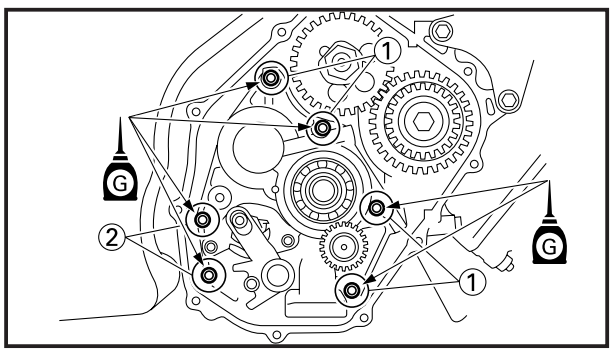
要　　点
- サークリップの面取り側ⓐをプレートワッシャ側に向けて組付ける。
- サークリップを必要以上に広げない。



3. 以下の点検をします。
- チェンジがニュートラル以外のときポールの先端とセグメントのすき間ⓐ、ⓑが等しいかローラ①に同梱パーツのカラー②を組付けて点検します。
  等しくない場合→調整
4. 以下の調整をします。
- ロックナット③をゆるめアジャスタ④で調整します。
  調整後ロックナットを規定のトルクで締付けます。　9Nm(0.9kg･m)







JC4F5413
クランクケース 3 組付け

1. クランクケース下のベアリング、インペラシャフトにミッションオイルを塗布します。

2. 以下の部品を組付けます。
- ダウエルピン①
- クランクケース３②

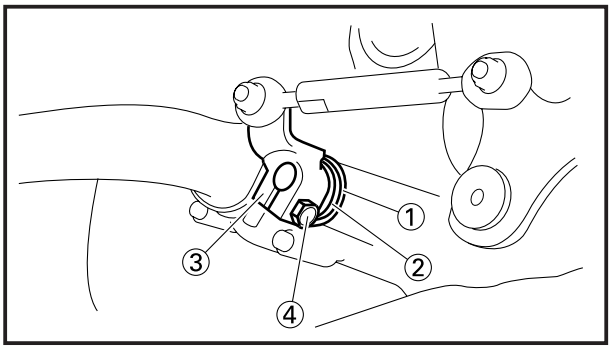
要　　点

オイルポンプドリブンギヤ③を回転させながら、オイルポンプギヤシャフト④の凸部ⓐとインペラシャフト⑤の凹部ⓑを合せて組付ける。

3. 以下の部品を組付けます。
- クランクケース３取付ボルト（ℓ=40㎜）①　16Nm(1.6kg･m)
- クランクケース３取付ボルト（ℓ=30㎜）②　16Nm(1.6kg･m)

要　　点

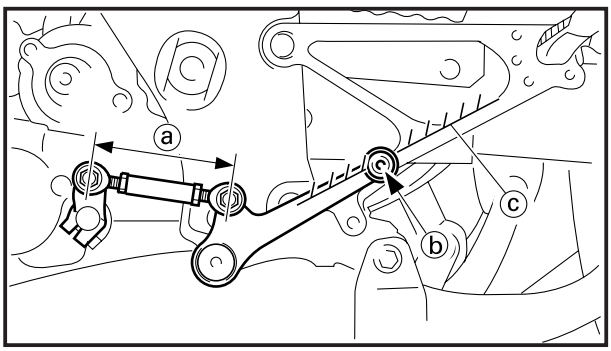
- クランクケース３取付ボルトの座面およびネジ部にミッションオイルを塗布して組付ける。
- 対角線上に2～3回に分けて規定のトルクで締付ける。



4. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- スペーサ②
- シフトアーム③
- シフトアーム取付ボルト④

14Nm(1.4kg･m)

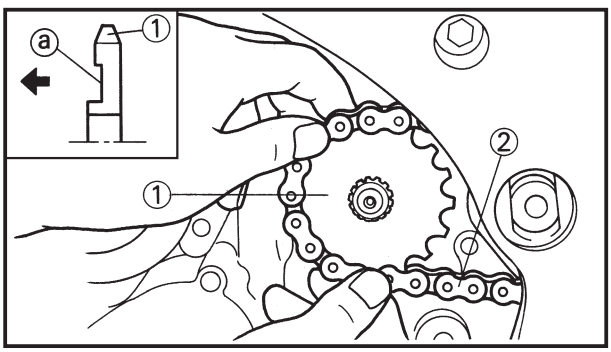
要　　点
- ジョイントロッド間ⓐが104.5～106.5㎜の範囲にある事を確認する。
- シフトペダル中心ⓑがフートレストブラケット内側のラインⓒより越えない範囲で一番高くなるようにシフトアームを組付ける。



JC4F5510
ドライブスプロケット組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- ドライブスプロケット①
- ドライブチェン②

要　　点
- ドライブスプロケットは肉抜き側ⓐをエンジン側に向けて組付ける。
- ドライブスプロケットとドライブチェンを同時に組付ける。

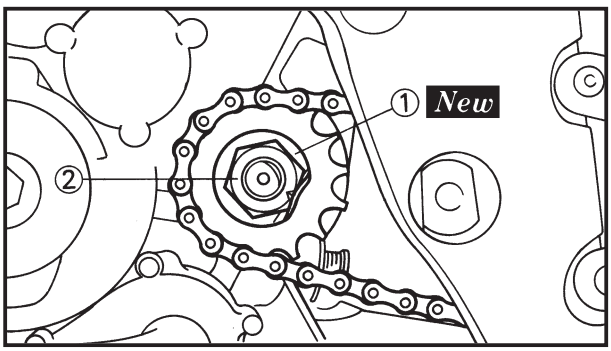


2. 以下の部品を組付けます。
- ロックワッシャ① ***New***
- ドライブスプロケット取付ナット②

75Nm(7.5kg･m)

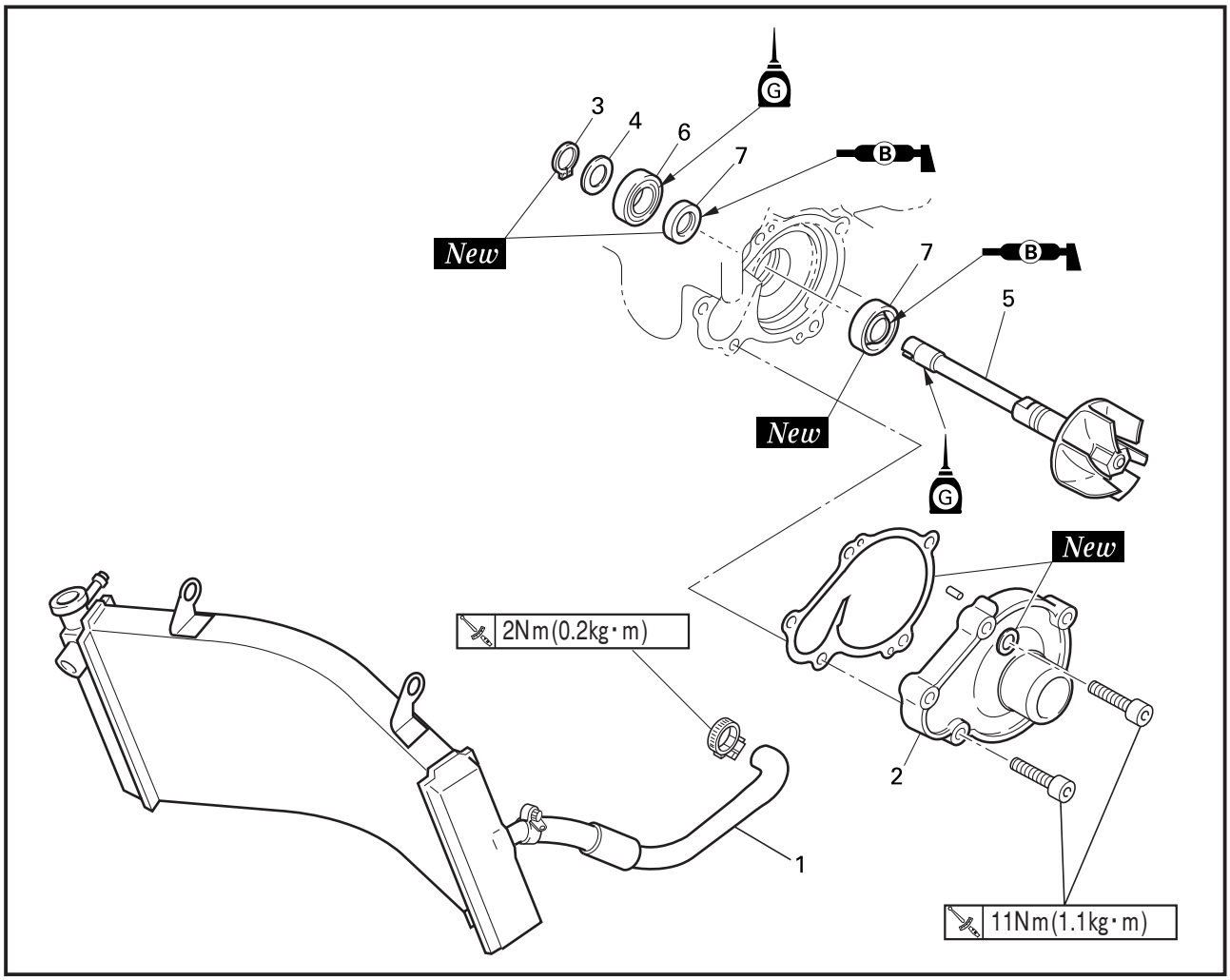
要　　点

リヤブレーキをかけた状態でナットを締付ける。



3. ロックワッシャを確実に折り曲げます。

JC4G0000
ウォータポンプ



作業範囲　①インペラシャフト取外し　②オイルシール取外し

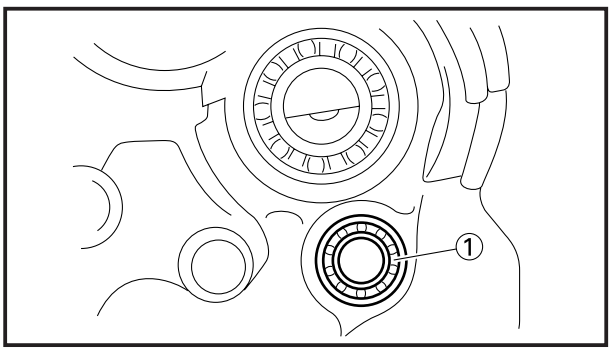
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**ウォータポンプの分解** カウリング 冷却水を抜く クランクケース3		 カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照 第3章―冷却水の交換参照 シフトシャフト参照
① ② ① ② ① ② ① ② ① ② ① ②	1	ラジエタホース2	1	
	2	ウォータポンプハウジングカバー	1	
	3	サークリップ	1	
	4	プレートワッシャ	1	
	5	インペラシャフト	1	
	6	ベアリング	1	取外しのポイント参照
	7	オイルシール	2	取外しのポイント参照

JC4G3000
取外しのポイント

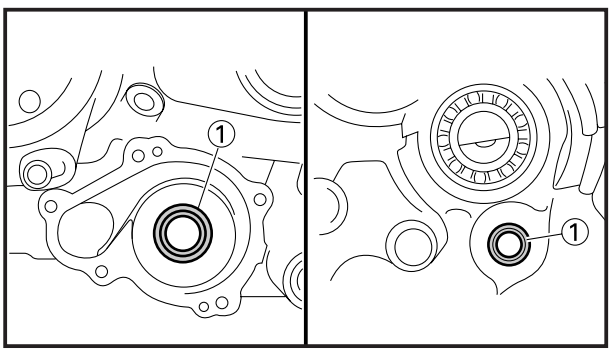
JC4G3210
オイルシール取外し

要　　点

- オイルシールの交換は、冷却水容量の変化が通常よりも多い場合、冷却水が変色した場合、トランスミッションオイルが乳白色に変色した場合に行う。
- 取外したオイルシールは再使用しない。



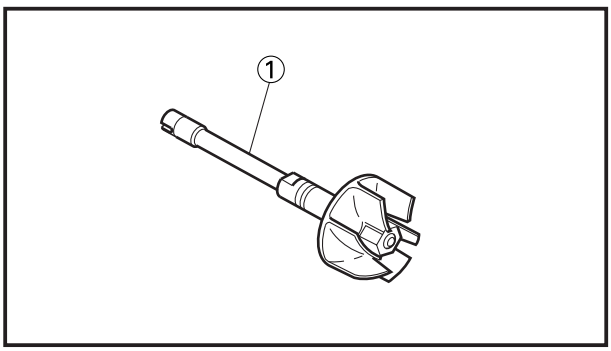
1. 以下の部品を取外します。
- ベアリング①



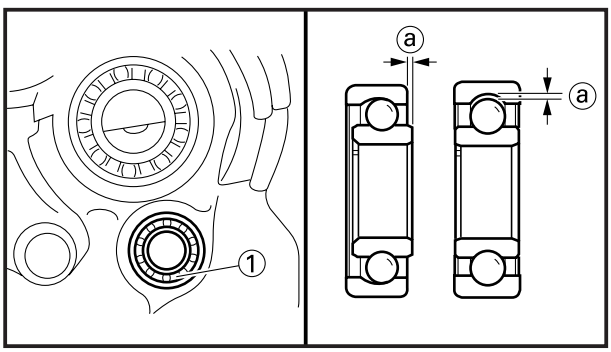
2. 以下の部品を取外します。
- オイルシール①

JC4G4000
点検

JC444201
インペラシャフト点検

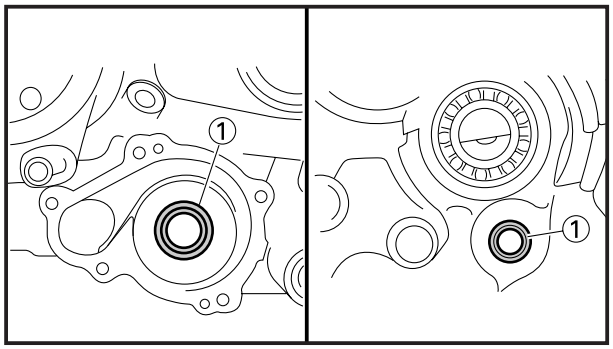


1. 以下の点検をします。
- インペラシャフト①
  曲り、摩耗、損傷→交換
  水アカで汚れている→清掃



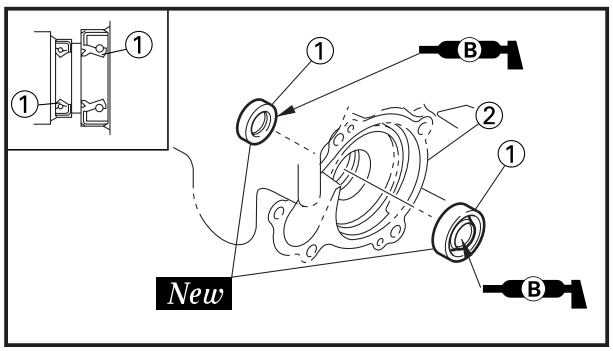
JC4H4601
ベアリング点検

1. 以下の点検をします。
- ベアリング①
  スムーズに回転しない、がたⓐ、異音→交換



JC444400
オイルシール点検

1. 以下の点検をします。
- オイルシール①
  損傷、劣化、偏摩耗→交換



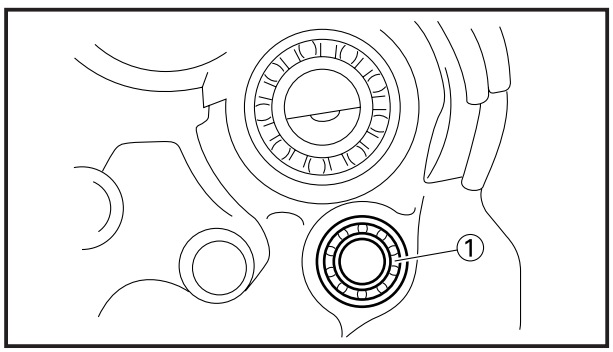
JC4G5000
組付け

JC4G5120
オイルシール組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- オイルシール① ***New***

要　　点

オイルシールリップ部にヤマハグリースBを少量塗布して、メーカー印、サイズ記号面をクランクケース②に向けて、平行に組付ける。



2. 以下の部品を組付けます。
- ベアリング①

要　　点

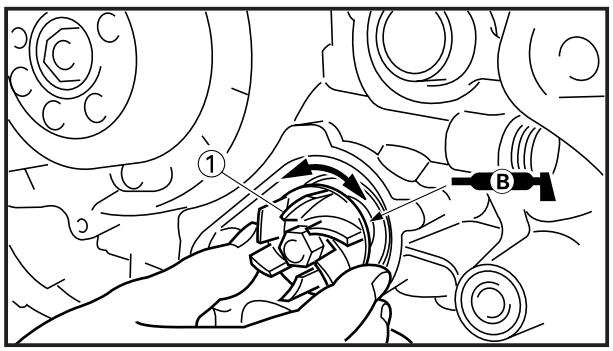
アウタレースに力を加えて平行に圧入する。

JC4G5204
インペラシャフト組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- インペラシャフト①

要　　点

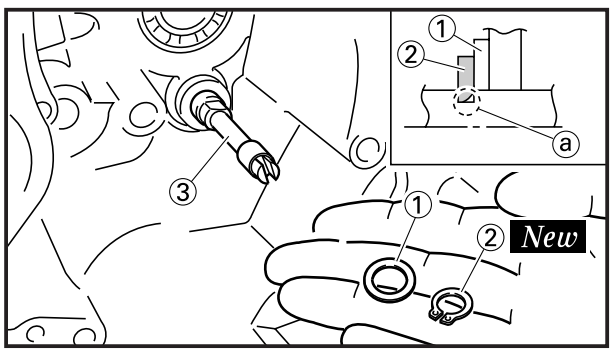
- オイルシールのリップを傷付けたり、リップ部のスプリングを外さないようにする。
- インペラシャフト、オイルシールリップ部にヤマハグリースBを塗布し、インペラシャフトを回しながら組付ける。

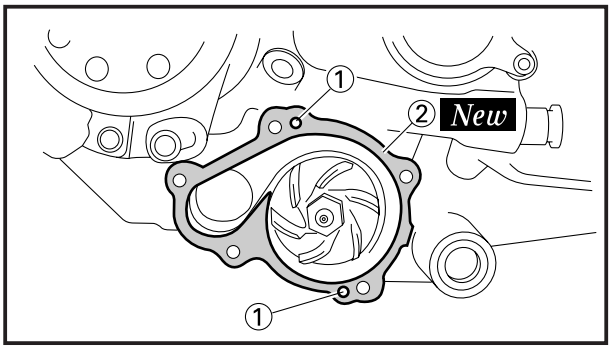


2. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- サークリップ② ***New***
  インペラシャフト③に組付けます。

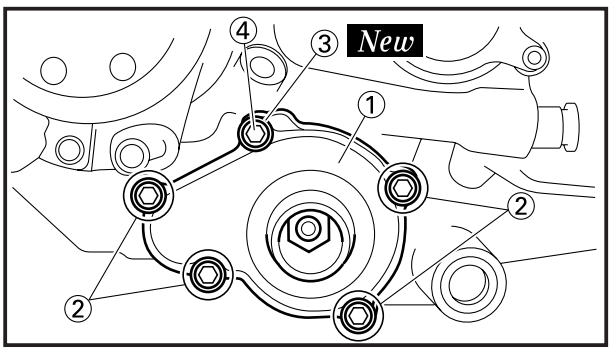
要　　点

- サークリップの面取り側ⓐをプレートワッシャ側に向けて組付ける。
- サークリップを必要以上に広げない。

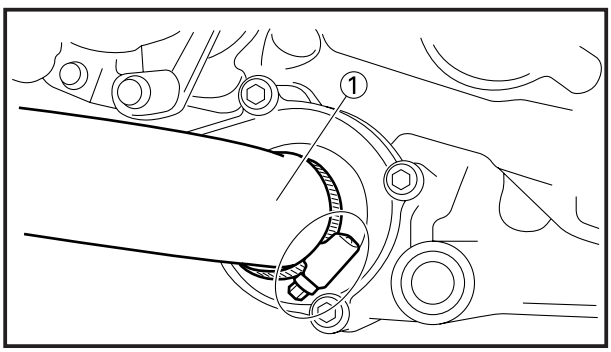




3. 以下の部品を組付けます。
- ダウエルピン①
- ウォータポンプハウジングカバーガスケット② ***New***



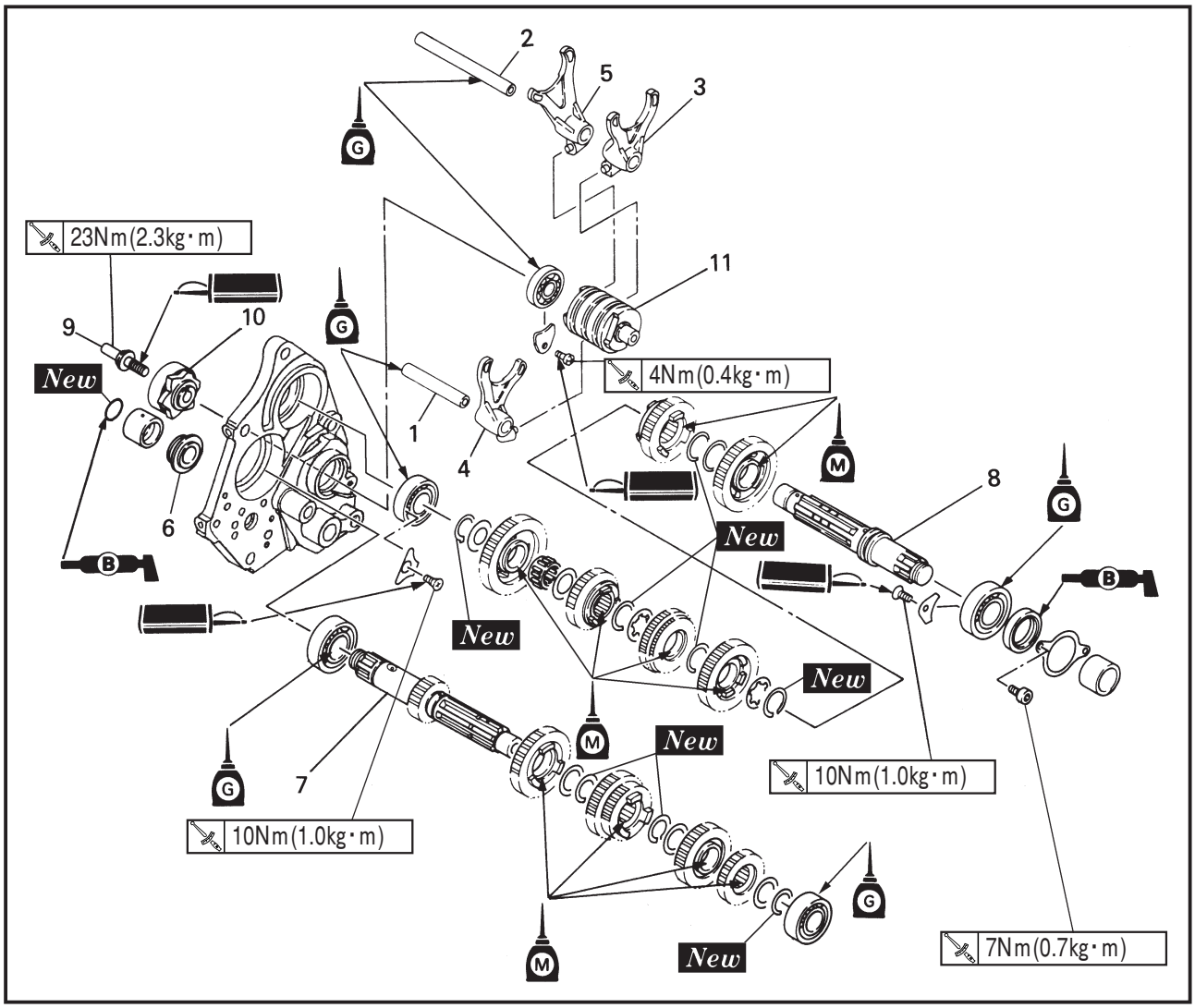
4. 以下の部品を組付けます。
- ウォータポンプハウジングカバー①
- ウォータポンプハウジングカバー取付ボルト② 11Nm(1.1kg・m)
- プレートワッシャ③ ***New***
- ウォータポンプエア抜きボルト④ 11Nm(1.1kg・m)



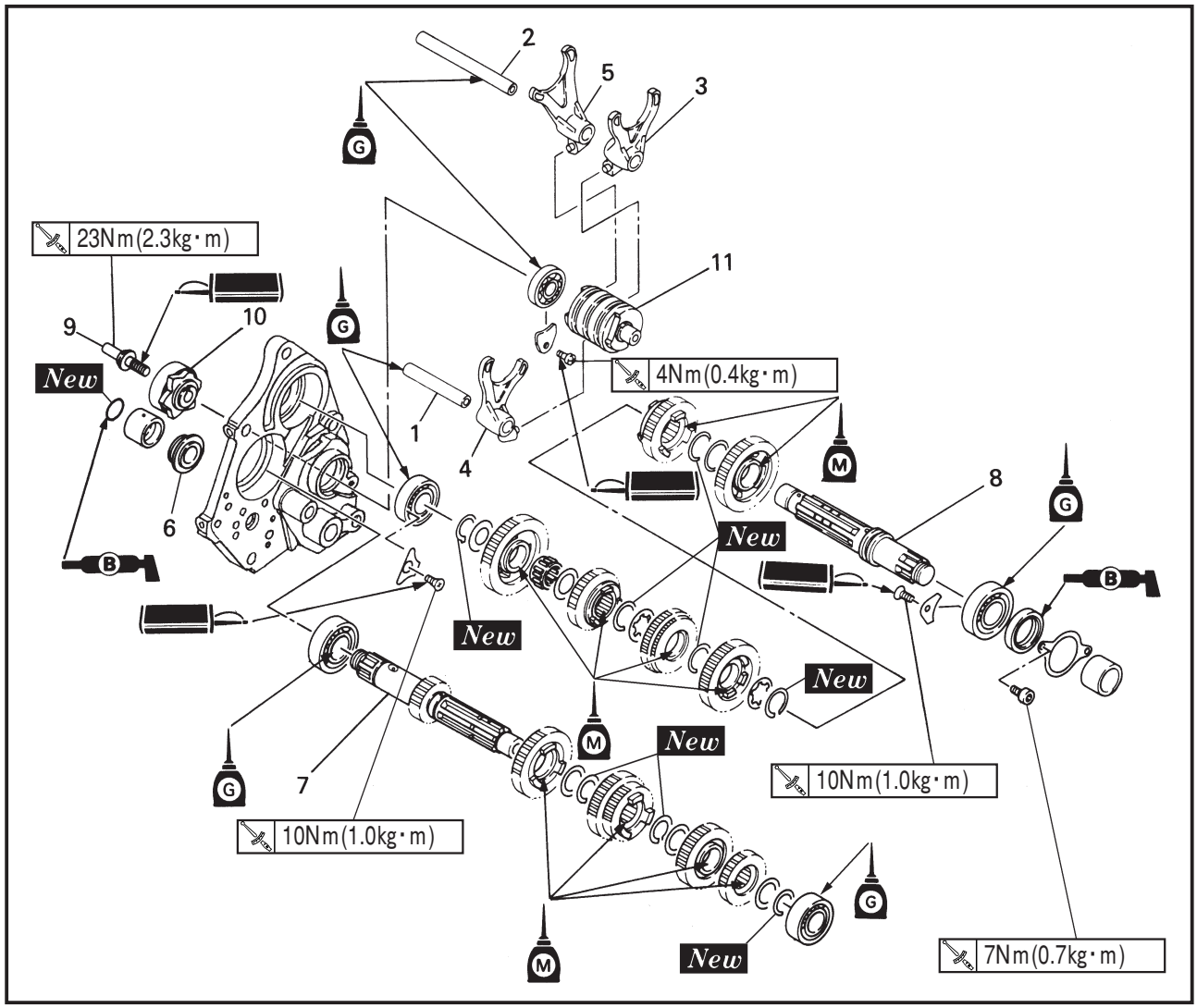
5. 以下の部品を組付けます。
- ラジエタホース２① 2Nm(0.2kg・m)

JC4H0000

トランスミッション、シフトカム、シフトフォーク

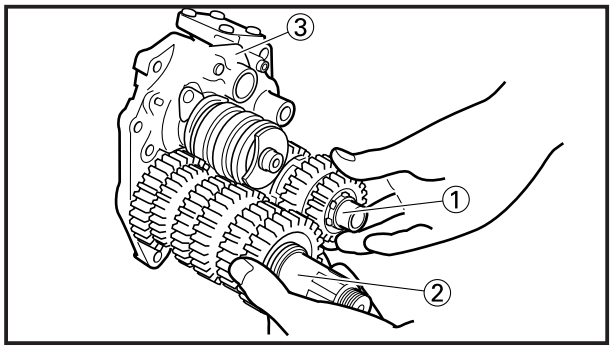


作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		トランスミッション、シフトカム シフトフォークの取外し		
関連作業		カウリング		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
		クランクケース3		シフトシャフト参照
		シフトシャフト、シフトレバーAss'y		
		ストッパレバー		



作業範囲　①シフトフォーク取外し　②メインアクスル、ドライブアクスル取外し
③シフトカム取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
①	1	シフトフォークガイドバー1（短い）	1	
	2	シフトフォークガイドバー2（長い）	1	
	3	シフトフォーク1	1	
②	4	シフトフォーク2	1	
	5	シフトフォーク3	1	
③	6	スラストプレート	1	
	7	メインアクスル	1	取外しのポイント参照
	8	ドライブアクスル	1	
	9	セグメント取付ボルト	1	取外しのポイント参照
	10	セグメント	1	
	11	シフトカム	1	



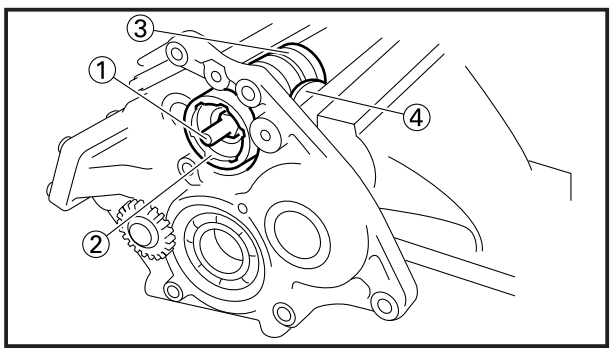
JC4H3000
取外しのポイント

JC4H3211
トランスミッション取外し

1. 以下の部品を取外します。
- メインアクスル①
- ドライブアクスル②

要　　点

- メインアクスルとドライブアクスルを一緒にクランクケース３③から取外す。
- トランスミッションを分解する時、各パーツの組付け位置を忘れないようにメモする。特にシフトフォークの組付け位置、組付け方向に注意する。

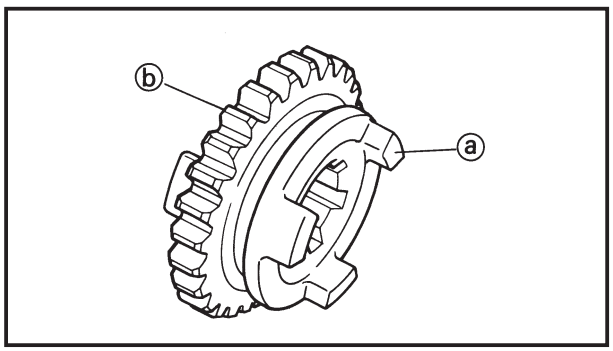


JC4H3400
セグメント取外し

1. 以下の部品を取外します。
- セグメント取付ボルト①
- セグメント②

要　　点

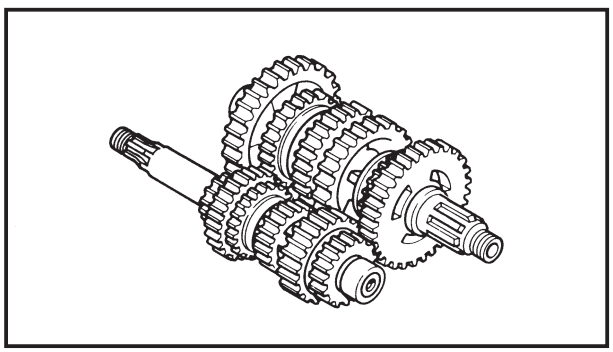
シフトカム③をアルミ板④ではさみ、バイスに固定してセグメント取付ボルトを取外す。



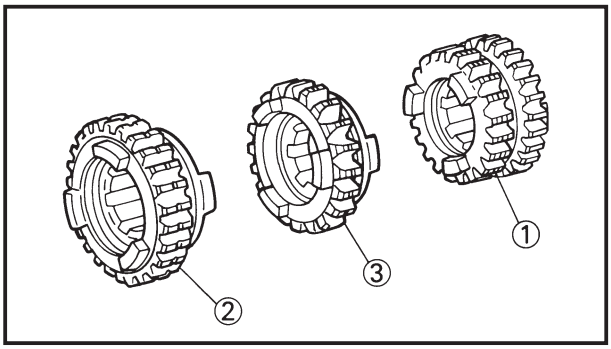
JC4H4000
点検

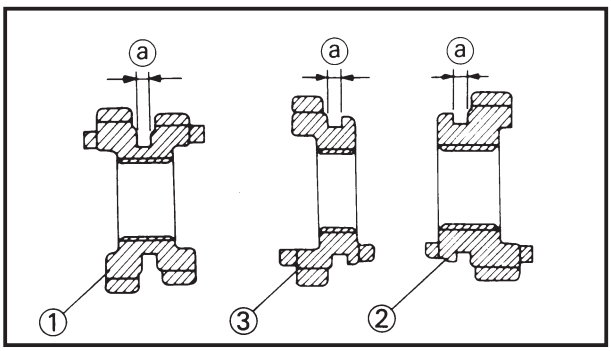
JC4H4211
トランスミッションギヤ点検

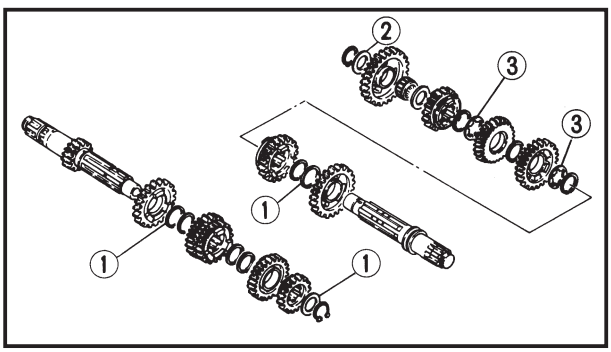
1. 以下の点検をします。
- ドッグ部ⓐ
- ギヤ歯面ⓑ
  摩耗、損傷、焼け→交換



2. 以下の点検をします。
- 各ギヤの動き
  各ギヤがスムーズに作動しない→分解して修正または交換







JC4H4300

トランスミッションギヤシフトフォーク溝点検

1. 以下の点検をします。
- ３速／４速ピニオンギヤ①
- ５速ホイールギヤ②
- ６速ホイールギヤ③

各ギヤのシフトフォーク溝ⓐを点検します。
使用限度以上→交換

標準値
5.05～5.18㎜
使用限度
5.35㎜

JC4H4403

ギヤスラスト隙間点検

1. 以下の点検をします。
- ミッション組立後、遊動ギヤを軽くまわしがたがなく、軽く回転するか点検します。
がたが大きいまたは、回転が重い→シム①、②、③を交換し調整

パーツ名	仕様（厚さ）	パーツNo.
シム① 標準	1.0	90201−253K0
	0.9	90201−256E6
シム② 標準	1.0	90201−20276
	0.9	90201−206E5
シム③ 標準	0.7	5F7−17136-00
	0.5	90209−22082

要　　点

ミッションの各ギヤ、各アクスル、ワッシャ、サークリップを交換した場合およびオプショナルミッションと組替えた場合には点検、調整する。

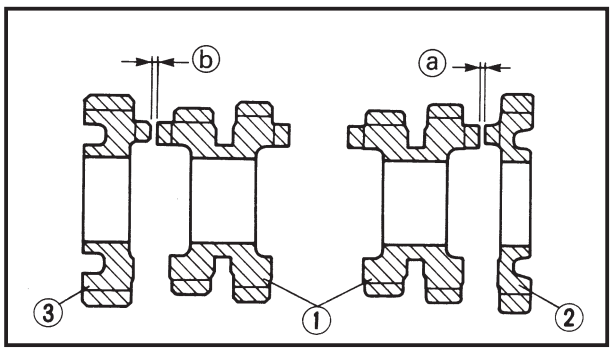
JC4H4504

ドッグクリアランス点検

要　　点

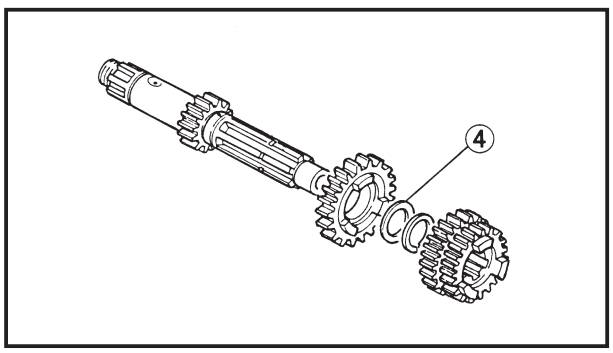
- ギヤの回転が重い場合やギヤチェンジに異状がある場合は前記の他にシフトフォーク、シフトカムおよびシフトレバーの送り等の点検が必要ですが、これらに異状がない場合はドッグクリアランスの点検を行う。
- ミッションの各ギヤ、アクスルベアリング、ワッシャ、サークリップを交換した場合およびオプショナルミッションと組替えた場合、その他クランクケースを交換した場合等もドッグクリアランスの点検、調整を行う。

1. クランクケース3にトランスミッション、シフトカム、シフトフォークを組込み、メインアクスルをクラッチ側に引いた状態にします。
2. シフトカムをニュートラルの位置にします。
3. メインアクスル上の3速／4速ピニオンギヤを6速ピニオンギヤ、5速ピニオンギヤの各ドッグ部に突合させます。



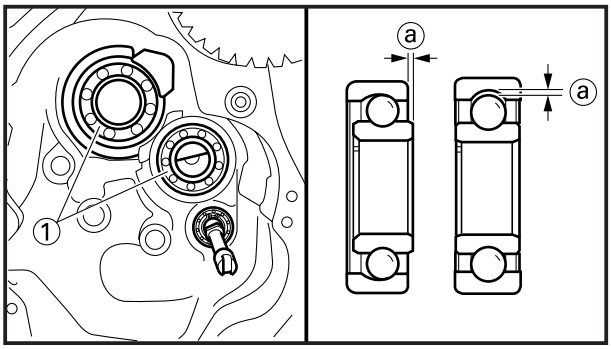
4. 3速／4速ピニオンギヤ①と6速ピニオンギヤ②のドッグクリアランスⓐと3速／4速ピニオンギヤと5速ピニオンギヤ③のドッグクリアランスⓑをクリアランスの小さくなる方向に指で軽くギヤを押えながら測定します。

	ドッグクリアランスⓐ、ⓑ 0.5㎜以上



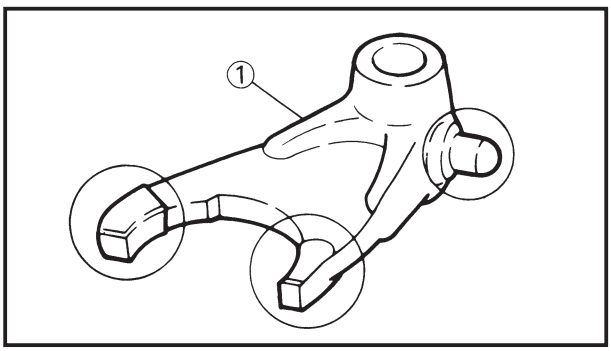
各ドッグクリアランスが規定値以下またはドッグクリアランスⓐとⓑが等しくない場合→シム④を交換し調整

パーツ名	仕様（厚さ）	パーツNo.
シム④　標準	1.0	90201−253K0
	0.9	90201−256E6



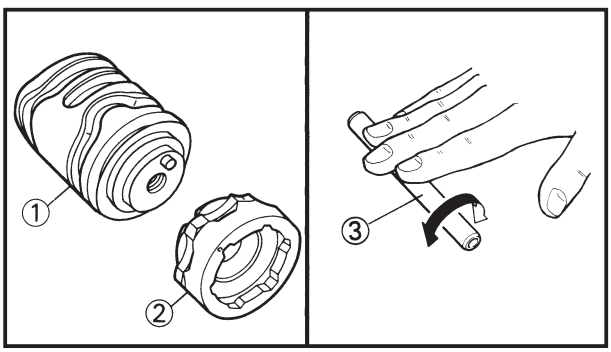
JC4H4601
ベアリング点検

1. 以下の点検をします。
- ベアリング①
  スムーズに回転しない、がたⓐ、異音→交換

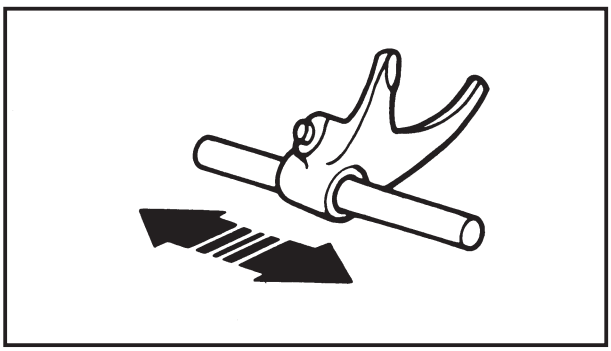


JC4H4800
シフトフォーク、シフトカム、セグメント点検

1. 以下の点検をします。
- シフトフォーク①
  焼け、曲り、摩耗→交換



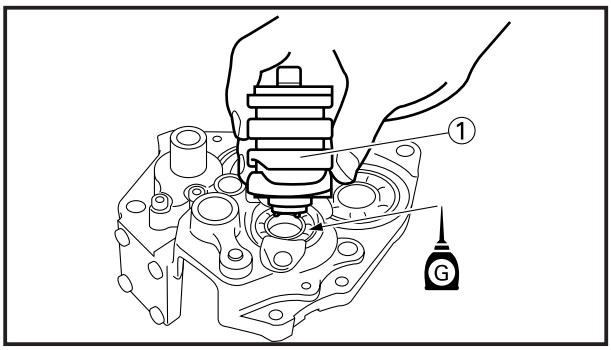
2. 以下の点検をします。
- シフトカム①
- セグメント②
- シフトフォークガイドバー③
  曲り、損傷、摩耗→交換



3. 以下の点検をします。
- シフトフォーク作動
  作動不良→交換

要　　点

シフトフォーク、ミッションギヤに異状がある場合は１点だけの部品を交換するのではなく、シフトフォークとたがいに噛合うミッションギヤ２枚を３点セットで交換する。



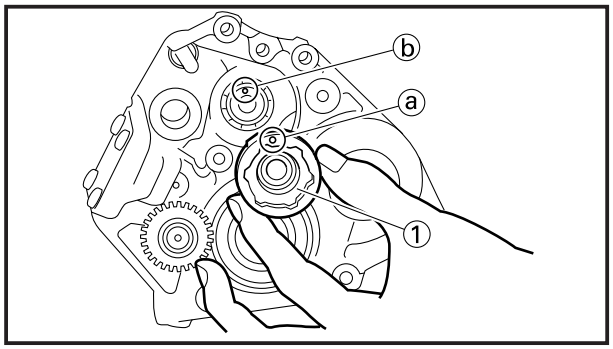
JC4H5000
組付け

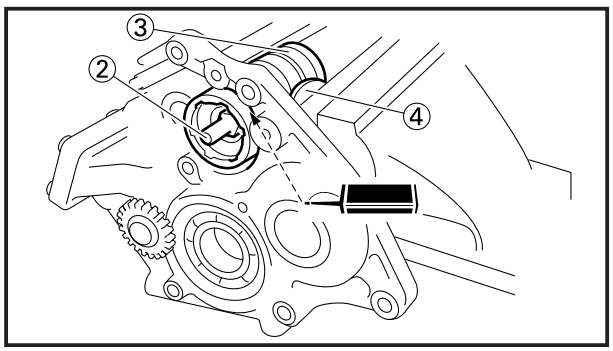
JC4H5113
シフトカム組付け

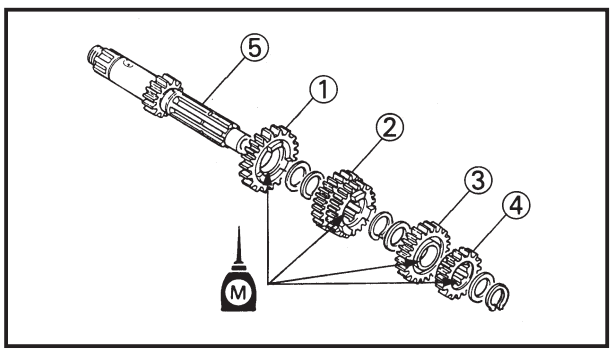
1. 以下の部品を組付けます。
- シフトカム①

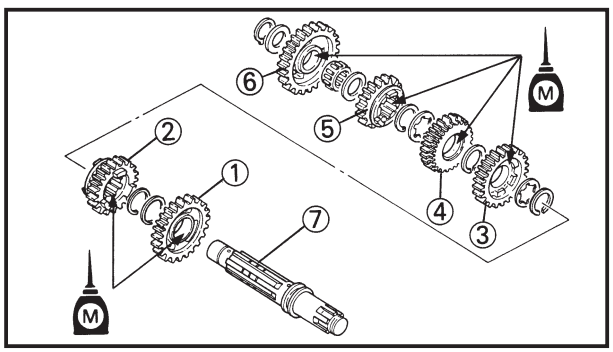
要　　点

シフトカムベアリングにミッションオイルを塗布して組付ける。









2. 以下の部品を組付けます。
- セグメント①
- セグメント取付ボルト②

23Nm(2.3kg･m)

要　　点

- セグメントのポンチマークⓐをシフトカムのダウエルピンⓑに合せて組付ける。
- シフトカム③をアルミ板④ではさみ、バイスに固定してセグメント取付ボルトを規定のトルクで締付ける。

JC4H5234

トランスミッション組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- 6速ピニオンギヤ（27T）①
- 3速/4速ピニオンギヤ（21/22T）②
- 5速ピニオンギヤ（21T）③
- 2速ピニオンギヤ（21T）④

メインアクスル⑤に組付けます。

要　　点

遊動ギヤ、摺動ギヤ内径部にヤマハ二硫化モリブデンオイルを塗布して組付ける。

ヤマハ二硫化モリブデンオイル

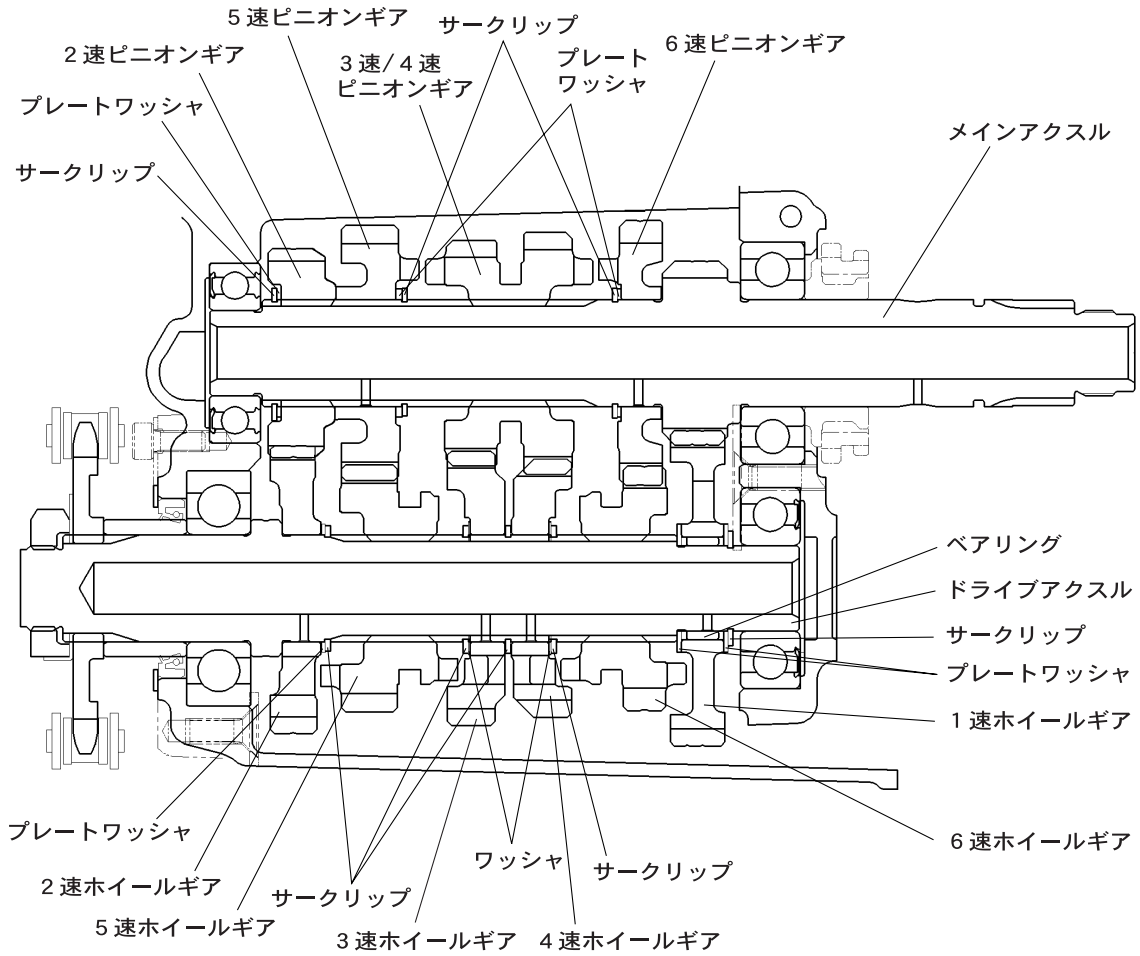
2. 以下の部品を組付けます。
- 2速ホイールギヤ（31T）①
- 5速ホイールギヤ（21T）②
- 3速ホイールギヤ（26T）③
- 4速ホイールギヤ（24T）④
- 6速ホイールギヤ（25T）⑤
- 1速ホイールギヤ（31T）⑥

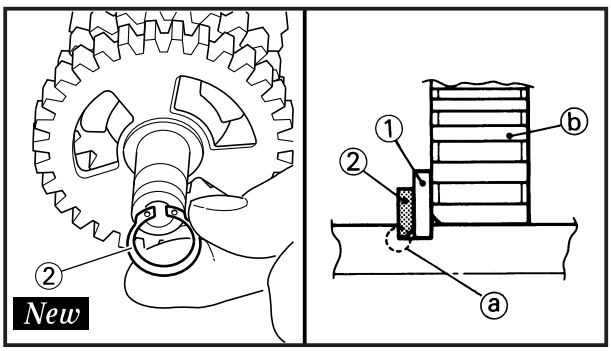
ドライブアクスル⑦に組付けます。

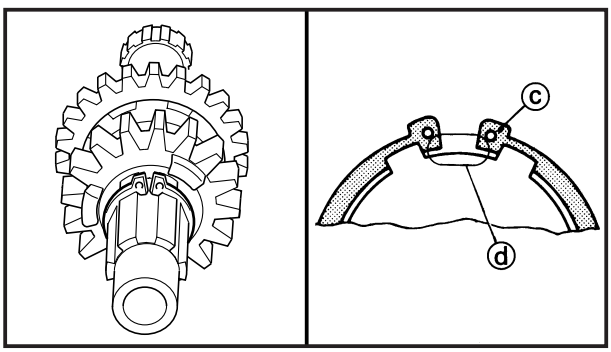
要　　点

遊動ギヤ、摺動ギヤ内径部にヤマハ二硫化モリブデンオイルを塗布して組付ける。

ヤマハ二硫化モリブデンオイル

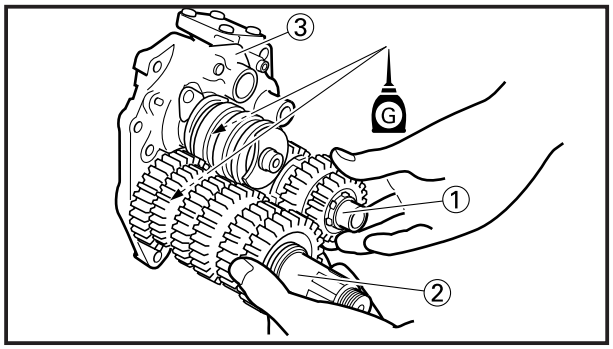






3. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- サークリップ② **New**

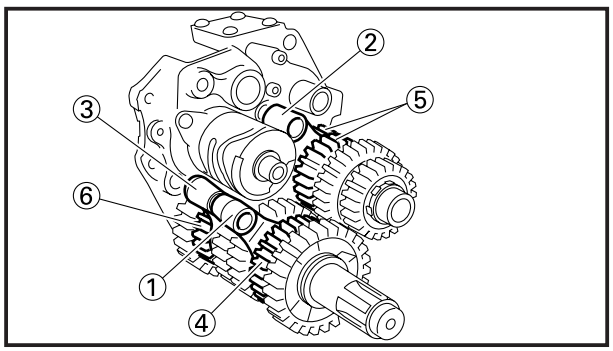
要　点
- サークリップのエッジ側ⓐをワッシャ①とギヤⓑの逆に向けて組付ける。
- サークリップの合口ⓒをスプラインの谷の中心ⓓに合せて組付ける。
- サークリップを必要以上に広げない。



4. 以下の部品を組付けます。
- メインアクスル①
- ドライブアクスル②
  クランクケース３③に同時に組付けます。

要　　点

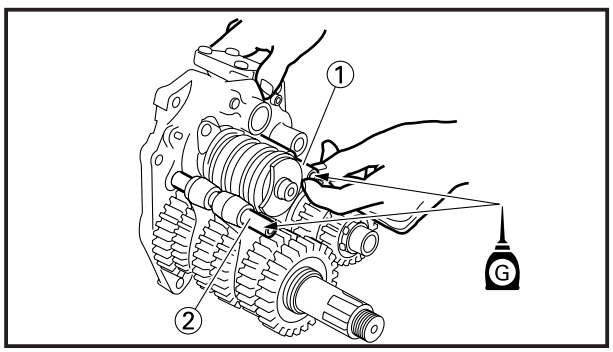
メインアクスルベアリングおよびドライブアクスルベアリングにミッションオイルを塗布して組付ける。



5. 以下の部品を組付けます。
- シフトフォーク１①
- シフトフォーク２②
- シフトフォーク３③

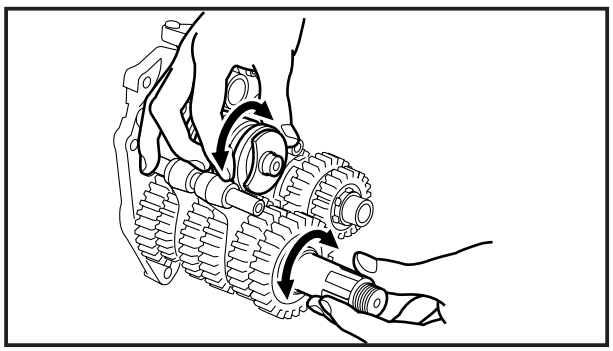
要　　点

シフトフォーク１を５速ホイールギヤ④に、シフトフォーク２を３速／４速ピニオンギヤ⑤に、シフトフォーク３を６速ホイールギヤ⑥に組付ける。

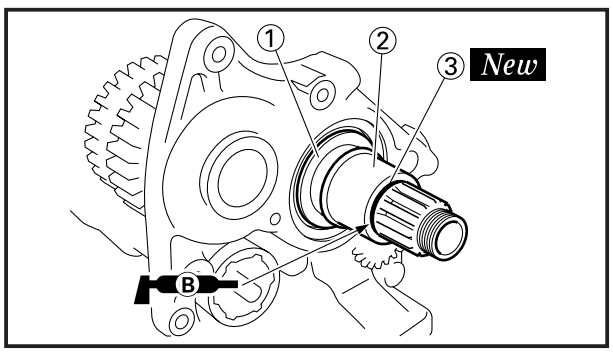


6. 以下の部品を組付けます。
- シフトフォークガイドバー１（短い）①
- シフトフォークガイドバー２（長い）②

要　　点
- シフトフォークガイドバー１、２にミッションオイルを塗布して組付ける。
- シフトフォークのストレートピンをシフトカム溝部に合せ、シフトフォークガイドバーを組付ける。



7. 以下の点検をします。
- シフトカムとフォークの作動
- トランスミッションの作動
  作動不良→修正

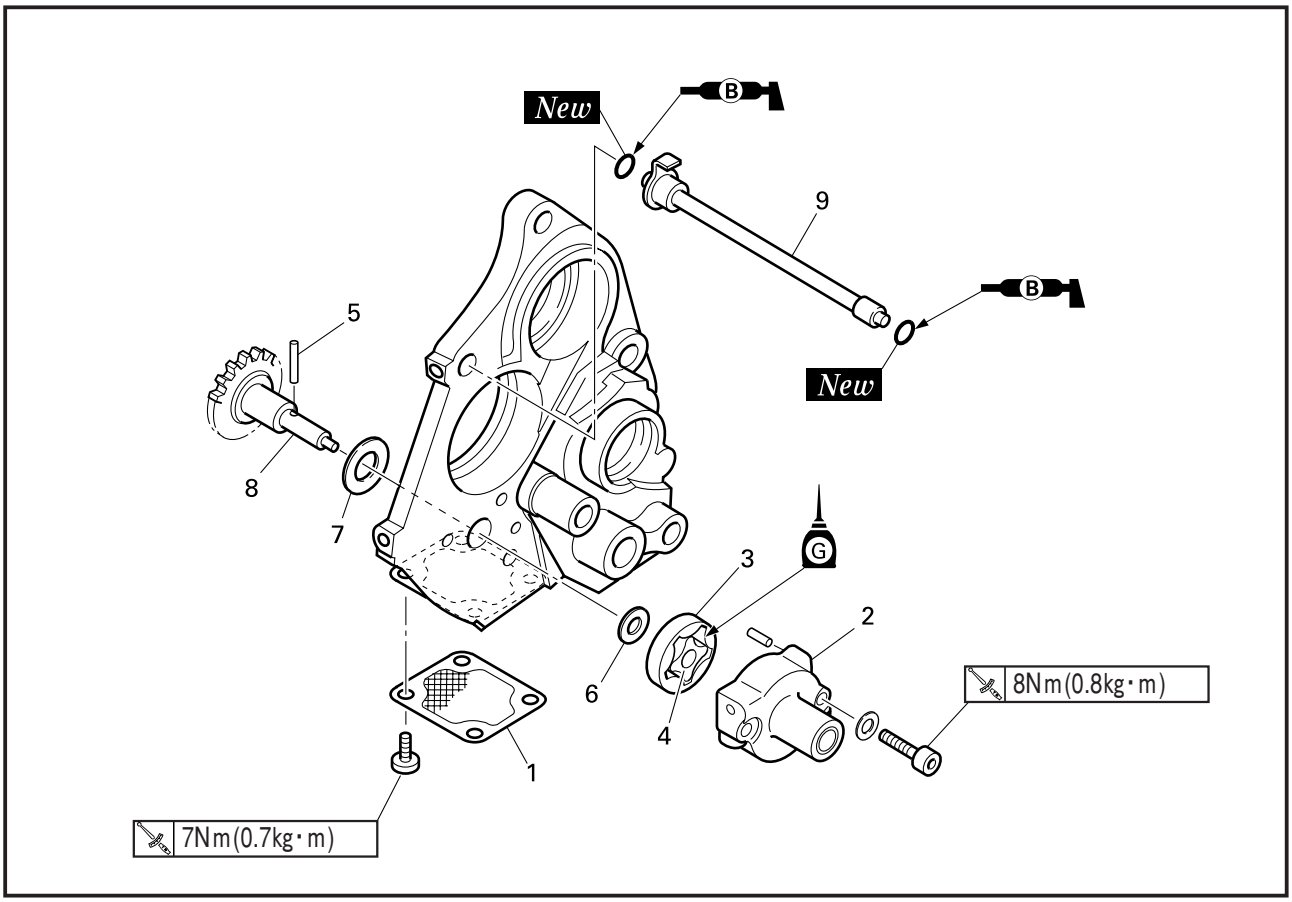


8. 以下の部品を組付けます。
- スラストプレート①
- スペーサ１②
- Ｏリング③ ***New***

要　　点

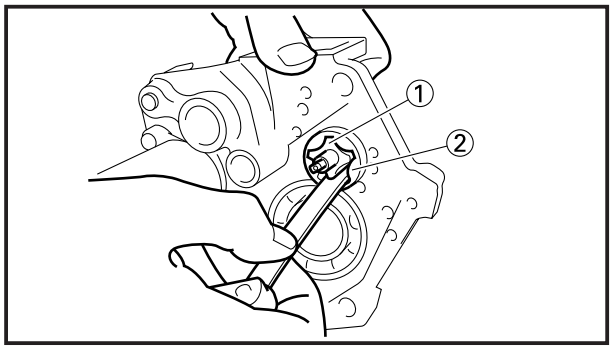
Ｏリングにヤマハグリース Ｂを塗布して組付ける。

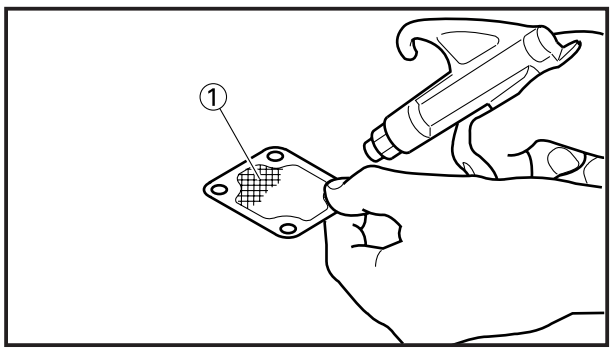
JC4J0000
オイルポンプ

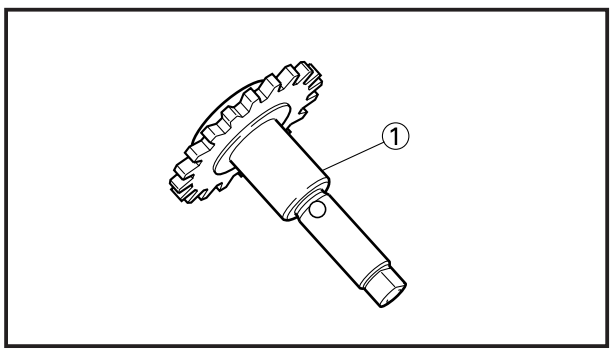


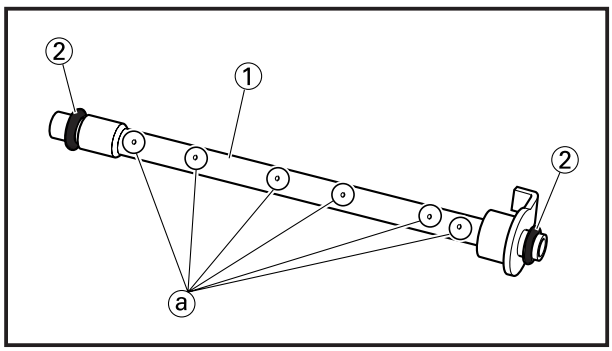
作業範囲　①オイルポンプ取外し、分解

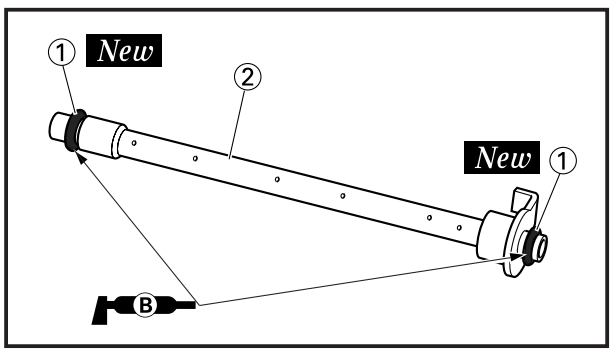
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**オイルポンプの取外し** クランクケース3 シフトシャフト、ストッパレバー トランスミッション、シフトフォーク		 シフトシャフト参照 トランスミッション、シフトカム、シフトフォーク参照
①	1	ストレーナ	1	
	2	オイルポンプカバー	1	
	3	アウタロータ	1	
	4	インナロータ	1	
	5	ダウエルピン	1	
	6	プレートワッシャ（D= ϕ 15 ㎜）	1	
	7	プレートワッシャ（D= ϕ 22 ㎜）	1	
	8	オイルポンプギヤシャフト	1	
	9	オイルデリバリパイプ	1	











JC4J4000
点検

JC4J4100
オイルポンプ点検

1. 以下の点検をします。
- チップクリアランス
  インナロータ①とアウタロータ②のすき間を点検します。

	チップクリアランス 0.15㎜以下

規定値以上→セットで交換

JC4E4310
ストレーナ点検

1. 以下の点検をします。
- ストレーナ①
  目詰り→エアで吹いて清掃

要　　点
- ストレーナの点検、清掃は500km毎に行う。
- 金属粉が多く付着している場合は、クランクケース内各部品に異状摩耗がないか点検する。

JC4J4200
オイルポンプギヤシャフト点検

1. 以下の点検をします。
- オイルポンプギヤシャフト①
  摩耗、損傷→交換

JC4H4100
オイルデリバリパイプ点検

1. 以下の点検をします。
- オイルデリバリパイプ①
- Oリング②
  損傷→交換
- オイル孔ⓐ
  目詰り→エアで吹いて清掃

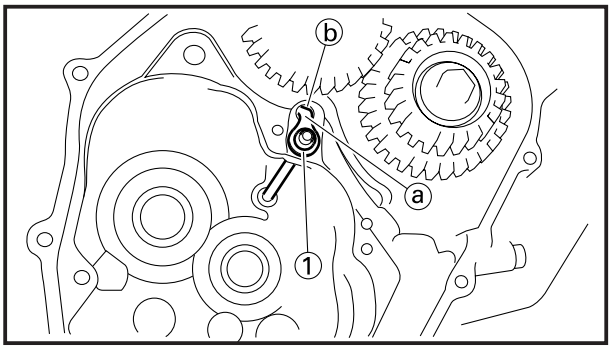
JC4J5000
組付け

JC4J5104
オイルポンプ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- Oリング①　***New***
  オイルデリバリパイプ②に組付けます。

要　　点

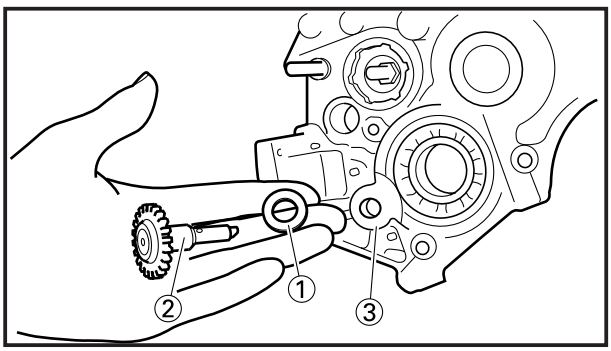
Oリングにヤマハグリースを塗布して組付ける。



2. 以下の部品を組付けます。
- オイルデリバリパイプ①

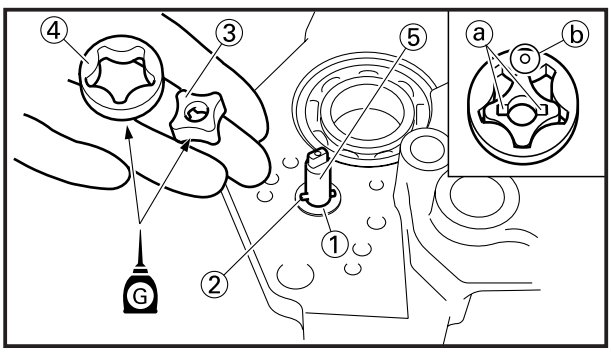
要　　点

オイルデリバリパイプの突起部ⓐをケースの孔ⓑに合せて組付ける。



3. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ（D=φ22㎜）①
- ポンプギヤシャフト②

  クランクケース３③に組付けます。

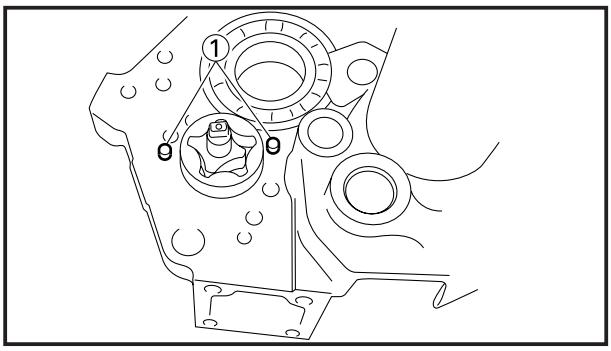


4. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ（D=φ15㎜）①
- ダウエルピン②
- インナロータ③
- アウタロータ④

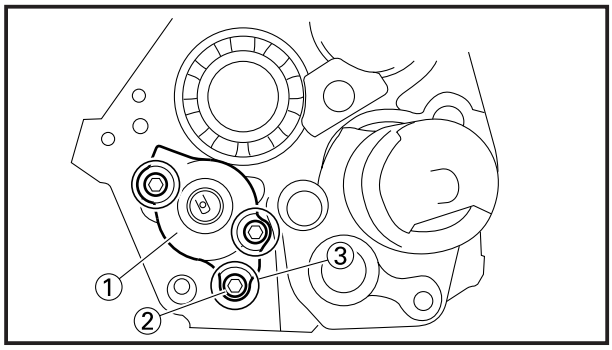
  ポンプギヤシャフト⑤に組付けます。

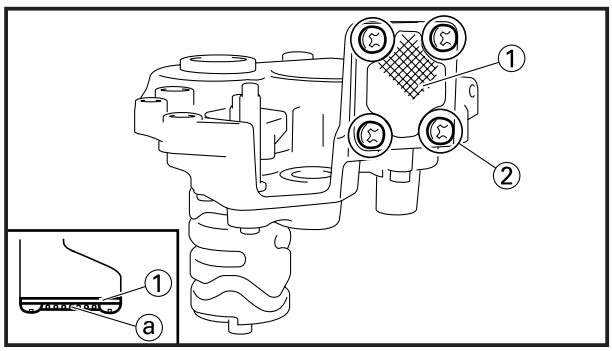
要　　点

- インナロータの溝ⓐをダウエルピンに合せて組付ける。
- アウタロータポンチマークⓑをクランクケース３側に向け、摺動面にミッションオイルを塗布して組付ける。



5. 以下の部品を組付けます。
- ダウエルピン①





6. 以下の部品を組付けます。
- オイルポンプカバー①
- プレートワッシャ②
- オイルポンプカバー取付ボルト③

8Nm(0.8kg・m)

要　　点

オイルポンプカバー組付け時、オイルポンプギヤシャフトを回して、アウタロータ外径をオイルポンプカバー内径に合せる。

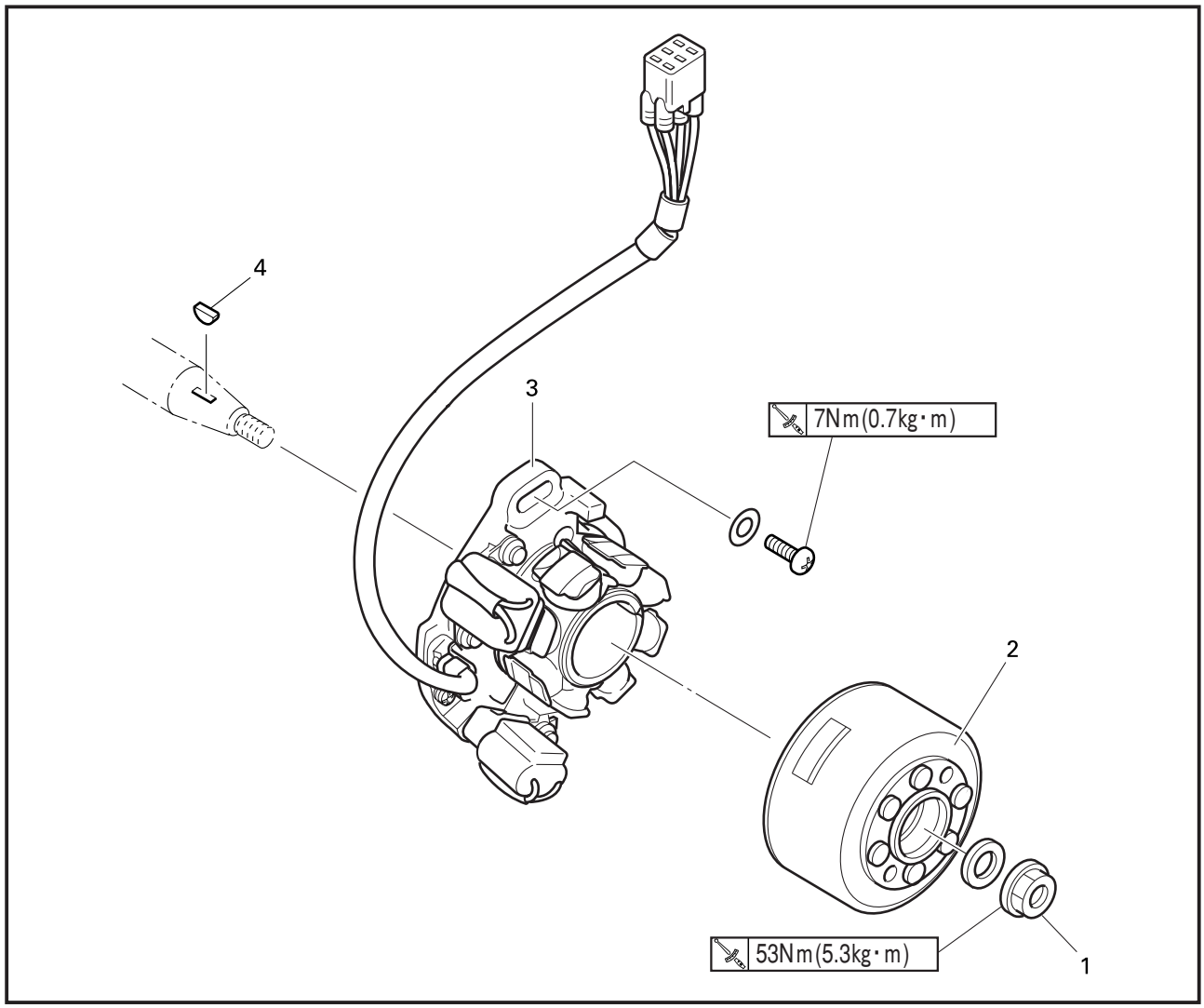
7. 以下の部品を組付けます。
- ストレーナ①
- ストレーナ取付スクリュ②

7Nm(0.7kg・m)

要　　点

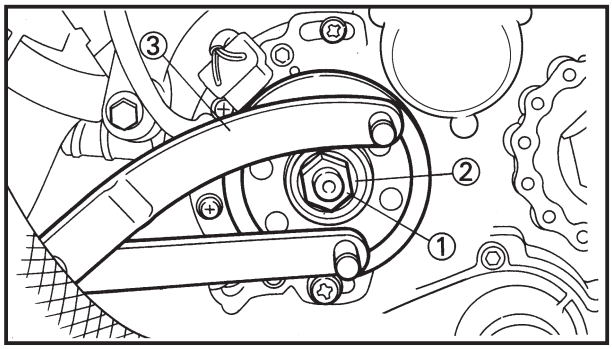
ストレーナは金網部ⓐを外側に向けて組付ける。

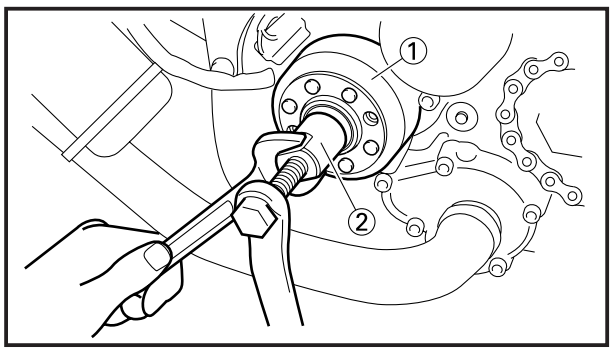
JC4L0000
C.D.Iマグネト



作業範囲　①C.D.Iマグネト取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**C.D.Iマグネトの取外し** カウリング、フュエルタンク C.D.Iマグネトリード線を切離す		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
①	1	ロータナット	1	特殊工具使用。取外しのポイント参照
	2	ロータ	1	
	3	ステータ	1	
	4	ウッドラフキー	1	





JC4L3000
取外しのポイント

JC4L3101
ロータ取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ロータナット①
- プレートワッシャ②

ロータホールディングツール③を使用してロータナットを取外します。

	ロータホールディングツール 90890-01235

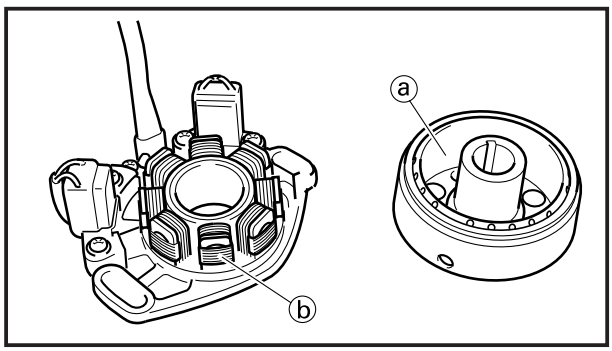
2. 以下の部品を取外します。
- ロータ①

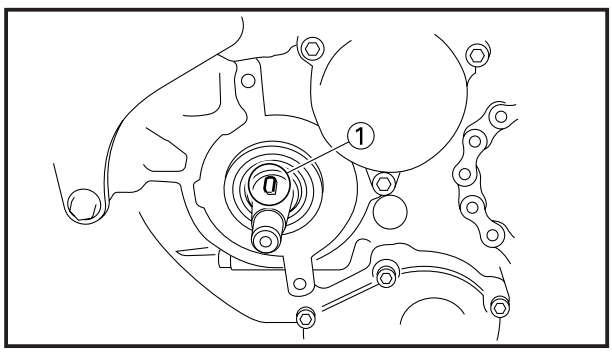
ロータプーラ②をネジ込みロータを取外します。

	ロータプーラ 90890-01189

要　　点

ロータプーラは反時計回転方向に回して取付ける。（逆ネジ）





JC4L4000
点検

JC4L4101
C.D.Iマグネト点検

1. 以下の点検をします。
- ロータ内周ⓐ
- ステータ外面ⓑ

接触した傷がないか点検します。

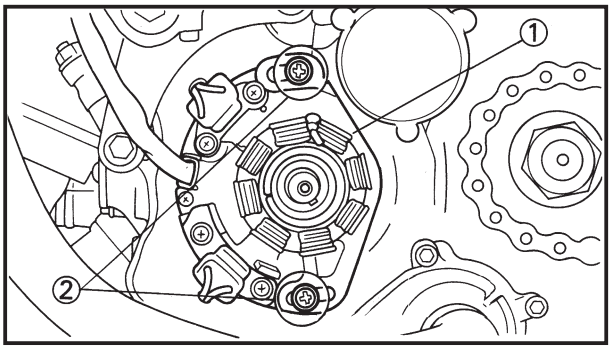
傷のある場合→クランクシャフトの振れ

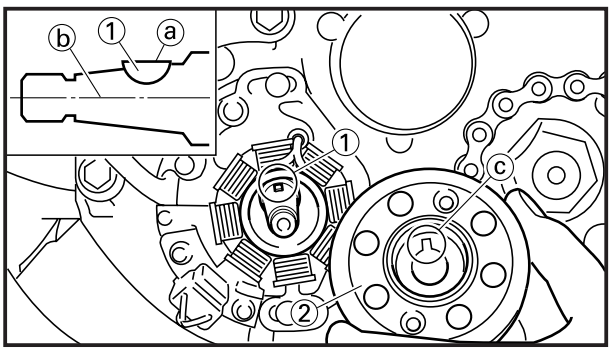
クランクベアリングのがたを点検

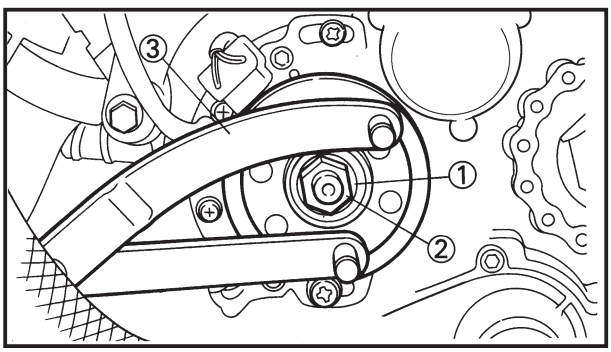
JC4L4200
ウッドラフキー点検

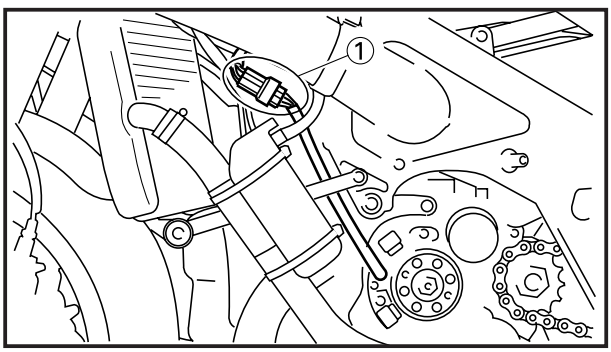
1. 以下の点検をします。
- ウッドラフキー①

損傷→交換









JC4L5000
組付け

JC4L5190
C.D.Iマグネト組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- ステータ①
- ステータ取付スクリュ②

要　　点

この段階ではステータ取付スクリュは仮締付け状態とする。

2. 以下の部品を組付けます。
- ウッドラフキー①
- ロータ②

要　　点

- クランクシャフトとロータの嵌合面を清掃する。
- ウッドラフキー端面ⓐをクランクシャフトセンタⓑに平行に組付ける。
- ウッドラフキーにキー溝ⓒを合せてロータを組付ける。

3. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- ロータナット② 53Nm(5.3kg･m)

ロータホールディングツール③でロータを固定し、ロータナットを締付けます。

	ロータホールディングツール 90890-01235

4. 以下の調整をします。
- 点火時期

	点火時期 B.T.D.C 2.4㎜

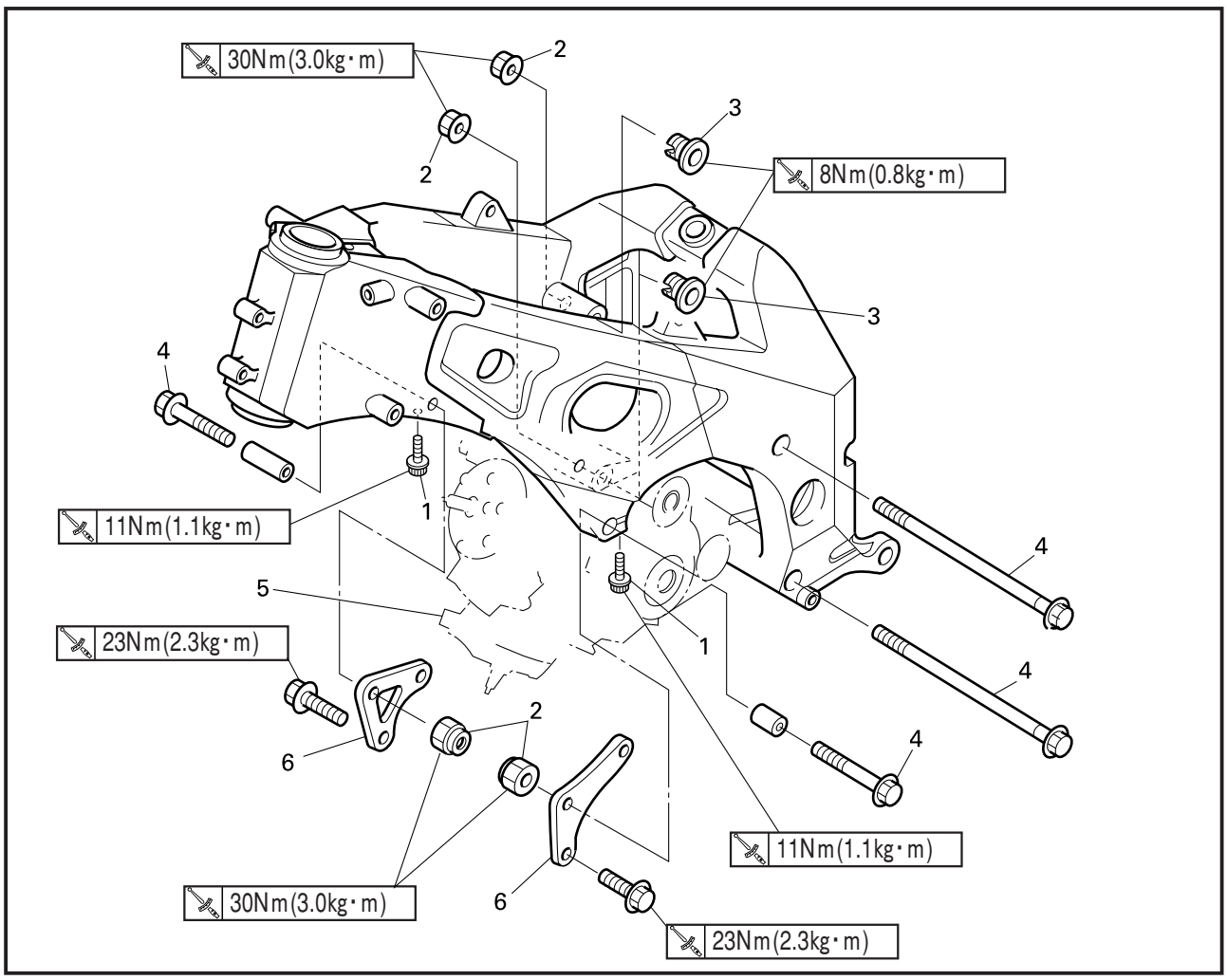
第 3 章―点火時期調整の項目参照

5. 以下の部品を接続します。
- C.D.Iマグネトリード線①

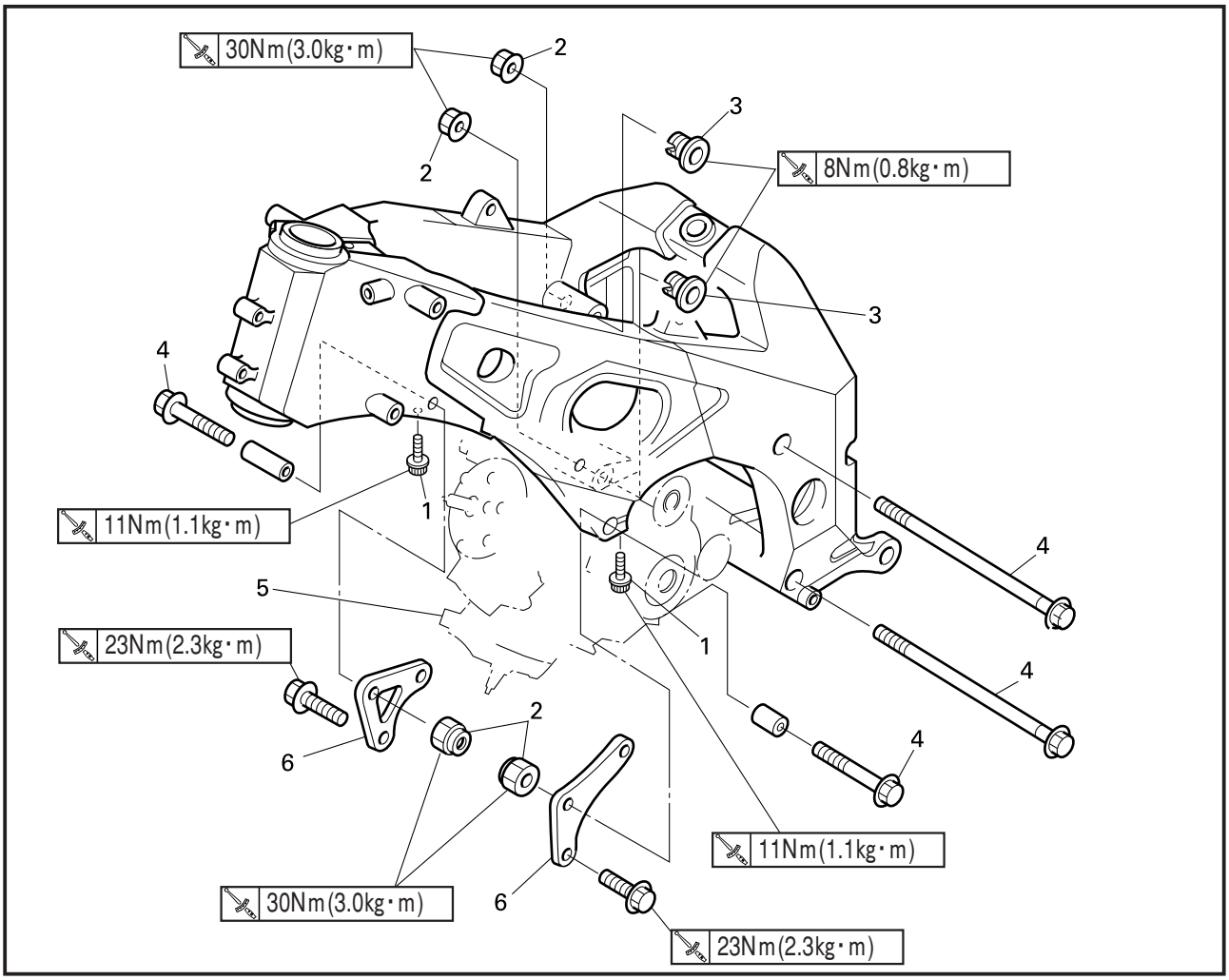
第2章―ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図参照

JC4M0000

エンジン取外し

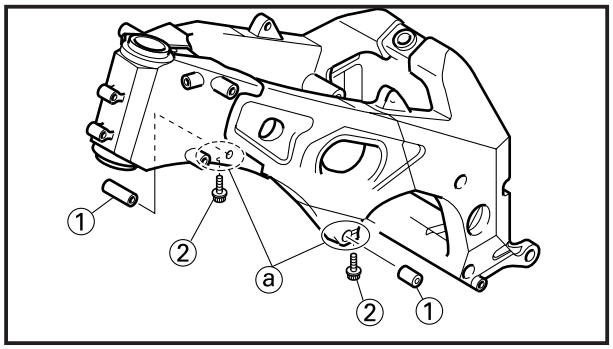


作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		エンジンの取外し		
関連作業		スタンドを使用して車を支える		
		カウリング、インダクションガイド、		カウリング、インダクションガイド、
		フュエルタンク		シート、フュエルタンク参照
		キャブレタ、インダクションボックス		キャブレタ、リードバルブ参照
		マフラ		マフラ、サイレンサ参照
		クラッチケーブル		エンジン側で取外す
		ラジエタホース2		ウォータポンプ側で取外す
		ラジエタホース3、4		シリンダヘッド側で取外す
		ドライブスプロケット		シフトシャフト参照
		シフトアーム		
		プラグキャップ		
		Y.P.V.S.バルブケーブル		
		C.D.Iマグネトリード線を切離す		



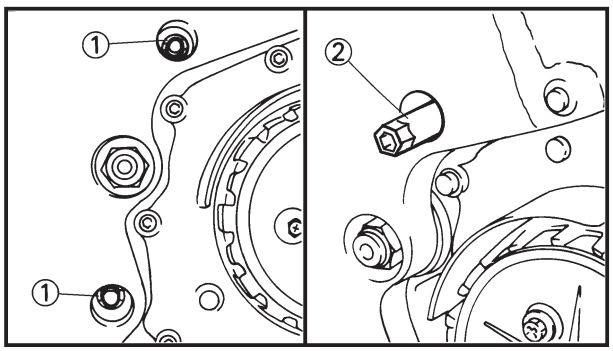
作業範囲　①エンジン取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
①	1	エンジン取付カラー締付ボルト	2	ゆるめる
	2	エンジン取付ナット	4	
	3	エンジン取付アジャストボルト	2	取外しのポイント参照
	4	エンジン取付ボルト	4	
	5	エンジン	1	
	6	エンジンブラケット	2	



JC4M6000
取扱い上の注意

フレームを単体で保管する際は、エンジン懸架部ⓐの破損防止のため、エンジン取付カラー①を組付け、エンジン取付カラー締付ボルト②を6Nm(0.6kg･m)のトルクで締付けておいてください。



JC4M3000
取外しのポイント

JC4M3331
エンジン取外し

1. 以下の部品をゆるめます。
- エンジン取付アジャストボルト①

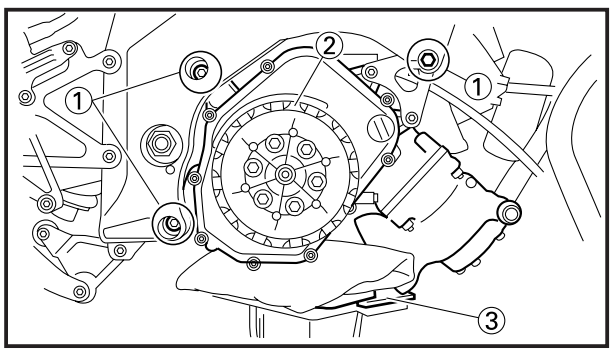
要　　点

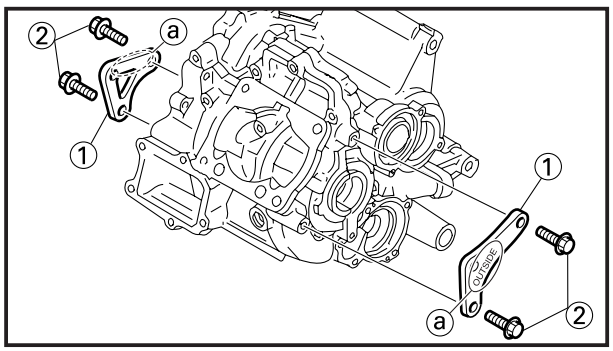
アジャストボルトレンチ②を使用してエンジン取付アジャストボルトをゆるめる。

2. 以下の部品を取外します。
- エンジン取付ボルト①
- エンジン②

要　　点

- 取外す前にカプラ、パイプ、ケーブルの取外し忘れがないかもう一度確認する。
- ジャッキ③を使用して、エンジンを車体下側に取外す。





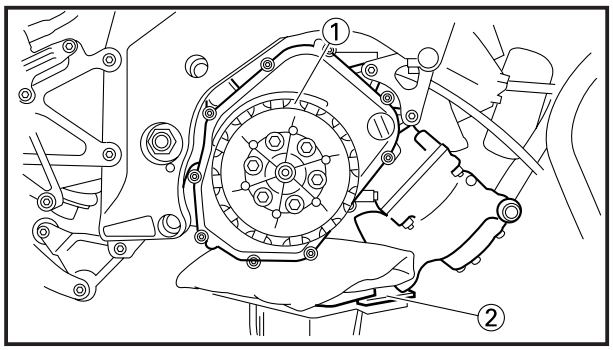
JC4M5000
組付け

JC4M5190
エンジン組付け

1. 以下の部品を仮組付けます。
- エンジンブラケット①
- エンジンブラケット取付ボルト②

要　　点

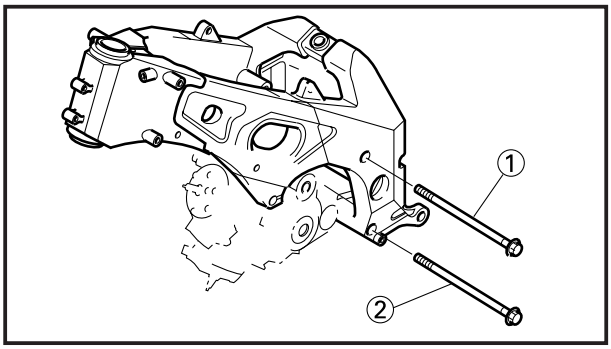
- エンジンブラケットは“OUTSIDE”マークⓐを外側に向けて組付ける。
- エンジンブラケット取付ボルトは23Nm(2.3kg･m)で締付けた後、1/4回転ゆるめ、仮締付け状態とする。



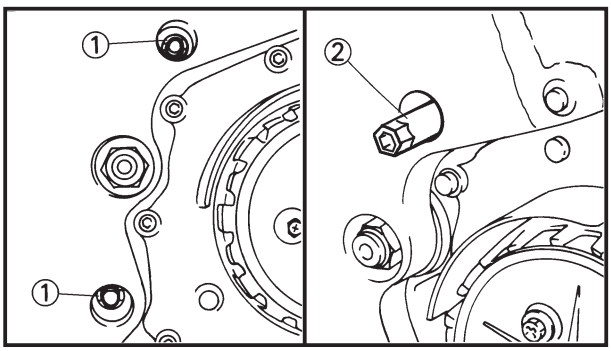
2. 以下の部品を仮組付けます。
- エンジン①

要　　点

ジャッキ②を使用して、エンジンを車体下側よりフレームにセットする。



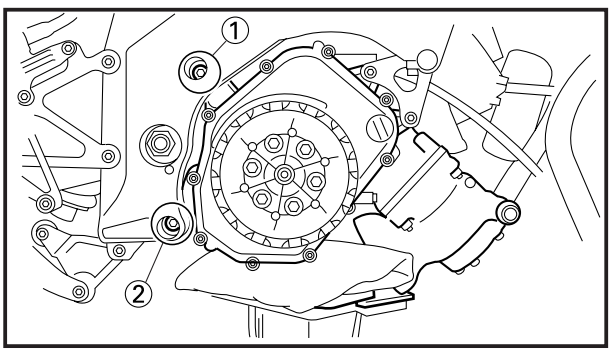
3. 以下の部品を組付けます。
- エンジン上側取付ボルト①
- エンジン下側取付ボルト②



4. 以下の部品を締付けます。
- エンジン取付アジャストボルト①

8Nm(0.8kg・m)

要　　点
- アジャストボルトレンチ②を使用してエンジン取付アジャストボルトを締付ける。
- エンジン取付アジャストボルトは交互に2回ずつ、規定トルクで締付ける。

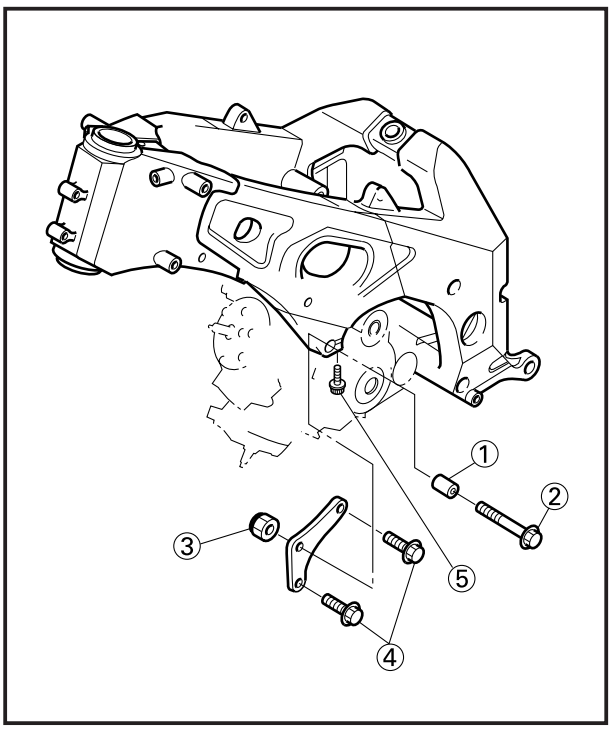


5. 以下の部品を組付けます。
- エンジン上側取付ナット①

30Nm(3.0kg・m)

- エンジン下側取付ナット②

30Nm(3.0kg・m)



6. 以下の部品を組付けます。
- エンジン左側取付カラー①
- エンジン左側取付ボルト②
- エンジン左側取付ナット③

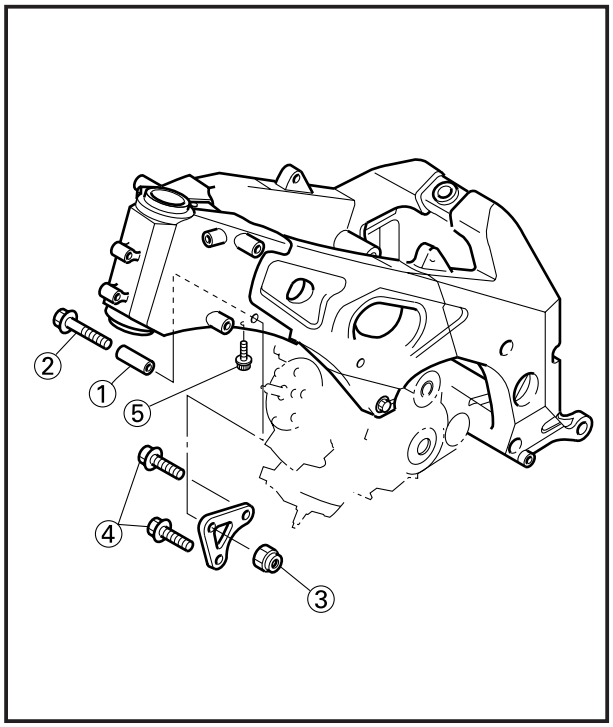
30Nm(3.0kg・m)

7. 以下の部品を締付けます。
- エンジンブラケット左側取付ボルト④

23Nm(2.3kg・m)

8. 以下の部品を締付けます。
- エンジン左側取付カラー締付ボルト⑤

11Nm(1.1kg・m)



9. 以下の部品を組付けます。
- エンジン右側取付カラー①
- エンジン右側取付ボルト②
- エンジン右側取付ナット③

30Nm(3.0kg･m)

10. 以下の部品を締付けます。
- エンジンブラケット右側取付ボルト④

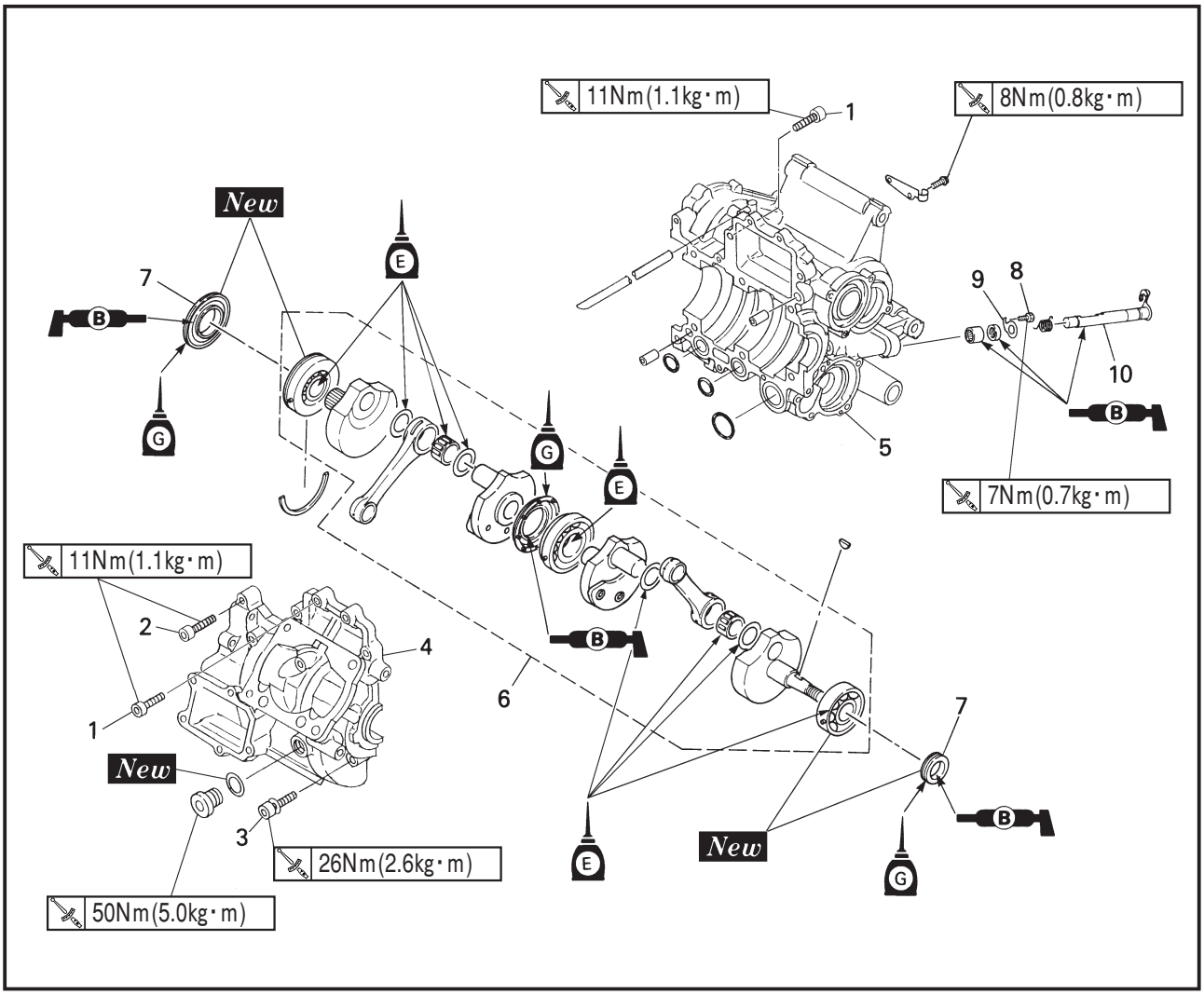
23Nm(2.3kg･m)

11. 以下の部品を締付けます。
- エンジン右側取付カラー締付ボルト⑤

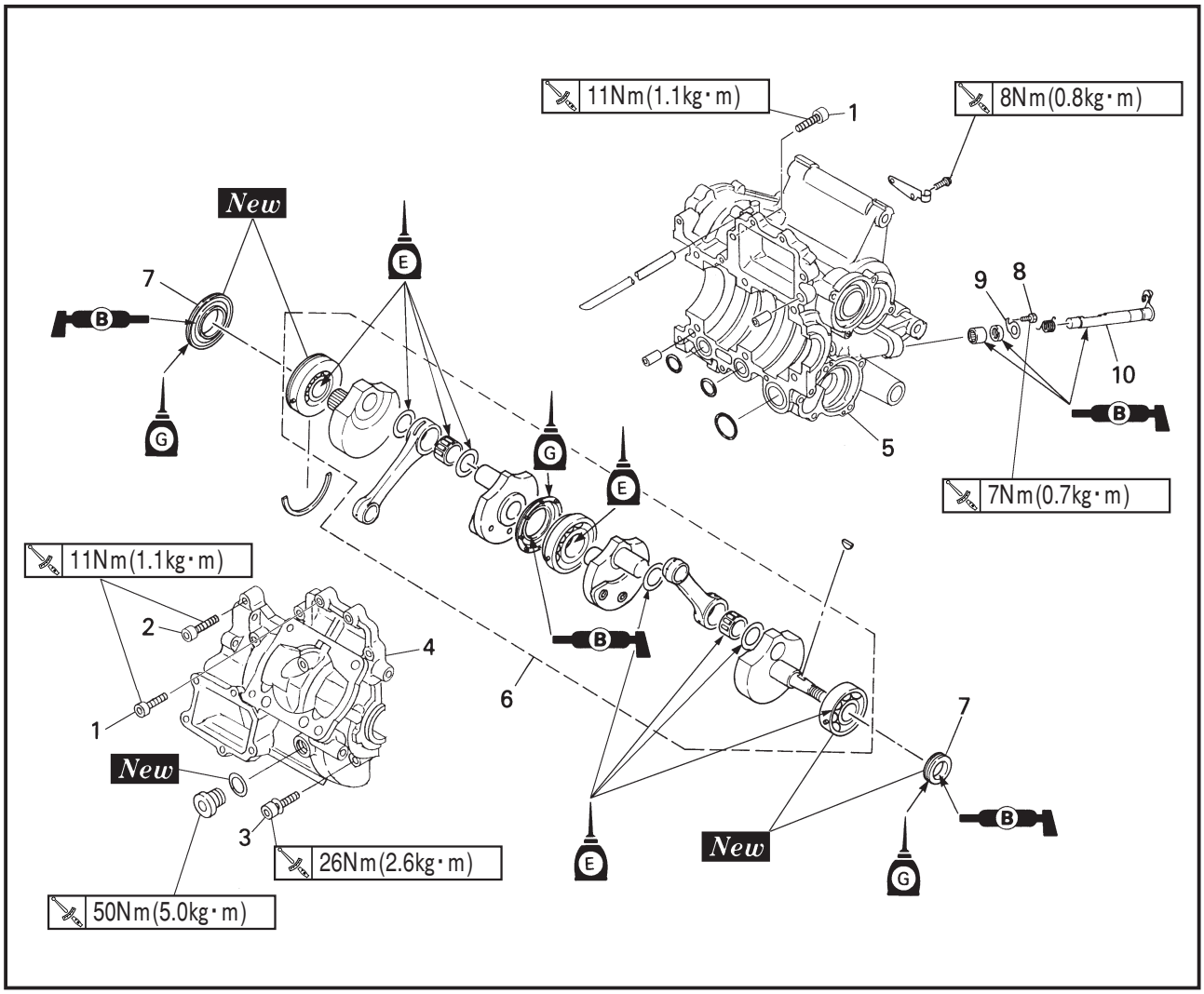
11Nm(1.1kg･m)

JC4N0000

クランクケース、クランク

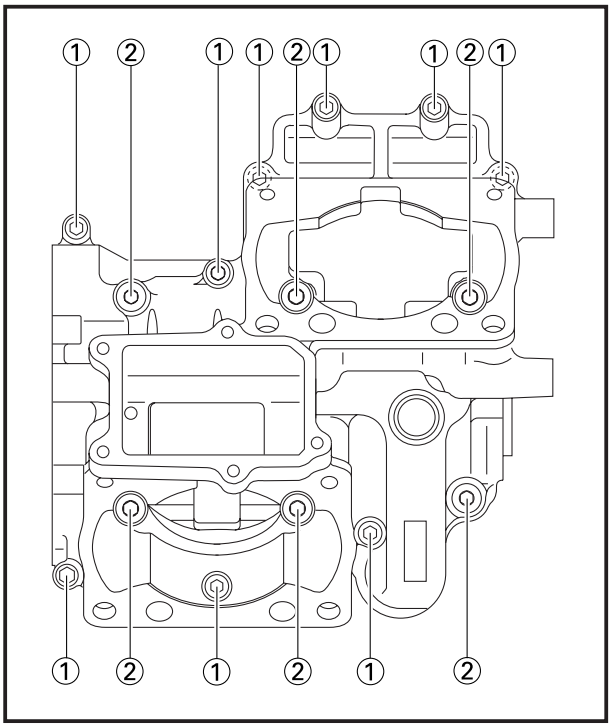


作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**クランクケース、クランクの取外し**		
		エンジン		エンジン取外し参照
		リードバルブ		キャブレタ、リードバルブ参照
		ピストン		シリンダヘッド、シリンダ、ピストン参照
		プライマリドライブギヤ		プライマリドリブンギヤ、プライマリドライブギヤ、バランサシャフト参照
		ロータ、ステータ		C.D.Iマグネト参照
		エンジンブラケット		



作業範囲　①クランクケース分割　②クランク取外し　③オイルシール取外し
④プッシュレバーアクスル取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　考
①②③	1	クランクケース締付ボルト(M6)(ℓ=30㎜)	6	取外しのポイント参照
	2	クランクケース締付ボルト(M6)(ℓ=35㎜)	3	
	3	クランクケース締付ボルト(M8)(ℓ=45㎜)	6	
	4	クランクケース上	1	
	5	クランクケース下	1	
	6	クランクシャフト	1	
	7	オイルシール	2	
④	8	シートプレート取付ボルト	1	
	9	シートプレート	1	
	10	プッシュレバーアクスル	1	



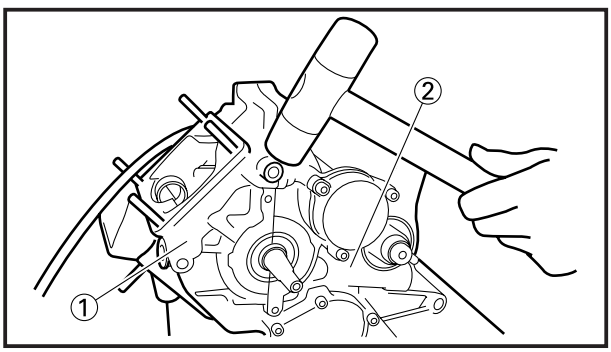
JC4N3000
取外しのポイント

JC4N3230
クランクケース上取外し

1. 以下の部品を取外します。
- クランクケース締付ボルト（Ｍ６）①
- クランクケース締付ボルト（Ｍ８）②

要　　点

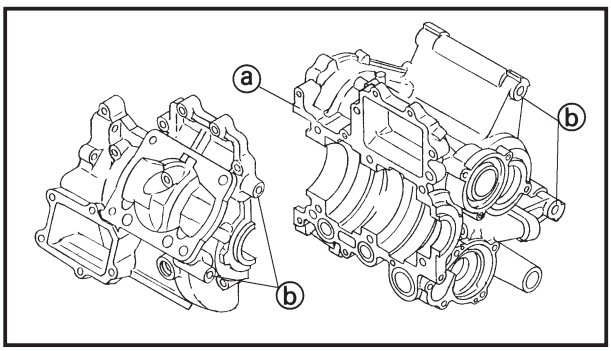
- 締付ボルトはＭ６ボルトより取外す。
- 締付ボルトは外側より順番に２回に分けてゆるめ取外す。



2. 以下の部品を取外します。
- クランクケース上①
  クランクケース下②より取外す。

要　　点

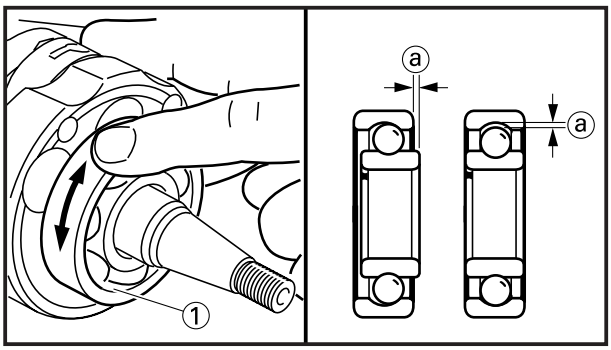
ソフトハンマで肉厚のある部分を左右交互に軽くたたいてクランクケース下より取外す。



JC4N4000
点検

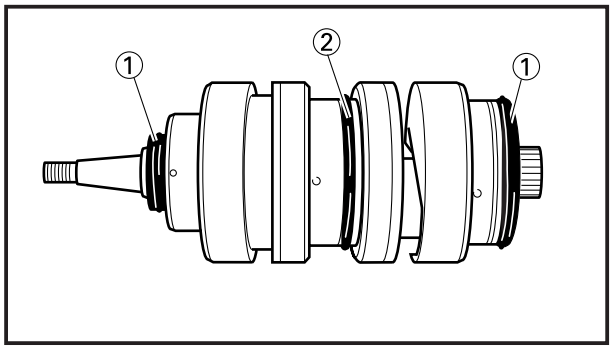
JC4N4112
クランクケース点検

1. 以下の点検をします。
- クランクケース合面ⓐ
  傷→クランクケースAss'yで交換
- エンジンマウント部ⓑ、ケース全体
  亀裂、損傷→クランクケースAss'yで交換

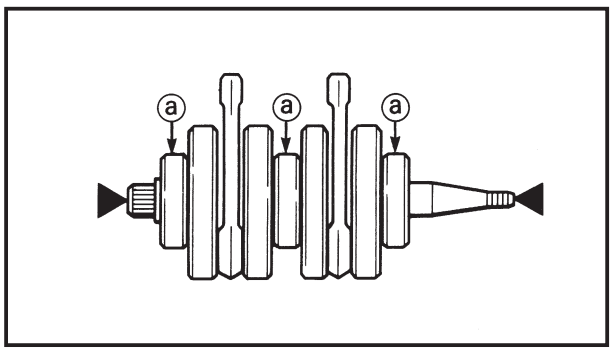


JC4N4215
クランクシャフト点検

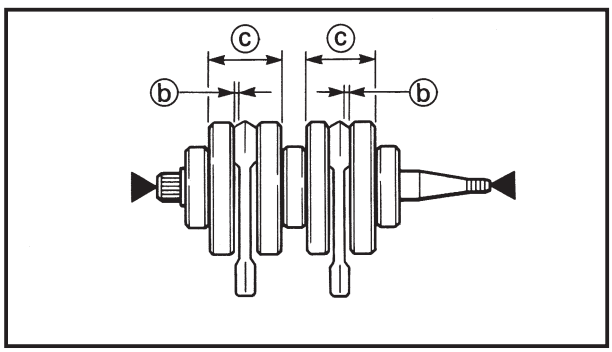
1. 以下の点検をします。
- ベアリング①
  スムーズに回転しない、がたⓐ、異音→クランクシャフトAss'yで交換



2. 以下の点検をします。
- オイルシール1①
  摩耗、損傷→交換
- オイルシール2②
  摩耗、損傷→クランクシャフトAss'yで交換



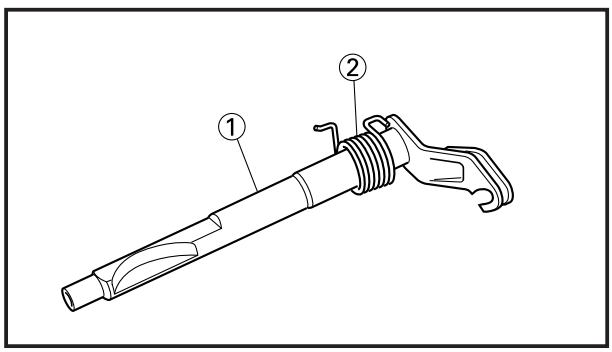
3. 以下の点検をします。
- クランクシャフト振れⓐ
- サイドクリアランスⓑ
- クランク組立幅（クランクピン側）ⓒ
  ダイヤルゲージ、シックネスゲージ、ノギスを使用して測定します。



	ダイヤルゲージ 90890-01252
	クランクシャフト振れ限度 0.05㎜ サイドクリアランス 0.45～0.95㎜ クランク組立幅（クランクピン側） 49.975～50.025㎜

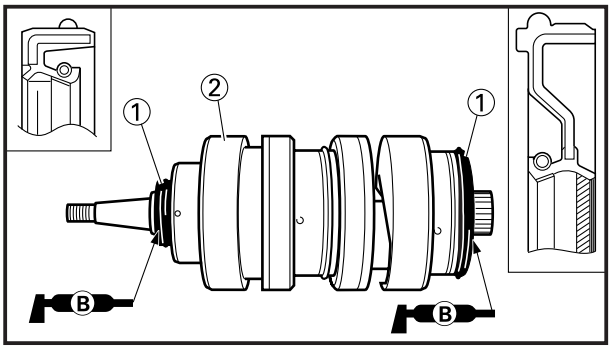
使用限度以外→修正または交換

4. 以下の点検をします。
- クランクシャフト使用走行距離
  1500km走行毎→クランクシャフトAss'yで交換



JC4A4201
プッシュレバーアクスル点検

1. 以下の点検をします。
- プッシュレバーアクスル①
  摩耗、損傷→交換
- トーションスプリング②
  へたり、折損→交換



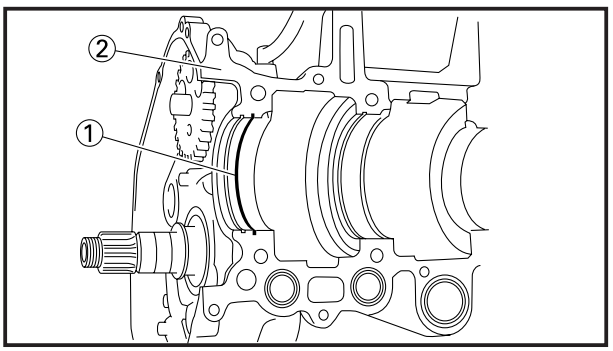
JC4N5000
組付け

JC4N5292
クランクシャフト組付け

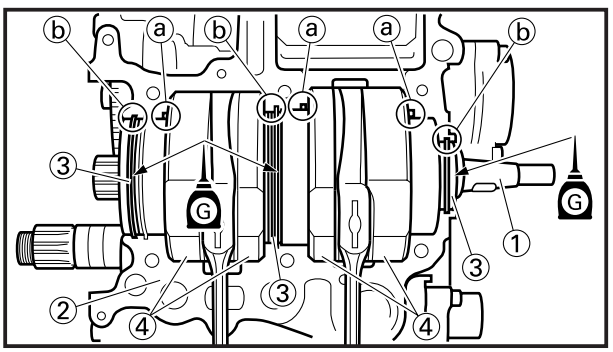
1. 以下の部品を組付けます。
- オイルシール①
  クランクシャフト②に組付けます。

要　　点

オイルシールリップ部にヤマハグリースＢを塗布して組付ける。



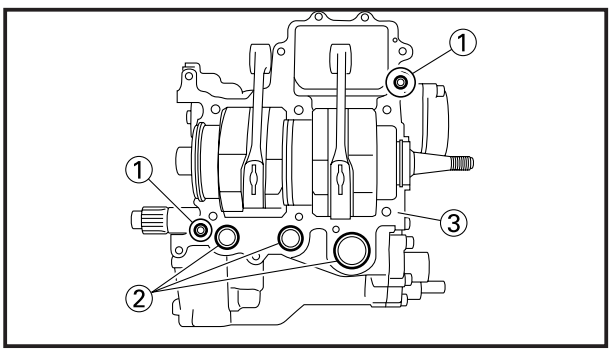
2. 以下の部品を組付けます。
- 半割サークリップ①
  クランクケース下②に組付けます。



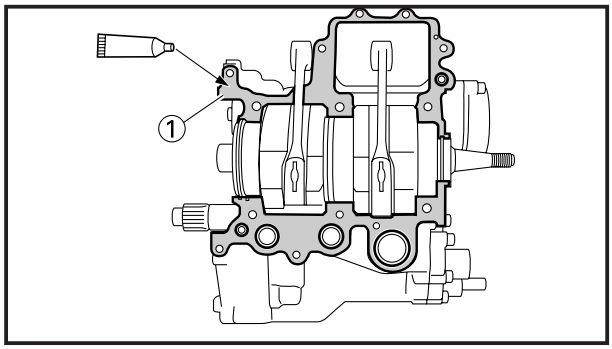
3. 以下の部品を組付けます。
- クランクシャフト①
  クランクケース下②に組付けます。

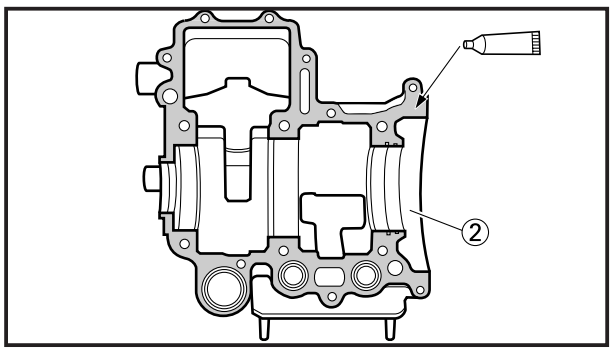
要　　点

- オイルシール③の外周面にミッションオイルを塗布してクランクケース下に組付ける。
- クランクベアリングノックピンをケースのノックピン溝ⓐに、オイルシール凸部をケースのオイルシール溝ⓑに合せて組付ける。
- クランクシャフトがクランクケースから浮く時は、クランクウェブ④をソフトハンマで軽くたたいた後オイルシールが変形しないように手で押し込み位置を安定させる。



4. 以下の部品を組付けます。
- ダウエルピン①
- Oリング②
  クランクケース下③に組付けます。



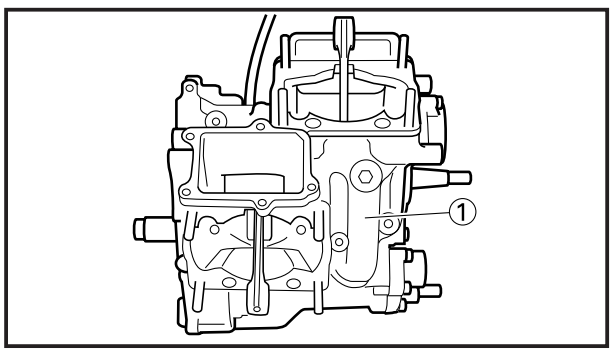


5. 以下の部品に液状ガスケットを塗布します。
- クランクケース下①
- クランクケース上②

要　点

クランクケース合面をシンナー等で油脂類をきれいに拭き取り、液状ガスケットをムラなく均等に塗布する。

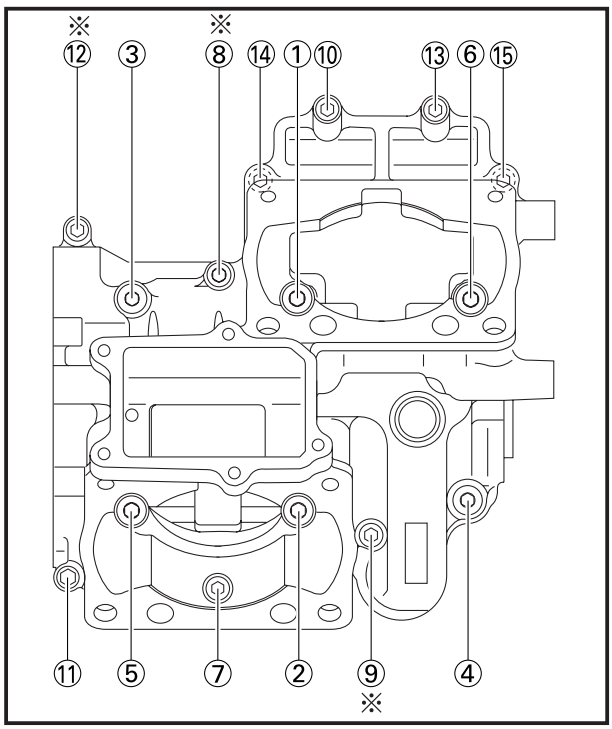
	スリーボンド1207B



6. 以下の部品を組付けます。
- クランクケース上①
  クランクケース下に組付けます。

要　点

組付け後、ソフトハンマでクランクケース上を軽くたたいて安定させる。



7. 以下の部品を組付けます。
- クランクケース締付ボルト（M8）①～⑥
- クランクケース締付ボルト（M6）⑦～⑮

⚠注　意

M6のボルトは長さが 2 種類あるので間違えないように組付ける。

ℓ =30㎜（緑色） ⑦ ⑩ ⑪ ⑬ ⑭ ⑮

※印：ℓ =35㎜（銀色） ⑧ ⑨ ⑫

要　点

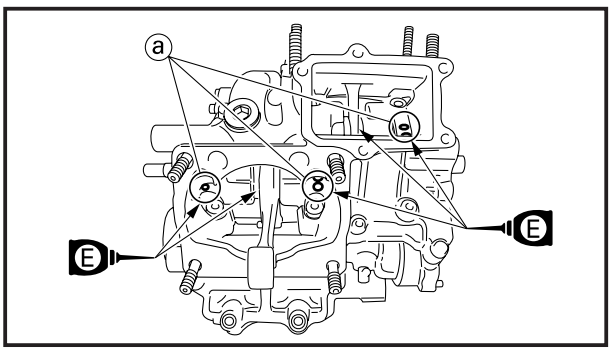
全てのボルトを軽く仮締めした後、番号順に従い2回に分けて規定のトルクで締付ける。

- 1回目　①～⑥（M8）11Nm(1.1㎏･m)
  ⑦～⑮（M6）6Nm(0.6㎏･m)
- 2回目　①～⑥（M8）26Nm(2.6㎏･m)
  ⑦～⑮（M6）11Nm(1.1㎏･m)

8. ケース合面にはみ出した液状ガスケットを拭き取ります。

⚠注　意

特にステータ取付け部にガスケットが残っているとステータが浮いた状態になってしまい、電気系トラブルの原因になる。



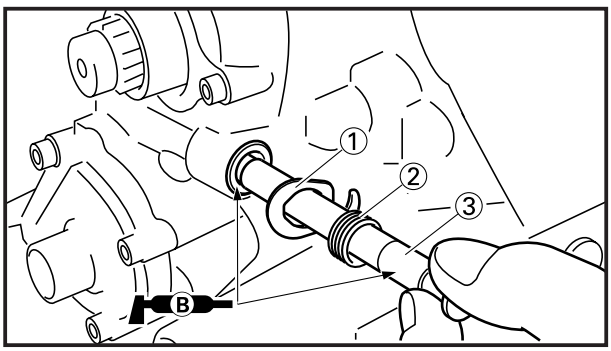
9. クランクシャフトベアリング、コネクティングロッド大端ベアリングおよびコネクティングロッド大端ワッシャに混合用オイルを注入します。

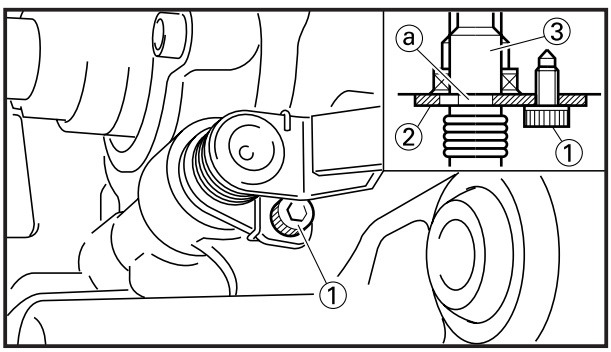
要　点

クランクケースのオイル注入孔ⓐよりクランクシャフトベアリングに混合用オイルを注入する。

10. 以下の点検をします。

- クランクシャフトの作動
  作動不良→修正





JC4A5104

プッシュレバーアクスル組付け

1. 以下の部品を組付けます。

- シートプレート①
- トーションスプリング②
- プッシュレバーアクスル③

要　点

プッシュレバーアクスル軸受部、ニードルベアリングおよびオイルシールリップ部にヤマハグリースＢを塗布して組付ける。

2. 以下の部品を組付けます。

- シートプレート取付ボルト①

7Nm(0.7kg･m)

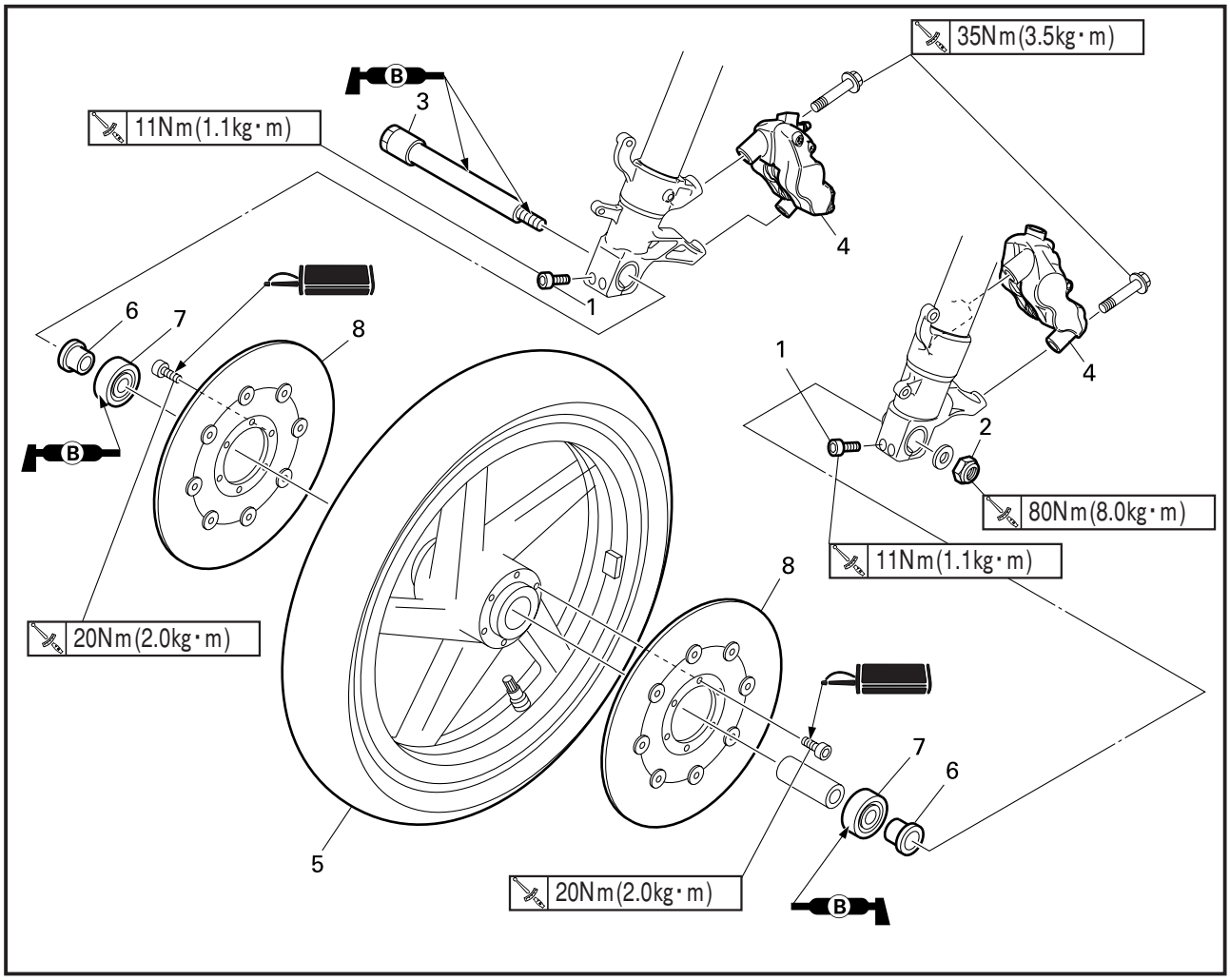
要　点

シートプレート②をプッシュレバーアクスル③の溝ⓐにはめ込み取付ボルトを締付ける。

JC500000
車体編

JC590000
フロントホイール、リヤホイール

JC598000
フロントホイール

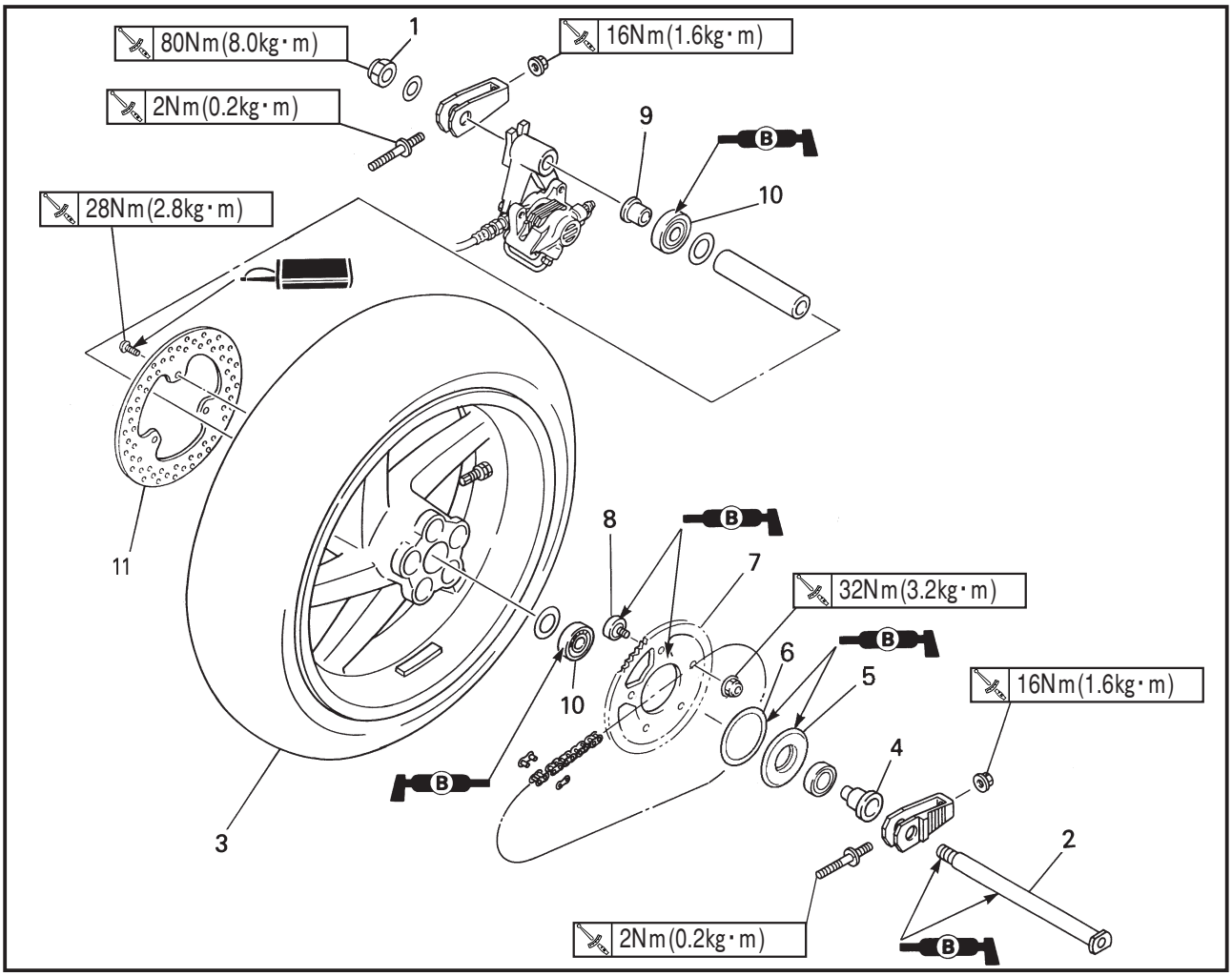


作業範囲　①フロントホイール取外し　②ホイールベアリング取外し　③ブレーキディスク取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		フロントホイールの取外し		
関連作業		スタンドを使用して車を支える		
①③	1	アクスルホルダ締付ボルト	4	ゆるめる
	2	アクスルナット	1	
①	3	ホイールアクスル	1	
②	4	キャリパ	2	
	5	フロントホイール	1	
	6	ホイールカラー	2	取外しのポイント参照
	7	ベアリング	2	取外しのポイント参照
③	8	ブレーキディスク	2	

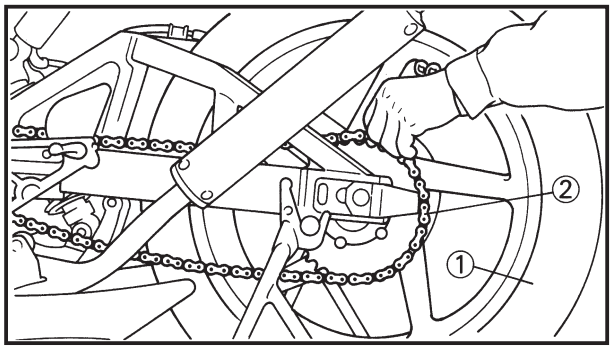
JC598100

リヤホイール



作業範囲　①リヤホイール取外し　②ホイールベアリング取外し　③ブレーキディスク取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		リヤホイールの取外し		
関連作業		スタンドを使用して車を支える		
①③	1	アクスルナット	1	
①③	2	ホイールアクスル	1	
①③	3	リヤホイール	1	取外しのポイント参照
	4	クラッチハブカラー	1	
②	5	クラッチハブ	1	
	6	シム	1	
	7	ドリブンスプロケット	1	
	8	ダンパ	5	
	9	ホイールカラー	1	取外しのポイント参照
②	10	ベアリング	2	取外しのポイント参照
③	11	ブレーキディスク	1	



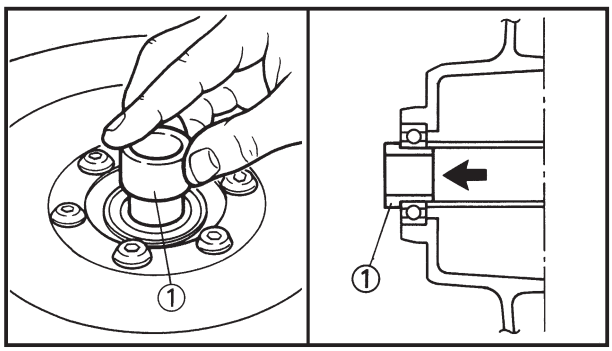
JC593000
取外しのポイント

JC523101
リヤホイール取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ホイール①

要　　点

ホイールを前側に押し、ドライブチェン②を外し、ホイールを取外す。

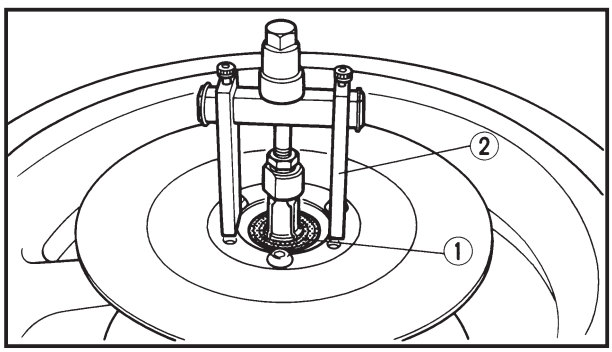


JC513300
ホイールカラー取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ホイールカラー①
  ホイールの内側より打抜きます。

要　　点

ホイールカラーを変形させないよう徐々に打抜く。

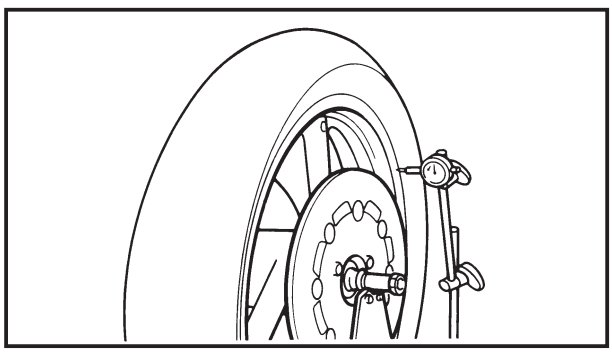


JC513200
ホイールベアリング取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ベアリング①
  ベアリングプーラ（ヤマハ推奨品）②を使用して取外します。

⚠注　意

取外したホイールは倒したり、ぶつけたりしてブレーキディスクに損傷を与えないようにして取扱うこと。もしもブレーキディスクに損傷を与えた場合は、ブレーキディスクを交換すること。



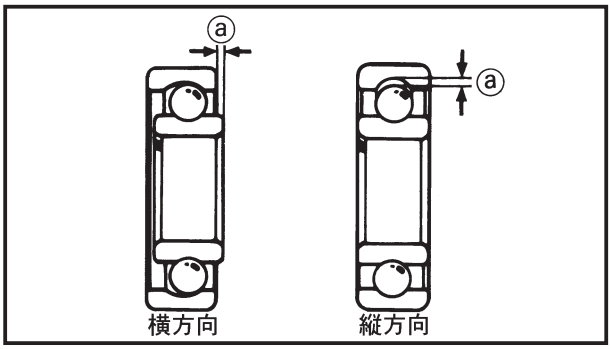
JC594000
点検

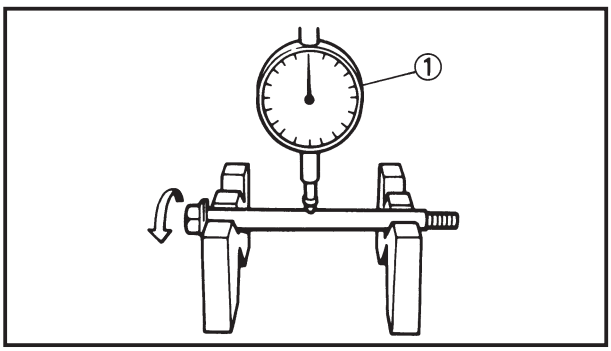
JC514111
ホイール点検

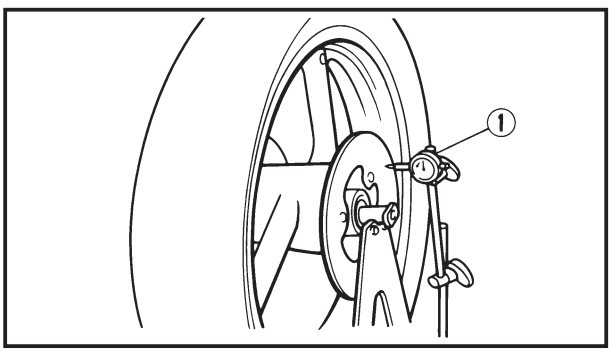
1. 以下の点検をします。
- ホイール振れ

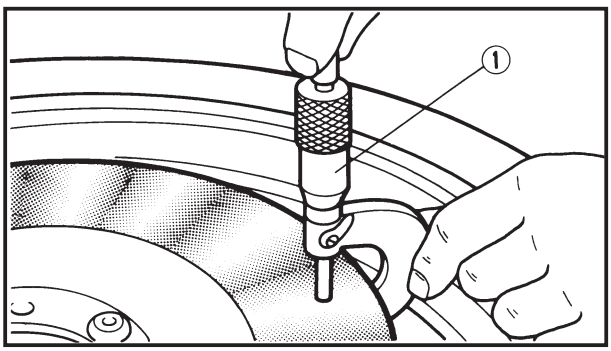
振れ使用限度
縦方向：1.0㎜
横方向：0.5㎜

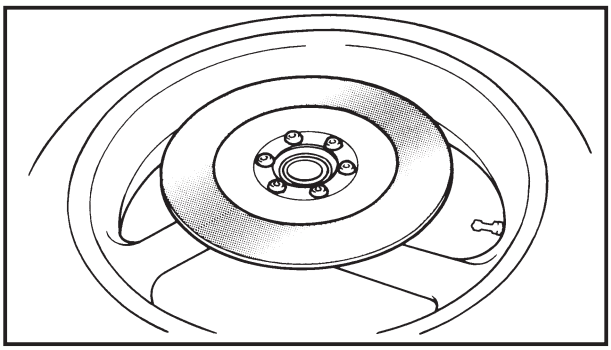
振れ使用限度以上→交換











2. 以下の点検をします。
- ホイールベアリング
  インナーレースを指で回転させて点検します。
  異音、がたⓐ、回転不良→交換

要　　点

ベアリング交換時、ホイールカラーとセットで交換する。

JC514201
ホイールアクスル点検

1. 以下の点検をします。
- ホイールアクスル曲り

使用限度
0.25㎜

使用限度以上の曲り→交換

要　　点

曲りの値はダイヤルゲージ①測定値の1/2である。

JC594100
ブレーキディスク点検

1. 以下の点検をします。
- ディスク振れ（リヤブレーキディスクのみ）
  ダイヤルゲージ①

振れ使用限度
リヤ：0.15㎜

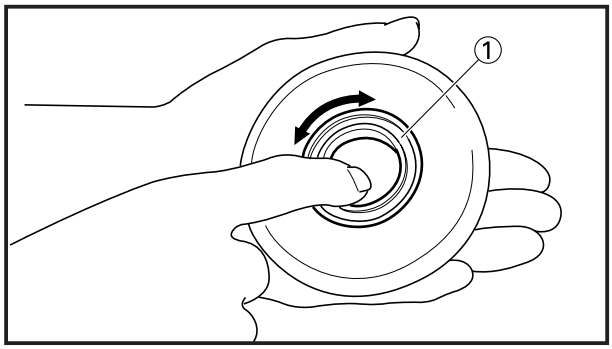
振れ使用限度以上→ホイールベアリング、ブレーキディスク単体、取付け状態を点検し異状部品を交換します。

2. 以下の点検をします。
- ディスクの厚さ
  マイクロメータ①

標準厚さ値
フロント：5.0㎜
リヤ：4.0㎜
使用限度
フロント：4.5㎜
リヤ：3.5㎜

使用限度以下→交換

3. 以下の点検をします。
- ディスク表面状態
  ディスク表面に異状な摩耗、損傷→交換

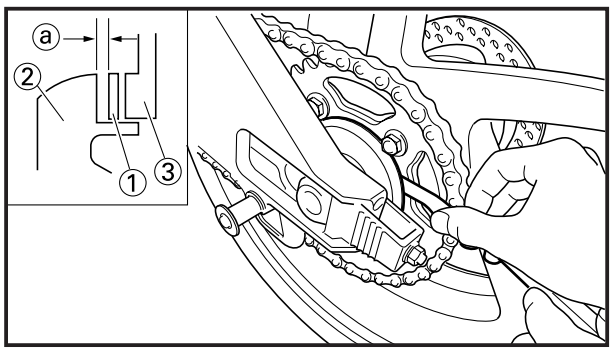


JC524101
クラッチハブ点検

1. 以下の点検をします。

- ベアリング①

  インナーレースを指で回転させて点検します。異音、がた、回転不良→交換



JC594300
クラッチハブのすき間点検

1. 以下の点検をします。

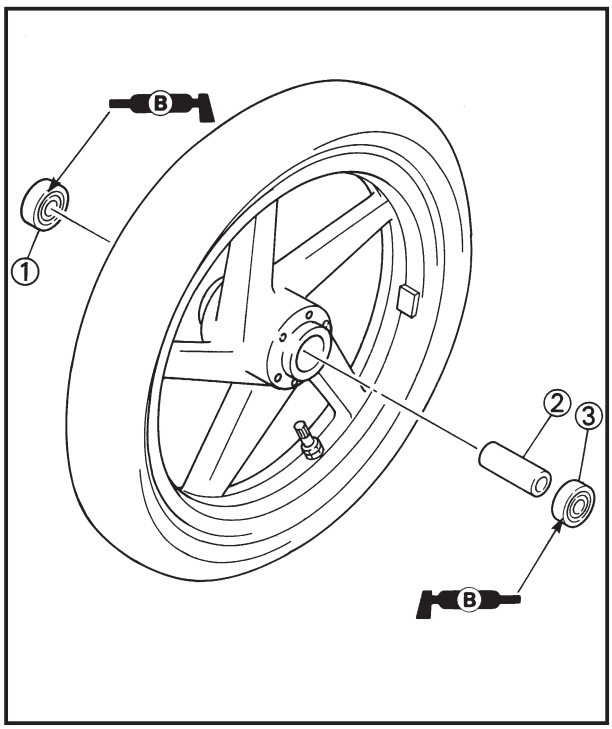
- クラッチハブとスプロケットのすき間ⓐ

	クラッチハブとスプロケットのすき間 0～0.3㎜

規定値以外→同梱パーツのシム（0.3㎜）を追加して調整

要　　点

- クラッチハブのすき間点検は、規定トルクで車体に組付いた状態で測定する。
- すき間の点検はシム①とクラッチハブ②、またはシムとスプロケット③の間のどちら側で測定してもよい。



JC595000
組付け

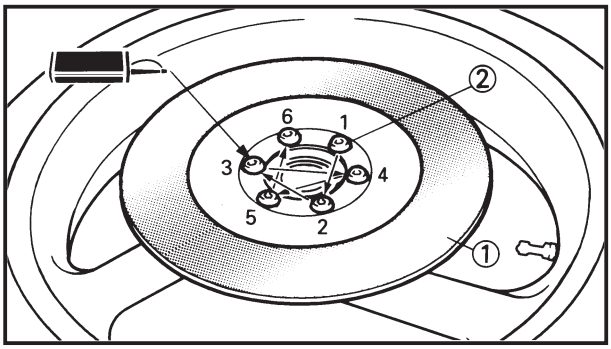
JC515172
フロントホイール組付け

1. 以下の部品を組付けます。

- 右側ベアリング①
- スペーサ②
- 左側ベアリング③

要　　点

ベアリングにヤマハグリースBを十分に塗布して、アウタレースに力を加えて平行に組付ける。

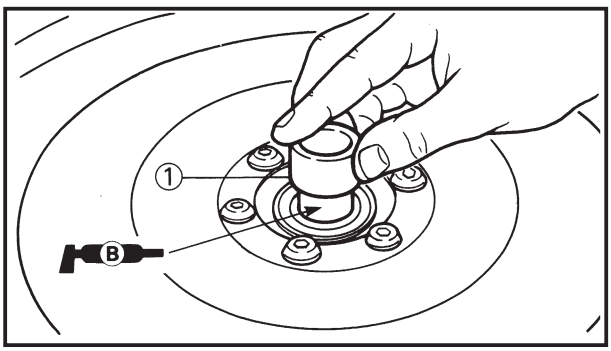


2. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキディスク①
- ブレーキディスク取付ボルト②

20Nm(2.0kg・m)

要　　点

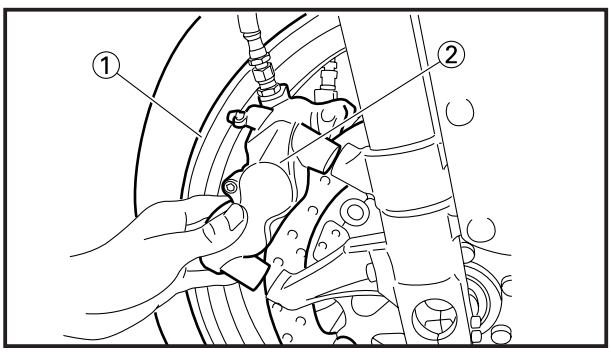
締付け順序に従って2～3回に分けて規定のトルクで締付ける。



3. 以下の部品を組付けます。
- ホイールカラー①

要　　点

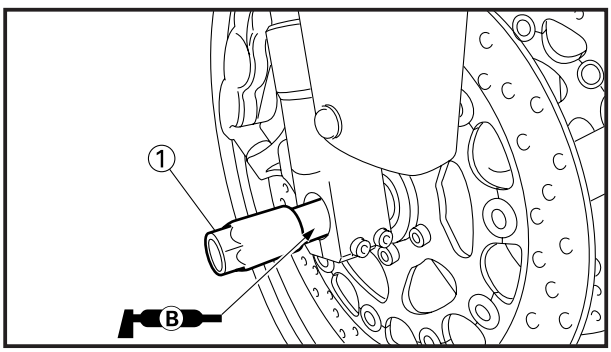
ホイールカラーが組付けにくい場合は、ホイールカラー外周面にヤマハグリースBを薄く塗布して圧入する。



4. 以下の部品を組付けます。
- ホイール①
- キャリパ②
- キャリパ取付ボルト　35Nm(3.5kg・m)

要　　点

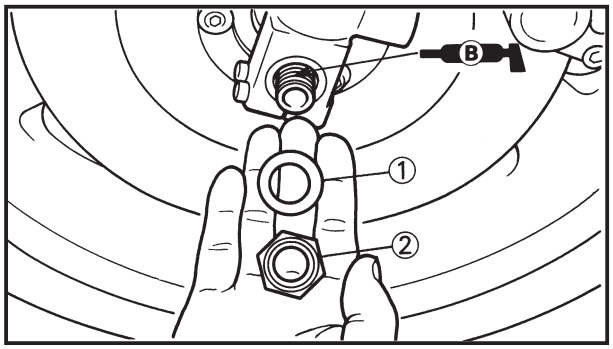
ホイールをフロントフォークにセットした後、ホイールアクスルを組付ける前にキャリパをディスクに合せて組付ける。



5. 以下の部品を組付けます。
- ホイールアクスル①

要　　点

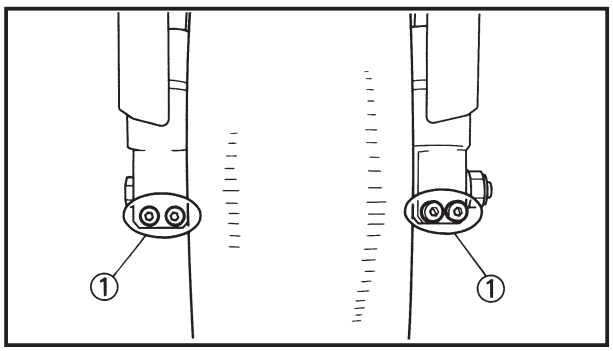
ホイールアクスル外周面にヤマハグリースBを薄く塗布して車体右側から組付ける。



6. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- アクスルナット② 80Nm(8.0kg･m)

要　　点

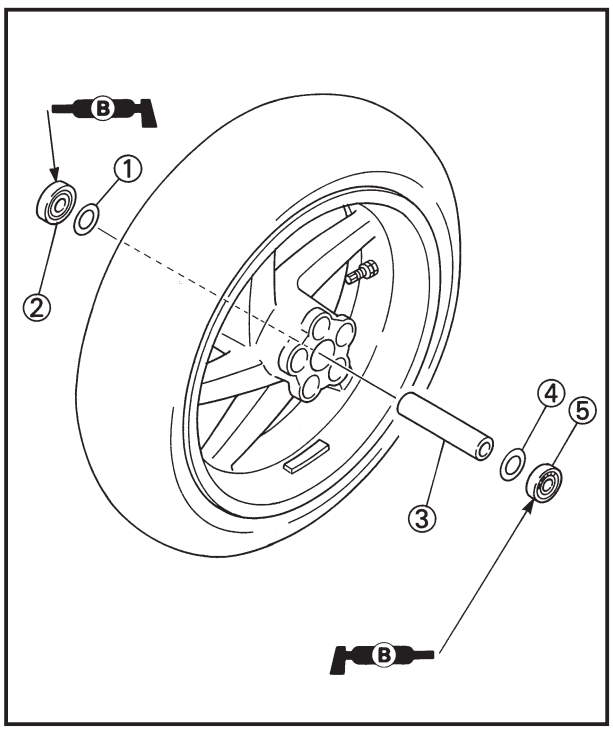
ホイールアクスルのネジ部にヤマハグリースBを薄く塗布して組付ける。



7. 以下の部品を締付けます。
- アクスルホルダ締付ボルト① 11Nm(1.1kg･m)

JC5251C0

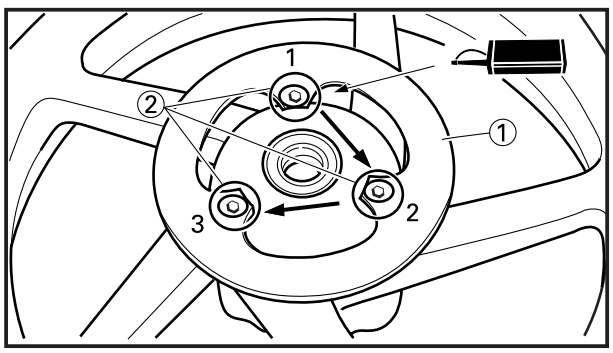
リヤホイール組付け



1. 以下の部品を組付けます。
- 右側プレート①
- 右側ベアリング②
- スペーサ③
- 左側プレート④
- 左側ベアリング⑤

要　　点

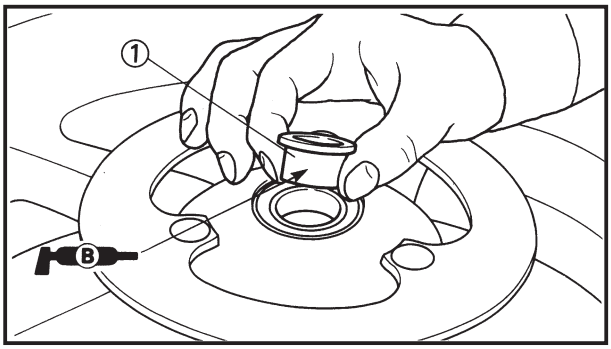
ベアリングにヤマハグリースBを十分に塗布して、アウタレースに力を加えて平行に組付ける。



2. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキディスク①
- ブレーキディスク取付ボルト② 28Nm(2.8kg･m)

要　　点

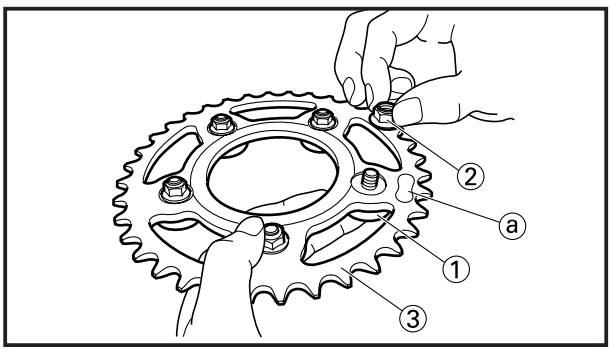
締付け順序に従って2～3回に分けて規定のトルクで締付ける。



3. 以下の部品を組付けます。
- ホイールカラー①

要　点

ホイールカラーが組付けにくい場合は、ホイールカラー外周面にヤマハグリースBを薄く塗布して圧入する。

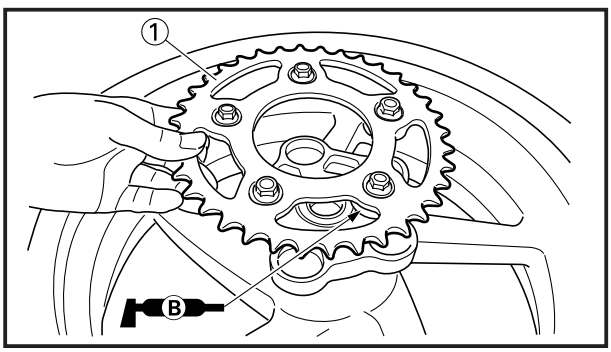


4. 以下の部品を組付けます。
- ダンパ①
- ダンパ取付ナット②　32Nm(3.2kg・m)

  ドリブンスプロケット③に組付けます。

要　点

ダンパ取付ナットはスプロケットのメーカ名ⓐのある側へ組付ける。

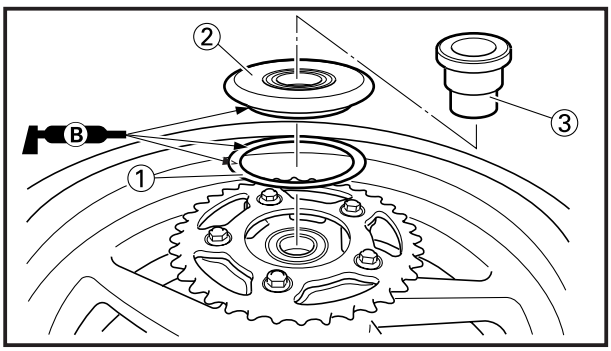


5. 以下の部品を組付けます。
- ドリブンスプロケット①

  ホイールに組付けます。

要　点

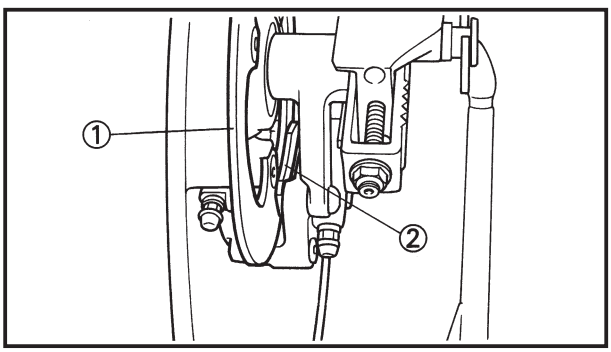
ダンパ外周面にヤマハグリースBを塗布して組付ける。



6. 以下の部品を組付けます。
- シム①
- クラッチハブ②
- クラッチハブカラー③

要　点

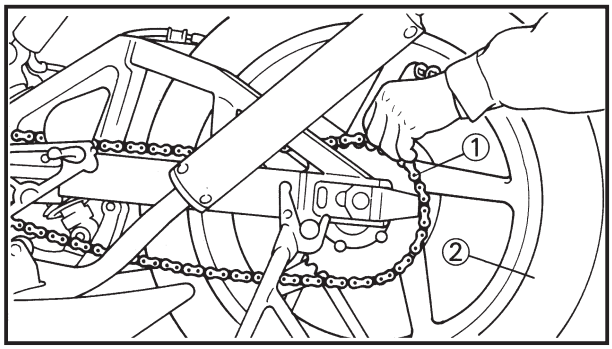
シムの両面、クラッチハブ外周面にヤマハグリースBを塗布して組付ける。



7. 以下の部品を組付けます。
- ホイール

要　点

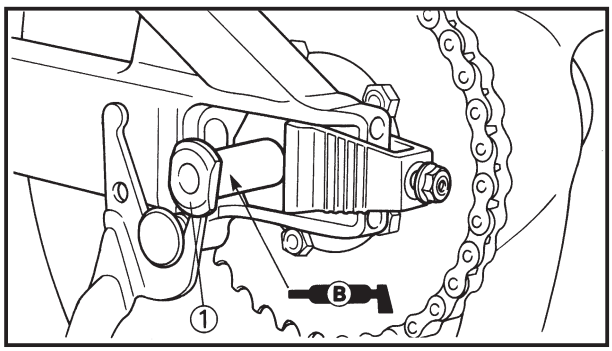
ブレーキディスク①をブレーキパッド②の間に合せて組付ける。



8. 以下の部品を組付けます。
- ドライブチェン①

要　　点

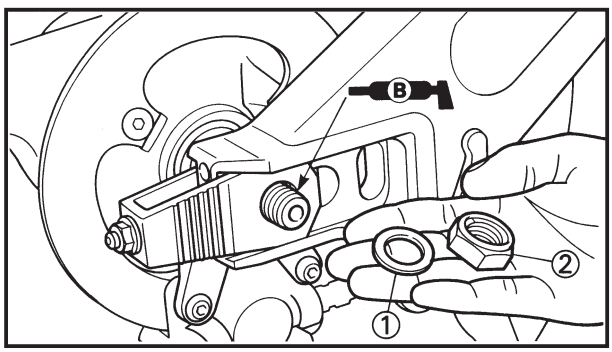
ホイール②を前側に押し、ドライブチェンを組付ける。



9. 以下の部品を組付けます。
- ホイールアクスル①

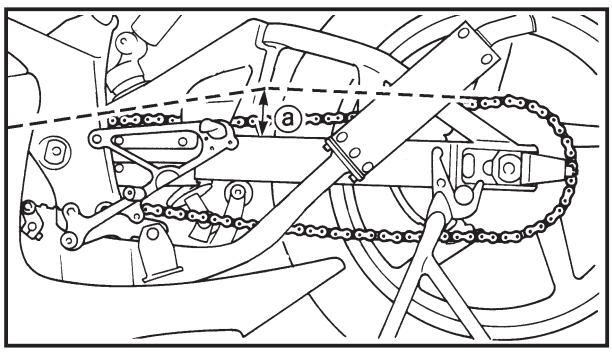
要　　点

ホイールアクスル外周面にヤマハグリースBを薄く塗布して車体左側から組付ける。



10. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- アクスルナット②

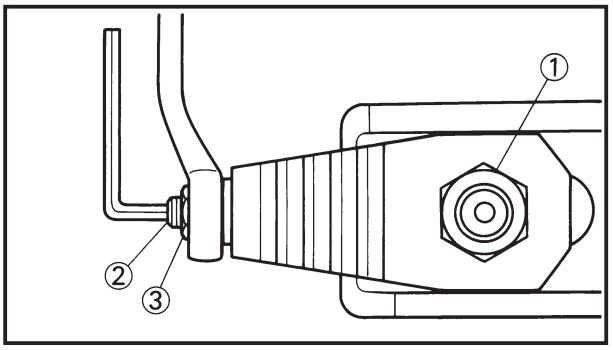
要　　点
- ホイールアクスルのネジ部にヤマハグリースBを薄く塗布して組付ける。
- この段階では、アクスルナットは仮締付けとする。



11. 以下の調整をします。
- ドライブチェンたわみ量ⓐ

ドライブチェンたわみ量
55～65㎜

第3章―ドライブチェンたわみ量点検、調整の項目参照



12. 以下の部品を締付けます。

● アクスルナット①	80Nm(8.0kg･m)
● アジャスタ②	2Nm(0.2kg･m)
● ロックナット③	16Nm(1.6kg･m)

要　　点

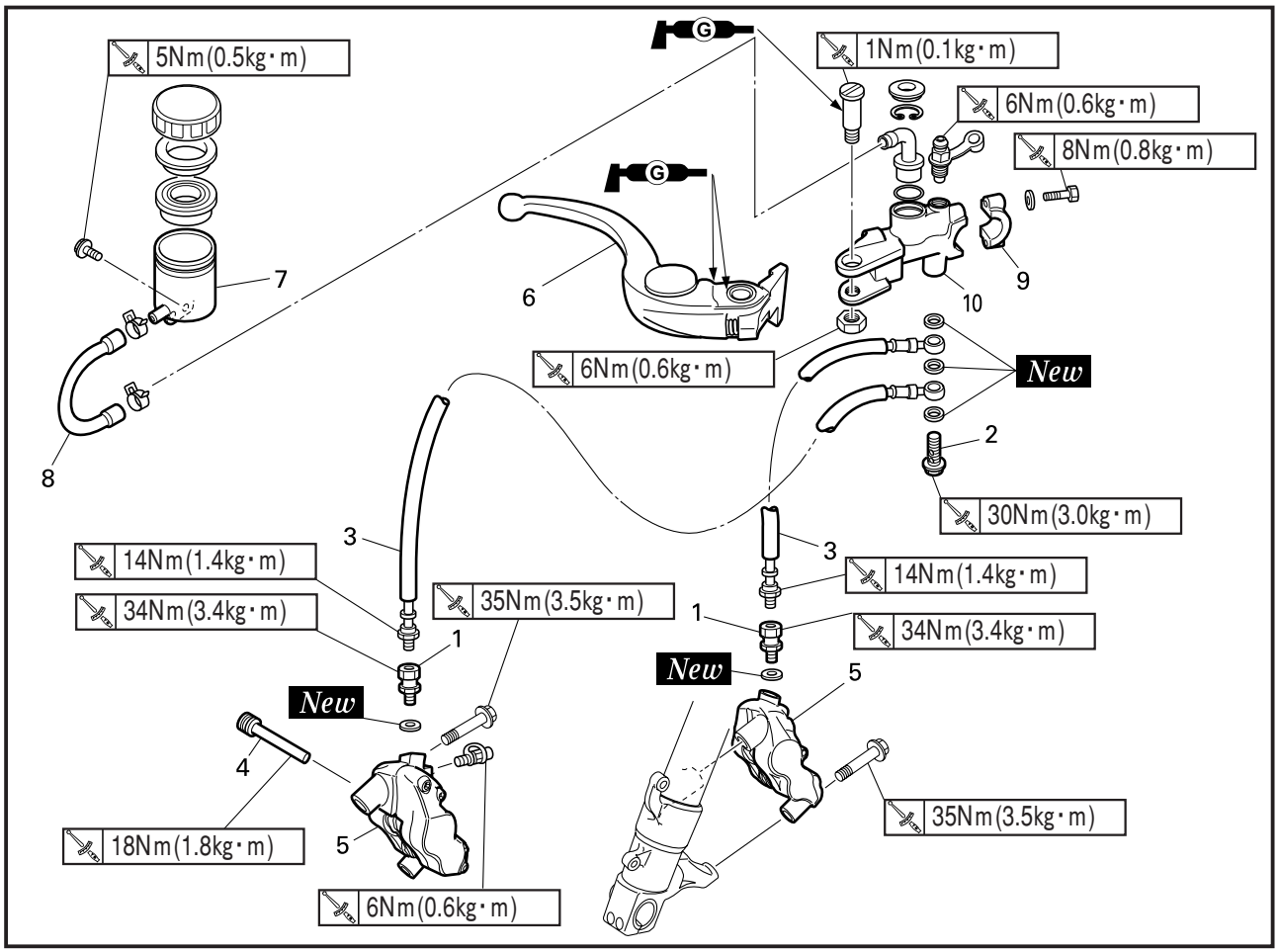
- ドライブチェンを手で押さえつけ、ホイールが動かないようにしながら、アクスルナットを締付ける。
- アクスルナット締付け後、アジャスタを反時計回転方向に締付けた状態でロックナットを締付ける。

13. 以下の調整をします。

- ホイールアライメント
  第3章―ホイールアライメント点検、調整の項目参照

JC5A0000
フロントブレーキ、リヤブレーキ

JC5A8000
フロントブレーキ

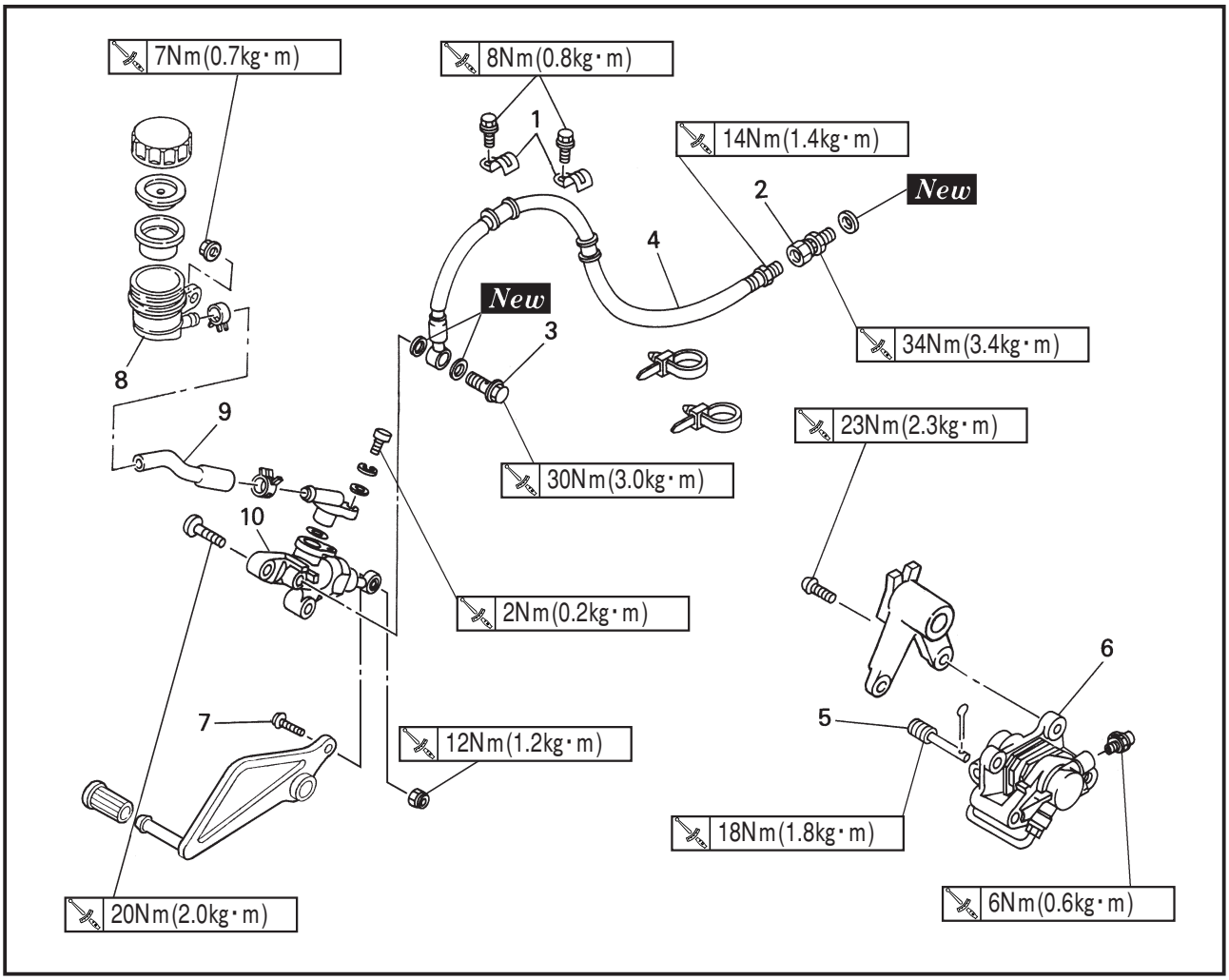


作業範囲　①ブレーキホース取外し　②キャリパ取外し　③マスタシリンダ取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**フロントブレーキの取外し**		
		スタンドを使用して車を支える		
		カウリング		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
		左気筒インダクションダクト		
		右気筒インダクションダクト		
		ブレーキフルードを抜く		取外しのポイント参照
①②③	1	アダプタ	各1	
①③	2	ユニオンボルト	1	マスタシリンダの取付位置をずらしてゆるめる
①②③	3	ブレーキホース	各1	
②③	4	パッドピン	各1	キャリパを分解する場合はゆるめる
②③	5	キャリパ	各1	
③	6	ブレーキレバー	1	
③	7	リザーバタンク	1	
③	8	リザーバホース	1	
③	9	マスタシリンダブラケット	1	
③	10	マスタシリンダ	1	

JC5A8100

リヤブレーキ

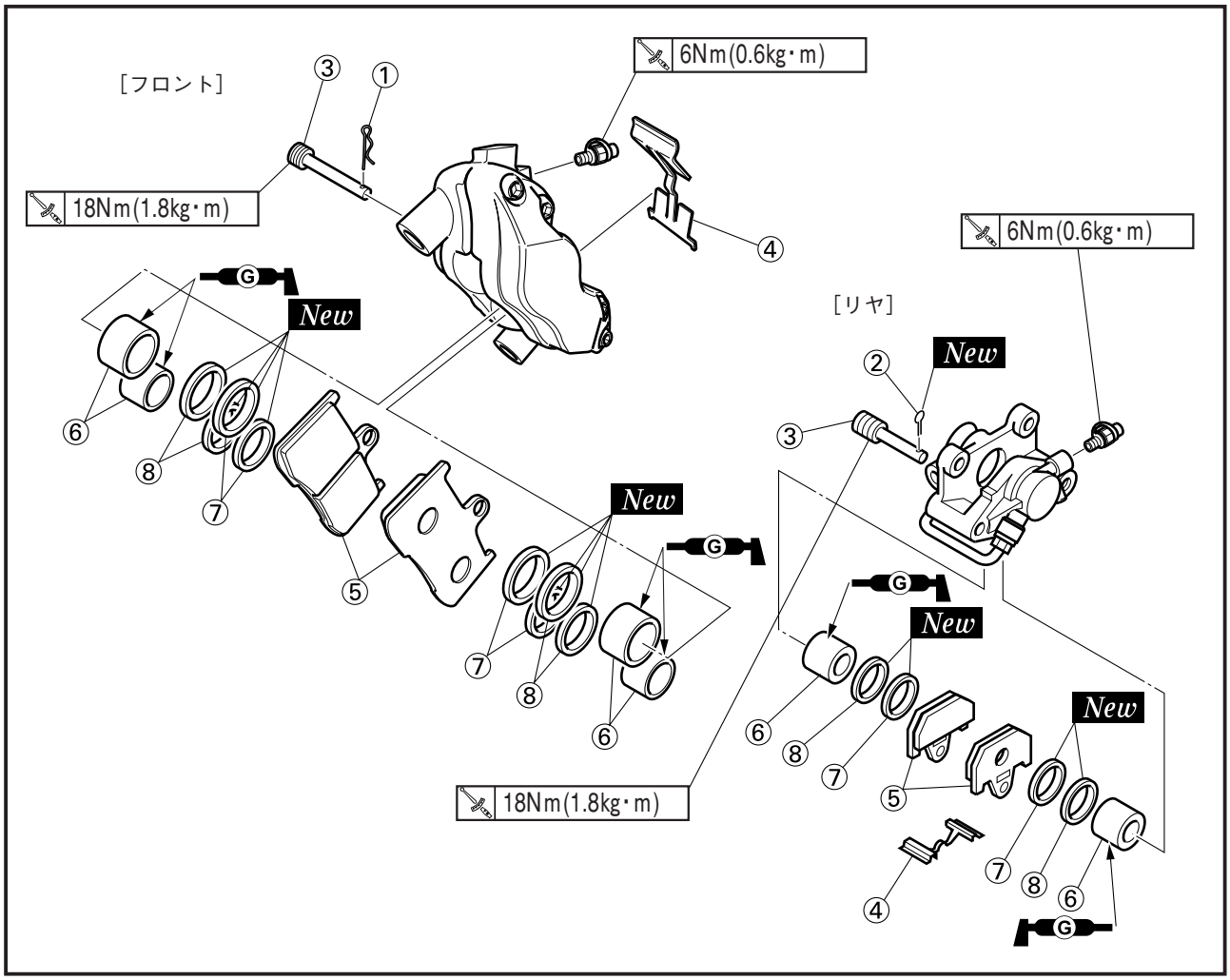


作業範囲　①ブレーキホース取外し　②キャリパ取外し　③マスタシリンダ取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**リヤブレーキの取外し** スタンドを使用して車を支える ブレーキフルードを抜く		取外しのポイント参照
①②③	1	ブレーキホースホルダ	2	
	2	アダプタ	1	
	3	ユニオンボルト	1	
	4	ブレーキホース	1	
②	5	パッドピン	1	キャリパを分解する場合はゆるめる
	6	キャリパ	1	
③	7	ブレーキペダル連結ボルト	1	
	8	リザーバタンク	1	
	9	リザーバホース	1	
	10	マスタシリンダ	1	

JC5A8200

キャリパの分解

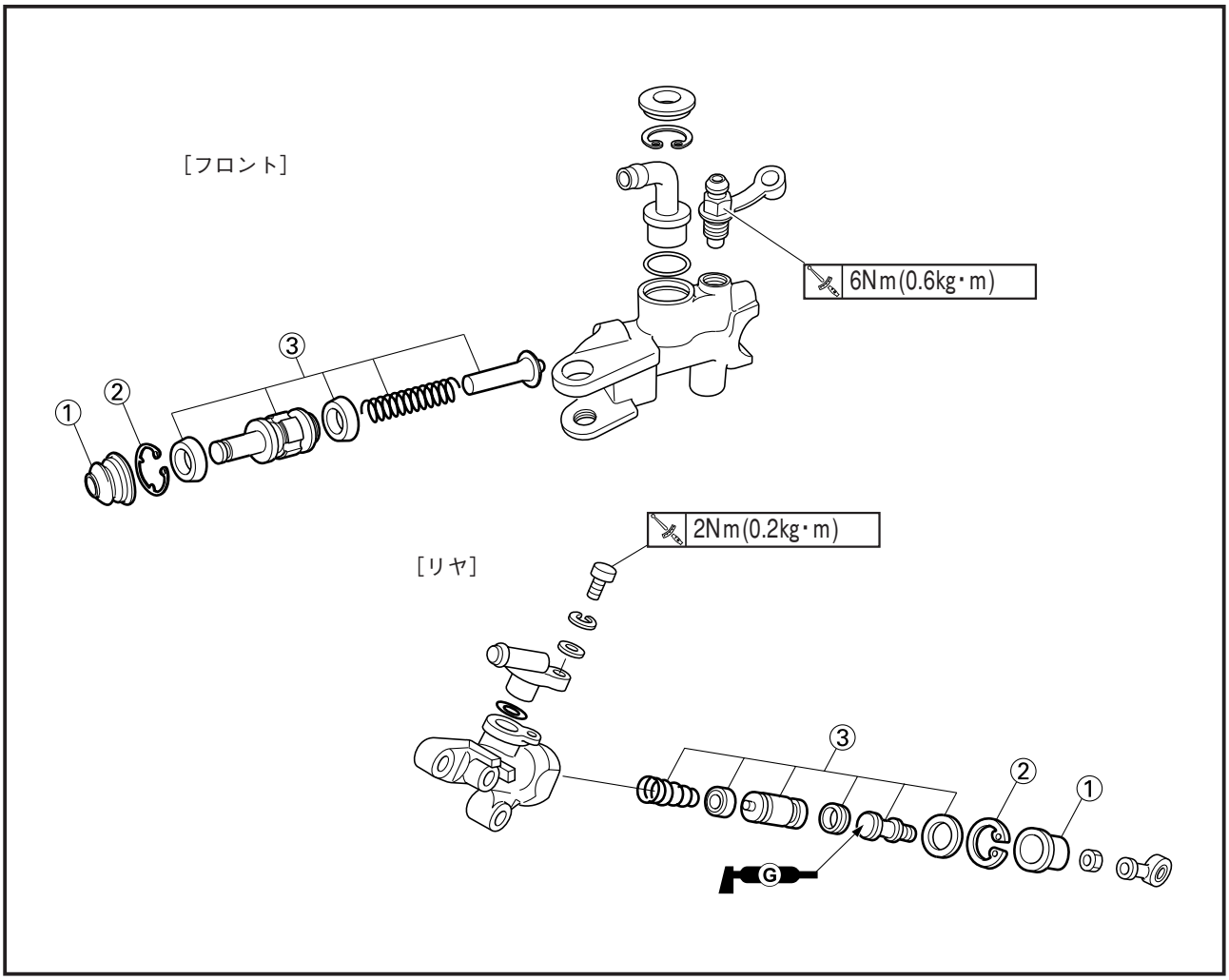


作業範囲　①フロントキャリパ分解　②リヤキャリパ分解

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数 F	個数 R	備　考
		キャリパの分解	F	R	
①	①	クリップ	各1	—	
	②	コッタピン	—	1	
	③	パッドピン	各1	1	
	④	パッドサポート	各1	1	
②	⑤	ブレーキパッド	各2	2	
①	⑥	キャリパピストン	各4	2	取外しのポイント参照
	⑦	ダストシール	各4	2	取外しのポイント参照
	⑧	ピストンシール	各4	2	

JC5A8300

マスタシリンダの分解



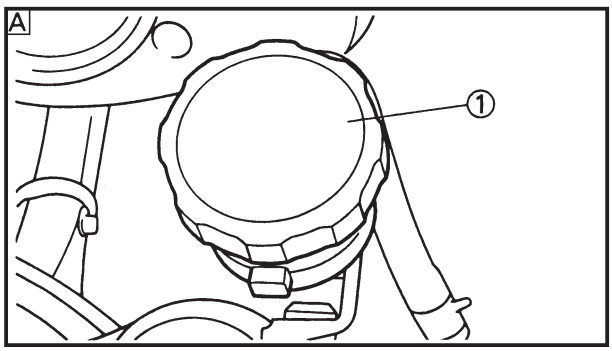
作業範囲　①フロントマスタシリンダ分解　②リヤマスタシリンダ分解

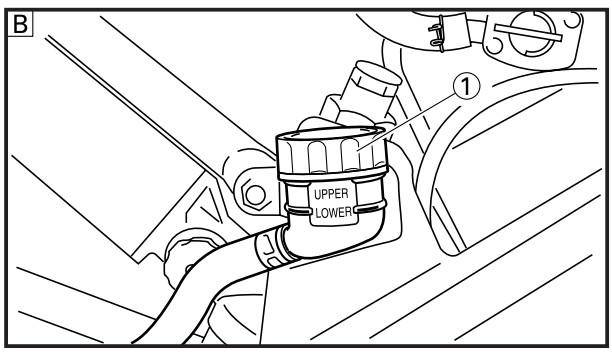
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		マスタシリンダの分解		
① ②	①	マスタシリンダブーツ	1	
	②	サークリップ	1	
	③	マスタシリンダキット	1	

JC536001
取扱い上の注意

⚠警　告

TZのブレーキ部品はレース用に作製されたものです。一般市販車に使用しますと不具合を生じるので使用しないこと。





JC5A3000
取外しのポイント

JC5A3200
ブレーキフルード抜き取り

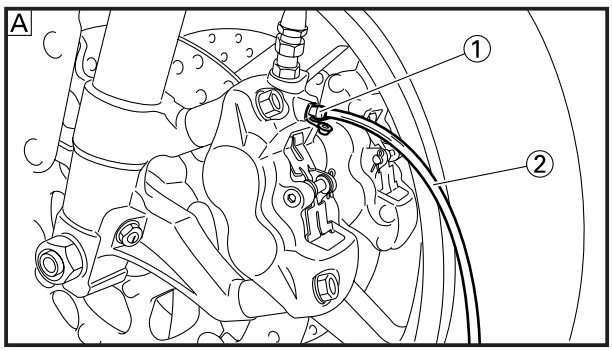
1. 以下の部品を取外します。
- リザーバタンクキャップ①

要　点

リザーバダイヤフラムは組付けておく。

Ⓐ フロント

Ⓑ リヤ

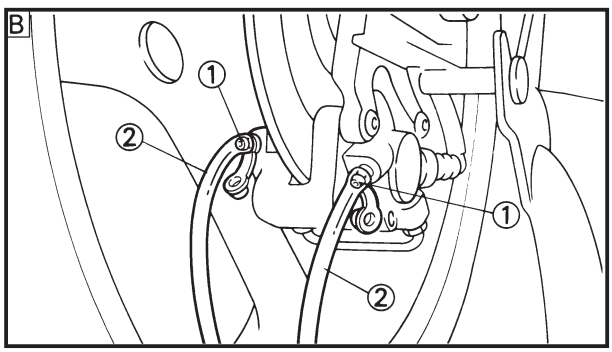


2. ブリードスクリュ①にビニールパイプ②を組付け、ビニールパイプ先端に受皿を置きます。

Ⓐ フロント

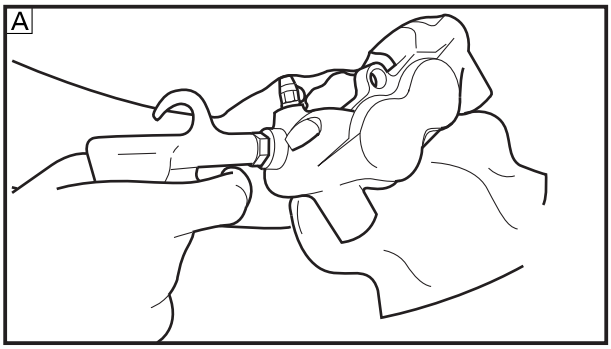
Ⓑ リヤ

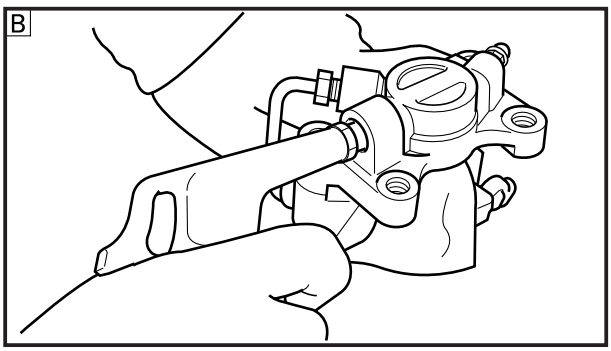
3. ブリードスクリュをゆるめ、ブレーキレバー（ブレーキペダル）を作動させてブレーキフルードを抜きます。



⚠注　意

- **一度抜いたブレーキフルードは再使用しないこと。**
- **ブレーキフルードを塗装面、プラスチック、ゴム等に付着させると部品が破損するので、すぐに拭き取ること。**





JC533302

キャリパピストン取外し

1. 以下の部品を取外します。
- キャリパピストン

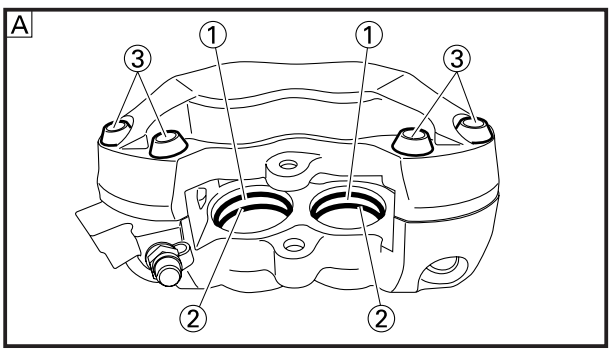
  キャリパをウエス等でくるみ、低圧のエアをゆっくり吹き込み、キャリパピストンを取外します。

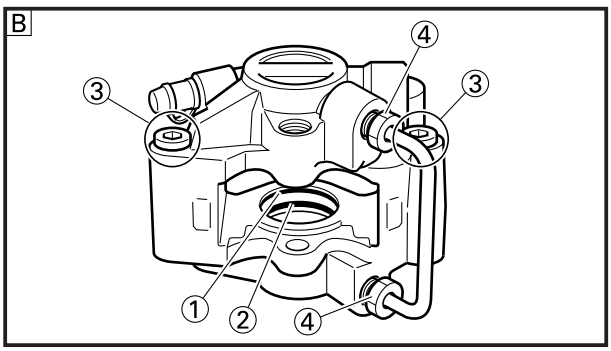
⚠警　告

- **高圧のエアを使ったり、急激にエアを吹き込むとブレーキフルードが飛散したり、ピストンが飛び出すことがあるので、徐々にエアを吹き込むこと。**
- **キャリパの中に指先を入れて絶対に作業をしないこと。**

A フロント

B リヤ





JC543411

ピストンシール取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ダストシール①
- ピストンシール②

⚠警　告

- **ピストンシール、ダストシールを取外した場合は、再使用しないこと。**
- **キャリパ本体締付ボルト③およびジョイントパイプ締付ナット④はゆるめないこと。**

⚠注　意

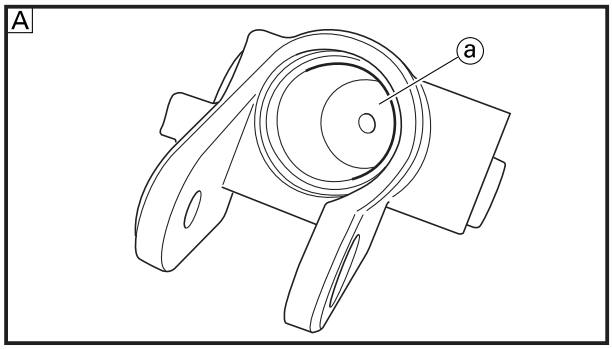
ドライバ等を使用しないこと。

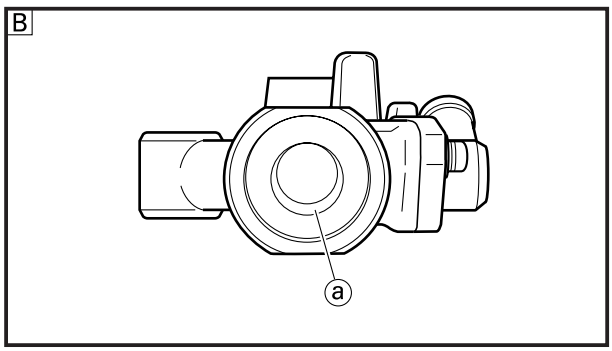
要　　点

指先で奥へ押し込むようにして取外す。

A フロント

B リヤ





JC5A4000
点検

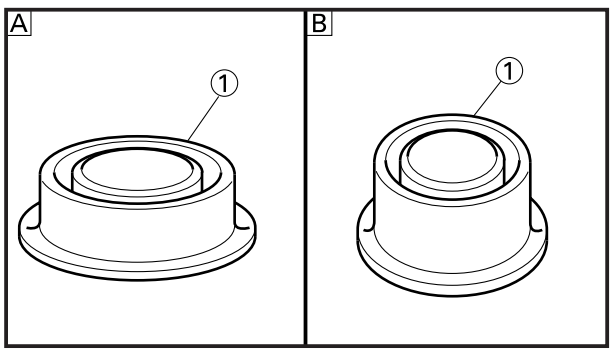
JC534113
マスタシリンダ点検

1. 以下の点検をします。
- マスタシリンダ内面ⓐ
  異物、汚れ→ブレーキフルードを使用して洗浄します。
  条痕、摩耗痕→マスタシリンダAss'yで交換

⚠警　告

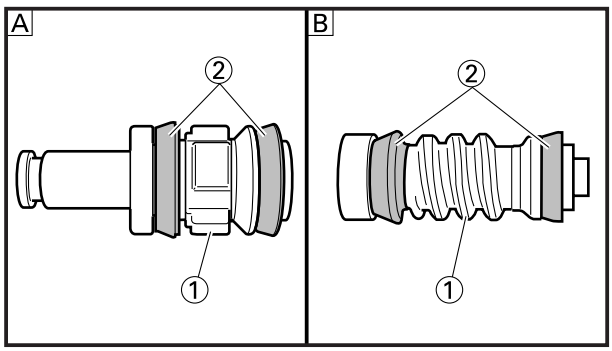
新しいブレーキフルード以外のもので洗浄しないこと。

A フロント
B リヤ



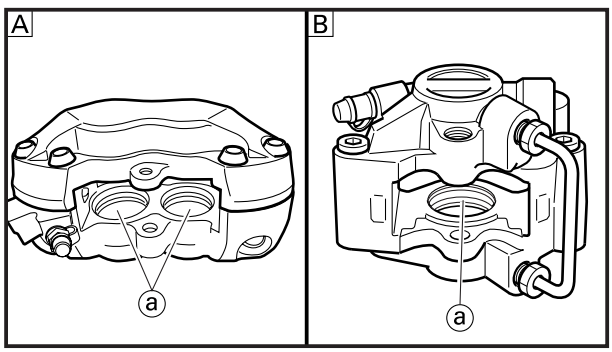
2. 以下の点検をします。
- リザーバダイヤフラム①
  亀裂、劣化、損傷→交換

A フロント
B リヤ



3. 以下の点検をします。
- マスタシリンダピストン①
- シリンダカップ②
  条痕、摩耗、亀裂、劣化、損傷→マスタシリンダキットで交換

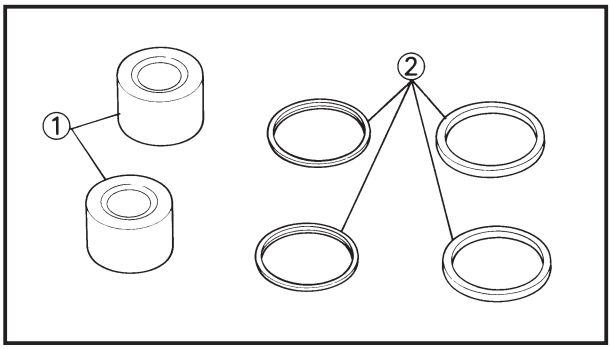
A フロント
B リヤ

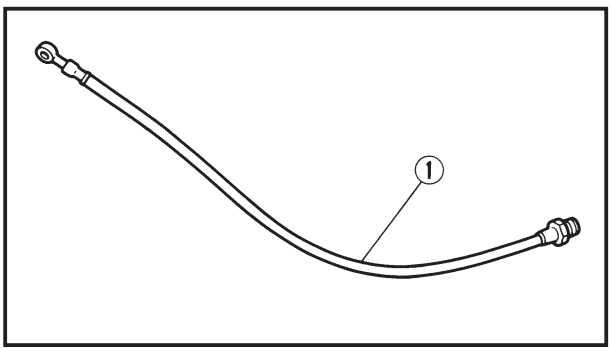


JC534212
キャリパ点検

1. 以下の点検をします。
- キャリパシリンダ内面ⓐ
  条痕、摩耗痕→キャリパAss'yで交換

A フロント
B リヤ





2. 以下の点検をします。
- キャリパピストン①
  条痕、摩耗痕→キャリパピストンAss'yで交換

⚠警　告

ピストンシール、ダストシール②を取外した場合は、必ず新品のピストンシール、ダストシールを組付けること。

JC534300
ブレーキホース点検

1. 以下の点検をします。
- ブレーキホース①
  ヒビ割れ、損傷→交換

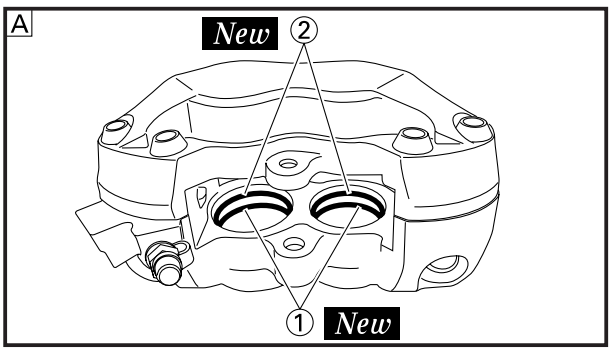
JC5A5000
組付け

JC535113
キャリパピストン組付け

1. キャリパ、キャリパピストン、ピストンシール、ダストシールをブレーキフルードで洗浄します。

⚠警　告

新しいブレーキフルード以外のもので洗浄しないこと。



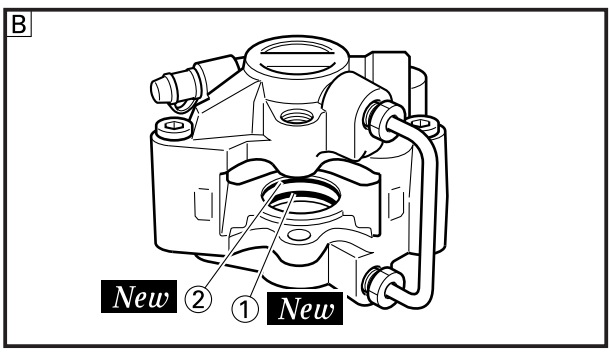
2. 以下の部品を組付けます。
- ピストンシール① ***New***
- ダストシール② ***New***

⚠警　告

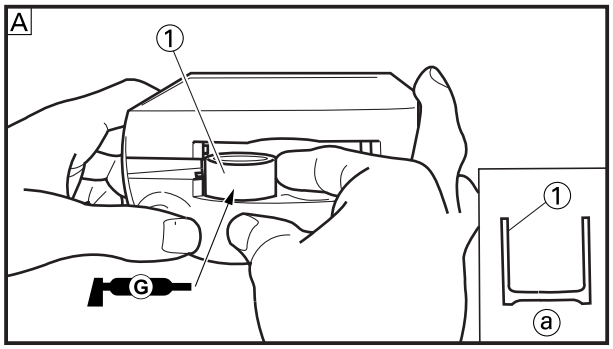
ピストンシール、ダストシールは必ず新品と交換すること。

要　　点

ねじれないように指先で組付ける。



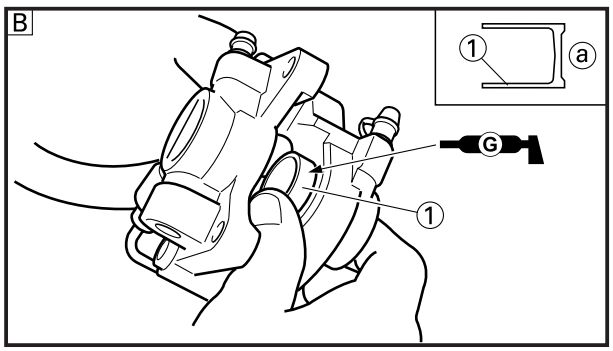
A フロント
B リヤ



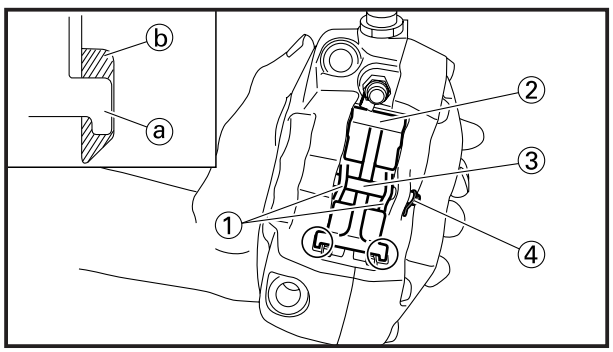
3. 以下の部品を組付けます。
- キャリパピストン①

⚠注 意

- **キャリパピストン外周面にヤマハグリースG30Mを薄く塗布して、ピストン凹部の小さい側ⓐをキャリパ側にして組付けること。**
- **無理な力を加えて挿入しないこと。**



A フロント
B リヤ



JC5A5710
フロントキャリパ組付け

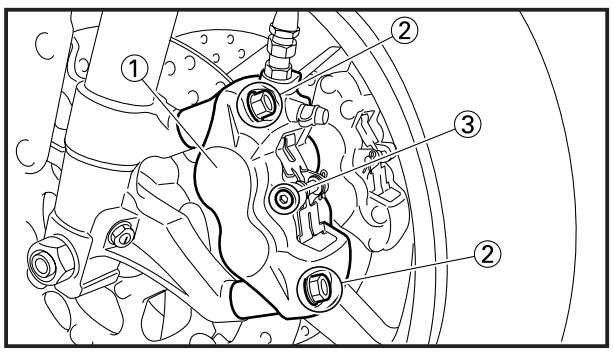
1. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキパッド①
- パッドサポート②
- パッドピン③
- クリップ④

要 点

- パッドサポートの突起部ⓐをキャリパの凹部ⓑに合せて組付ける。
- パッドピンはこの段階では仮締付け状態とする。

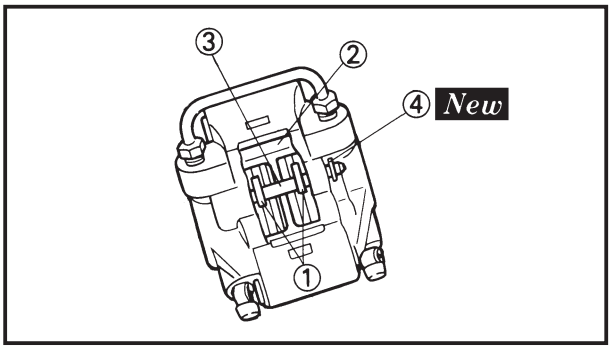
⚠注 意

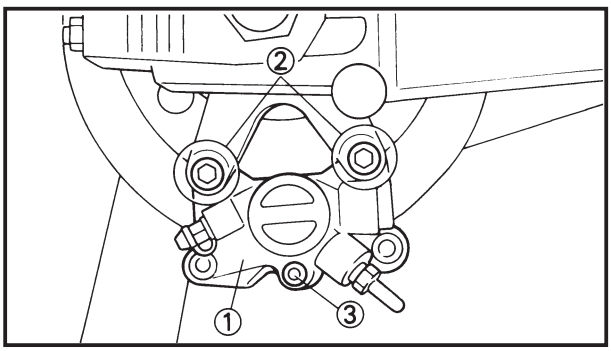
クリップに曲り、開き等がある場合は新品と交換すること。



2. 以下の部品を組付けます。
- キャリパ①
- キャリパ取付ボルト② 35Nm(3.5kg・m)

3. 以下の部品を締付けます。
- パッドピン③ 18Nm(1.8kg・m)





JC545142

リヤキャリパ組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキパッド①
- パッドサポート②
- パッドピン③
- コッタピン④ ***New***

要　　点

パッドピンはこの段階では仮締付け状態とする。

2. 以下の部品を組付けます。
- キャリパ①
- キャリパ取付ボルト② 23Nm(2.3kg･m)

3. 以下の部品を締付けます。
- パッドピン③ 18Nm(1.8kg･m)

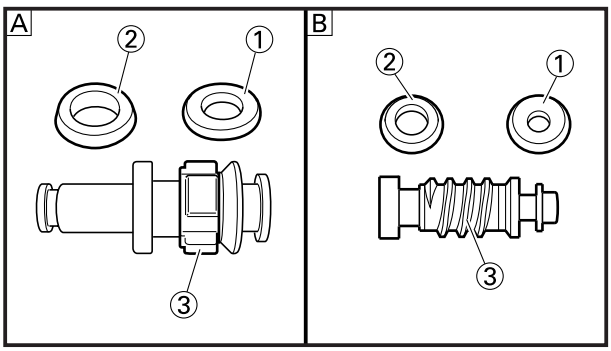
JC5A5230

マスタシリンダキット組付け

1. マスタシリンダ、マスタシリンダキットをブレーキフルードで洗浄します。

⚠警　告

新しいブレーキフルード以外のもので洗浄しないこと。

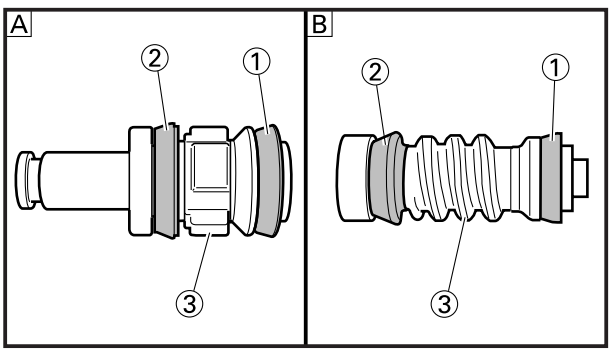


2. 以下の部品を組付けます。
- プライマリシリンダカップ①
- セカンダリシリンダカップ②

マスタシリンダピストン③に組付けます。

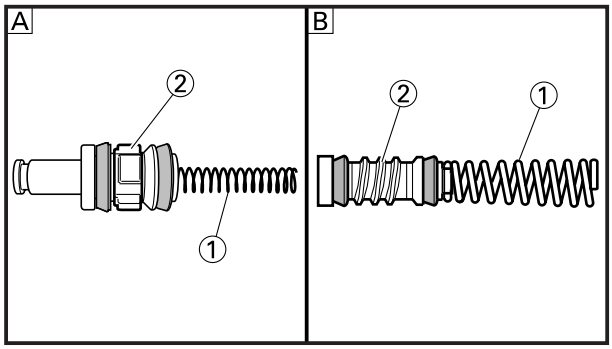
⚠警　告

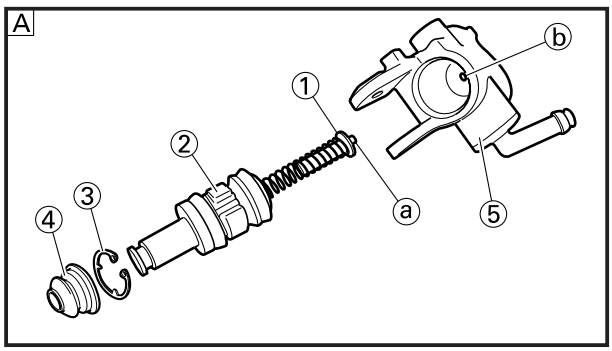
シリンダカップはブレーキフルードを塗布して図のように組付けること。組付け方向を間違えるとブレーキ不良の原因となる。

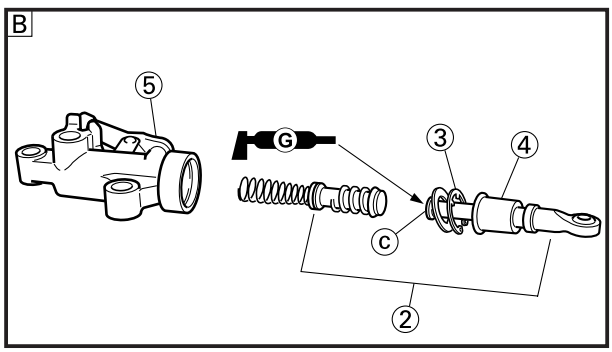


A フロント

B リヤ







3. 以下の部品を組付けます。
- スプリング①
  マスタシリンダピストン②に組付けます。

要　　点

スプリング内径の小さい方をマスタシリンダピストンに組付ける。

Ⓐ フロント
Ⓑ リヤ

4. 以下の部品を組付けます。
- スプリングガイド①
- マスタシリンダキット②
- サークリップ③
- マスタシリンダブーツ④
  マスタシリンダ⑤に組付けます。

要　　点

- マスタシリンダキットにブレーキフルードを塗布して組付ける。
- スプリングガイドは突起部ⓐをマスタシリンダの孔ⓑに合せて組付ける。
- プッシュロッド先端部ⓒにシリコングリースG30Mを塗布して組付ける。
- サークリッププライヤを使用して、サークリップを組付ける。

Ⓐ フロント
Ⓑ リヤ

JC5A5A01

フロントブレーキホース、マスタシリンダ組付け

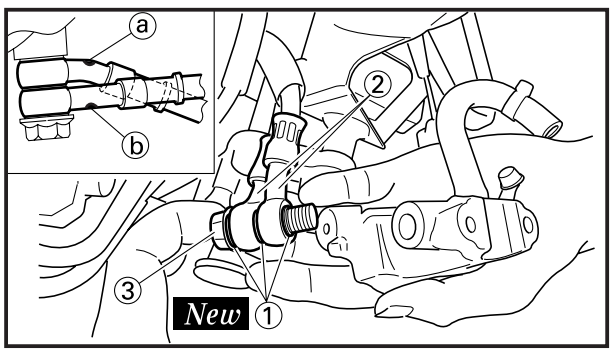
1. 以下の部品を仮組付けます。
- プレートワッシャ① ***New***
- ブレーキホース②
- ユニオンボルト③

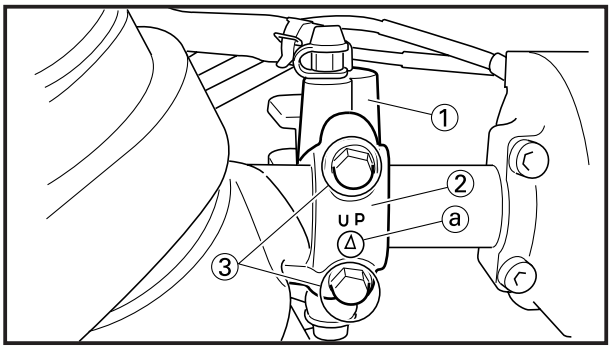
⚠警　告

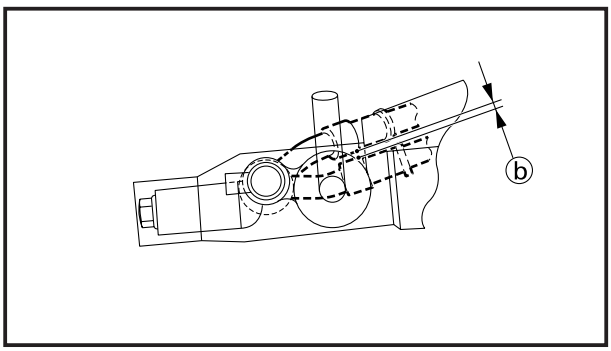
プレートワッシャは必ず新品と交換すること。

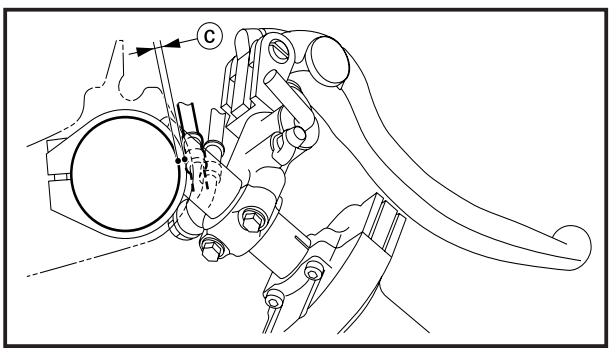
要　　点

ブレーキホースは青ペイントⓐを上側、白ペイントⓑを下側にして組付ける。









2. 以下の部品を仮組付けます。
- マスタシリンダ①
- マスタシリンダブラケット②
- マスタシリンダブラケット取付ボルト③

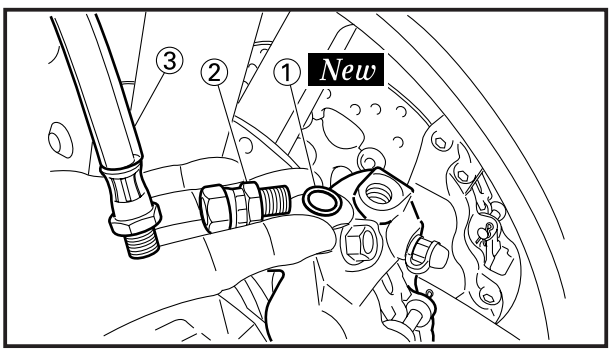
要　点

マスタシリンダブラケットの△マークⓐを上に向け組付ける。

⚠注　意

- **ブレーキホースの金具、ユニオンボルトは他の部品と干渉しないようにすること。干渉した状態で組付けるとブレーキ不良の原因となる。**
- **ブレーキホースの金具のすき間ⓑが2㎜になるように組付けること。**
- **ブレーキホース（左側キャリパ）とフロントフォークとのすき間ⓒが3㎜になるように組付けること。**

3. 以下の部品を締付けます。
- ユニオンボルト　30Nm(3.0kg･m)
- マスタシリンダブラケット取付ボルト　8Nm(0.8kg･m)



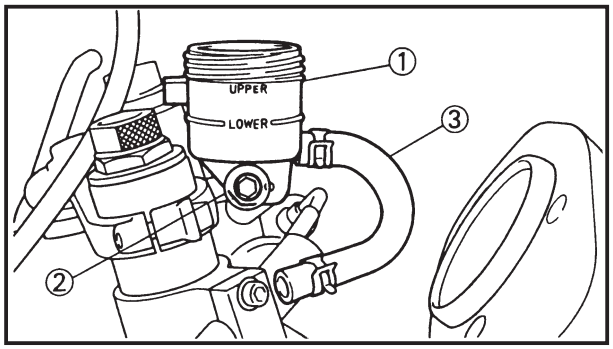
4. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①　***New***
- アダプタ②　34Nm(3.4kg･m)
- ブレーキホース③　14Nm(1.4kg･m)

⚠警　告

プレートワッシャは必ず新品と交換すること。

要　点

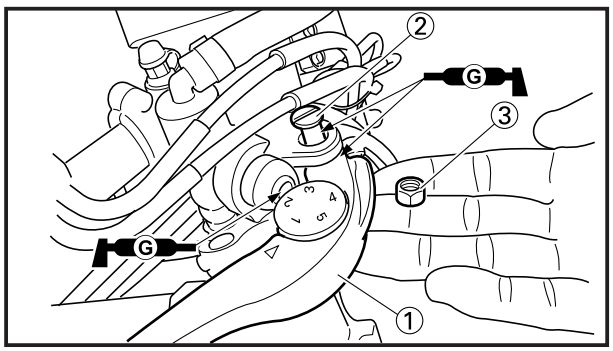
ブレーキホースがねじれないようにブレーキホースを固定し、アダプタのネジを締付ける。



5. 以下の部品を組付けます。
- リザーバタンク①
- リザーバタンク取付ボルト②

5Nm(0.5kg・m)

- リザーバホース③



6. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキレバー①
- ブレーキレバー取付ボルト②

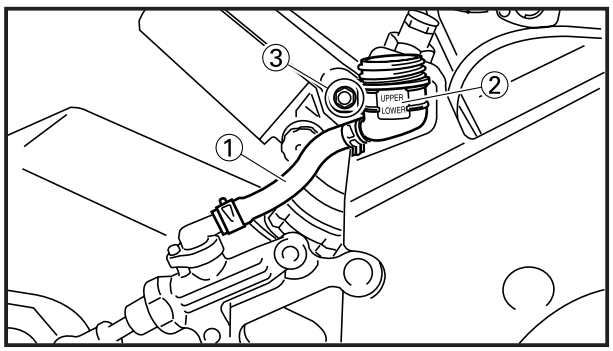
1Nm(0.1kg・m)

- ブレーキレバー取付ナット③

6Nm(0.6kg・m)

要　点

ブレーキレバー摺動面、ブレーキレバー取付ボルト外周面およびマスタシリンダピストン接触部にシリコングリースG30Mを塗布して組付ける。

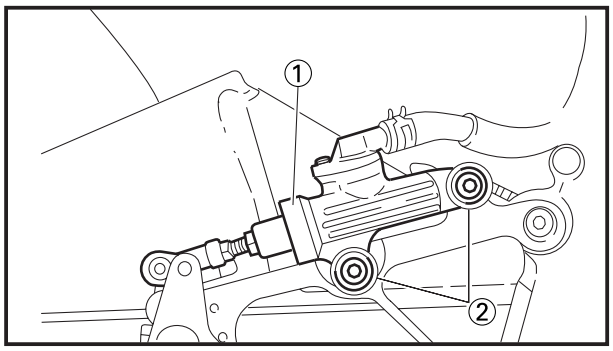


JC545271

リヤマスタシリンダ組付け

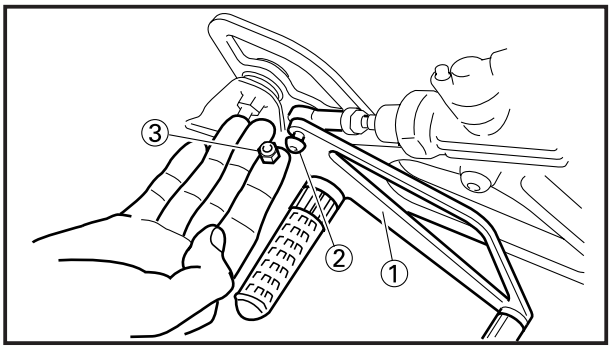
1. 以下の部品を組付けます。
- リザーバホース①
- リザーバタンク②
- リザーバタンク取付ナット③

7Nm(0.7kg・m)



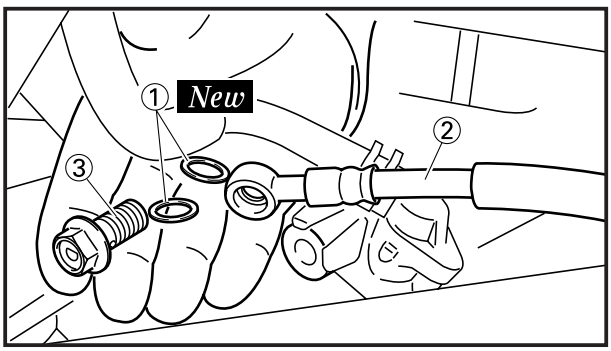
2. 以下の部品を組付けます。
- マスタシリンダ①
- マスタシリンダ取付ボルト②

20Nm(2.0kg・m)



3. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキペダル①
- ブレーキペダル連結ボルト②
- ブレーキペダル連結ナット③

12Nm(1.2kg･m)



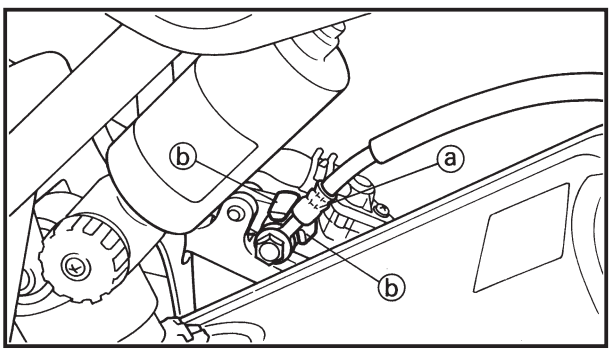
JC545452

リヤブレーキホース組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ① **New**
- ブレーキホース②
- ユニオンボルト③　30Nm(3.0kg･m)

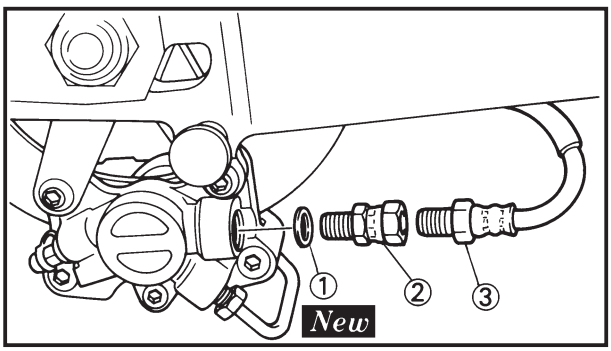
⚠警　告

プレートワッシャは必ず新品と交換すること。



⚠注　意

ブレーキホースのパイプ部ⓐをマスタシリンダの突起部ⓑに接するように組付けること。



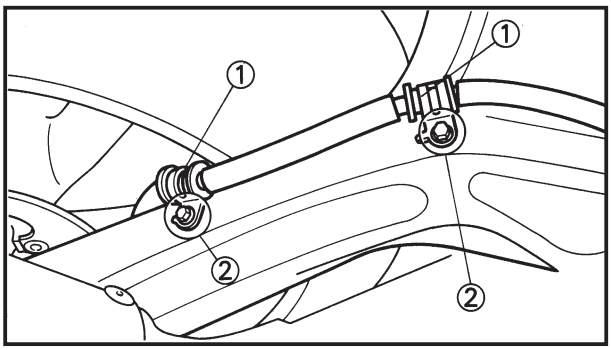
2. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ① **New**
- アダプタ②　34Nm(3.4kg･m)
- ブレーキホース③　14Nm(1.4kg･m)

⚠警　告

プレートワッシャは必ず新品と交換すること。

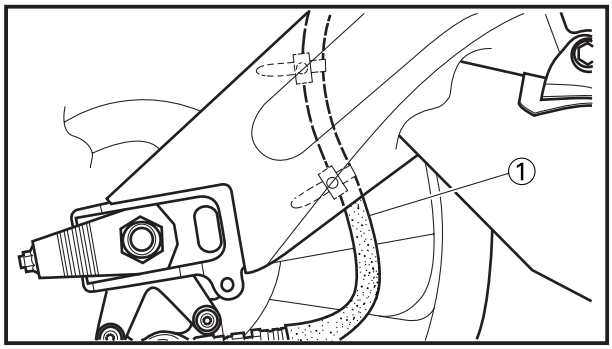
要　点

ブレーキホースがねじれないようにブレーキホースを固定し、アダプタのネジを締付ける。

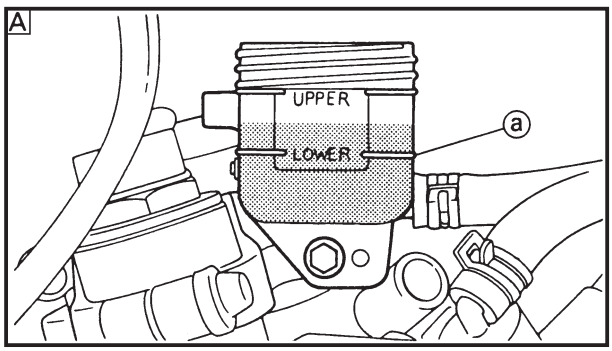


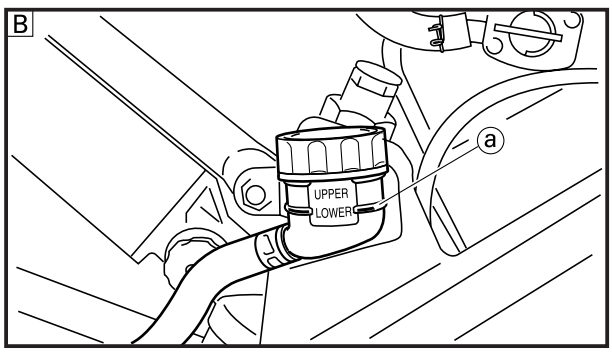
3. 以下の部品を組付けます。
- ブレーキホースホルダ①
- ブレーキホースホルダ取付ボルト

8Nm(0.8kg･m)



4. 以下の部品をクランプします。
● ブレーキホース①
第2章―ケーブル、ワイヤ、パイプ通し図参照





JC5A5611
ブレーキフルード注入、エア抜き

1. ブレーキフルードをロアレベルⓐ以上入れます。

	ヤマハブレーキフルード BF-4/DOT4

⚠警 告

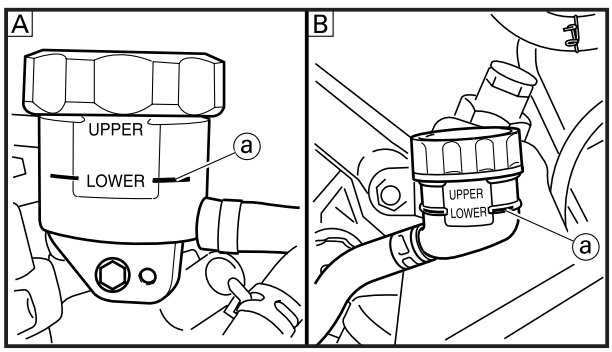
ブレーキ不良の原因となるので、銘柄の異なるブレーキフルードを混入、使用しないこと。

⚠注 意

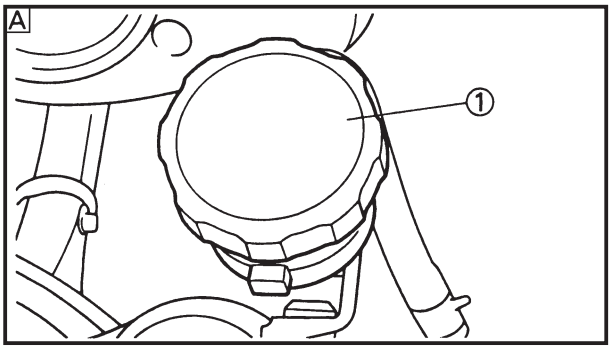
ブレーキフルードを塗装面、プラスチック、ゴム類に付着させると部品が破損するのですぐ拭き取ること。

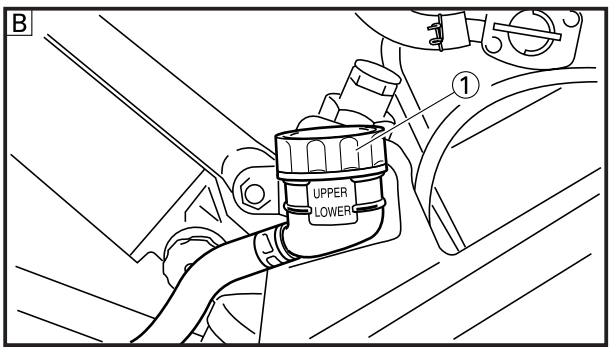
A フロント
B リヤ

2. ブレーキフルードを注入後、エア抜きを行います。
第3章―ブレーキフルードエア抜きの項目参照



3. 以下の点検をします。
● ブレーキフルード液面レベル
ロアレベルⓐ以下→補充
第3章―ブレーキフルード液量点検の項目参照
A フロント
B リヤ





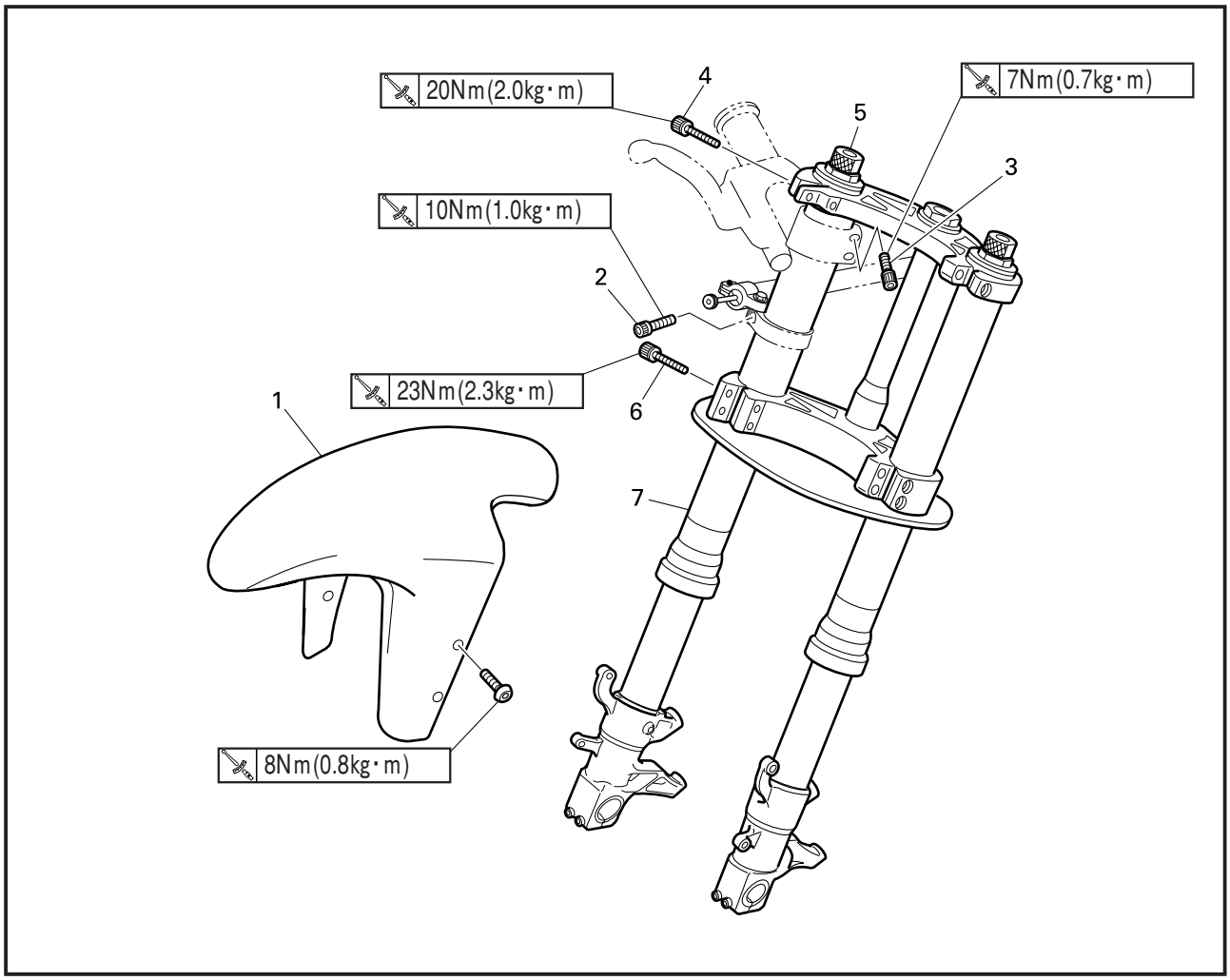
4. 以下の部品を組付けます。
- リザーバダイヤフラム
- リザーバタンクキャップ①

⚠注　意

組付け後、ブレーキレバーを握って（ブレーキペダルを踏んで）、マスタシリンダ、キャリパ、ユニオンボルト、アダプタ取付け部よりブレーキフルードの漏れがないか点検すること。

A フロント
B リヤ

JC550000
フロントフォーク

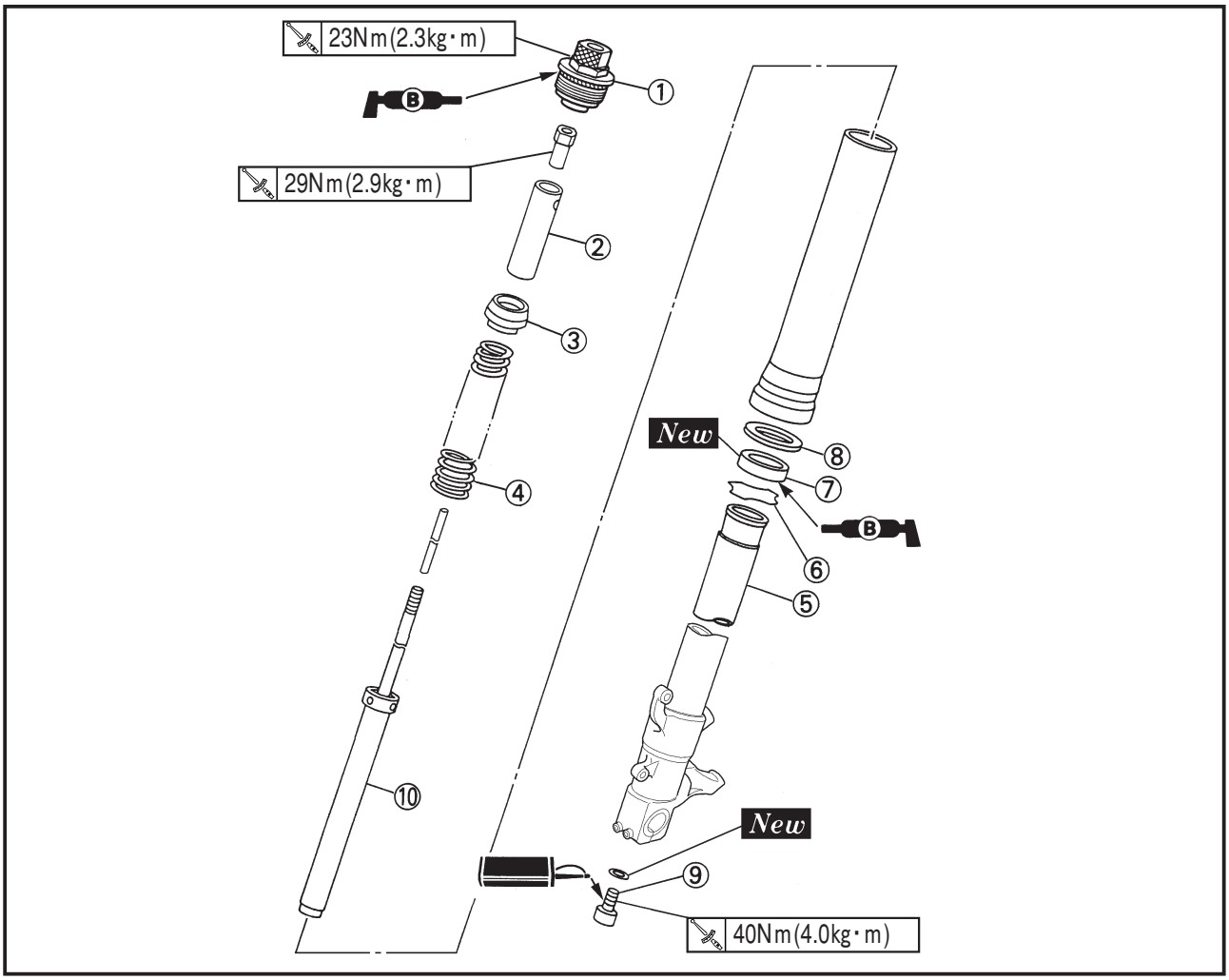


作業範囲　①フロントフォーク取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**フロントフォークの取外し**		
		スタンドを使用して車を支える		
		カウリング		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
		左気筒インダクションダクト		
		右気筒インダクションダクト		
		フロントキャリパ		フロントブレーキ、リヤブレーキ参照
		フロントホイール		フロントホイール、リヤホイール参照
①	1	フロントフェンダ	1	
	2	ハンドルシミーダンパステー締付ボルト	1	ゆるめる（右側のみ）
	3	ハンドル締付ボルト	2	ゆるめる
	4	ハンドルクラウン締付ボルト	1	ゆるめる
	5	キャップボルト	1	フロントフォークを分解する場合はゆるめる
	6	アンダブラケット締付ボルト	2	ゆるめる
	7	フロントフォーク	1	

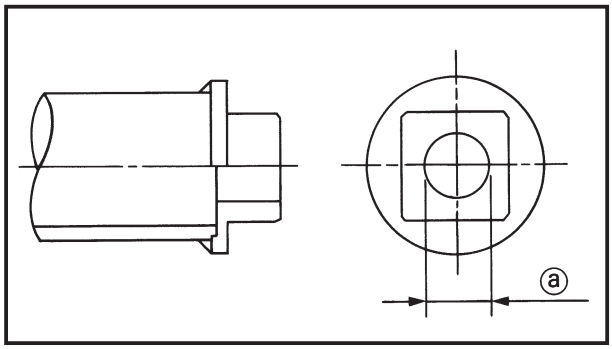
JC558000

フロントフォークの分解



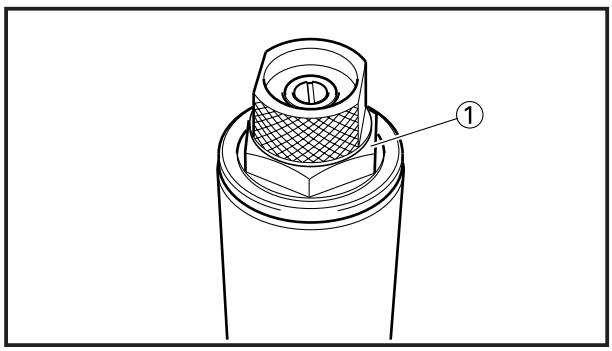
作業範囲 ①オイルシール取外し ②ダンパロッド取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　考
		フロントフォークの分解		
① ②	①	キャップボルト	1	特殊工具使用。取外しのポイント参照
	②	スペーサ	1	
	③	スペーサガイド	1	
	④	フォークスプリング	1	オイルを抜く
	⑤	インナチューブ	1	取外しのポイント参照
	⑥	ストッパリング	1	
	⑦	オイルシール	1	
	⑧	オイルシールワッシャ	1	
	⑨	ダンパロッド取付ボルト	1	特殊工具使用。取外しのポイント参照
	⑩	ダンパロッド	1	



JC556011
取扱い上の注意

'97モデル以降ではダンパロッドの径がφ12.5となっています。ダンパロッドホルダの寸法ⓐがφ12のものはφ14にドリル等で加工してご使用ください。



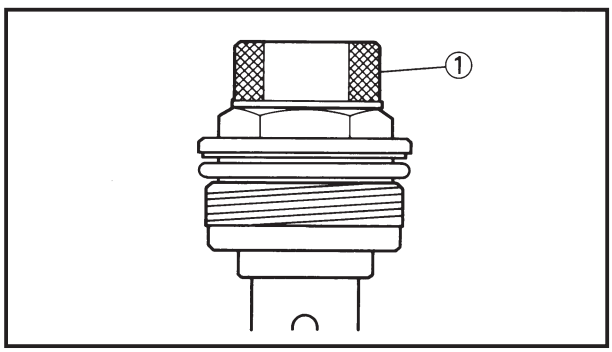
JC553000
取外しのポイント

JC553142
キャップボルト取外し

1. 以下の部品を取外します。
- キャップボルト①
  アウタチューブより取外します。

要　　点

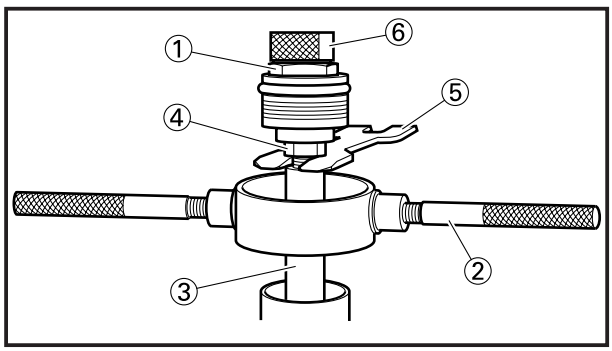
フロントフォークを車体から取外す前にキャップボルトをゆるめる。



2. 以下の部品をゆるめます。
- イニシャルアジャスタ①

要　　点

イニシャルアジャスタをゆるめる前にセット位置を記録しておく。

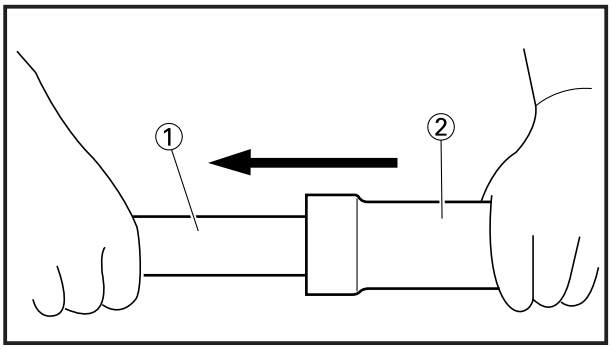


3. 以下の部品を取外します。
- キャップボルト①

要　　点

- フォークスプリングコンプレッサ②を使用してスペーサ③を押し下げ、ロックナット④とスペーサの間にロッドホルダ⑤を差込む。
- ダンパロッドのロックナットを固定し、イニシャルアジャスタ⑥を回してキャップボルトを取外す。

フォークスプリングコンプレッサ
90890-01441
ロッドホルダ
90890-01434

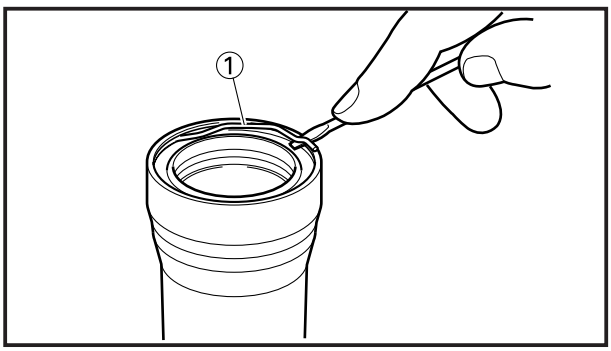


JC553212

オイルシール取外し

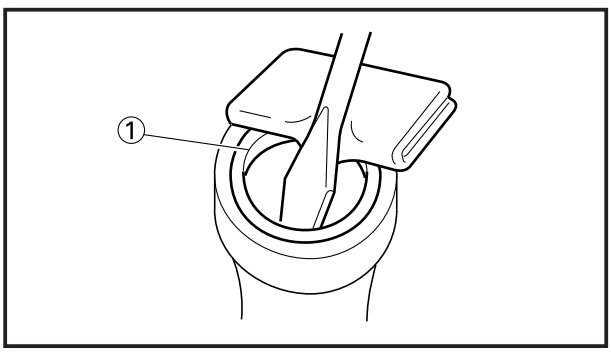
1. 以下の部品を取外します。
- インナチューブ①

  アウタチューブ②からインナチューブを抜き取ります。



2. 以下の部品を取外します。
- ストッパリング①

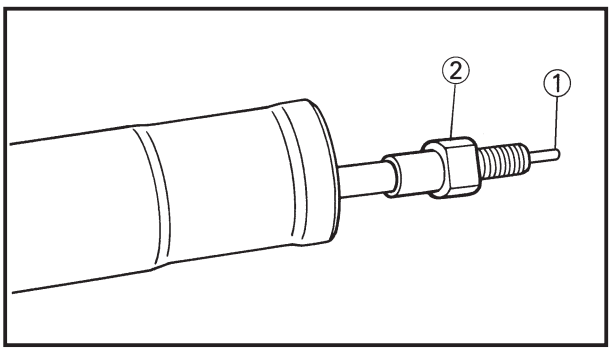
  ㊀ドライバ等を使用して取外します。



3. 以下の部品を取外します。
- オイルシール①
- オイルシールワッシャ

▲注 意

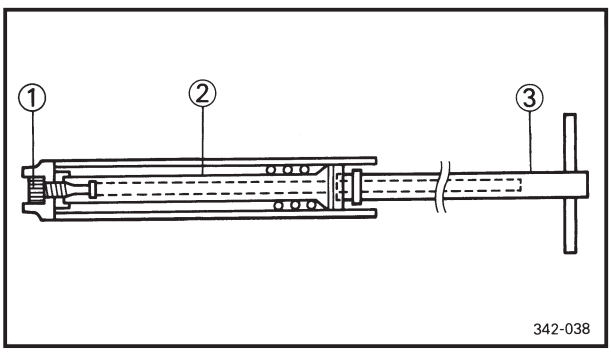
- **オイル漏れの原因となるのでアウタチューブに傷を付けないこと。**
- **オイルシールを取外した場合は新品と交換すること。**



JC553321

ダンパロッド取外し

1. 以下の部品を取外します。
- プッシュロッド①
- ロックナット②

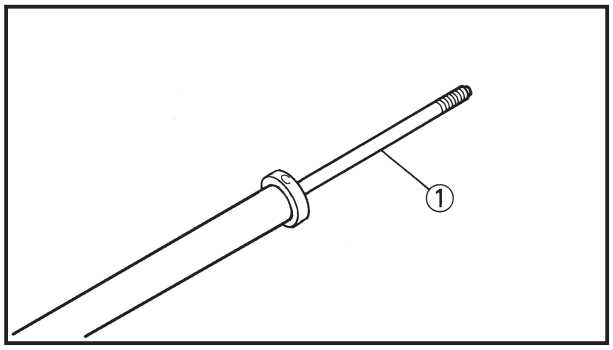


2. 以下の部品を取外します。
- ダンパロッド取付ボルト①
- ダンパロッド②

要 点

ダンパロッドの回り止めに、ダンパロッドホルダ③を使用して取外す。

	ダンパロッドホルダ 90890-01425



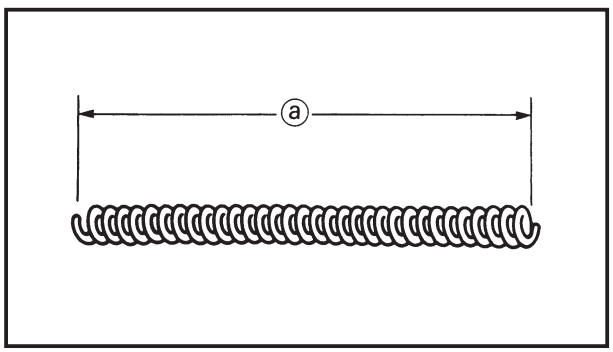
JC554000
点検

JC554101
ダンパロッド点検

1. 以下の点検をします。
- ダンパロッド①
  曲り、摩耗、損傷→交換

⚠注　意

ダンパロッド内部は精密にできているので、オイル交換、フロントフォーク分解、組立時に異物混入しないようにすること。

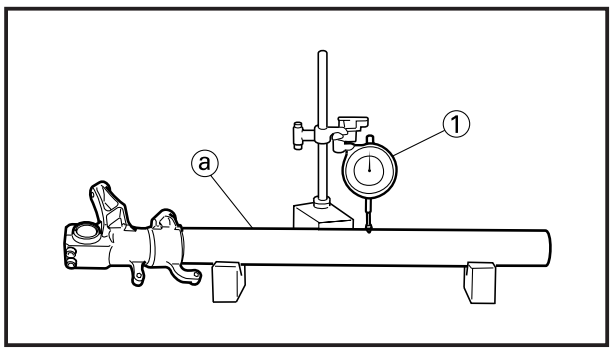


JC554401
フォークスプリング点検

1. 以下の点検をします。
- スプリング自由長ⓐ

標準自由長
212.5㎜
使用限度
210.5㎜

使用限度以下→交換



JC554502
インナチューブ点検

1. 以下の点検をします。
- インナチューブ表面ⓐ
  かき傷→耐水サンドペーパー（＃1000）で修正または交換
- インナチューブ曲り
  ダイヤルゲージ①

曲り使用限度
0.2㎜

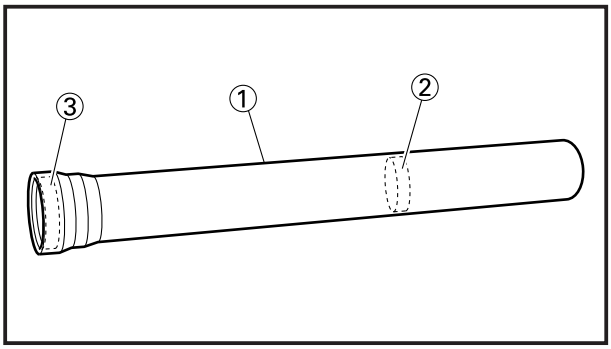
曲り使用限度以上→交換

要　　点

曲りの値は、ダイヤルゲージの測定値の1/2である。

⚠警　告

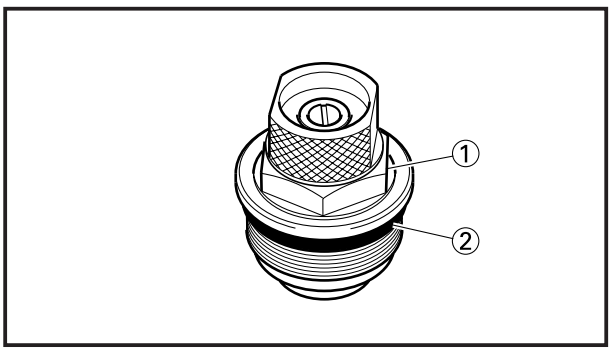
衝突、転倒等で曲ったインナチューブは修正しないで交換すること。（修正使用禁止）



JC554611
アウタチューブ点検

1. 以下の点検をします。
- アウタチューブ①
- ピストンメタル②
- スライドメタル③

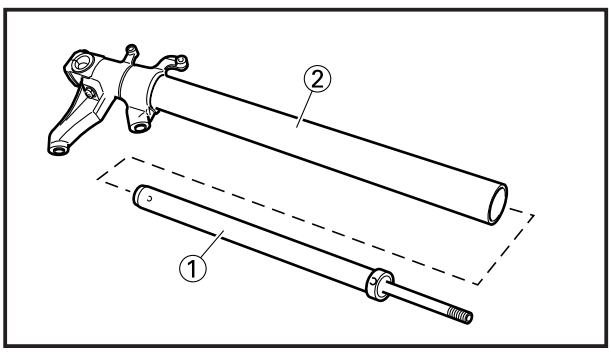
かき傷、摩耗、損傷→アウタチューブAss'yで交換



JC554710
キャップボルト点検

1. 以下の点検をします。
- キャップボルト①
- Oリング②

損傷、変形→交換



JC555000
組付け

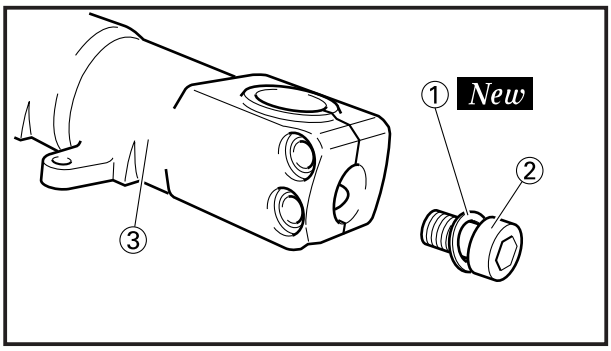
JC555192
フロントフォーク組立

1. 取外した部品をきれいな洗油で洗浄します。
2. 以下の部品を組付けます。
- ダンパロッド①

インナチューブ②に組付けます。

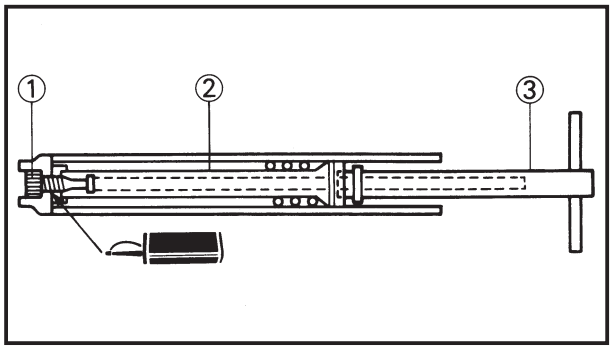
⚠注 意

インナチューブを垂直に立ててダンパロッドを上から落すとダンパロッド内部のバルブを損傷するので、インナチューブを斜めにして組付けること。



3. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ① ***New***
- ダンパロッド取付ボルト②

インナチューブ③に組付けます。



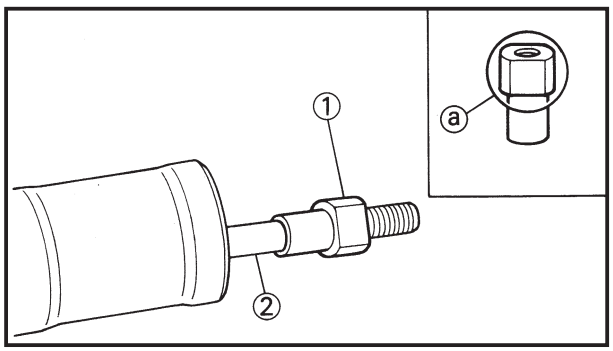
4. 以下の部品を締付けます。
- ダンパロッド取付ボルト①

40Nm(4.0kg･m)

要　　点

ダンパロッド②の回り止めに、ダンパロッドホルダ③を使用して締付ける。

	ダンパロッドホルダ 90890-01425

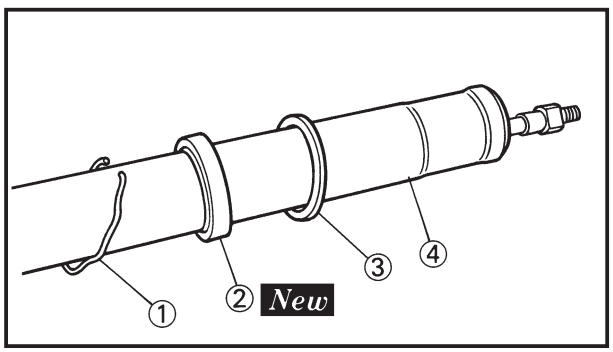


5. 以下の部品を組付けます。
- ロックナット①

  ダンパロッド②に組付けます。

要　　点

ロックナットは二面幅ⓐを上側にして組付ける。

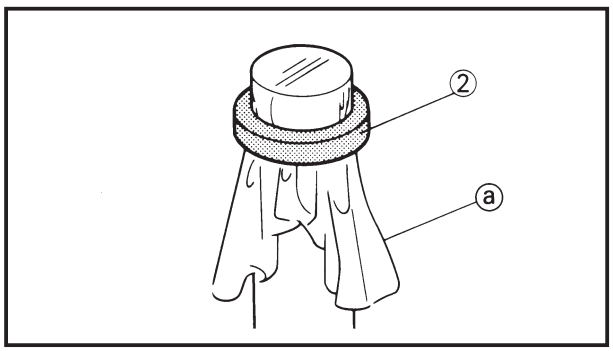


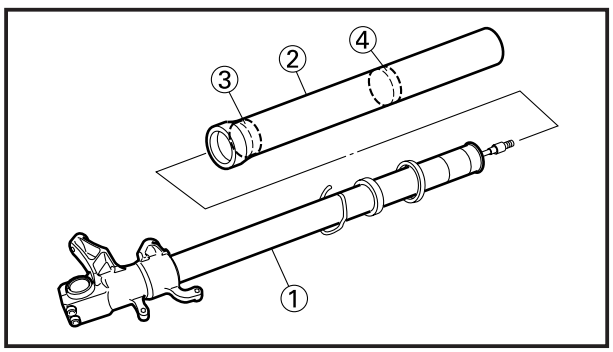
6. 以下の部品を組付けます。
- ストッパリング①
- オイルシール② ***New***
- オイルシールワッシャ③

  インナチューブ④に組付けます。

要　　点

- オイルシールリップ部にヤマハグリースBを塗布する。
- オイルシールはメーカー印、サイズ記号が記入された方をホイール側に向け組付ける。
- オイルシールを組付ける時、インナチューブにオイルを塗布したビニールⓐを付けて、オイルシールリップ部に傷を付けないように組付ける。



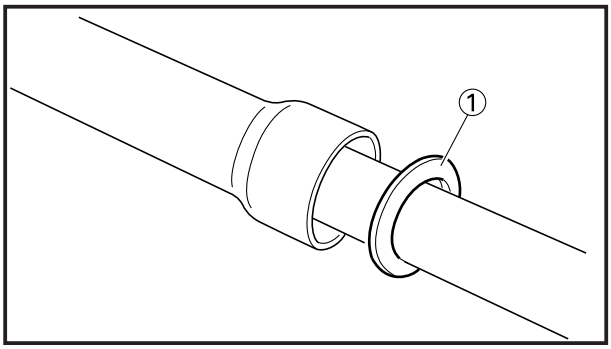


7. 以下の部品を組付けます。
- インナチューブ①

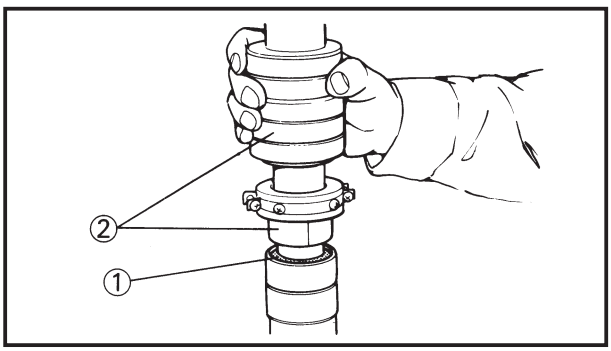
  アウタチューブ②に静かにセットします。

⚠注　意

インナチューブ組付け時、スライドメタル③、ピストンメタル④を傷付けないよう注意して組付けること。



8. 以下の部品を組付けます。
- オイルシールワッシャ①
  アウタチューブ溝にセットします。

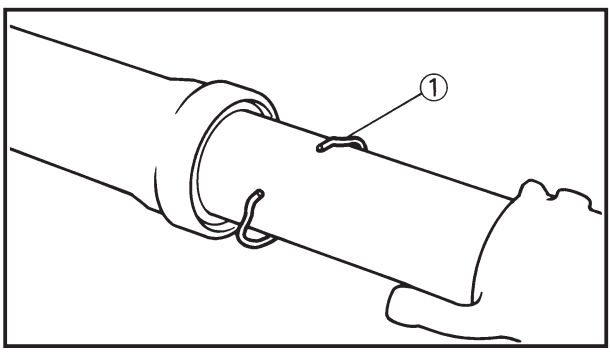


9. 以下の部品を組付けます。
- オイルシール①

要　　点

シールドライバ②を使用して、ストッパリング溝が完全に見えるまでオイルシールを打込む。

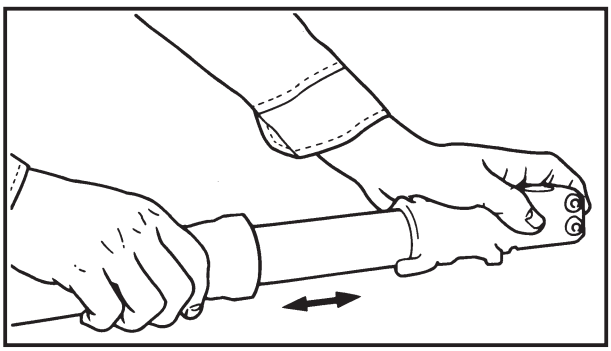
	フロントフォークオイルシールドライバ 90890-01442



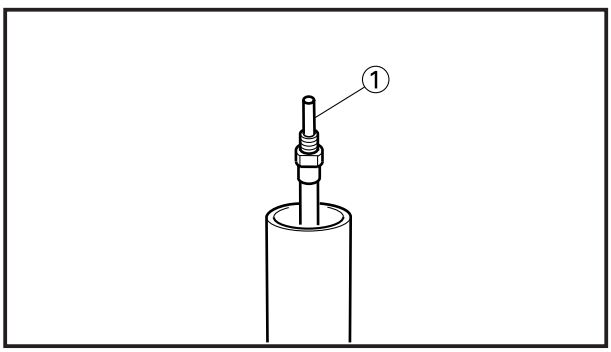
10. 以下の部品を組付けます。
- ストッパリング①

要　　点

ストッパリングをアウタチューブ溝に確実に組付ける。

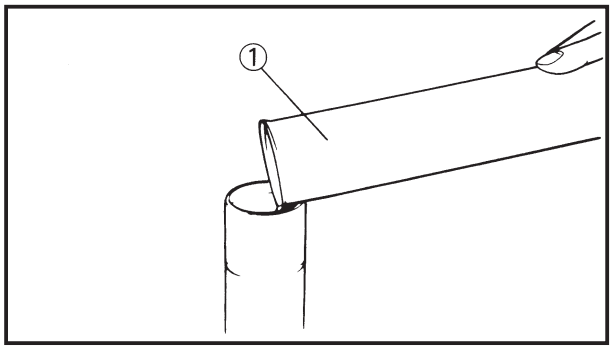


11. 以下の点検をします。
- インナチューブの作動
  作動不良→再度分解点検後、修正または交換



12. 以下の部品を組付けます。
- プッシュロッド①

13. フロントフォークを最圧状態にします。

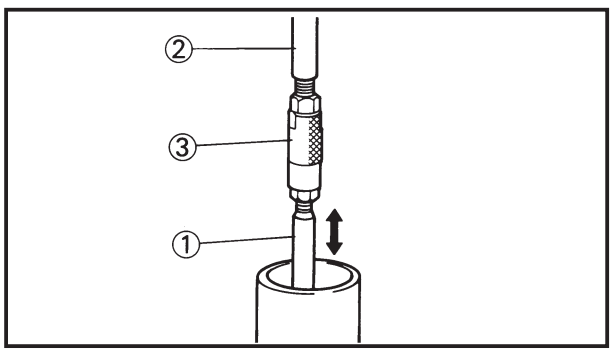


14. サスペンションオイル①をアウタチューブ上端まで注入します。

	ヤマハサスペンションオイル01

⚠注　意

- **サスペンションオイルをアウタチューブ上端まで注入しないと各部へオイルがまわらず正確な油面が得られません。**
- **オイルは指定オイルを必ず使用すること。異なったオイルを使用すると本来の性能を発揮できません。**
- **オイル量は、油面を測定し確認すること。**



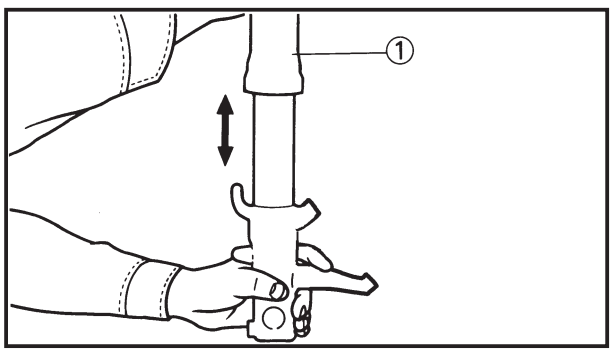
15. 注入後、ダンパロッド①を10回以上ゆっくり上下させ各部にオイルをまわします。

要　　点

ロッドプーラ②とロッドプーラアタッチメント③を使用してダンパロッドを上下させる。

	ロッドプーラ② 90890-01437 ロッドプーラアタッチメント③ 90890-01435

16. シリンダ内に完全にオイルがまわった後、再度サスペンションオイルをアウタチューブ上端まで注入します。

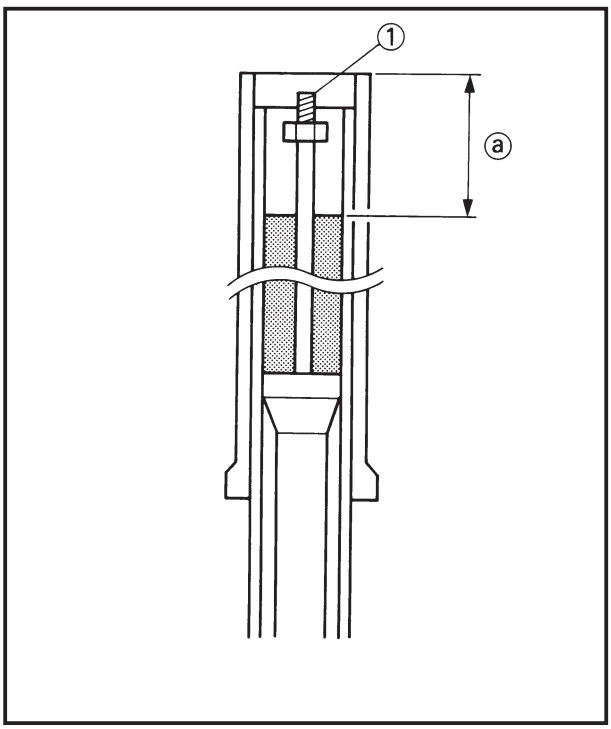


17. 注入後、アウタチューブ①を60㎜以内で上下にゆっくり動かし、オイル中のエアを抜きます。

要　　点

エアが混入するのでアウタチューブを60㎜以上作動させない。

18. 最圧状態のまま気泡が出なくなるまで約10分間放置します。



19. 油面を点検します。
フォークを最圧状態にし、アウタチューブ上端よりの油面ⓐを測定します。

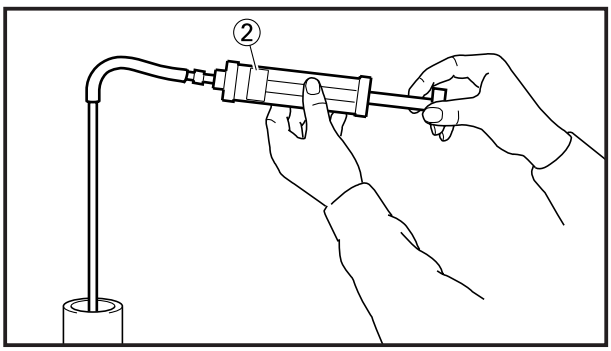
標準油面
135㎜（オイル量0.386L）
油面調整範囲
97～157㎜

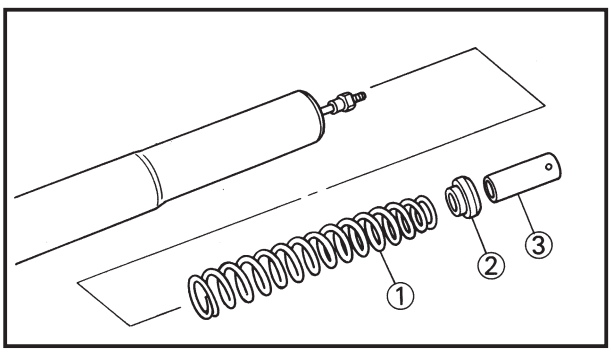
要　点

- ダンパロッド①を沈め、スプリングを取外した状態で油面を測定する。
- 油面の測定はフォークオイルレベルゲージ（ヤマハ推奨品）②を使用して行う。

⚠警　告

調整範囲以外の油面調整は、フォーク性能および特性に不具合を生じることがあるので、調整範囲内で左右同じ油面調整を行うこと。



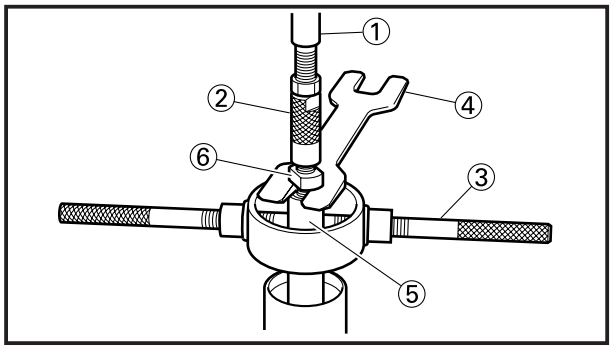


20. 以下の部品を組付けます。

- フロントフォークスプリング①
- スペーサガイド②
- スペーサ③

要　点

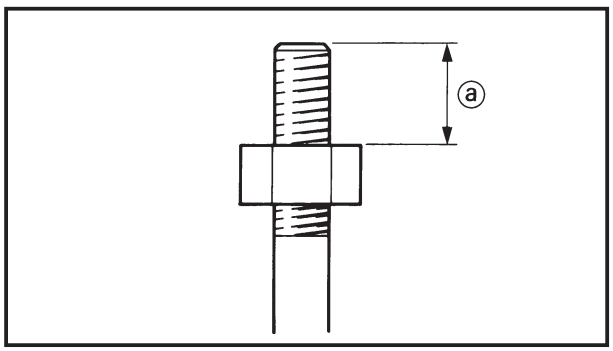
フロントフォークスプリングは径の小さい方をキャップボルト側に向けて組付ける。



21.以下のツールを組付けます。
- ロッドプーラ①
- ロッドプーラアタッチメント②
- フォークスプリングコンプレッサ③
- ロッドホルダ④

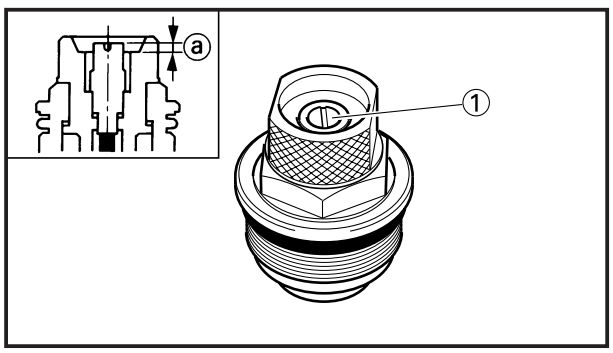
要　　点
- ロッドプーラにアタッチメントを取付け、ダンパロッド上端をネジ込み引き上げる。
- フォークスプリングコンプレッサを使用してスペーサガイド⑤を押し下げ、ロックナット⑥とスペーサガイドの間にロッドホルダを差込む。

ロッドプーラ①
90890-01437
ロッドプーラアタッチメント②
90890-01435
フォークスプリングコンプレッサ③
90890-01441
ロッドホルダ④
90890-01434



22.以下の調整をします。
- ダンパロッド突出し量ⓐ

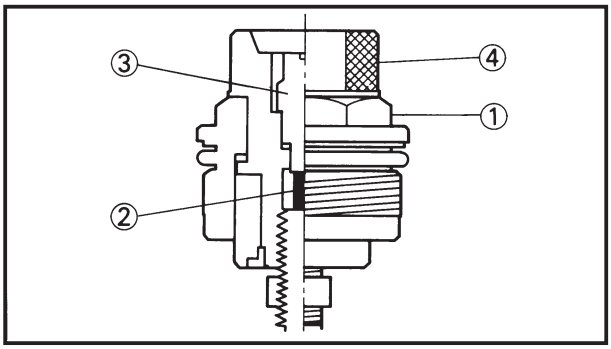
ダンパロッド突出し量
12㎜



23.以下の調整をします。
- 伸び側減衰力アジャスタ出代ⓐ

伸び側減衰力アジャスタ出代
0㎜

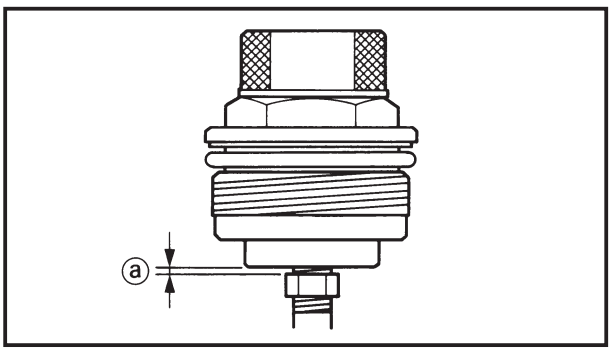
要　　点
- 減衰力アジャスタ①を調整する前にセット位置を記録しておく。
- 減衰力アジャスタを規定の出代に調整しないと組付け後、正確な減衰力が得られない。



24.以下の部品を組付けます。
- キャップボルト①

要　　点

プッシュロッド②先端に伸側アジャスタ③が底付くまでイニシャルアジャスタ④を手でつかみ軽く一杯に締込む。



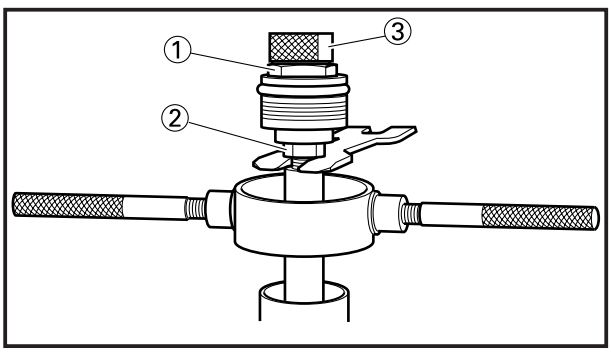
25.以下の点検をします。
- キャップボルトすき間ⓐ

	キャップボルトすき間 0～2㎜

規定値以外→再度分解、点検後組付け

要　　点

規定値以外のすき間で組付けると正確な減衰力が得られない。



26.以下の部品を締付けます。
- キャップボルト（ロックナット）①

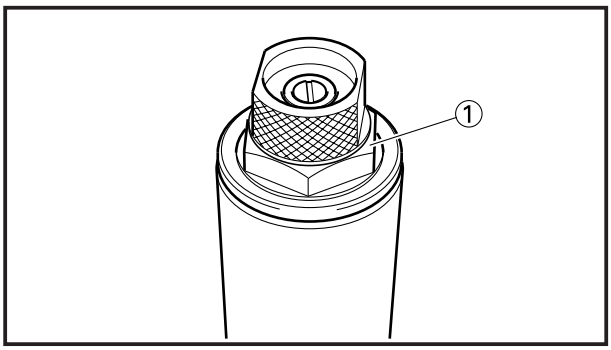
29Nm(2.9kg･m)

要　　点

ダンパロッドのロックナット②を固定し、イニシャルアジャスタ③を回してキャップボルトを締付ける。

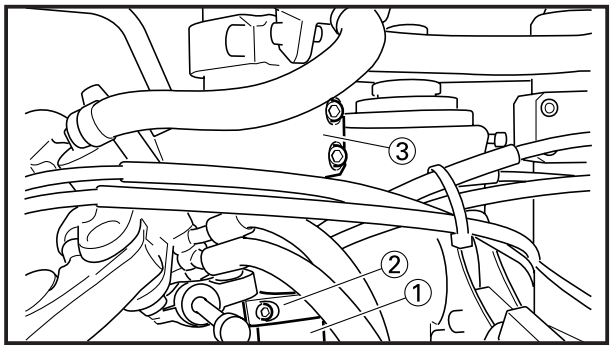
⚠注　意

イニシャルアジャスタ損傷の原因となるのでキャップボルトを回して締付けないこと。



27.以下の部品を仮締付けします。
- キャップボルト①

アウタチューブに組付けます。



JC555293

フロントフォーク組付け

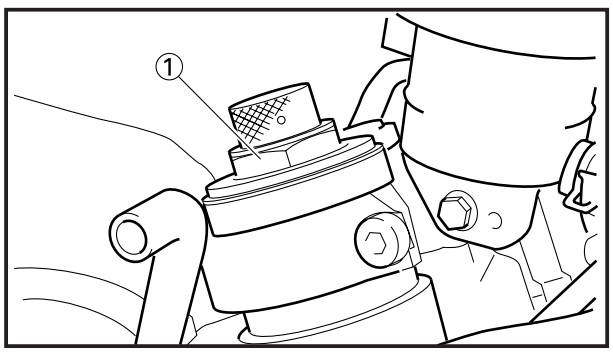
1. 以下の部品を組付けます。
- フロントフォーク①
- ハンドルシミーダンパステー②（右側のみ）
- ハンドル③

要　点

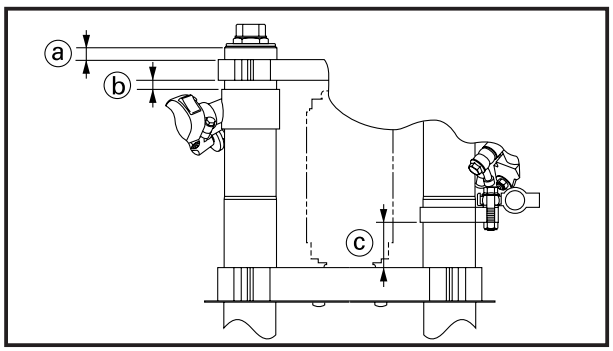
- アンダブラケット締付ボルトを仮締付けする。
- ハンドルクラウン締付ボルト、ハンドルシミーダンパステー締付ボルトおよびハンドル締付ボルトはこの段階ではまだ締付けない。

⚠注　意

アウタチューブ外周面および各部品の接触面の油脂類をシンナー等で拭き取ってから組付けること。



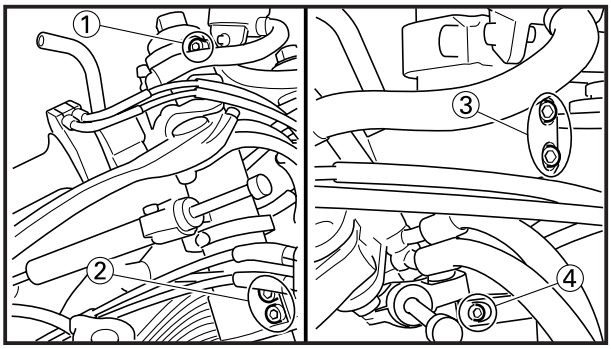
2. 以下の部品を締付けます。
- キャップボルト①　23Nm(2.3kg･m)



3. 以下の調整をします。
- フロントフォーク突出し量ⓐ
- ハンドル高さⓑ
- ハンドルシミーダンパステー高さⓒ（右側のみ）

フロントフォーク標準突出し量
13㎜
ハンドル高さ
9㎜
ハンドルシミーダンパステー高さ
45㎜

第3章―フロントフォーク突出し量調整の項目参照



4. 以下の部品を締付けます。
- ハンドルクラウン締付ボルト①

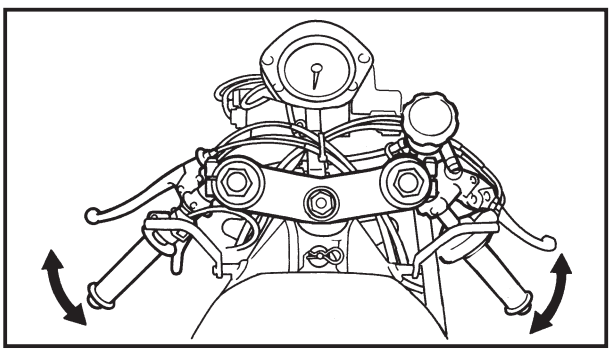
20Nm(2.0kg･m)

- アンダブラケット締付ボルト②

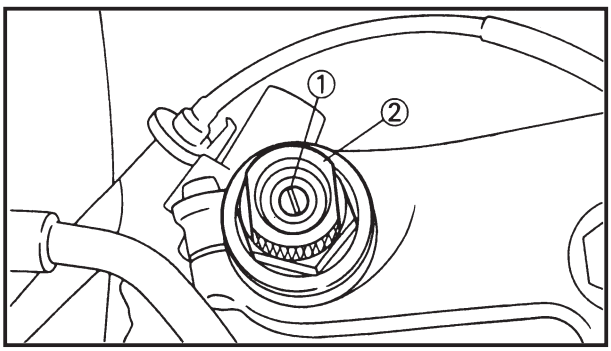
23Nm(2.3kg･m)

- ハンドル締付ボルト③ 7Nm(0.7kg･m)
- ハンドルシミーダンパステー締付ボルト④（右側のみ） 10Nm(1.0kg･m)

第3章―フロントフォーク突出し量調整の項目参照

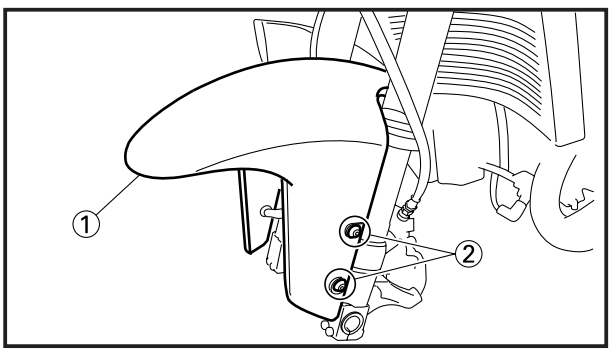


5. 締付け後、ハンドルを左右に切ってワイヤの引っ掛かりがないか、ハンドルおよびハンドルシミーダンパが他部品と当らないか点検します。



6. 以下の調整をします。
- 伸び側減衰力
- イニシャル荷重

要　点
- 減衰力アジャスタ①を軽く一杯に締込んでから、元の段数に戻す。
- イニシャルアジャスタ②を元の段数に締込む。

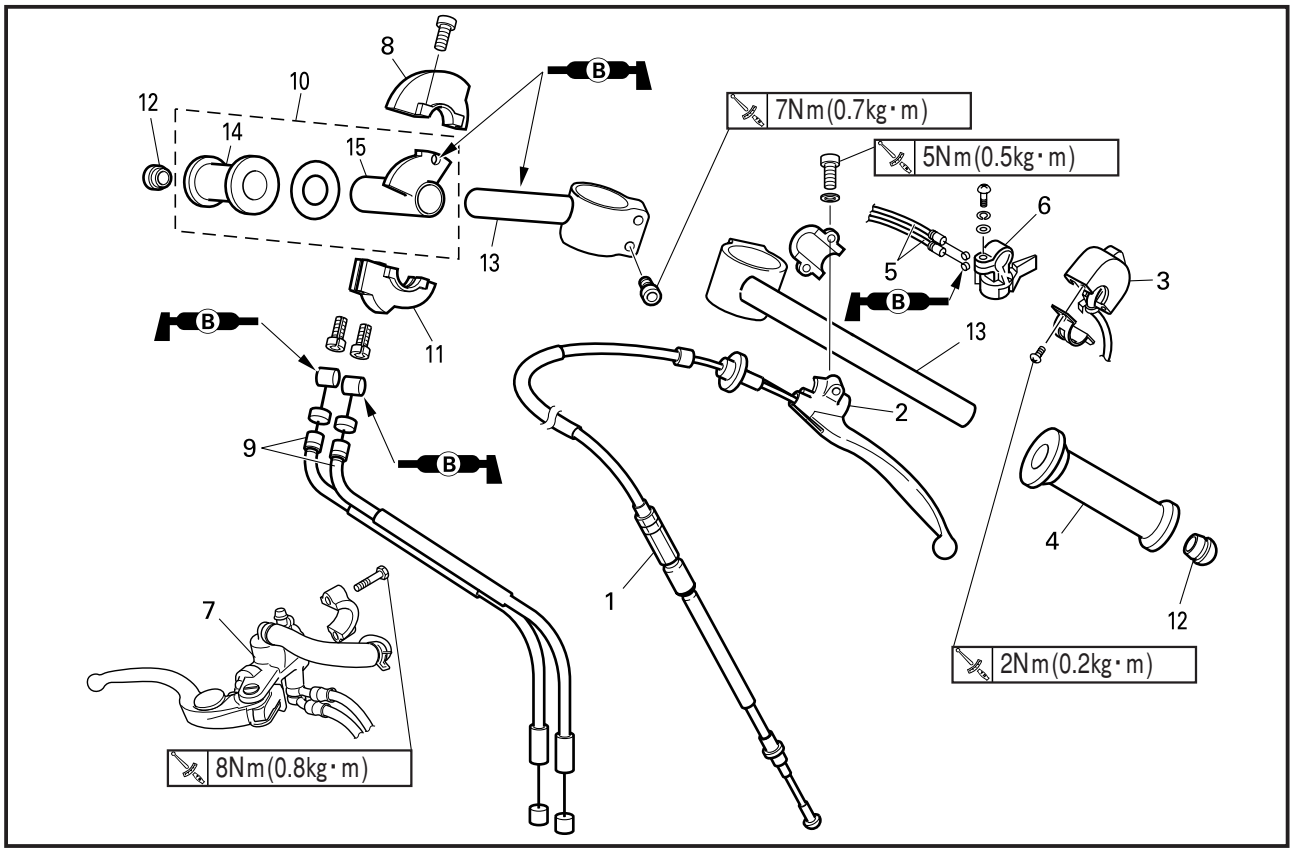


7. 以下の部品を組付けます。
- フロントフェンダ①
- フロントフェンダ取付ボルト②

8Nm(0.8kg･m)

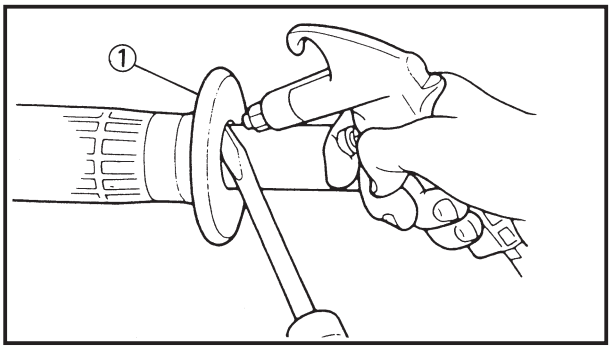
JC5B0000

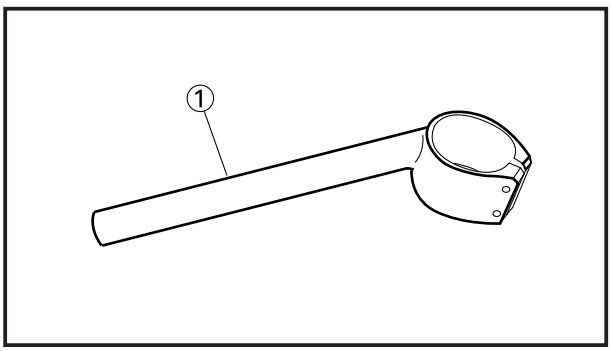
ハンドル

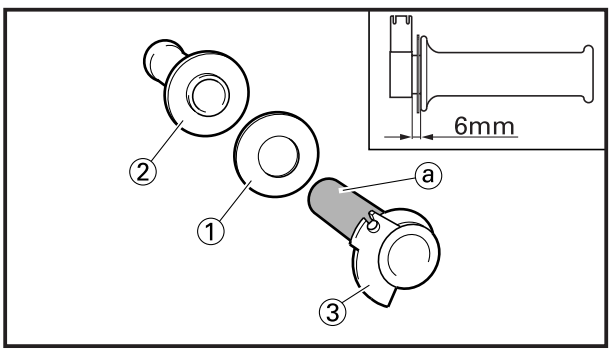


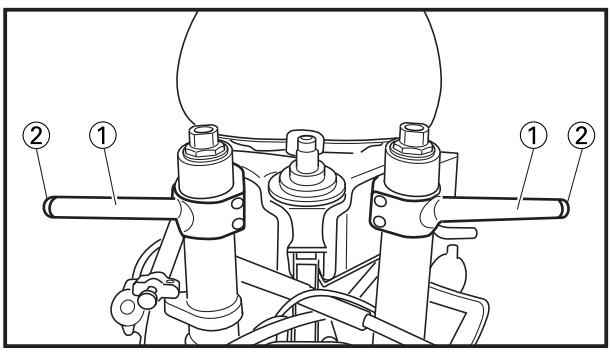
作業範囲　①ハンドル取外し　②スロットルAss'y分解

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**ハンドルの取外し**		
		カウリング		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
		左気筒インダクションダクト		
		右気筒インダクションダクト		
		ハンドルクラウン		ステアリング参照
①	1	クラッチケーブル	1	レバー側で取外す
	2	クラッチレバーホルダ	1	
	3	メインスイッチ	1	
	4	グリップ左	1	取外しのポイント参照
	5	スタータケーブル	2	レバー側で取外す
	6	チョークレバー	1	
	7	マスタシリンダ	1	
	8	グリップキャップアッパ	1	
②	9	スロットルケーブル	2	
	10	スロットルAss'y	1	
	11	グリップキャップロア	1	
	12	グリップエンド	2	
	13	ハンドル	2	
②	14	グリップ右	1	取外しのポイント参照
	15	チューブガイド	1	









JC5B3000
取外しのポイント

JC5B3200
グリップ取外し

1. 以下の部品を取外します。
- グリップ①

要　　点

ハンドル（チューブガイド）との接着面にエアを吹き込み、グリップを浮かせて取外す。

JC5B4000
点検

JC5B4100
ハンドル点検

1. 以下の点検をします。
- ハンドル①

  曲り、ねじれ、損傷、亀裂→交換

⚠警　告

転倒等で曲ったハンドルは、修正しないで新品と交換すること。

JC5B5000
組付け

JC5B5110
スロットルAss'y組立

1. 以下の部品を組付けます。
- リングプレート①
- グリップ右②

  チューブガイド③に接着剤を塗布して組付けます。

要　　点

接着剤を塗布する前に、チューブガイド接着面ⓐの油脂類をシンナー等で拭き取る。

JC5B5231
ハンドル組付け

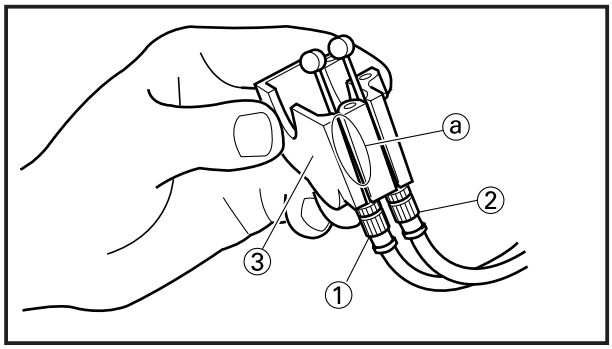
1. 以下の部品を組付けます。
- ハンドル①
- グリップエンド②

要　　点

ハンドル締付ボルトを仮締付けする。

⚠注　意

アウタチューブ外周面および各部品の接触面の油脂類をシンナー等で拭き取ってから組付けること。

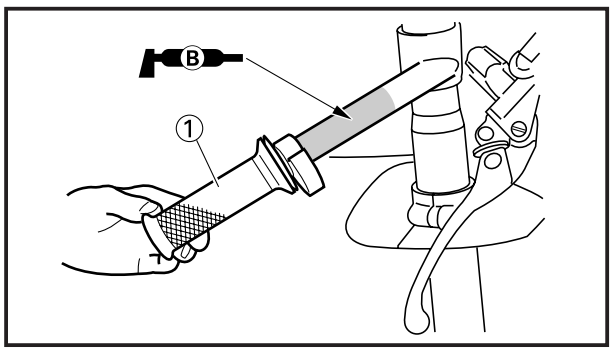


2. 以下の部品を組付けます。
- スロットルケーブル（左気筒キャブレタ）①
- スロットルケーブル（右気筒キャブレタ）②

グリップキャップロア③に組付けます。

要　　点

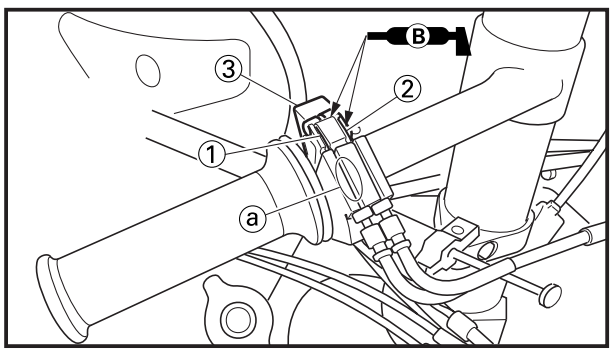
左気筒キャブレタのスロットルケーブルをグリップ側の溝ⓐに組付ける。



3. 以下の部品を組付けます。
- スロットルAss'y①

要　　点

スロットルグリップ摺動面にヤマハグリースBを塗布して組付ける。

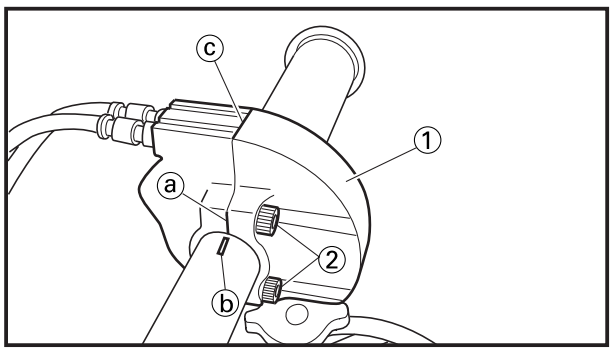


4. 以下の部品を組付けます。
- スロットルケーブル（左気筒キャブレタ）①
- スロットルケーブル（右気筒キャブレタ）②

チューブガイド③に組付けます。

要　　点

- スロットルケーブルエンドおよびチューブガイドケーブル巻取り部にヤマハグリースBを塗布する。
- 左気筒キャブレタのスロットルケーブルをグリップ側の溝ⓐに組付ける。



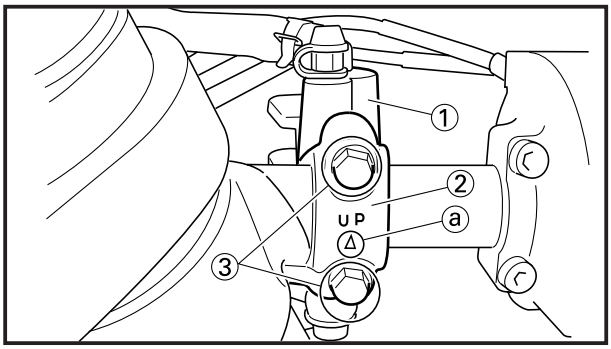
5. 以下の部品を組付けます。
- グリップキャップアッパ①
- グリップキャップ取付ボルト②

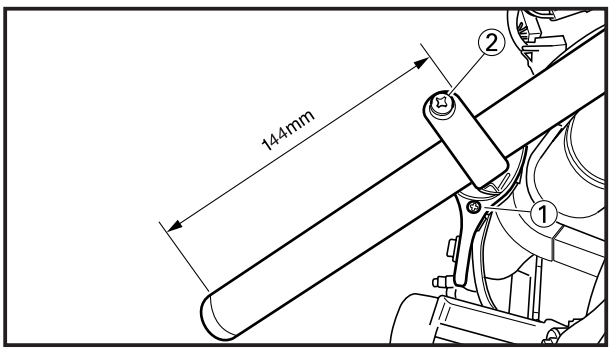
要　　点

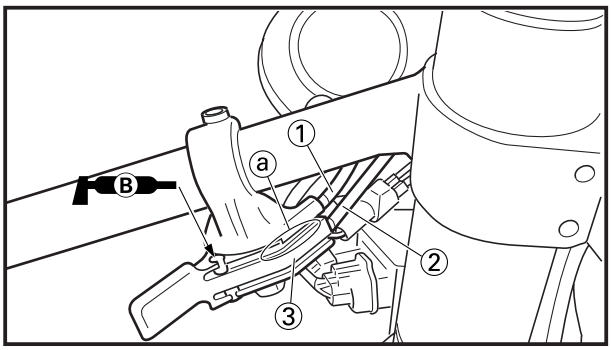
- グリップキャップアッパは合面ⓐをハンドルの合マークⓑに合せて組付ける。
- グリップキャップアッパの締付けは上側ⓒが閉じるように組付ける。

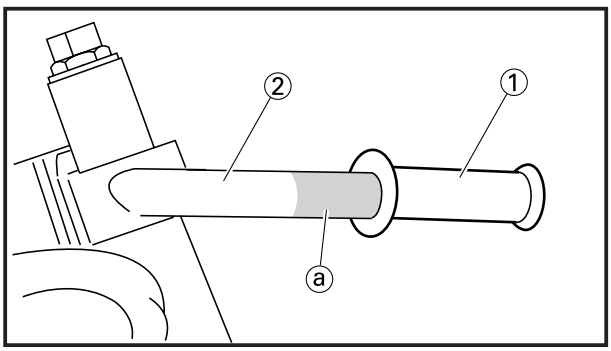
6. 以下の調整をします。
- スロットルケーブル遊び

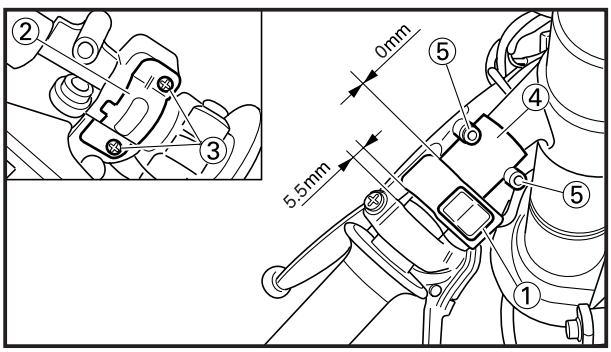
第3章―スロットルケーブル点検、調整の項目参照











7. 以下の部品を組付けます。
- マスタシリンダ①
- マスタシリンダブラケット②
- マスタシリンダブラケット取付ボルト③

8Nm(0.8kg・m)

要　点

マスタシリンダブラケットの△マークⓐを上に向け組付ける。

8. 以下の部品を組付けます。
- チョークレバー①
- チョークレバー取付スクリュ②

要　点

チョークレバーは図の寸法になるように組付ける。

9. 以下の部品を組付けます。
- スタータケーブル（左気筒キャブレタ）①
- スタータケーブル（右気筒キャブレタ）②

チョークレバー③に組付けます。

要　点
- スタータケーブルエンドにヤマハグリースBを塗布して組付ける。
- 左気筒キャブレタのスタータケーブルを上側の溝ⓐに組付ける。

10. 以下の部品を組付けます。
- グリップ左①

ハンドル②に接着剤を塗布して組付けます。

要　点

接着剤を塗布する前に、ハンドル接着面ⓐの油脂類をシンナー等で拭き取る。

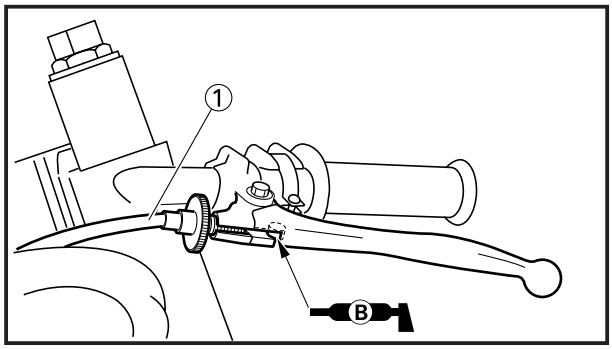
11. 以下の部品を組付けます。
- メインスイッチ①
- メインスイッチホルダ②
- メインスイッチホルダ取付スクリュ③

2Nm(0.2kg・m)
- クラッチレバーホルダ④
- クラッチレバーホルダ取付ボルト⑤

5Nm(0.5kg・m)

要　点

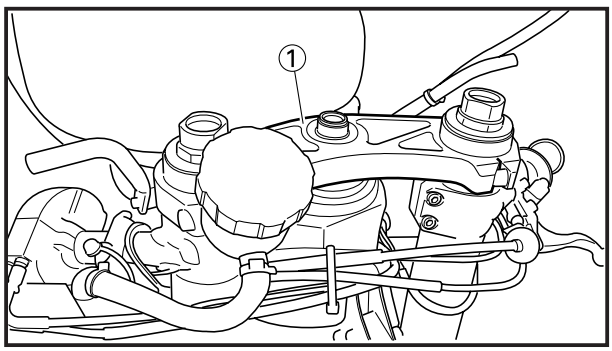
メインスイッチおよびクラッチレバーホルダは図の寸法になるように組付ける。



12.以下の部品を組付けます。
- クラッチケーブル①

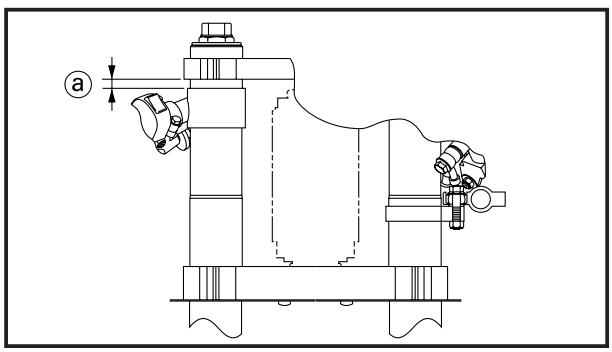
要　点

クラッチケーブルエンドにヤマハグリースBを塗布して組付ける。



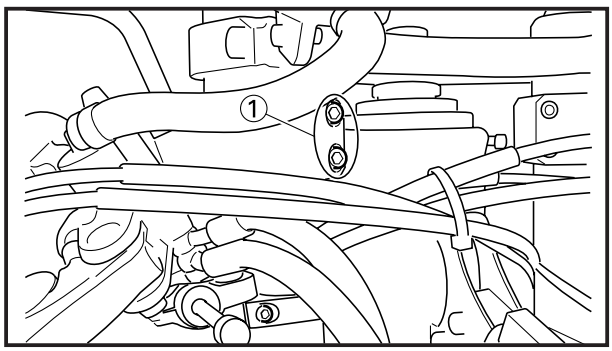
13.以下の部品を組付けます。
- ハンドルクラウン①

  ステアリングの項目参照



14.以下の調整をします。
- ハンドル高さⓐ

	ハンドル高さ 9㎜



15.以下の部品を締付けます。
- ハンドル締付ボルト①　7Nm(0.7kg･m)

⚠注　意

必ず締付トルクを守ること。規定トルクを超えて締付けるとフロントフォークの作動不良の原因となる。

16.以下の調整をします。
- クラッチレバー遊び

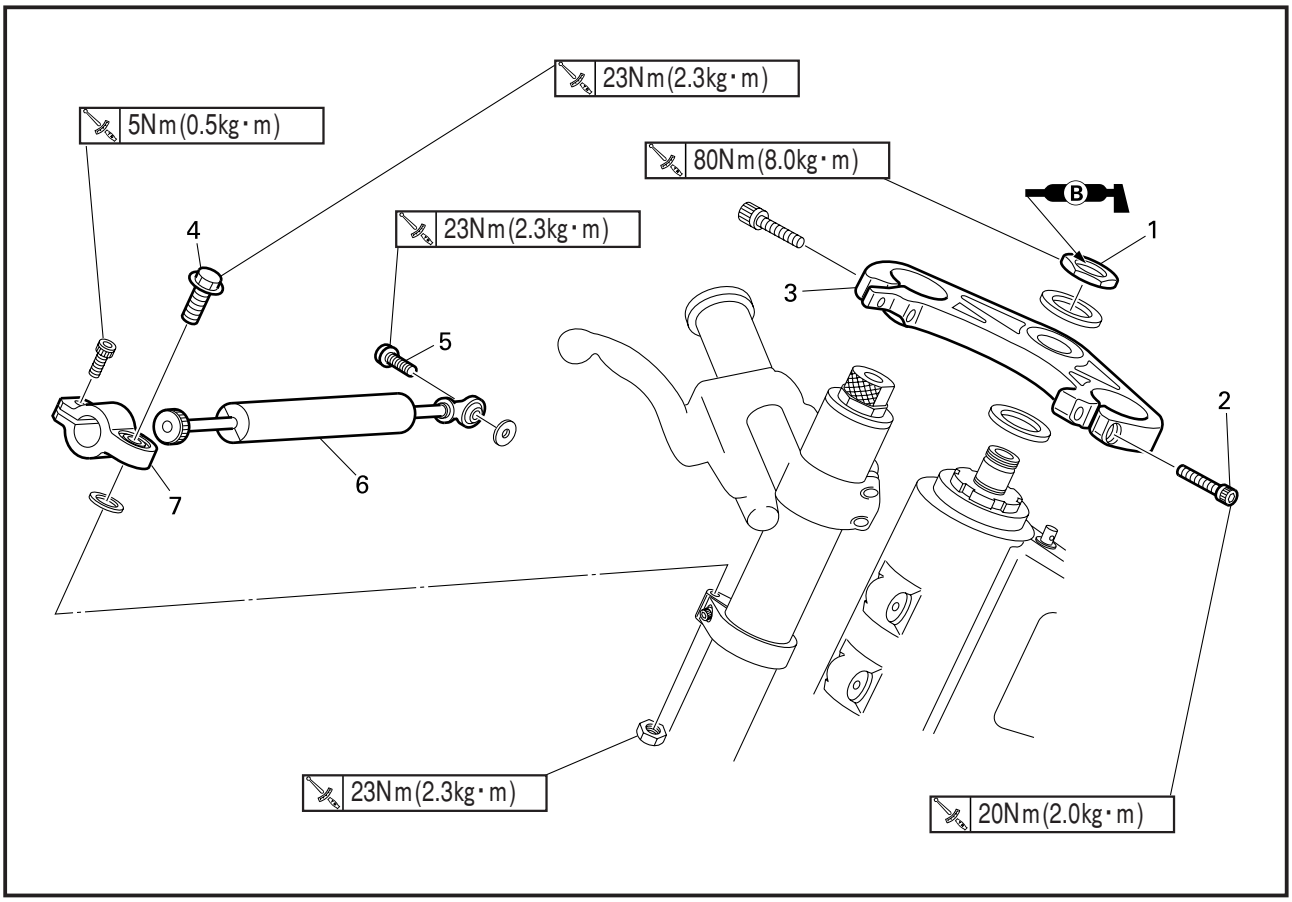
  第3章―クラッチ点検、調整の項目参照

17.以下の部品にからげ線を行います。
- スロットルケーブル
- スタータケーブル

  第3章―からげ線の項目参照

JC560000
ステアリング

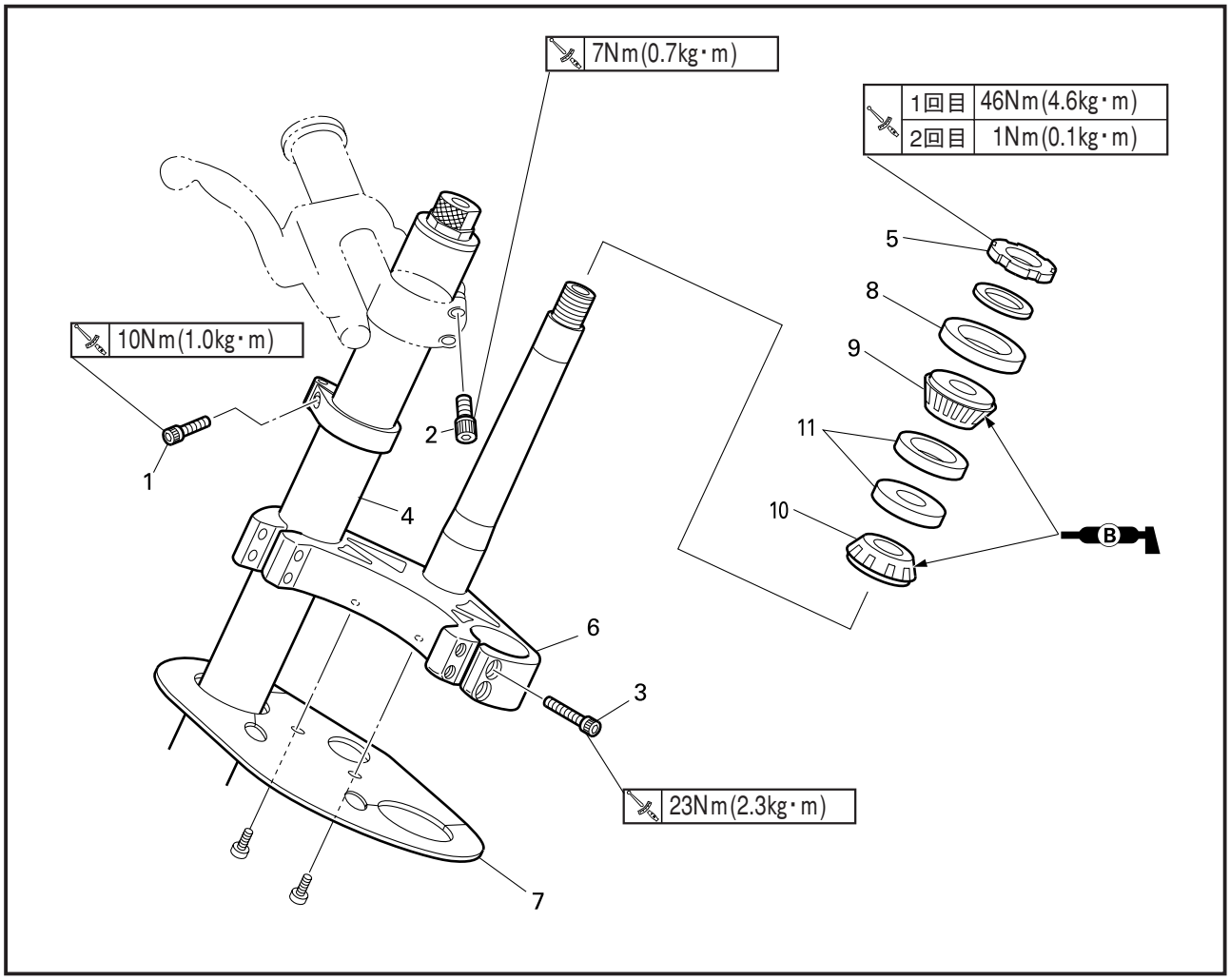
JC568000
ハンドルクラウン、ハンドルシミーダンパ



作業範囲　①ハンドルクラウン取外し　②ハンドルシミーダンパ取外し

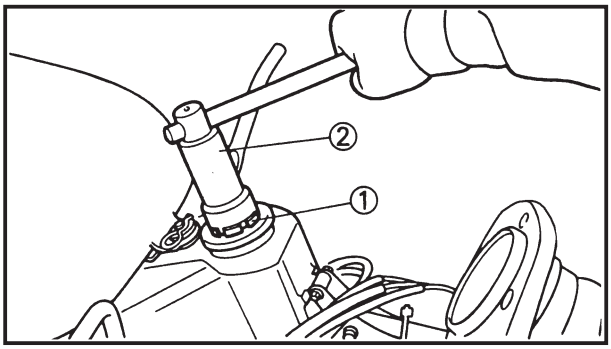
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		ハンドルクラウン、		
		ハンドルシミーダンパの取外し		
関連作業		スタンドを使用して車を支える		
		カウリング		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
		左気筒インダクションダクト		
		右気筒インダクションダクト		
		フロントブレーキリザーバタンク取付ボルト		
		フロントキャリパ		フロントブレーキ、リヤブレーキ参照
		フロントホイール		フロントホイール、リヤホイール参照
		フロントフェンダ		
①	1	ステアリングナット	1	
①	2	ハンドルクラウン締付ボルト	2	ゆるめる
①	3	ハンドルクラウン	1	
②	4	ハンドルシミーダンパ前側取付ボルト	1	
②	5	ハンドルシミーダンパ後側取付ボルト	1	
②	6	ハンドルシミーダンパ	1	
②	7	ハンドルシミーダンパブラケット	1	

JC568100
アンダブラケット



作業範囲　①アンダブラケット取外し　②ベアリング取外し

作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		アンダブラケットの取外し		
① ②	1	ハンドルシミーダンパステー締付ボルト	1	ゆるめる
	2	ハンドル締付ボルト	4	ゆるめる
	3	アンダブラケット締付ボルト	4	ゆるめる
	4	フロントフォーク	2	フロントフォーク参照
	5	リングナット	1	特殊工具使用。取外しのポイント参照
	6	アンダブラケット	1	
	7	インナフェンダ	1	
	8	ボールレースカバー	1	
	9	アッパベアリング	1	
	10	ロアベアリング	1	取外しのポイント参照
	11	ボールレース	2	取外しのポイント参照



JC563000
取外しのポイント

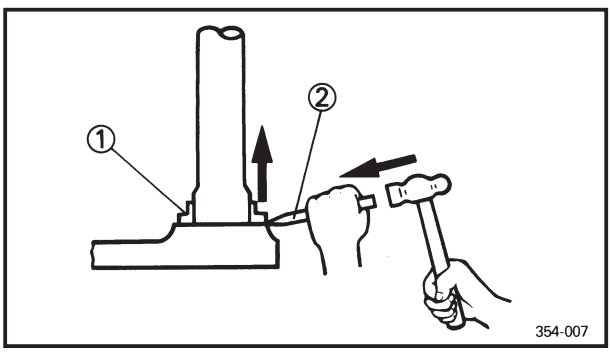
JC563222
リングナット取外し

1. 以下の部品を取外します。
- リングナット①
  ステアリングナットホルダ②を使用して取外します。

要　点

リングナットを取外す時、アンダブラケットを手で支えて取外す。

	ステアリングナットホルダ 90890-01385

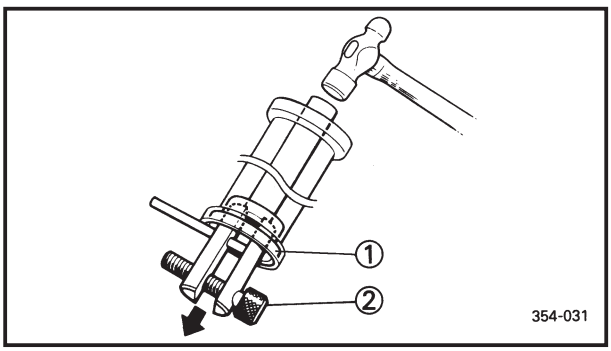


JC563300
ロアベアリング取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ロアベアリング①
  たがね②を使用して取外します。

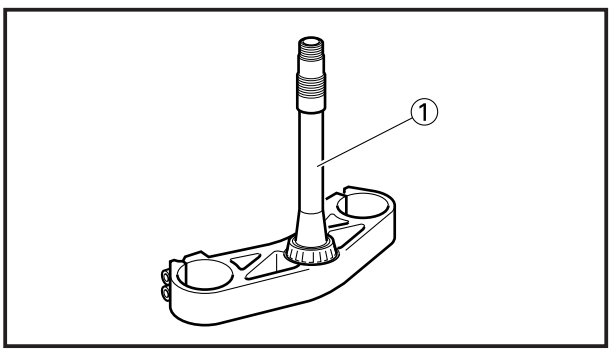
⚠注　意

ステアリングシャフトネジ部に損傷を与えないように注意して作業すること。



JC563400
ボールレース取外し

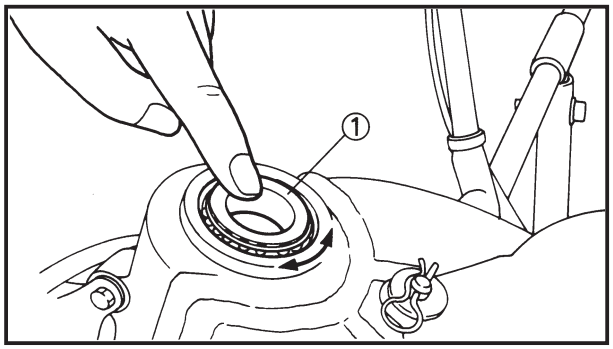
1. 以下の部品を取外します。
- ボールレース①
  ボールレース取外し工具（ヤマハ推奨品②）を使用して取外します。



JC564000
点検

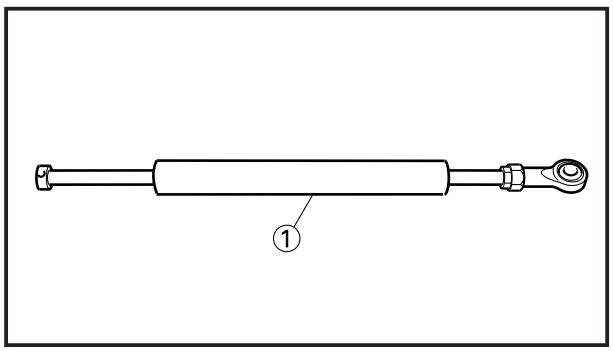
JC564200
ステアリングシャフト点検

1. 以下の点検をします。
- ステアリングシャフト①
  曲り→交換



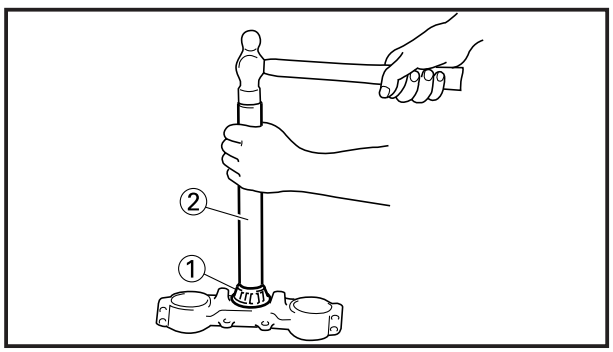
JC564103
ベアリング、ボールレース点検

1. 以下の点検をします。
- ベアリング①
  スムーズに回転しない、がた、異音→交換
- ボールレース
  ベアリング転送面の損傷、摩耗、錆、条痕の有無を点検する。
  損傷、摩耗、錆、条痕→交換



JC564301
ハンドルシミーダンパ点検

1. 以下の点検をします。
- ハンドルシミーダンパ①
  ロッドに曲り、損傷→交換
  オイル漏れ、作動不良→交換



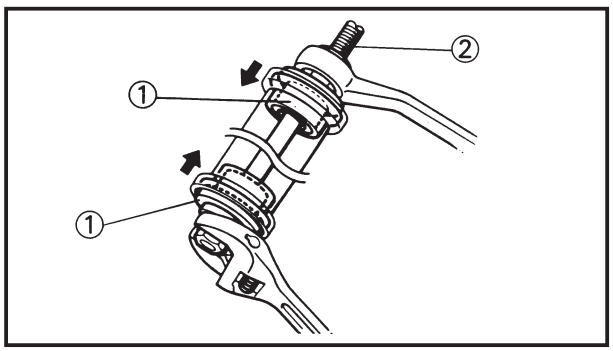
JC565000
組付け

JC565194
アンダブラケット組付け

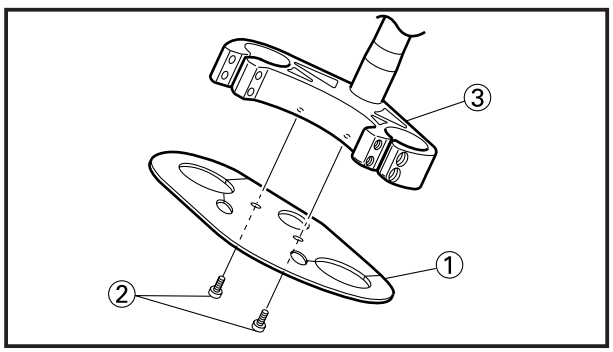
1. 以下の部品を組付けます。
- ロアベアリング①
  ロアベアリング組付け工具（ヤマハ推奨品②）を使用して組付けます。

要　点

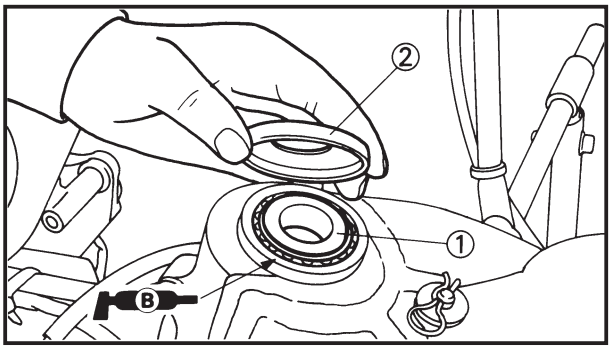
ダストシールリップ部およびインナレース内周面にヤマハグリースBを塗布して組付ける。



2. 以下の部品を組付けます。
- ボールレース①
  ボールレース組付け工具（ヤマハ推奨品②）を使用して組付けます。



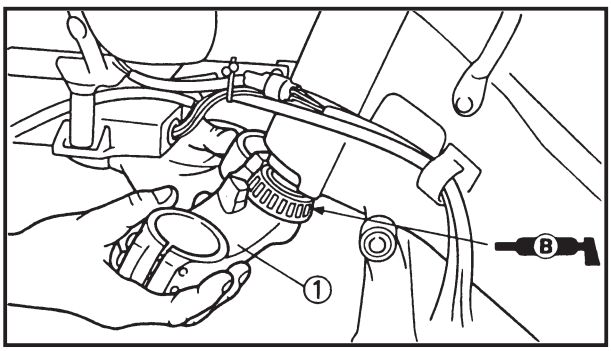
3. 以下の部品を組付けます。
- インナフェンダ①
- インナフェンダ 取付スクリュ②
  アンダブラケット③に組付けます。



4. 以下の部品を組付けます。
- ベアリング①
- ボールレースカバー②

要　　点

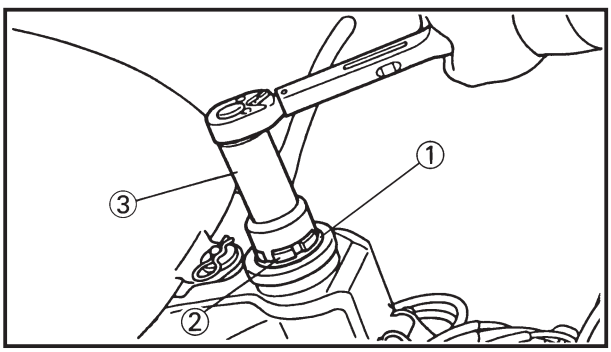
ベアリングにヤマハグリースBを塗布して組付ける。



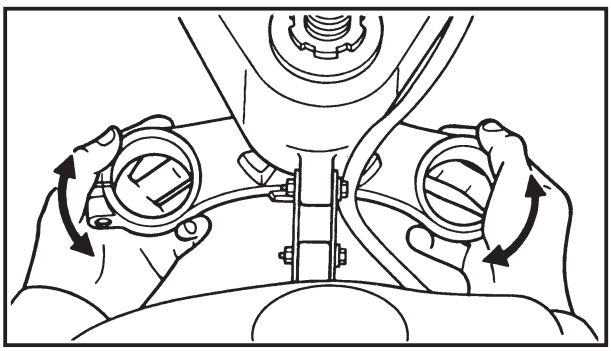
5. 以下の部品を組付けます。
- アンダブラケット①

要　　点

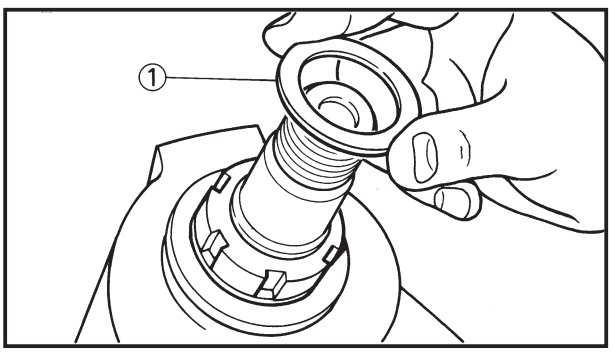
ベアリングにヤマハグリースBを塗布して組付ける。



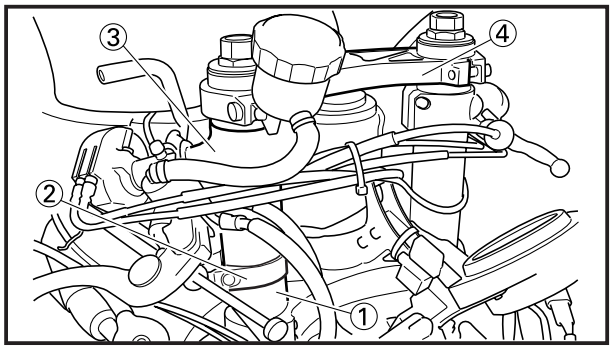
6. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- リングナット② 1Nm(0.1kg・m)
  ステアリングナットホルダ③を使用して締付けます。
  第3章―ハンドル、ステアリング点検、調整の項目参照



7. 以下の点検をします。
- アンダブラケットの作動
  がた、スムーズに作動しない→リングナットをゆるめて再調整



8. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①

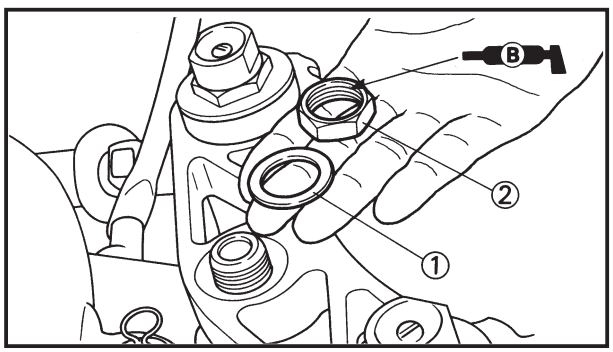


9. 以下の部品を組付けます。
- フロントフォーク①
- ハンドルシミーダンパステー②（右側のみ）
- ハンドル③
- ハンドルクラウン④

要　点
- アンダブラケット締付ボルトを仮締付けする。
- ハンドルクラウン締付ボルト、ハンドルシミーダンパステー締付ボルトおよびハンドル締付ボルトはこの段階ではまだ締付けない。

⚠注　意

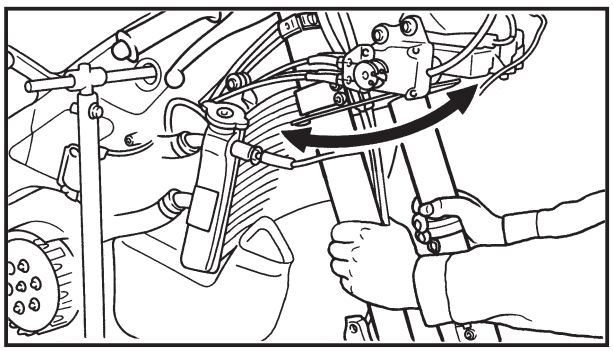
アウタチューブ外周面および各部品の接触面の油脂類をシンナー等で拭き取ってから組付けること。



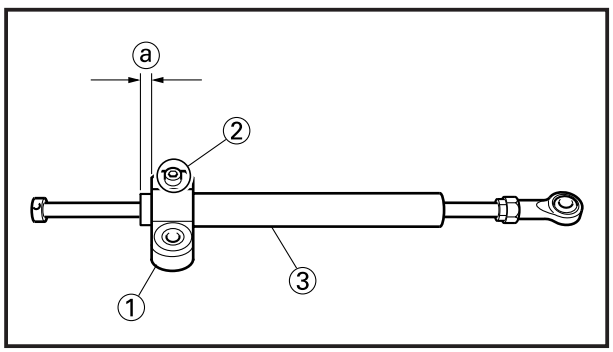
10. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- ステアリングナット② 80Nm(8.0kg･m)

要　点

ステアリングナットのネジ部にヤマハグリースBを塗布して組付ける。



11. 以下の点検をします。
- ステアリング作動
  がた、スムーズに作動しない→リングナットをゆるめて再調整



12. 以下の部品を組付けます。
- ハンドルシミーダンパブラケット①
- ハンドルシミーダンパブラケット締付ボルト② 5Nm(0.5kg･m)

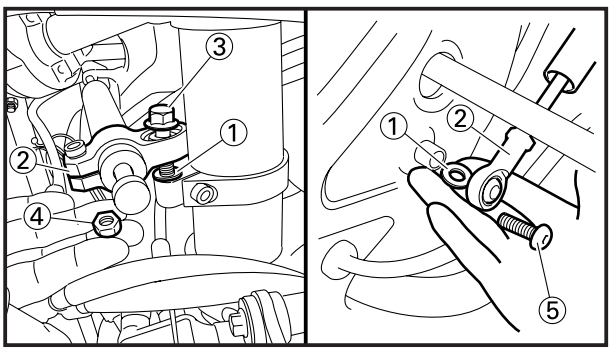
  ハンドルシミーダンパ③に組付けます。

要　点

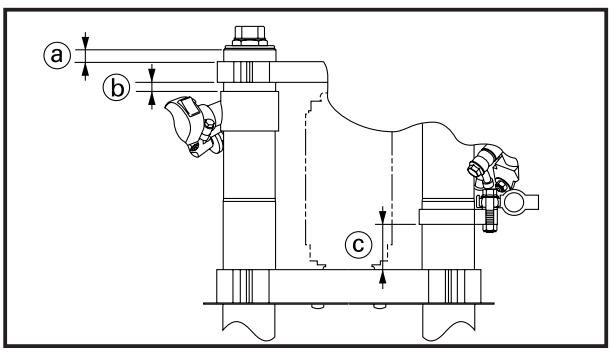
ハンドルシミーダンパブラケットの端面からの寸法ⓐが9㎜になるように締付ける。

⚠注 意

ハンドルシミーダンパブラケットの締付けは特に注意して規定のトルクで締付けること。規定トルクを超えて締付けるとハンドルシミーダンパの作動不良の原因となる。



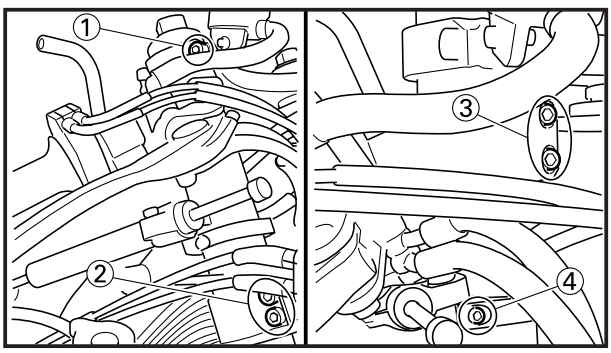
13. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- ハンドルシミーダンパ②
- ハンドルシミーダンパ前側取付ボルト③ 23Nm(2.3kg・m)
- ハンドルシミーダンパ前側取付ナット④ 23Nm(2.3kg・m)
- ハンドルシミーダンパ後側取付ボルト⑤ 23Nm(2.3kg・m)



14. 以下の調整をします。
- フロントフォーク突出し量ⓐ
- ハンドル高さⓑ
- ハンドルシミーダンパステー高さⓒ（右側のみ）

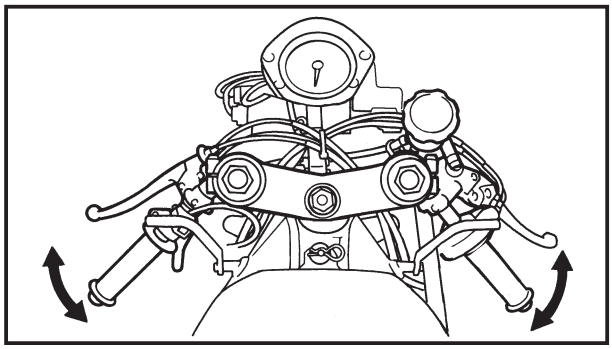
フロントフォーク標準突出し量
13㎜
ハンドル高さ
9㎜
ハンドルシミーダンパステー高さ
45㎜

第3章―フロントフォーク突出し量調整の項目参照



15. 以下の部品を締付けます。
- ハンドルクラウン締付ボルト① 20Nm(2.0kg・m)
- アンダブラケット締付ボルト② 23Nm(2.3kg・m)
- ハンドル締付ボルト③ 7Nm(0.7kg・m)
- ハンドルシミーダンパステー締付ボルト④（右側のみ） 10Nm(1.0kg・m)

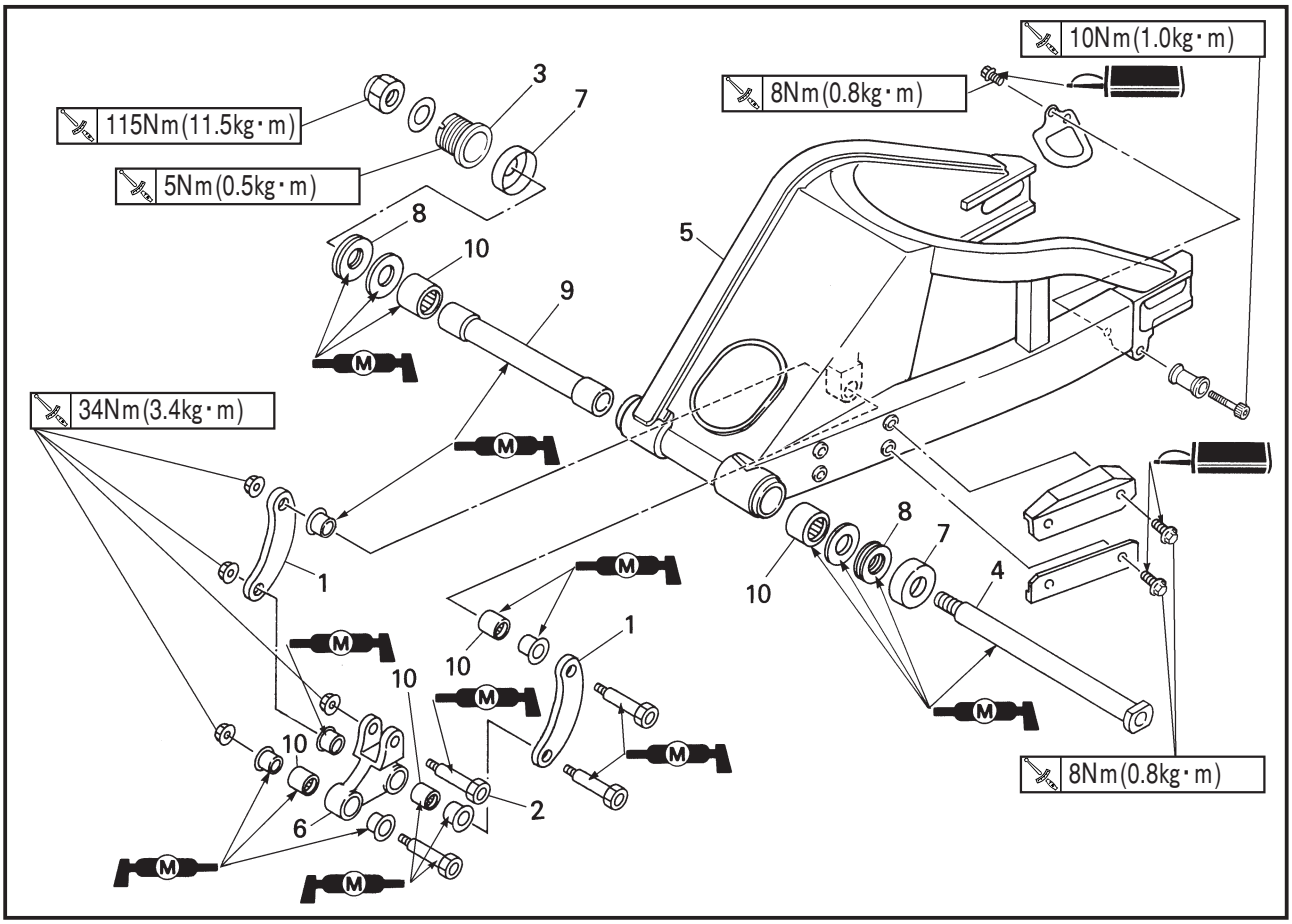
第3章―フロントフォーク突出し量調整の項目参照



16. 締付け後、ハンドルを左右に切ってワイヤの引っ掛かりがないか、ハンドルおよびハンドルシミーダンパが他部品と当らないか点検します。

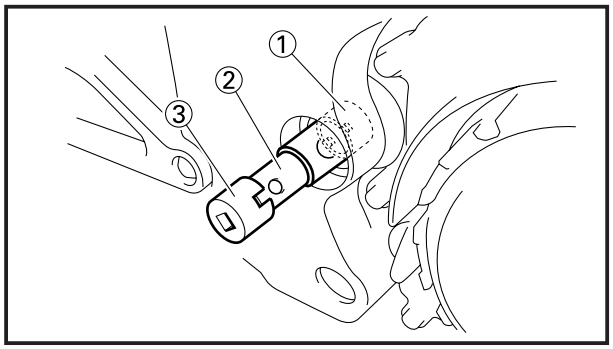
JC570000

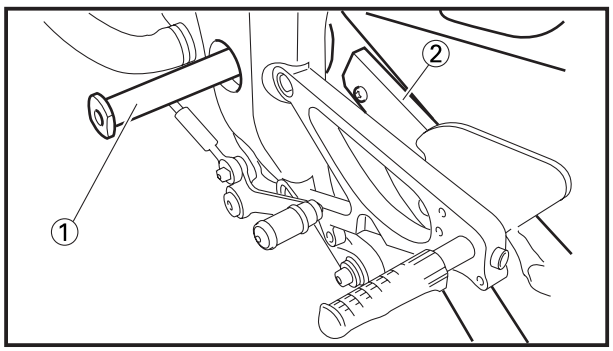
リヤアーム

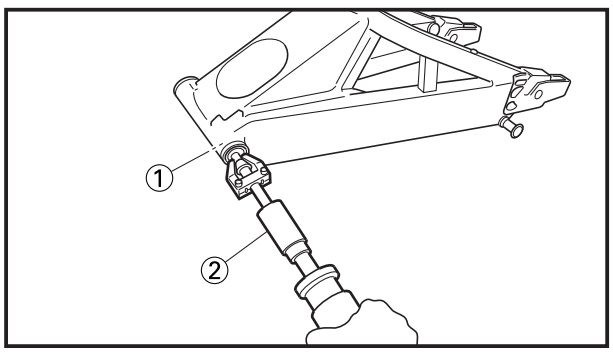


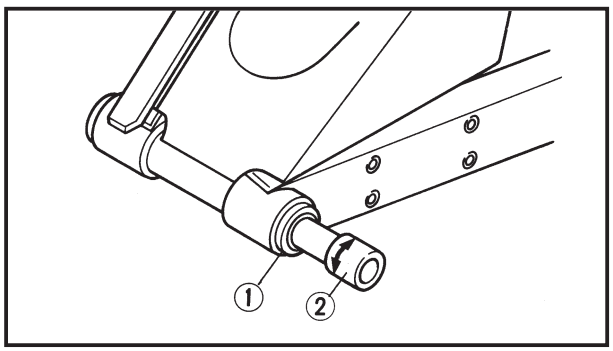
作業範囲　①リヤアーム取外し　②リヤアーム分解

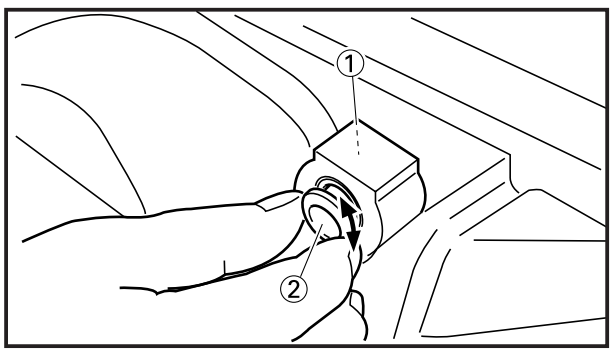
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
		リヤアームの取外し		
関連作業		スタンドを使用して車を支える		
		アンダカウリング、フュエルタンク		カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照
		マフラ		マフラ、サイレンサ参照
		ブレーキホースホルダ		フロントブレーキ、リヤブレーキ参照
		ドライブチェン		
		リヤホイール		フロントホイール、リヤホイール参照
①	1	コネクティングロッド	2	リヤアームを支えて取外す
①	2	リヤクッション下側取付ボルト	1	
①	3	ピボットアジャストボルト	1	特殊工具使用。取外しのポイント参照
①	4	ピボットシャフト	1	特殊工具使用。取外しのポイント参照
①	5	リヤアーム	1	特殊工具使用。取外しのポイント参照
②	6	リレーアーム	1	
②	7	カバー	2	
②	8	スラストベアリング	2	
②	9	ブッシュ	1	
②	10	ベアリング	5	取外しのポイント参照











JC573000
取外しのポイント

JC573153
リヤアーム取外し

1. 以下の部品をゆるめます。
- ピボットアジャストボルト①

要　　点

ピボットシャフトレンチ②、ピボットシャフトレンチアダプタ③を使用してピボットアジャストボルトをゆるめる。

ピボットシャフトレンチ
90890-01455
ピボットシャフトレンチアダプタ
90890-01476

2. 以下の部品を取外します。
- ピボットシャフト①
- リヤアーム②

JC573210
ベアリング取外し

1. 以下の部品を取外します。
- ベアリング①

  ベアリングプーラ（ヤマハ推奨品）②を使用して取外します。

JC574011
点検

ベアリング、 ブッシュ、 カラーとカバーを洗油で洗います。

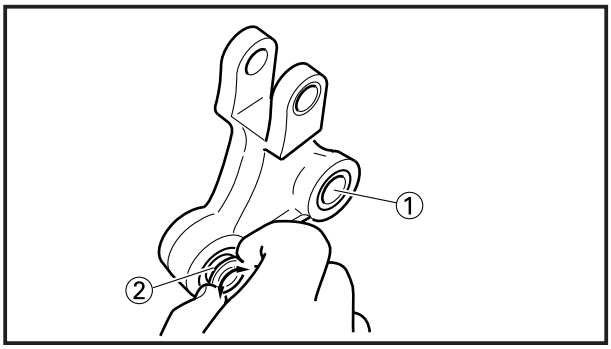
JC574130
リヤアーム点検

1. 以下の点検をします。
- ベアリング①
- ブッシュ②

  がた、回転不良、錆→ベアリングとブッシュをセットで交換

2. 以下の点検をします。
- ベアリング①
- カラー②

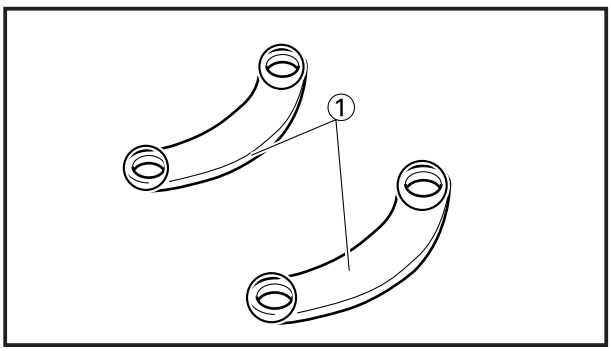
  がた、回転不良、錆→ベアリングとカラーをセットで交換



JC574221
リレーアーム点検

1. 以下の点検をします。
- ベアリング①
- カラー②

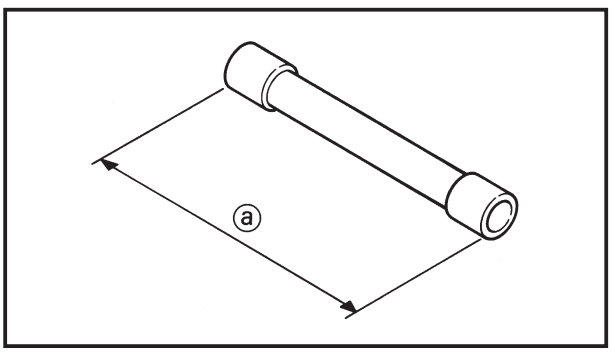
  がた、回転不良、錆→ベアリングとカラーをセットで交換



JC574321
コネクティングロッド点検

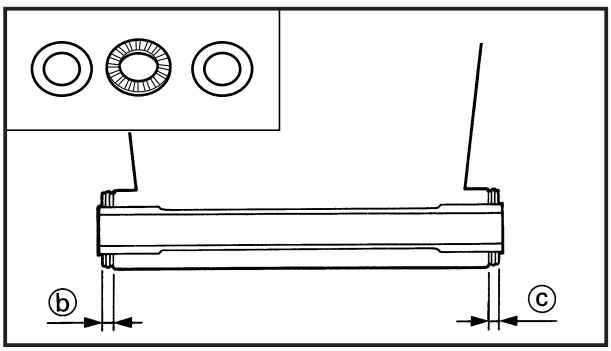
1. 以下の点検をします。
- コネクティングロッド①

  摩耗、損傷→交換

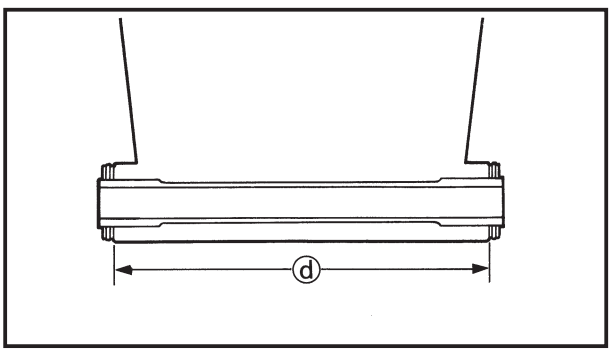


JC574521
サイドクリアランス点検

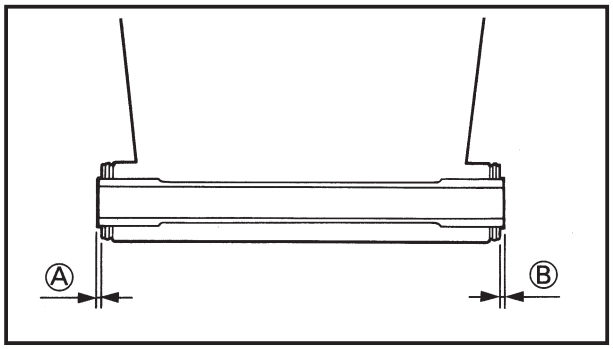
1. 以下の測定をします。
- ブッシュ長さⓐ

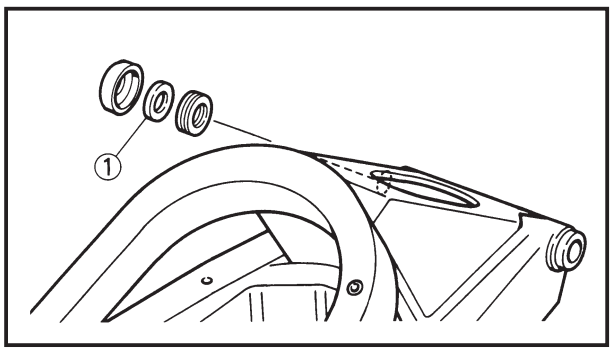


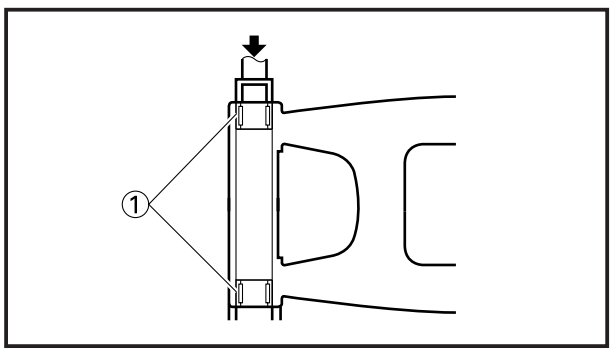
2. 以下の測定をします。
- スラストベアリング右厚さⓑ
- スラストベアリング左厚さⓒ

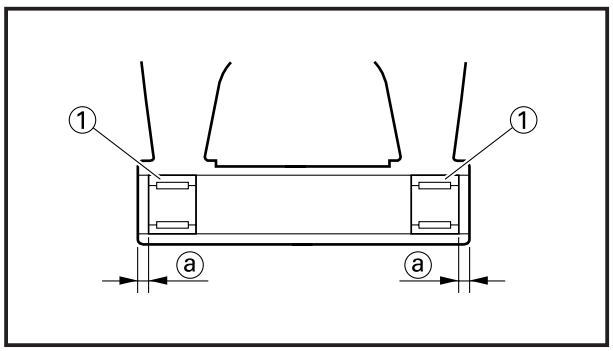


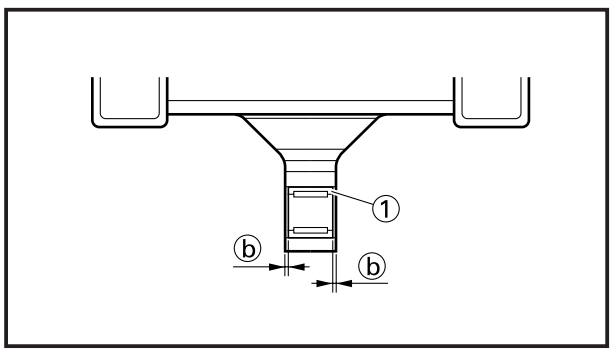
3. 以下の測定をします。
- リヤアームヘッドパイプ総幅ⓓ











4. 以下の計算をします。

● サイドクリアランス（Ⓐ+Ⓑ）

サイドクリアランス（Ⓐ+Ⓑ）
＝ⓐ －（ⓑ+ⓒ+ⓓ）

標準サイドクリアランス
0.05～0.35㎜

規定値以外→調整

5. 以下の調整をします。

● サイドクリアランス（Ⓐ+Ⓑ）

サイドクリアランス点検結果によりA、Bに調整用シム①を入れ、サイドクリアランスが0.05～0.35㎜以内になるように調整します。

要　点

● 調整用シムの厚さは0.2㎜の一種類です。
● 調整用シムが2枚の場合は左右に1枚ずつ入れる。
● 調整用シムが1枚の場合は左側に入れる。

JC575000
組付け

JC575300
ベアリング組付け

1. 以下の部品を組付けます。

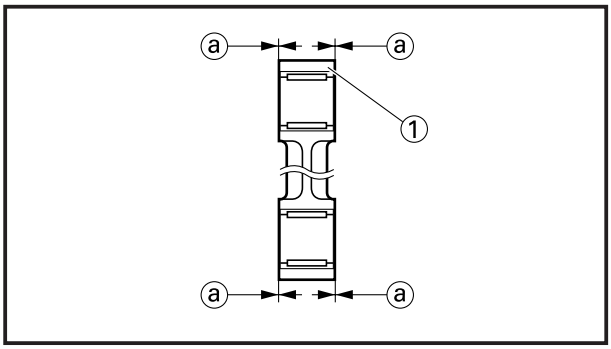
● ベアリング①

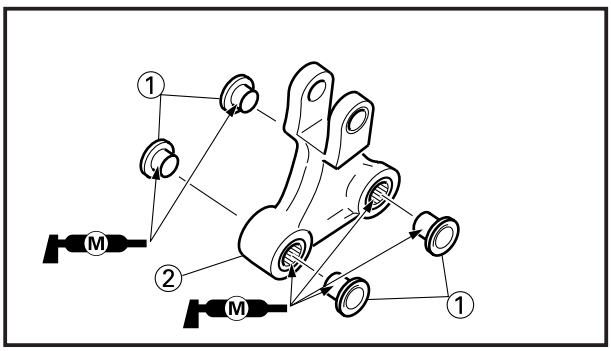
リヤアームに組付けます。

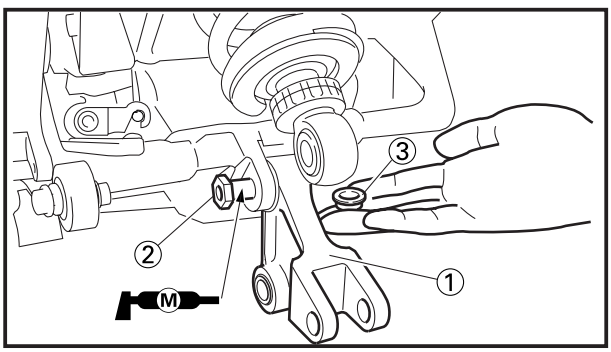
要　点

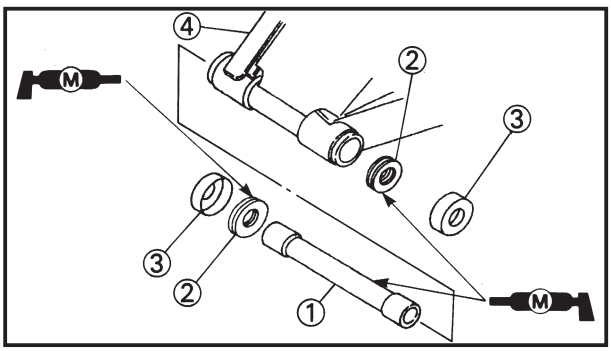
ベアリングにヤマハグリースBを十分に塗布して、メーカー印、サイズ記号面を押して圧入する。

ベアリング圧入深さ
ヘッドパイプ部ⓐ：1㎜
コネクティングロッド取付部ⓑ：0.5㎜









2. 以下の部品を組付けます。
- ベアリング①

  リレーアームに組付けます。

要　　点

ベアリングにヤマハグリースBを十分に塗布して、メーカー印、サイズ記号面を押して圧入する。

	ベアリング圧入深さⓐ 0mm

JC575147

リヤアーム組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- カラー①

  リレーアーム②に組付けます。

要　　点

カラー外周面、ベアリングにヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して組付ける。

2. 以下の部品を組付けます。
- リレーアーム①
- リレーアーム取付ボルト②
- リレーアーム取付ナット③

34Nm(3.4kg・m)

要　　点

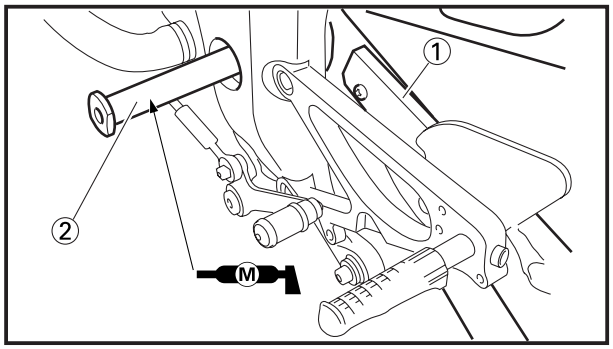
取付ボルト外周面にヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して組付ける。

3. 以下の部品を組付けます。
- ブッシュ①
- ベアリング②
- カバー③

  リヤアーム④に組付けます。

要　　点

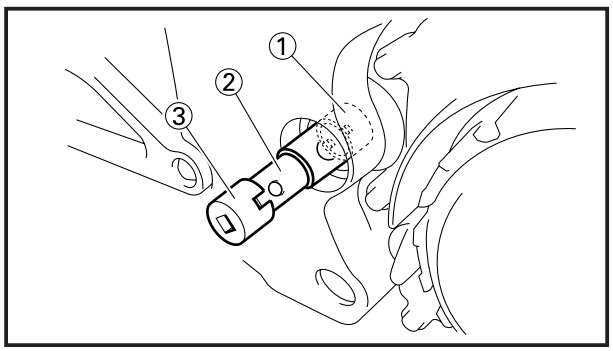
ブッシュ外周面、ベアリングにヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して組付ける。



4. 以下の部品を組付けます。
- リヤアーム①
- ピボットシャフト②

要　点

ピボットシャフト外周面にヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して車体左側より組付ける。

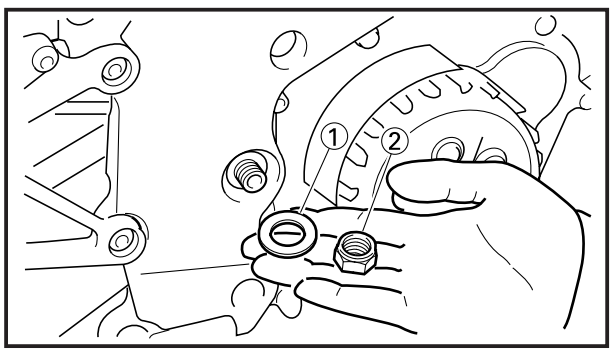


5. 以下の部品を締付けます。
- ピボットアジャストボルト①

5Nm(0.5kg・m)

要　点

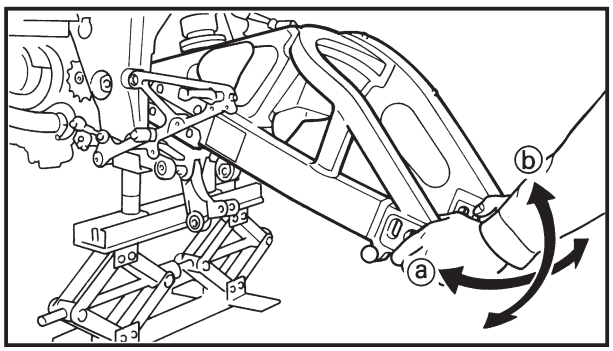
ピボットシャフトレンチ②、ピボットシャフトレンチアダプタ③を使用してピボットアジャストボルトを締付ける。



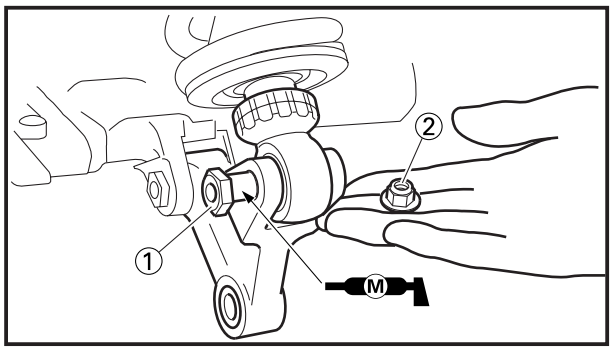
ピボットシャフトレンチ
90890-01455
ピボットシャフトレンチアダプタ
90890-01476

6. 以下の部品を組付けます。
- プレートワッシャ①
- ピボットシャフトナット②

115Nm(11.5kg・m)



7. 以下の点検をします。
- リヤアーム作動ⓐ
  がた→サイドクリアランス調整
- リヤアーム作動ⓑ
  がた、作動不良→ベアリングとブッシュをセットで交換

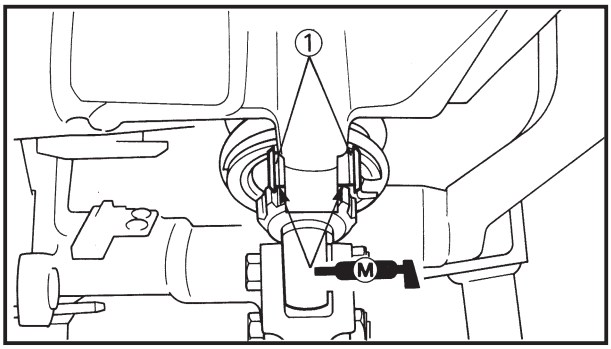


8. 以下の部品を組付けます。
- リヤクッション下側取付ボルト①
- リヤクッション下側取付ナット②

34Nm(3.4kg・m)

要　点

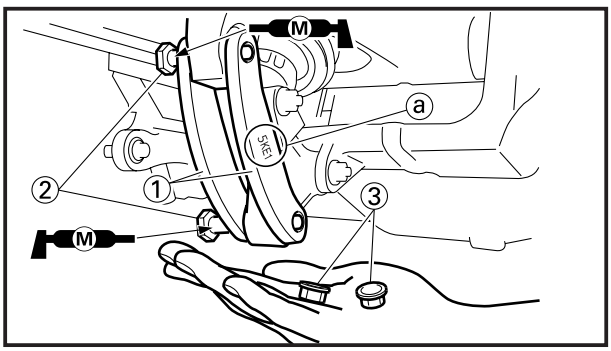
取付ボルト外周面にヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して組付ける。



9. 以下の部品を組付けます。
- カラー①

要　点

カラー外周面、ベアリングにヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して組付ける。



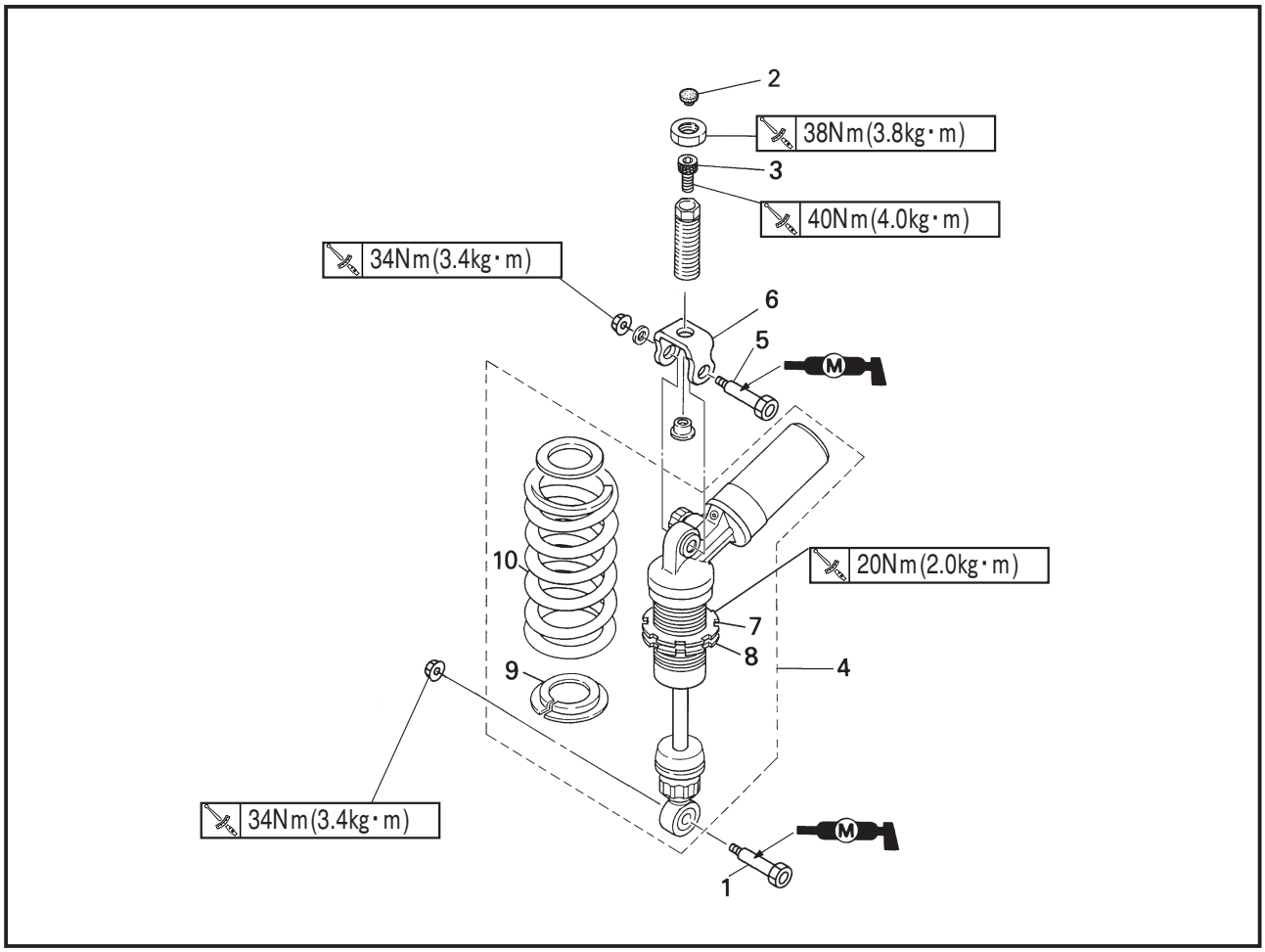
10. 以下の部品を組付けます。
- コネクティングロッド①
- コネクティングロッド取付ボルト②
- コネクティングロッド取付ナット③

34Nm(3.4kg・m)

要　点

- コネクティングロッドは刻印ⓐのある側を車体外側に向けて組付ける。
- 取付ボルト外周面にヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して組付ける。

JC580000
リヤクッション



作業範囲　①リヤクッション取外し　②リヤクッション分解

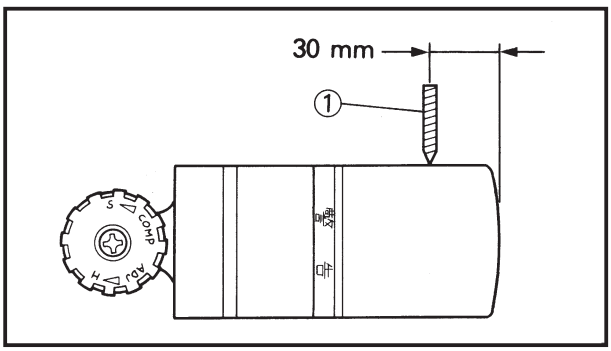
作業範囲	手順	作業名／部品名	個数	備　　考
関連作業		**リヤクッションの取外し** スタンドを使用して車を支える アンダカウリング、シート、フュエルタンク マフラ		 カウリング、インダクションガイド、シート、フュエルタンク参照 マフラ、サイレンサ参照
① ②	1	リヤクッション下側取付ボルト	1	リヤアームを支えて取外す
	2	キャップ	1	
	3	アッパブラケット取付ボルト	1	
	4	リヤクッション	1	取外しのポイント参照
	5	リヤクッション上側取付ボルト	1	
	6	アッパブラケット	1	
	7	ロックナット	1	ゆるめる
	8	アジャスタ	1	ゆるめる
	9	スプリングガイド	1	取外しのポイント参照
	10	クッションスプリング	1	

JC586003
取扱い上の注意

⚠警 告

このリヤクッションは、高圧チッ素ガスを封入した、別体ガスタンクを使用しています。
取扱い上、危険防止のため下記事項を守ること。

1. **シリンダ、ガスタンクの分解をしないこと。**
2. **高温の所に置いたり、火の中に入れないこと。これはチッ素ガス膨張によるユニットの破裂の恐れがある。**
3. **ガスタンクに損傷を与えないこと。タンクの損傷は、減衰性能の劣化や作動不良を招く原因となる。**
4. **走行50km位まではならし走行を行うこと。**
5. **ピストンロッドの摺動面に傷や打痕がつくとオイル漏れの原因となる。**
6. **ガスタンク下部のプラグは絶対に取外さないこと。危険を招く恐れがある。**
7. **廃却の際は必ずガス抜きを行うこと。ガス抜きは危険ですので御購入販売店で行うこと。**

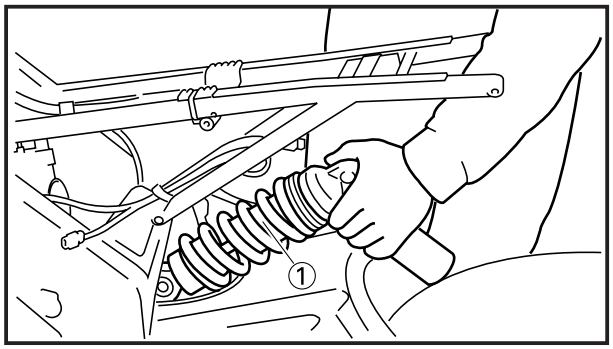


JC587012
リヤクッション廃却要領《参考》

防護眼鏡をかけて左図の位置に3㎜のドリル①で孔をあけてガスを抜きます。

⚠警 告

- **ガスを抜く前にサブタンクのオイル室、リヤクッション本体にオイル孔をあけないこと。**
- **ドリルが貫通時、ガスと同時に切粉が飛散する場合があるので注意すること。**



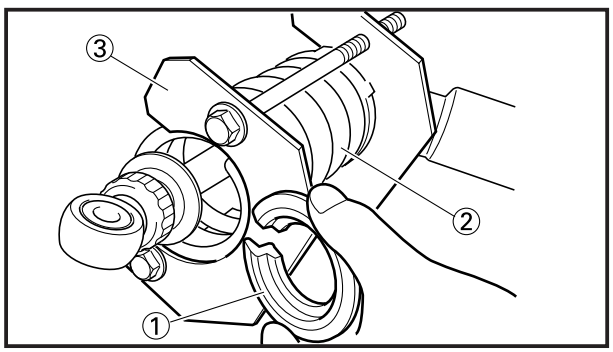
JC583000
取外しのポイント

JC583161
リヤクッション取外し

1. 以下の部品を取外します。
- リヤクッション①

要　　点

リヤクッションは、リヤフレームとリヤアームの間を通して取外す。

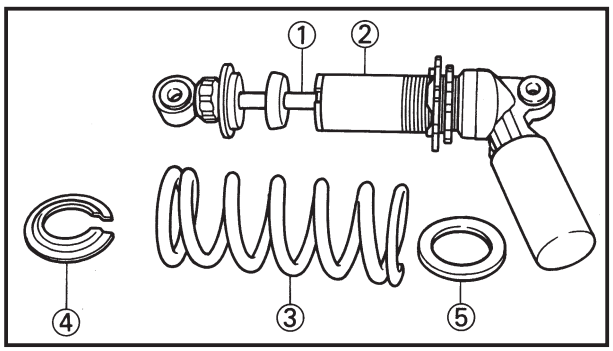


JC583224
クッションスプリング取外し

1. 以下の部品を取外します。
- スプリングガイド①
- クッションスプリング②

要　　点

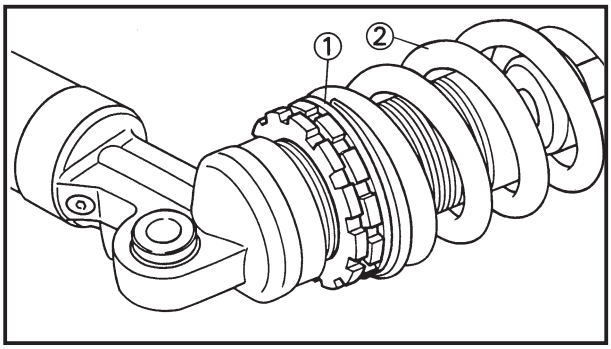
スプリングコンプレッサ（ヤマハ推奨品）③を使用してクッションスプリングを縮め、スプリングガイドを取外す。

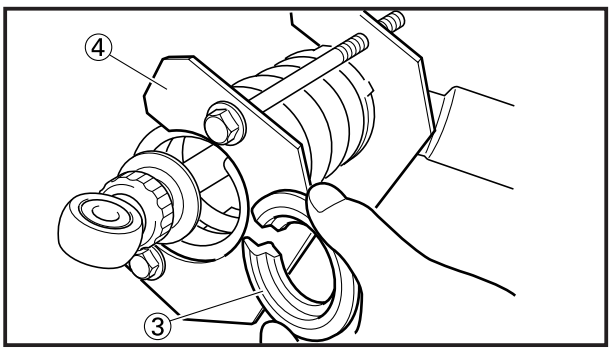


JC584000
点検

JC584130
リヤクッション点検

1. 以下の点検をします。
- ダンパロッド①
  曲り、摩耗、損傷→リヤクッションAss'yで交換
- ショックアブソーバ②
  オイル漏れ、ガス漏れ→リヤクッションAss'yで交換
- クッションスプリング③
  損傷、へたり→交換
- スプリングガイド④
  摩耗、損傷→交換
- プレート⑤
  摩耗、損傷→交換





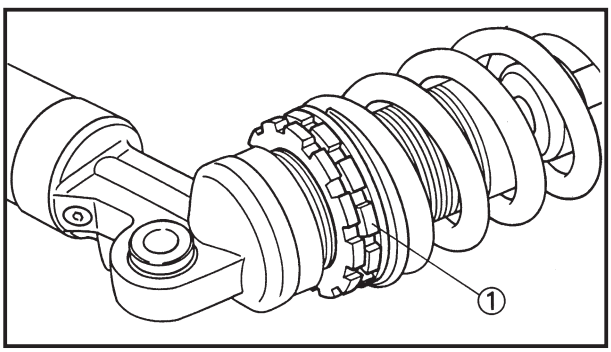
JC585000
組付け

JC585143
クッションスプリング組付け

1. 以下の部品を組付けます。
- プレート①
- クッションスプリング②
- スプリングガイド③

要　点

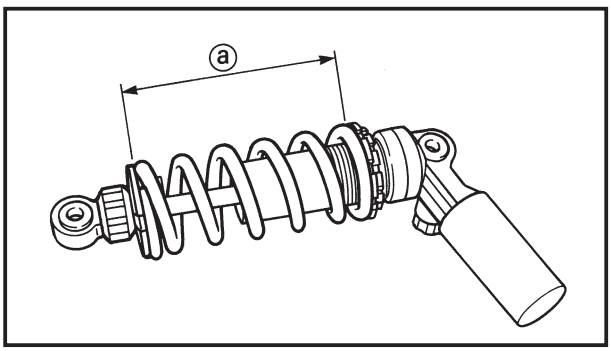
スプリングコンプレッサ（ヤマハ推奨品）④を使用してクッションスプリングを縮め、スプリングガイドを組付ける。



2. 以下の部品を締付けます。
- アジャスタ①

3. 以下の調整をします。
- スプリングセット長ⓐ

標準スプリングセット長
137㎜
イニシャル調整範囲
133～142㎜

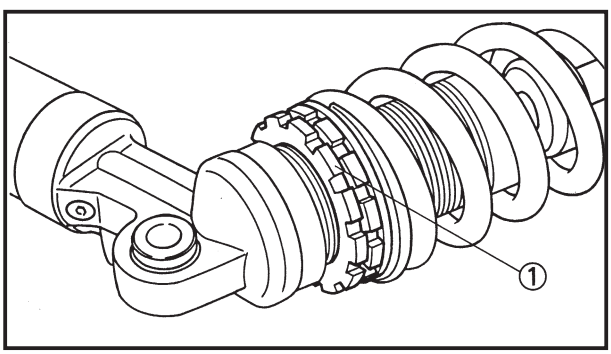


要　点

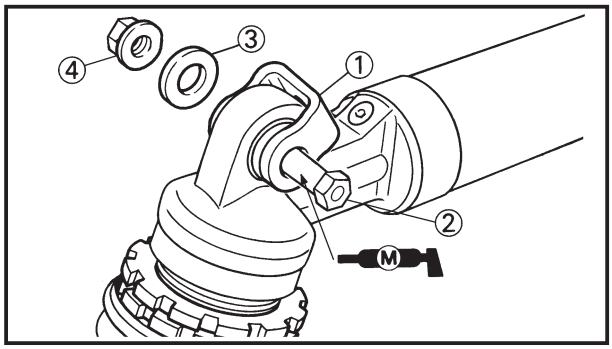
スプリングセット長はアジャスタ1回転につき1.5㎜変更になる。

▲注　意

調整範囲を超えてアジャスタを無理に回さないこと。



4. 以下の部品を締付けます。
- ロックナット①　20Nm(2.0kg･m)



JC5852A1

リヤクッション組付け

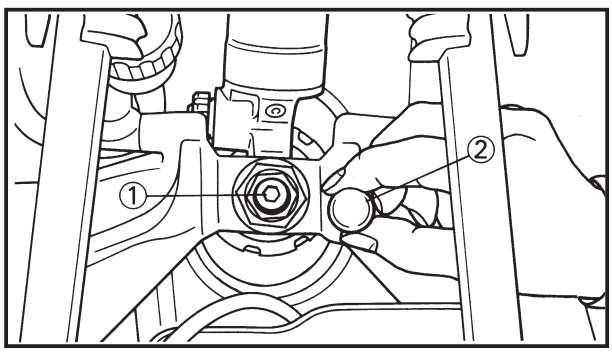
1. 以下の部品を組付けます。
- アッパブラケット①
- リヤクッション上側取付ボルト②
- プレートワッシャ③
- リヤクッション上側取付ナット④

34Nm(3.4kg･m)

要　　点

取付ボルト外周面にヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して組付ける。

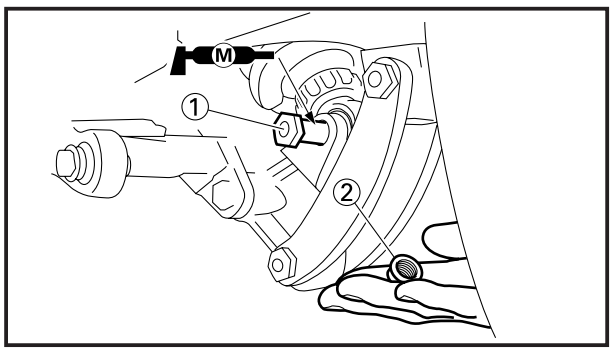
2. リヤクッションAss'yをフレームにセットします。



3. 以下の部品を組付けます。
- アッパブラケット取付ボルト①

40Nm(4.0kg･m)

- キャップ②



4. 以下の部品を組付けます。
- リヤクッション下側取付ボルト①
- リヤクッション下側取付ナット②

34Nm(3.4kg･m)

要　　点

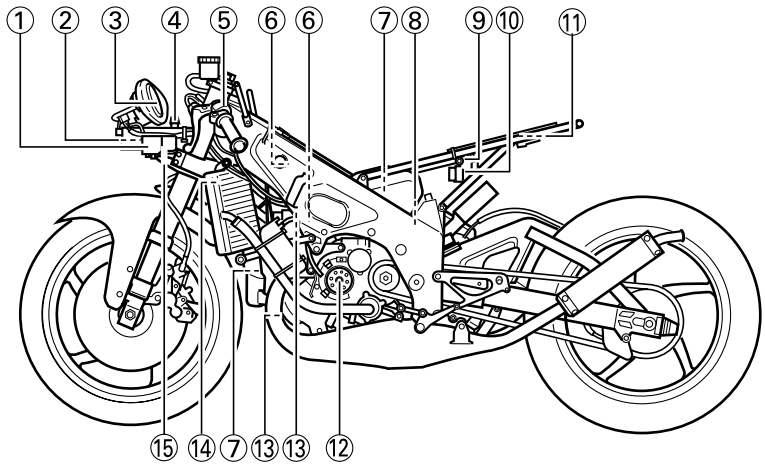
取付ボルト外周面にヤマハ二硫化モリブデングリースを塗布して組付ける。

JC600000
電装編

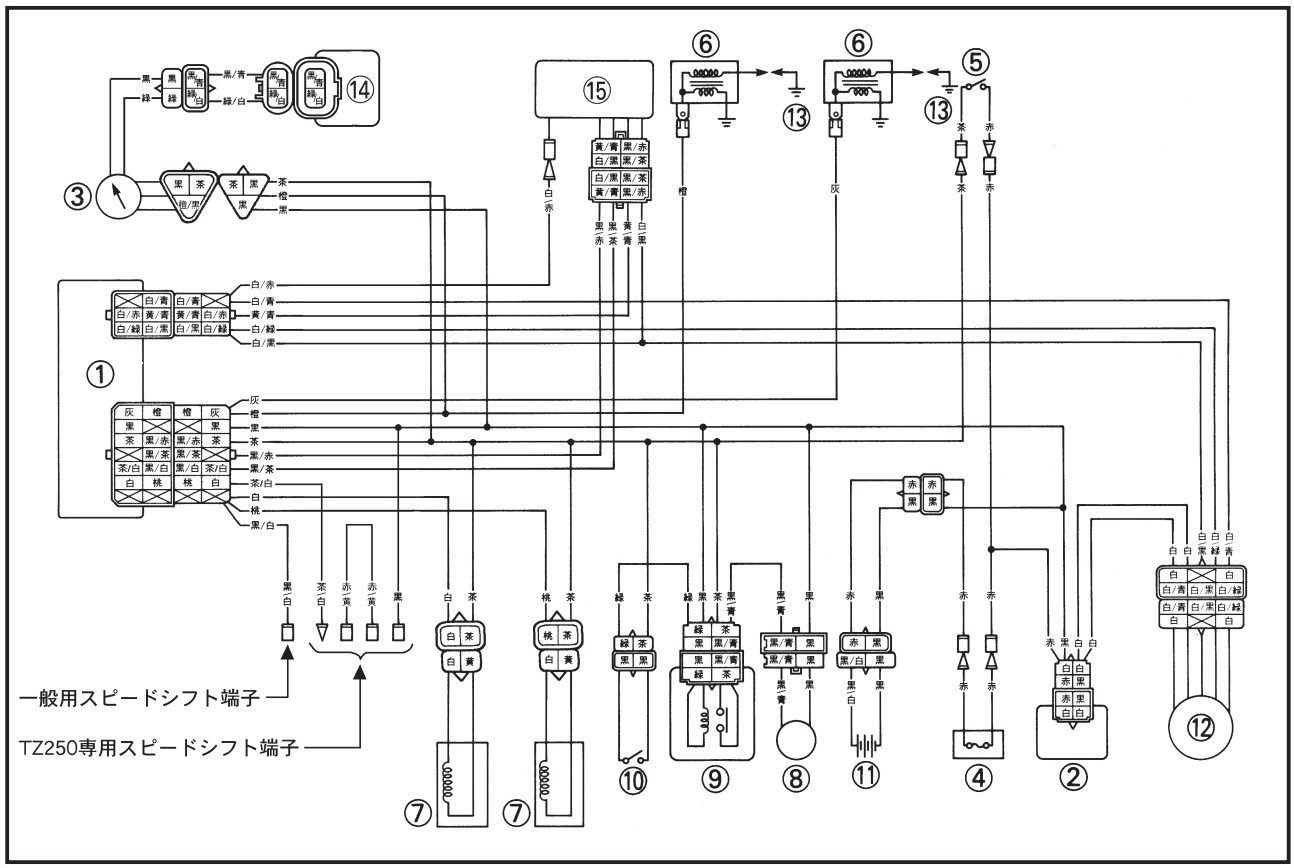
JC610000
電装配置図、結線図

JC611000
電装配置図

①C.D.Iユニット
②レクチファイヤレギュレータ
③タコメータAss'y
④ヒューズ
⑤メインスイッチ
⑥イグニッションコイル
⑦ソレノイドバルブ
⑧フュエルポンプ
⑨フュエルポンプリレー
⑩フュエルポンプストップスイッチ
⑪バッテリ
⑫C.D.Iマグネト
⑬スパークプラグ
⑭サーモユニット
⑮サーボモータ

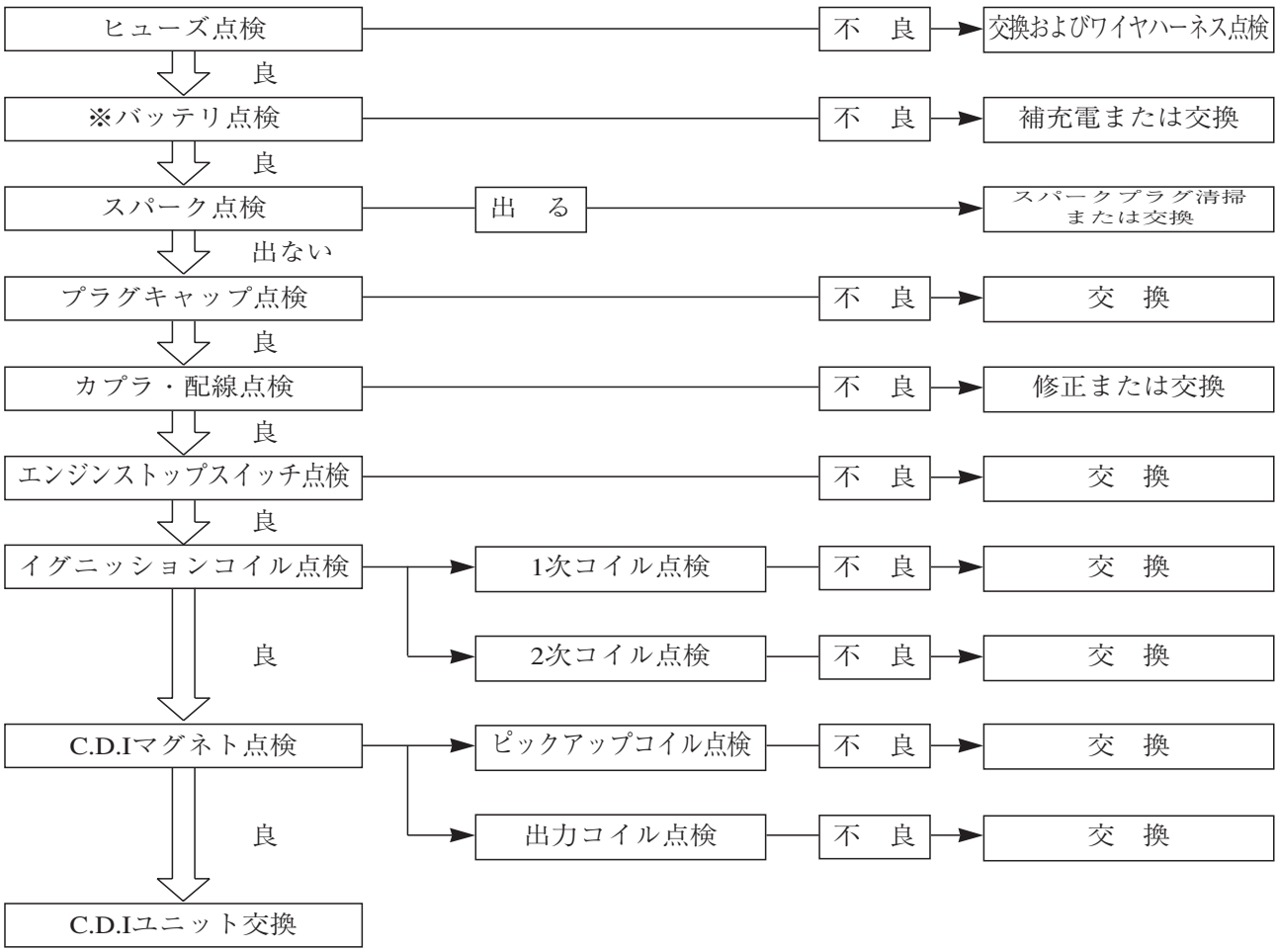


JC612000
結線図



JC620000
点火系統点検
JC621030
点検ステップ

エンジン不調の原因が点火系統にあると思われる場合は次の順序で点検します。

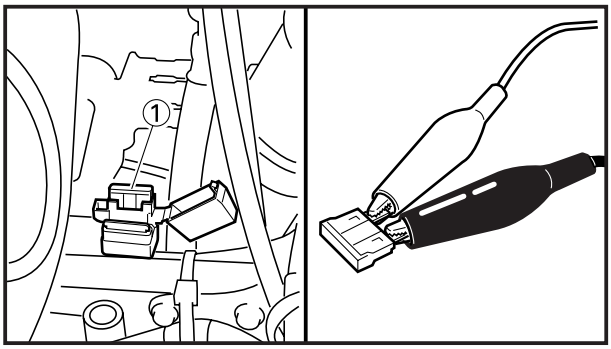


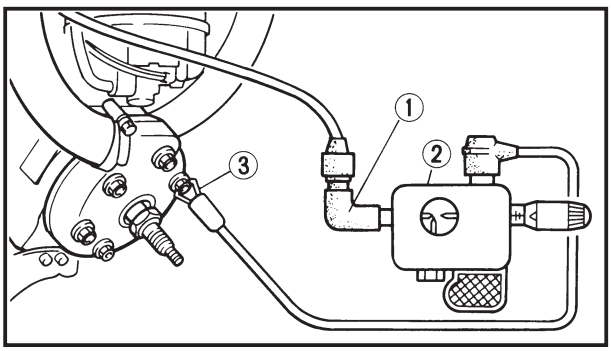
※第3章―バッテリ点検の項目参照

要　　点

- 点検する前に以下の部品を取外す。
  1）カウリング
  2）フュエルタンク
  3）シート
- これらの点検では以下の特殊工具を使用する。

	イグニッションチェッカ 90890-06754
	ポケットテスタ 90890-03112





JC629000

ヒューズ点検

1. 以下の部品を取外します。
- ヒューズ①
2. 以下の点検をします。
- ヒューズ導通
  テスタ（テスタレンジΩ×1）を接続して点検します。
  導通がない場合→交換およびワイヤハーネスがショートしていないか点検

JC622021

スパーク点検

1. フュエルポンプが作動しないようにフュエルポンプのカプラを切離しておきます。
2. プラグキャップ①をイグニッションチェッカ②に接続し、チェッカのワニ口クリップ③をエンジンにアースさせます。
3. シフトペダルを3速に入れ、メインスイッチを“RUN”にします。
4. 以下の点検をします。
- スパーク点検
  リヤホイールを回しC.D.Iマグネトを回転させたとき、5㎜以上火花が飛べばC.D.I系統は良好です。

火花が飛ぶ場合	スパークプラグを点検する。
火花が飛ばない場合	配線、スイッチ、C.D.I系統の電装品を点検する。

⚠警 告

高電圧ですから点検、取扱いは注意して行うこと。

⚠注 意

C.D.Iユニットの破損の原因となるので、スパーク点検時およびエンジン始動時は左右のイグニッションコイルの1次線が端子から外れていないことを確認すること。

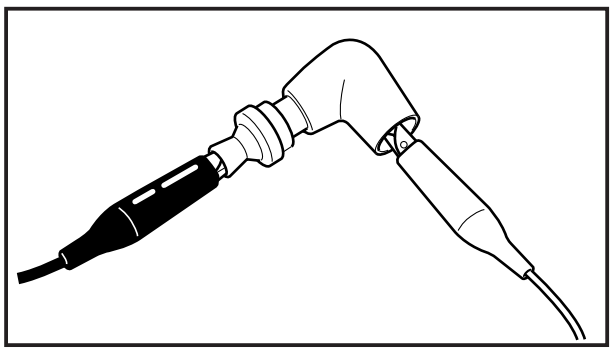
JC623002
プラグキャップ点検

1. 以下の部品を取外します。

● プラグキャップ

⚠注 意

ハイテンションードからプラグキャップを引っ張って取外さないこと。取外す時は、反時計回転方向に回し、取付ける時は時計回転方向に回すこと。



2. 以下の点検をします。

● プラグキャップ抵抗値

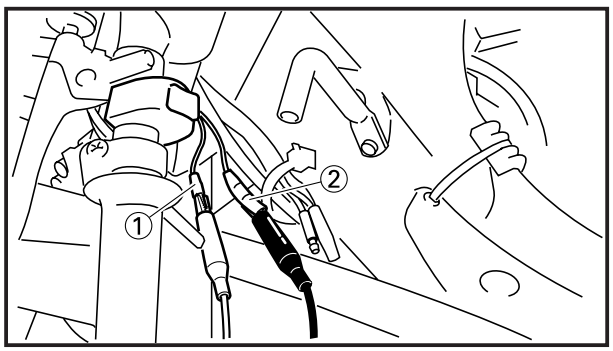
	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	4～6kΩ（20℃）	kΩ×1

規定抵抗値以外→交換

JC624003
カプラ、配線点検

1. 以下の点検をします。

● カプラ、コネクタの接続部の遊び（がた）、汚れ、錆等がないか点検します。
がた、汚れ、錆、断線→修正または交換



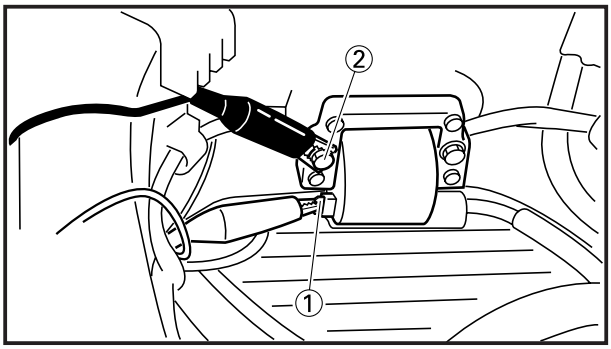
JC62A000
メインスイッチ点検

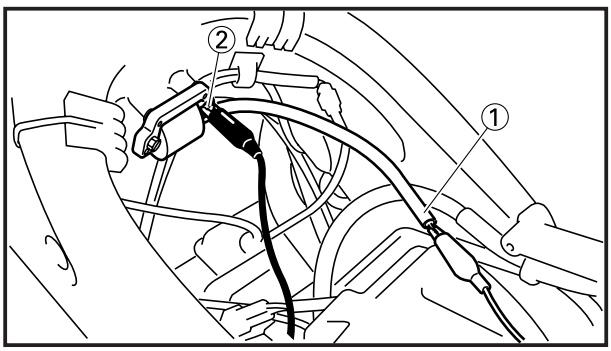
1. 以下の点検をします。

● メインスイッチ導通
テスタ⊕赤リード→赤端子①
テスタ⊖黒リード→茶端子②

		赤①	茶②	テスタレンジ位置
	RUN	○——○		Ω×1
	OFF			

○——○間に導通があれば良好
メインスイッチが“OFF”の時に導通がある場合→交換
メインスイッチが“RUN”の時に導通がない場合→交換





JC626002

イグニッションコイル点検

1. 以下の点検をします。

- 1次コイル抵抗値

テスタ⊕赤リード→橙（灰色）端子①

テスタ⊖黒リード→黒端子②

	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	0.14～0.18Ω（20℃）	Ω×1

規定抵抗値以外→交換

2. 以下の点検をします。

- 2次コイル抵抗値

テスタ⊕赤リード→ハイテンションコード①

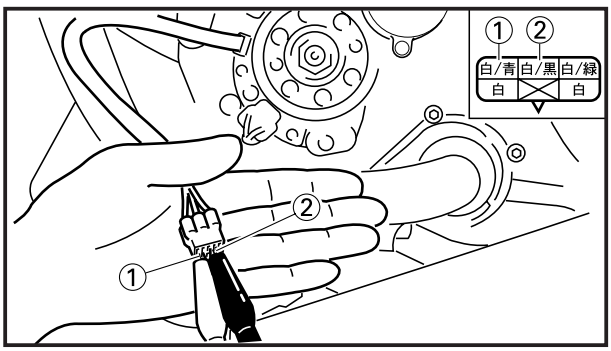
テスタ⊖黒リード→橙（灰色）端子②

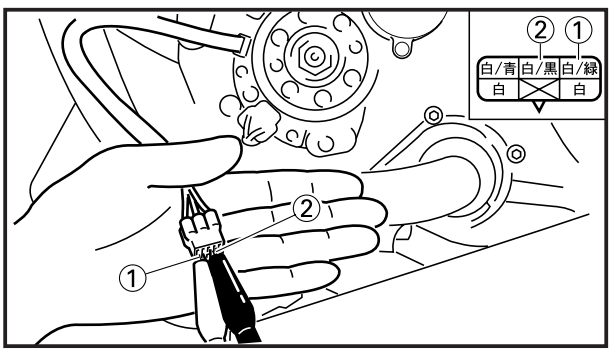
	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	5.0～7.4kΩ（20℃）	kΩ×1

規定抵抗値以外→交換

要　　点

プラグキャップを取外して点検する。





JC627032

C.D.Iマグネト点検

1. 以下の点検をします。

- 左気筒ピックアップコイル抵抗値

テスタ⊕赤リード→白/青端子①

テスタ⊖黒リード→白/黒端子②

	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	94～140Ω（20℃）	Ω×100

規定抵抗値以外→交換

2. 以下の点検をします。

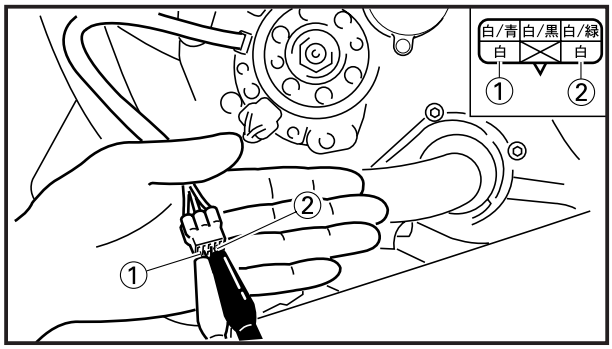
- 右気筒ピックアップコイル抵抗値

テスタ⊕赤リード→白/緑端子①

テスタ⊖黒リード→白/黒端子②

	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	94～140Ω（20℃）	Ω×100

規定抵抗値以外→交換



3. 以下の点検をします。

● 出力コイル抵抗値

テスタ⊕赤リード→白端子①

テスタ⊖黒リード→白端子②

	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	2.3～3.5Ω（20℃）	Ω×1

規定抵抗値以外→交換

JC628000

C.D.Iユニット点検

1. 以下の点検をします。

● カプラ、コネクタの接続状態

カプラ、コネクタを2～3回抜き差しをした後、組付けます。

2. 以下の点検をします。

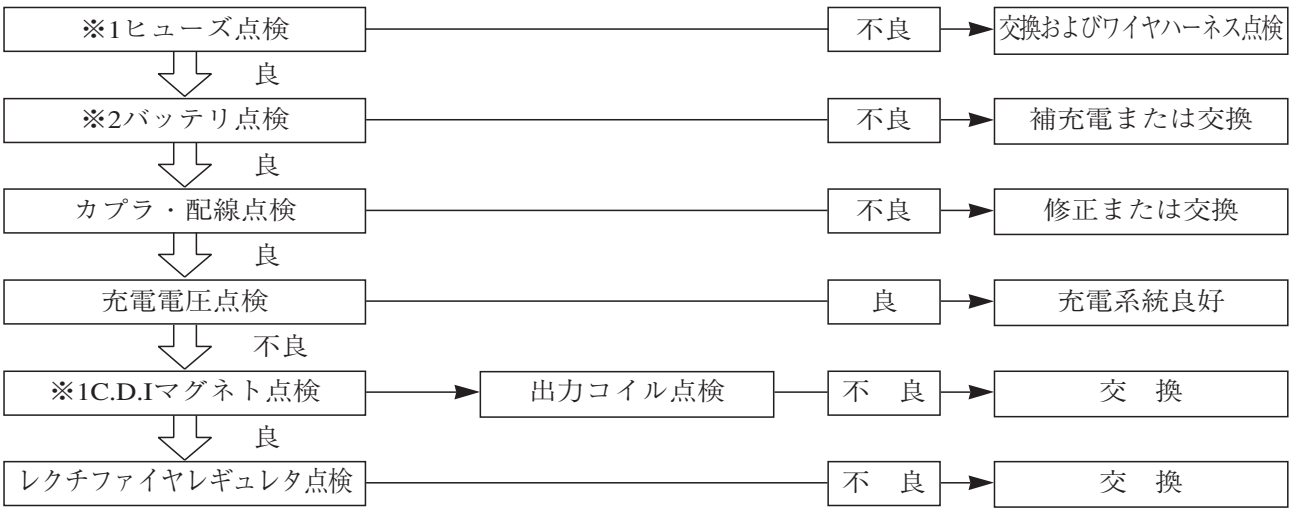
● C.D.Iユニット

前述までの点検で異状がない場合、C.D.Iユニットを新品と交換して点検します。

JC680000
充電系統点検

JC681000
点検ステップ

走行時、バッテリが充電されない場合は次の順序で点検します。



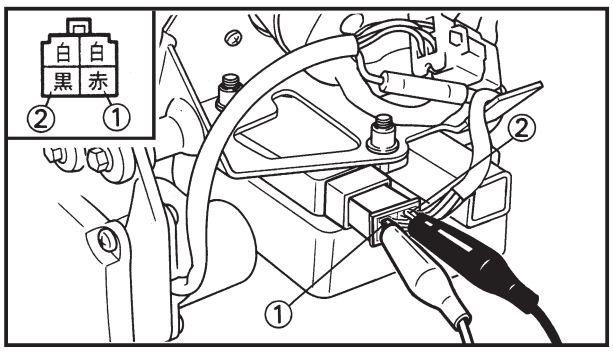
※1点火系統点検参照

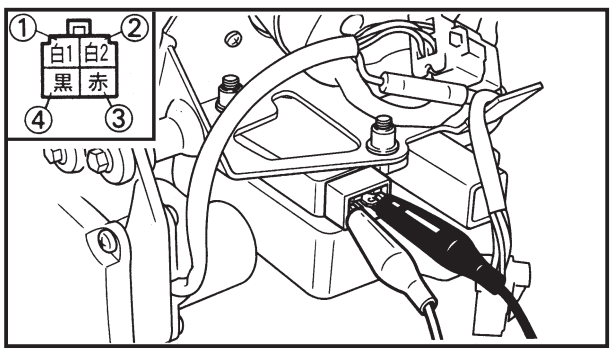
※2第3章―バッテリ点検の項目参照

要　　点

- 点検する前に以下の部品を取外す。
  1）カウリング
  2）フュエルタンク
- これらの点検では以下の特殊工具を使用する。

ポケットテスタ
90890-03112





JC624003

カプラ、配線点検

1. 以下の点検をします。

- カプラ、コネクタの接続部の遊び（がた）、汚れ、錆等がないか点検します。
  がた、汚れ、錆、断線→修正または交換

JC682000

充電電圧点検

1. エンジンを始動します。
2. 以下の点検をします。

- 充電電圧
  テスタ⊕赤リード→赤端子①
  テスタ⊖黒リード→黒端子②

	充電電圧	テスタレンジ位置
	14.2～15.2V（5000rpm）	DCV-20

規定値以外→出力コイルの抵抗値に異状がなかった場合にはレクチファイヤレギュレタを点検する。

JC683000

レクチファイヤレギュレタ点検

1. 以下の点検をします。

- レクチファイヤレギュレタ導通
  テスタ（テスタレンジΩ×1）を接続して点検します。

テスタ⊖ 黒リード ＼ テスタ⊕ 赤リード	白1①	白2②	赤③	黒④
白1①		×	○	×
白2②	×		○	×
赤③	×	×		×
黒④	○	○	○	

○印箇所に導通があれば良好
×印箇所に導通がある場合→交換
○印箇所に導通がない場合→交換

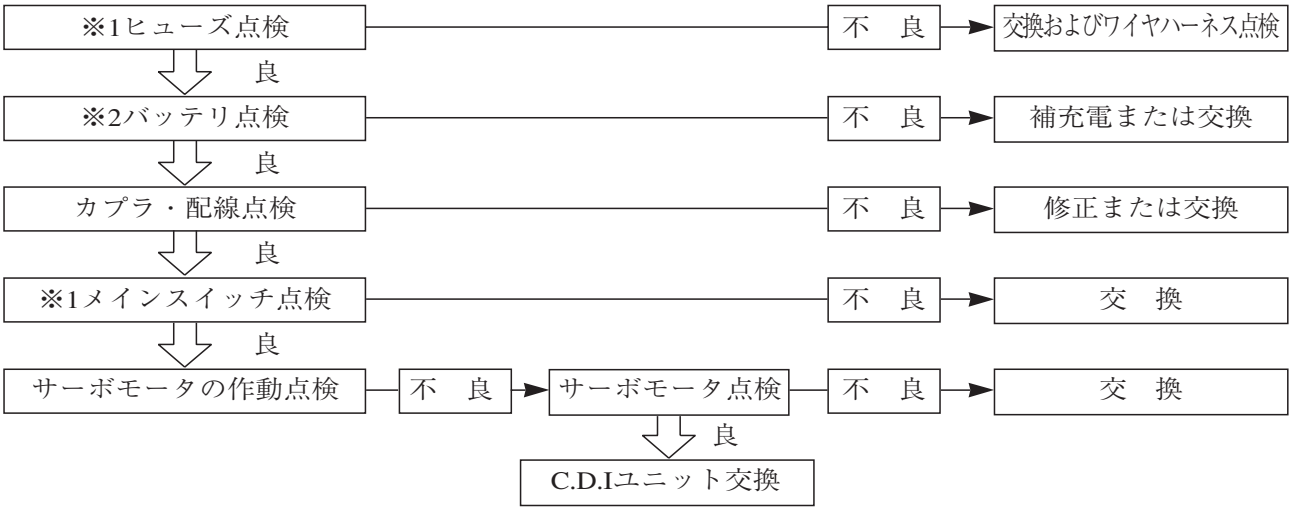
要　　点

レクチファイヤレギュレタの導通が良好であっても充電系統内で他に異状がない場合はレクチファイヤレギュレタを交換する。

JC640000
Y.P.V.S.点検

JC641020
点検ステップ

サーボモータの作動不良の場合は次の順序で点検します。



※1点火系統点検参照

※2第3章―バッテリ点検の項目参照

要　　点

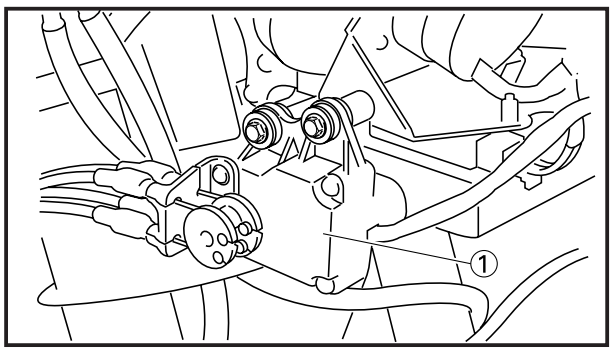
- 点検の前に以下の部品を取外す。
  1）カウリング
  2）フュエルタンク
- 点検は12Vバッテリを使用する。
- これらの点検では以下の特殊工具を使用する。

	ポケットテスタ 90890-03112

JC624003
カプラ、配線点検

1. 以下の点検をします。

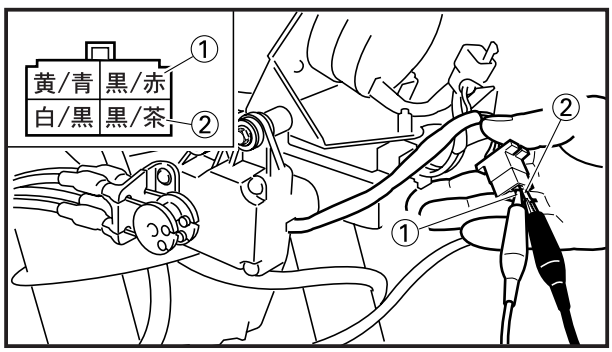
● カプラ、コネクタの接続部の遊び（がた）、汚れ、錆等がないか点検します。
がた、汚れ、錆、断線→修正または交換



JC642020
サーボモータ作動点検

1. フュエルポンプが作動しないようにフュエルポンプのカプラを切離しておきます。
2. 以下の部品を点検します。

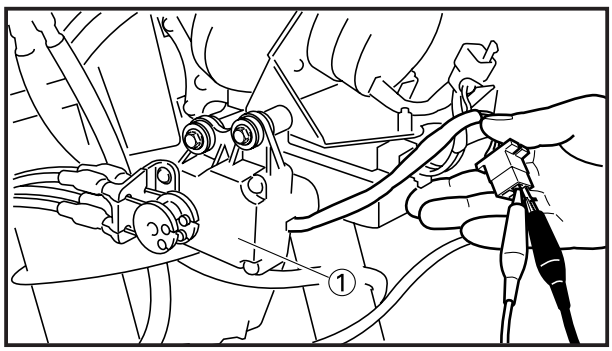
● サーボモータ①
メインスイッチを“RUN”にした時に作動する→良好



JC643003
サーボモータ点検

1. サーボモータとY.P.V.S.ケーブルを切離します。
2. サーボモータのカプラを切離します。
3. サーボモータのカプラに電源用12Vバッテリを接続します。
バッテリ⊕赤リード→黒/赤端子①
バッテリ⊖黒リード→黒/茶端子②
4. 以下の部品を点検します。

● サーボモータ①
作動しない→交換



JC650000
ソレノイドバルブ点検

JC651021
点検ステップ

ソレノイドバルブの作動不良の場合は次の順序で点検します。

※1点火系統点検参照

※2第3章―バッテリ点検の項目参照

要　　点

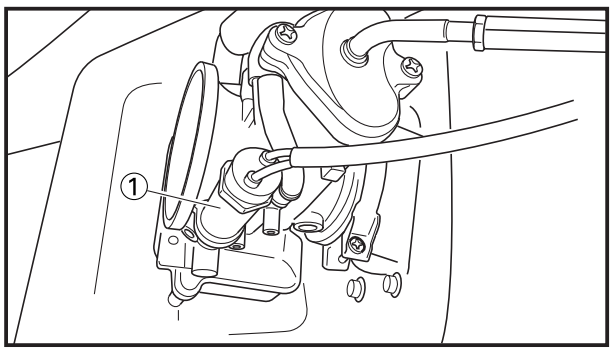
- 点検の前に以下の部品を取外す。
  1）カウリング
  2）フュエルタンク
  3）左気筒インダクションキャップ
  4）右気筒インダクションガイド
  5）シート
- 点検は12Vバッテリを使用する。
- これらの点検では以下の特殊工具を使用する。

	ポケットテスタ 90890-03112

JC624003
カプラ、配線点検

1. 以下の点検をします。

- カプラ、コネクタの接続部の遊び（がた）、汚れ、錆等がないか点検します。
  がた、汚れ、錆、断線→修正または交換



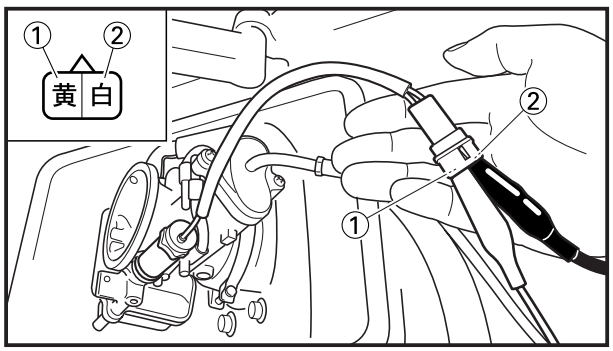
JC652020
ソレノイドバルブ作動点検

1. フュエルポンプ、サーボモータが作動しないようにフュエルポンプ、サーボモータのカプラを切離しておきます。
2. 以下の点検をします。

- ソレノイドバルブ①
  メインスイッチを“RUN”にした時“カチッ”と音がする→良好

要　　点

片側のソレノイドバルブのカプラを切離してから点検を行う。



JC653003
ソレノイドバルブコイル点検

1. 以下の点検をします。

- ソレノイドバルブコイル抵抗値
  テスタ⊕赤リード→黄端子①
  テスタ⊖黒リード→白端子②

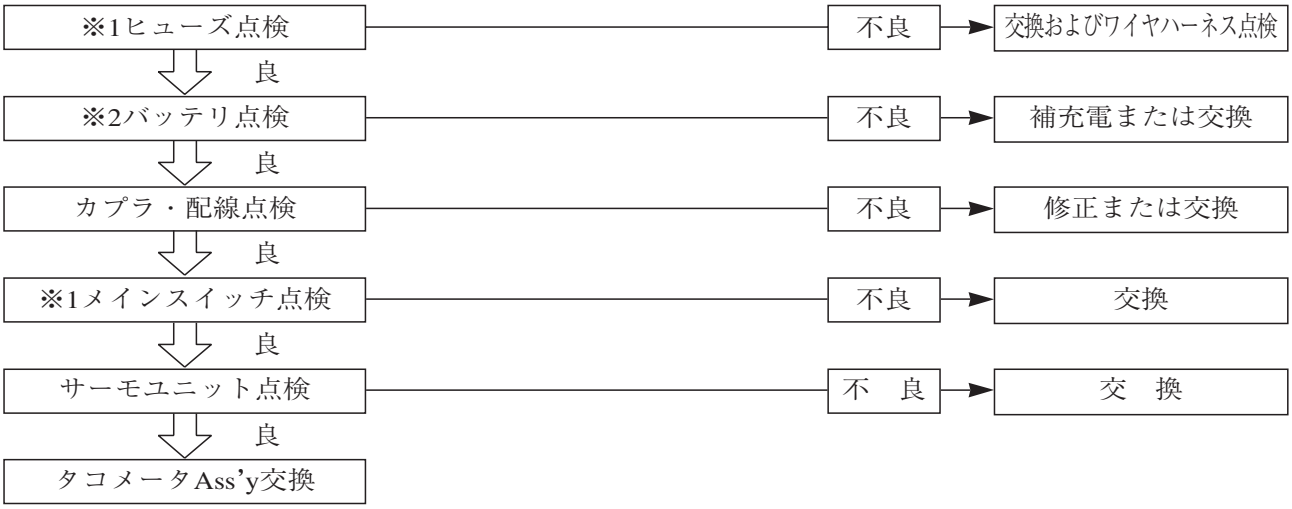
	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	52.0～63.6Ω（20℃）	Ω×10

規定抵抗値以外→交換

JC6A0000
サーモユニット点検

JC6A1010
点検ステップ

水温計（サーモユニット）の作動不良の場合は次の順序で点検します。



※1点火系統点検参照

※2第3章―バッテリ点検の項目参照

要　　点

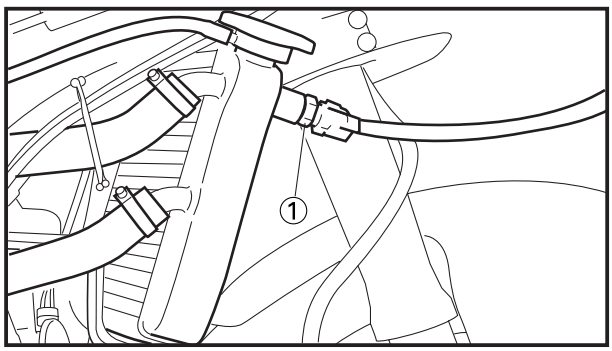
- 点検の前に以下の部品を取外す。
  1）カウリング
- これらの点検では以下の特殊工具を使用する。

ポケットテスタ
90890-03112

JC624003
カプラ、配線点検

1. 以下の点検をします。

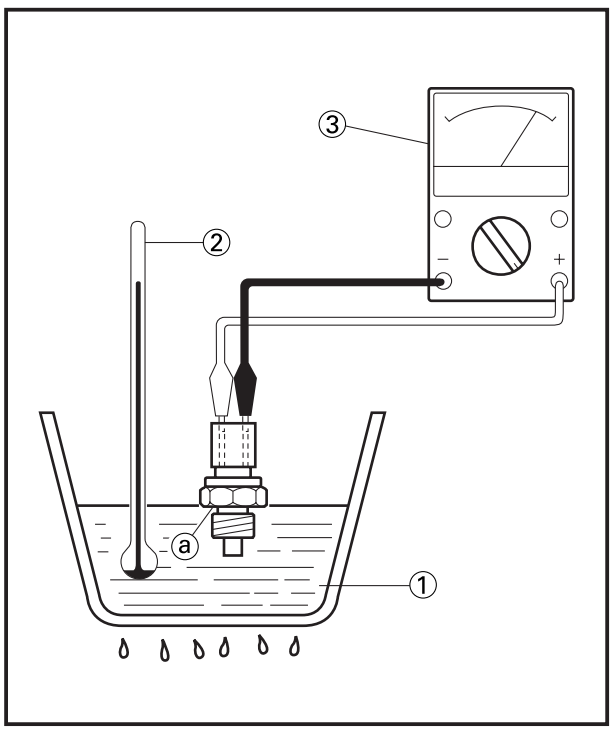
- カプラ、コネクタの接続部の遊び（がた）、汚れ、錆等がないか点検します。
  がた、汚れ、錆、断線→修正または交換



JC6A2000
サーモユニット点検

1. 冷却水を抜きます。
2. 以下の部品を取外します。

- サーモユニット①



3. テスタリード線を接続したサーモユニットをネジ上端部ⓐまで冷却水（水道の水）①の入った容器に浸します。
   ②水温計
   ③ポケットテスタ
4. 以下の点検をします。

- サーモユニット抵抗値
  冷却水を徐々に加熱して抵抗値を測定します。

	冷却水温度	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	50℃	9.72～11.4kΩ	kΩ×1
	80℃	3.41～4.01kΩ	

規定抵抗値以外→交換

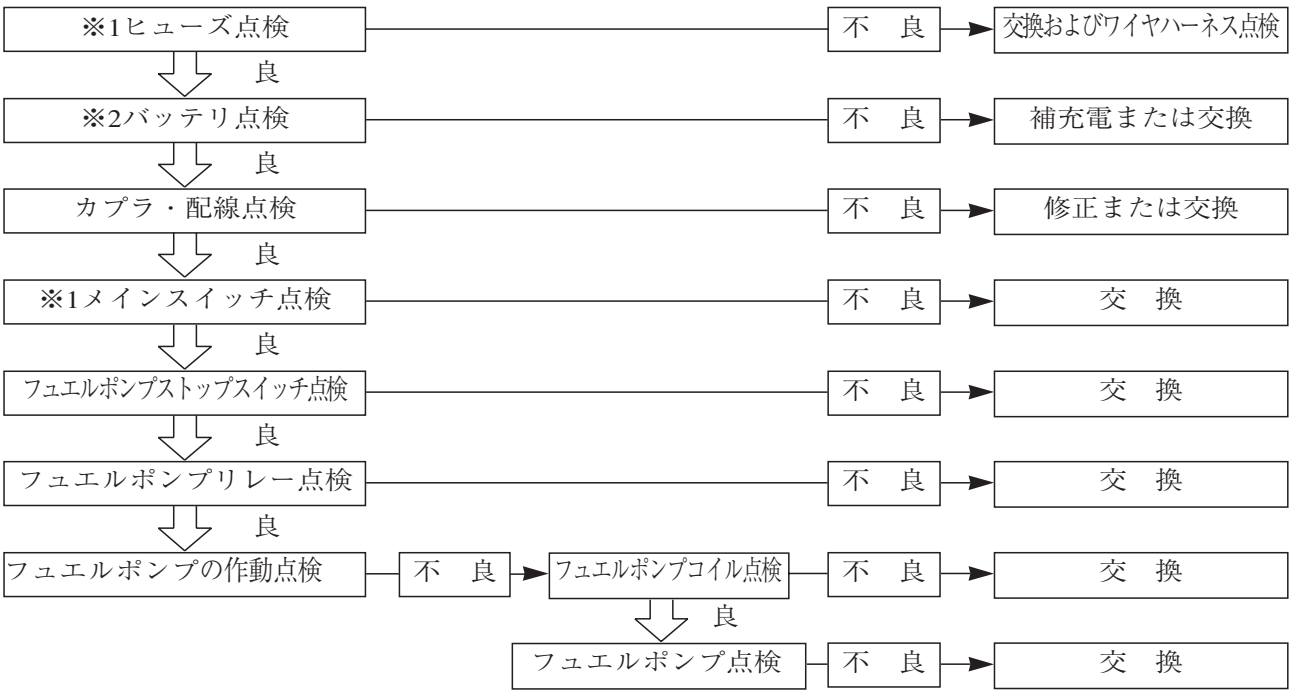
要　点

サーモユニットをテスト容器の底に直接つけない。

JC670000
フュエルポンプ点検

JC671000
点検ステップ

フュエルポンプの作動不良の場合は次の順序で点検します。



※1点火系統点検参照

※2第3章―バッテリ点検の項目参照

要　　点

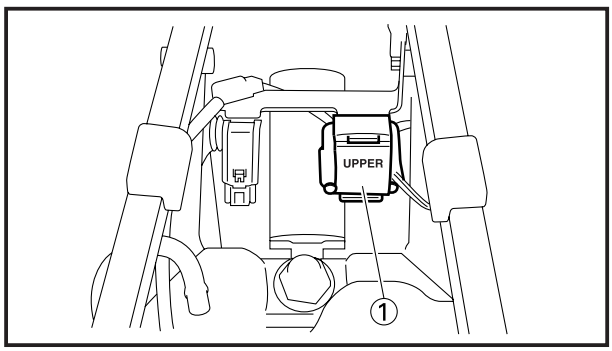
- 点検の前に以下の部品を取外す。
  1）カウリング
  2）フュエルタンク
  3）シート
  4）左気筒インダクションボックスキャップ
- 点検は12Vバッテリを使用する。
- これらの点検では以下の特殊工具を使用する。

ポケットテスタ
90890-03112

JC624003
カプラ、配線点検

1. 以下の点検をします。

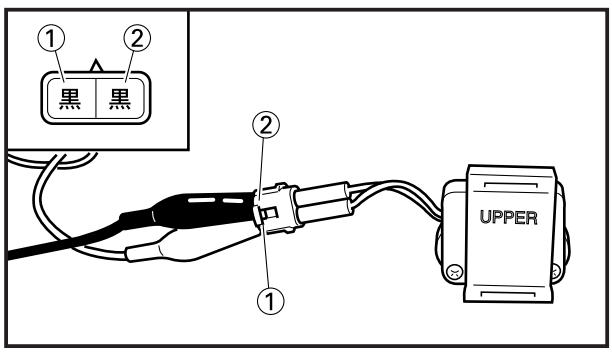
- カプラ、コネクタの接続部の遊び（がた）、汚れ、錆等がないか点検します。
  がた、汚れ、錆、断線→修正または交換



JC672000
フュエルポンプストップスイッチ点検

1. 以下の部品を取外します。

- フュエルポンプストップスイッチ①

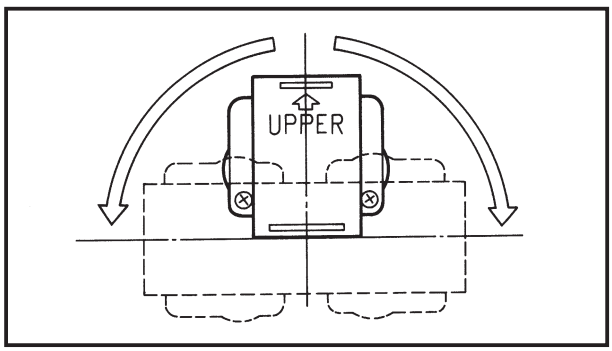


2. 以下の点検をします。

- フュエルポンプストップスイッチ導通
  フュエルポンプストップスイッチを左右に傾けて点検します。
  テスタ⊕赤リード→黒端子①
  テスタ⊖黒リード→黒端子②

		黒①	黒②	テスタレンジ位置
	90°横転	○——○		Ω×1
	通常			

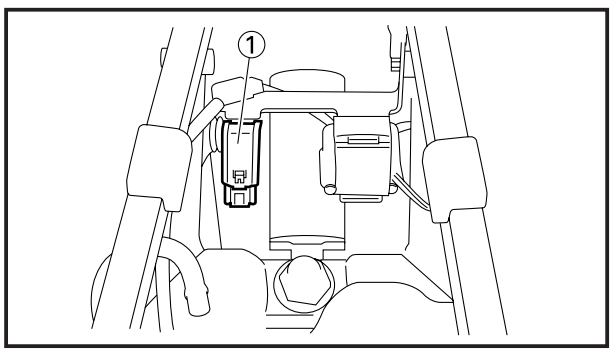
○——○間に導通があれば良好
通常の時に導通がある場合→交換
90°横転させた時に導通がない場合→交換

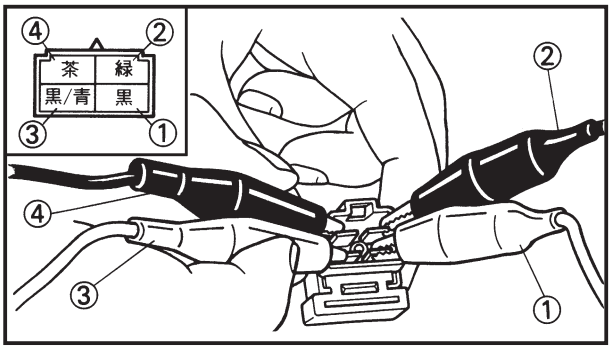


JC673000
フュエルポンプリレー点検

1. 以下の部品を取外します。

- フュエルポンプリレー①





2. 以下の点検をします。

● フュエルポンプリレー導通

電源用12Vバッテリを接続して点検します。

バッテリ⊕赤リード→黒端子①

バッテリ⊖黒リード→緑端子②

テスタ⊕赤リード→黒/青端子③

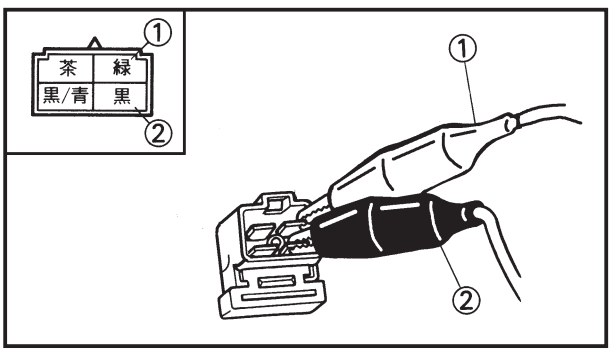
テスタ⊖黒リード→茶端子④

		黒/青③	茶④	テスタレンジ位置
	バッテリ接続			Ω×1
	バッテリ非接続	○	○	

○———○間に導通があれば良好

バッテリを接続した時に導通がある場合→交換

バッテリを接続していない時に導通がない場合→交換



3. 以下の点検をします。

● フュエルポンプリレー抵抗値

テスタ⊕赤リード→緑端子①

テスタ⊖黒リード→黒端子②

	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	72～80Ω（20℃）	Ω×10

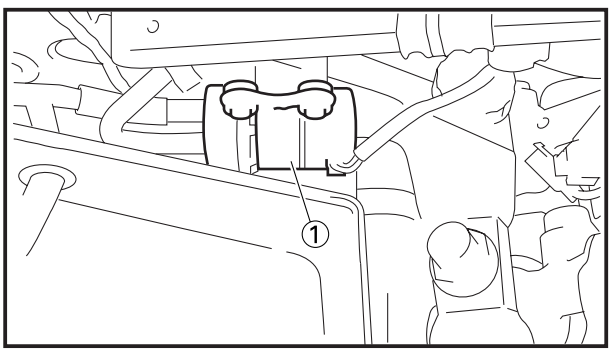
規定抵抗値以外→交換

JC674000

フュエルポンプ作動点検

▲注 意

フュエルポンプ破損の原因となるのでフュエルタンクが空の状態でフュエルポンプを作動させないこと。



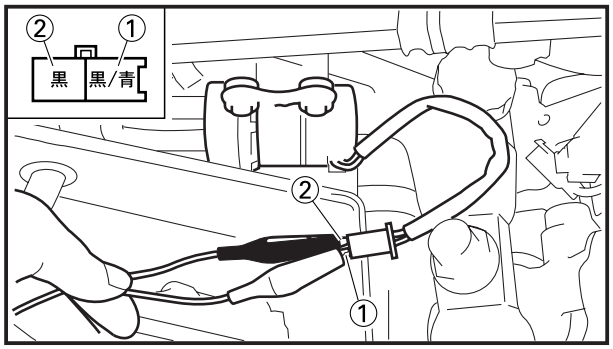
1. キャブレタのドレンプラグをゆるめてフロートチャンバボディ内の燃料を抜きます。
2. 以下の部品を組付けます。

● ドレンプラグ

3. フュエルコックを“ON”にします。
4. 以下の点検をします。

● フュエルポンプ①

メインスイッチを“RUN”にした時に作動音がする→良好



JC675000

フュエルポンプコイル点検

1. フュエルポンプのカプラを切離します。
2. 以下の点検をします。

● フュエルポンプコイル抵抗値
テスタ⊕赤リード→黒/青端子①
テスタ⊖黒リード→黒端子②

	規定抵抗値	テスタレンジ位置
	1～3Ω（20℃）	Ω×1

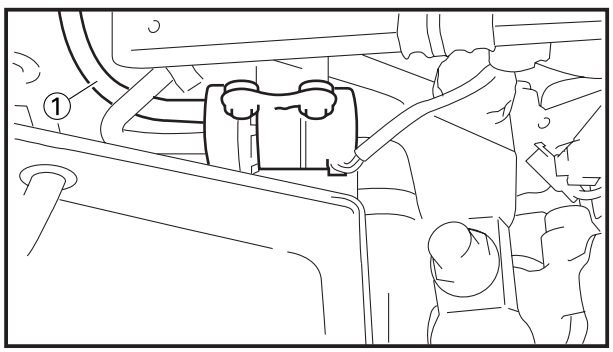
規定抵抗値以外→交換

JC676000

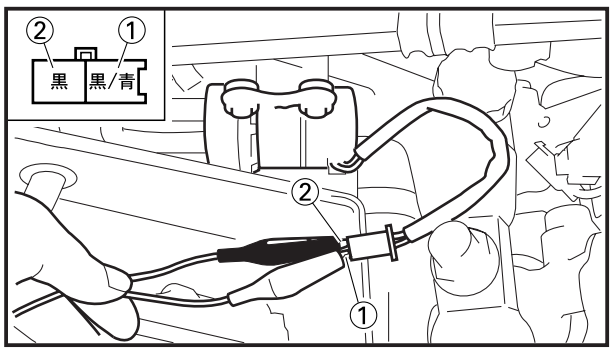
フュエルポンプ点検

▲注 意

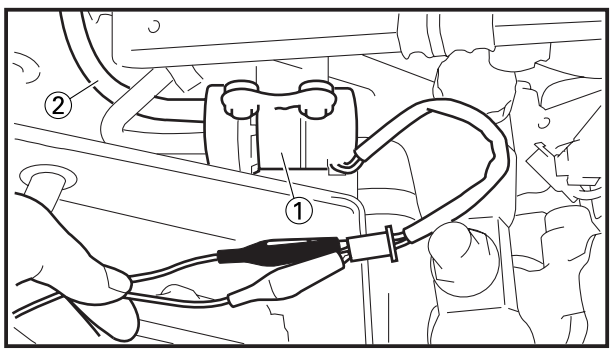
フュエルポンプ破損の原因となるのでフュエルタンクが空の状態でフュエルポンプを作動させないこと。



1. フュエルポンプより排出側のフュエルパイプを取外します。
2. フュエルポンプに別のビニールパイプ①を取付け、パイプ先端に受皿を置きます。



3. フュエルコックを“ON”にします。
4. フュエルポンプのカプラを切離します。
5. フュエルポンプのカプラに電源用12Vバッテリを接続します。
バッテリ⊕赤リード→黒/青端子①
バッテリ⊖黒リード→黒端子②



6. 以下の点検をします。

● フュエルポンプ①
ビニールパイプ②から燃料が出ない→交換

JC700000
セッティング編

JC710000
エンジン

JC711012
キャブレタセッティングについて

○ 燃料の役目は動力を発生する他にエンジンを冷却する役目と2サイクルエンジンでは潤滑の役目も持っています。従って、混合気（空気＋燃料）が薄すぎると焼付きや異状燃焼（デトネーション）を起し、濃すぎるとエンジン性能が十分に発揮されず、場合によってはスパークプラグがかぶってエンジンが止ってしまうこともあります。

○ エンジンの要求する混合気の濃度は気象状況により異なり、その日の気象状況（気圧、湿度、温度）によって適正なキャブレタのセッティングが必要です。

○ 基本的な、セッティングの方法としては、まず出荷仕様からメインジェットのみを変更して6速全開時のスパークプラグ、ピストンの焼けを合せ、次にスロットルの中間開度のセッティングを合せていきます。

※ セッティングのデータを気象条件やサーキットの路面状況、ラップタイムとともに記録して蓄積することで異なった条件でも速やかにセッティングができるようになります。

JC712000
自然条件とセッティングの方向性

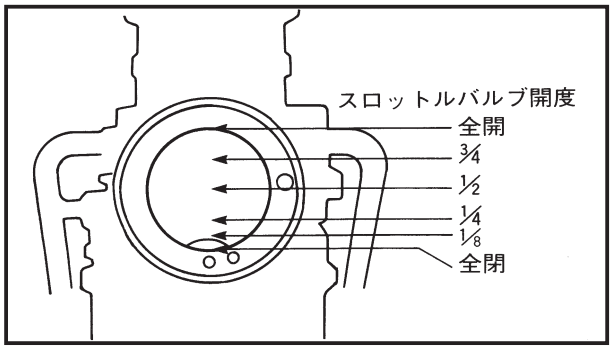
気温	湿度	気圧（標高）	混合気	セッティングの方向性
高い	高い	低い（高い）	濃くなる	薄くする
低い	低い	高い（低い）	薄くなる	濃くする

上記のような傾向があるのは混合気の濃い薄いが空気の密度（酸素濃度）に左右されるからです。

つまり

- 気温が高いと空気は膨張して密度が減少
- 湿度が高いと空気中の水蒸気分だけ酸素濃度が減少
- 気圧が低い（標高が高い）と空気密度が減少

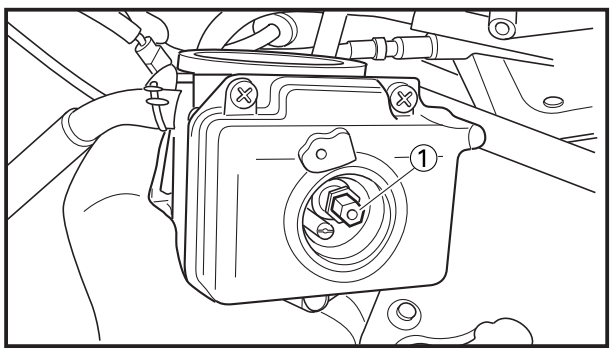
となるからです。



JC714000

スロットルバルブ開度によるセッティングパーツの影響範囲

セッティングパーツ	スロットルバルブ開度 全閉 1/8 1/4 1/2 3/4 7/8 全開
エアスクリュ	
パイロットジェット	
メインノズルジェットニードル	
メインジェット	
パワージェット	



JC71E006

キャブレタセッティングの基本プロセス

工場出荷時には濃いめのセッティングになっていますがならし走行は基本的にこのままで済ませます。(第1章―ならし走行の項目参照)

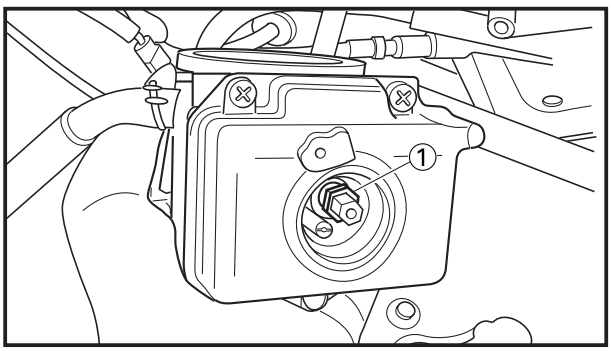
1. メインジェットの合せこみ
   コースを数周して水温が安定したところで(55℃以上)、エンジン回転数が全開で12000rpm以上回らない場合は、メインジェット①のサイズを小さくします。
   例)＃500→＃490
   次にこのセッティングでコースを数周し、エンジン回転数に変化があるかどうか確認します。変化がみられない場合は更にメインジェットのサイズを小さくします。
   例)＃490→＃480

出荷メインジェット	＃500

適　　正

焼けすぎ

か ぶ り



2. プラグ、ピストンの焼けの確認

1の作業を何回か繰り返してエンジン回転数が全開で12000rpm以上回るようになってきたら、プラグチョップ（P7-9参照）をしプラグ、ピストンの焼けの確認をします。焼け具合の判定は写真を参考にしてください。焼け具合からあと何番メインジェットを絞れるかの判断は初心者には難しいので、経験者に見てもらうなどして経験を積むようにするとよいでしょう。セッティングが適切かどうかはエンジン回転数からも判定できます。

目安として

- 1､2速で13000rpm
- 5､6速で12500rpm

回っていればほぼ良好といえます。

（但し、2次減速比がコースに合っていることが条件です。）

3. メインノズルの合せこみ

メインジェットの合せこみが出来たら、次にメインノズル①の合せこみに入ります。チェックするポイントは、スロットルの開け初めから1/2開度にかけて、スロットルに合せてエンジン回転数がスムーズについてくるかどうかを見ます。スロットルの開け初めにもたつく感じが有り、更にスロットルを開けていくと急に回転がついてくる場合は、メインノズルのサイズを小さくします。

例）S-5→S-4

この際メインジェットが十分に合せこまれていて焼けに余裕がない場合には、同時にメインジェットを＃20位大きくしておきます。

コースを数周してエンジン回転のつき具合を見ると共にプラグ、ピストンの焼けの確認をします。エンジン回転のつきが良くなり、プラグ、ピストンの焼けに余裕があればメインジェットのサイズを小さくします。
メインノズルを変えたことで逆にスロットルの開け初めで力のない感じがする場合は、メインノズルのサイズを大きくします。
例）S-1→S-2

出荷メインノズル	S-5

要　　点

メインノズルのセッティングにはライダーの個人差やコースレイアウトの違いが大きく影響する。

1. スロットルの中間開度を多用するライダー
2. スロットルの開閉の頻繁なコース
3. ウェットコンディション

このようなケースでは、スロットルを閉じている時間が長くなり、吸い込まれた混合気がクランクケース内に溜まるため、次にスロットルを開けた時にはどうしてもセッティングが濃い状態になるので、メインノズルのサイズを小さくする必要がある。

JC71F003

修正係数によるキャブレタセッティング

キャブレタセッティングの基本プロセスの項目（P7-2～4）で基本的なキャブセッティングの要領が理解できたことと思います。次に気象条件の変化に対応するために修正係数を用いたメインジェットの選定方法を説明します。

要　　点

- この方法を使うためには、今迄の走行の中でほぼ満足できるキャブレタセッティングができていることが必要である。
- この方法は、エンジンの仕様（点火時期、圧縮比等）が変る時には使用できない。

使用例）

前回の走行では、気圧1013hPa(760㎜Hg)、気温20℃でメインジェットは＃450がベストセッティングだったとします。今回の走行では条件がだいぶ変り、気圧1007hPa(755㎜Hg)、気温30℃となっています。この場合、以下の手順で今回使用するメインジェットの選定をします。

1. 修正係数表（P7-6参照）から前回の走行時の修正係数を求めます。
   この場合　修正係数A=100.0
2. 今回の走行の修正係数を求めます。
   この場合　修正係数B=96.1
3. 次の計算式から今回のメインジェットのサイズを求めます。

前回のメインジェットサイズ×B/A =今回のメインジェットサイズ

450×96.1/100=432.5

つまり＃430のメインジェットを選択すれば良い訳です。

⚠注　意

メインジェットのサイズを大きくする方向に条件が変る場合は、安全のため計算で求めたサイズに＃20プラスしたメインジェットを使用すること。

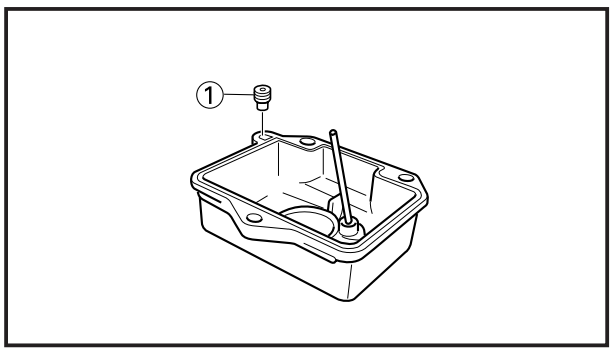
要　　点

- この修正係数表には湿度の項目が無いため、自然条件とセッティングの方向性の項目（P7-1）を参考にして、最終的にはスパークプラグ、ピストンの焼けを見てセッティングをすすめる。
- メインノズルのセッティングには自然条件以外の影響が大きいため、修正係数によるセッティングは行わない。

JC71G001

キャブレタセッティング修正係数表

気圧	気温（℃）										標高（m）
[hPa (mmHg)]	-5	-0	5	10	15	20	25	30	35	40	
1040(780)	112.2	110.2	108.2	106.3	104.4	102.6	100.9	99.3	97.7	96.1	-220
1033(775)	111.5	109.4	107.5	105.6	103.7	102.0	100.3	98.6	97.0	95.5	-165
1027(770)	110.8	108.7	106.8	104.9	103.1	101.3	99.6	98.0	96.4	94.8	-110
1020(765)	110.0	108.0	106.1	104.2	102.4	100.7	99.0	97.3	95.8	94.2	-55
1013(760)	109.3	107.3	105.4	103.5	101.7	100.0	98.3	96.7	95.1	93.6	0
1007(755)	108.6	106.6	104.7	102.9	101.1	99.3	97.7	96.1	94.5	93.0	56
1000(750)	107.9	105.9	104.0	102.2	100.4	98.7	97.0	95.4	93.9	92.4	112
993(745)	107.2	105.2	103.3	101.5	99.7	98.0	96.4	94.8	93.3	91.8	168
987(740)	106.5	104.5	102.6	100.8	99.1	97.4	95.7	94.2	92.6	91.1	224
980(735)	105.7	103.8	101.9	100.1	98.4	96.7	95.1	93.5	92.0	90.5	281
973(730)	105.0	103.1	101.2	99.4	97.7	96.1	94.4	92.9	91.4	89.9	338
967(725)	104.3	102.4	100.5	98.8	97.1	95.4	93.8	92.2	90.7	89.3	396
960(720)	103.6	101.7	99.8	98.1	96.4	94.7	93.1	91.6	90.1	88.7	453
953(715)	102.9	101.0	99.2	97.4	95.7	94.1	92.5	91.0	89.5	88.1	512
947(710)	102.1	100.3	98.5	96.7	95.0	93.4	91.9	90.3	88.9	87.5	570
940(705)	101.4	99.6	97.8	96.0	94.4	92.8	91.2	89.7	88.2	86.8	629
933(700)	100.7	98.9	97.1	95.4	93.7	92.1	90.6	89.1	87.6	86.2	688
927(695)	100.0	98.1	96.4	94.7	93.0	91.4	89.9	88.4	87.0	85.6	747
920(690)	99.3	97.4	95.7	94.0	92.4	90.8	89.3	87.8	86.4	85.0	807
913(685)	98.5	96.7	95.0	93.3	91.7	90.1	88.6	87.2	85.7	84.4	867
907(680)	97.8	96.0	94.3	92.6	91.0	89.5	88.0	86.5	85.1	83.8	928
900(675)	97.1	95.3	93.6	92.0	90.4	88.8	87.3	85.9	84.5	83.1	989
893(670)	96.4	94.6	92.9	91.3	89.7	88.2	86.7	85.2	83.9	82.5	1050
887(665)	95.7	93.9	92.2	90.6	89.0	87.5	86.0	84.6	83.2	81.9	1111
880(660)	94.9	93.2	91.5	89.9	88.3	86.8	85.4	84.0	82.6	81.3	1173
873(655)	94.2	92.5	90.8	89.2	87.7	86.2	84.7	83.2	82.0	80.7	1236
867(650)	93.5	91.8	90.1	88.5	87.0	85.5	84.1	82.7	81.4	80.1	1299
860(645)	92.8	91.1	89.4	87.9	86.3	84.9	83.4	82.1	80.7	79.4	1362
853(640)	92.1	90.4	88.8	87.2	85.7	84.2	82.8	81.4	80.1	78.8	1425
847(635)	91.3	89.7	88.1	86.5	85.0	83.6	82.2	80.8	79.5	78.2	1489
840(630)	90.6	89.0	87.4	85.8	84.3	82.9	81.5	80.2	78.9	77.6	1554



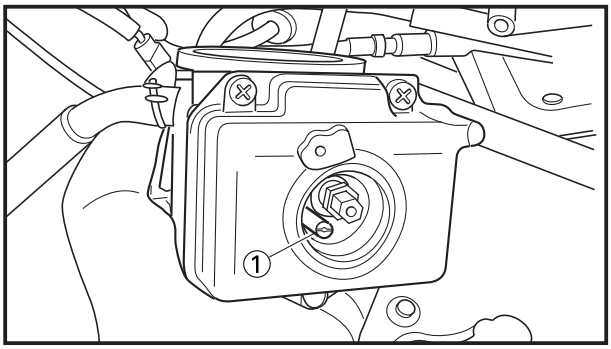
JC71H041

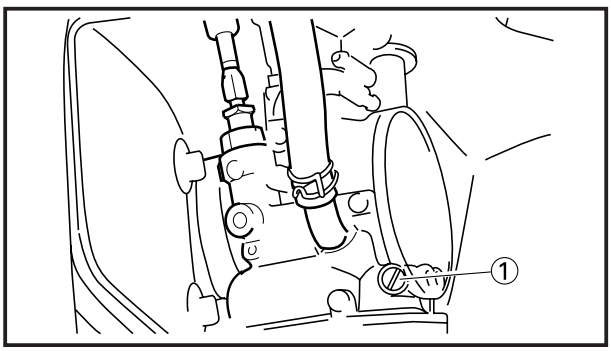
その他のセッティングパーツ

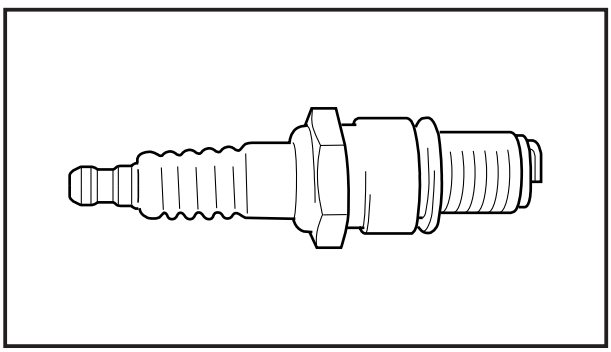
1. パワージェット①について

スロットル開度1/4～全開までの範囲で加速性に関係します。サイズは季節により変更し、冬場は＃65、春、秋は＃60、夏場は＃55を目安とします。サイズを大きくすると混合気は濃くなり、小さくすると薄くなります。サイズを小さくしすぎると加速性能が低下する場合があります。

出荷パワージェット	＃65







2. パイロットジェット①について
スロットル開度の小さな所でのエンジンのつきに関係します。メインノズルだけではセッティングが合せきれない時に変更します。サイズを大きくすると混合気は濃くなり、小さくすると薄くなります。

出荷パイロットジェット	＃35

3. エアスクリュ①について
パイロットジェットよりも低開度でのエンジンのつきに関係します。時間に余裕が無い時、応急的にセッティングの傾向を見るために変更することはありますが、原則的に出荷戻し回転数で固定します。

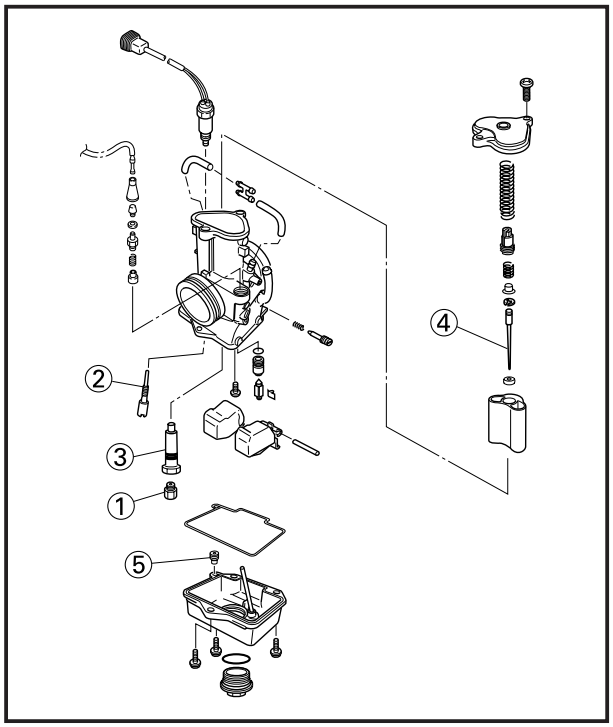
エアスクリュ出荷戻し回転数	1-1/2

4. スパークプラグについて
原則的にプラグの熱価は変更しません。プラグの焼けとピストンヘッドの焼けを常に注意することで、プラグの焼けを見てある程度キャブセッティングの良否がわかるようになります。

標準プラグ	R6179A-105P/NGK

要　　点

各セッティングパーツの影響範囲についてはスロットルバルブ開度によるセッティングパーツの影響範囲の項目（P7-2）を参考にする。



JC71Q021

キャブレタセッティングパーツ

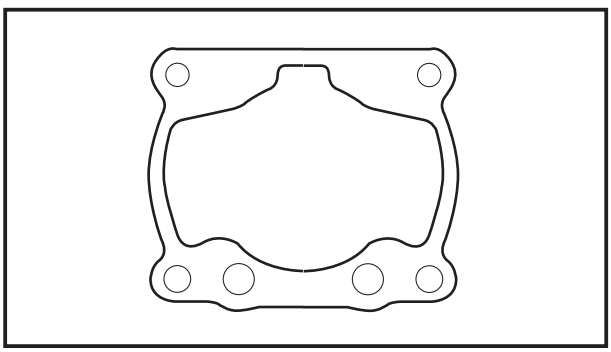
パーツ名		仕様	パーツNo.
メインジェット①	薄い	#350	137-14143-70
		#360	137-14143-72
		#370	137-14143-74
		#380	137-14143-76
		#390	137-14143-78
		#400	137-14143-80
		#410	137-14143-82
		#420	137-14143-84
		#430	137-14143-86
		#440	137-14143-88
		#450	137-14143-90
		#460	137-14143-92
		#470	137-14143-94
		#480	137-14143-96
		#490	137-14143-98
	出荷時 濃い	#500	137-1414K-00
パイロットジェット②	薄い	#25	4KM-14142-25
		#30	4KM-14142-30
	出荷時 濃い	#35	4KM-14142-35
メインノズル③	薄い	R-9	5KE-14141-R9
		S-0	5KE-14141-S0
		S-1	5KE-14141-S1
		S-2	5KE-14141-S2
		S-3	5KE-14141-S3
		S-4	5KE-14141-S4
	出荷時 濃い	S-5	5KE-14141-S5
ジェットニードル④ 出荷時		6DGI18-65	275-14116-S0
パワー	薄い	#55	830-14231-11
ジェット⑤		#60	830-14231-12
	出荷時 濃い	#65	830-14231-13

JC71J010
プラグチョップについて

スパークプラグ、ピストンヘッドの焼けをチェックする時には、ストレートを全開で走行中にメインスイッチを“OFF”にすると同時にクラッチを切り、エンジンを止めて惰性でピットに戻ります。これをプラグチョップといいます。

⚠注　意

- **プラグチョップを行う場合には周囲の状況に注意し、他のライダーの邪魔をしないこと。**
- **惰性で走行中にはシフトダウンをしないこと。（クラッチのプッシュロッドとボールが焼付く恐れがある。）**



JC71K010
シリンダガスケットのセッティング

同梱パーツに入っている厚さの異なるガスケットを使用することで燃焼室容積を変更することが可能です。

回転の上昇が遅くトルク感が無い場合
→燃焼室容積を小さくします。

トルク感はあるが回転が頭打ちする場合
→燃焼室容積を大きくします。

厚さ	実燃焼室容積	仕様
0.6㎜	約9.86㎤	STD
0.5㎜	約9.63㎤	セッティング用
0.38㎜	約9.40㎤	
0.3㎜	約9.18㎤	
0.2㎜	約8.95㎤	

要　　点

- ガスケットの変更は、ならし走行が終了してから行う。
- ガスケットが0.1㎜変化することにより燃焼室容積は約0.23㎤変わる。
- ならし走行終了後のピストン突出し量が、-0.15～0.05㎜になるようにシリンダガスケットを調整する。

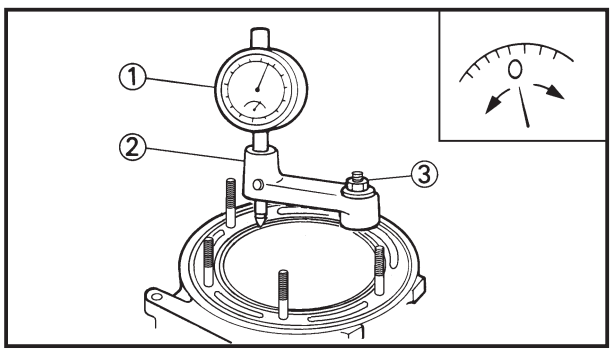
⚠注　意

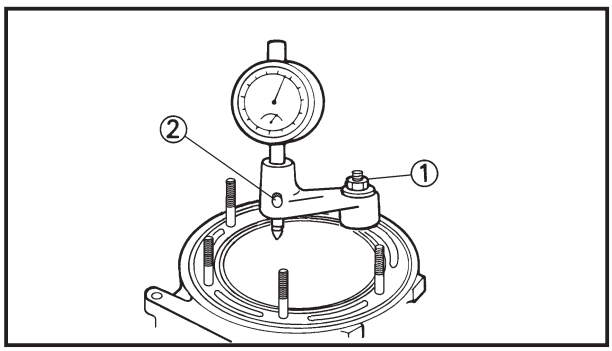
- **ピストン突出し量は0.15㎜を限度とすること。これ以上ではピストンとシリンダヘッドが当ることがある。**
- **気温の低い時にむやみに突出し量を増やすと異状燃焼（デトネーション）が発生しエンジン本来の性能が発揮出来ないことがある。**

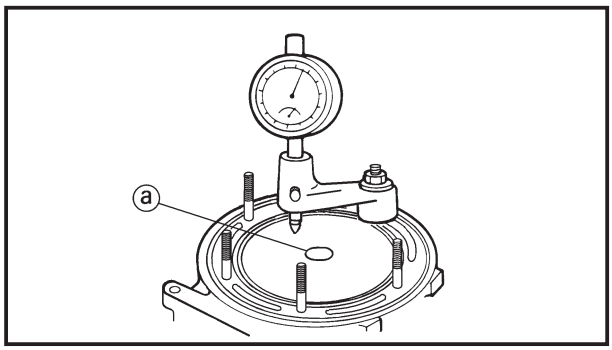
JC71T000

シリンダガスケットセッティングパーツ

パーツNo.		仕様（厚さ）
5KE-11351-60	出荷時	t=0.6㎜
5KE-11351-50		t=0.5㎜
5KE-11351-40		t=0.38㎜
5KE-11351-30		t=0.3㎜
5KE-11351-20		t=0.2㎜







JC71L003

ピストン突出しの測定方法

1. ダイヤルゲージ①とダイヤルゲージスタンド②をシリンダ合面に取付けてダイヤルゲージの目盛を“0”にセットします。

要　　点

ダイヤルゲージスタンドの取付けは、シリンダヘッド取付ナット③を使用する。

	ダイヤルゲージ&スタンドセット 90890-01252

2. スタンド取付ナット①をゆるめダイヤルゲージがピストンの中心付近にくるようにダイヤルゲージスタンドを回転させスタンド取付ナットを締付けます。

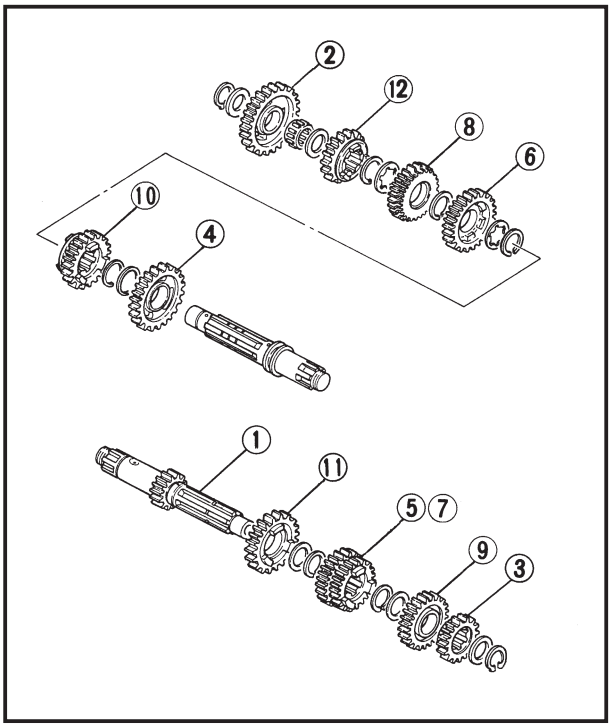
要　　点

この時、ダイヤルゲージ取付スクリュ②はゆるめない。

3. ピストンを上死点にしてピストン突出し量を測定します。

要　　点

測定はピストンヘッドの凸部ⓐは避け、ピストンピンの上でなるべく中心付近を数箇所測定し、平均値をピストン突出し量とする。



JC71W000

トランスミッション組合せ

各ホイールギヤとピニオンギヤはライダーの好み、サーキットの状況等により以下の表の組合せから選択することができます。

トランスミッション組合せ表

1速ギヤ比	パーツ区分	パーツNo.（1速ホイールギヤ②/メインアクスル①）	識別溝
28/14（2.000）	オプション	5KE-17211-10/5KE-17411-10	1/1
31/16（1.938）	出荷時	5KE-17211-30/5KE-17411-30	—
34/18（1.889）	オプション	5KE-17211-20/5KE-17411-20	2/2

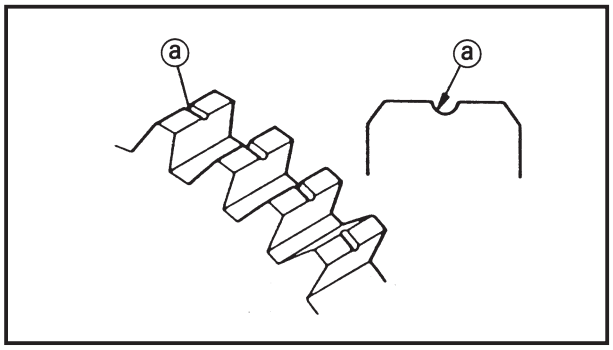
2速ギヤ比	パーツ区分	パーツNo.（2速ホイールギヤ④/2速ピニオンギヤ③）	識別溝
28/18（1.556）	オプション	4PD-17221-00/4PD-17121-00	—
32/21（1.476）	出荷時	4PD-17221-12/4PD-17121-12	1/1
27/19（1.421）	オプション	4PD-17221-20/4PD-17121-20	2/2

3速ギヤ比	パーツ区分	パーツNo.（3速ホイールギヤ⑥/3速ピニオンギヤ⑤）	識別溝
29/23（1.261）	オプション	5KE-17231-00/5KE-17131-00	—
26/21（1.238）	出荷時/オプション	5KE-17231-10/5KE-17131-10	1/1
26/21（1.238）	出荷時	5KE-17231-10/5KE-17131-30	1/1
25/21（1.190）	オプション	5KE-17231-20/5KE-17131-10	2/1
25/21（1.190）	オプション/出荷時	5KE-17231-20/5KE-17131-30	2/1

4速ギヤ比	パーツ区分	パーツNo.（4速ホイールギヤ⑧/4速ピニオンギヤ⑦）	識別溝
24/22（1.091）	出荷時	5KE-17241-10/5KE-17131-30	1/1
27/25（1.080）	オプション	5KE-17241-00/5KE-17131-00	—
27/25（1.080）	オプション	5KE-17241-00/5KE-17131-10	—

5速ギヤ比	パーツ区分	パーツNo.（5速ホイールギヤ⑩/5速ピニオンギヤ⑨）	識別溝
21/21（1.000）	出荷時	3YL-17251-30/3YL-17151-30	—
26/27（0.963）	オプション	3YL-17251-00/5F7-17151-01	1/1

6速ギヤ比	パーツ区分	パーツNo.（6速ホイールギヤ⑫/6速ピニオンギヤ⑪）	識別溝
25/27（0.926）	出荷時	5KE-17261-30/5KE-17161-30	—
20/22（0.910）	オプション	5KE-17261-01/5KE-17161-01	1/1
22/25（0.880）	オプション	5KE-17261-11/5KE-17161-11	2/2



● 識別溝について

各ホイールギヤ、ピニオンギヤの歯面には識別するための溝ⓐがあります。ホイールギヤとピニオンギヤは溝の数が同じものを組付けてください。

要　点

3速ホイールギヤの5KE-17231-20は、トランスミッション組合せ表により、識別溝の数が違うピニオンギヤと組合せる。

JC71N013

トランスミッションセッティング 参考

コース名	トランスミッション						2次レシオ
	1速	2速	3速	4速	5速	6速	
出荷	31／16	31／21	26／21	24／22	21／21	25／27	36／14
スポーツランドSUGO セントラルパークMINEサーキット TIサーキット英田	31／16	31／21	29／23	27／25	26／27	20／22	39／14
筑波サーキット （1～5速使い）	31／16	31／21	29／23	27／25	26／27	20／22	39／14
鈴鹿サーキット	31／16	31／21	29／23	27／25	26／27	20／22	37／14
FISCO	31／16	31／21	29／23	27／25	26／27	20／22	36／14
ツインリンクもてぎ	31／16	31／21	29／23	27／25	26／27	20／22	40／14

※ 上記組合せは、参考例です。
ライダーの乗り方、好み、使用タイヤ、気候条件等によって変化します。

参考） 同梱、オプションパーツのギヤ以外にも“RC SUGO”キット用ミッションギヤとして発売されておりますので、必要な方はRSS店を通じてお問い合せください。

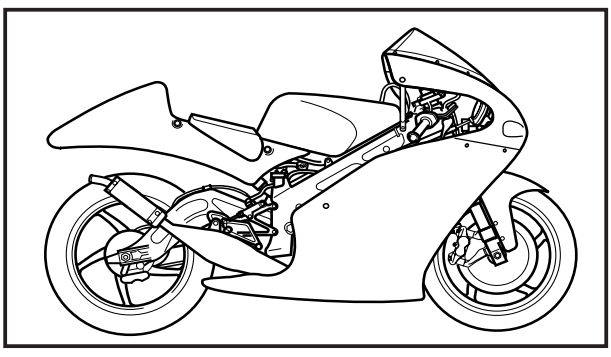
JC720000
車体

JC72J001
車体セッティング

基本的な車体セッティングの考え方について

- 前後サスペンションのストローク量を測定して作動状態を把握しておきます。
- タイムが上がるとストローク量が増えます。
- タイヤのグリップが上がるとストローク量が増えます。（雨の日は逆にストローク量が減ります。）
- ライダーの乗る位置、乗り方でストローク量は変ります。
- ボトミング（底づき）をさせないように注意してください。
- セッティングはイニシャル荷重から調整します。
  次に減衰力調整を行いそれでも合ない場合は、車高を調整します。
  （車高は低くした側のストローク量が増え、反対側が減ります。）
- 減衰力は圧側、伸側共に増していくと動きが悪くなるので標準セッティングから大きく変えないでください。
- 車高調整は㎜単位で行います。
- 途中でセッティングが判らなくなった場合は、標準セッティングに戻します。
- フロントフォークの油面調整はストロークの中間より奥の方で効果が大です。
  （5～10㎜程度のレベルで増減させます。）

JC72M002
タイヤと車体の姿勢について



指定以外のタイヤを使用した場合、タイヤの半径の違いにより車体の姿勢が変ることがあります。このような場合には、フロントフォーク突出し量またはリヤクッション車高を変えることにより車体の姿勢を調整します。
基本的にはタイヤの半径が大きくなった場合、車体の姿勢を下げ、また小さくなった場合には車体の姿勢を上げます。

例）

［フロント］

タイヤ名	タイヤ周長	タイヤ半径	フロントフォーク突出し量
＊120/60 R17 ダンロップKR106	約1875㎜	約298.5㎜	13㎜
120/70 R17 ダンロップMR977	約1885㎜	約300㎜	11.5㎜

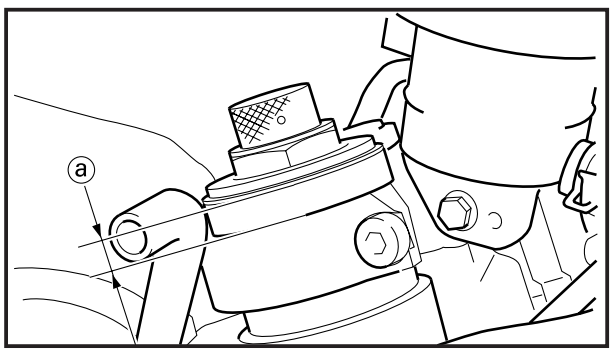
＊指定タイヤ

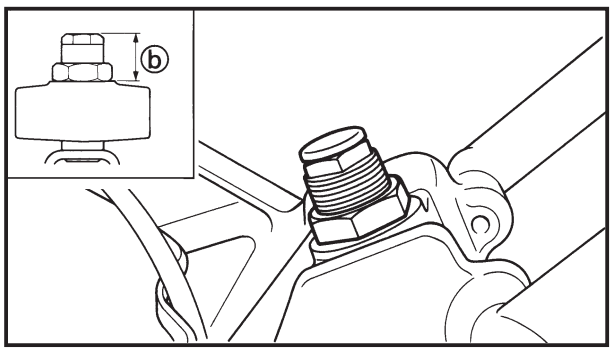
［リヤ］

タイヤ名	タイヤ周長	タイヤ半径	リヤクッション車高(シート高)
＊165/55 R17 ダンロップKR108	約1975㎜	約314.5㎜	27㎜
165/50 R17 ダンロップKR244	約1957㎜	約311.5㎜	25.5㎜

＊指定タイヤ

フロントタイヤの半径が１㎜大きくなった場合、フロントフォーク突出し量ⓐを１㎜増やしフロントの姿勢を１㎜下げる。リヤタイヤの半径が２㎜小さくなった場合、リヤクッション車高ⓑを1㎜減らしリヤの姿勢を2㎜上げる。





要　点

- タイヤの半径は、周長を測定して計算より求める。
- フロントフォーク突き出し量１㎜の変化量につき、フロントの姿勢が約１㎜変化する。リヤクッション車高１㎜の変化量につき、リヤの姿勢が約２㎜変化する。

▲注　意

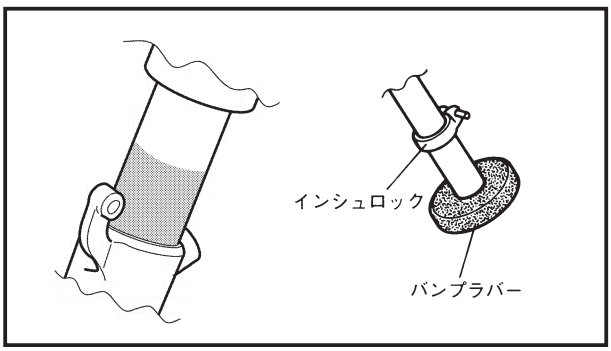
フロントフォーク突出し量の調整は、調整範囲内で行う。（第3章―フロントフォーク突出し量調整の項目参照）

JC72K016

セッティング

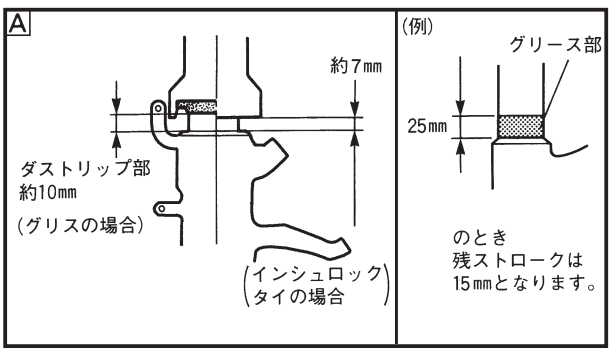
十分に性能を発揮して安全に走行していただくため、次の順序でセッティングを行ってください。

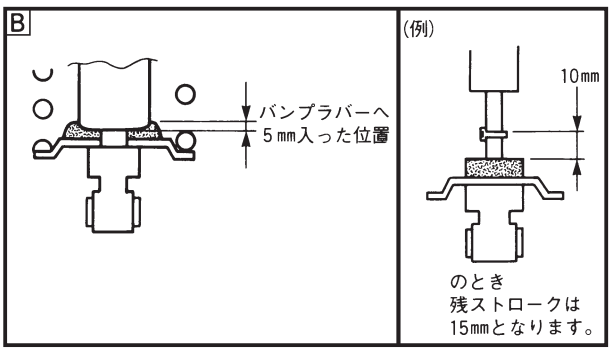
〔出荷時のセッティングは、身長約170cm、体重約60kgのIAライダーを基準としています。〕



1. 準備

前後サスペンションの残ストロークを確認するため、フロントフォークのインナチューブ部、リヤクッションのロッド部に細いインシュロックタイを組付けるか、もしくは少量のグリースを塗布します。





2. セッティング

ならし走行時より常に残ストロークを記録してデータを残しておきます。

車高の前後バランスは、フルブレーキングより旋回に入り、クリップについた時にフィーリングで判断するのが一般的な方法です。

本走行後、フロントの残ストローク5～10㎜、リヤ10～20㎜位を目標にしてセッティングしていきます。

基本的には、P7-16に示した一連の作業を何回か繰り返す事によって最良の状態にしていきます。

A フロントボトム位置

B リヤボトム位置

セッティングチャート

本走行後
フロント残ストローク　5〜10㎜
リヤ残ストローク　10〜20㎜

要　点
残ストロークの値は目安であり、ライディングスタイルによって異なる場合がある。

ストロークしない
イニシャルを抜きます
● フロント
　2段ずつ（1㎜）
● リヤ
　1回転ずつ（1.5㎜）

調整後走行

残ストロークが合うまで進めます。

ストロークOK

ストロークしすぎる
イニシャルをかけます
● フロント
　2段ずつ（1㎜）
● リヤ
　1回転ずつ（1.5㎜）

調整後走行

残ストロークが合うまで進めます。

要　点
イニシャルをかけていくと相対的に伸減衰が不足していく。イニシャルアップを2回繰返した場合、減衰力を少し上げる方向で考えていく。

初期からコツコツし中間もしぶい
圧側の減衰を抜きます
● フロント
　1ノッチずつ
● リヤ
　2ノッチずつ

落ちつかないフワフワする
圧、伸側の減衰を高めます
● フロント
　1ノッチずつ
● リヤ
　2ノッチずつ

OK

JC71P012

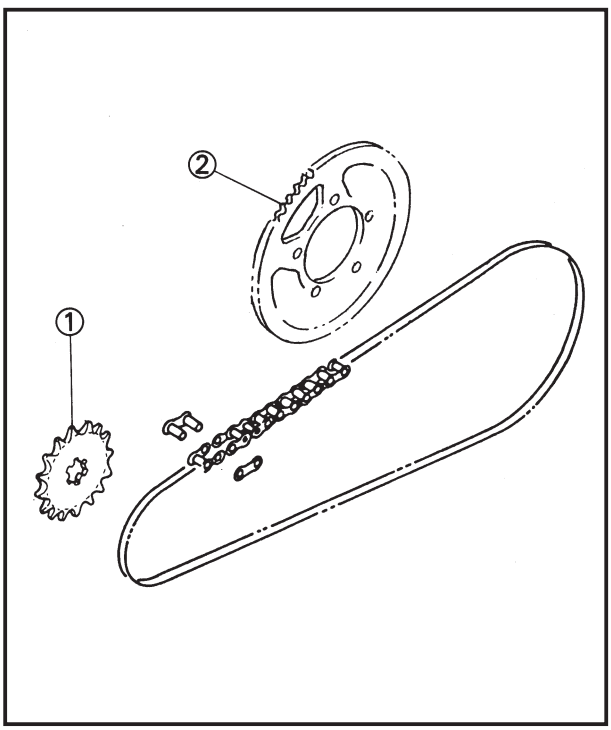
2次減速比（スプロケット）選定

$$2\text{次減速比} = \frac{\text{ドリブンスプロケット歯数}}{\text{ドライブスプロケット歯数}}$$

出荷2次減速比	36/14 (2.571)

フロント＼リヤ	35T	36T	37T	38T	39T	40T
14T	2.500	2.571	2.643	2.714	2.786	2.857
15T	2.333	2.400	2.467	2.534	2.600	2.666
16T	2.188	2.250	2.313	2.375	2.438	2.500

※数値が小さい程高速レシオ
数値が大きい程低速レシオ



JC72N000

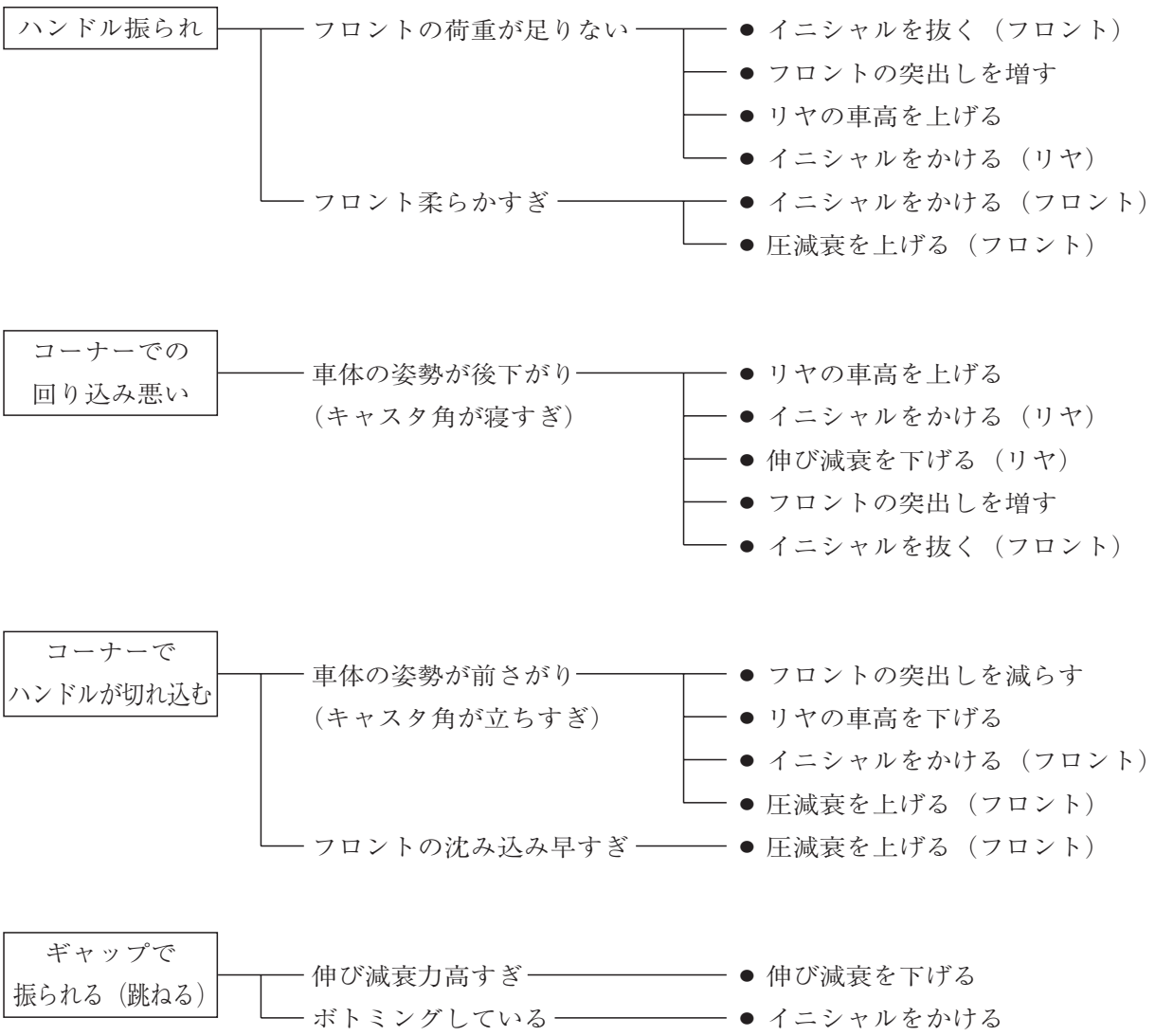
スプロケットセッティングパーツ

パーツ名	仕様	パーツNo.
ドライブスプロケット① 出荷時	14T	93834-14178
	15T	93834-15079
	16T	93834-16104
ドリブンスプロケット②	35T	5KE-25435-10
出荷時	36T	5KE-25436-10
	37T	5KE-25437-10
	38T	5KE-25438-10
	39T	5KE-25439-10
	40T	5KE-25440-10

JC72L002

車体セッティングのトラブルシューティング

現象	原因	対応
チャタリング（細かいはね、上下動）	ボトミングしている（フルストロークしている）	● イニシャルをかける ● 圧減衰を上げる
	ストロークの奥の方で使っている	● 圧減衰を上げるまたは、伸減衰を下げる
	硬すぎる（ストロークしていない）	● イニシャルを抜く ● 圧減衰を下げる ● 油面を下げる（フロントフォークの場合のみ）
	各部のがた	● ボルト、ベアリング関係のがたや取付け状態チェック
	タイヤ、リム	● バランスの見直し ● 変形（振れ）のチェック
ゴツゴツ感	作動性不良	● クッション単体をチェックする（ダンパロッド、インナチューブ等の曲りはないか、曲り等あるもの→交換） ● フロントホイールアクスル締付け時のセンタのずれをチェックする。（ずれているもの→修正） ● フロントフォーク、アウタチューブ締付ボルトの締すぎ→規定トルクで締付け（ハンドルクラウン、アンダブラケット、ハンドルシミーダンパステー、ハンドル）
	硬すぎる（ストロークが少ない）	● イニシャルを抜く ● 減衰を下げる（伸圧共）
	ボトミング（フルストロークしている）	● イニシャルをかける ● 油面を上げる（フロントフォークの場合のみ） ● 圧減衰を上げるまたは、伸減衰を下げる
フワフワ感	減衰力不足	● 減衰を上げる
	軟かすぎ	● イニシャルをかける


ハンドル振られ
フロントの荷重が足りない
● イニシャルを抜く（フロント）
● フロントの突出しを増す
● リヤの車高を上げる
● イニシャルをかける（リヤ）
フロント柔らかすぎ
● イニシャルをかける（フロント）
● 圧減衰を上げる（フロント）
コーナーでの
回り込み悪い
車体の姿勢が後下がり
（キャスタ角が寝すぎ）
● リヤの車高を上げる
● イニシャルをかける（リヤ）
● 伸び減衰を下げる（リヤ）
● フロントの突出しを増す
● イニシャルを抜く（フロント）
コーナーで
ハンドルが切れ込む
車体の姿勢が前さがり
（キャスタ角が立ちすぎ）
● フロントの突出しを減らす
● リヤの車高を下げる
● イニシャルをかける（フロント）
● 圧減衰を上げる（フロント）
フロントの沈み込み早すぎ
● 圧減衰を上げる（フロント）
ギャップで
振られる（跳ねる）
伸び減衰力高すぎ
● 伸び減衰を下げる
ボトミングしている
● イニシャルをかける

JC730002

走行データ用紙

年月日		天候		セッティング	メインジェット		パイロットジェット	
場所		気温	℃		ジェットニードル		エアスクリュ	
コース状況		湿度	%					
ライダー		気圧	hPa(㎜Hg)		ミッション1速		ミッション2速	
機種		風向			ミッション3速		ミッション4速	
フレームNo.		風速	m/s		ミッション5速		ミッション6速	
担当者					2次減速比			

ラップ	タイム	ラップタイム	
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			

[メモ]

JC740003

セッティングデータ表

年月日						
コース名						
天候／気温						
機種No						

エンジン

混合用オイル／混合比							
点火時期（B.T.D.C）							
スパークプラグ							
シリンダサイズ							
ピストンサイズ							
使用ミッション		1　速					
		2　速					
		3　速					
		4　速					
		5　速					
		6　速					
キャブレータ	メインジェット						
	パワージェット						
	メインノズル						
	ジェットニードル						
	パイロットジェット						
	エアスクリュ						
2次減速歯数・比							

車体

フロントフォーク	突出し量						
	オイル粘度						
	オイルレベル						
	バネ定数						
	スプリングイニシャル						
	伸び側減衰力						
	圧側減衰力						
リヤクッション	車高						
	バネ定数						
	スプリングイニシャル						
	伸び側減衰力						
	圧側減衰力						
	ガス圧						
タイヤ銘柄／型式	フロント						
	リヤ						
タイヤコンパウンド	フロント						
	リヤ						
タイヤ空気圧	フロント						
	リヤ						
リムサイズ	フロント						
	リヤ						
燃料給油量							
ラップ（距離）数							
燃費							

JC750004

セッティング表 参考

下記データは身長約170cm、体重約60kgのIAライダーによるもので、あくまでも参考値です。
特にキャブレタセッティングは気温、湿度、気圧等により大きく異なりますのでプラグ、ピストンの焼け具合いをみながらセッティングしてください。
(冬場および雨天時のメインジェットのサイズは左より右の方が小さくなる傾向にあります。逆に夏場では右より左の方が小さくなる傾向にあります。)

⚠注 意

エンジン焼付きの原因となるので、冬場では下記データよりメインジェットおよびメインノズルのサイズを大きくすること。

コース名			S.T.D（出荷時セッティング）	スポーツランドSUGO	鈴鹿サーキット
年月			—	2002年9月	2002年7月
コース状況			ドライ	ドライ	ドライ
ライダー			IAライダー	IAライダー	IAライダー
機種			2003 TZ250	2003 TZ250	2003 TZ250
天候			—	晴	晴
気温			—	21℃	29.5℃
湿度			—	53%	82%
気圧			—	990hPa(743㎜Hg)	1005hPa(754㎜Hg)
メインジェット			左500/右500	左400/右390	左400/右390
ジェットニードル			6DGI18-65	6DGI18-65	6DGI18-65
メインノズル			S-5	S-2	S-1
パイロットジェット			#35	#35	#35
エアスクリュ戻し			1-1/2	1-1/2	1-1/2
パワージェット			#65	#60	#60
ミッション1速			31/16	31/16	31/16
ミッション2速			31/21	31/21	31/21
ミッション3速			26/21	29/23	29/23
ミッション4速			24/22	27/25	27/25
ミッション5速			21/21	26/27	26/27
ミッション6速			25/27	20/22	20/22
ギヤレシオ			36/14	39/14	37/14
ピストン突出し			-0.2㎜	-0.05～0.0㎜	-0.05～0.0㎜
点火時期			-2.4	-2.4	-2.4
ガソリン			無鉛プレミアム	無鉛プレミアム	無鉛プレミアム
混合オイル			ペトロナススプリンタGP(30:1)	ペトロナススプリンタGP(30:1)	ペトロナススプリンタGP(30:1)
フロントフォーク	突出し		13㎜	13㎜	13㎜
	イニシャル		10段締込み	16段締込み	16段締込み
	減衰力	圧	10段戻し	6段戻し	8段戻し
		伸	11段戻し	8段戻し	8段戻し
	オイルレベル		135㎜	130㎜	135㎜
リヤクッション	車高調整		27㎜	27㎜	27㎜
	イニシャル(セット長)		13㎜ (137㎜)	14㎜ (136㎜)	15㎜ (135㎜)
	減衰力	圧	14段戻し	15段戻し	15段戻し
		伸	24段戻し	25段戻し	25段戻し

TZ250 オーナーズサービスマニュアル

2002年10 月発行

不 許 複 製

編集発行 ヤマハ発動機株式会社
サ ー ビ ス 情 報 室

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

5KE-28199-J3

再生紙を使用しています。
698693
20021000 TS